

川前2遺跡

第3・4次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第204集



2012

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



か わ ま え

川前 2 遺跡

第 3・4 次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 204 集

平成 24 年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター





第4次調査区 竪穴住居跡集中区域 完掘状況（南から）



第3次調査区全景（北より）



第4次調査区全景（南より）



X 16 - Y 17 遺物出土状況 (北から)



X 16 - Y 17 遺物出土状況 (北西から)



X 16 - Y 17 出土遺物



X 16 - Y 17 遺物出土状況 (東北から)



X 16 - Y 17 出土遺物



試掘調査遺物出土状況（南から）



ST 215・ST 216 竪穴住居跡 完掘状況（西から）

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、川前2遺跡の調査成果をまとめたものです。

川前2遺跡は、山形県のほぼ中央の山形市と中山町の境界にあります。この付近は山形盆地の中心に当たり、最上川が盆地の北西部を蛇行帯を形成しながら流下しており、盆地南側を須川が北流し、白川と立谷川が合流した後、最上川となって日本海に注いでいます。本遺跡周辺には国指定史跡の嶋遺跡をはじめ、今塚遺跡、服部遺跡、藤治屋敷遺跡、馬洗場B遺跡、渋江遺跡、向河原遺跡など、古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が数多く点在し、古くから人々がこの地で生活を営んでいたことがうかがえます。

この度、須川河川改修事業（下流部）に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、川前2遺跡の第3・4次発掘調査を実施しました。調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡や溝跡、土坑などが検出され、土師器の甕や壺などの遺物が多数出土し、当時の集落を考える上で、多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 相馬周一郎

凡 例

- 1 本書は、須川河川改修事業（下流部）に係る「川前2遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の編集は、小林圭一・江波大・吉田満が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、斉藤敏行、安部実、黒坂雅人、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第Ⅰ章	小林圭一	江波大
第Ⅱ章	小林圭一	江波大
第Ⅲ・Ⅳ章	小林圭一	
第Ⅵ章 第1・2節	小林圭一	
第Ⅵ章 第3節	吉田満	
- 5 位置図等に付す座標値は、日本測地系（改正測量法以前）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次のとおりである。

ST…竪穴住居跡	SK…土坑	SD…溝跡	SP…ピット	SG…河川跡
SE…井戸跡	SX…性格不明遺構	EL…カマド跡	EP…住居内ピット	EK…住居内土坑
RP…登録土器	RM…登録鉄製品	RQ…登録石製品	P…土器	S…石
- 7 遺構・遺物実測図の縮尺・網点の用法は各図に示した。
- 8 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1999年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

調査要項

遺跡名	かわまえ 川前2遺跡
遺跡番号	201 - 244
所在地	山形県山形市大字中野目字赤坂ほか
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日 平成20年4月1日～平成21年3月31日 平成22年4月1日～平成23年3月31日 平成23年4月1日～平成24年3月31日
現地調査	平成19年5月14日～平成19年10月12日（第3次調査） 平成20年5月12日～平成20年10月31日（第4次調査）
調査担当者	平成19年度 調査課長 長橋至 主任調査研究員 小林圭一（調査主任） 調査員 佐藤祐輔 調査員 深澤篤 平成20年度 調査課長 長橋至 主任調査研究員 小林圭一（調査主任） 調査員 吉田江美子 平成22年度 整理課長 安部実 課長補佐 黒坂雅人 専門調査研究員 小林圭一（調査主任） 調査員 吉田満 平成23年度 整理課長 齊藤敏行 考古主幹 黒坂雅人 専門調査研究員 小林圭一（調査主任） 調査研究員 江波大
調査指導	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室（平成19年度） 山形県教育庁文化遺産課（平成20年度） 山形県教育庁文化財保護推進課（平成22～23年度）
調査協力	山形市教育委員会 中山町教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所
業務委託	遺構写真実測業務 株式会社シン技術コンサル 協栄測量設計株式会社 出土品写真撮影・編集業務 藤庄印刷株式会社 基準点測量業務 株式会社朝日測量設計事務所

株式会社寒河江技術コンサルタント

理化学分析業務 株式会社加速器分析研究所

発掘作業員	阿部育子	荒井良悦	板垣牧子	市川武	伊藤功	井上暢子	上野健治
	氏家健輔	大久保明子	大津勲	大場洋三	小笠原徹	小川定雄	沖津みさ子
	工藤誠	小林弘	志田英信	斯波久一郎	渋谷志保子	神保清治	菅原一雄
	鈴木秀雄	武田静子	東海林仁助	長岡伸恭	中村幸次郎	正木恵子	三澤国昭
	村山良三	渡辺佳子					
整理作業員	稲毛真紀子	稲村美子	大泉智恵子	小笠原美名子	鏡孝浩	小林勝子	斎藤峰子
	柴田敏夫	柴田友恵	庄司彩奈	鈴木由美	高橋加寿子	武田彩	吉田寛子
	渡辺由美子						

(五十音順)

目 次

I	調査の経緯	
1	調査に至る経過	1
2	調査の経過	1
3	整理作業の経過	4
4	グリッドの設定	4
II	遺跡の位置と環境	
1	地理的環境	5
2	歴史的環境	5
III	第3次調査の成果	
1	第3次調査の概要	21
2	第3次調査の基本層序	21
3	第3次調査の竪穴住居跡	21
4	第3次調査の河川跡	24
5	第3次調査の土坑	24
6	第3次調査のその他の遺構	26
7	古墳時代の遺物集中地点	26
IV	第4次調査の成果	
1	第4次調査の概要	85
2	第4次調査の基本層序	85
3	第4次調査の竪穴住居跡	85
4	第4次調査の掘立柱建物跡	93
5	第4次調査の溝跡	93
6	第4次調査の土坑	94
7	古墳時代の遺物集中地点	96
V	理化学分析	
1	放射性炭素年代（AMS測定）	178
2	炭化材の樹種同定	181
VI	総括	
1	遺跡の総括	185
2	検出遺構について	186
3	出土遺物について	186
	引用・参考文献	190
	報告書抄録	巻末
	遺構全体図	付図

表

表 1 川前 2 遺跡周辺の遺跡 …………… 8	表 11 第 3 次石製品観察表 …………… 202
表 2 放射性炭素年代測定結果 …………… 180	表 12 第 4 次遺物観察表 (1) …………… 203
表 3 暦年較正結果 …………… 180	表 13 第 4 次遺物観察表 (2) …………… 204
表 4 樹種同定結果 …………… 181	表 14 第 4 次遺物観察表 (3) …………… 205
表 5 第 3 次遺物観察表 (1) …………… 197	表 15 第 4 次遺物観察表 (4) …………… 206
表 6 第 3 次遺物観察表 (2) …………… 198	表 16 第 4 次遺物観察表 (5) …………… 207
表 7 第 3 次遺物観察表 (3) …………… 199	表 17 第 4 次遺物観察表 (6) …………… 208
表 8 第 3 次遺物観察表 (4) …………… 200	表 18 第 4 次土製品観察表 …………… 208
表 9 第 3 次遺物観察表 (5) …………… 201	表 19 第 4 次石製品観察表 …………… 208
表 10 第 3 次遺物観察表 (6) …………… 202	表 20 試掘遺物観察表 …………… 208

挿 図

第 1 図 調査概要図…………… 2	第 30 図 S G 56 土層断面図 2 …………… 45
第 2 図 山形盆地地形分類図…………… 6	第 31 図 S G 56 土層断面図 3 …………… 46
第 3 図 川前 2 遺跡周辺の遺跡…………… 7	第 32 図 S G 56 土層断面図 4 …………… 47
第 4 図 座標配置図…………… 10	第 33 図 S G 56 土層断面図 5 …………… 48
第 5 図 グリッド配置図…………… 11	第 34 図 S K 24・44・45・57・70・99 実測図 …………… 49
第 6 図 第 3・4 次調査遺構配置図…………… 13	第 35 図 S K 88・116・131・132・155・162・163 実測図 …… 50
第 7 図 第 3 次調査上層遺構配置図 (1) …………… 15	第 36 図 S K 89・138・144・149・S X 100 実測図 …………… 51
第 8 図 第 3 次調査上層遺構配置図 (2) …………… 16	第 37 図 X 16 - Y 17 G 実測図 (1) …………… 52
第 9 図 第 3・4 次調査遺構配置図 (1) …………… 17	第 38 図 X 16 - Y 17 G 実測図 (2) …………… 53
第 10 図 第 3・4 次調査遺構配置図 (2) …………… 18	第 39 図 X 16 - Y 17 G 断面図…………… 54
第 11 図 第 3・4 次調査遺構配置図 (3) …………… 19	第 40 図 第 3 次遺物出土状況 (1) …………… 55
第 12 図 第 3・4 次調査遺構配置図 (4) …………… 20	第 41 図 第 3 次遺物出土状況 (2) …………… 56
第 13 図 第 3 次調査基本層序…………… 28	第 42 図 第 3 次遺物出土状況 (3) …………… 57
第 14 図 S T 11・S T 95 実測図…………… 29	第 43 図 第 3 次遺物出土状況 (4) …………… 58
第 15 図 S T 16 実測図 …………… 30	第 44 図 第 3 次遺物出土状況 (5) …………… 59
第 16 図 S T 19 (1) 実測図 …………… 31	第 45 図 第 3 次遺物出土状況 (6) …………… 60
第 17 図 S T 19 (2) 実測図 …………… 32	第 46 図 第 3 次遺物出土状況 (7) …………… 61
第 18 図 S T 49 (1) 実測図 …………… 33	第 47 図 第 3 次遺物出土状況 (8) …………… 62
第 19 図 S T 49 (2) 実測図 …………… 34	第 48 図 第 3 次遺物出土状況 (9) …………… 63
第 20 図 S T 86 実測図 …………… 35	第 49 図 第 3 次遺物出土状況 (10) …………… 64
第 21 図 S T 94 実測図 …………… 36	第 50 図 X 9・X 10・X 13 軸北断面図 …………… 65
第 22 図 S T 101 実測図…………… 37	第 51 図 X 14・X 15 軸北断面図…………… 66
第 23 図 S T 161 (1) 実測図…………… 38	第 52 図 Y 11・Y 13・Y 16 軸断面図…………… 67
第 24 図 S T 161 (2) 実測図…………… 39	第 53 図 第 3 次遺構内出土土器実測図…………… 68
第 25 図 S T 161 (3) 実測図…………… 40	第 54 図 第 3 次遺構内出土土器実測図…………… 69
第 26 図 S T 161 (4) 実測図…………… 41	第 55 図 第 3 次遺構内出土土器実測図…………… 70
第 27 図 S T 161 (5)・S T 18 実測図…………… 42	第 56 図 第 3 次遺構内出土土器・石製品実測図…………… 71
第 28 図 S G 56 実測図…………… 43	第 57 図 第 3 次遺構内出土石製品実測図…………… 72
第 29 図 S G 56 土層断面図 1 …………… 44	第 58 図 第 3 次遺構外出土土器実測図…………… 73

第 59 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	74	第 102 図	S T 230 (1) 実測図	129
第 60 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	75	第 103 図	S T 230 (2) 実測図	130
第 61 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	76	第 104 図	S T 230 (3) 実測図	131
第 62 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	77	第 105 図	S T 233 実測図	132
第 63 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	78	第 106 図	S T 235 E L (1) 実測図	133
第 64 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	79	第 107 図	S T 235 E L (2) 実測図	134
第 65 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	80	第 108 図	S T 236 (1) 実測図	135
第 66 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	81	第 109 図	S T 236 (2) 実測図	136
第 67 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	82	第 110 図	S T 236 (3) 実測図	137
第 68 図	第 3 次遺構外出土土器実測図	83	第 111 図	S B 172 実測図	138
第 69 図	第 3 次遺構外出土土器・石製品実測図	84	第 112 図	S D 176・177・183・248 実測図	139
第 70 図	第 4 次調査基本層序	97	第 113 図	S K 168・173・174・188・194・207 実測図	140
第 71 図	S T 171 実測図	98	第 114 図	S K 201・205・209・212 実測図	141
第 72 図	S T 175・195 実測図	99	第 115 図	S K 204・206・210・217・220・221 実測図	142
第 73 図	S T 178 実測図	100	第 116 図	第 4 次遺物出土状況 (1)	143
第 74 図	S T 186 実測図	101	第 117 図	第 4 次遺物出土状況 (2)	144
第 75 図	S T 187 実測図	102	第 118 図	第 4 次遺物出土状況 (3)	145
第 76 図	S T 192 (1) 実測図	103	第 119 図	第 4 次遺物出土状況 (4)	146
第 77 図	S T 192 (2) 実測図	104	第 120 図	第 4 次遺物出土状況 (5)	147
第 78 図	S T 196 実測図	105	第 121 図	第 4 次遺物出土状況 (6)	148
第 79 図	S T 200 (1) 実測図	106	第 122 図	第 4 次遺物出土状況 (7)	149
第 80 図	S T 200 (2) 実測図	107	第 123 図	第 4 次遺物出土状況 (8)	150
第 81 図	S T 203 実測図	108	第 124 図	第 4 次遺物出土状況 (9)	151
第 82 図	S T 205・226 実測図	109	第 125 図	第 4 次遺物出土状況 (10)	152
第 83 図	S T 211 実測図	110	第 126 図	第 4 次遺物出土状況 (11)	153
第 84 図	S T 213 実測図	111	第 127 図	X 20 軸ベルト断面図	154
第 85 図	S T 214・224 実測図	112	第 128 図	X 20 軸・X 21 軸・X 22 軸ベルト断面図	155
第 86 図	S T 215 実測図	113	第 129 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	156
第 87 図	S T 215・216 実測図	114	第 130 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	157
第 88 図	S T 215・216 実測図	115	第 131 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	158
第 89 図	S T 216 (1) 実測図	116	第 132 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	159
第 90 図	S T 216 (2) 実測図	117	第 133 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	160
第 91 図	S T 222 (1) 実測図	118	第 134 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	161
第 92 図	S T 222 カマド・S T 237 実測図	119	第 135 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	162
第 93 図	S T 223 実測図	120	第 136 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	163
第 94 図	S T 225 (1) 実測図	121	第 137 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	164
第 95 図	S T 225 (2) 実測図	122	第 138 図	第 4 次遺構内出土土器実測図	165
第 96 図	S T 227・234 実測図	123	第 139 図	第 4 次遺構内出土土製品・石製品実測図	166
第 97 図	S T 228 (1) 実測図	124	第 140 図	第 4 次遺構外出土土器実測図	167
第 98 図	S T 228 (2) 実測図	125	第 141 図	第 4 次遺構外出土土器実測図	168
第 99 図	S T 229 (1) 実測図	126	第 142 図	第 4 次遺構外出土土器実測図	169
第 100 図	S T 229 (2) 実測図	127	第 143 図	第 4 次遺構外出土土器実測図	170
第 101 図	S T 229 (3) 実測図	128	第 144 図	第 4 次遺構外出土土器実測図	171

第145図	第4次遺構外出土土器実測図	172	第152図	炭化材・種実遺体	184
第146図	第4次遺構外出土土器実測図	173	第153図	山形盆地の地形分類と古墳時代遺跡	191
第147図	第4次遺構外出土土器実測図	174	第154図	方形の掘り方を持った古墳時代住居跡	192
第148図	第4次遺構外出土土器・石製品実測図	175	第155図	留沼遺跡第X層上面出土土器(1)	193
第149図	下層試掘杭配置図	176	第156図	留沼遺跡第X層上面出土土器(2)	194
第150図	試掘出土土器実測図	177	第157図	川前2遺跡 第1・2次出土土器(古墳時代)	195
第151図	炭化材・種実遺体	183	第158図	川前2遺跡 時期別遺構分布図	196

写真図版

巻頭写真1	第4次調査区	写真図版18	S T 229・230・234
巻頭写真2	第3次調査区全景、第4次調査区全景	写真図版19	S T 230・236
巻頭写真3	X 16 - Y 17 遺物出土状況	写真図版20	S T 235・237
巻頭写真4	X 16 - Y 17 遺物出土状況、出土遺物	写真図版21	X20 - Y20・X20 - Y22・X22 - Y24・ X29 - Y25・X31 - Y27・X47 - Y41
巻頭写真5	X 16 - Y 17 遺物出土状況、出土遺物	写真図版22	第3次出土遺物(1)
巻頭写真6	試掘調査遺物出土状況、S T215・ S T 216 竪穴住居跡完掘状況	写真図版23	第3次出土遺物(2)
写真図版1	第3次遺跡遠景、調査区近景	写真図版24	第3次出土遺物(3)
写真図版2	第3次調査区北端、中間	写真図版25	第3次出土遺物(4)
写真図版3	S T 11・18・19	写真図版26	第3次出土遺物(5)
写真図版4	S T 16・49・95・S G 56	写真図版27	第3次出土遺物(6)
写真図版5	S X100・S K 116・162・163	写真図版28	第3次出土遺物(7)
写真図版6	S T 161・X 10 - Y 10・X 12 - Y 12	写真図版29	第3次出土遺物(8)
写真図版7	X 12 - Y 14・X 14 - Y 19・X 15 - Y 18・ X 16 - Y 17・X 16 - Y 18	写真図版30	第3次出土遺物(9)
写真図版8	第4次遺跡遠景、調査区近景	写真図版31	第3次出土遺物(10)
写真図版9	第4次調査区北端、南端、中間	写真図版32	第3次出土遺物(11)
写真図版10	S T 171・175・178・187	写真図版33	第4次出土遺物(1)
写真図版11	S T 186・190・193・195	写真図版34	第4次出土遺物(2)
写真図版12	S T 192・196	写真図版35	第4次出土遺物(3)
写真図版13	S T 200・211	写真図版36	第4次出土遺物(4)
写真図版14	S T 203・205・214	写真図版37	第4次出土遺物(5)
写真図版15	S T 213・222・223	写真図版38	第4次出土遺物(6)
写真図版16	S T 215・216・225	写真図版39	第4次出土遺物(7)
写真図版17	S T 224・228・233	写真図版40	試掘調査出土遺物

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

川前2遺跡は、山形市と中山町にまたがっている。調査区南端から北寄り110mほどに行政区域の境界が存在し、北側の下流域が山形市大字中野目字赤坂地内、南側の上流域が東村山郡中山町大字長崎文新田地内に当たる。本遺跡は調査区東側を北流する須川左岸の自然堤防上に立地するが、現在の最上川との合流点からは2km上流に当たる。須川は古くより水運の栄えた河川で、その流域には「船町」等その名残をとどめた地名が残されている。調査区の北方100mで白川（馬見ヶ崎川と高瀬川が合流）、同600mで立谷川と合流し、最上川へ注いでいる。この一帯は上記のように河川の合流が集中するため、増水時には冠水の頻発地域となっており、治水対策が喫緊の課題となってきた。

平成14（2002）年度に、国土交通省東北地方整備局山形工事事務所（当時）による須川河川改修事業（下流部）が計画された。改修事業の内容は、堤防本体の拡幅と嵩上げ、河川敷内の土取りのための掘削などであり、蛇行によって狭く浅くなっている河道を掘削することによって広く直線的に導き、流下能力を向上させることを目的としている。これに先立ち山形県教育委員会は、平成13（2001）年5月9日に現地踏査、同年6月13・14日、7月19日、9月4～7日の3回にわたって、事業予定地について詳細分布調査（試掘調査）を実施し、合計でトレンチ32本が開設された。その結果、堅穴住居跡や土坑、柱穴等が検出され、奈良・平安時代の集落遺跡の「川前2遺跡」として、新規に登録されるに至った（山形県教委2003）。

試掘調査の結果を踏まえて、山形県教育委員会と事業主体者である国土交通省東北地方整備局山形工事事務所（当時）との間で、遺跡の取り扱いについて協議が行われた。その結果、同事業との関連で削平されると判断された、川前2遺跡の8,500㎡について緊急発掘調査を実施して、記録保存を図ることで協議が整い、平成14（2002）年と同15（2003）年の2ヵ年にわたり財団法人

山形県埋蔵文化財センターが、国土交通省東北地方整備局山形工事事務所の委託を受けて、発掘調査を実施することとなった。平成14年度が第1次調査、平成15年度が第2次調査であり、両次の調査成果は平成22年度に発掘調査報告書として公開されている（山形県埋文セン2011）。

第2次調査の過程で、遺構調査面よりも下位に古墳時代の生活面が存在することが判明し、現地にて国土交通省東北地方整備局山形工事事務所と今後の調査計画に関する協議を行った。その結果、次年度以降改めて下層の発掘調査を実施することで協議が整い、第2次調査終了後に現地は一旦埋め戻された。下層面の発掘調査に先立ち、古墳時代の遺跡の内容を把握するため、平成17（2005）年10月山形県埋蔵文化財センターが試掘調査を実施し、第1次調査区域に直交する2本のトレンチが開設された（第1図）。第1次調査面の20～100cm直下で、古墳時代前期の堅穴住居跡や溝跡が検出され、完形に近い土師器が数点出土し、古墳時代前期の集落跡が存することが判明した（第149図）。

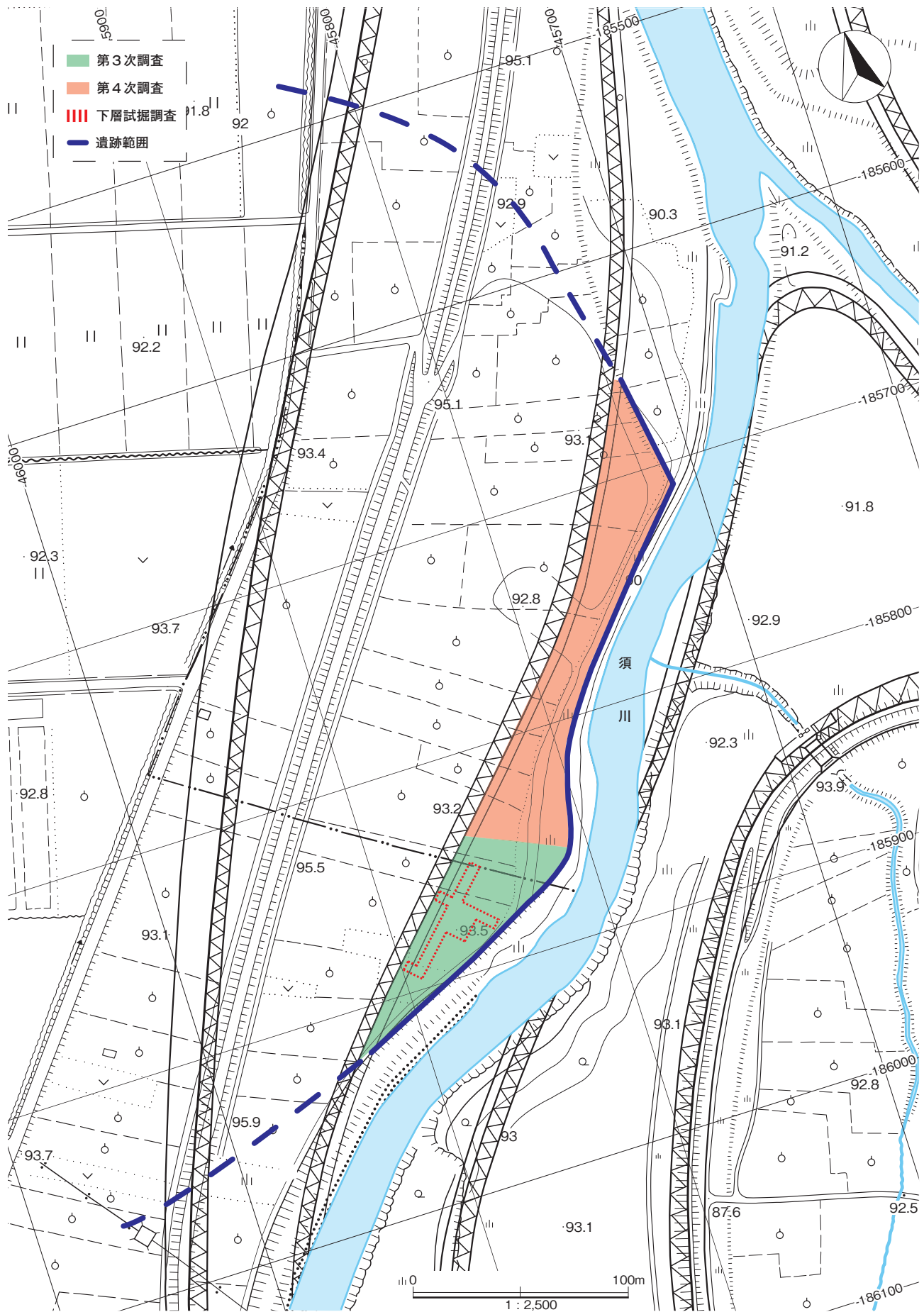
この試掘調査を踏まえて、山形県教育委員会と国土交通省東北地方整備局山形河川国道工事事務所との間で、遺跡の取り扱いについて協議が行われ、財団法人山形県埋蔵文化財センターが国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託を受けて、平成19（2007）年に第3次調査、翌20（2008）年に第4次調査を実施することとなった。

なお同じ須川河川改修事業（下流部）としては、川前2遺跡の第1・2次調査の他に、平成14（2002）年に達磨寺遺跡（山形県埋文セン2004c）の発掘調査、平成17（2005）年に上敷免遺跡（山形県埋文セン2007a）の発掘調査が実施されている。

2 調査の経過

平成17（2005）年の試掘調査は、対岸の上敷免遺跡の発掘調査が終了した後の10月11日（火）、重機による表土除去を開始し、10月13日（木）に表土除去が終

I 調査の経緯



第1図 調査概要図

了し、直ぐに古墳時代の遺構検出に着手した。試掘調査では調査区の南側に直交する2本のトレンチが開設され、600㎡の面積が調査されたが、竪穴住居跡や掘立柱建物跡等を検出し、完形の土師器(第150図)も出土した。遺構配置図と土層断面図を作成し、写真撮影を実施した後、10月24日(月)に現地作業を終了し、10月28日(金)現地事務所を撤収した。なお調査トレンチは完全には埋め戻さず、遺構検出面を土で覆って養生した。

第3次調査は、平成19(2007)年5月9日(水)、中山町大字長崎に所在する中山町中央公民館において、川前2遺跡の発掘調査に係る機関の担当者が参集して、同遺跡に係る発掘調査の打合せが開催され、発掘調査に至る経過報告や調査体制、調査の方法等が確認された。

それを受けて第3次調査は、5月14日(月)から9月7日(金)までの実質78日間の予定で、調査対象区域の南半の3,500㎡を対象に実施した。調査区域は長軸(南西-北東軸)375m、短軸(北西-南東軸)25~35mの細長い眼鏡状を呈しており、第3次調査ではその南側半分を調査し、残り北側半分の4,000㎡は第4次調査区域とした(第1図)。5月14日に調査事務所に器材を搬入し、現地調査を開始したが、5月22日(火)~6月1日(金)にかけて重機による表土除去作業を実施し、古墳時代の遺構確認面まで掘り下げた。表土除去が終了した区域から順次、ジョレン等の道具を使用して遺構検出作業を実施し、竪穴住居跡・溝跡・土坑・河川跡等を確認した。また6月1~8日の期間で、調査区域内に方眼杭を設置した。

6月13日(水)より、須川上流側に当たる調査区の南側から検出した遺構の調査を開始した。その後、記録作業等の進捗状況を勘案しながら、順次北側へと調査を進めていった。出土した遺物のうち台帳に登録した遺物に対しては、出土地点・レベル等の記録を行い取り上げた。また検出した遺構については、写真撮影、土層断面図・遺構平面図作成などの記録作業を実施しながら調査を進めていった。調査の過程で、調査区中央20m×70mの1,400㎡の範囲で、古墳時代の遺構面が上層と下層の二面存することが判明し、調査面積が予定よりも増加することになったため、国土交通省東北地方整備局山形河川国道工事事務所と調査期間を10月12日まで延長す

ることで協議が整った。

10月3日(水)には、遺構の空中写真測量を実施し、当初予定された調査期間を5週間延長して、10月12日(金)に現地調査を終了した(実働101日間)。調査終了後は調査区の埋め戻し作業に着手し、10月30日(火)に埋め戻しを完了した。なお、10月9日(火)に現地で調査説明会を開催したところ、約60名の参加者があった。平成19年度の第3次調査の面積は最終的に3,500㎡となり、調査区の南側、調査面積の約2/5を終了し、調査した竪穴住居跡は10棟で、文化財認定数は103箱である。

第4次調査については、平成20(2008)年4月23日(水)、前年と同様に中山町中央公民館において、川前2遺跡第4次調査に係る遺跡発掘調査の打合せを開催し、発掘調査に至る経過報告や調査体制、調査の方法等が確認された。それを受けて第4次調査は、調査区北側の範囲4,000㎡の面積を、平成20(2008)年5月12日(月)~10月31日(金)までの実働115日間で実施した。5月12日に調査事務所に器材を搬入し、現地調査を開始したが、5月16日(金)~6月4日(水)にかけて重機による表土除去作業を実施し、古墳時代の遺構確認面まで掘り下げた。表土除去が終了した区域から、第3次調査と同様の手順で遺構を検出した。また6月4~9日の期間で、調査区域内に方眼杭を設置した。

6月13日(金)より、須川下流側に当たる調査区の北側から検出した遺構の調査を開始した。その後、記録作業等の進捗状況を勘案しながら、順次南側へと調査を進め、第3次調査と同様に調査を進めていった。

遺構の空中写真撮影は、9月10日(水)と10月22日(水)の2回実施し、10月31日(金)に現地調査を終了した。調査終了後は調査区の埋め戻し作業に着手し、11月11日(火)に埋め戻しを完了した。なお10月27日(月)に現地で第4次調査の説明会を開催したところ、約50名の参加者があった。平成20年度の第4次調査の面積は最終的に4,000㎡となり、未買収区域を除く川前2遺跡の現地の調査は完了し、第4次調査で調査した竪穴住居跡は32棟で、出土した遺物の文化財認定数は101箱である。

3 整理作業の経過

平成19年度の整理作業は、第3次調査終了後の平成19年10月～平成20年3月までは図面・写真等の記録類の整理を実施した。平成20年度の整理作業は、第3次・第4次調査出土品の水洗及び注記などの基礎的な整理作業と、第3次調査出土品の接合・復元作業、第4次調査の図面・写真等の記録類の整理を実施した。平成21年度は第1次・第2次調査報告書作成のため、第3次・第4次調査の整理作業は休止した。

平成22年度の整理作業は、第4次調査出土品の接合・復元作業と、第3次・第4次調査出土品の実測・トレース作業、遺構図版作成を実施した。併せて第1次・第2次調査の発掘調査報告書を印刷・刊行した（山形県埋文セン2011）。平成23年度の整理作業は、遺構図版・遺物図版の作成、写真図版の編集、原稿執筆を実施し、出土品の写真撮影と編集業務を藤庄印刷株式会社に委託した。

4 グリッドの設定

調査区を区画するグリッドは、日本測地系（改正測量法以前）に基づいて、5m四方で設定した（第4・5図）。日本測地系に基づいた理由は、調査開始時に国土交通省東北地方建設局山形工事事務所（当時）から提供された「須川平面図」が、同測地系に基づいて作成された事業計画図（縮尺1/2,500）であったことによるもので、2002・03年に実施された第1・2次調査と整合性を持たせるためにも、同じ測地系とグリッド制を踏襲した。

細長い眼鏡状を呈した調査区域のうち、調査区南端の右眼レンズ右端の部分をグリッドの起点として、X軸は南から北に1～58、Y軸は西から東に1～44として座標を設定し、「X1-Y1区」というように位置を標記した。調査区は南西端（X1-Y1区）がX座標-185925、Y座標-45940、北東端（X58-Y44区）がX座標-185640、Y座標-45725の範囲となり、「X6-Y9区」がX座標-185900、Y座標-45900の基準の座標となる。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

川前2遺跡は、山形県山形市大字中野目字赤坂地内と東村山郡中山町大字長崎文新田地内（北緯38度19分38秒、東経140度18分20秒）に位置する。本遺跡が位置する中野目地区は、山形市の北西部にあり、山形盆地の中央やや西寄りの海拔100m以下の盆地底に当たり、東に奥羽脊梁山脈、西に白鷹丘陵、月山、葉山を望み、馬見ヶ崎川や立谷川によって形成された大規模な扇状地の前縁部に位置しており、周囲には田園・果樹地帯が広がっている。

山形盆地は最上川中流域に当たり、南北約40km、東西約10～20kmの舟底形の構造盆地で、北接する尾花沢盆地とは河島山丘陵、南接する上山盆地とは蔵王火山の泥流堆積による狭窄部によって画される。最上川は盆地の北西部を蛇行帯を形成しながら北流し、盆地の東側には扇状地が発達しており、北から乱川・立谷川・馬見ヶ崎川の各扇状地が並列し、北のものほど規模が大きく、開析が進み、段丘化している。また盆地西側には、扇面が比較的平坦な寒河江川扇状地が形成されている（第2図）。

川前2遺跡は、奥羽山系の蔵王連峰に源を発する須川左岸の自然堤防上の微高地に立地し、海拔は92～93mを測る。本遺跡の東側を北流する須川は、上市市、山形市、山辺町、中山町、天童市の各市町を貫流して最上川に注いでいるが、最上川水系では第2位の流域面積（682km²）を有している。須川は本遺跡の北端で白川（馬見ヶ崎川と高瀬川が合流）に、更に400m下流で立谷川に合流し、その先1.6kmで北流する最上川と合わさるが、流路は盆地の東側に発達した馬見ヶ崎川と立谷川の扇状地によって盆地の西側に押しやられて、盆地西縁を限る白鷹丘陵に近接している（第2図）。また現在は水質が硫酸イオンを主体とする酸性河川となっており、魚類が生息できない環境にあるが、本遺跡の周囲には水鳥類が多く生息しており、遺跡周辺の河川数は狩猟区域となっている。

遺跡周辺は最上川を中心に、複数の河川が合流してお

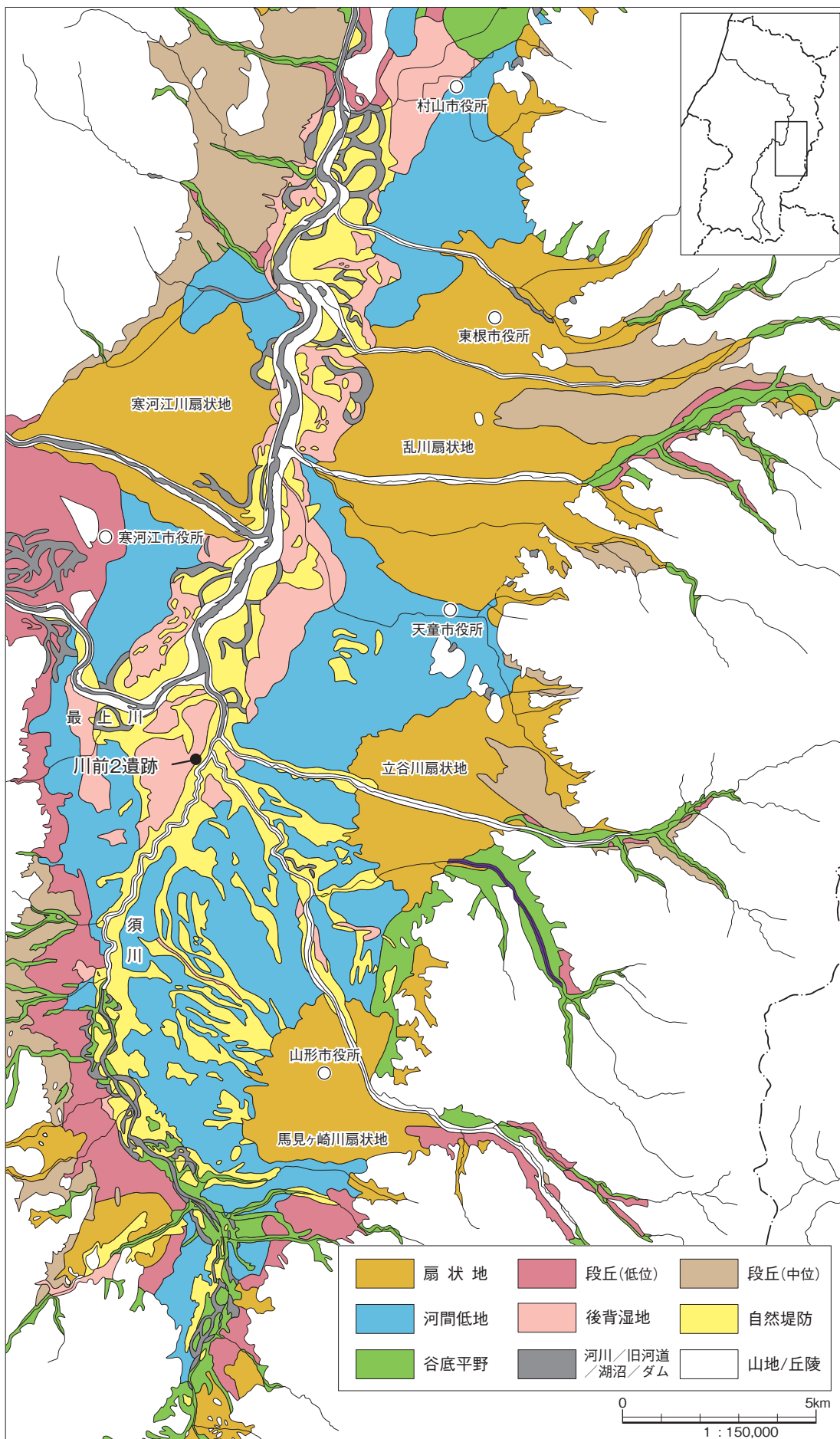
り、増水時には冠水の危険にさらされた地域である。しかしこの周辺は古くより、陸路、水路ともに交通の要衝となっており、特に本遺跡の約2km上流の「船町」と最上川の合流点に位置する「寺津」は、江戸時代を通じて最上川舟運の集積地として繁栄していた。古墳時代や奈良・平安時代においても、この地域の遺跡が水運の要衝としての役割を担っていたと推測され、川前2遺跡もそういう性格の遺跡であった可能性が考えられる。

2 歴史的環境

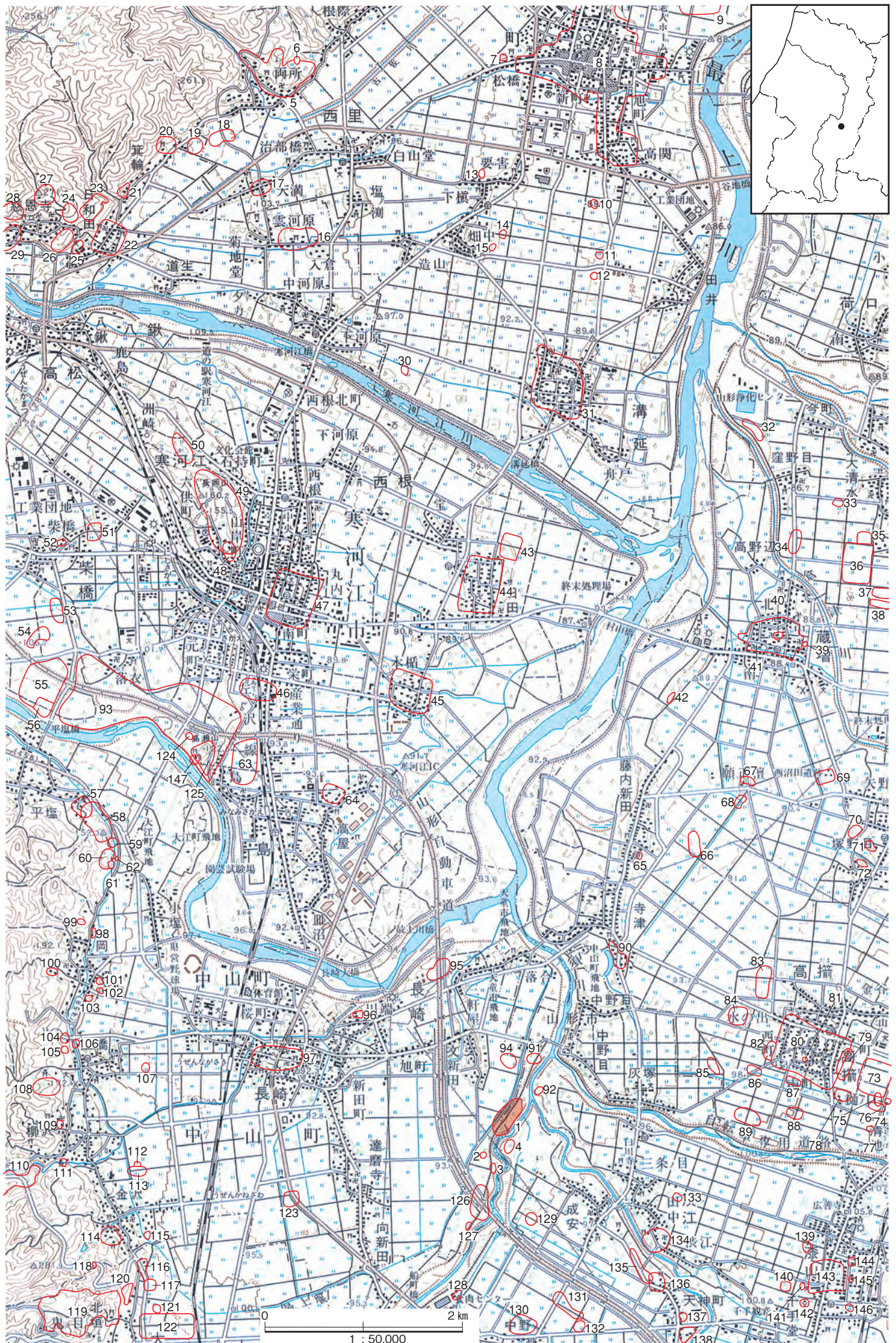
川前2遺跡は須川の自然堤防上に立地する弥生時代～奈良・平安時代にかけての集落跡である。周囲には古墳時代や奈良・平安時代の遺跡が多く分布している。第4図には、国土地理院発行の1/50,000地形図「楯岡」・「山形」を使用し、図幅内に周知されている147遺跡をプロットした。

縄文時代では、矢口遺跡（70）、砂子田遺跡（84）、高瀬山遺跡（93）、石田遺跡（46）等が、後・晩期の有力遺跡として上げることができる。特に縄文時代後期中葉（宝ヶ峯2式期）になると、天童市砂子田遺跡に象徴されるように、扇状地扇端部～前縁部にかけての沖積低地への遺跡の進出が顕在化する。図幅の範囲外の天童市板橋1・2遺跡では大木7a式、砂子田遺跡（84）では大木8b式の土器が出土していることから、沖積低地への進出は縄文中期に顕現するが、遺跡数が増加するのは縄文後期中葉の宝ヶ峯2式期と晩期後葉の大洞A（新）式期である（小林2001）。それ以前の縄文時代の遺跡は盆地周縁の山際に分布する傾向が見られ、例外的に乱川扇状地扇端には縄文前期後葉の天童市柏木遺跡が位置している。

弥生時代では、扇状地の前縁部に遺跡が点在するが、水田耕作の普及を反映した立地形態と考えられる。中でも山形市向河原遺跡（135）では、弥生時代中期3棟、後期4棟の住居跡が検出され、住居内からは炭化した米やアワ・ヒエ類が採取されている（山形県埋文セン2005a）。また寒河江市石田遺跡（46）では前期の再葬墓



第2図 山形盆地地形分類図



第3図 川前2遺跡周辺の遺跡

II 遺跡の位置と環境

表1 川前2遺跡周辺の遺跡

	遺跡名	市町村	時代	種別
1	川前2遺跡	山形市	古墳・奈良・平安	集落跡
2	川前遺跡	中山町	平安	遺物包含地
3	川前飛び地遺跡	中山町	奈良・平安	集落跡
4	上敷免遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡
5	和楯山橋跡	河北町	中世	城館跡
6	裏田遺跡	河北町	縄文・平安	遺物包含地
7	若宮八幡遺跡	河北町	平安	遺物包含地
8	谷地城跡	河北町	中世	城館跡
9	大塚館跡	河北町	中世	城館跡
10	月山堂遺跡	河北町	平安	遺物包含地
11	馬場遺跡	河北町	平安	遺物包含地
12	熊野台遺跡	河北町	古墳・奈良・平安	遺物包含地
13	下楨遺跡	河北町	古墳	遺物包含地
14	畑中B遺跡	河北町	平安	遺物包含地
15	畑中A遺跡	河北町	平安	遺物包含地
16	小泉橋跡	寒河江市	中世	城館跡
17	境介次郎屋敷遺跡	河北町	中世	城館跡
18	両所A遺跡	河北町	平安	散布地
19	箕輪遺跡	寒河江市	平安	集落跡
20	箕輪下屋敷遺跡	寒河江市	中世	城館跡
21	箕輪上屋敷遺跡	寒河江市	中世	城館跡
22	日和田橋跡	寒河江市	中世	城館跡
23	上の寺遺跡	寒河江市	縄文～近世	集落・社寺跡
24	尾山橋跡	寒河江市	中世	城館跡
25	日和田遺跡	寒河江市	縄文	遺物包含地
26	ゴロビツ橋跡	寒河江市	中世	城館跡
27	肥前橋跡	寒河江市	中世	城館跡
28	松蔵橋跡	寒河江市	中世	城館跡
29	田沢要害遺跡	寒河江市	中世	城館跡
30	不動木遺跡	河北町	奈良	遺物包含地
31	溝延城跡	河北町	中世	城館跡
32	今町経壇遺跡	天童市	江戸	納経遺構
33	一楽壇遺跡	天童市	室町	壇墓
34	蔵増北B遺跡	天童市	平安	集落跡
35	的場遺跡	天童市	古墳・平安	集落跡
36	三条条里遺跡	天童市	奈良・平安	条里遺構
37	清池清水遺跡	天童市	古墳	集落跡
38	八反記田遺跡	天童市	縄文	集落跡
39	蔵増北A遺跡	天童市	中世	城館跡
40	誓願寺護念経碑遺跡	天童市	江戸	納経遺構
41	蔵増城遺跡	天童市	室町～江戸	城館跡
42	蔵増南一字一石経塔遺跡	天童市	江戸	経内遺構
43	新田橋跡	寒河江市	中世	城館跡
44	日田城の内遺跡	寒河江市	中世	城館跡
45	本橋館跡	寒河江市	中世	城館跡
46	石田遺跡	寒河江市	縄文・弥生	集落跡
47	寒河江城遺跡	寒河江市	中世	城館跡
48	山岸遺跡	寒河江市	縄文	遺物包含地
49	長岡山橋跡	寒河江市	中世	城館跡
50	石持原遺跡	寒河江市	縄文	遺物包含地
51	柴橋橋跡	寒河江市	中世	城館跡
52	柴橋壑跡	寒河江市	平安	窠跡
53	高松橋跡	寒河江市	中世	城館跡
54	高松I遺跡	寒河江市	縄文・平安	散布地
55	落衣長者屋敷遺跡	寒河江市	奈良・平安・中世	集落跡
56	落衣長者屋敷遺跡	寒河江市	中世	城館跡
57	平塩橋沢山遺跡	寒河江市	縄文・奈良・平安	集落跡
58	山崎橋跡	寒河江市	中世	城館跡
59	橋沢山遺跡	寒河江市	縄文	散布地
60	殿森山遺跡	中山町	中世	城館跡
61	松岡山遺跡	中山町	縄文・平安	遺物包含地
62	塩ノ原遺跡	中山町	縄文	遺物包含地
63	三条遺跡	寒河江市	縄文～近世	集落・城館跡
64	高屋橋跡	寒河江市	中世	城館跡
65	中原遺跡	天童市	平安	集落跡
66	鍋田遺跡	天童市	古墳	集落跡
67	願正壇遺跡	天童市	室町	寺院跡
68	願正壇遺跡	天童市	縄文～平安	集落跡
69	西沼田遺跡	天童市	古墳	集落跡
70	矢口遺跡	天童市	縄文	集落跡
71	沼田遺跡	天童市	縄文	集落跡
72	塚野目A遺跡	天童市	弥生～平安	集落跡
73	礼井戸条里遺跡	天童市	平安・室町	条里遺構
74	清池西遺跡	天童市	平安	集落跡

	遺跡名	市町村	時代	種別
75	礼井戸遺跡	天童市	縄文	集落跡
76	高揃東古墳	天童市	奈良・平安	集落跡
77	火矢塚2号古墳	天童市	古墳	古墳
78	入水遺跡	天童市	奈良・平安	集落跡
79	高揃東浦遺跡	天童市	奈良・平安	集落跡
80	高揃城遺跡	天童市	南北朝～江戸	城館跡
81	西橋遺跡	天童市	南北朝～江戸	城館跡
82	高揃西浦遺跡	天童市	縄文	集落跡
83	中袋遺跡	天童市	奈良・平安	集落跡
84	砂子田遺跡	天童市	縄文・弥生・平安	集落跡
85	影沢北遺跡	天童市	奈良・平安	集落跡
86	松葉遺跡	天童市	平安・奈良	集落跡
87	高揃南浦遺跡	天童市	縄文・平安	集落跡
88	桜江遺跡	天童市	縄文～奈良	集落跡
89	高揃南遺跡	天童市	古墳	集落跡
90	寺津城遺跡	天童市	室町～安土桃山	城館跡
91	中野目II遺跡	山形市	平安	集落跡
92	若宮遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡
93	高瀬山遺跡	寒河江市	旧石器～近世	集落跡
94	中野目I遺跡	山形市	古墳・奈良・平安	集落跡
95	物見台遺跡	中山町	古墳・中世	集落・城館跡
96	川端遺跡	中山町	平安	集落跡
97	長崎橋跡	中山町	南北朝～戦国	城館跡
98	竹ノ花遺跡	中山町	中世	城館跡
99	松荷遺跡	中山町	平安	遺物包含地
100	影浦遺跡	中山町	縄文・平安	遺物包含地
101	八幡前遺跡	中山町	平安	遺物包含地
102	壇の腰遺跡	中山町	平安	遺物包含地
103	岡境遺跡	中山町	縄文・平安	遺物包含地
104	滝2遺跡	中山町	平安	窠跡
105	滝3遺跡	中山町	縄文・平安	遺物包含地
106	滝1遺跡	中山町	旧石器・縄文・平安・中世	遺物包含地
107	金屋敷遺跡	中山町	中世	城館跡
108	橋堂・橋戸遺跡	中山町	中世	城館跡
109	墓戸遺跡	中山町	縄文	遺物包含地
110	谷木沢遺跡	中山町	室町	城館跡
111	御獄神社遺跡	中山町	縄文	遺物包含地
112	柳沢条里遺跡	中山町	奈良・平安	条里制跡
113	竹ノ花遺跡	中山町	中世	城館跡
114	銅屋敷遺跡	中山町	中世	城館跡
115	前田遺跡	中山町	平安	遺物包含地
116	新館遺跡	山辺町	平安・鎌倉	集落跡
117	新館跡	山辺町	不明	城館跡
118	庚申山遺跡	山辺町	弥生	遺物包含地
119	坊主窪古墳群	山辺町	古墳・飛鳥・奈良	古墳
120	西光山遺跡	山辺町	戦国	城館跡
121	良実塚遺跡	山辺町	平安	境墓
122	山辺北条里遺跡	山辺町	奈良・平安	条里制跡
123	松下屋敷遺跡	中山町	戦国	城館跡
124	高瀬山古墳	寒河江市	古墳	墳墓
125	高瀬山橋跡	寒河江市	中世	城館跡
126	達磨寺遺跡	中山町	奈良・平安・中世	集落跡
127	達磨寺3遺跡	中山町	平安	集落跡
128	春日堂遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡
129	八幡田遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡
130	中野遺跡	山形市	古墳	集落跡
131	馬洗場B遺跡	山形市	古墳・奈良・平安	集落跡
132	馬洗場A遺跡	山形市	平安	散布地
133	三条ノ目遺跡	山形市	古墳	包蔵地
134	洪江遺跡	山形市	弥生～中世	集落跡
135	向河原遺跡	山形市	弥生～中世	集落跡
136	同心屋敷遺跡	山形市	不明	城館跡
137	新井田遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡
138	天神遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡
139	漆山遺跡	山形市	弥生	集落跡
140	井森塚遺跡	山形市	弥生	集落跡
141	衛守塚2号古墳	山形市	古墳	古墳
142	衛守塚4号古墳	山形市	奈良・平安	古墳
143	漆山館跡	山形市	室町～戦国	城館跡
144	柴崎古墳群	山形市	古墳	古墳
145	北海上A遺跡	山形市	弥生	集落跡
146	北海上B遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡
147	高瀬山経塚遺跡	寒河江市	鎌倉	経塚

が調査され、山形盆地では唯一の検出事例となっている。

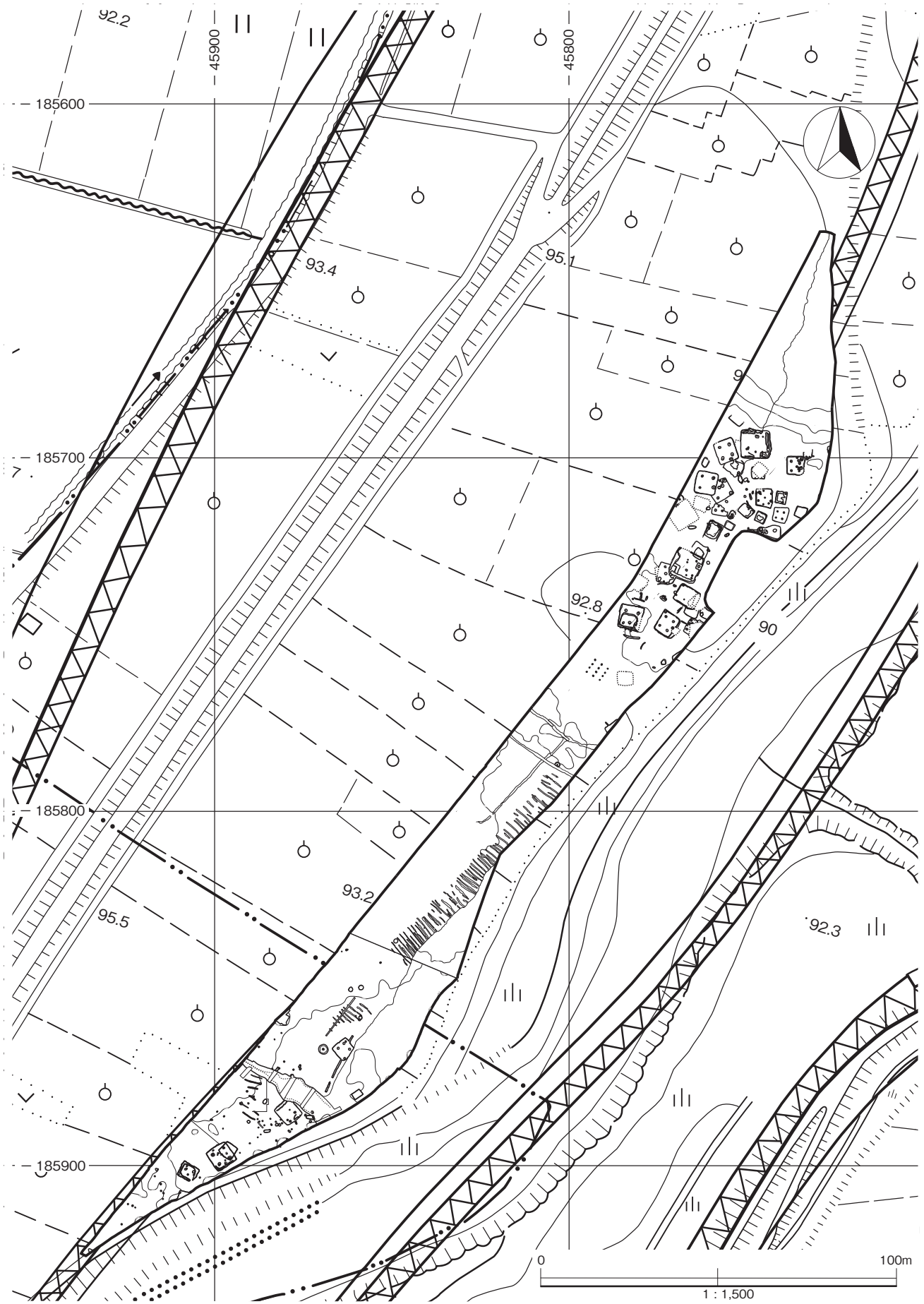
古墳時代の山形盆地では、沖積低地に遺跡数が多く認められる。北から①倉津川・押切川流域にまとまる一群、②立谷川北岸にまとまる一群、③馬見ヶ崎川と立谷川間にまとまる一群、④馬見ヶ崎川と須川間にまとまる一群、⑤盆地南側須川西岸にまとまる一群、がある（山形県埋文セン 2004a）。各々の集落群は、各河川と深く関わり成立・展開したと考えられているが、川前2遺跡はこの内の③と④に関わる遺跡となろう。図幅から外れるが、山形市今塚遺跡では、古墳時代前期の住居跡が30棟検出され、特にST702から出土した土師器の一括資料は、山形盆地の古墳時代前期後半の指標となっている（山形県埋文セン 1994）。山形市馬洗場B遺跡（131）では、竪穴住居跡の隣接地点から破鏡（内行花文鏡）が出土し、最北端の出土事例となっている（山形県埋文セン 2004b）。図幅外の山形市服部・藤治屋敷遺跡では、前期後半の河川跡の下位層から土師器・木製品が多量に出土したが、東海系曲柄二又鍬や廻間式類似の土師器が含まれており、他地域との交流関係が指摘されている（山形県埋文セン 2004a）。天童市高嶺南遺跡（89）では、古墳時代前期の住居跡が25棟検出されたが、住居跡や包含層からは管玉の製作工程を示す遺物が出土し、河川跡（S G 252）からは多量の木製品が出土している（山形県埋文セン 2004d）。

古墳時代後期では、中山町物見台遺跡（95）でカマドを有する竪穴住居跡が16棟検出され、特にS T 13から出土した土師器は、従来「三軒屋式」とされた型式の住居内一括資料に相当する。また大溝跡（S D 15）からは土師器の完形品約400点の他、古式須恵器や土・石製品が多数出土している（山形県教委 1987）。天童市西沼田遺跡（69）は6世紀を中心とした集落跡で、平地式の掘立柱建物跡群が検出され、1987年に国史跡に指定され、史跡公園として整備が進められている。

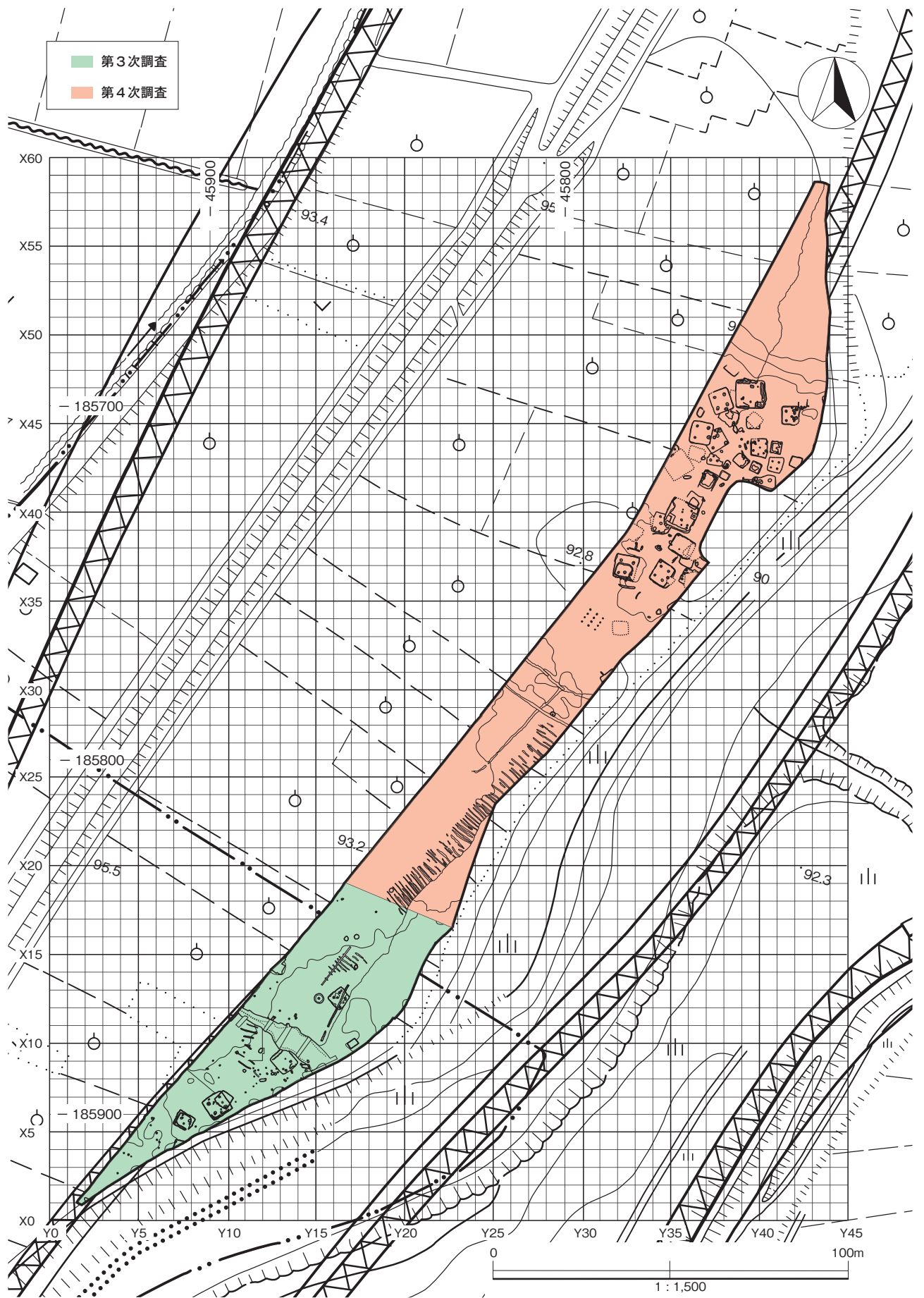
奈良・平安時代では、川前2遺跡の南方1kmに位置する達磨寺遺跡（126）で、大型の掘立柱建物跡群や倉庫が規則的に配置され、隣接してパレススタイルの井戸跡が付属する状況が確認され、風字硯も出土しており、本遺跡と共に水運に関連した官衙の可能性が指摘されている（山形県埋文セン 2004c）。また須川の対岸に位置する上敷免遺跡（4）は、8～9世紀を主体とした集落跡

で、時期的に本遺跡との関連を有しており、S T 3竪穴住居跡から出土した8世紀前半の「関東系土師器」が特記される（山形県埋文セン 2007a）。盆地西端の最上川沿いに位置する高瀬山遺跡（93）は、8世紀後半～9世紀前半を中心とした集落跡で、これまでの調査で600棟以上の建物関連施設が検出されており、古代村山郡「長岡郷」と推定されている（山形県埋文セン 2005b）。

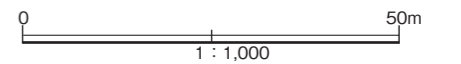
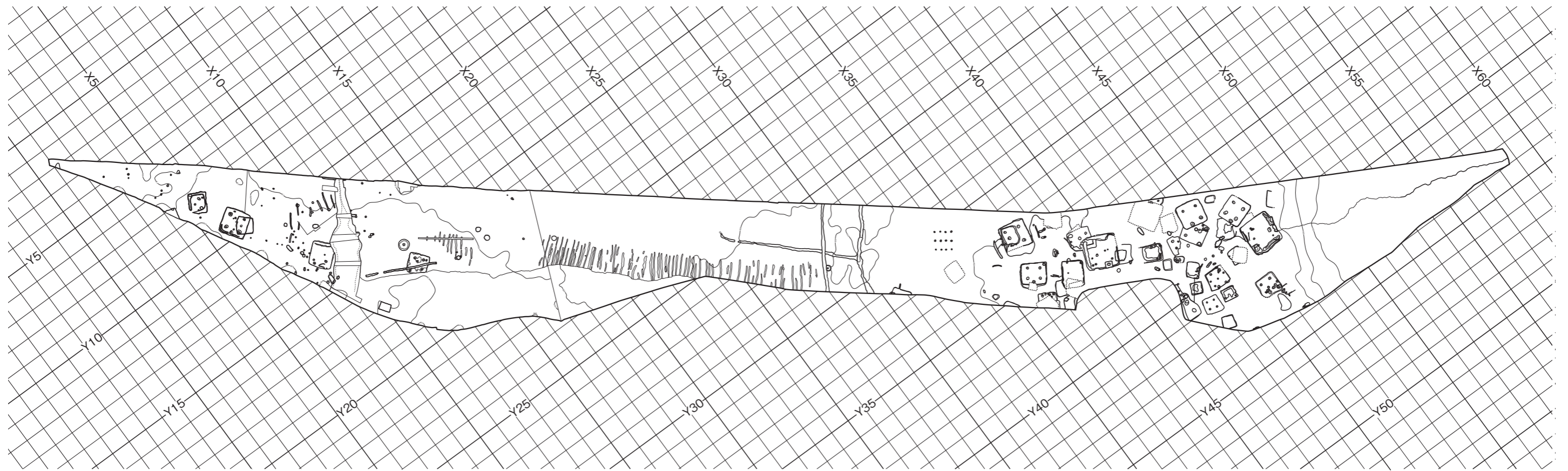
上記したように川前2遺跡の周辺には、縄文時代～奈良・平安時代を通じて、多数の遺跡が点在しており、特に古墳時代～古代を通して山形盆地の中核域が形成されていた様相を窺うことができる。その背景には山形盆地を貫流した各河川の合流点という地理的特性から、河川を利用した交通や物流の要衝の地域になっていたと想定される。



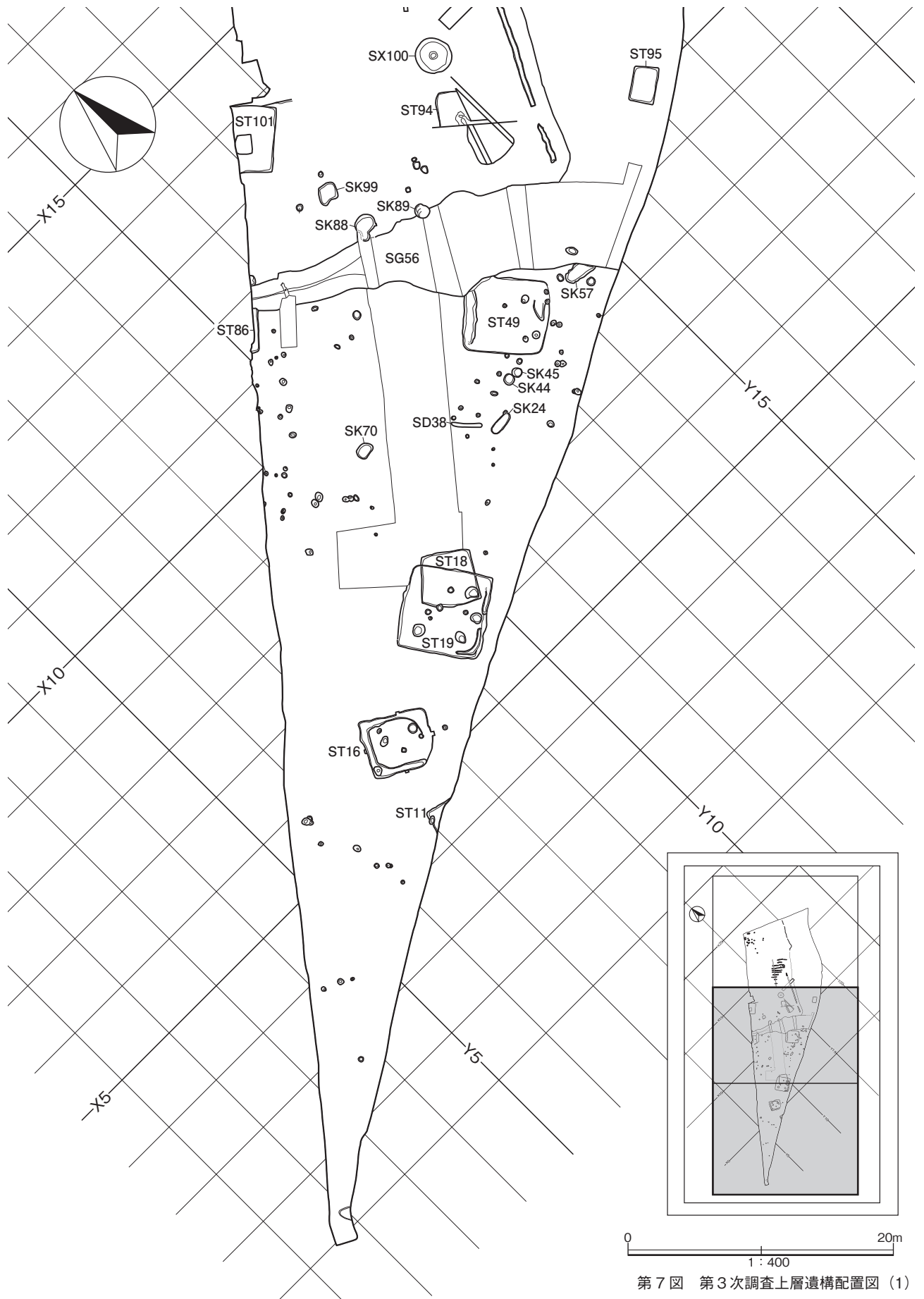
第4図 座標配置図



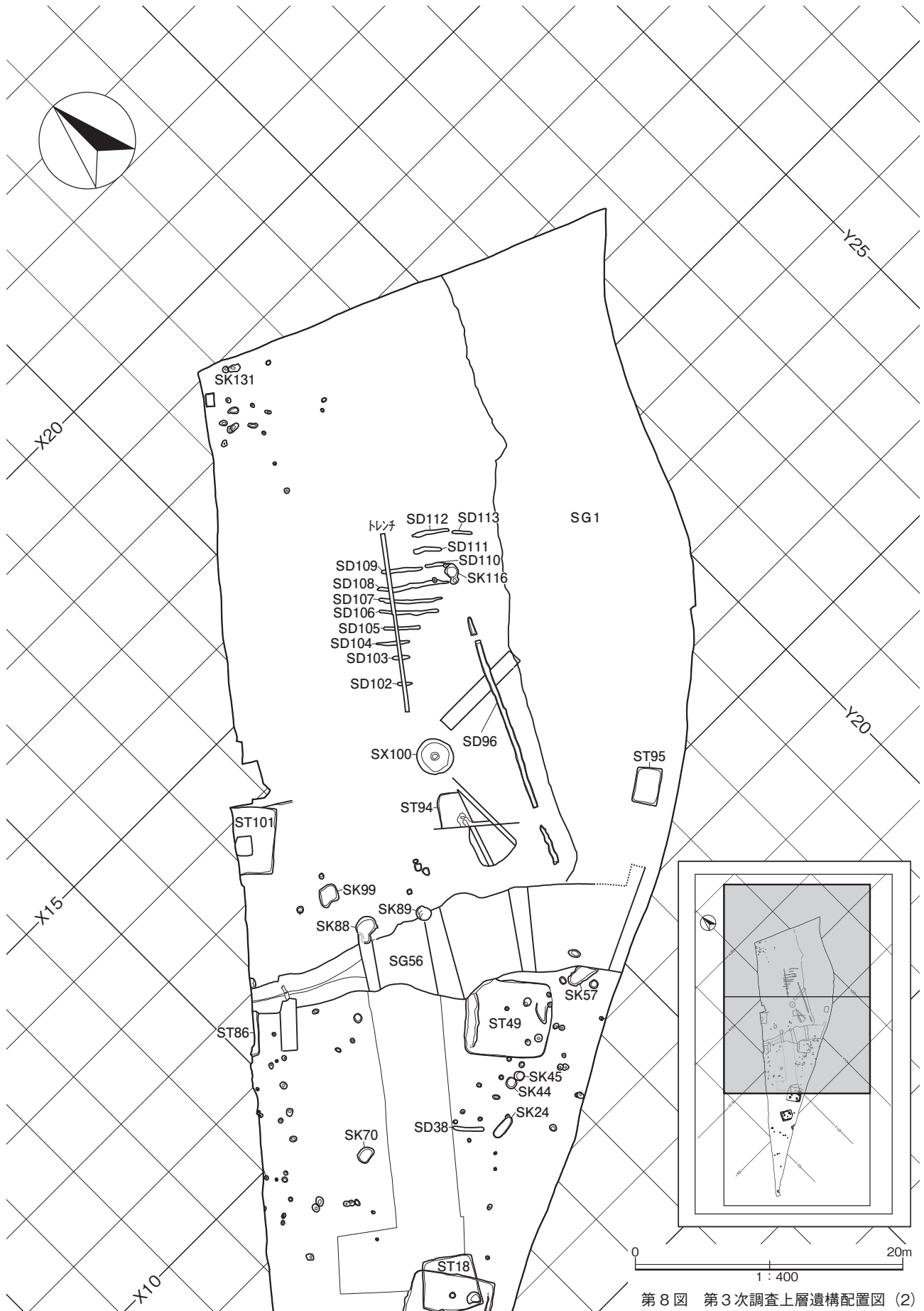
第5図 グリッド配置図



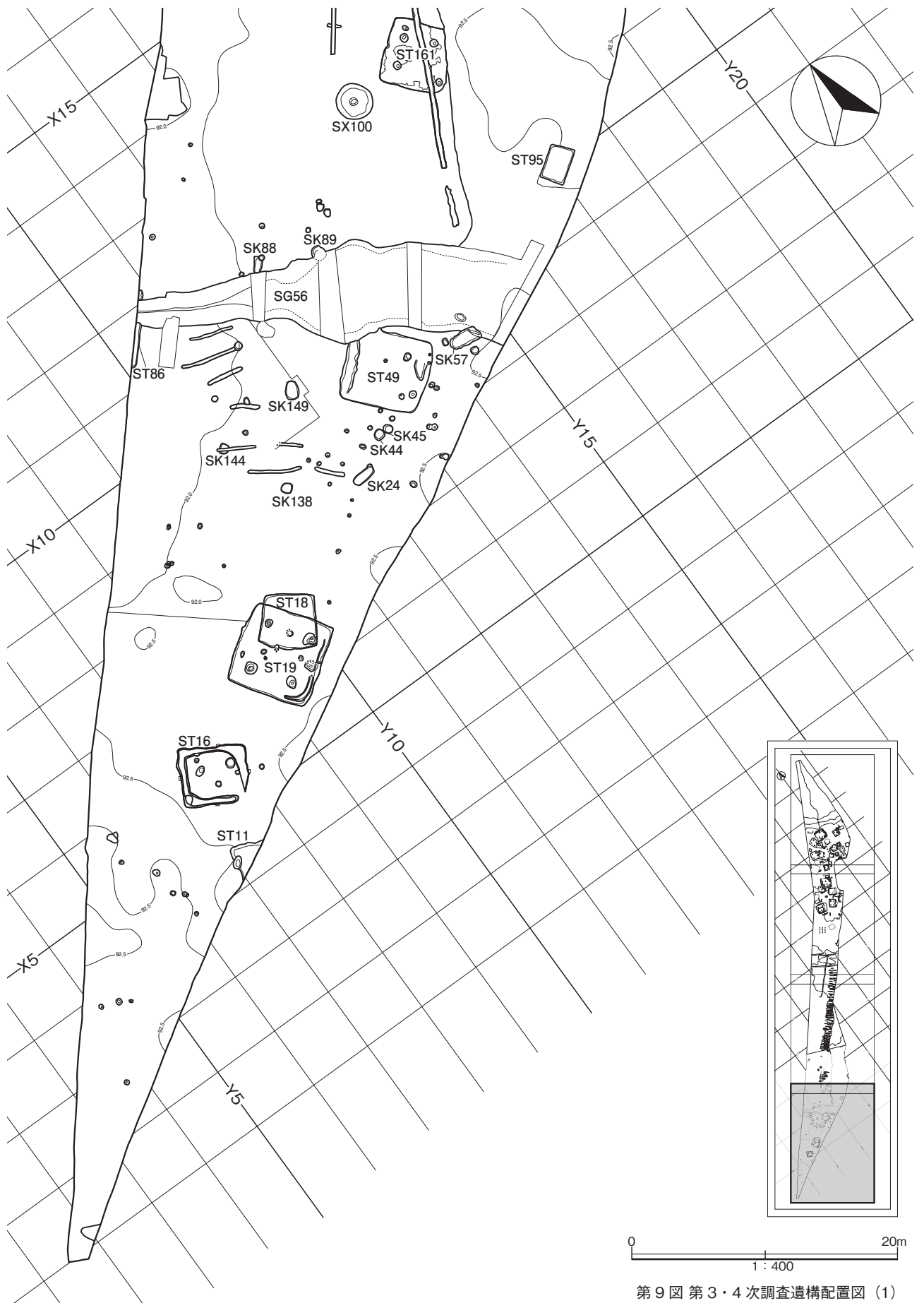
第6図 第3・4次調査遺構配置図



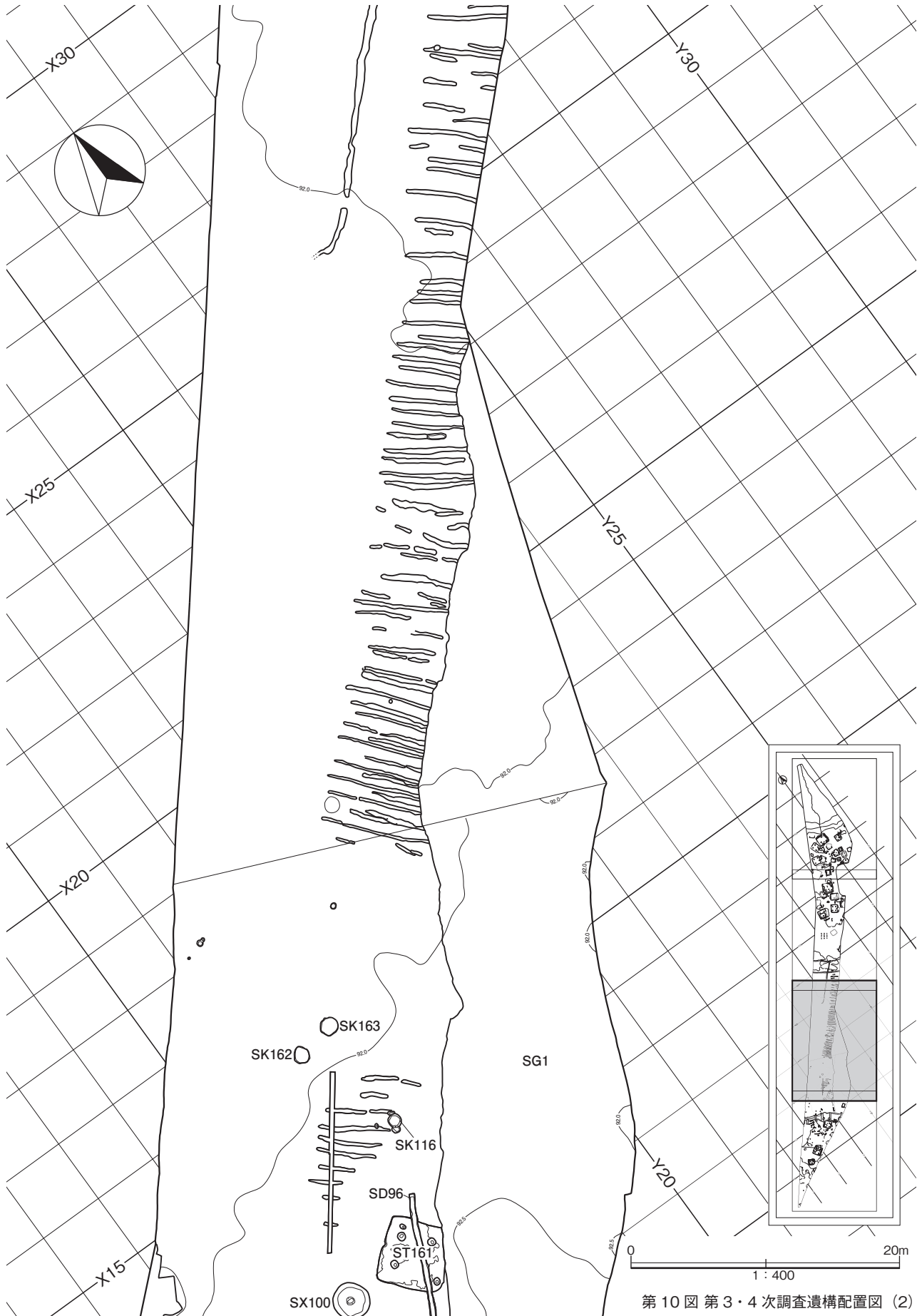
第7図 第3次調査上層遺構配置図(1)



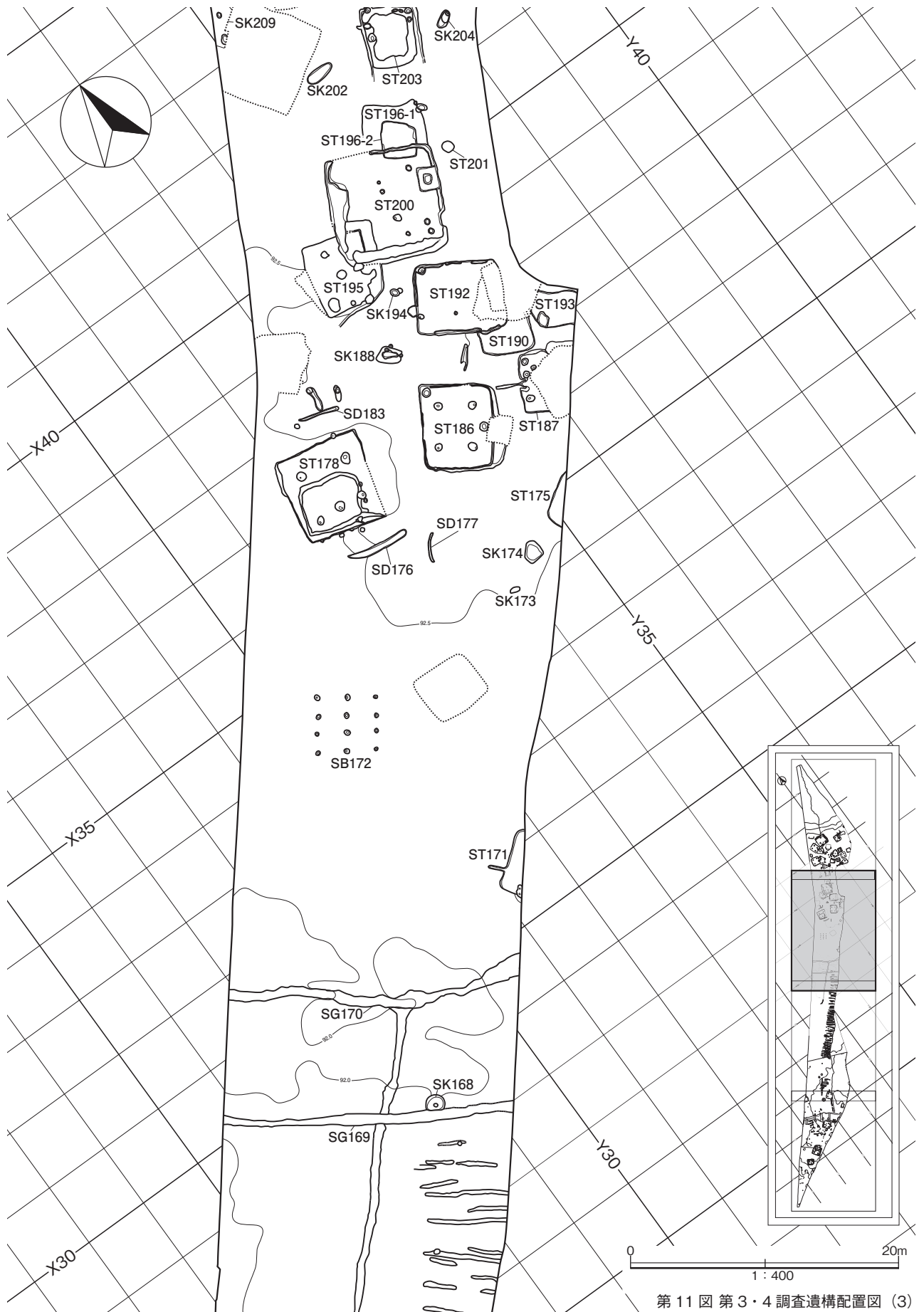
第8図 第3次調査上層遺構配置図(2)



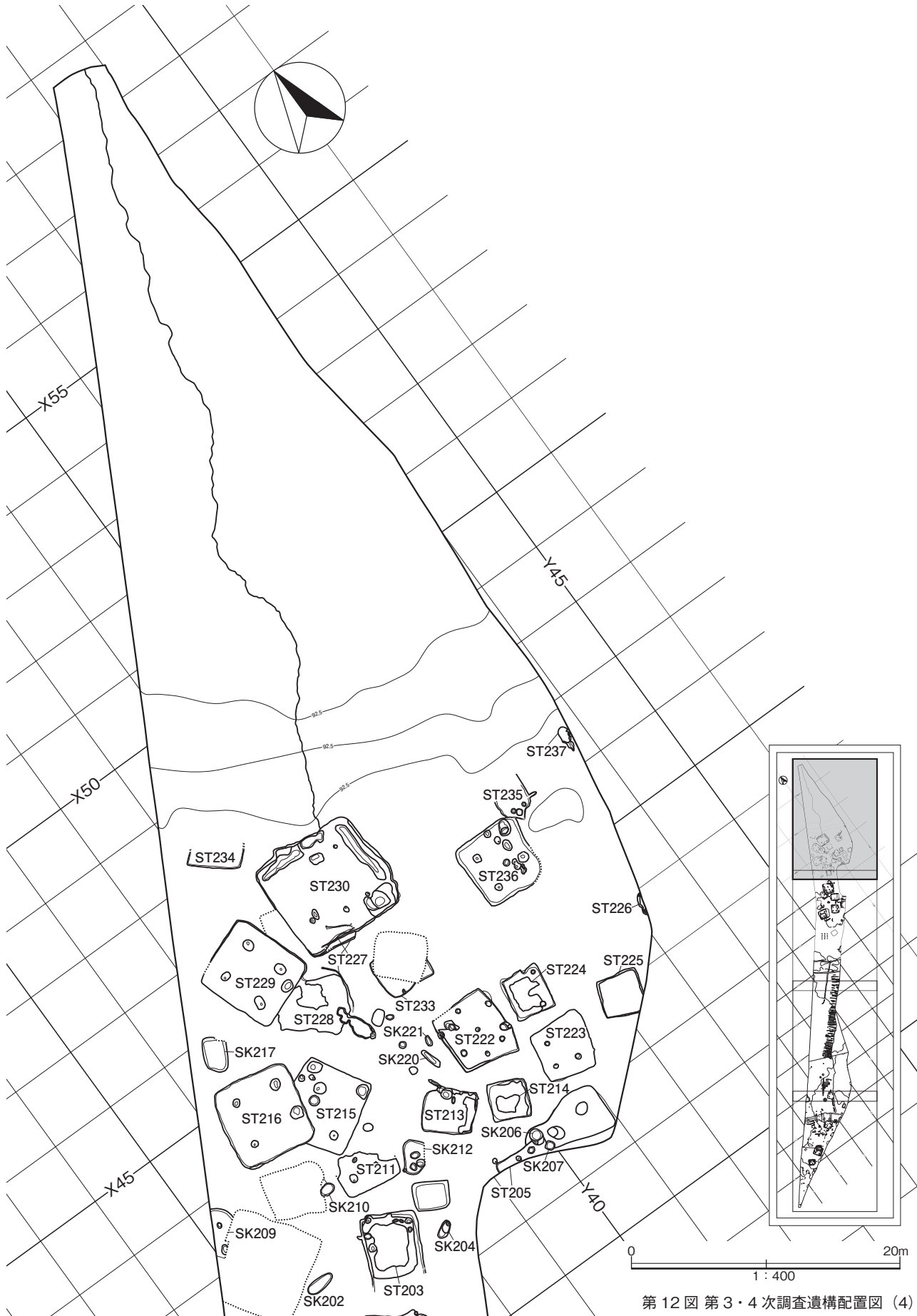
第9図 第3・4次調査遺構配置図(1)



第10図 第3・4次調査遺構配置図(2)



第 11 図 第 3・4 調査遺構配置図 (3)



第12図 第3・4次調査遺構配置図(4)

III 第3次調査の成果

1 第3次調査の概要

川前2遺跡の第3次調査は、平成19(2007)年5月14日(月)～10月12日(金)までの実働101日間で実施した。調査対象面積8,500㎡の内、約2/5の面積に相当する調査区南側の3,500㎡を調査した。第3次調査の調査区域は調査対象区域の須川上流側で、細長い眼鏡状を呈した調査区の右眼レンズの部分に相当し、平成14(2002)年の第1次調査区の直下である。調査区の東側(須川寄り)がやや高く、西側(堤防寄り)が低くなっている。また調査区北端から10～15m南寄りには、中山町と山形市の境界線が存しており、上流側が中山町、下流側が山形市となる(第1図)。

発掘調査は調査区南端(須川上流側)から着手し、漸次北側に向かって進められ、竪穴住居跡10棟、土坑16基などの遺構が調査された。竪穴住居跡の内6棟が古墳時代前期の所産であり、奈良・平安時代の竪穴住居跡は調査区の際で3棟を検出したに過ぎない。

調査区の西側は、古墳時代の遺構面が2面存しており、上層では住居跡2棟(ST94・101竪穴住居跡)と土坑4基(SK70・88・99・131土坑)、ピット等を調査した。更にその10～20cm下位でも遺物が出土したため、試掘調査を実施した結果、土坑等の遺構や土師器の集中的な出土状況が認められ、調査区西側を東西15m×南北70mの範囲で掘り下げることになった。その結果、住居跡1棟(ST161竪穴住居跡)と土坑6基(SK138・144・149・155・162・163土坑)を新たに検出し、遺構を伴わない土師器の集中的な出土状況が確認された。

調査区の東端では、須川に並行するように南北方向に伸びた河川跡(SG1)が検出されている。古墳時代住居跡(ST161)の一部を削平しており、古墳時代以降の河道であった可能性が考えられるが、川幅が広大であることから、嘗ての須川の河道と想定される。また調査区中央には、これに直交するように、幅1～2.5mの河川跡(SG56)が検出されている。須川に流入する小さな河川であるが、古代の住居跡(ST86)を切っ

おり、古代以降の河道と考えられる。

第3次調査区の遺構検出面の海拔は92.5m前後を測り、住居跡の分布は微高地に限られる。第4次調査区域に比べると、遺構の密度はやや薄くなっているが、調査区の北西側では、遺構を伴わない土師器が集中的に出土しており、畑跡と考えられる溝状遺構が検出された。溝状遺構は北西-南東方向で、幅20cm程度を測り、10条程が検出された。

2 第3次調査の基本層序

第3次調査の基本層序は、調査区北側の西壁で記録している(第13図)。この区域は調査区の中でも比較的低位となっており、古墳時代の土師器の集中的な出土が認められた地点に相当する。

調査区内は度々冠水した為、土層の堆積は一様でなく、遺構検出に困難をきたした。表土直下の黒褐色粘質土(2・3層)が、奈良・平安時代の遺物を包含しており、第1・2次調査は4層上面を遺構検出面とした。その下位はシルト質土と粘質土が水平に堆積しており、冠水による堆積層と考えられ、古墳時代の遺物包含層は11層(暗褐色シルト質土層)前後が相当する。

13層(にぶい黄褐色粘質土)は層厚10～20cmであるが、黄色粘質土と黒色粘質土の互層からなり、調査区内に広く見られたことから、鍵層に位置付けられ、良好に観察された地点では、上位より黄色→黒色→黄色→黒色→黄色→黒色と6枚の層が観察された。同層準や以下の層準では、遺物の出土が全く認められなかったため、13層までを掘り下げの基準とした。

3 第3次調査の竪穴住居跡

ST11 竪穴住居跡(第14図、写真図版3)

ST11 竪穴住居跡は、調査区南端のX4-Y7に位置し、北東コーナーを検出したのみで、その他は調査区域外となっており、西壁はSP12に切られている。調査時名称はST1。(平面形)隅丸方形を呈すると推定されるが、北東コーナーを検出したのみで、明確でない。

(堆積土) 覆土の層厚は60 cmを測り、凹レンズ状に黒褐色・暗褐色シルト質土が堆積する。(壁面) 壁高は50 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 平坦で、硬化面や貼床は認められない。(柱穴) 未検出。(壁溝) 未検出。(カマド) 未検出。(出土遺物) 土師器・須恵器の小片が出土したのみで、掲載遺物なし。(時期) 出土遺物は小片で、明確な時期は判然としないが、第1・2次調査の成果を勘案すると、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

S T 95 竪穴住居跡 (第14図、写真図版4)

S T 95 竪穴住居跡は、X 9 - Y 16・17、X 10 - Y 16・17に位置し、調査区東側のS G 1 河川跡(古墳時代以降の所産)を掘り込んでいる。調査時の名称はS T 6。(平面形) 長軸2.7 m、短軸1.9 mの長方形で、北を基準とした主軸方向はN - 57° - Eにある。(堆積土) 覆土の層厚は15 cmを測り、灰褐色・黒褐色シルト質土が堆積する。(壁面) 壁高は15 cmで、壁は外傾して立ち上がる。但し砂質土を掘り込んでおり、壁面の崩落が著しい。(床面) 平坦で、硬化面や貼床は認められない。(柱穴) 未検出。(壁溝) 未検出。(カマド) 未検出。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 覆土にビニールが含まれていたことから、最近の掘り込みと見られ、竪穴住居跡の呼称は相応でない。

S T 16 竪穴住居跡 (第15・53図、写真図版4)

S T 16 竪穴住居跡は、調査区南側のX 5 - Y 6~8、X 6 - Y 7に位置する。壁面はなく周溝と床面を検出したのみであり、東にS T 19 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS T 2。(平面形) 周溝を検出したのみで、住居の形状は判然としないが、長軸5 m、短軸4.3~4.4 mの隅丸方形と推測され、北を基準とした主軸方向はN - 30° - Eにある。南コーナーの周溝は未検出である。(堆積土) 検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面) 未検出。(床面) 床面は平坦で、締まりの弱い褐灰色シルト質土となる。(柱穴) 住居内からはピット6基が検出され、いずれも深さが16~28 cmの範囲にある。柱穴は明確でないが、これらが柱穴として機能した可能性が考えられる。(壁溝) 幅30~100 cm、深さ10~20 cmの壁溝を検出したが、南コーナは未検出である。(炉跡) 床面中央に直径30 cm程度の炭化物の集積が認められたことから、炉跡であったと推定される。

(出土遺物) 周溝から古墳時代の土師器の甕(第53図1)と鉢(第53図2)が出土した。(時期) 出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。

S T 19 竪穴住居跡 (第16・17・53・56図、写真図版3・22)

S T 19 竪穴住居跡は、調査区の南側のX 5 - Y 9、X 6 - Y 8~10、X 7 - Y 9・10に位置する。住居の北東部分がS T 18 竪穴住居跡を切って構築されており、西側にS T 16 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS T 3。(平面形) 南北軸6.2~6.5 m、東西軸6.1~6.4 mの隅丸方形で、北を基準とした主軸方向はN - 35° - Wにある。(堆積土) 覆土の層厚は15 cmを測り、にぶい黄褐色シルト質土が凹レンズ状に堆積する。(壁面) 壁高は15~20 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 平坦で、柱穴内は硬化面となる。(柱穴) 住居内からピット9基が検出されたが、柱穴はP 1~P 4が相当し、いずれも深さは50~65 cmを測る。(壁溝) 南東壁から南西壁にかけて、幅30 cm、深さ5~10 cmの壁溝を検出した。(炉跡) 床面中央に長軸55 cm、短軸30 cmの地床炉が構築されていた。(出土遺物) 床面に近い覆土下位から、高坏(第53図5)、鉢(第53図6)、壺(第53図7・8)、鉢(第53図9)が出土し、P 5の底面から高坏(第53図10)が出土した。(時期) 出土遺物から、古墳時代前期(4世紀後半)の住居跡と考えられる。切り合い関係から、S T 18 竪穴住居跡よりも新しいと見なされる。

S T 49 竪穴住居跡 (第18・19・54図、写真図版4・22・23)

S T 49 竪穴住居跡は、調査区のほぼ中央のX 8 - Y 12・13、X 9 - Y 12・13に位置する。住居の北角がS G 56 河川跡に切られており、S K 44・45・57 土坑が近接する。調査時の名称はS T 5。(平面形) 長軸6.1~6.4 m、短軸5.6 mの隅丸方形で、北を基準とした主軸方向はN - 40° - Wにある。(堆積土) 覆土の層厚は10~20 cmを測り、黒褐色シルト質土が堆積する。(壁面) 壁高は5~20 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。但し東コーナーの壁は未検出。(床面) 全面床が貼られており、床面の中央に硬化面が認められた。(柱穴) 住居内からは6基のピットが検出されたが、柱穴は明確でない。(壁溝) 北西壁と南東壁で、幅90~100 cm、深さ5~10 cm

の壁溝を検出した。(炉跡)北西壁と南西壁の2ヵ所で炭化物の集中が認められたが、炉跡は未検出。(出土遺物)床面直上から古墳時代の土師器甕(第54図2・5)、壺(第54図4)、高坏(第54図6・7)、底部穿孔土器(第54図3)が出土し、床面に近い覆土下位から甕(第54図1)が出土した。(時期)出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。切り合い関係から、SG56河川跡よりも古いと見なされる。

ST 86 竪穴住居跡 (第20図)

ST 86 竪穴住居跡は、調査区中央の西端のX11 - Y10に位置する。住居跡の東南壁が検出されたのみで、大半は調査区域外となっており、東側はSG56河川跡に切られている。調査時の名称はST4。(平面形)隅丸方形の住居跡と推定されるが、判然としない。北を基準とした主軸方向はN - 40° - Eにある。(堆積土)覆土の層厚は30cmを測り、黒褐色シルト質土が堆積する。なお住居跡の上面は、層厚5cmの洪水層(3層)にパックされている。(壁面)遺構検出面からの壁高は10cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。なお土層断面図による壁高は30cmとなる。(床面)平坦で、硬化面や貼床は認められない。(柱穴)未検出。(壁溝)未検出。(カマド)未検出。(出土遺物)土師器小片が出土した。(時期)検出された層位から、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。切り合い関係からSG56河川跡よりも古いと見なされる。

ST 94 竪穴住居跡 (第21・55・57図、写真図版23)

ST 94 竪穴住居跡は、調査区中央のX10 - Y14・15、X11 - Y14・15、X12 - Y14に位置する。古墳時代遺構検出面の上層で検出したが、床面が明確でなく検出に困難をきたしたため、部分的に確認したのみである。調査時の名称はST8。(平面形)北コーナーのみ検出したが、隅丸方形になると推定される。なお残存した壁面から推測した北を基準とした主軸方向はN - 30° - Eにある。(堆積土)検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面)未検出。(床面)平坦で、硬化面は認められなかったが、黒褐色シルト質土(1層)を床面に貼っていたと考えられる。(柱穴)未検出。(壁溝)未検出。(炉跡)住居跡の中央付近に焼土と炭化物の集中が見られることから、炉跡であったと考えられる。(出土遺物)床面から古墳時代の土師器甕(第55図1)、

高坏(第55図2)、擦痕のある石製品(第57図3)が出土した。(時期)出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。

ST 101 竪穴住居跡 (第22・55図)

ST 101 竪穴住居跡は、調査区中央の西端のX13 - Y11・12、X14 - Y12に位置する。住居の東側半分を検出したのみで、西側は調査区域外となる。奈良・平安時代の住居跡であるが、古墳時代の遺構面で検出したため、床面のみ検出した。住居の中央には攪乱が認められた。調査時の名称はST7。(平面形)南東軸が3.2mを測り、方形の住居跡と推定される。カマドの位置が明確でないことから、北を基準とした主軸方向はN - 50° - Eにある。(堆積土)検出面が床面であったが、土層断面図から覆土の層厚が30cmを測り、黒褐色シルト質土が凹レンズ状に堆積する。(壁面)未検出であるが、土層断面図から、壁高は20cmを測り、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。(床面)床面にはやや締まりを欠く黒褐色シルト質土が貼られていた。(柱穴)住居内からピットは検出されていないが、南東壁に沿って、直径25 - 30cm、深さ7 - 20cmのピット2基(SP159・160)を検出した。ST 101 竪穴住居跡に付随したピットの可能性が考えられる。(壁溝)未検出。(カマド)カマドは検出されていないが、住居の中央付近に焼土の集中が認められた。(出土遺物)土層断面の覆土から、土師器甕(第55図3)、須恵器坏(第55図4)が出土した。(時期)出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

ST 161 竪穴住居跡 (第23 - 27・55・57図、写真図版6・23・24)

ST 161 竪穴住居跡は、調査区北側のX11 - Y16、X12 - Y15・16、X13 - Y16に位置する。南西にST 94 竪穴住居跡とSX100性格不明遺構が近接し、住居の北東壁から南西壁にかけてSD96溝跡が切っている。また住居の東コーナーを須川の旧河道(SG1河川跡)が切っている。調査時の名称はST9。(平面形)5m四方の隅丸方形で、東コーナーは旧河道に切られ明確でない。北を基準とした主軸方向はN - 50° - Eにある。(堆積土)覆土の層厚は10cmを測り、暗褐色シルト質土が堆積する。(壁面)壁面は東コーナー付近のみで検出され、壁高は5cmを測る。(床面)平坦で、ほぼ全面に硬化面が認められた。(柱穴)住居内から5基のピット

が検出されたが、その内P 1～4が柱穴に相当し、いずれも深さは30～40cmを測る。(壁溝)未検出。(炉跡)住居中央の西寄りに地床炉が構築され、その周囲には炭化物の広がり認められた。(出土遺物)床面の炉の周囲から古墳時代の土師器甕(第55図9)、ミニチュア(第55図7)、砥石(第57図2)、南コーナー付近の床面から、土師器甕(第55図6・8)、砥石(第57図3)が出土した。(時期)出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。切り合い関係からSD 96溝跡とSG 1河川跡よりも古いと見なされる。

ST 18 竪穴住居跡 (第27図、写真図版3)

ST 18 竪穴住居跡は、調査区南側のX 6 - Y 9・10、X 7 - Y 9・10に位置する。西側がST 19 竪穴住居跡に切られており、ST 19 竪穴住居跡の調査後に検出された。調査時の名称はST 10。(平面形)南北軸4.0～4.2m、東西軸3.7～4.2mの方形で、北を基準とした主軸方向はN - 38° - Eにある。(堆積土)覆土の層厚は15cmを測り、暗褐色・黒褐色シルト質土が堆積する。なおST 19 竪穴住居跡に切られた部分は貼床面となっており、堆積土は明確でない。(壁面)壁高は15cmを測り、ST 19 竪穴住居跡に切られた部分の壁高は5cm程度である。(床面)平坦で、褐色シルト質土が貼られている。ST 19 竪穴住居跡床面よりも5cm程度低くなる。(柱穴)未検出。(壁溝)未検出。(炉跡)南東壁付近に炭化物の集中が認められたことから、地床炉の可能性が考えられる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)出土遺物がなく時期の特定は困難であるが、切り合い関係からST 19 竪穴住居跡よりも古く、古墳時代前期の住居跡と考えられる。

4 第3次調査の河川跡

SG 56 河川跡 (第28～33・56図、写真図版4)

SG 56 河川跡は、調査区中央を北西 - 南東方向に横断した旧河道で、X 8 - Y 14・15、X 9 - Y 14・15、X 10 - Y 11～14、X 11 - Y 10～13、X 12 - Y 11に位置する。第1次調査ではSG 100と呼称したが、範囲を確認したのみで、第3次調査で掘り下げを実施した。

調査区の西側では幅1m、検出面からの深さ1.25mで、断面形態はV字形を呈するが、東側では幅が2.4mに広がり、深くなっており、湧水が顕著であったため、

1m掘り下げて調査を終了した。古墳時代の住居跡(ST 49 竪穴住居跡)と奈良・平安時代の住居跡(ST 86 竪穴住居跡)を切っており、SK 89土坑に切られている。切り合い関係から、奈良・平安時代以降の河道と見られており、調査区の東側で須川と推定される旧河道(SG 1 河川跡)に合流する。調査区の西側では、黒褐色シルト質土が凹レンズ状に堆積する(第29図)が、東側では薄いシルト質土が凹レンズ状に堆積しており、細かく分層されている(第30～33図)。堆積土からは、古墳時代の土師器甕(第56図2)や奈良・平安時代の須恵器・土師器の破片が出土した。

5 第3次調査の土坑

SK 70 土坑 (第34図)

SK 70 土坑は、調査区中央のX 9 - Y 10に位置する。古墳時代遺構面の層で検出され、調査時の名称はSK 1。長軸130cm、短軸90cmの楕円形の土坑で、遺構検出面からの深さは20cmを測り、覆土は黒褐色シルト質土が堆積する。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。

SK 44 土坑 (第34図)

SK 44 土坑は、調査区中央のX 8 - Y 12に位置し、東にSK 45土坑、北にST 49 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はSK 2。直径80cmの円形の土坑で、遺構検出面からの深さは25cmを測り、黄灰色シルト質土が堆積する。底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。

SK 45 土坑 (第34図)

SK 45 土坑は、調査区中央のX 8 - Y 12に位置し、西にSK 44土坑、北にST 49 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はSK 3。直径70cmの円形の土坑で、遺構検出面からの深さは20～25cmを測り、灰褐色シルト質土が堆積する。底面はやや傾斜し、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。

SK 24 土坑 (第34図)

SK 24 土坑は、調査区中央のX 7 - Y 11・12、X 8 - Y 11・12に位置し、北にSK 44・45土坑が近接する。

調査時の名称はS K 4。長軸 180 cm、短軸 75 cmの楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 82° - Eにある。遺構検出面からの深さは 25 cmを測り、黒褐色シルト質土が堆積する。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 土師器小片が出土した。(時期) 検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。

S K 57 土坑 (第 34 図)

S K 57 土坑は、調査区中央のX 8 - Y 14に位置し、東側はS G 56 河川跡に切られている。調査時の名称はS K 5。残存長軸 180 cm、短軸 110 cmの土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 85° - Wにある。遺構検出面からの深さは 10 cmを測り、黒褐色シルト質土が堆積する。底面はやや起伏を有し、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 土師器小片が出土した。(時期) 検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。切り合い関係から、本土坑がS G 56 河川跡よりも古いと見なされる。

S K 99 土坑 (第 34・56 図)

S K 99 土坑は、調査区中央のX 12 - Y 12に位置し、北にS T 101 竪穴住居跡、南にS G 56 河川跡が近接する。古墳時代遺構面の上層で検出され、調査時の名称はS K 6。一辺 130 ~ 140 cmの不整形の土坑で、遺構検出面からの深さは 20 cmを測り、黒褐色シルト質土が堆積する。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 覆土から土師器高坏(第 56 図3)が出土した。(時期) 出土遺物から、古墳時代前期の所産と考えられる。

S K 88 土坑 (第 35 図)

S K 88 土坑は、調査区中央のX 11 - Y 12に位置し、南西側がS G 56 河川跡に接している。古墳時代遺構面の上層で検出され、その直下にはS K 155 土坑が位置している。調査時の名称はS K 7。長軸 200 cm、短軸 160 cmの8字形の土坑で、遺構検出面からの深さは、10 ~ 15 cmを測り、黒色・黒褐色シルト質土が堆積する。底面はやや起伏を有し、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物) 土師器小片が出土した。(時期) 検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。S G 56 河川跡との新旧関係は明確でないが本土坑の方が古く、S K 155 土坑よりも新しいと見なされる。

S K 155 土坑 (第 35 図)

S K 155 土坑は、調査区中央のX 11 - Y 12に位置し、南西にS G 56 河川跡が近接し、北東側はS P 156

(調査時名称S P 69)に切られている。古墳時代以降検出面の下層で検出され、直上にS K 155 土坑が位置している。調査時の名称はS K 10。長軸 120 cm、短軸 60 cmの隅丸長方形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 45° - Eにある。遺構検出面からの深さは 15 cmを測り、黒褐色シルト質土が堆積する。底面は丸底で、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物) 土師器小片が出土した。(時期) 検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。S G 56 河川跡との新旧関係は明確でないが、S K 88 土坑よりも古いと見なされる。

S K 131 土坑 (第 35 図)

S K 131 土坑は、調査区北端のX 18 - Y 16・17に位置し、北西S P 132が接している。古墳時代遺構検出面の上層で検出され、調査時の名称はS K 8。長軸 90 cm、短軸 50 cmの楕円形の土坑で、遺構検出面からの深さは 20 cmを測り、にぶい黄褐色シルト質土が堆積する。底面は丸底で、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 検出した層位から、古墳時代の所産と考えられる。

S K 163 土坑 (第 35・56 図、写真図版 5)

S K 163 土坑は、調査区北側のX 15 - Y 17、X 16 - Y 17に位置し、西にS K 162 土坑、北にX 16 - Y 17 遺物集中地点が近接する。調査時の名称はS K 11。直径 140 cmの円形の土坑で、遺構検出面からの深さは 10 cmを測り、黒褐色シルト質土やにぶい黄褐色シルト質土が凹レンズ状に堆積する。底面は丸底で、壁は緩く立ち上がる。覆土には炭化材や焼土粒が多く含まれており、火を使用した痕跡が認められた。覆土から出土した炭化材 2 点について、放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施したところ、いずれも $1,870 \pm 30\text{yrBP}$ の測定値が得られている。なお試料とした炭化材の樹種はオニグルミとトネリコ属と同定されている(第V章)。(出土遺物) 覆土から土師器甕(第 56 図5)が出土した。(時期) 出土遺物や検出した層位から、古墳時代前期の所産と考えられる。

S K 116 土坑 (第 35・56 図、写真図版 5)

S K 116 土坑は、調査区北側のX 14 - Y 17に位置する。畑跡と思われる並行した溝跡間にあり、西にS G 1 河川跡が近接する。調査時の名称はS K 9。直径 100 cmの円形の土坑の南北にピットが接しており、遺構検出面

からの深さは40cmを測り、焼土を多量に含むシルト質土が堆積する。底面は丸底だが起伏を有し、壁は緩く立ち上がる。覆土には炭化材や焼土粒が多く含まれており、火を使用した痕跡が認められた。覆土から出土した炭化材1点について、放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施したところ、 $1,830 \pm 30$ yrBPの測定値が得られている。なお試料とした炭化材の樹種はエノキ属と同定されている(第V章)。(出土遺物)覆土から土師器甕(第56図4)が出土した。(時期)出土遺物や検出した層位から、古墳時代前期の所産と考えられる。

S K 162 土坑 (第35図、写真図版5)

S K 162 土坑は、調査区北側のX 15 - Y 16、X 16 - Y 16に位置し、東にS K 163 土坑が近接する。調査時の名称はS K 12。直径120 ~ 130 cmの円形の土坑で、遺構検出面からの深さは10 cmを測り、焼土を多く含むシルト質土が堆積する。底面は起伏を有し、壁は外傾して立ち上がる。覆土には炭化材や焼土粒が多く含まれており、火を使用した痕跡が認められた。覆土から出土した炭化材2点について、放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施したところ、 $1,740 \pm 30$ yrBPと $1,790 \pm 30$ yrBPの測定値が得られている。なお試料とした炭化材の樹種はキハダとオニグルミと同定されている(第V章)。(出土遺物)覆土から土師器小片が出土した。(時期)検出した層位から、古墳時代前期の所産と考えられる。

S K 89 土坑 (第36図)

S K 89 土坑は、調査区中央のX 10・11 - Y 13に位置し、S G 56 河川跡を切って構築されている。調査時の名称はS K 13。直径100 ~ 110 cmの円形の土坑で、東側半分は土層観察用のベルトになっており、未調査である。遺構検出面からの深さは45 cmを測り、黒褐色シルト質土が凹レンズ状に堆積する。底面は丸底で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)出土遺物がなく時期の特定は困難であるが、切り合い関係から、奈良・平安時代以降の所産と見なされる。

S K 149 土坑 (第36図)

S K 149 土坑は、調査区中央のX 9・10 - Y 11に位置し、古墳時代遺構検出面の下層から検出された。調査時の名称はS K 14。長軸140 cm、短軸100 cmの楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 35° - Eにある。遺構検出面からの深さは25 cmで、黒褐色シルト

質土が凹レンズ状に堆積する。底面はやや起伏を有し、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物)土師器小片が出土した。(時期)出土遺物と検出した層位から、古墳時代前期の所産と考えられる。

S K 144 土坑 (第36図)

S K 144 土坑は、調査区中央のX 9 - Y 10に位置し、古墳時代遺構検出面の下層から検出された。調査時の名称はS K 15。直径70 ~ 80 cmの略円形の土坑で、中央を畑跡と思われる溝状遺構に切られている。遺構検出面からの深さは5 cm程度で、黒褐色シルト質土が堆積する。底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)検出した層位から、古墳時代前期の所産と考えられる。切り合い関係から、古墳時代の畑跡よりも古いと見なされる。

S K 138 土坑 (第36図)

S K 138 土坑は、調査区中央のX 8 - Y 10・11に位置し、古墳時代遺構検出面の下層から検出された。調査時名称はS K 16。直径80 cmの円形の土坑で、遺構検出面からの深さは5 cm程度で、灰褐色シルト質土が堆積し、焼土と炭化物を含む。底面は多少起伏を有し、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)検出した層位から、古墳時代前期の所産と考えられる。

6 第3次調査のその他の遺構

S X 100 性格不明遺構 (第36・56図、写真図版5)

S X 100 性格不明遺構は、調査区中央のX 12 - Y 14・15に位置する。調査時名称はS X 1。直径270 cmの円形で、底面中央にも直径60 cmのピットが存する。遺構検出面からの深さは60 ~ 70 cmで、中央は90 cmを測り、覆土は凹レンズ状に堆積する。底面は起伏を有し、壁は外傾して立ち上がり、壁面や底面には酸化鉄が付着しており、赤化が顕著に認められる。当初形状から井戸跡と判断して調査したが、湧水は見られず遺構の性格は判然としない。(出土遺物)覆土上位から須恵器坏(第56図6)、中位から須恵器甕の破片が出土した。(時期)出土遺物から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

7 古墳時代の遺物集中地点

第3次調査では、遺構を伴わない古墳時代土師器の集中的な出土状況が認められた。S T 16 竪穴住居跡とS

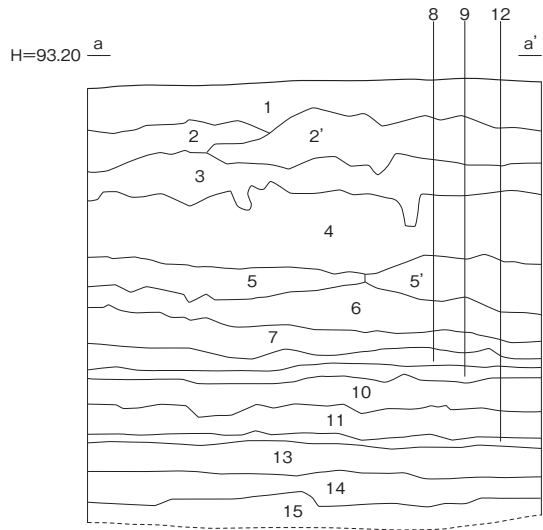
T 19 竪穴住居跡の間の微高地にも見られた（第42図）が、多く出土したのは調査区西側の住居域よりも低い場所で、周囲からは畑跡と思われる並行した溝跡が検出されている（第45・46図）。

土師器の出土状況から、当初は土坑等の遺構の存在を想定した。しかし周囲を精査したにもかかわらず、掘り方は確認できなかった。周囲からは焼土や炭化材も随所で認められ、火を使用した行為が繰り返されていたと考えたが、最終的には遺構を伴わずに土師器が遺棄されたものと判断した。

特にX 16 - Y 17では、70 cm四方の範囲で小型の甕・壺が19点出土した（第37～39図）。その内訳は、小型甕9点（第66図9、第67図1・2・4・6・14・16・17、第68図1）、小型鉢10点（第67図3・5・7～13・15）で、黒褐色シルト質土から出土した（第39図）。出土状況は正位・倒立・横位のそれぞれが存しており、意図的に配列されたと考えられる。また1.8m西方でも、土師器甕（第68図3）、壺（第68図4・5）がまとまって出土した。

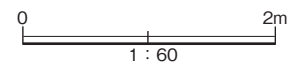
これらの土師器の周囲には、S K 162土坑やS K 163土坑が存している。いずれも覆土に焼土粒・炭化材を含んでおり、火を使用した痕跡が認められる。これらの土器の周りで、火を使用した儀礼等が執り行われた可能性があり、土師器の集中的な出土状況は祭祀等の営為の結果に関連したと考えられる。

なお第3次調査で出土した遺構を伴わない古墳時代の土師器のほとんどは、4世紀代に位置付けられる。

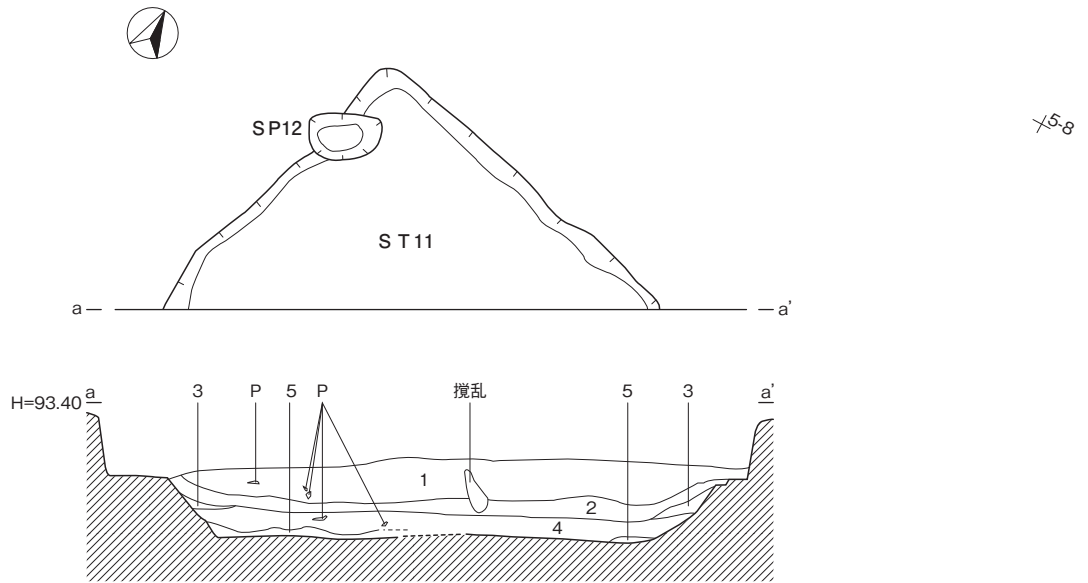


基本層序 a-a'

- | | | |
|--------------|-----------|--|
| 1. 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 縮まりを有す。表土で、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 縮まりを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む、平安時代の土器を包含する。 |
| 2'. 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 縮まりを有す。二次堆積土で、5mm～1cm大の粘土ブロックを多量に含む。 |
| 3. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 縮まりを有す。5mm大の暗褐色シルトブロックを多く含む、部分的にシルト質土が多く混じる。奈良・平安時代の包含層に相当する。 |
| 4. 7.5YR4/3 | 褐色シルト質土 | 縮まりを有し、粘性を欠く。黒褐色粘質土のブロックが所々存するが、根の混入と思われる。 |
| 5. 7.5YR4/3 | 褐色シルト質土 | 縮まりを有し、粘性を欠く。色調は4よりもやや暗い。5mm大の粘土ブロックを少々含む。 |
| 5'. 10YR3/3 | 暗褐色シルト質土 | やや縮まりを有す。5mm大の粘土粒をやや多く含む。5よりも色調がやや暗く、5mm大の黒褐色粘質土ブロックがやや多く認められる。 |
| 6. 10YR3/3 | 暗褐色シルト質土 | やや縮まりを有し、やや粘性を有する。5・5'に比べ、色調がやや暗い。 |
| 7. 10YR3/3 | 暗褐色シルト質土 | やや縮まりを有し、やや粘性を有する。2mm～5mm大のシルト質ブロックをやや多く含む。6に比べ色調がやや暗い。 |
| 8. 10YR3/3 | 暗褐色シルト質土 | やや縮まりを有し、粘性を有する。2mm大の粘土粒をやや多く含む。7に比べ、粘性を有する。 |
| 9. 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや縮まりを欠く。低位部に見られる鍵層で、暗褐色シルト質土が部分的に混じる。 |
| 10. 10YR3/3 | 暗褐色シルト質土 | やや縮まりを有し、粘性を有する。2mm～5mm大の粘土粒をわずかに含む、微細な炭化粒を少々含む。 |
| 11. 10YR3/3 | 暗褐色シルト質土 | 8に比べ、色調がやや暗い。 |
| 11. 10YR3/3 | 暗褐色シルト質土 | やや縮まりを欠き、粘性を有する。古墳時代前期の包含層で、5mm～2cm大の黒褐色粘質土ブロックを少々含む。砂粒の粒子が10よりもやや粗く、色調はやや明るい。微細な炭化粒を少々含む。 |
| 12. 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや縮まりを欠く。暗褐色シルト質土が多く混じる。 |
| 13. 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや縮まりを欠く。黄色→黒色→黄色→黒色→黄色→黒色の互層からなるが、最初の黄・黒色土層は薄く、不鮮明となる箇所もある。黒色土よりも黄色粘土の層厚の方が厚く、黒色土層には炭化物が多く含まれる。鍵層となっており、掘り下げ面は13を5～10cm程度掘り下げた所で終了した。 |
| 14. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮まりを欠く。2mm大の粘土粒・炭化粒を少々含む。 |
| 15. 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 縮まりを欠く。5mm～1cm大の黒色粘質土ブロックをやや多く含む。削平面はボソボソとした感を呈し、酸化鉄が多く認められる。 |

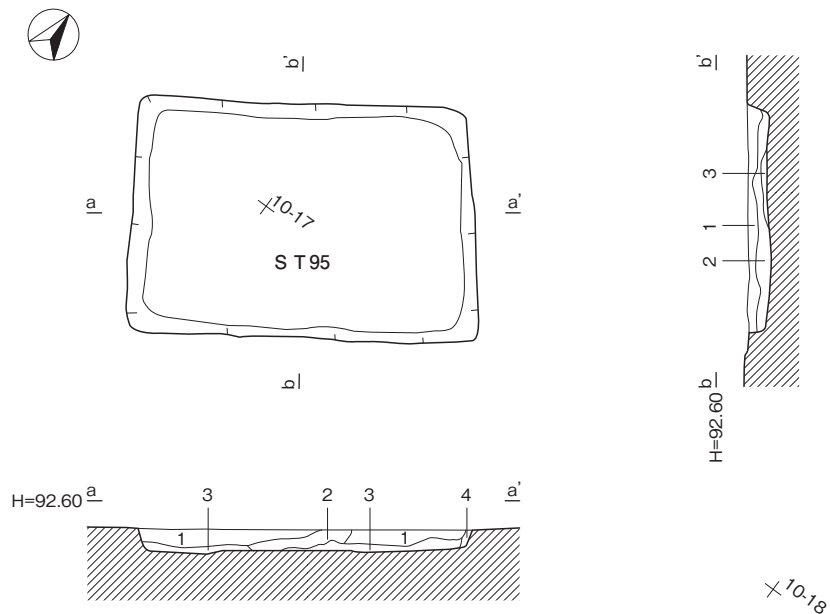


第13図 第3次調査基本層序



ST11 a-a'

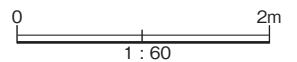
- | | | | |
|-------------|--------|------------|---------------------------------------|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりの強い砂質土 | 0.1~0.3cm角の風化礫を微量含む。ブロック状に黄褐色土の粘土粒混入。 |
| 2. 7.5YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりの強い砂質土 | 0.2cm角の風化礫を微量含む。1層よりも粘土粒少なく、炭化物少量混入。 |
| 3. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりある砂質土 | 住居壁面の崩落による堆積のため、地山土と2層が混在。 |
| 4. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりのある砂質土 | 0.1cm角の風化礫を含み、ブロック状に粘土粒堆積。炭化物微量混入。 |
| 5. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりやや弱い粘質土 | 砂粒を多く含む。 |



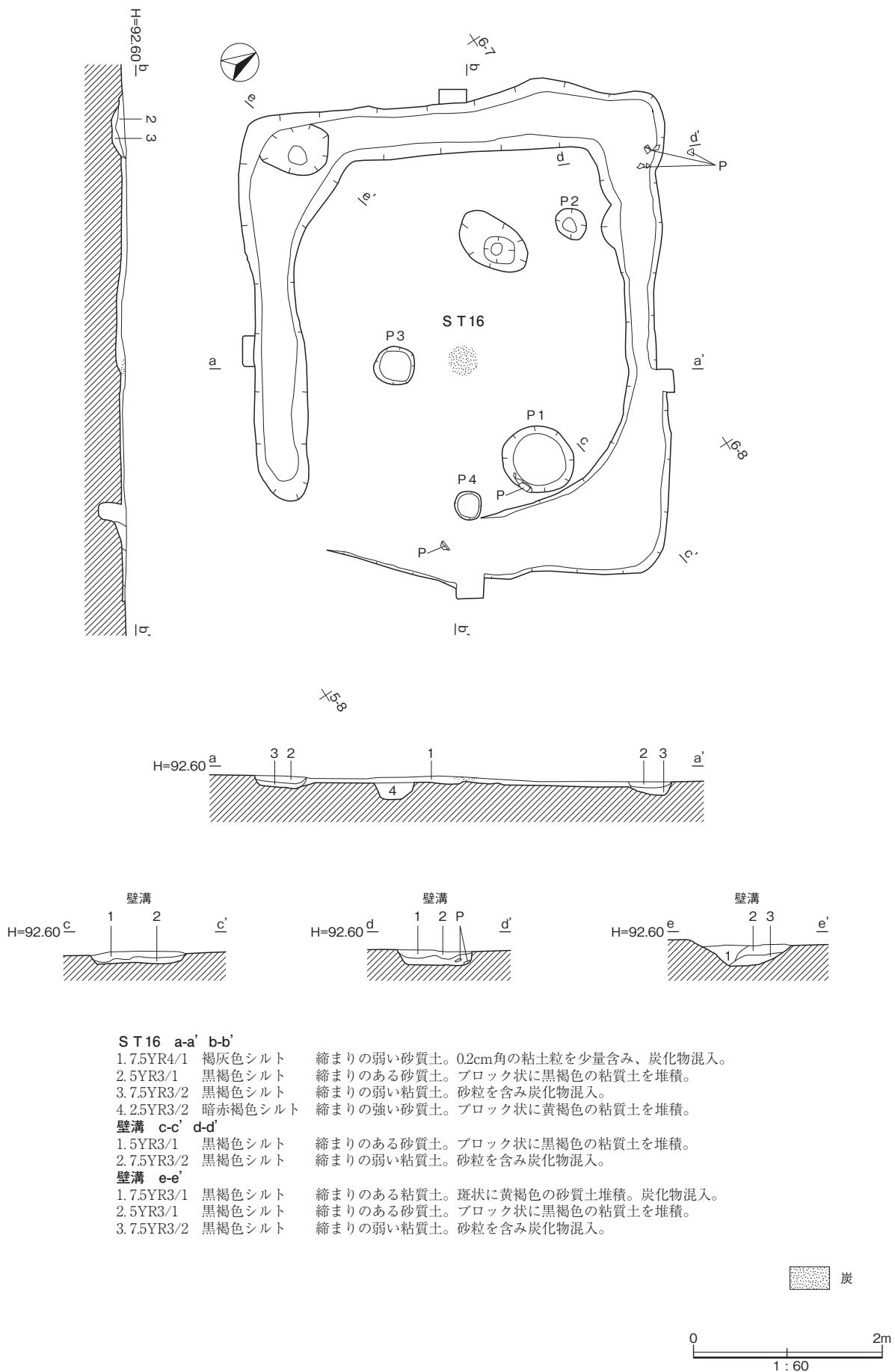
ST95 a-a' b-b'

- | | | |
|-------------|--------|---|
| 1. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で5mm~2cm大の粘土ブロックを少々含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土であるが1よりも粘性を有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを1よりも多く含む。 |
| 3. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土に粘性を有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。1よりもわずかに色調が明るい。 |
| 4. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で粘土が混じらず、粘性に劣る。 |

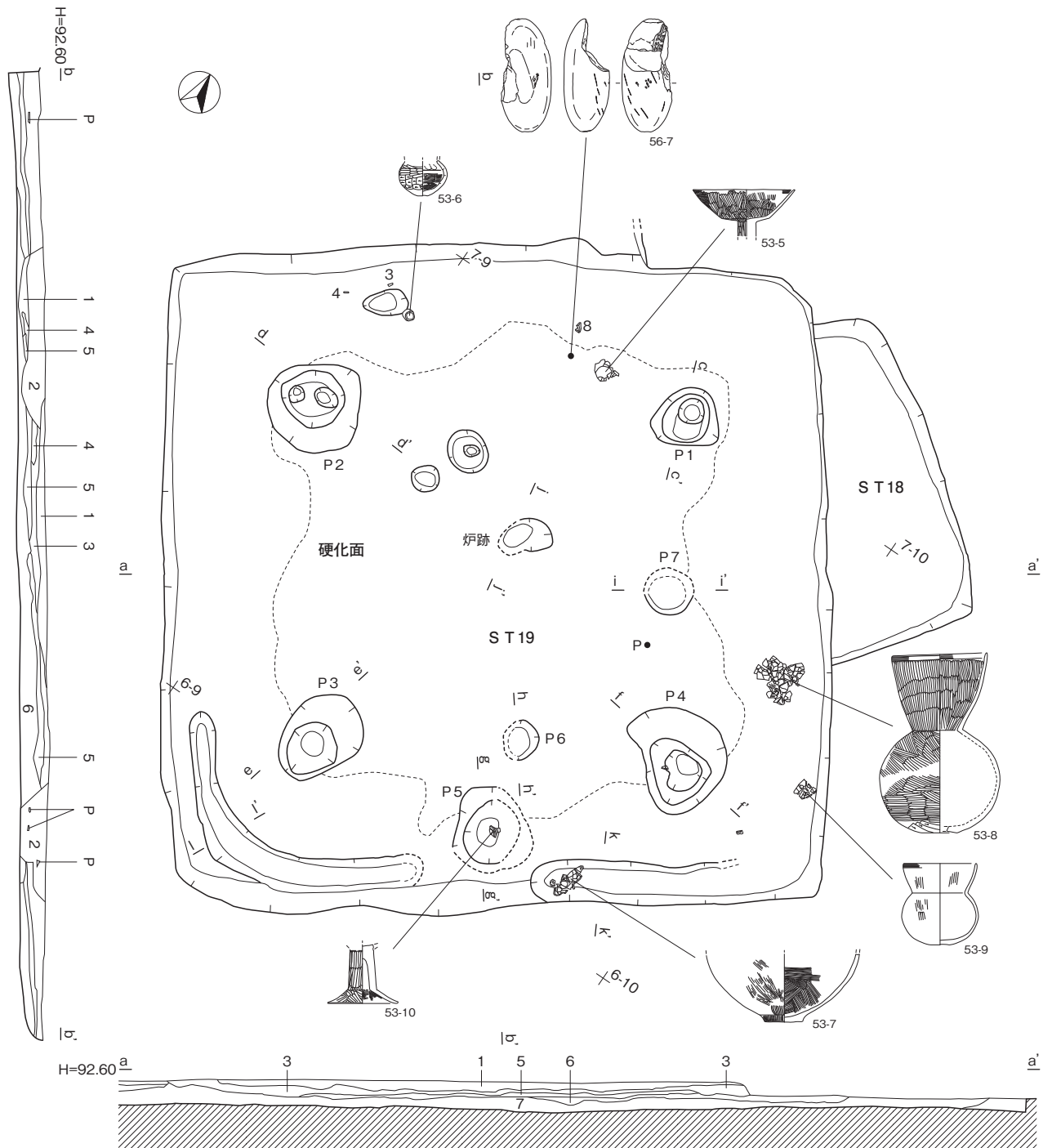
※掘り下げ途中、覆土上位からビニールが出土した。検出時、方形の掘り込みが明瞭に観察されており比較的新しい遺構と考えられる。



第14図 ST11・ST95 実測図



第15図 ST16実測図

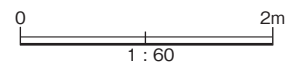


ST19 a-a'

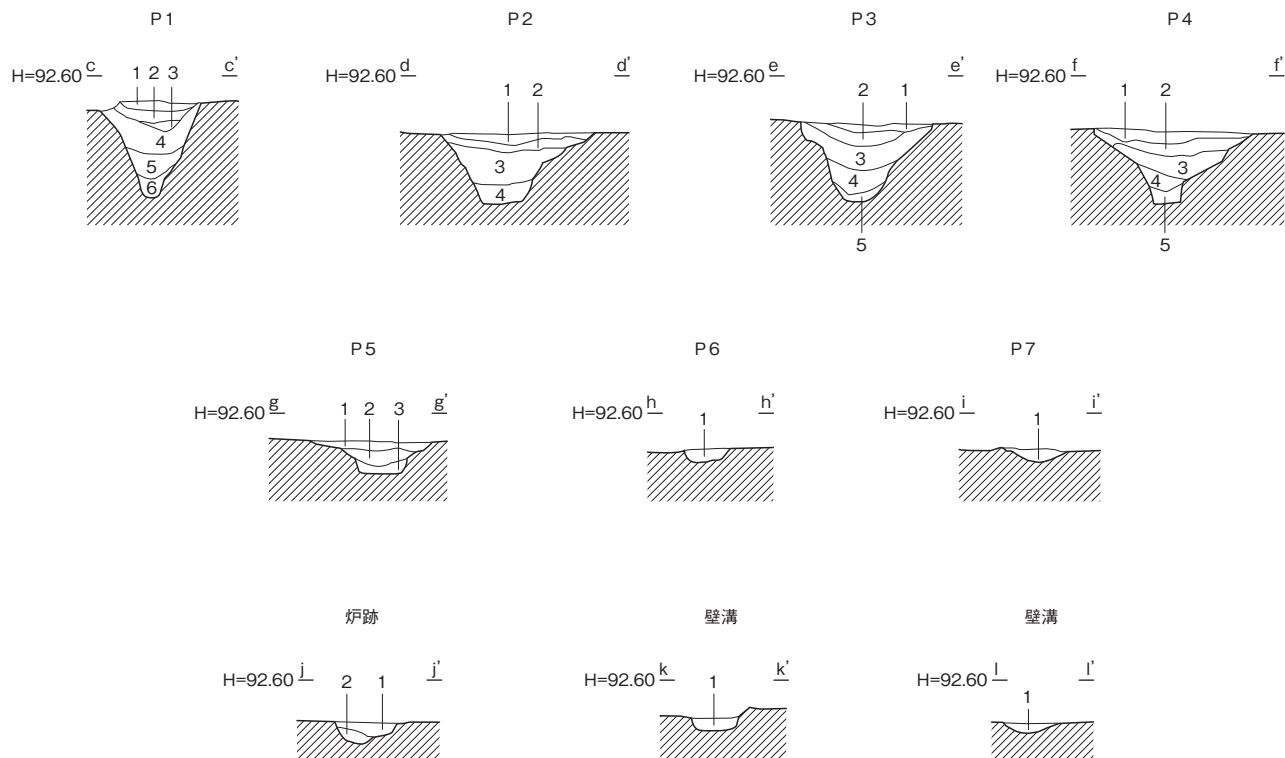
- | | | |
|-------------|-----------|--------------------------------|
| 1. 10YR5/3 | にぶい黄褐色シルト | 締まりの強い粘質土。砂粒を多く含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりのある砂質土。0.1~0.5cm角の粘土粒を少量含む。 |
| 3. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりのある砂質土。締まりを有し、層状に炭化層堆積。 |
| 4. 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | 締まりのある砂質土。やや粘性を有す。斑状に黒褐色土堆積。 |
| 5. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まり強い砂質土。粘性を有す。炭化物微量堆積。 |
| 6. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まり弱い砂質土。粘性を有す。ブロック状に粘土粒堆積。 |
| 7. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まり弱い砂質土。黄褐色土が層状に堆積。 |

b-b'

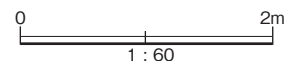
- | | | |
|-------------|-----------|----------------------------------|
| 1. 10YR5/3 | にぶい黄褐色シルト | 締まりの強い粘質土。砂粒を多く含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりのある砂質土。0.1~0.5cm大の粘土粒を少量含む。 |
| 3. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりの弱い砂質土。ブロック状に1層が堆積する。 |
| 4. N3/0 | 暗灰色シルト | 炭化物層。0.2cm大の粘土粒を含む。 |
| 5. 2.5YR5/1 | 赤灰色シルト | 貼り床層。締まりのある粘質土。砂粒を少量含み、炭化物少量混入。 |
| 6. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりのある砂質土。0.3cm大の粘土粒を含み、炭化物微量混入。 |



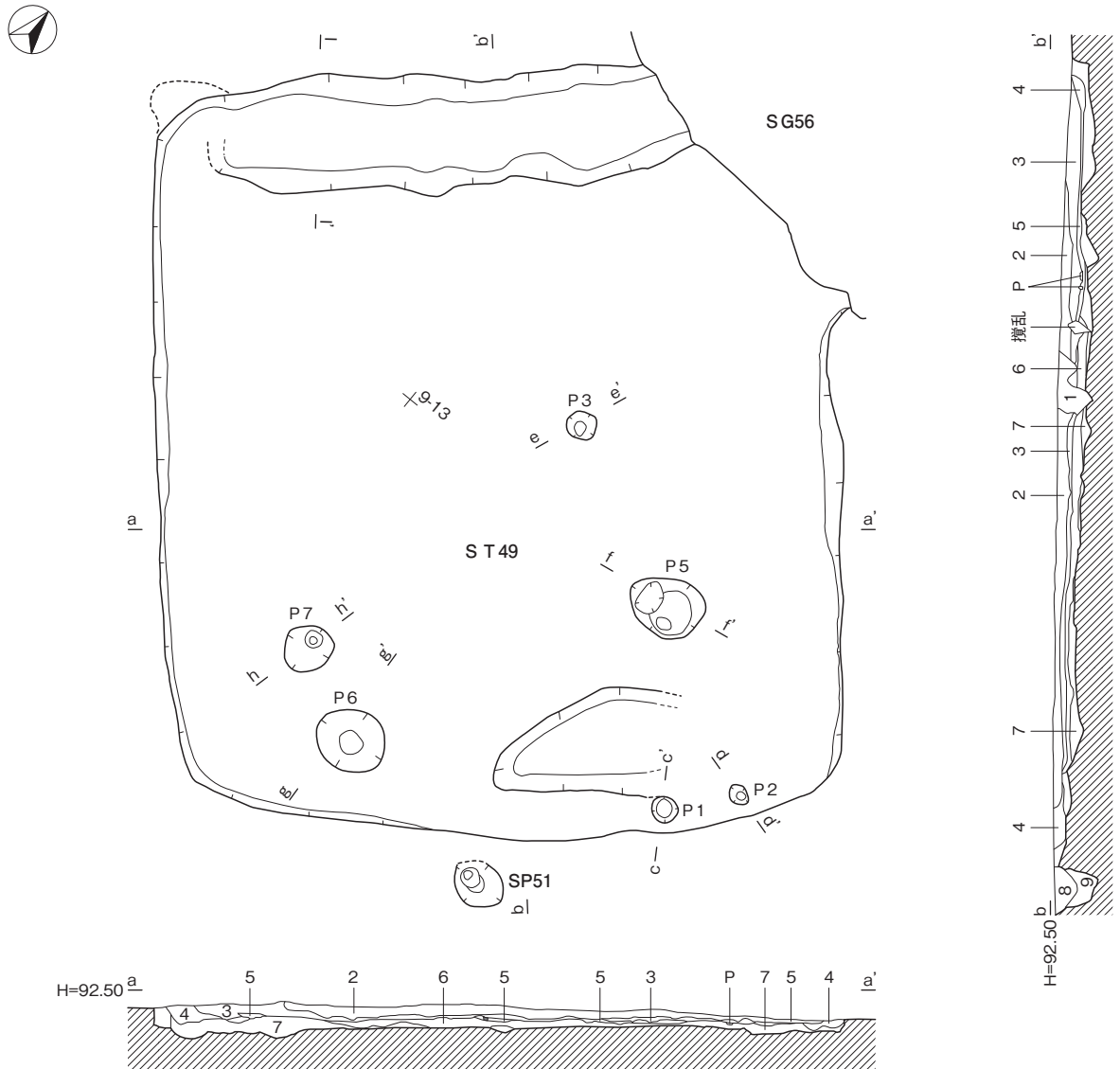
第16図 ST19 (1) 実測図



P1 c-c'	
1. 10YR4/3	にぶい黄褐色シルト
2. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
3. 7.5YR3/1	黒褐色シルト
4. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
5. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
6. 7.5YR4/3	褐色シルト
P2 d-d'	
1. 10YR4/3	にぶい黄褐色シルト
2. 5YR3/1	黒褐色シルト
3. 5YR3/1	黒褐色シルト
4. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
P3 e-e'	
1. 10YR4/3	にぶい黄褐色シルト
2. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
3. 10YR3/2	黒褐色シルト
4. 10YR3/2	黒褐色シルト
5. 7.5YR3/1	黒褐色シルト
P4 f-f'	
1. 10YR4/3	にぶい黄褐色シルト
2. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
3. 10YR3/2	黒褐色シルト
4. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
5. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
P5 g-g'	
1. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
2. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
3. 7.5YR3/1	黒褐色シルト
P6 h-h'	
1. 7.5YR4/2	灰褐色シルト
P7 i-i'	
1. 7.5YR3/1	黒褐色シルト
炉跡 j-j'	
1. 7.5YR3/2	黒褐色シルト
2. 7.5YR3/1	黒褐色シルト
壁溝 k-k' l-l'	
1. 5YR3/1	黒褐色シルト

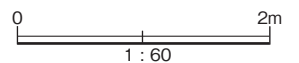


第17図 ST19 (2) 実測図

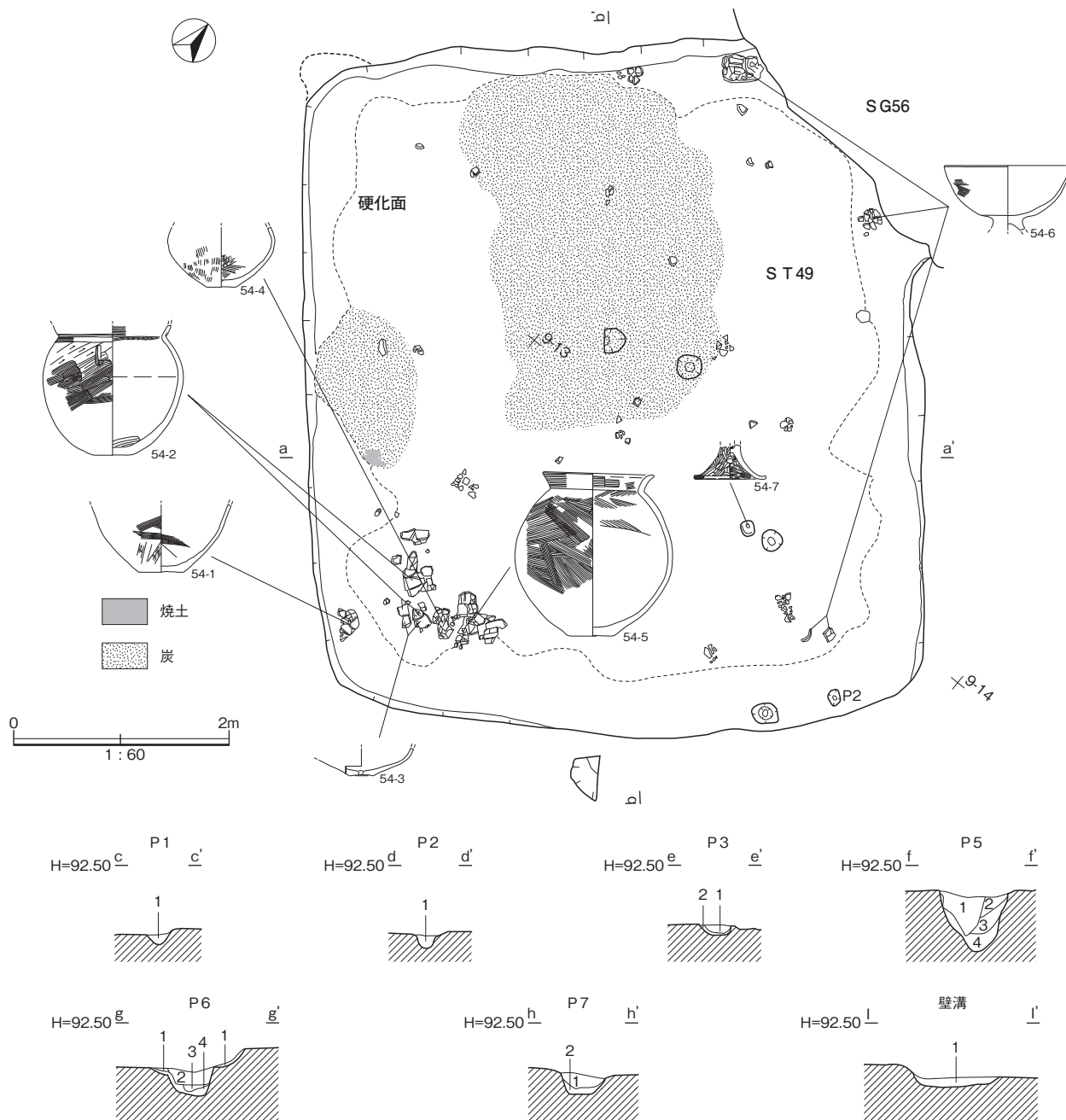


ST 5 a-a' b-b'

- | | |
|--|--|
| <p>1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>2. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>3. 7.5YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>4. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>5. N2/0 黒色シルト</p> <p>6. 7.5YR5/1 褐灰色シルト</p> <p>7. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>8. 5YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>9. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> | <p>締まりの強い砂質土。ブロック状に暗褐色の粘質土堆積。0.1~0.2cm大の粘土粒を含み、炭化物少量混入。住居埋まった後の、掘り込み（時期的に新しい可能性）。</p> <p>締まりの強い砂質土。粘性を有す。ブロック状に黄褐色の砂質土堆積。炭化物少量混入。</p> <p>締まりのある粘質土。斑状に砂質土が堆積。部分的に粘土ブロック含む。炭化物混入。</p> <p>締まりのやや強い粘質土。砂粒を多く含み、斑状に黄褐色の粘質土堆積。炭化物層。</p> <p>貼り床層。締まりの強い粘質土。細かい砂粒を含み、炭化物混入。</p> <p>締まりのやや弱い砂質土。粘性を有す。ブロック状に黄褐色の粘質土堆積。炭化物少量混入。</p> <p>やや締まりのある粘質土。粘性を有す。ブロック状に黄褐色の粘質土堆積。</p> <p>締まりのある粘質土。0.1cm大の粘土粒を少量含む。</p> |
|--|--|



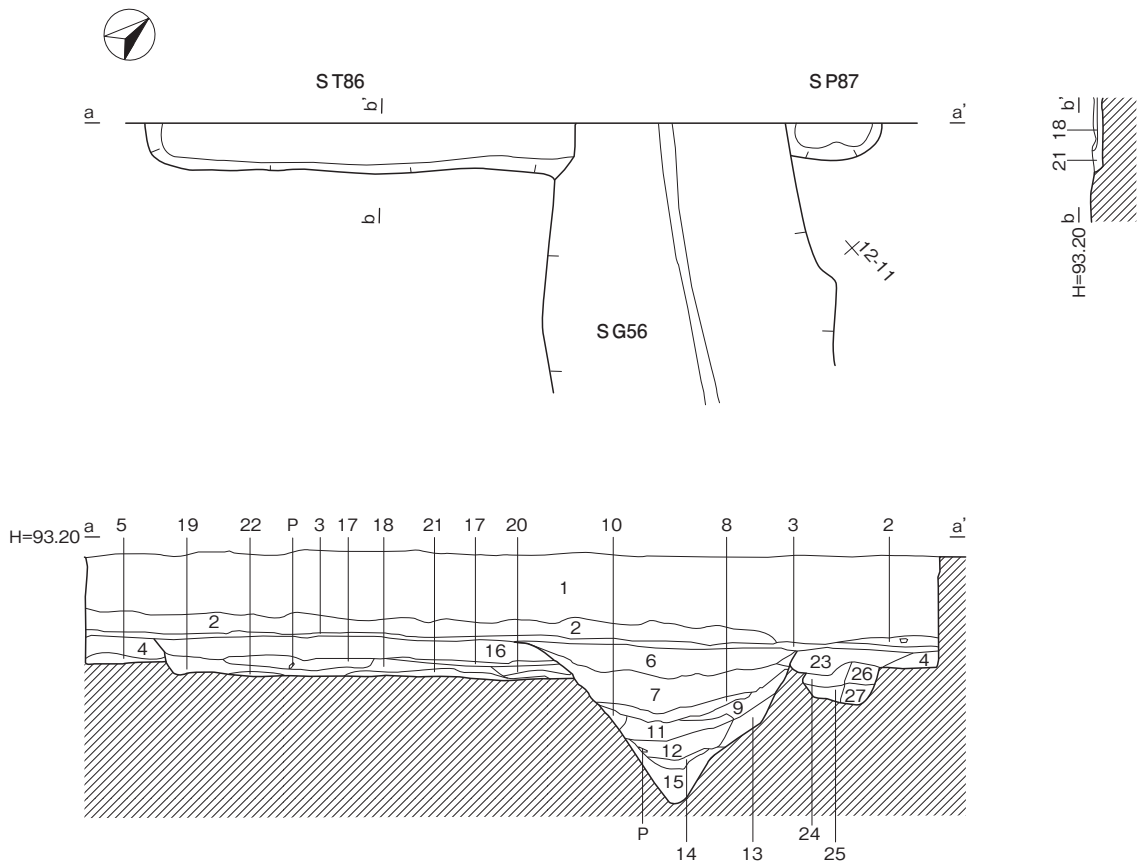
第18図 ST 49 (1) 実測図



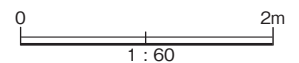
ST49

- P1**
 1. 7.5YR4/3 褐色シルト 締まりの強い粘質土。砂粒を少量含む。
- P2**
 1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりの強い粘質土。砂粒を少量含み、炭化物微量混入。
- P3**
 1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりの強い粘質土。斑状に砂質土堆積。炭化物少量混入。
 2. 7.5YR2/1 黒色シルト 炭化物層。遺構壁、底面に貼りつく。※掘り込みは、貼り床を掘り抜かない。
- P5**
 1. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりのある粘質土。ブロック状に褐色の粘質土堆積。0.2~0.5cm大の粘土粒を少量含み、炭化物少量混入。
 2. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりのある粘質土。砂粒と0.1cm大の粘土粒を少量含む。地山粒が層状に堆積。
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト 締まりのやや弱い粘質土。ブロック状の砂質土堆積。
 4. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりのやや弱い粘質土。砂粒を少量含む。
- P6**
 1. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりのある粘質土。砂粒を多く含み、炭化物混入。住居内の貼り床層と同一層。
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりのやや強い粘質土。ブロック状に黄褐色の粘質土堆積。炭化物少量混入。
 3. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりの強い粘質土。砂粒を少量含む。
 4. 7.5YR3/3 暗褐色シルト 締まりの弱い粘質土。砂粒を多く含む。酸化著しい。
- P7**
 1. 7.5YR3/3 暗褐色シルト 締まりの強い粘質土。ブロック状に白黄色の粘質土堆積。砂粒を少量含み、炭化物混入。
 2. 7.5YR2/3 極暗褐色シルト 締まりの弱い粘質土。ブロック状に白黄色の粘質土堆積。砂粒を少量含む。
- SG**
 1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりの強い粘質土。ブロック状に砂質土堆積。炭化物少量混入。

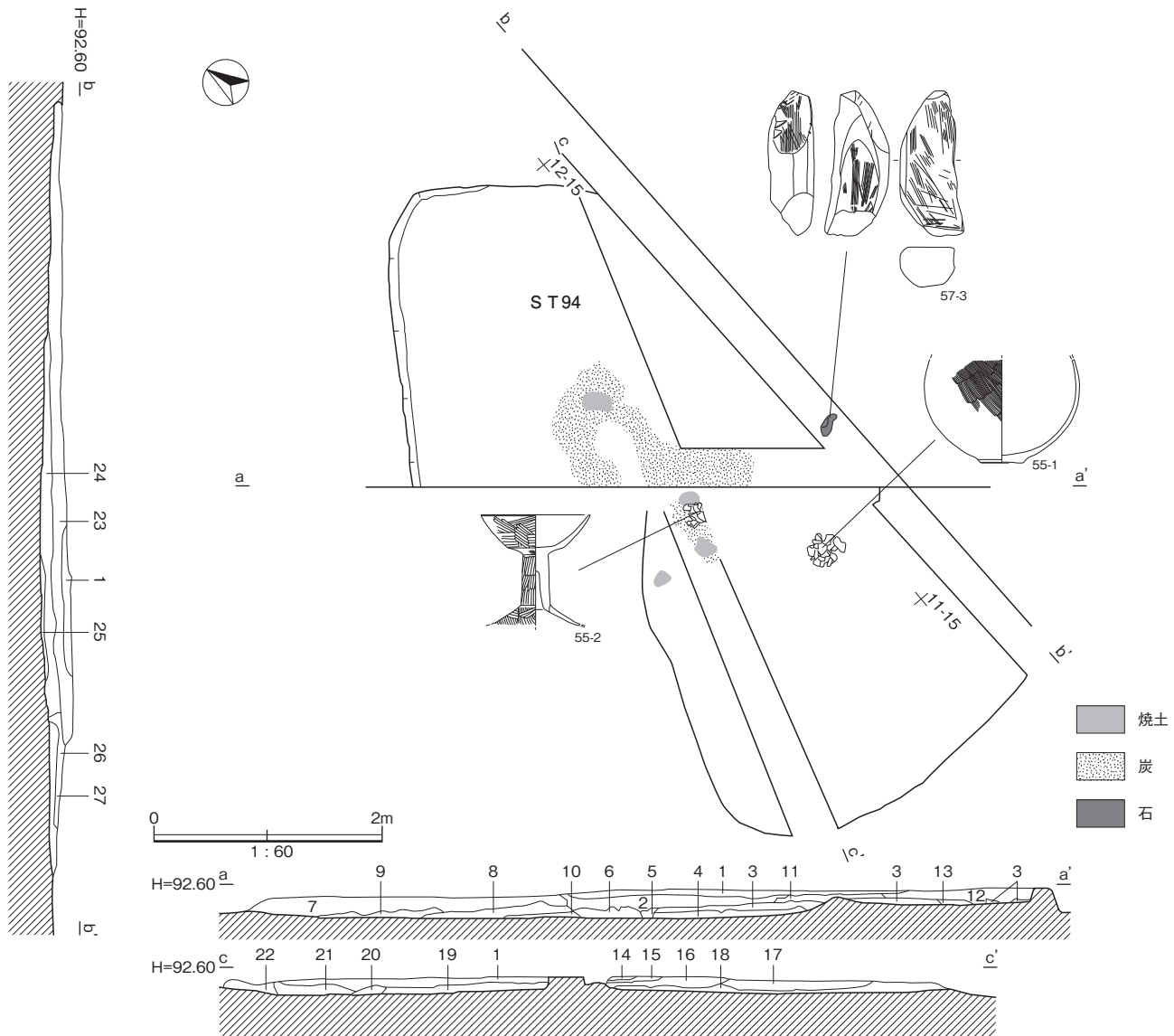
第19図 ST49 (2) 実測図



S T 86 a-a' b-b'		
S G 56	1. 10YR3/1	黒褐色シルト 締まりを有す。表土。酸化鉄を多く含み、下位は赤灰色 (2.5YR4/1) を呈する。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。
	2. 10YR3/2	黒褐色シルト 締まりを有す。シルト質土。2mm~5mm大の粘土粒を少々含み、黒褐色粘質土 (2よりも暗い) がブロック状に混じる。
	3. 10YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で縞状に堆積する。洪水時の堆積土で分層は容易である。
	4. 10YR3/4	暗褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、比較的均質な層性であり、根の混入部分が灰色と暗褐色の円形となる。
	5. 7.5YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の炭化粒をわずかに含む。
	6. 10YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で2mm~1cm大の粘土粒、ブロックを少々含む。
	7. 7.5YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で5mm~1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。
	8. 10YR4/2	灰黄褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、黒褐色粘質土 (7.5YR3/2) が少々混じる。
	9. 10YR3/2	黒褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。5mm大の粘土粒を少々含む。
	10. 7.5YR3/1	黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で2cm大の粘土ブロックを少々含む。
	11. 10YR3/4	暗褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で5mm~2cm大の粘土ブロックを多く含む。部分的に酸化鉄が認められる。
	12. 10YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で酸化鉄の混入が著しく橙色を帯びる。
	13. 7.5YR3/1	黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で5mm大の粘土粒を少々含む。
	14. 10YR3/2	黒褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。酸化鉄が少々混じる。水分を多く含有す。
	15. 7.5YR3/1	黒褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。5mm~3cm大の粘土ブロックをやや多く含み、黒褐色粘土が少々混じる。水分を多く含有し、湧水が認められる。
S T 86	16. 10YR3/2	黒褐色シルト 締まりを有す。5mm~3cm大の粘土ブロックを多く含む。下位に黒色土 (10YR2/1) が縞状に混じり下層と区分される。2mm~5mm大の焼土粒をわずかに含む。
	17. 7.5YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。2mm大の炭化粒をわずかに含む。
	18. 7.5YR3/1	黒褐色シルト 締まりを有す。粘質土で2mm~2cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。
	19. 7.5YR3/1	黒褐色シルト 締まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。周囲の層に比し黒色が強い。
ピット	20. 10YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、炭化物をわずかに含む。
	21. 10YR3/2	黒褐色シルト 締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm大の粘土粒を少々含み、酸化鉄が多く混じる。
	22. 10YR3/2	黒褐色シルト 締まりを有す。シルト質土で1cm大の粘土ブロックを少々含む。
	23. 10YR3/3	暗褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、上位には酸化鉄が混じる。
	24. 7.5YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。
	25. 10YR3/2	黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含む。24よりも黒色が強い。
	26. 7.5YR3/1	黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
	27. 7.5YR3/2	黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、暗褐色粘質土が多く混じる。



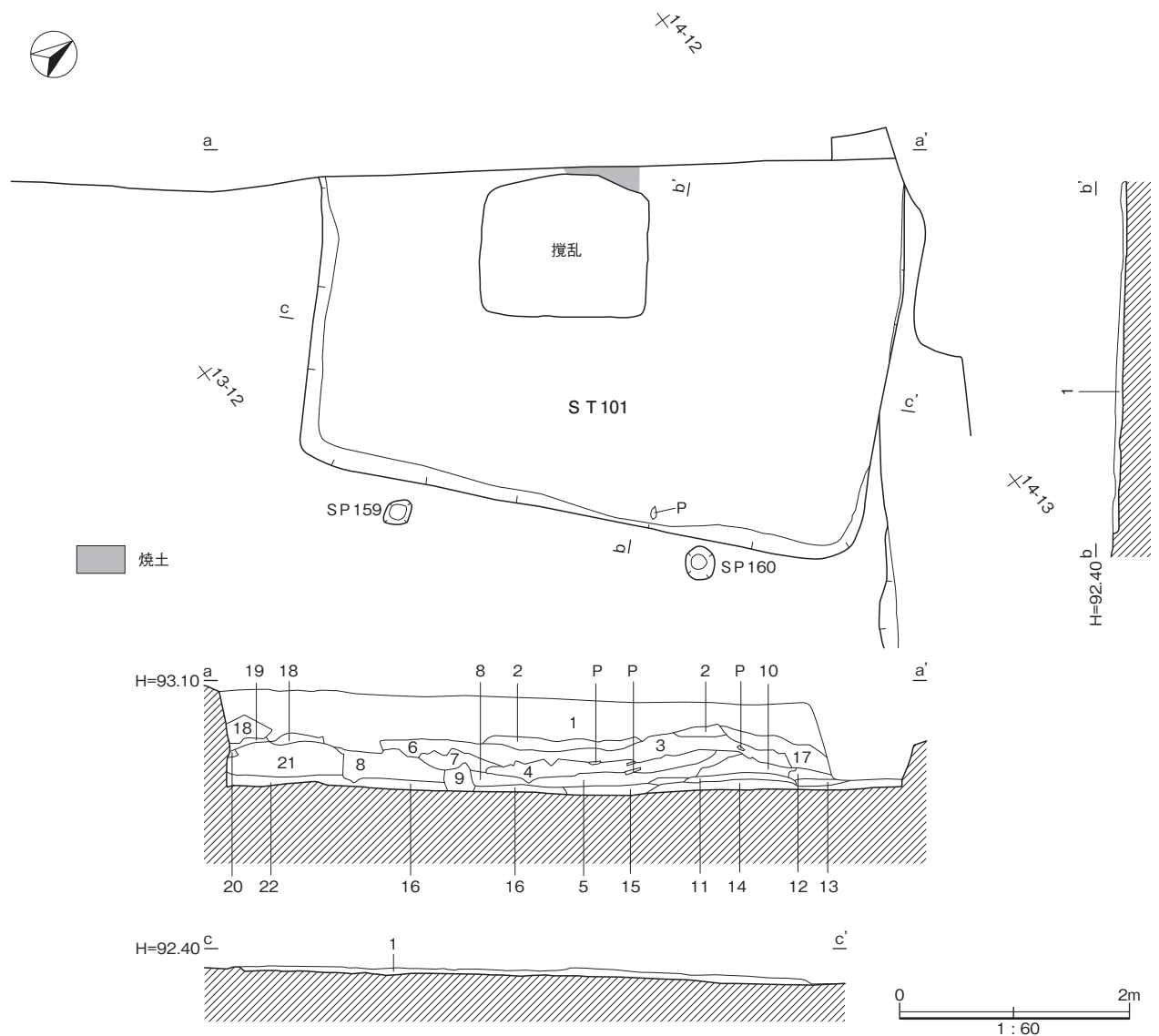
第 20 図 S T 86 実測図



ST94 a-a' b-b' c-c'

- | | |
|---|--|
| <p>1. 10YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>2. 7.5YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>3. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>4. 7.5YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>5. 7.5YR4/1 褐灰色シルト</p> <p>6. 7.5YR4/2 灰褐色シルト</p> <p>7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト</p> <p>8. 7.5YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>9. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>10. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>11. 7.5YR4/2 灰褐色シルト</p> <p>12. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>13. 10YR2/1 黒色シルト</p> <p>14. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>15. 10YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>16. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>17. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>18. 7.5YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>19. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>20. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>21. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>22. 10YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>23. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>24. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>25. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>26. 10YR4/2 灰黄褐色シルト</p> <p>27. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> | <p>縮まりを有す。粘質土でST94の床面の堆積土となる。2mm~5mm大の粘土粒を少々含み、部分的であるが下部に炭化粒の集中が帯状に認められる。</p> <p>縮まりを有す。粘質土でST94の床面直下に相当。2mm~1cm大の粘土粒やシルト質土を多く含む。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。2mm大の炭化粒を少量含む。2よりも色調がやや明るい。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で灰褐色粘土(7.5YR4/2)が上部に1cm幅で部分的に堆積する。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、黒褐色粘質土が混じる。</p> <p>やや縮まりを欠く。シルト質土で粘性を有するが、部分的に砂質土(粒子がやや粗く粘性なし)となる。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で5mm~1cm大の黒褐色粘質土がブロック状にやや多く混じる。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で8よりも色調が明るい。</p> <p>縮まりを有す。ST94の炉跡付近の層で、シルト質土となる。黒褐色が混じるが、比較的均質である。</p> <p>縮まりを有す。ST94床面直下に相当。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。</p> <p>縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。3よりも色調が暗い。</p> <p>縮まりを有す。シルト質土でST8覆土に相当。2mm大の粘土粒を多く含む。</p> <p>縮まりを有す。シルト質土でST8炉跡燃床面に相当。南側は赤褐色(5YR4/6)の焼土ブロックからなり、北側は炭化物と灰から構成される。地床炉である。</p> <p>縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。ST94床面直下に相当。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~2cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~1cm大の粘土粒、ブロックを少々含む。17に比し色調が暗く、4に相当か。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。16に相当か。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。</p> <p>やや縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。</p> <p>縮まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒を少量含む。</p> <p>縮まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。ST94床面直下に相当。</p> <p>やや縮まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。23よりも色調が暗い。</p> <p>やや縮まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。2mm~1cm大の粘土粒、ブロックを多く含む2mm大の炭化物を少々含む。</p> <p>縮まりを有す。粘質土で2mm~1cm大の粘土粒、ブロックを多く含む。</p> <p>縮まりを有す。粘質土で5mm大の粘土粒を多く含む。</p> |
|---|--|

第21図 ST94実測図



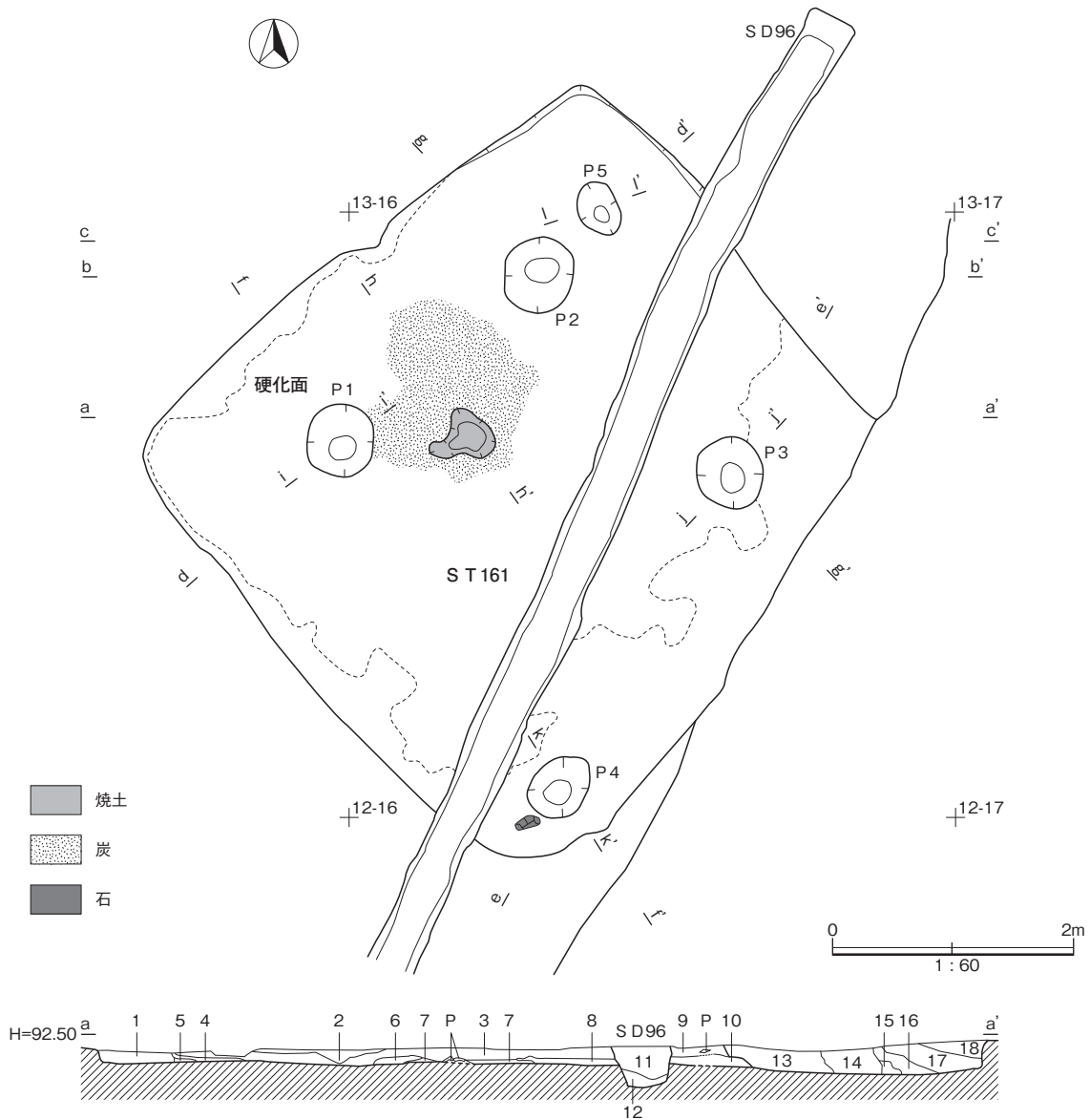
S T 101 a-a'

1. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを有す。表土で5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。
2. 7.5YR4/1 褐灰色シルト 締まりを有す。粘質土で2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。5cm大の黒褐色粘質土ブロック（3の一部）が少量混じる。1と3が攪はんされた状況にある。
3. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。2mm~1cm大の粘土粒を多く含み、北側には5mm~1cm大の焼土ブロックを多量に含む。住居埋土の最上層に相当。
4. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で5mm~2cm大の粘土ブロックを多く含み、5mm大の焼土粒を少々含む。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりを有す。5mm大の粘土粒を多く含み、1cm大の黒色粘質土ブロックや焼土ブロックをやや多く含む。
6. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含み、5mm大の炭化粒を少々含む。
7. 10YR3/4 暗褐色シルト 締まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒を少々含む。3の黒褐色土が少々混じる。
8. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。1cm大の黒褐色粘質土ブロックが少々混じる。色調は6よりもやや明るい。
9. 7.5YR4/1 褐灰色シルト やや締まりを有す。粘質土であるが、根の混入のためかボソボソしている。2mm大の粘土粒を少々含み、暗褐色土が混じる。
10. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含む。黒褐色土が多く混じる。
11. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm大の粘土粒をやや多く含む。
12. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有す。5mm大の黒褐色粘質土粒を少々含む。
13. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で5mm大の粘土粒を少々含む。
14. 7.5YR4/1 褐灰色シルト 締まりを有す。貼り床で5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。1cm大の黒褐色粘質土ブロックを少々含む。上位に灰色シルトが混じる。
15. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを有す。貼り床で1cm大の粘土ブロック、焼土ブロック、黒褐色粘質土ブロックを多く含む。
16. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを有す。貼り床でシルト質土。黒褐色土が少々混じる。
17. 7.5YR4/1 褐灰色シルト 締まりを有す。2と同類だが、黒褐色粘質土、ブロックが混じらない。表土の一種。
18. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を多く含む。
19. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。黒褐色が少々混じる。
20. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。黒褐色土が多く混じる。
21. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。比較的均質だが、下位に1cm大の黒褐色粘質土ブロックを少々含む。
22. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。21よりも色調が明るい。均質な層。

b-b' c-c'

1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。住居貼り床で、黒褐色粘質土ブロックをやや多く含む。部分的に焼土粒や粘土粒を多く含む。

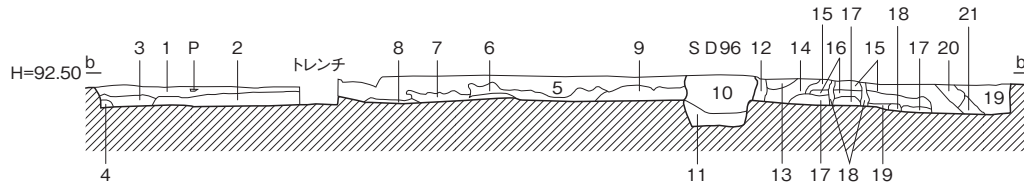
第22図 S T 101 実測図



ST161 a-a'

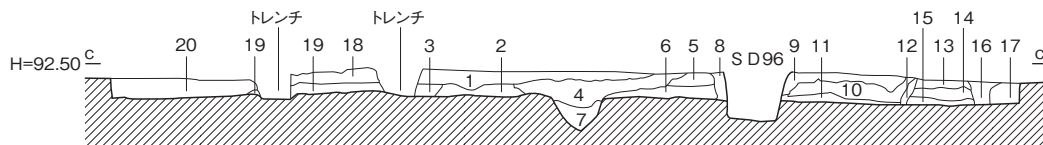
- | | |
|--|--|
| <p>1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト</p> <p>3. 7.5YR3/3 暗褐色シルト</p> <p>4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト</p> <p>5. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>6. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>7. 10YR2/1 黒色シルト</p> <p>8. 7.5YR3/4 暗褐色シルト</p> <p>9. 10YR3/3 暗褐色シルト</p> <p>10. 10YR3/4 暗褐色シルト</p> <p>SD96 { 11. 7.5YR3/3 暗褐色シルト</p> <p>12. 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>13. 7.5YR3/3 暗褐色シルト</p> <p>14. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>15. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>16. 7.5YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>17. 10YR3/3 暗褐色シルト</p> <p>18. 10YR3/3 暗褐色シルト</p> | <p>締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を多く含む。中央部は褐色（7.5YR4/3）を呈する。住居跡外周に相当。</p> <p>締まりを有す。シルト質土で、上部に5mm～1cm大の粘土ブロックや黒褐色粘質土を多く含む。住居跡覆土。</p> <p>やや締まりを有す。シルト質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。2よりも色調が暗く、粒子もやや粗い。住居跡覆土。</p> <p>締まりを有す。粘質土で貼り床に相当。黒褐色粘質土が少々混じり、上下位は酸化鉄のためか黄褐色を帯びる。</p> <p>締まりを有す。粘質土で貼り床直下に相当。2mm以下の微細な粘土粒をやや多く含む。</p> <p>やや締まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒を少々含む。2mm大の炭化粒を少々含む。</p> <p>やや締まりを有す。粘質土で炭化層となっている。5mm大の粘土ブロックをやや多く含む、暗褐色粘質土が多く混じる。</p> <p>締まりを有す。シルト質土で2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。住居跡覆土。</p> <p>締まりを有す。シルト質土で2mm～5mm大の粘土粒を少々含む。</p> <p>締まりを有す。シルト質土で2mm大の粘土粒をやや多く含む。ST161の覆土になるのかどうか判然としない。</p> <p>締まりを有す。粘質土で2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。SD96覆土上部。</p> <p>やや締まりを有す。粘質土で5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。SD96覆土下部。</p> <p>やや締まりを欠く。シルト質土で2mm～5mm大の粘土粒を少々含む。砂質が強く、自然堆積と思われる。</p> <p>やや締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。13と同様に自然堆積土と思われる。</p> <p>やや締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。</p> <p>やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。2mm～5mm大の粘土粒を少々含む。</p> <p>やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。</p> <p>やや締まりを有す。シルト質土で中部に粘質土が混じる。2mm大の粘土粒を少々含む。色調は17よりもやや明るい。</p> |
|--|--|

第23図 ST161 (1) 実測図



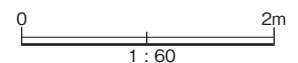
b-b'

- | | | | |
|-------|----------|-----------|--|
| 1. | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒をやや多く含む。下部は黒褐色が強くなる。住居跡外周に相当。 |
| 2. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で2mm～5mm大の粘土粒を多量に含む。黒褐色粘質土がブロック状(5mm～2cm大)に混じる。住居跡外周に相当。 |
| 3. | 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒を少々含む。住居跡外周に相当。 |
| 4. | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒を少々含む。3よりも色調が明るい。 |
| 5. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。暗褐色の粘質土(10YR3/3)がブロック状(1cm大)に混じる。住居跡覆土であるが、後世の攪はんを受けているようである。 |
| 6. | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを有す。砂質土で比較的均質である。乾燥が早く灰色を呈する。住居跡覆土。 |
| 7. | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。住居跡覆土。 |
| 8. | 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で粘性を有す。2mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 9. | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で粘性を有す。2mm～1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。6よりも色調が暗い。 |
| S D96 | 10. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト |
| | 11. | 10YR3/2 | 黒褐色シルト |
| 12. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。黒褐色粘質土が混じる。S T9の覆土と思われる。 |
| 13. | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。S T161の覆土に相当するのかわかりたくない。 |
| 14. | 7.5YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。S T161の覆土に相当するのかわかりたくない。 |
| 15. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 16. | 7.5YR4/3 | 褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。上下の層に比べ色調が明るい。 |
| 17. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |
| 18. | 7.5YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、根の混入痕と思われる。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 19. | 7.5YR3/2 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有し、5mm大の粘土粒をやや多く含む。河川の自然堆積土。 |
| 20. | 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で2mm大の粘土粒を少々含む。河川の自然堆積土。 |
| 21. | 7.5YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。黒褐色粘質土をブロック状(5mm～1cm大)に含む。河川の自然堆積土。 |

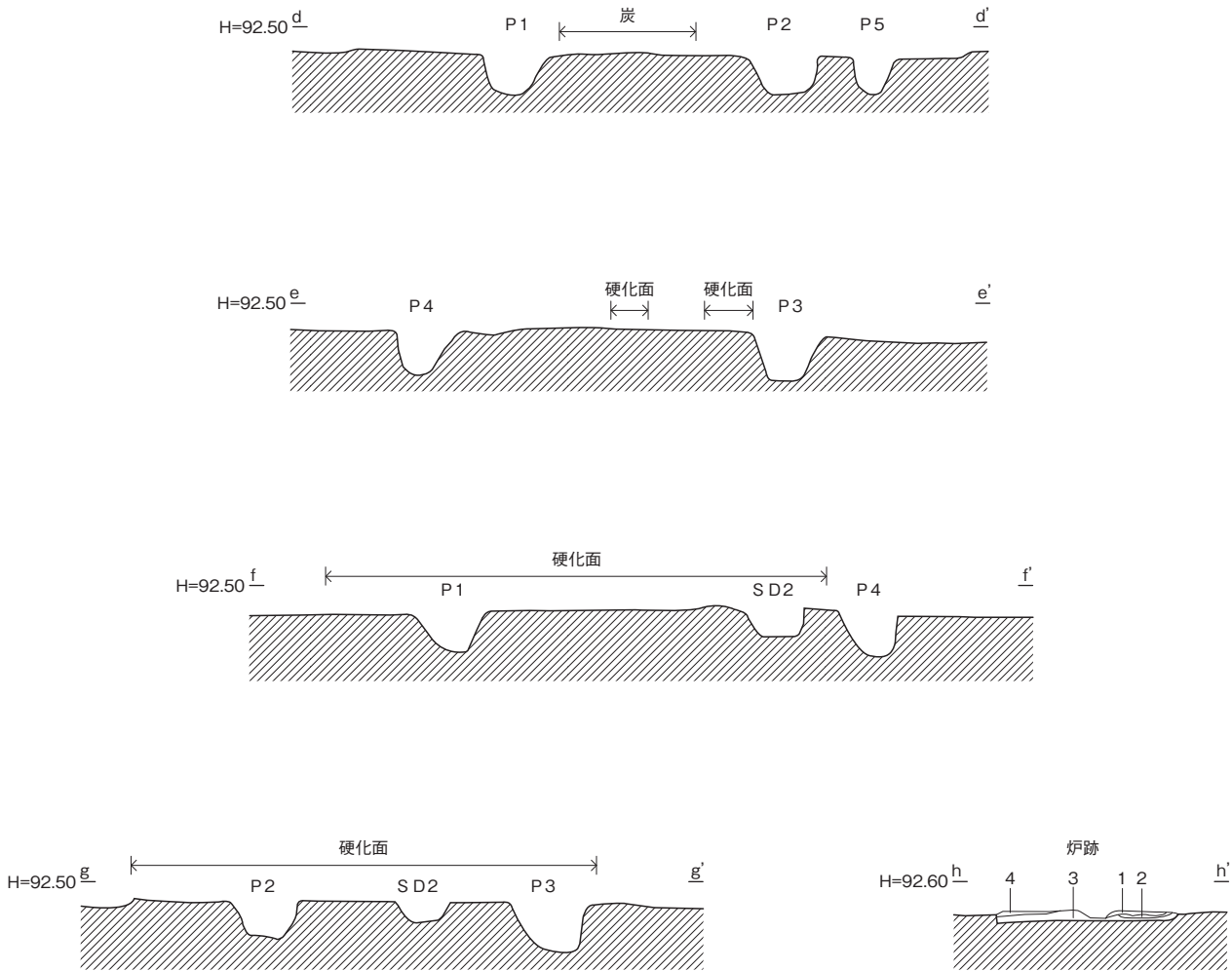


c-c'

- | | | | |
|-----|----------|--------|---|
| 1. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。S T161覆土。 |
| 2. | 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。S T161覆土下層。 |
| 3. | 7.5YR4/1 | 褐灰色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で下位に粘土ブロックが集中する。S T161覆土上層。 |
| 4. | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で粘性を欠く。比較的均等な層である。S T161覆土。 |
| 5. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒を少々含む。S T161覆土。 |
| 6. | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で2mm～1cm大の粘土粒、ブロックを少々含む。S T161覆土。 |
| 7. | 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。上位に5mm～2cm大の焼土ブロックを多く含む。S T161内PIT覆土。 |
| 8. | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。S D96覆土。 |
| 9. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 10. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、暗褐色粘質土(10YR3/3)がブロック状に混じる。2mm大の粘土粒をやや多く含む。9よりも色調がやや明るい。 |
| 11. | 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。色調は黒色を帯びる。 |
| 12. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを欠く。根の混入痕。 |
| 13. | 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少量含む。 |
| 14. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 15. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。黒色土が少々混じる。 |
| 16. | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 17. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 18. | 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 19. | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。色調は18よりも明るい。 |
| 20. | 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm～2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |

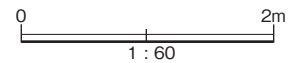


第24図 S T161 (2) 実測図

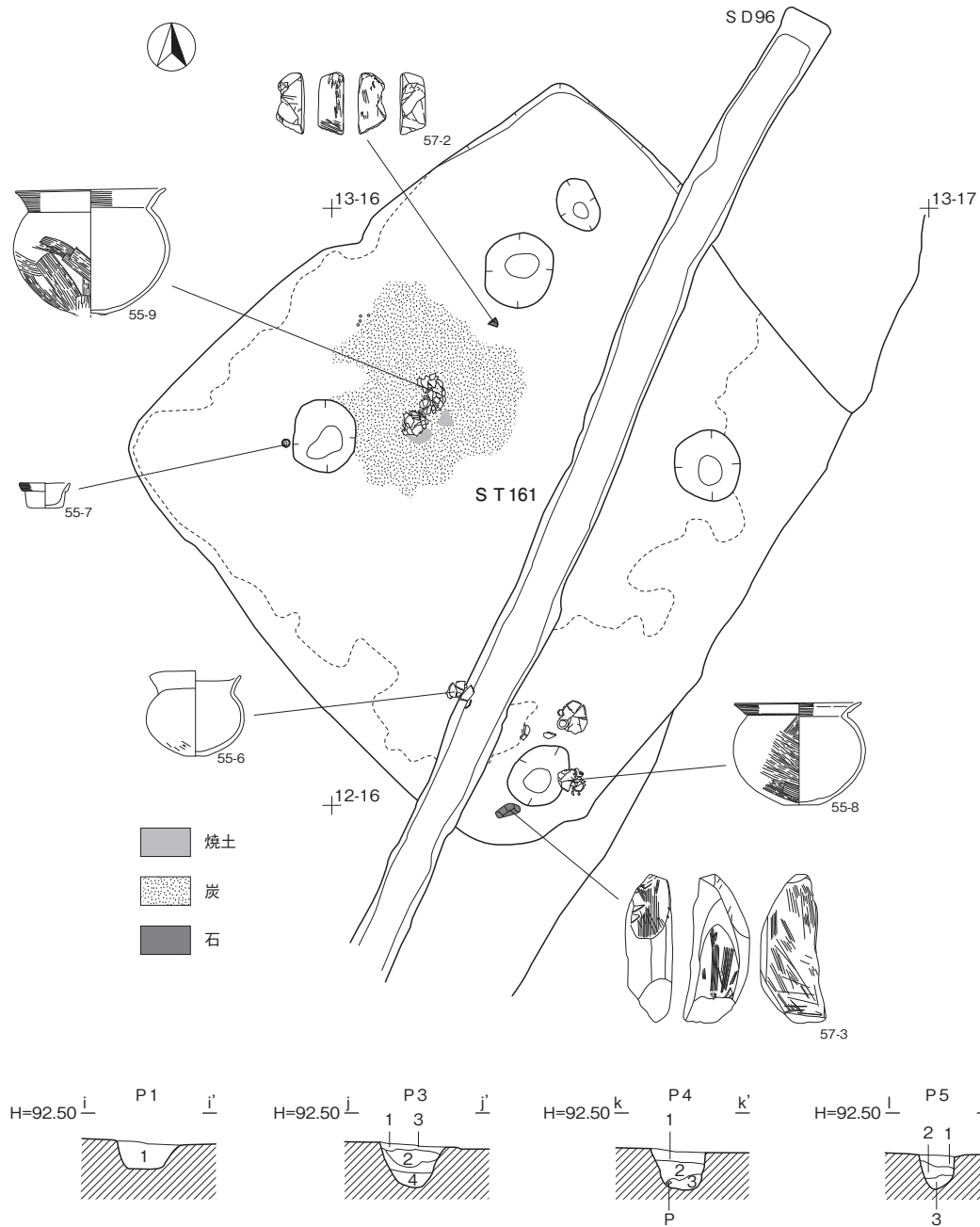


炉跡 h-h'

- | | | |
|-------------|---------|---|
| 1. 5YR3/4 | 暗赤褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で上位に焼土を多く含み、下位に暗褐色粘土が堆積する。 |
| 2. 7.5YR2/1 | 黒色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、炭化層からなる5mm大の焼土粒を少々含む。 |
| 3. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。地山層であるが、焼土粒や炭化粒を部分的に含む。 |
| 4. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、炭化層からなる5mm～1cm大の粘土ブロックを多く含む。 |



第25図 ST161 (3) 実測図



S T 161

P1 i-i'

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。2mm～5mm大の粘土粒を少々含む。

P3 j-j'

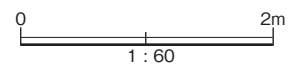
- 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、2mm大の粘土粒をわずかに含む。
- 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりを有す。粘質土で、1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。1よりも色調が暗い。
- 3. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。
- 4. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。

P4 k-k'

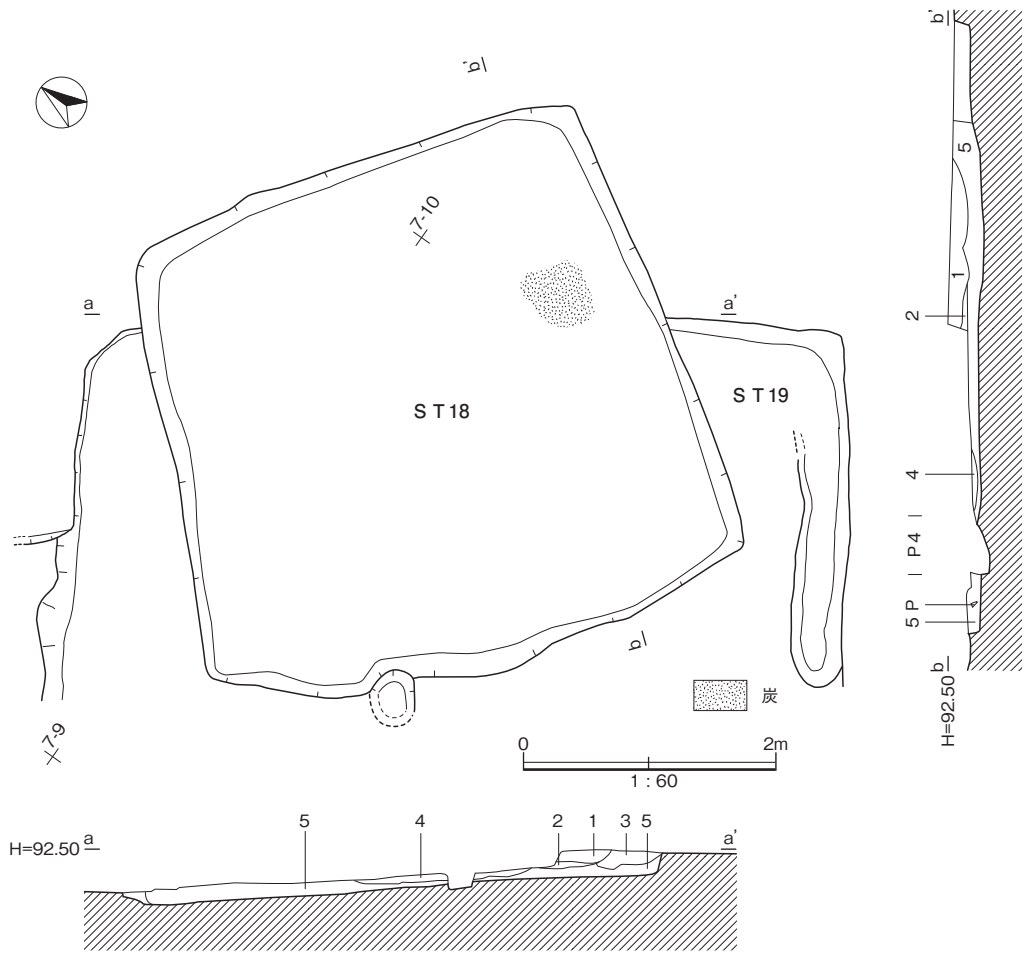
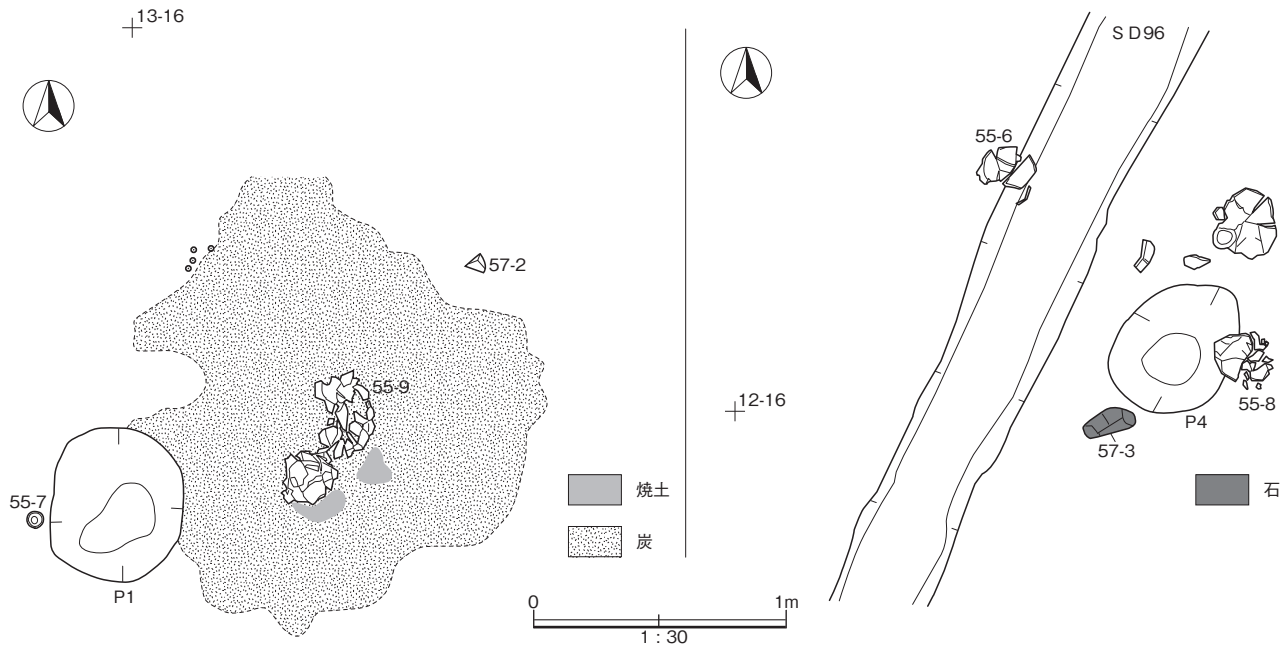
- 1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を多く含み、炭化粒を少々含む。
- 2. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。砂質土で、2mm大の粘土粒をわずかに含む。
- 3. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを有す。粘質土で、5mm～1cm大の粘土ブロックを少々含む。

P5 l-l'

- 1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。
- 2. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。
- 3. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。



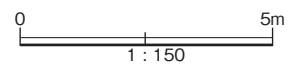
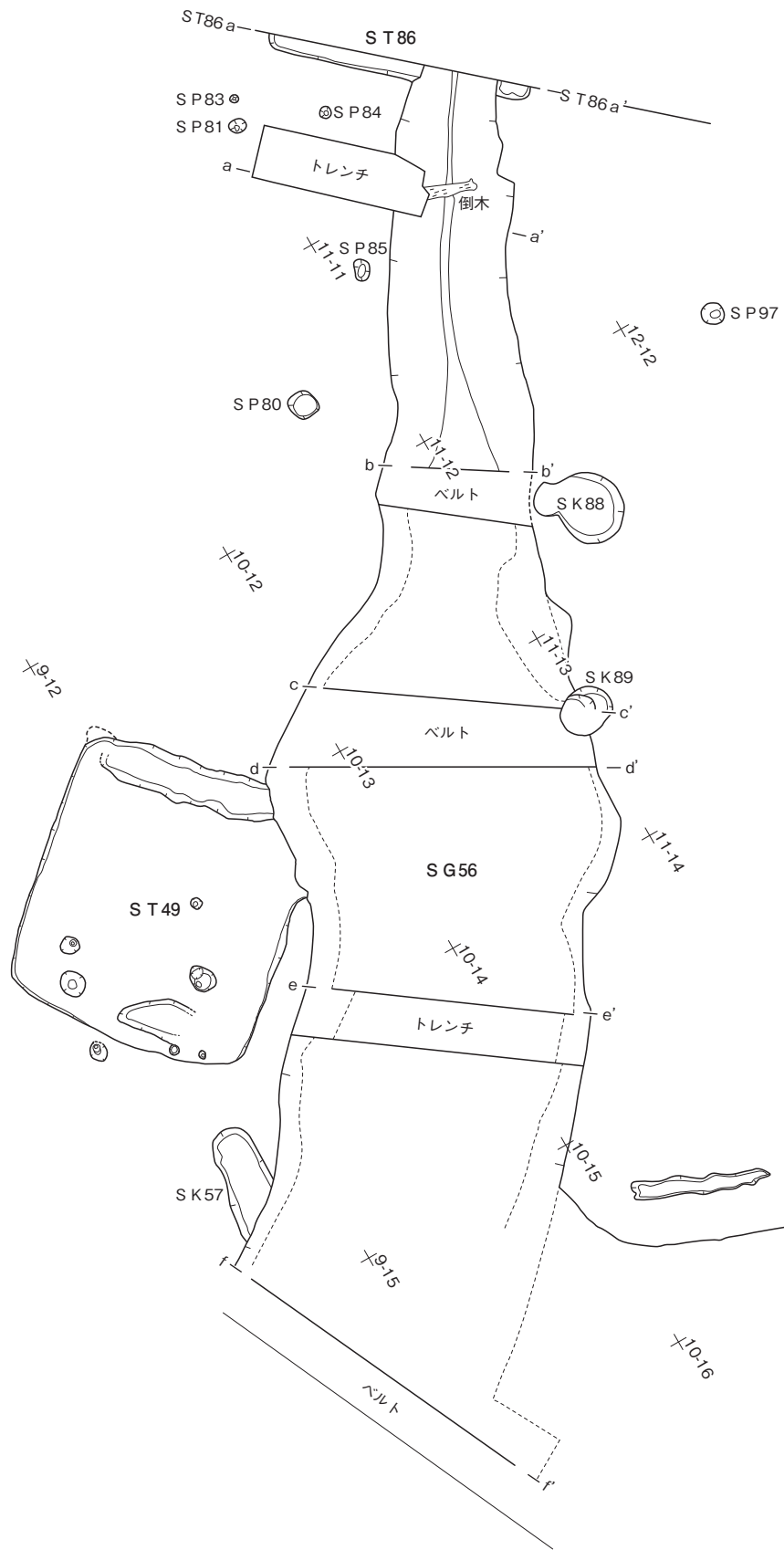
第26図 ST161 (4) 実測図



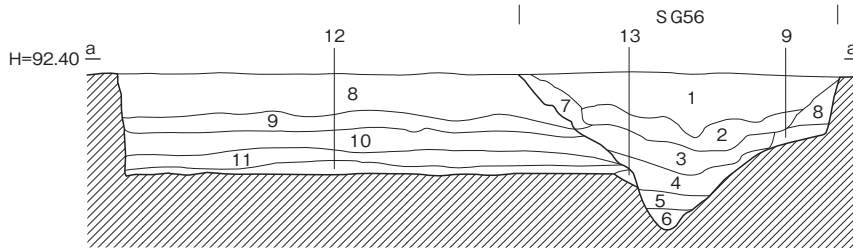
ST18 a-a' b-b'

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR3/4 暗褐色シルト 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 3. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 4. 10YR4/4 褐色シルト 5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト | <p>締まりの強い粘質土。0.1~0.3cm大の粘土粒を含み、黄褐色の粘質土がブロック状に堆積。炭化物混入。</p> <p>締まりの強い粘質土。焼土と炭化物の混土層。</p> <p>締まりのやや強い粘質土。砂粒をやや多く含み、層状に炭化物混入。</p> <p>締まりの強い粘質土。0.1cm大の粘土粒をやや多く含む。貼床層。(ST19に切られるため、貼り床は部分的にしか残らない)。</p> <p>締まりのある粘質土。砂粒を多量に含む。ブロック状に黄褐色土の粘質土を含み、炭化物がやや多く混入。</p> |
|--|---|

第27図 ST161 (5)・ST18実測図

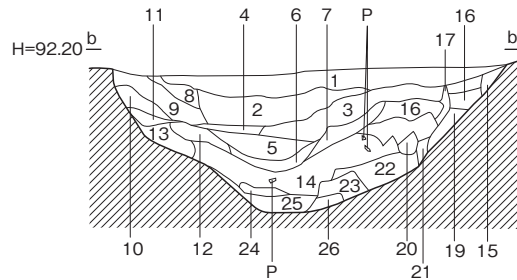


第28図 SG56 実測図



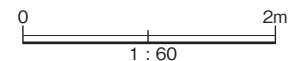
SG56 a-a'

- 1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、2mm~1cm大の粘土粒・ブロックをやや多く含む、炭化粒をわずかに含む。
- 2. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。部分的に暗褐色シルト質土(7.5YR3/3)が集中する。
- 3. 7.5YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、5mm~3cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
- 4. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、2mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。部分的に暗褐色シルト質土(10YR3/3)が集中し、鉄分のため橙色化が著しい。
- 5. 7.5YR2/2 黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、鉄分のため一部橙色化している。
- 6. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。湧水が見られ、鉄分のため、一部橙色化している。
- 7. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを有す。シルト質土で、青灰色を帯び、鉄分のため橙色化が著しい。5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む、炭化粒微量含む。
- 8. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む、2mm大の炭化粒を微量含む。古墳時代の遺物を包含する。
- 9. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。土層は縞状に堆積しており、上位は黒褐色シルト(7.5YR3/2)、中位はオリーブ褐色シルト(2.5Y4/4)、下位は黒褐色シルト(10YR3/2)が堆積する。南側では、中位のオリーブ褐色シルトが黒褐色シルト(7.5YR3/2)をはさんで、二分される遺物の包含は認められない。
- 10. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む、2mm大の炭化粒を微量含む。根の混入部分は酸化鉄のため暗橙色化している。
- 11. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、5mm~3cm大の粘土ブロックをやや多く含む。根の混入部分は酸化鉄のため暗褐色化している。
- 12. 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、11よりも色調が暗い。根の混入部分は酸化鉄のため暗褐色化している。
- 13. 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、12に相当するが、酸化鉄が少なく、層性は比較的均一である。

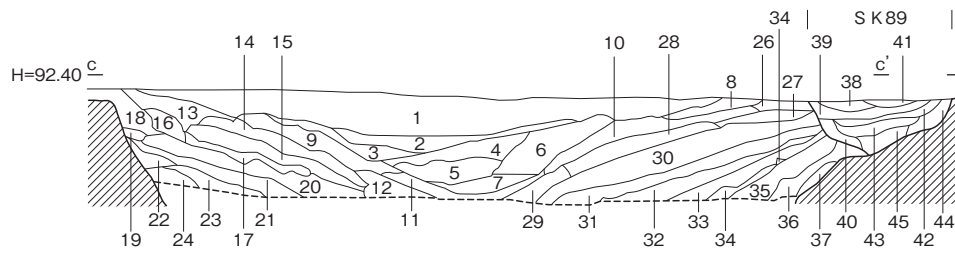


SG56 b-b'

- 1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm大の粘土粒をやや多く含む。
- 2. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。
- 3. 7.5YR4/1 褐灰色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm~1cm大の粘土粒・ブロックを多量に含む。
- 4. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、上位に酸化鉄と褐灰色シルト質土が認められる。
- 5. 7.5YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。褐灰色のシルト質土からなり、酸化鉄が多く混じる。
- 6. 7.5YR4/1 褐灰色シルト 締まりを欠く。粘質土で、酸化鉄が多く混じる。
- 7. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。
- 8. 10YR4/1 褐灰色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm大の粘土粒をやや多く含む、黒褐色シルト質土が混じる。
- 9. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm大の粘土粒を少量含む、下位に黒色粘質土が混じる。
- 10. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。5mm大の粘土粒を少々含む、黒褐色粘質土が少々混じる。
- 11. 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
- 12. 10YR4/1 褐灰色シルト やや締まりを有す。粘質土で、灰褐色シルト質土が多く混じる。
- 13. 7.5YR4/1 褐灰色シルト 締まりを欠く。粘質土で、2cm大の粘土ブロックを多く含む。
- 14. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、やや灰色を帯びる。5mm大の粘土粒をやや多く含む、酸化鉄が多く混じる。
- 15. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。5mm大の粘土粒を少々含む。
- 16. 7.5YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む、下位に褐灰色シルト質土が多く混じる。
- 17. 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。根の混入痕と思われ、ボソボソしている。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。
- 18. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm~1cm大の粘土粒・ブロックをやや多く含む。削平面がわずかに灰色を帯びる。
- 19. 10YR4/1 褐灰色シルト 締まりを欠く。粘質土で、2mm大の粘土粒を多く含む。
- 20. 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。
- 21. 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、20よりも色調がやや明るく、シルト質を帯びる。
- 22. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で粘性を有する。均質な層位であるが、根の混入による円形の酸化鉄が所々存する。
- 23. 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。黒色が強い。
- 24. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 締まりを有す。シルト質土で粘性を有する。酸化鉄が多く混じる。
- 25. 10YR4/1 褐灰色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。酸化鉄が多く混じるが、24に比し、削平面の灰色が強い。
- 26. 7.5YR4/2 灰褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、酸化鉄が少々混じる。

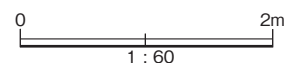


第29図 SG56土層断面図1

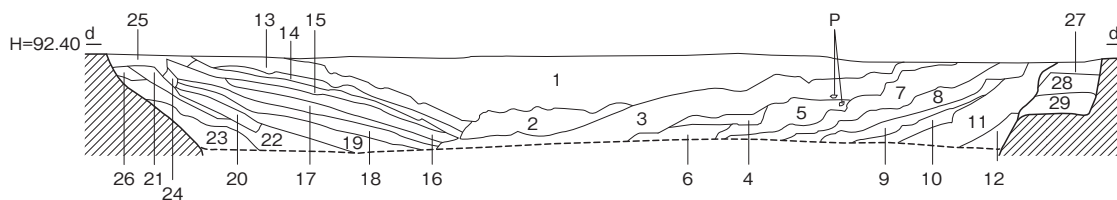


SG56 c-c'

- | | | |
|--------------|---------|---|
| 1. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm～1cm大の粘土粒・ブロックをやや多く含み、上部にシルト質土が混じる。 |
| 2. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、1よりも色調がやや明るい。2mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 3. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 4. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒を多く含む。5mm～2cm大の黒色粘質土ブロックをやや多く含む。 |
| 5. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、2mm～1cm大の粘土粒・ブロックを多量に含む。2mm大の炭化粒を少々含み、5mm～1cm大の黒色粘質土ブロックをわずかに含む。 |
| 6. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm～1cm大の粘土粒・ブロックを多く含む。1cm大の黒色粘質土ブロックを少々含み、2mm大の炭化粒をわずかに含む。 |
| 7. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒を多く含む。削平面は灰色を帯び、5mm大の酸化鉄を多く含む。 |
| 8. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒を多く含む。2mm大の炭化粒をわずかに含む。 |
| 9. 7.5YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、下部に3cm～5cm幅で黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) が堆積する。 |
| 10. 7.5YR4/3 | 褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、上部に3cm～5cm幅で黒褐色粘質土 (7.5YR3/2) が堆積する。黒褐色粘質土には、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 11. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、褐色を帯びるが、酸化鉄が多く混じり、明褐色化が著しい。 |
| 12. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、褐色を帯びるが、酸化鉄が多く混じる。11よりも帯色が強い。 |
| 13. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。上部に灰黄褐色粘土 (10YR4/2) が多く混じる。 |
| 14. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。上下に同色の粘質土が混じる。 |
| 15. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。1cm～2cm大の粘土ブロックを少々含み、色調が14よりもわずかに明るい。17よりも粒子が粗い。 |
| 16. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |
| 17. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。下部に1cm幅で褐色シルト質土が堆積し、薄い酸化鉄が認められる。 |
| 18. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 19. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 20. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、上部に2cm～3cmの幅で、やや色調が暗いシルト質土が堆積する。シルト質土には5mm大の粘土粒がやや多く混じる。 |
| 21. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、周囲の層に比し、色調が暗い。上部に3cm幅で黒褐色粘質土 (10YR3/2) が堆積するが、灰色を帯び、酸化鉄が混じる。 |
| 22. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 23. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含み、下部には酸化鉄が多く認められる。 |
| 24. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。シルト質土がやや多く混じる。 |
| 25. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、灰褐色シルト質土をブロック状に含む。 |
| 26. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、褐色粘土 (7.5YR4/3) が多く混じる。 |
| 27. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、下部に褐色粘土 (7.5YR4/3) が多く混じる。 |
| 28. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含む。中央に灰褐色シルト質土 (7.5YR4/2) が多く含み、酸化鉄が認められる。 |
| 29. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm～1cm大の粘土ブロックを多く含む。下部に灰褐色シルト質土 (7.5YR4/2) が混じり、酸化鉄が認められる。 |
| 30. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 31. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |
| 32. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、褐色シルト質土 (10YR4/1) が多く混じり、酸化鉄が認められる。 |
| 33. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。周囲の層に比し色調が暗い。 |
| 34. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。33と35の間層をなし、色調が明るい。 |
| 35. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 36. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm～1cm大の粘土粒・ブロックを多く含む。35よりも色調がやや明るい。 |
| 37. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含み、36よりも色調が暗い。 |
| 38. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm～3cm大の粘土ブロックを多く含む。 |
| 39. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土粘性を有する。下部に褐色シルト質土が混じり、酸化鉄が認められる。 |
| 40. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、上部に黒褐色が多く混じる。 |
| 41. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、1cm大の粘土ブロックを多く含む。 |
| 42. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 43. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 44. 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒や黒色粒子を少々含む。 |
| 45. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。 |



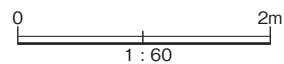
第30図 SG56 土層断面図2



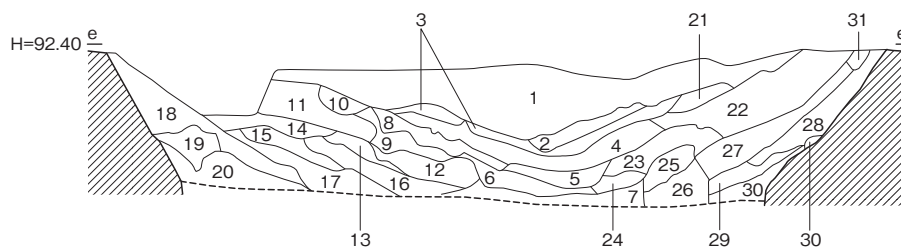
SG56 d-d'

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 7.5YR4/1 褐灰色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含み、上位には、砂質土が多く混じる。下位には2mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 2. 7.5YR4/1 褐灰色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。1よりも色調が少々明るい。 |
| 3. 7.5YR3/1 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。2mm~1cm大の炭化粒・ブロックを少々含む。 |
| 4. 7.5YR4/1 褐灰色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒・ブロックをやや多く含む。 |
| 5. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含み、黒褐色土が少々混じる。 |
| 6. 7.5YR4/1 褐灰色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm大の粘土粒多く含む。 |
| 7. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。均質な層で、混入物は少ない。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 8. 10YR3/1 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、黒色が強い。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、2mm~5mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 9. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、1cm~3cm大の黒褐色ブロックが、少々混じる。比較的均質な層である。 |
| 10. 10YR4/1 褐灰色シルト | 締まりを有す。粘質土で、1cm大の灰色シルトが混じる。灰色シルトの外周は酸化鉄のため橙色化している。 |
| 11. 10YR3/1 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、中位に暗褐色粘質土が多く混じる。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の炭化粒をわずかに含む。 |
| 12. 10YR3/1 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、11よりも粘性が強い。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 13. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。均質な層で、5mm大の粘土粒をわずかに含む。 |
| 14. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。均質な層で13よりも黄色を帯びる。 |
| 15. 7.5YR4/1 褐灰色シルト | 締まりを欠く。粘質土で、シルト質土も多く混じる。均質な層であるが、2mm大の酸化鉄粒を少々含む。 |
| 16. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。均質な層で、上下を粘質土にはさまれている。 |
| 17. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、均質な層である。上下の層に比しやや暗い。 |
| 18. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、削平面はやや灰色を帯び、酸化鉄による橙色化が顕著である。 |
| 19. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、上位に粘質土が多く混じる。 |
| 20. 10YR3/3 暗褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、1cm大の灰色シルトが混じる。灰色シルトの外周は酸化鉄のため橙色化している。 |
| 21. 10YR3/1 黒褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、灰黄褐色シルトが少々混じる。 |
| 22. 7.5YR4/1 褐灰色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、灰色シルトが多く混じる。灰色シルトの外周は酸化鉄のため橙色化している。 |
| 23. 10YR3/1 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm~3cm大の粘土ブロックをやや多く含む。上位に灰色シルトが混じる。 |
| 24. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | 締まりを欠く。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 25. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 26. 10YR3/1 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 27. 10YR3/2 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、灰黄褐色粘質土が縞状に2枚堆積する。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。 |
| 28. 7.5YR3/1 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 29. 7.5YR4/2 灰褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。下位は酸化鉄のため暗橙色化している。 |

※ SG56は調査区西側がV字の断面を呈したため、当初溝跡としたが、東側は幅が広く蛇行しており、川跡と捉えるべきと思われる。

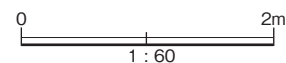


第31図 SG56土層断面図3

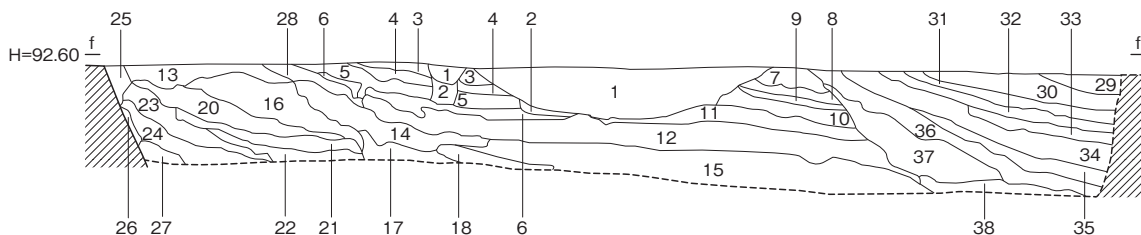


SG56 e-e'

1. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm~1cm大の粘土粒・ブロックをやや多く含み、下に5mm~1cm大の黒色ブロックを少々含む。下に灰褐色粘質土がやや多く混じる。
2. 5YR4/1	褐灰色シルト	やや締まりを欠く。粘質土で、灰黄褐色粘土 (10YR4/2) を多く含む。
3. 10YR4/2	灰黄褐色シルト	やや締まりを欠く。シルト質土で、褐灰色粘質土が少々混じる。5mm大の酸化鉄をやや多く含む。
4. 10YR3/3	暗褐色シルト	やや締まりを欠く。粘質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含む。上位には灰黄褐色土が混じる。
5. 10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	締まりを欠く。粘質土で、削平時は灰色を帯びるが、酸化鉄による明黄褐色化が著しい。
6. 10YR3/2	黒褐色シルト	締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、酸化鉄が多く混じる。やや灰色を帯びる。
7. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	やや締まりを欠く。粘質土で、灰色が強いが、酸化鉄による明黄褐色化が著しい。
8. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5cm大の粘土粒位をやや多く含み、下に粘質土が多く混じる。
9. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。下に粘質土が多く混じる。
10. 7.5YR4/1	褐灰色シルト	締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm大の粘土粒・炭化粒を少々含む。
11. 10YR3/3	暗褐色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の赤色粒子をわずかに含む。
12. 7.5YR3/2	黒褐色シルト	やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。1cm大の粘土ブロックをやや多く含み、下に酸化鉄が混じる。
13. 7.5YR4/1	褐灰色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm大の粘土粒をわずかに含む。
14. 7.5YR4/1	褐灰色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒を少々含み、下に粘質土が多く混じる。
15. 7.5YR3/1	黒褐色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。下に1cm大の粘土ブロックを多く含む。酸化鉄がわずかに混じる。
16. 10YR3/3	暗褐色シルト	やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。灰色の粘質土がやや多く混じり、酸化鉄も多く見られる。
17. 7.5YR4/1	褐灰色シルト	やや締まりを有す。粘質土で、根の混入と思われる褐灰色粘土ブロックをやや多く含む。ブロックの周囲は酸化鉄となる。
18. 10YR3/2	黒褐色シルト	締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。1cm大の粘土ブロックを多く含み、下に橙色粘質土が混じり、19と区分される。
19. 10YR4/1	褐灰色シルト	やや締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒・炭化粒を少々含む。
20. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。根の混入と思われる1cm大の灰色シルトブロックが少々見られるが、周囲には酸化鉄が認められる。
21. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の炭化粒をわずかに含む。
22. 7.5YR4/1	褐灰色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。5mm大の粘土粒を多く含み、5mm~1cm大の黒色ブロックをわずかに含む。
23. 10YR4/2	灰黄褐色シルト	締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。5mm大の粘土粒をやや多くふくみ、下に灰色粘土が多く混じる。
24. 10YR4/1	褐灰色シルト	締まりを有す。粘質土で、灰色シルトがやや多く混じる、5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
25. 10YR4/2	灰黄褐色シルト	締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。上位の線に沿って酸化鉄が帯状に存する。
26. 10YR4/2	灰黄褐色シルト	締まりを有す。粘質土で、酸化鉄がやや多く混じる。左右の線に沿って帯状に酸化鉄が存する。25・26の木材の痕跡で外周に酸化鉄が帯状に存するようである。
27. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。灰色シルトが少々混じり、酸化鉄が存する。
28. 10YR4/1	褐灰色シルト	締まりを有す。粘質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。周囲の層に比し黒色が強い。
29. 10YR3/3	暗褐色シルト	やや締まりを有す。粘質土で、灰色シルトがやや多く混じり、酸化鉄が存する。
30. 7.5YR3/2	黒褐色シルト	締まりを有す。粘質土で、酸化鉄が多く混じる。
31. 7.5YR4/2	灰褐色シルト	やや締まりを有す。シルト質土で粘性を有す。2mm~1cm大の粘土粒・ブロックをやや多く含む。

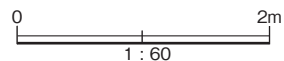


第32図 SG56土層断面図4

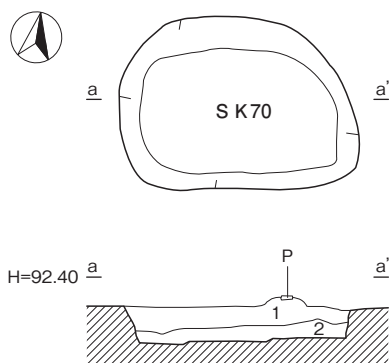


SG56 f-f

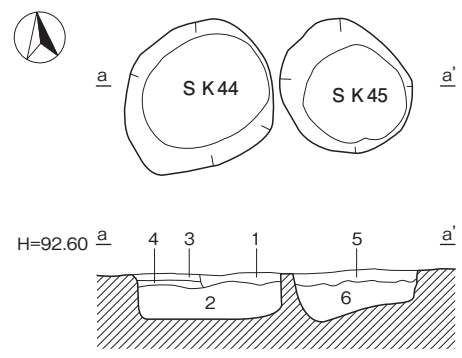
- | | | |
|--------------|-----------|---|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、トレンチの埋土。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。 |
| 2. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有す。5に類似するが、色調はやや暗い。トレンチ埋土下部となる。 |
| 3. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、上部にシルト質土を多く含む。橙色化した酸化鉄を多く含む。 |
| 4. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。5mm~2cm大の灰褐色粘土ブロックをやや多く含む。 |
| 5. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。下部に5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |
| 6. 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、暗褐色シルト質土が多く混じる。粘質土は1~2cm大のブロック状をなし、ブロックの周囲に酸化鉄が付着する。 |
| 7. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、下部に2~4cmの幅で粘質土が堆積する。5mm大の橙色化した酸化鉄を多く含む。 |
| 8. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。シルト質土で、上部に2cm幅で粘質性が堆積する。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 9. 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、下部に1cm幅で粘質土が堆積する。周囲の層に比し色調が明るい。 |
| 10. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、下部に2~3cm幅で、にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)が堆積する。 |
| 11. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを有す。砂質土で、下部に2~3cm幅で褐色粘土(7.5YR4/3)が堆積する。上部は乾燥しやすく灰白色を呈する。 |
| 12. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。砂質土で、均質である。乾燥しやすく灰白色を呈する。 |
| 13. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |
| 14. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。上部に1~2cm幅のにぶい黄褐色粘土が部分的に堆積する。 |
| 15. 10YR3/4 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。中央に粘質土が混じり、上部は砂質土で乾燥しやすく灰白色を呈する。 |
| 16. 7.5YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。砂質土で、2mm~3cm大の粘土粒・ブロックを少々含む。部分的に同色の粘質土が混じる。 |
| 17. 7.5YR3/3 | 暗黄褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 18. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。砂質土で、均質である。 |
| 19. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。砂質土で、乾燥しやすく灰白色を呈する。18よりも砂粒の粒子がやや粗い。 |
| 20. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを欠く。砂質土で、中央と下部に同色の粘質土が混じる。砂質土はオリープ黒色を呈し、乾燥しやすく灰白色となる。 |
| 21. 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、上部に1~2cm幅で暗褐色粘質土が堆積する。 |
| 22. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 23. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm~2cm大の粘土ブロックを多く含む。 |
| 24. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm~2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。23よりも粘性が強い。 |
| 25. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒をわずかに含む。 |
| 26. 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 締まりを有す。粘質土で、5mm~2cm大の粘土ブロックを少々含む。5mm大の酸化鉄を少々含む。 |
| 27. 10YR3/2 | 黒褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 28. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有し、2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 29. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。下部に1cm幅でにぶい黄褐色粘土が堆積する。 |
| 30. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを有す。シルト質土で、粘性を有する。下部に1~2cm幅で同色の粘土が堆積する。 |
| 31. 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、上部にはしまりのないシルト質土が堆積する。 |
| 32. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、上部には、シルト質土が堆積する。中央の粘質土の上位には酸化鉄がみられ、層の下部は1cm幅で黒色粘質土となる。 |
| 33. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。均質である。 |
| 34. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、中央に同色の粘質土が混じる。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 35. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。砂質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 36. 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | やや締まりを欠く。粘質土で、下部はシルト質・砂質土となる。粘質土の周囲には酸化鉄が認められる。 |
| 37. 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | やや締まりを有す。粘質土で、シルト質土が多く混じる。上部と下部に1cm大の粘土ブロックを少々含む。 |
| 38. 10YR3/3 | 暗褐色シルト | やや締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。 |



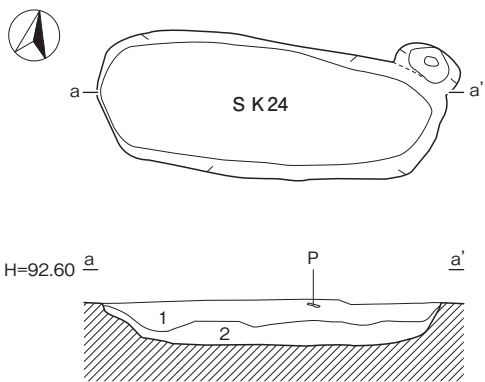
第33図 SG56土層断面図5



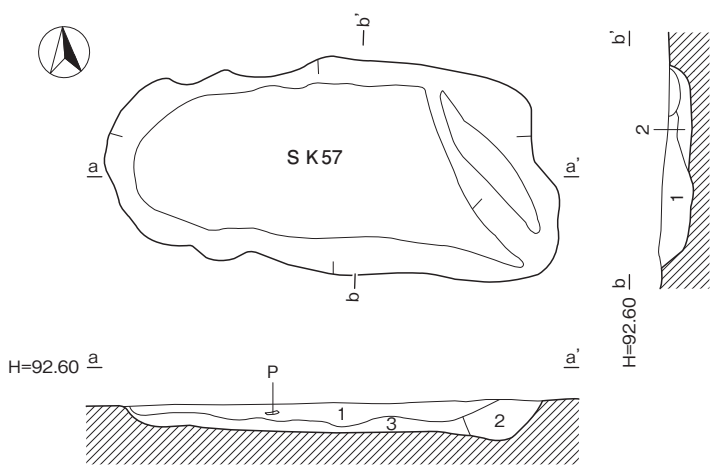
- SK70 a-a'**
- 1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。黒色粘土ブロックを少々含む。
 - 2. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりを欠く。粘質土で、5mm~2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。下位に黒色粘質土が多く混じる。



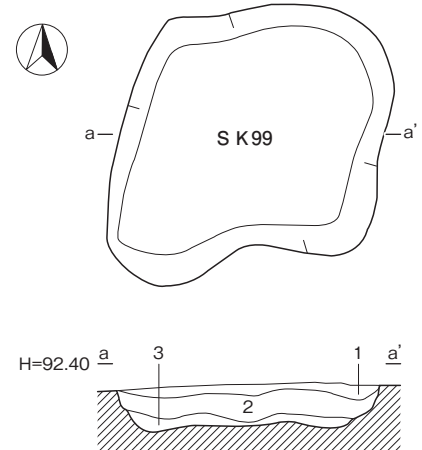
- SK44・SK45 a-a'**
- 1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、同様の黒色粒を少々含む。
 - 2. 2.5YR4/1 赤灰色シルト やや締まりを欠く。シルト質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。
 - 3. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを有す。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。
 - 4. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを有す。シルト質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。
 - 5. 10YR3/1 黒褐色シルト やや締まりを欠く。粘質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。同様の黒褐色土ブロックを少々含む。
 - 6. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 締まりを欠く。シルト質土で、粘性を有する。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。



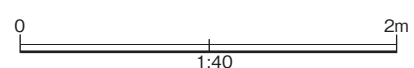
- SK24 a-a'**
- 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりを有する。粘質土で、5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
 - 2. 10YR3/2 黒褐色シルト やや締まりを有する。粘質土で、2mm大の炭化粒を少々含む。



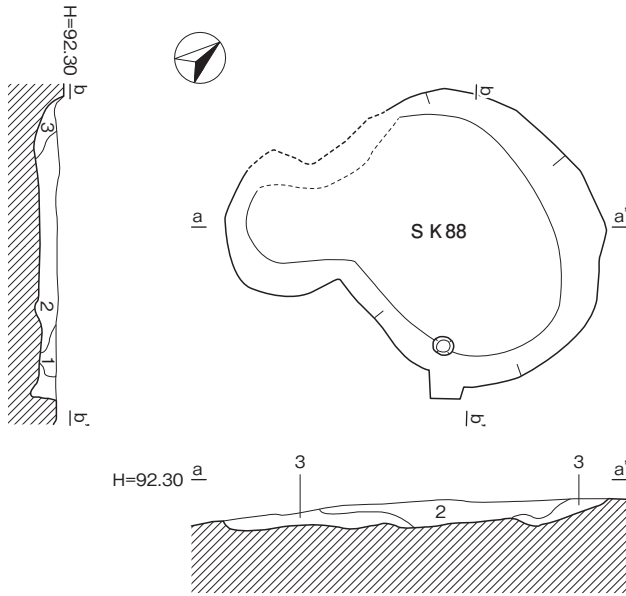
- SK57 a-a' b-b'**
- 1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 締まりのある粘質土。ブロック状に黄褐色の砂質土堆積。炭化物少々混入。
 - 2. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりの強い砂質土。0.5cm角の粘土粒を含む。
 - 3. 掘りすぎ



- SK99 a-a'**
- 1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりのある砂質土。やや粘性を有する。ブロック状に黒褐色の粘質土堆積。
 - 2. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりの強い砂質土。ブロック状に黄褐色の粘質土堆積。炭化物微量混入。
 - 3. 10YR3/3 暗褐色シルト 締まりの強い砂質土。粘性を有する。炭化物微量混入。

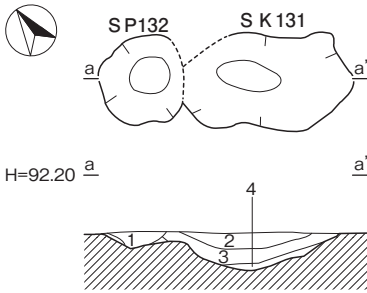


第34図 SK24・44・45・57・70・99 実測図



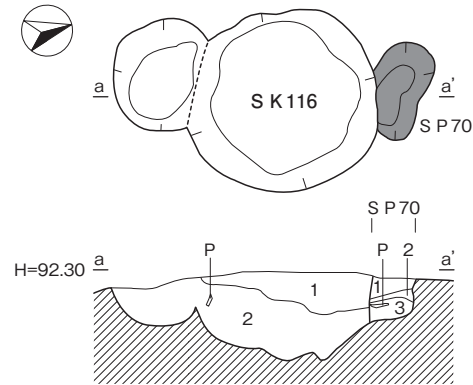
SK 88 a-a'

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりのやや強い砂質土。層状に浅黄橙色の粘質土堆積。炭化物微量混入。
2. 10YR2/1 黒色シルト 締まりのある粘質土。斑状に砂質土堆積。炭化物微量混入。
3. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりのある砂質土。0.1cm角の粘土粒を含む。炭化物微量混入。



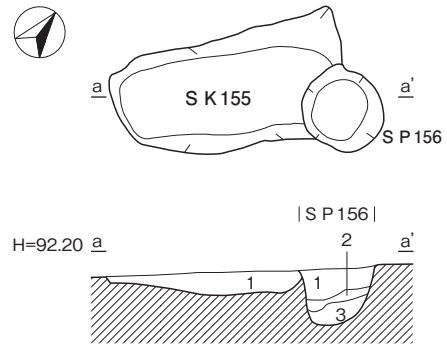
SK 131, SP 132 a-a'

1. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 締まりの弱い粘質土。砂粒を少量含み、ブロック状に暗褐色の粘質土堆積。
2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト 締まりの弱い砂質土。砂粒を少量含み、炭化物やや多く混入。
3. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 締まりの弱い粘質土。砂粒を少量含み、ブロック状に暗褐色の粘質土堆積。
4. 掘りすぎ



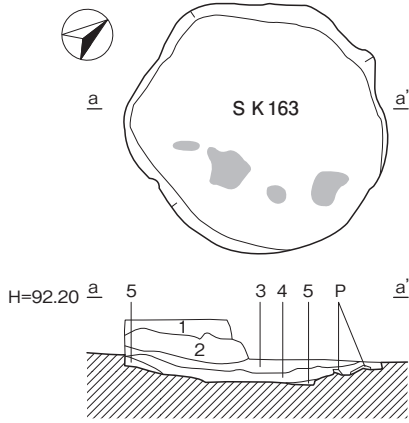
SK 116 a-a'

1. 7.5YR4/4 褐色シルト 締まりのある砂質土。砂粒を多く含み、粘土ブロックを多量に含む。炭化物少量混入。
2. 2.5YR3/2 暗赤褐色シルト 締まりのある焼けた砂質土。焼けた粘土ブロックを多量に含む。炭化物微量混入。
1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりの強い砂質土。やや粘性を有し、炭化物少量混入。
2. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 締まりのある砂質土。炭化物微量混入。
3. 5YR3/2 暗赤褐色シルト 締まりのある粘質土。砂粒を少量含み、炭化物微量混入。



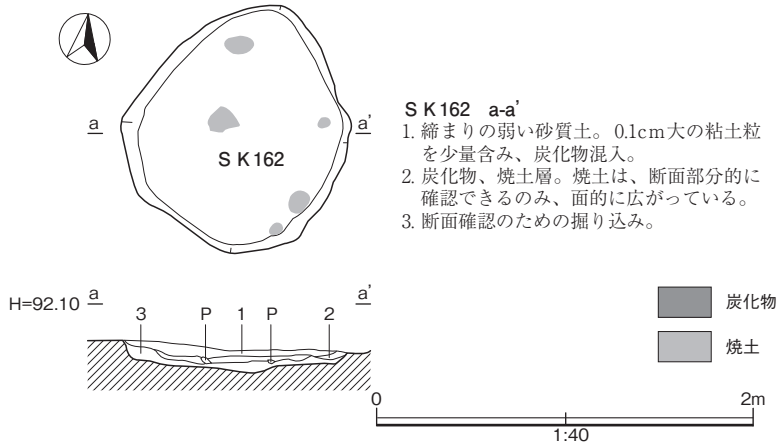
SK 155 a-a'

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 締まりの強い砂質土。やや粘性を有する。ブロック状に黄褐色の粘質土が多く堆積。炭化物やや多く混入。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 締まりの強い粘質土。砂粒をやや少量含む。
3. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 締まりの強い粘質土。ブロック状に黄褐色の粘質土堆積。
1. 5YR3/2 暗赤褐色シルト 締まりのやや強い砂質土。やや粘性を有する。ブロック状に黄褐色の粘質土堆積。



SK 163 a-a'

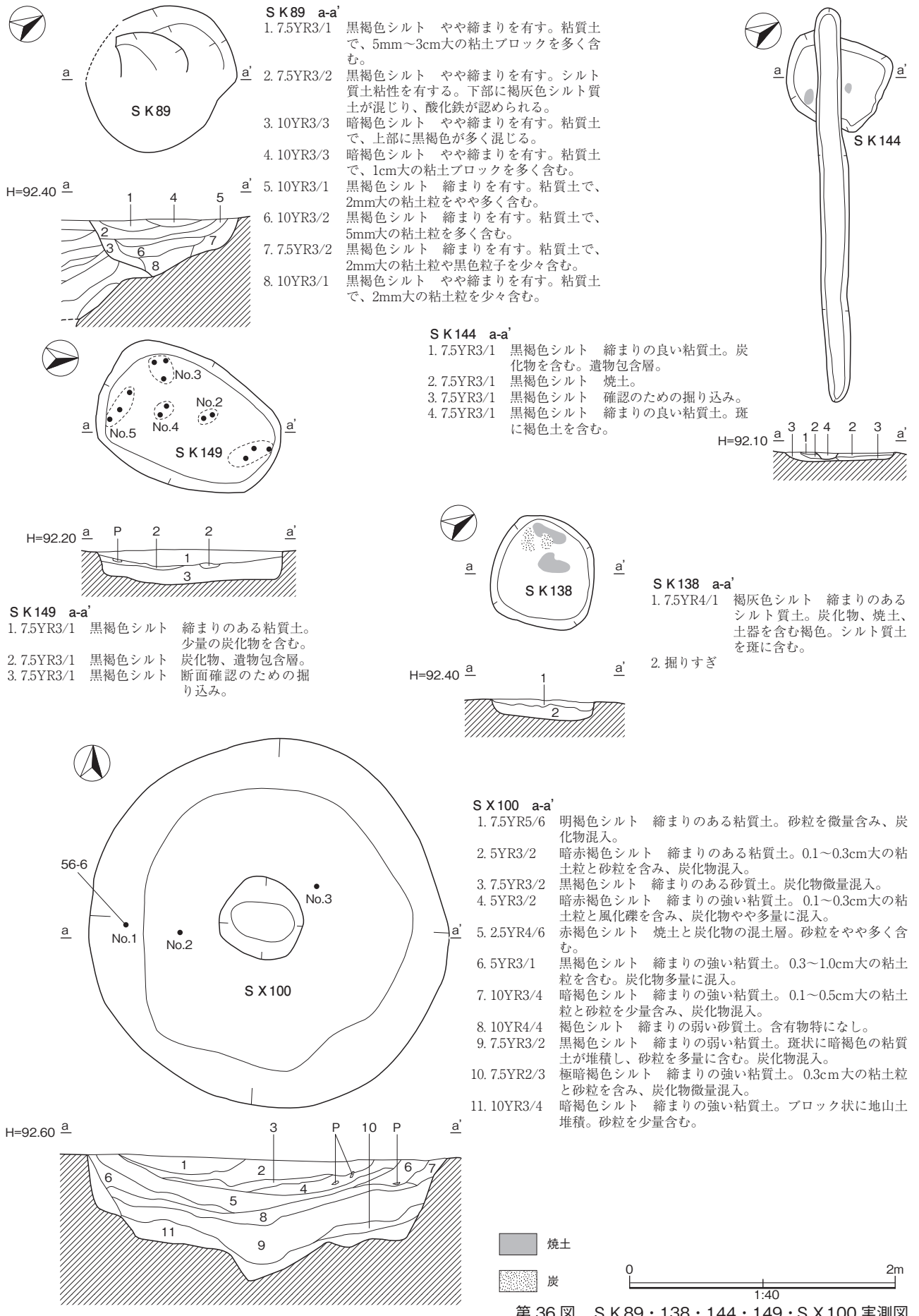
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 締まりの弱い砂質土。細やかな炭化物を微量含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 締まりの弱い砂質土。炭化物微量含む。
3. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりのある砂質土。部分的に粘質土堆積。
4. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 締まりやや強い粘質土。一部砂質土が堆積。層状に炭化物層が一部堆積する。遺物包含層。
5. 掘りすぎ



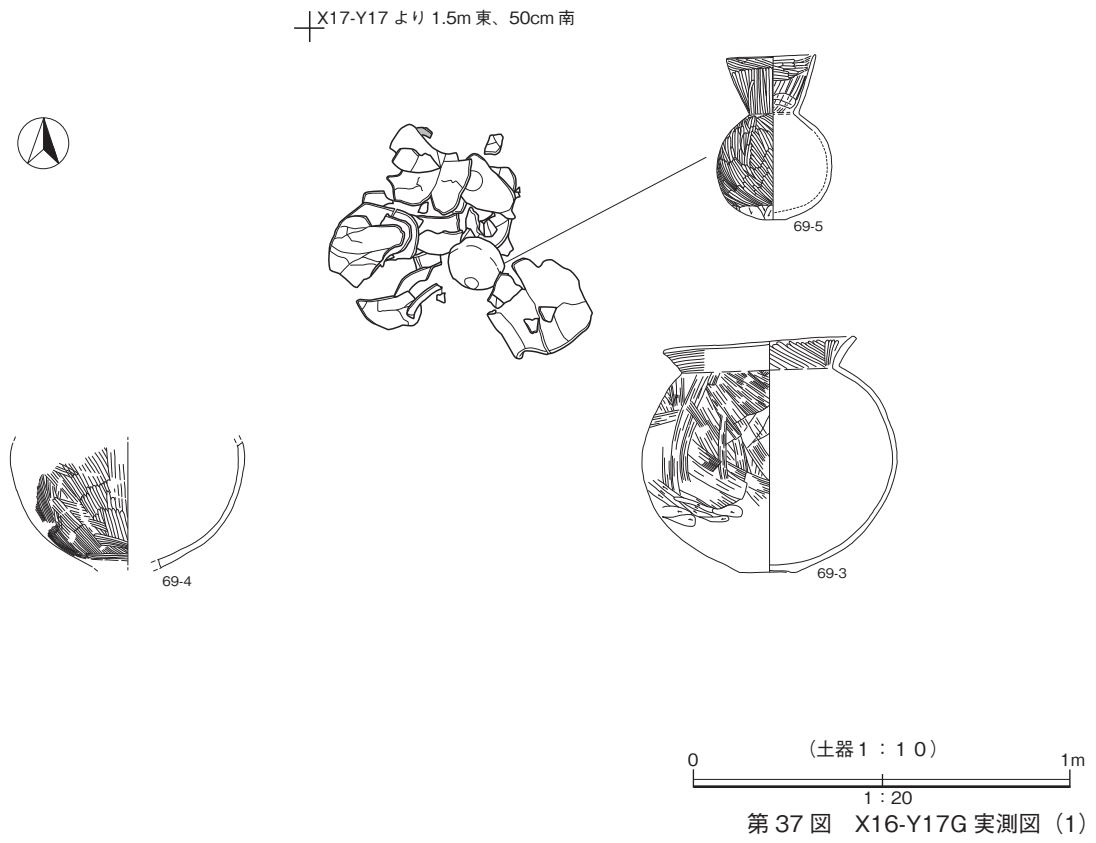
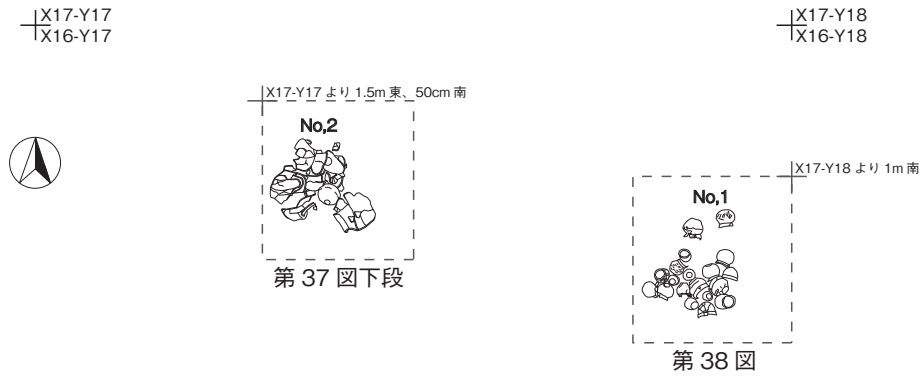
SK 162 a-a'

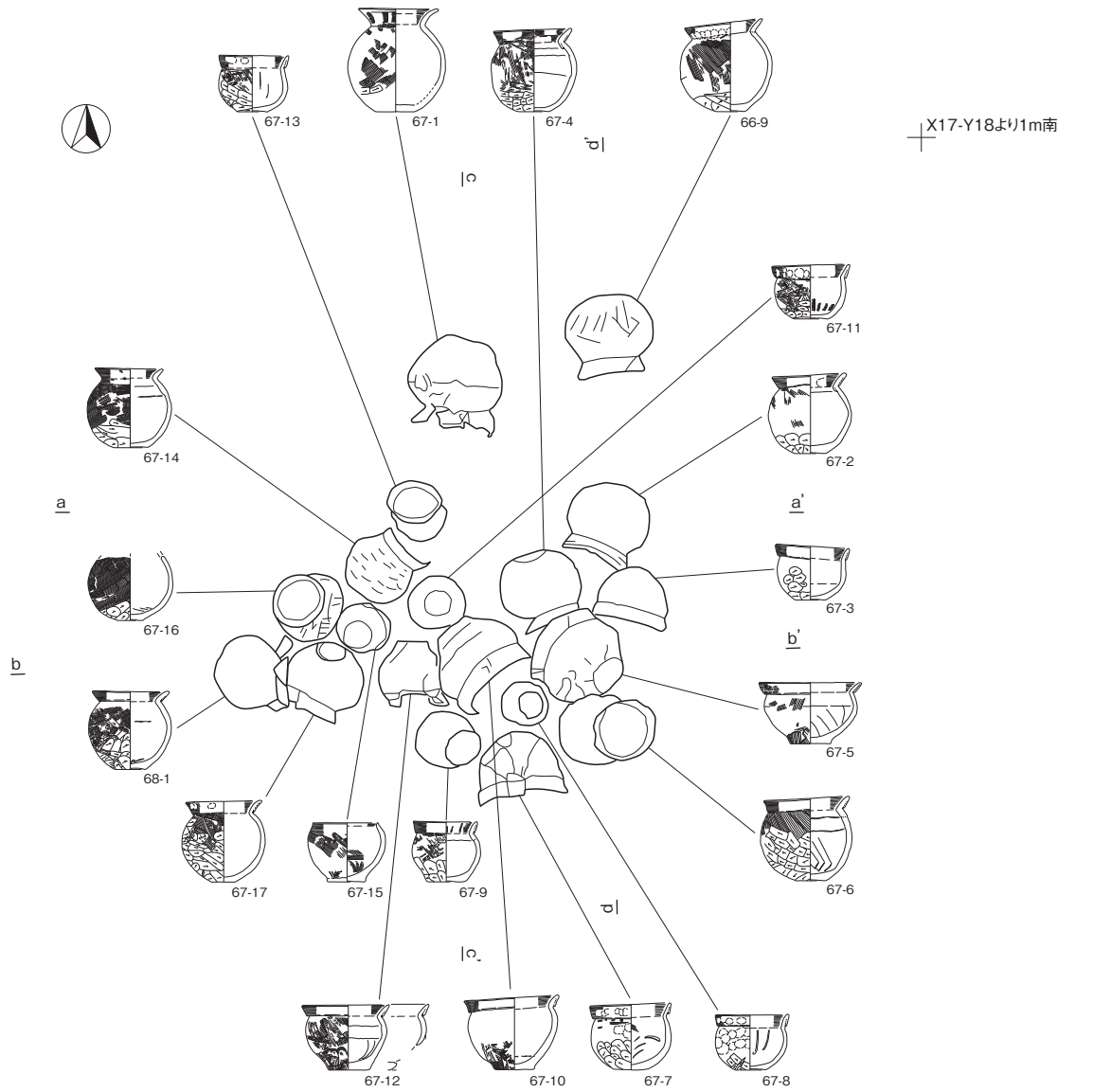
1. 締まりの弱い砂質土。0.1cm大の粘土粒を少量含み、炭化物混入。
2. 炭化物、焼土層。焼土は、断面部分的に確認できるのみ、面的に広がっている。
3. 断面確認のための掘り込み。

第35図 SK 88・116・131・155・162・163 実測図



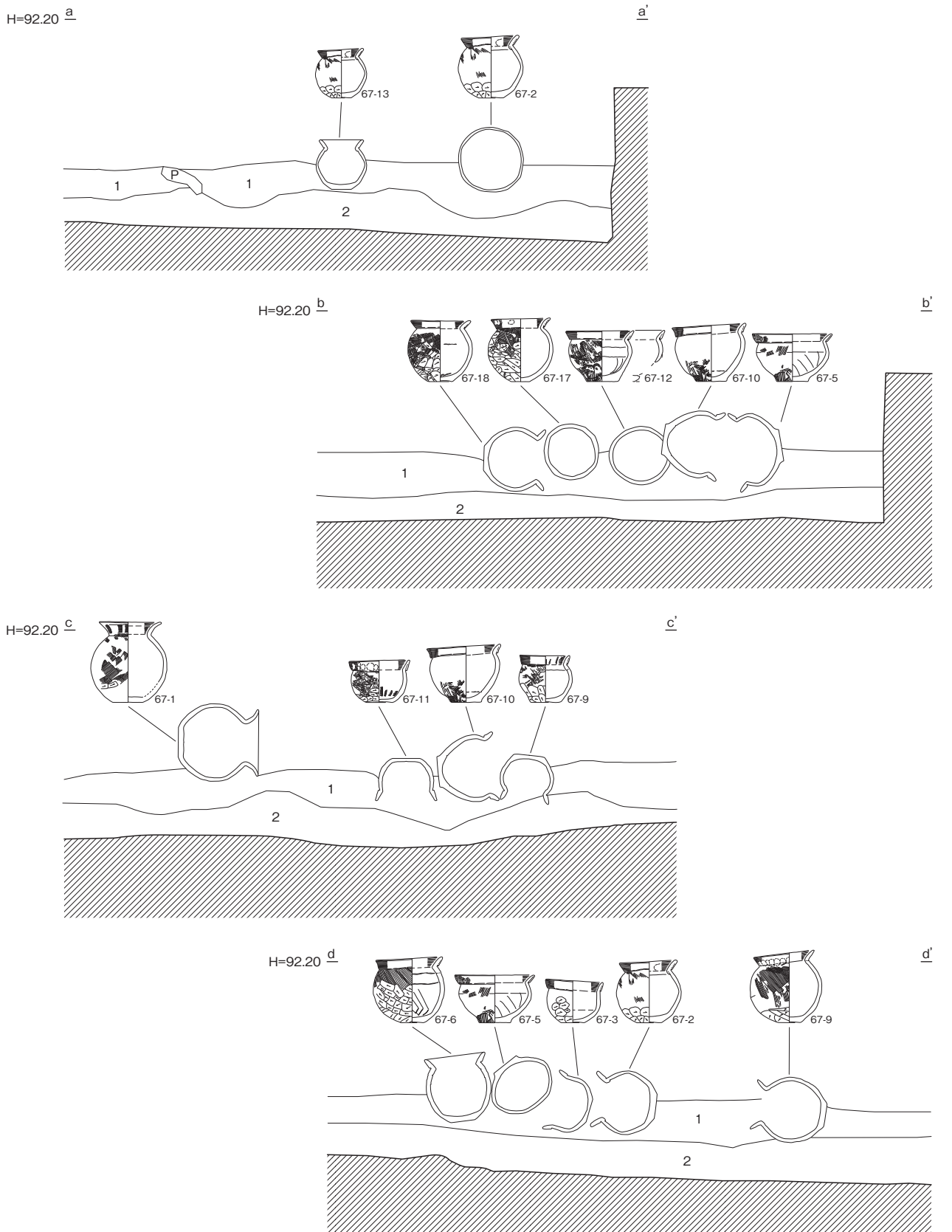
第36図 SK 89・138・144・149・SX 100 実測図





0 50cm
1:10

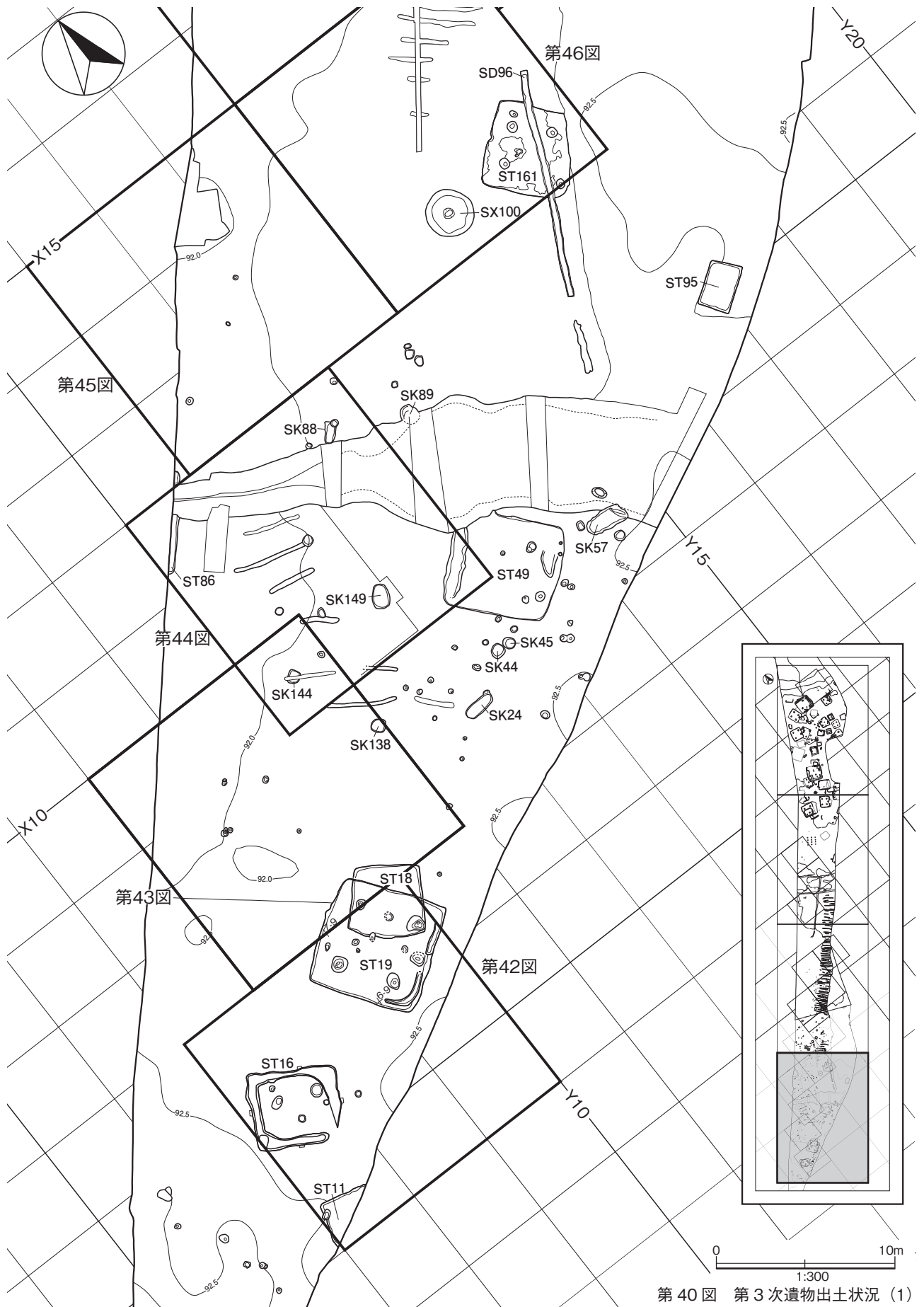
第38図 X16-Y17G 実測図(2)



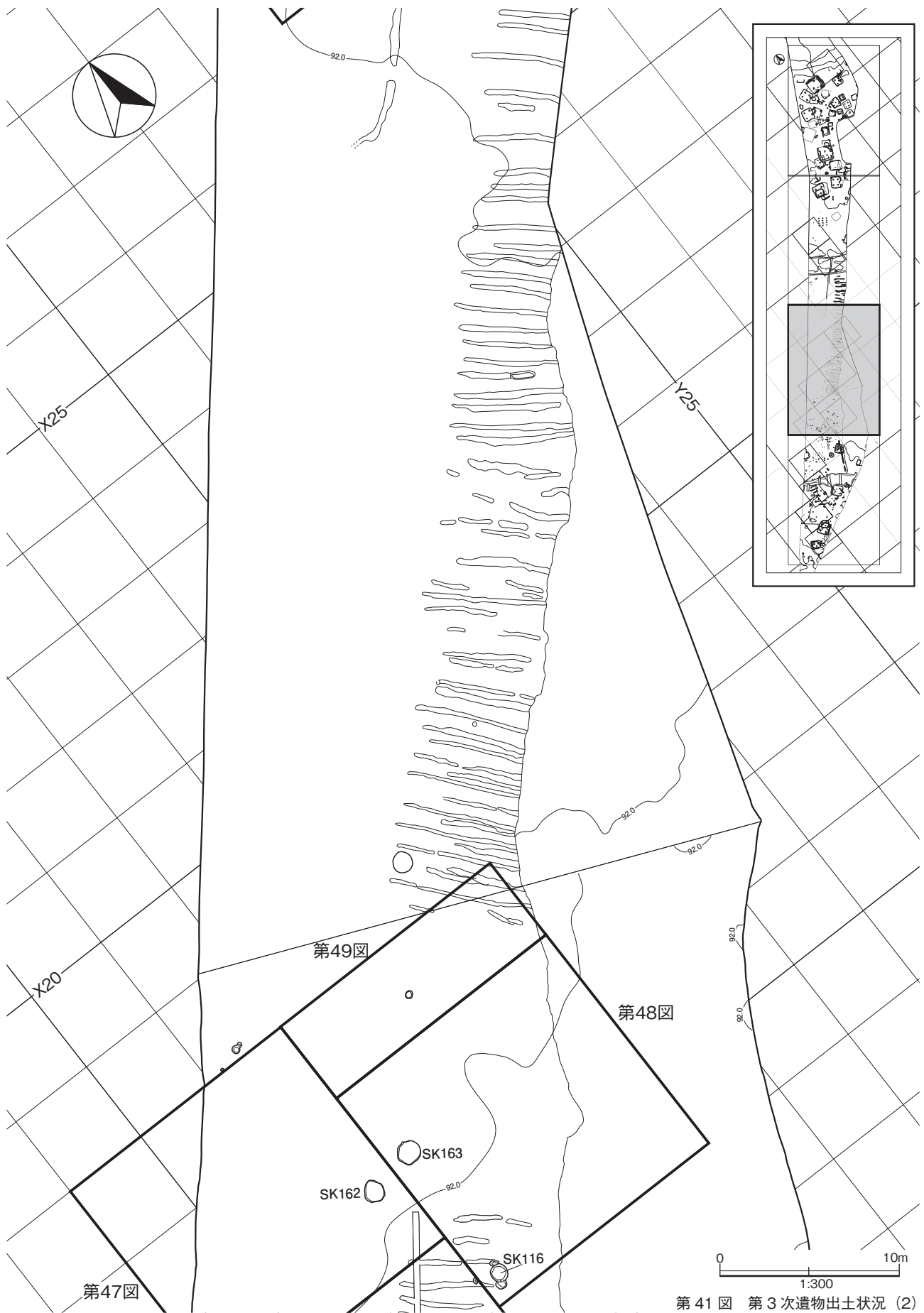
a-a' b-b' c-c' d-d'
 1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 締まりの弱い砂質土。粘性を有す。0.1cm大の粘土粒を含み、炭化物混入。
 2. 7.5YR4/4 褐色シルト 締まりのある粘質土。褐色層と炭化層の混層。砂粒を少量含む。

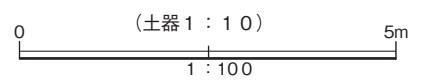
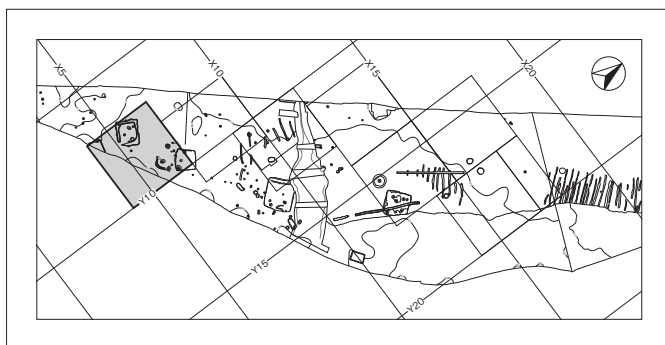
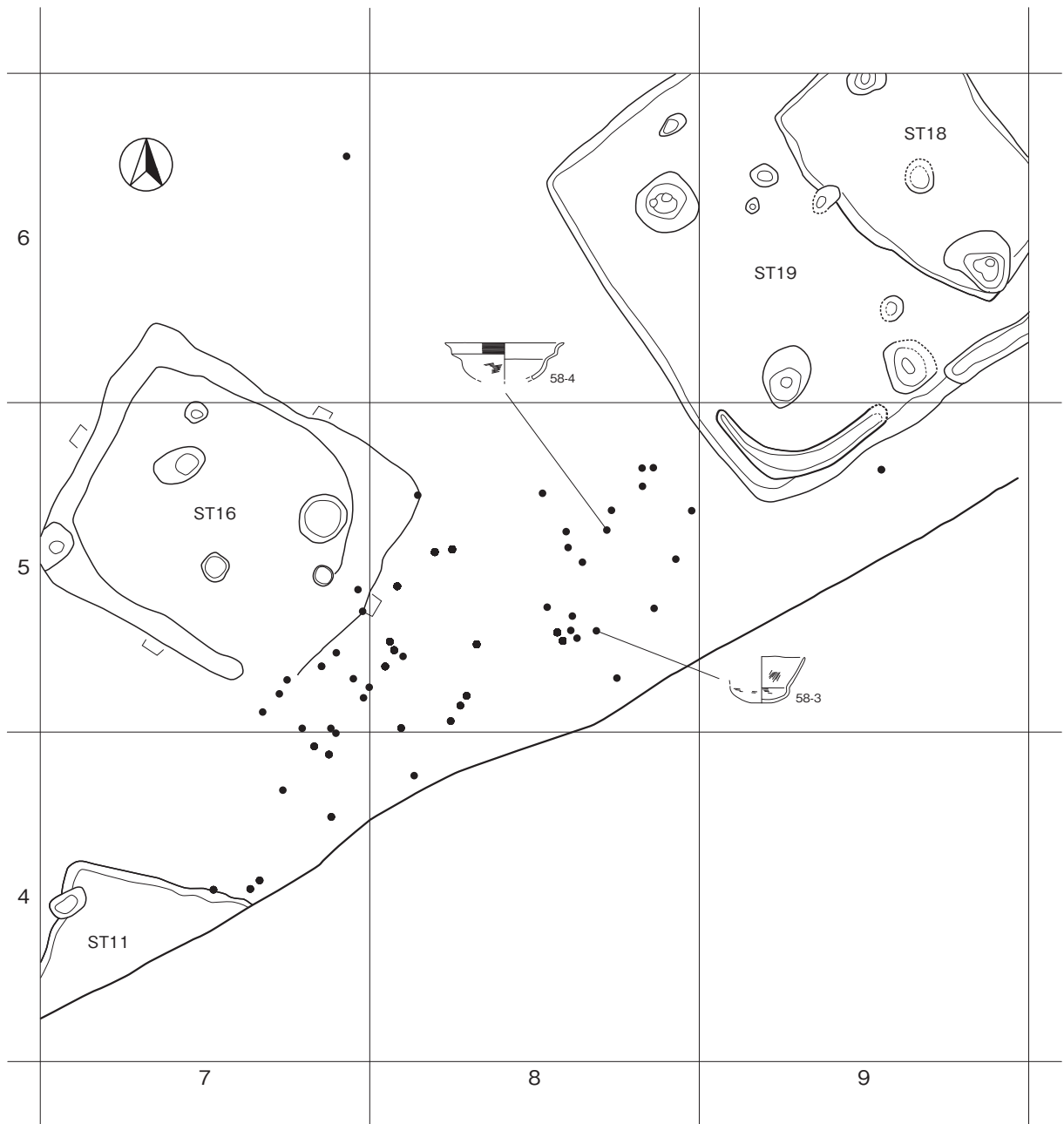
0 50cm
 1 : 10

第39図 X16-Y17G 断面図

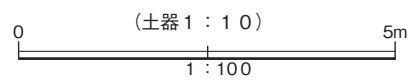
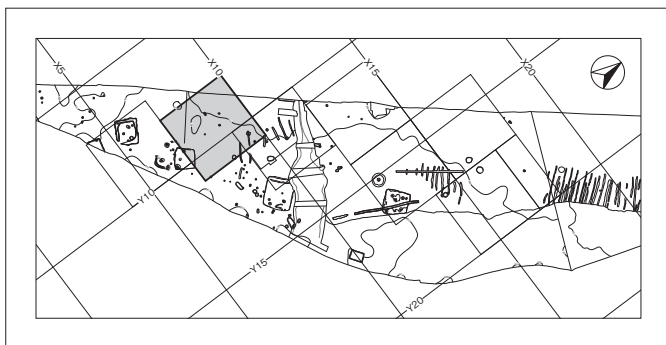
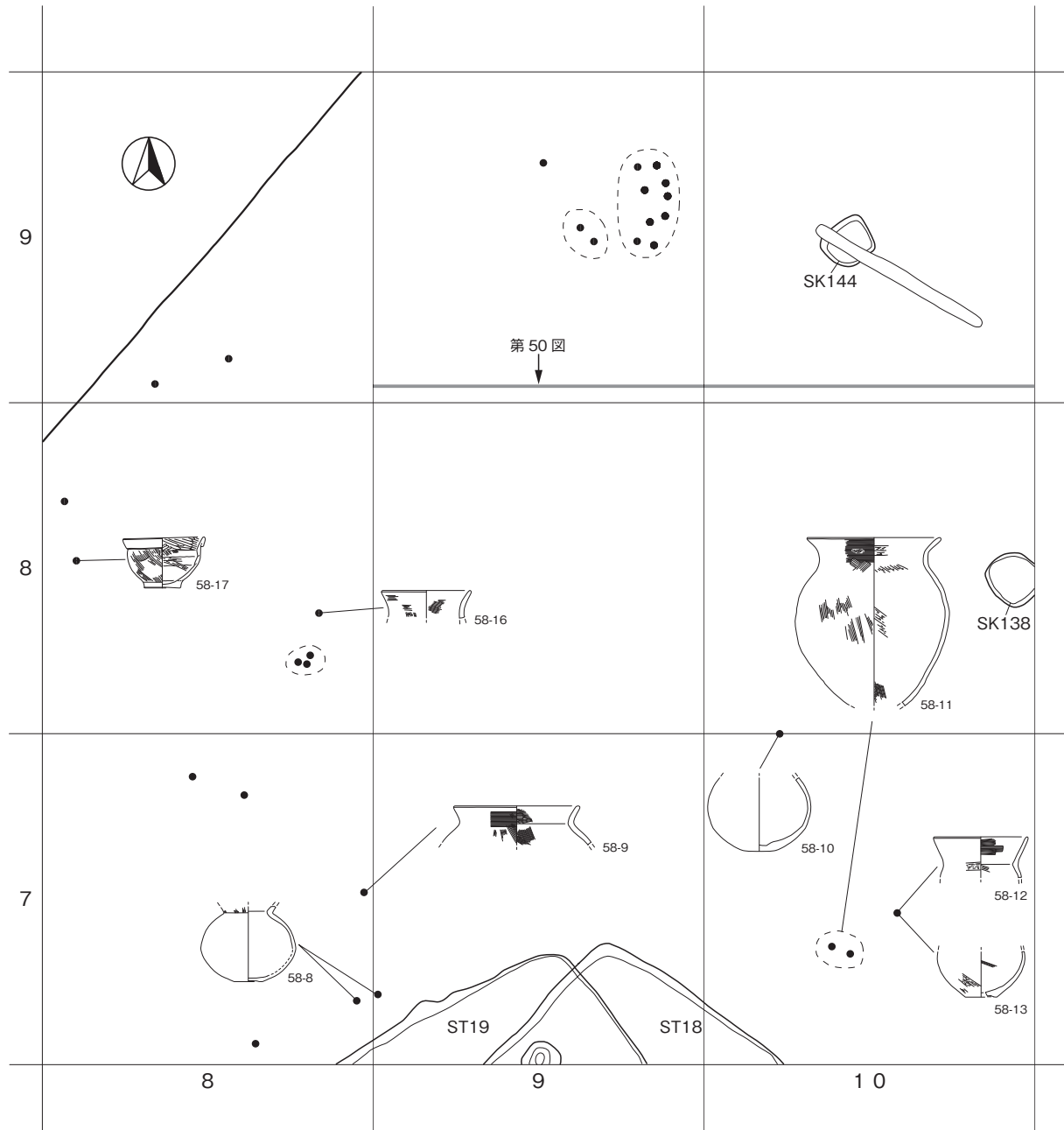


第40図 第3次遺物出土状況(1)

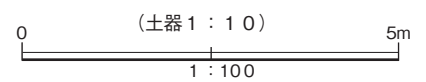
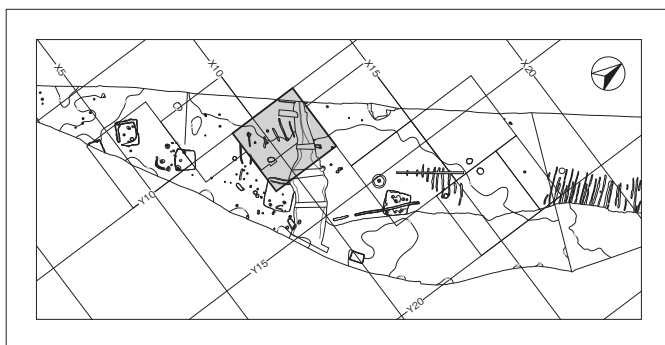
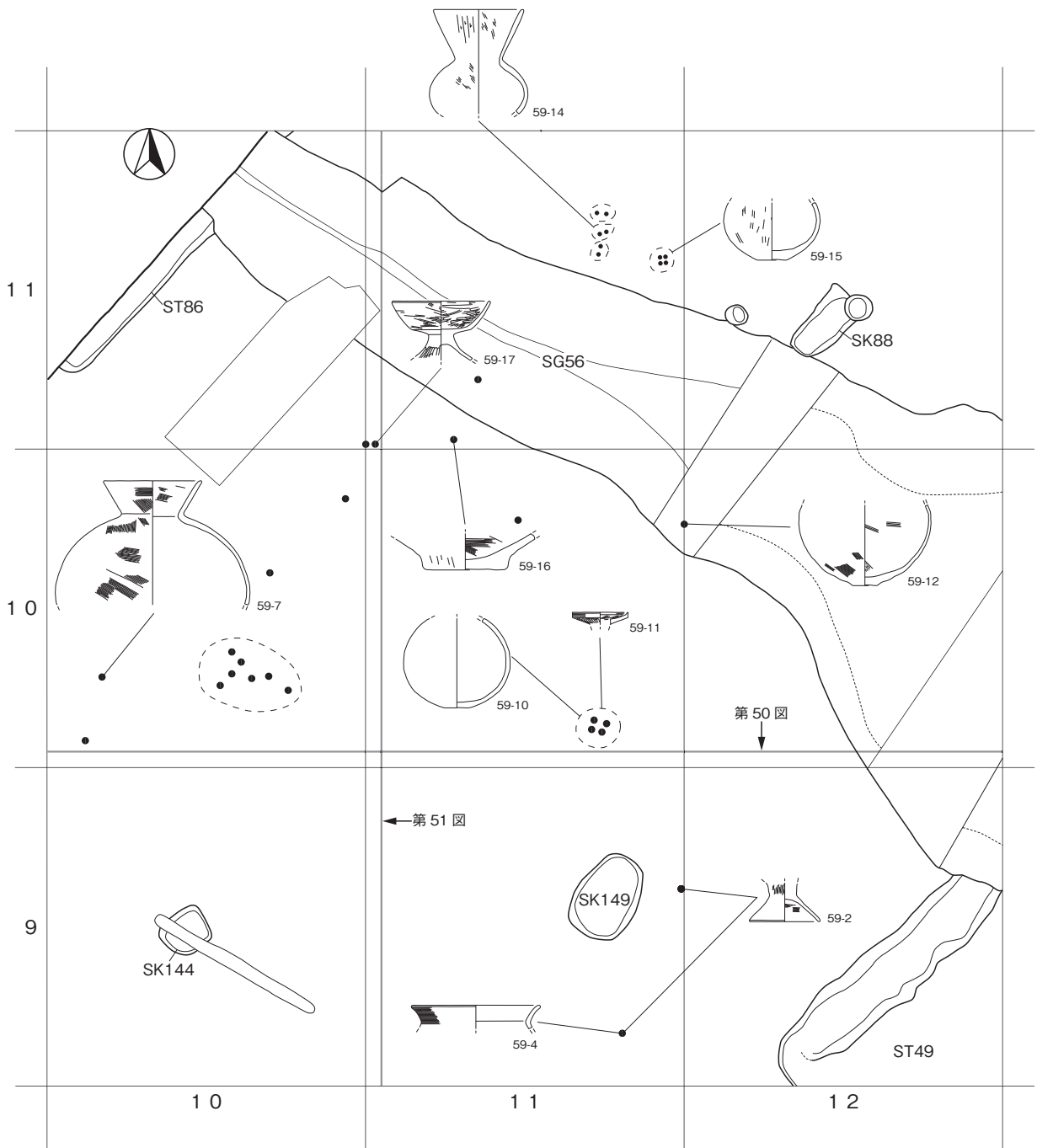




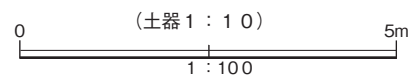
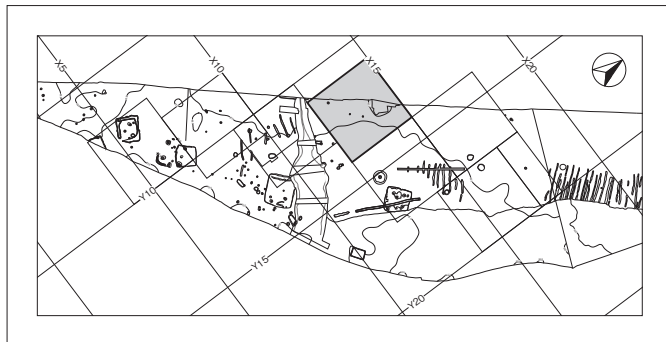
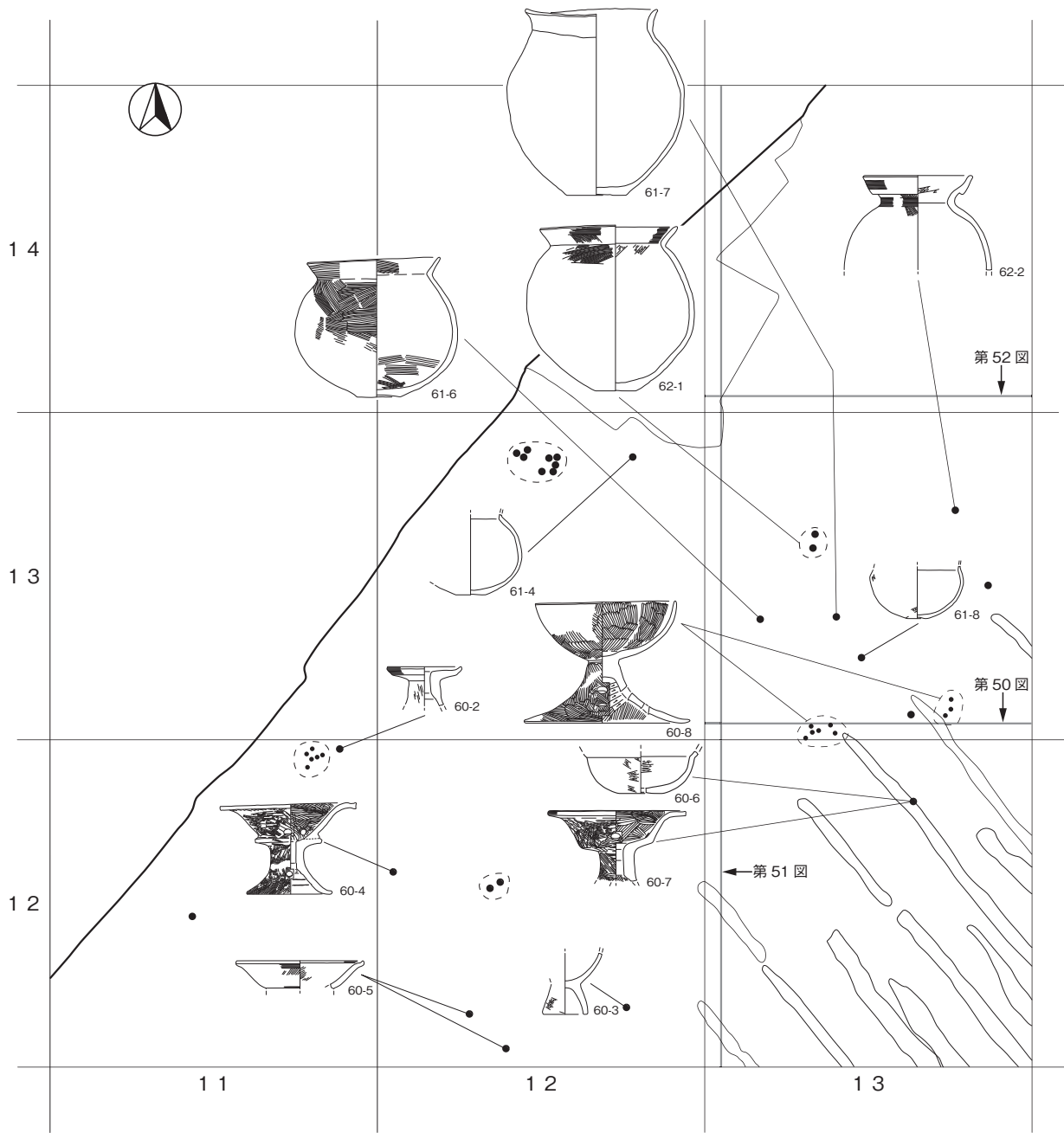
第42図 第3次遺物出土状況(3)



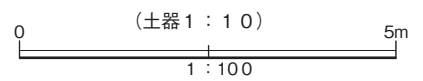
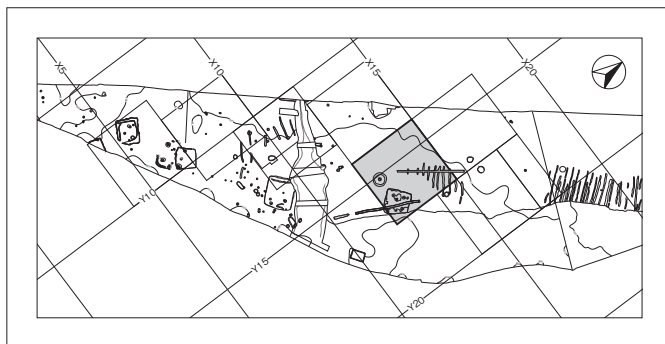
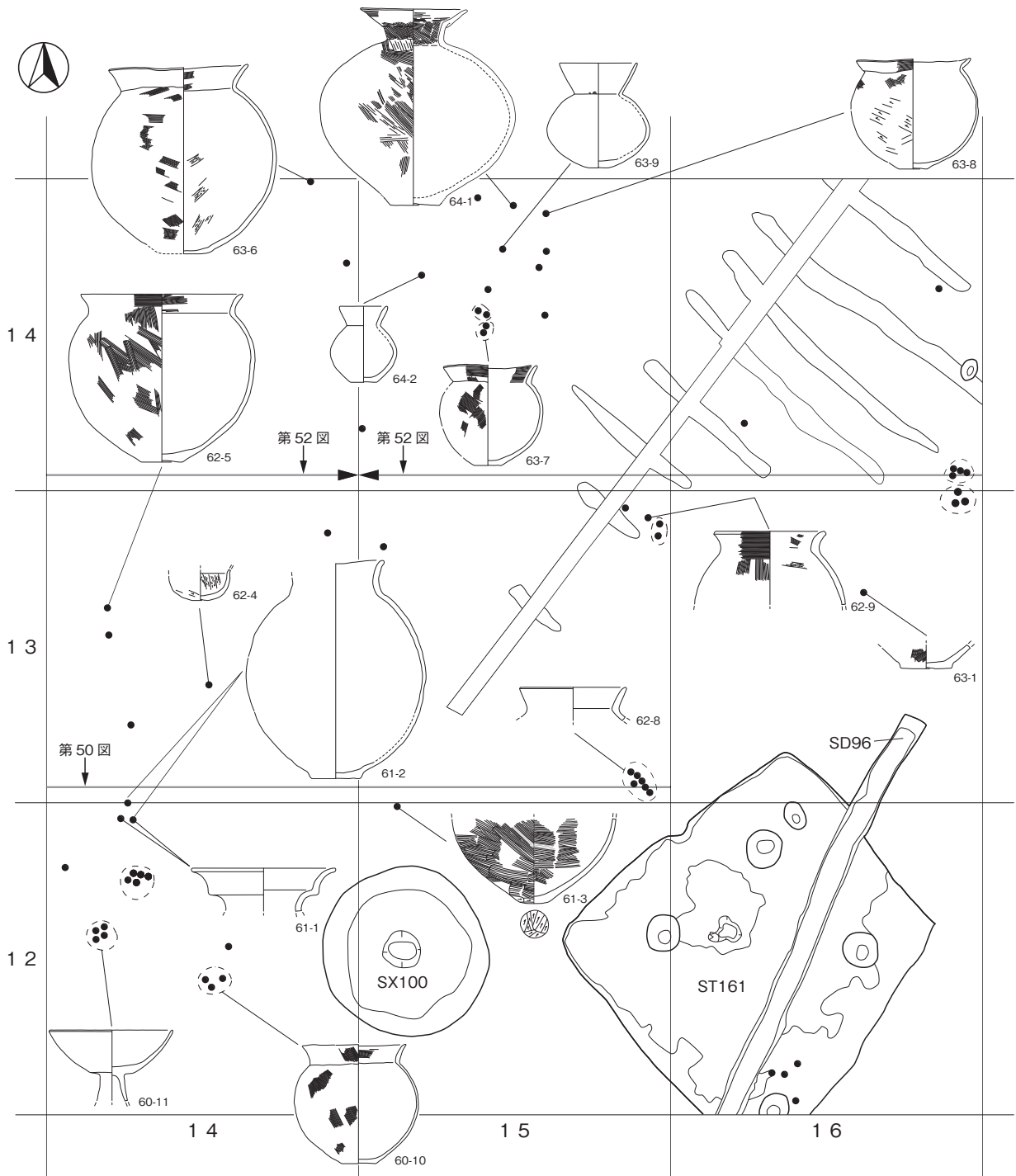
第43図 第3次遺物出土状況(4)



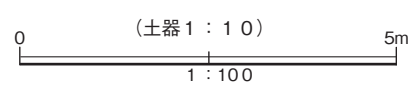
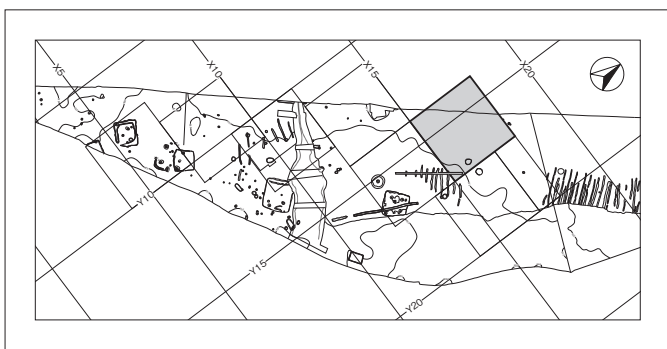
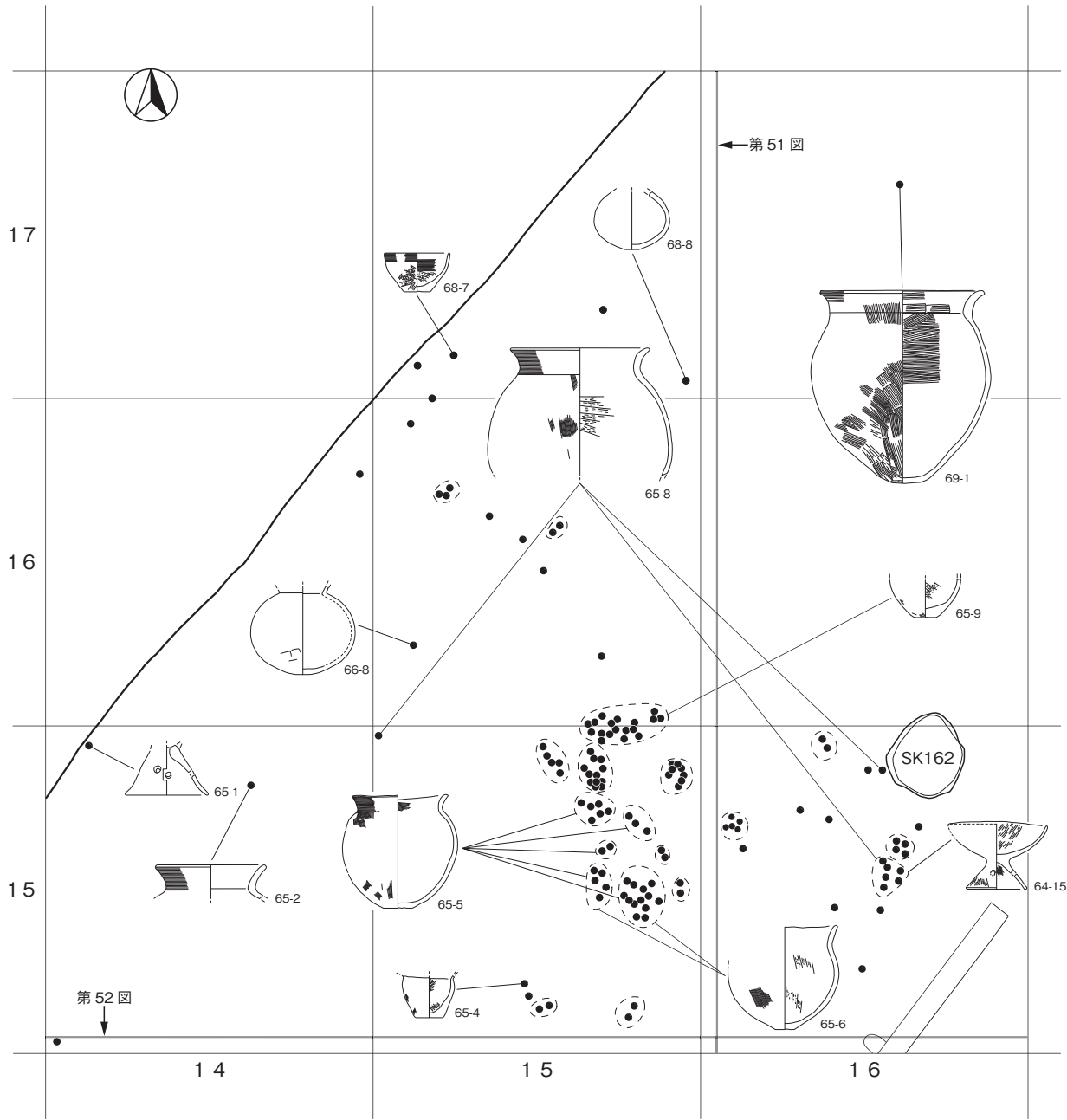
第44図 第3次遺物出土状況 (5)



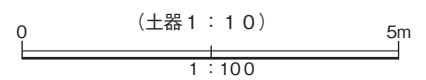
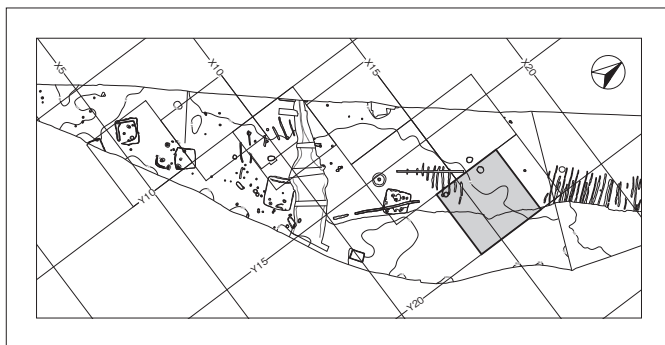
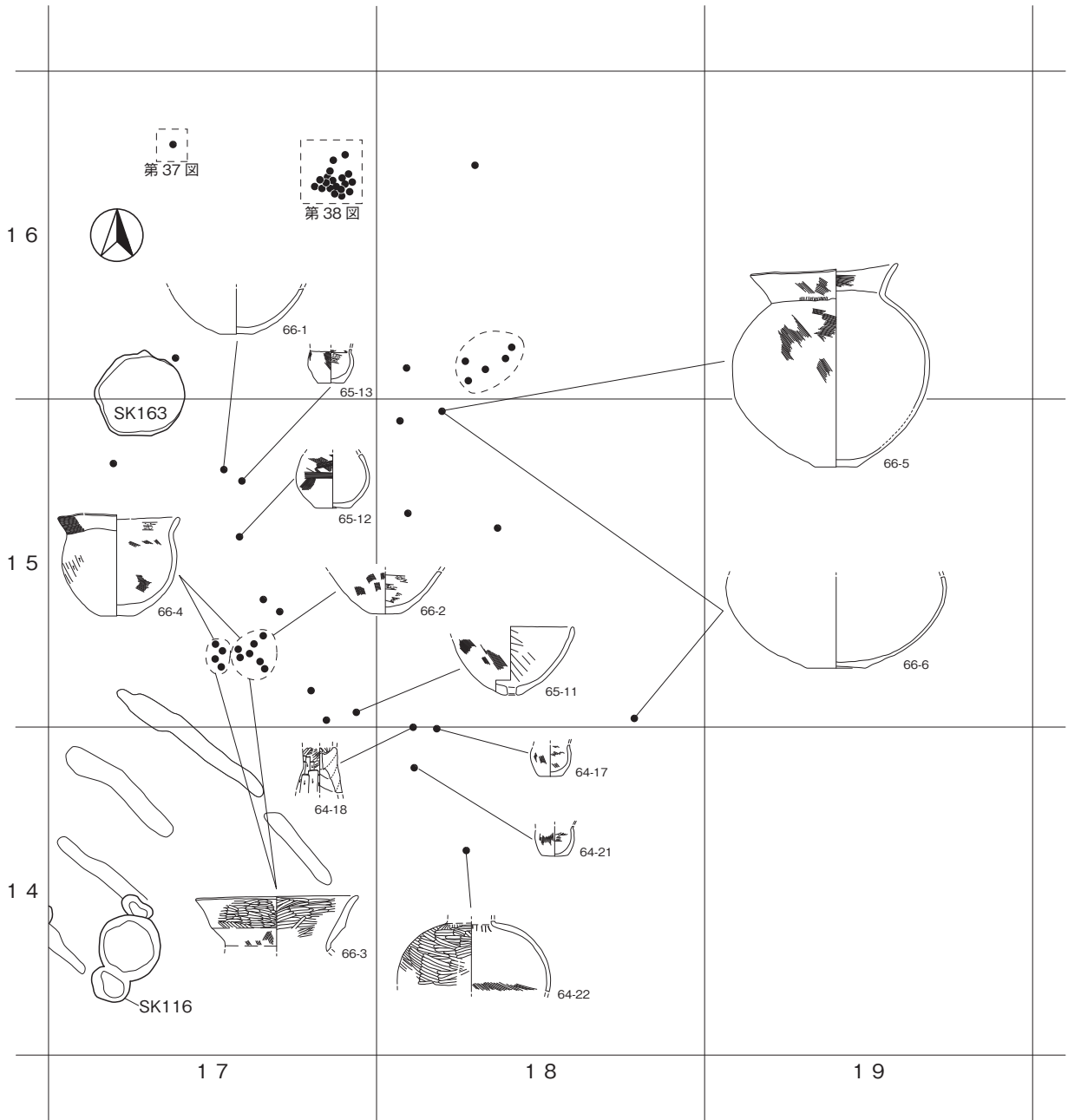
第45図 第3次遺物出土状況 (6)



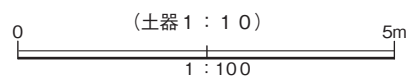
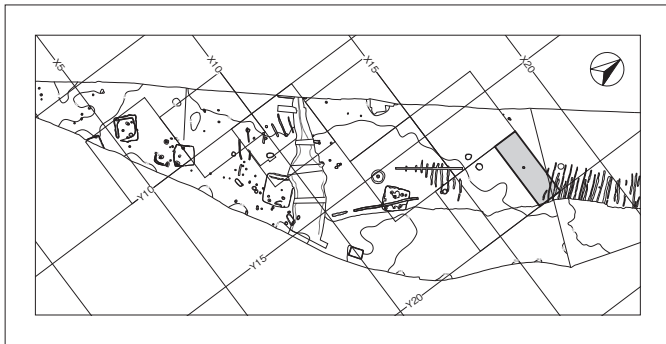
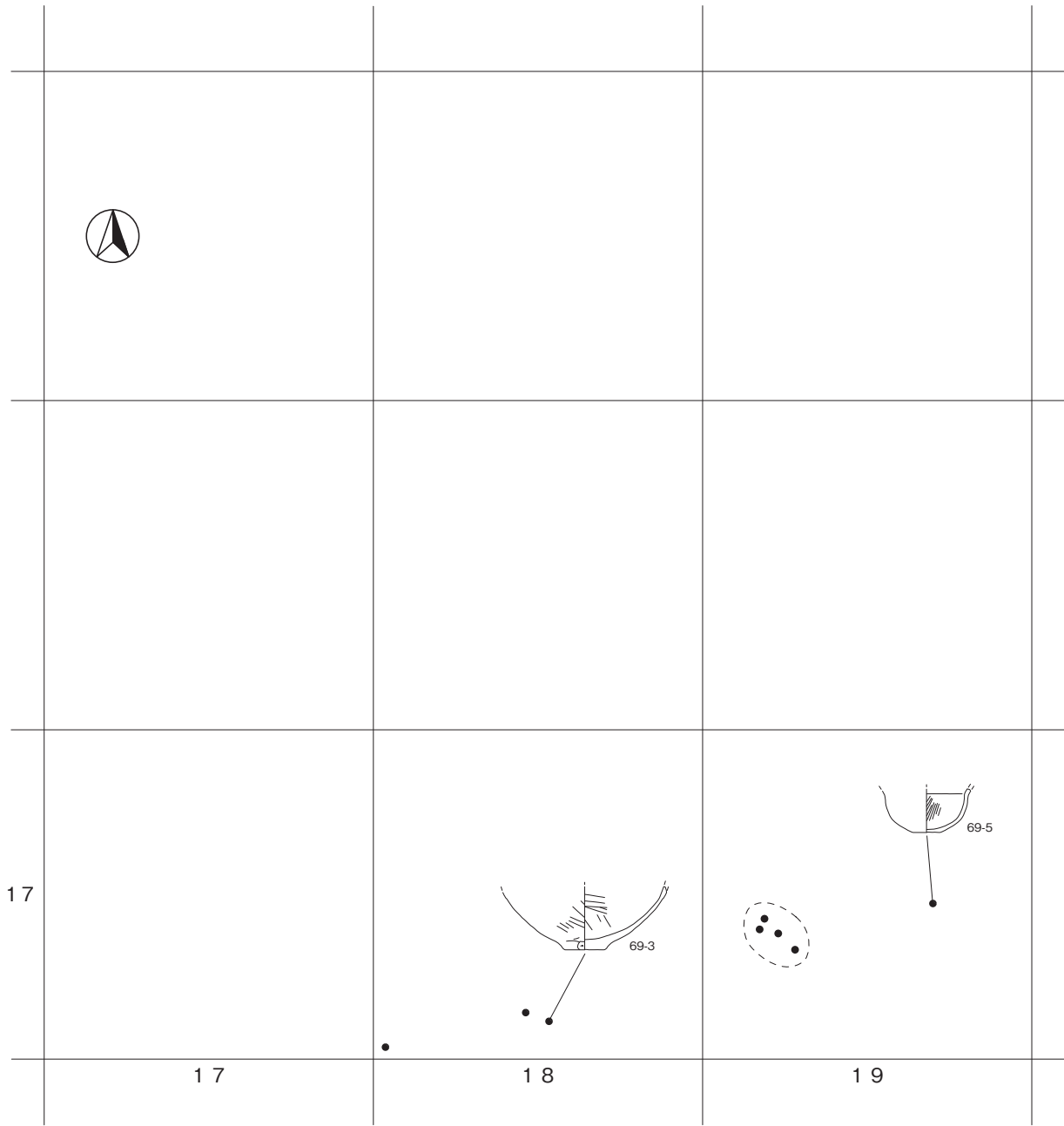
第46図 第3次遺物出土状況(7)



第47図 第3次遺物出土状況 (8)

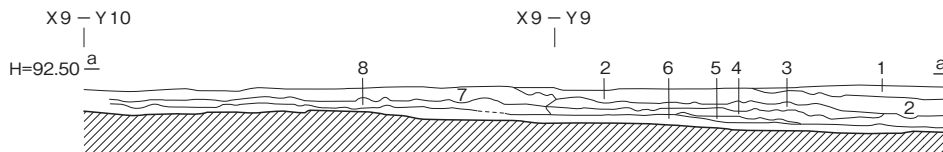


第48図 第3次遺物出土状況(9)



第49図 第3次遺物出土状況 (10)

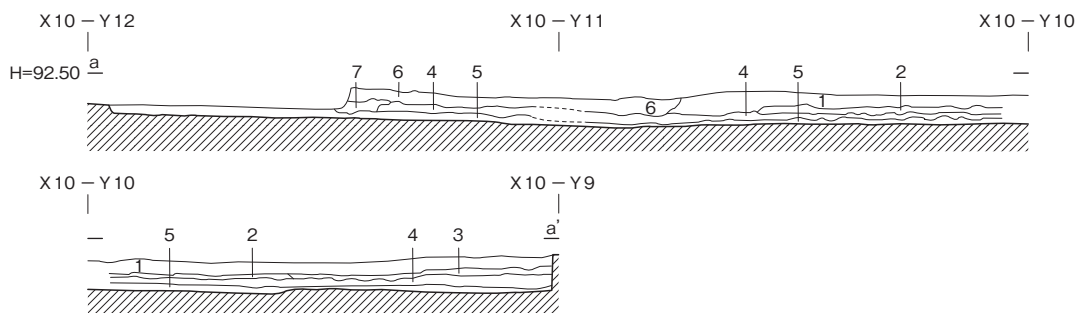
X 9 軸北 25cm a-a'



X 9 軸北 25cm

- 1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒をやや多く含む。2に比し色調が明るい。
- 2. 7.5YR3/2 黒褐色土 やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色土 やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。
- 4. 10YR3/3 暗褐色土 やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。5mm～1cm大の粘土ブロックを多く含む。上位は色調が明るく、下位は粘土ブロックが多いため、色調が明るい。
- 5. 10YR4/1 褐褐色土 やや締りを欠く。粘質土で、上位にシルト質土が混じる。
- 6. 7.5YR3/2 黒褐色土 やや締りを有す。粘質土で、中位ににぶい黄褐色粘土（10YR4/3）が縞状に堆積し、その直下が黒色を帯びる。
- 7. 10YR3/3 暗褐色土 やや締りを有す。シルト質土で、2mm～2cm大の粘土粒をやや多く含む。
- 8. 10YR3/3 暗褐色土 締りを有す。粘質土で、2mm～2cm大の粘土粒、ブロックを多く含む。2mm大の炭化粒を少々含む。上位にシルト質土が多く混じる。

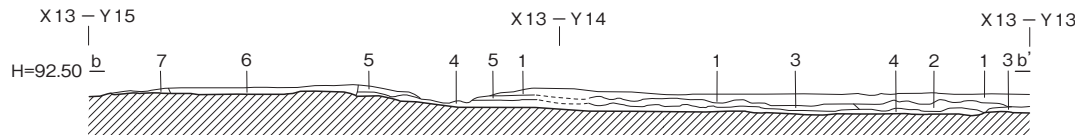
X 10 軸北 25cm a-a'



X 10 軸北 25cm

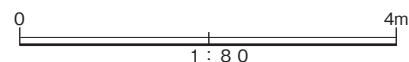
- 1. 10YR3/3 暗褐色土 やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。
- 2. 7.5YR3/3 暗褐色土 締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。1よりも色調がやや明るく、粘性が強い。5mm大の粘土粒を少々含む。
- 3. 7.5YR3/2 黒褐色土 やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。2に相当するが、東側は灰色シルト質土と酸化鉄が混じり、西側は色調が暗くなる。
- 4. 10YR3/3 暗褐色土 やや締りを欠く。粘質土で、上位にはシルト質土が多く混じる。下位に1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
- 5. 7.5YR3/1 黒褐色土 やや締りを有す。粘質土で、中位に暗褐色粘土が縞状に堆積する。暗褐色粘土の直上または直下が黒色土となる部分もある。
- 6. 10YR3/2 黒褐色土 やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm～1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
- 7. 7.5YR3/2 黒褐色土 締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。2mm～5mm大の粘土粒を多く含み、2mm大の炭化粒を少々含む。

X 13 軸北 25cm b-b'



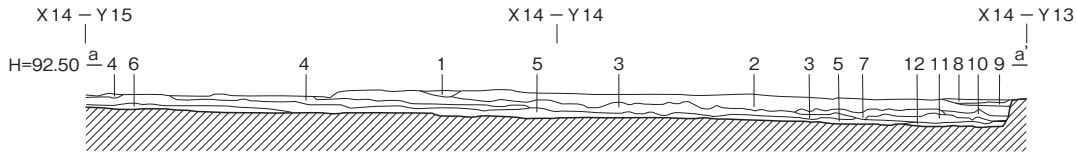
X 13 軸北 25cm b-b'

- 1. 10YR3/3 暗褐色土 やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。
- 2. 7.5YR4/2 灰褐色土 やや締りを有す。シルト質土で、1よりも粒子が粗いが、下位には粘質土が多く混じり、粘性を有す。
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色土 やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm～5mm大の粘土をやや多く含む。
- 4. 7.5YR3/1 黒褐色土 締りを有す。粘質土で、層の中位に5mm～1cm大の粘土ブロックが縞状に含まれる。2mm大の炭化粒を少々含む。
- 5. 7.5YR3/1 黒褐色土 やや締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。4よりも色調が明るく、シルト質土がやや多く混じる。5の下位～4の上位にかけて遺物出土。
- 6. 10YR3/2 黒褐色土 締りを有す。前回調査時遺構（井戸跡？）の埋め土。
- 7. 10YR3/1 黒褐色土 締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒をやや多く含む。



第 50 図 X 9・X 10・X 13 軸北断面図

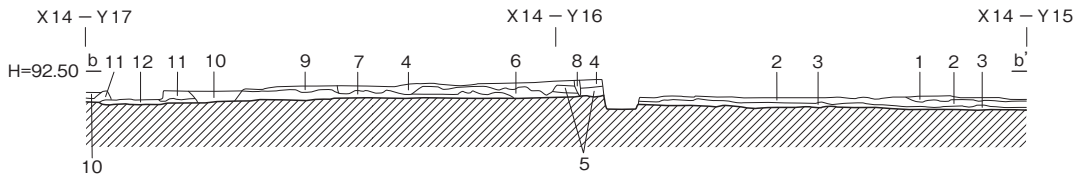
X14 軸北 25cm a-a'



X14軸北25cm a-a'

- | | |
|-------------------|--|
| 1. 7.5YR3/2 黒褐色土 | やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm~1cm大の粘土ブロック（黒褐色）を多く含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色土 | やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。1よりも色調が明るい。 |
| 3. 10YR3/3 暗褐色土 | やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。下に粘質土が多く混じる。2よりも色調が明るい。 |
| 4. 7.5YR3/2 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、シルト質土がやや多く混じる。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 5. 7.5YR3/1 黒褐色土 | 締りを有す。粘質土で、中に暗褐色粘土を縞状に含む。中位の粘土の下部の色調は黒色が強くなる。 |
| 6. 10YR3/1 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。5下部の粘質よりも色調がやや明るい。 |
| 7. 7.5YR4/2 灰褐色土 | 締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒をわずかに含む。比較的均質な層である。 |
| 8. 7.5YR3/2 黒褐色土 | 締りを有す。粘質土で、調査時の二次堆積土。 |
| 9. 10YR3/3 暗褐色土 | 締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒をわずかに含む。 |
| 10. 10YR3/2 黒褐色土 | やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 11. 10YR3/3 暗褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、上位にシルト質土が多く混じる。 |
| 12. 7.5YR3/1 黒褐色土 | 締りを有す。粘質土で、5に類似するが、上位は灰色化が著しく、酸化鉄が認められる。 |

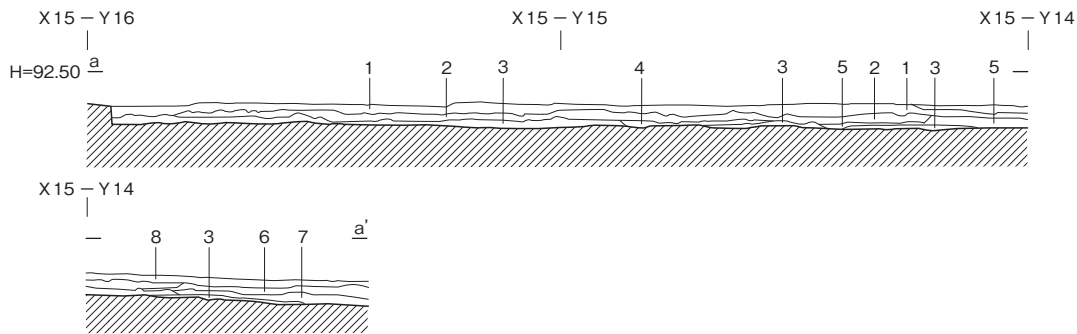
X14 軸北 25cm b-b'



X14軸北25cm b-b'

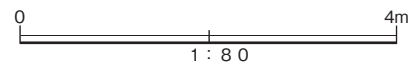
- | | |
|-------------------|--|
| 1. 10YR3/1 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒、炭化粒を少々含む。 |
| 2. 10YR3/1 黒褐色土 | 締りを有す。粘質土で、上半に褐灰色粘土ブロック（7.5YR4/2）を縞状に含み、下半は黒色が強まる。 |
| 3. 7.5YR3/1 黒褐色土 | 締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。2よりも色調が明るい。 |
| 4. 7.5YR3/3 暗褐色土 | やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 5. 7.5YR3/1 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、2mm~1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。 |
| 6. 7.5YR3/1 黒褐色土 | やや締りを欠く。粘質土で、5mm~2cm大の粘土ブロックを多く含む。2に相当か。 |
| 7. 10YR3/1 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。3に相当か。 |
| 8. 10YR3/3 暗褐色土 | 締りを欠く。2cm大の粘土ブロックからなり、黒褐色土が混じる。根の混入痕であろう。 |
| 9. 7.5YR3/1 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 10. 7.5YR3/3 暗褐色土 | やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。下に黒褐色粘質土が混じる。耕作痕であるが時期は不明。 |
| 11. 10YR3/1 黒褐色土 | 締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 12. 7.5YR3/2 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。11よりも色調が明るい。 |

X15 軸 a-a'

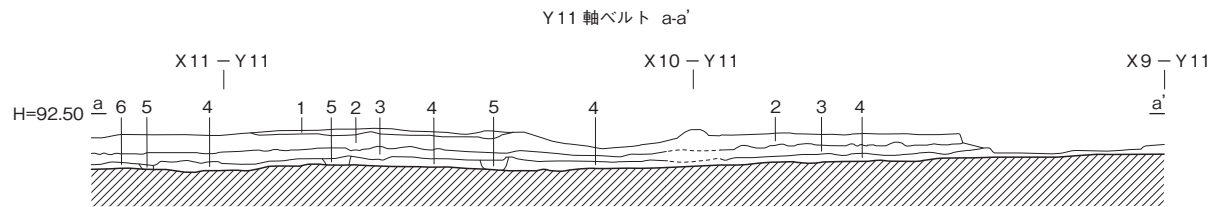


X15軸 a-a'

- | | |
|------------------|--|
| 1. 7.5YR3/2 黒褐色土 | やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 2. 10YR4/2 灰黄褐色土 | やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。上位に粘質土が縞状に堆積する。 |
| 3. 10YR3/2 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、中に暗褐色粘土を縞状に含む。下位は黒色が強まる。 |
| 4. 7.5YR3/2 黒褐色土 | やや締りを有す。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。3よりも色調がやや明るい。 |
| 5. 7.5YR4/2 灰褐色土 | 締りを有す。粘質土で、灰色を帯び、酸化鉄が多く含まれる。 |
| 6. 10YR4/2 灰黄褐色土 | やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 7. 7.5YR4/3 褐色土 | やや締りを欠く。粘質土で、2mm~1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。 |
| 8. 7.5YR3/2 黒褐色土 | やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。 |

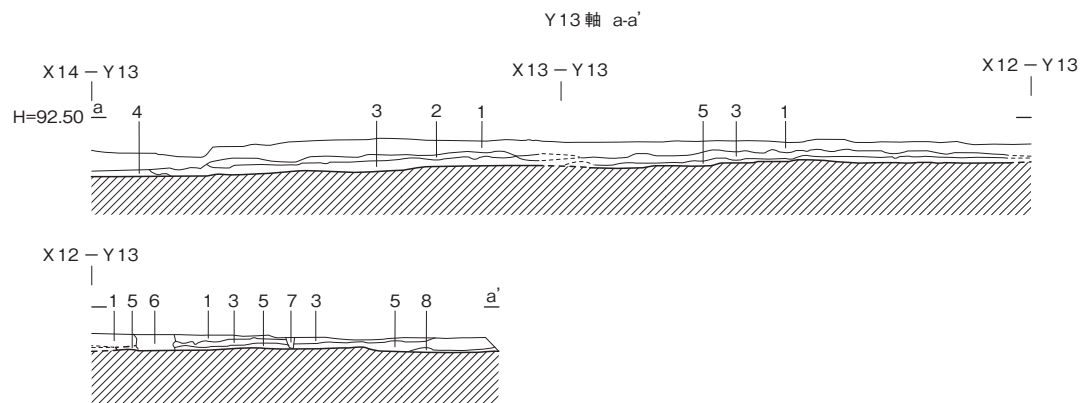


第51図 X14・X15 軸北断面図



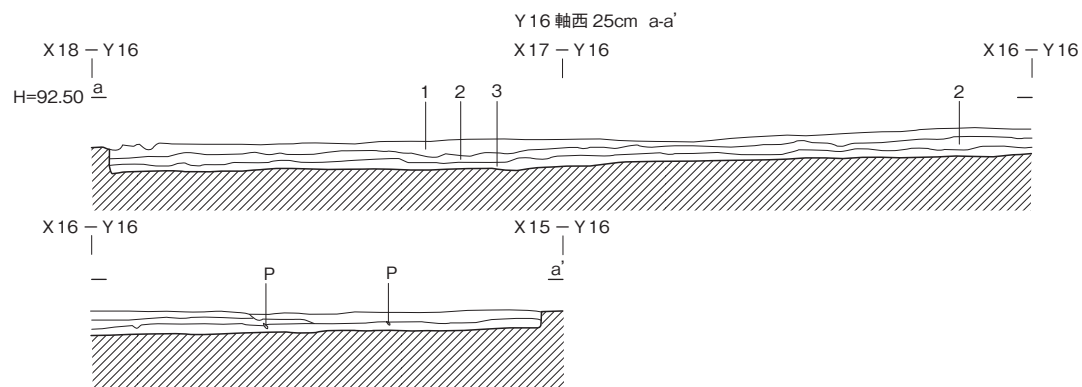
Y11軸ベルト a-a'

- 1. 7.5YR4/3 褐色土 やや締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。
- 2. 7.5YR3/3 暗褐色土 やや締りを有す。シルト質土で、粘性を有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含み、微細な炭化鉄を微量含む。
- 3. 7.5YR3/2 黒褐色土 やや締りを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm~5mm大の炭化粒を少々含む。シルト質土が多く混じる。
- 4. 7.5YR3/1 黒褐色土 やや締りを有す。粘質土で、中に褐色粘土が縞状に堆積する。粘土層より下位は黒色が強い。
- 5. 10YR3/2 黒褐色土 やや締りを欠く。粘質土で、2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。耕作痕で黒色粘質土が攪はんを受けたように混じる。古墳時代の畝跡か？



Y13軸 a-a'

- 1. 7.5YR3/3 暗褐色土 締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。上位に2mm大の粘土粒を少々含むが、比較的均質な層である。しかし南側は5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含み、色調も一定でない。
- 2. 10YR3/3 暗褐色土 締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm~1cm大の炭化粒、ブロックをわずかに含む。部分的に褐色粘土（7.5YR4/3）が層状に堆積する。
- 3. 7.5YR3/1 黒褐色土 やや締りを有す。粘質土で、黒色が強まる。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含み、5mm大の炭化ブロックを少々含む。
- 4. 7.5YR3/2 黒褐色土 締りを有す。粘質土で、上位に暗褐色シルト質土（10YR3/3）が混じる。粘質土は灰色を帯び、酸化鉄が多く含まれる。
- 5. 7.5YR2/1 黒色土 やや締りを有す。粘質土で、5mm大の粘土粒をやや多く含む。黒色が強く、上層との分層は容易。
- 6. 7.5YR3/2 黒褐色土 締りを有す。シルト質土で、2m~5mm大の粘土粒をやや多く含む。黒褐色粘質土が少々混じる。
- 7. 10YR4/2 灰黄褐色土 やや締りを有す。根の混入痕で、黒褐色土がブロック状に混じる。
- 8. 7.5YR2/1 黒色土 やや締りを有す。粘質土で、2mm大の粘土粒を少々含む。5よりも黒色を帯びる。



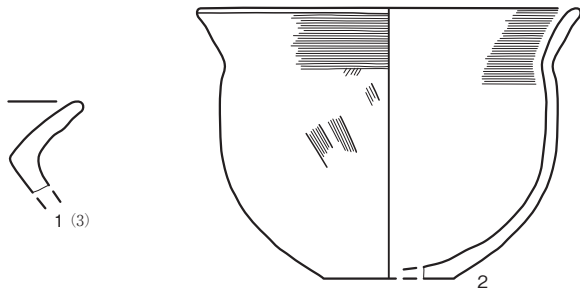
Y16軸西25cm a-a'

- 1. 7.5YR4/2 灰褐色土 やや締りを欠く。シルト質土で、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。
- 2. 7.5YR4/2 灰褐色土 やや締りを有す。シルト質土で、2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。部分的に酸化鉄が混じる。
- 3. 7.5YR3/1 黒褐色土 やや締りを有す。粘質土で、2mm~1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。一部グライ化し灰色を帯びる。

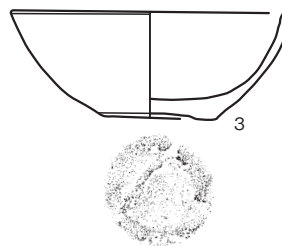


第52図 Y11・Y13・Y16 軸断面図

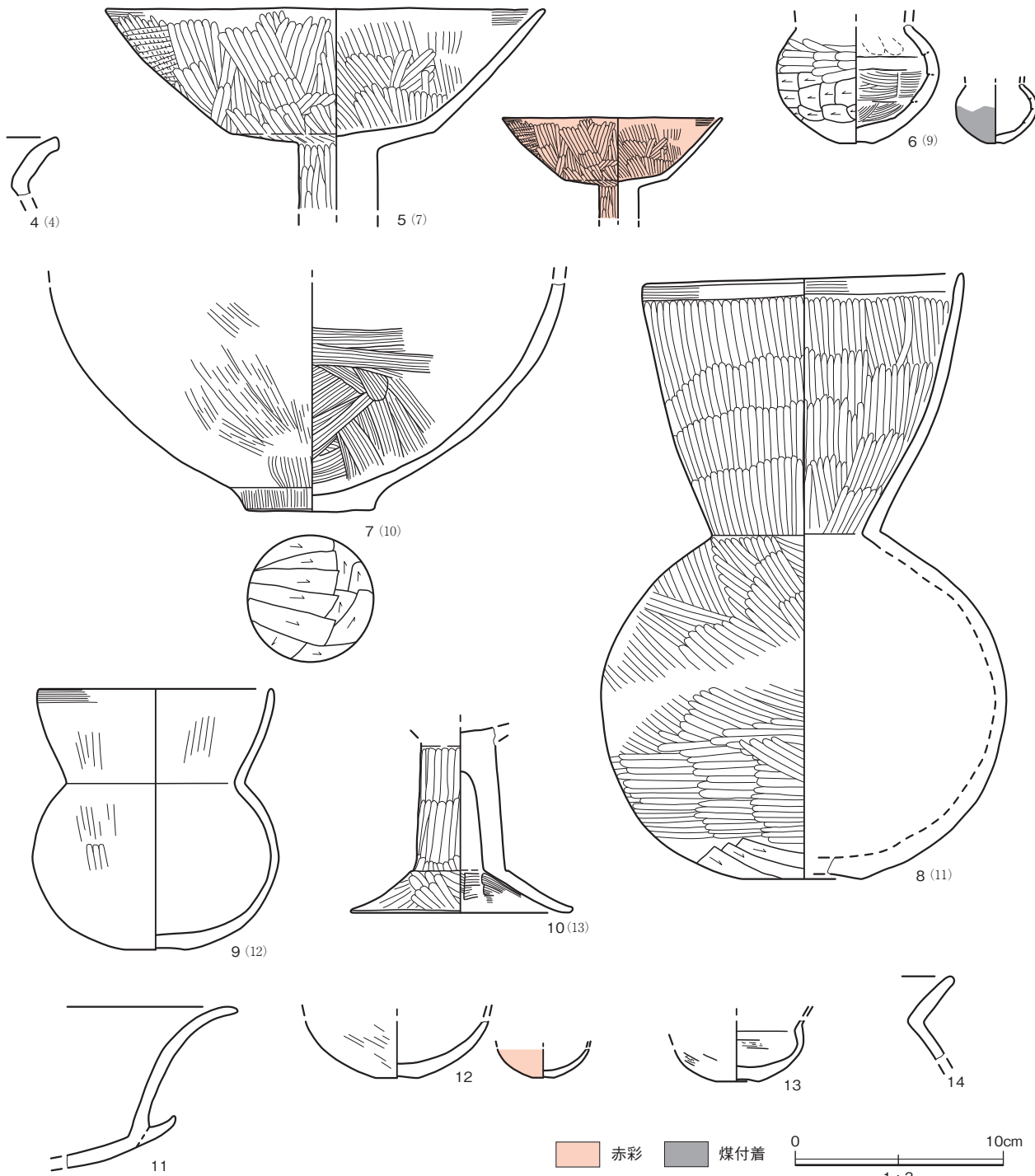
ST16



ST18

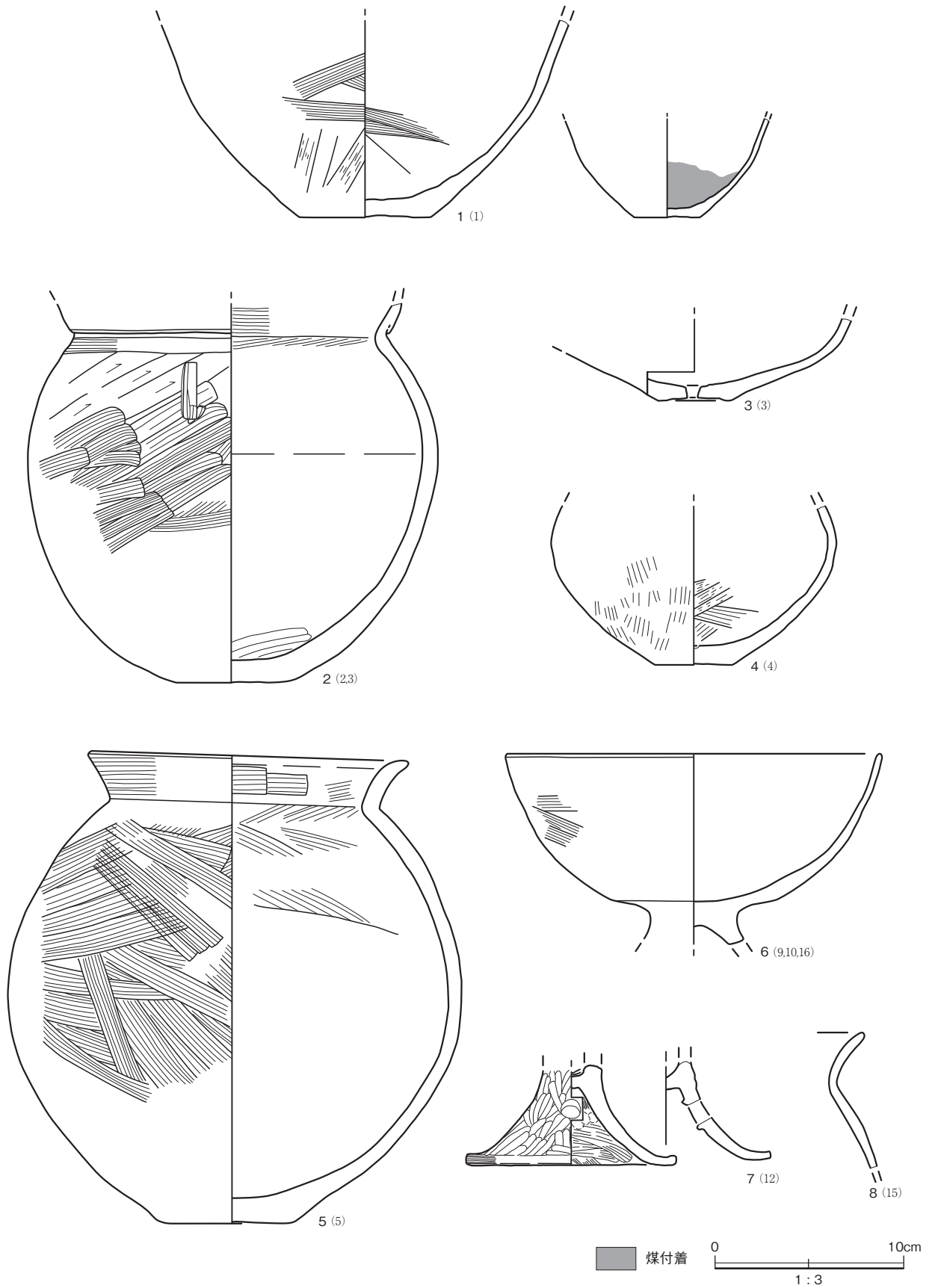


ST19



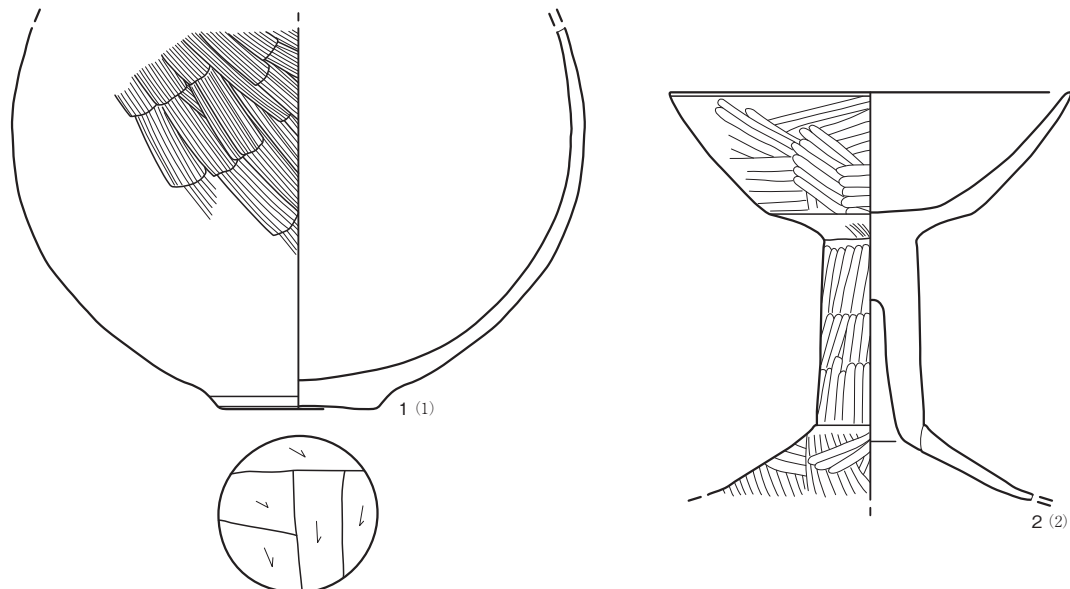
第53図 第3次遺構内出土土器実測図

ST49

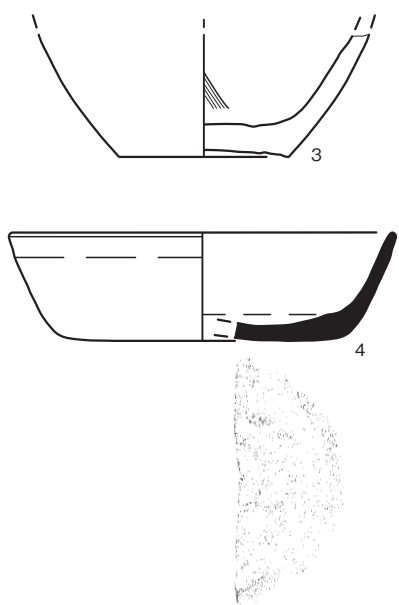


第54図 第3次遺構内出土土器実測図

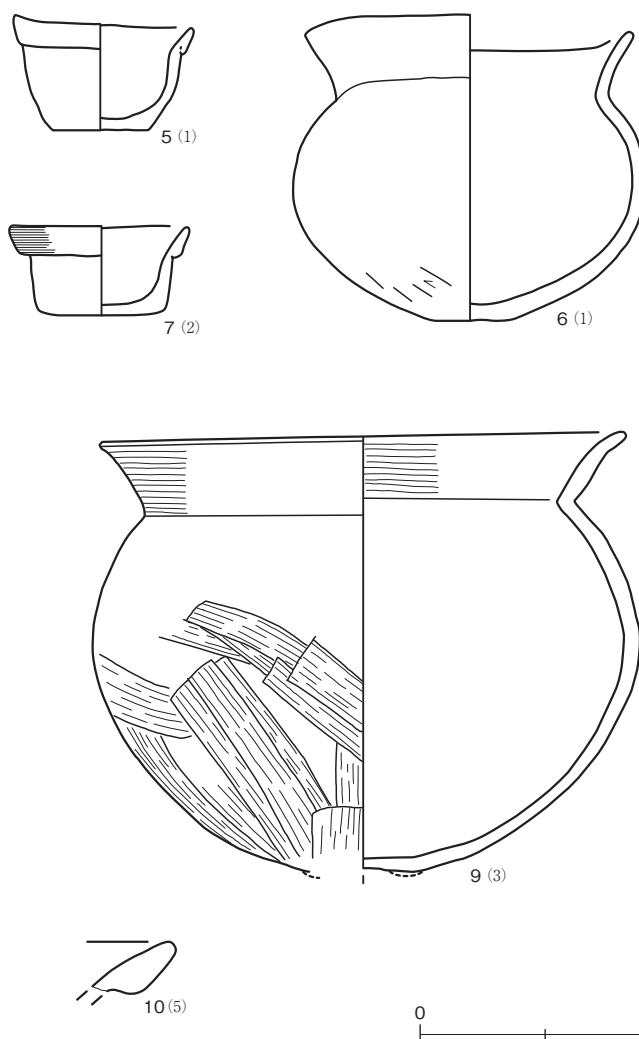
ST94



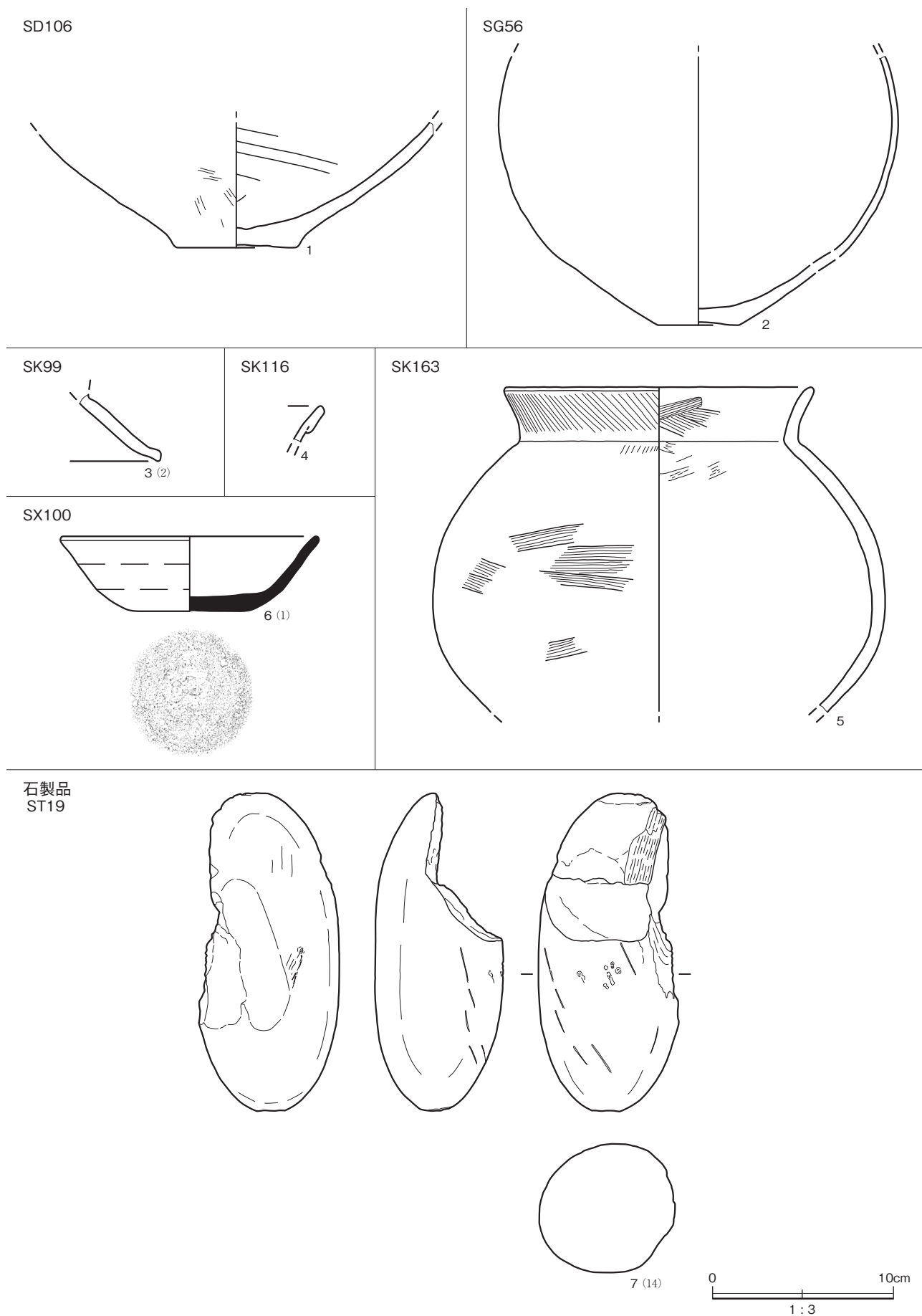
ST101



ST161



第55図 第3次遺構内出土土器実測図

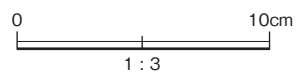
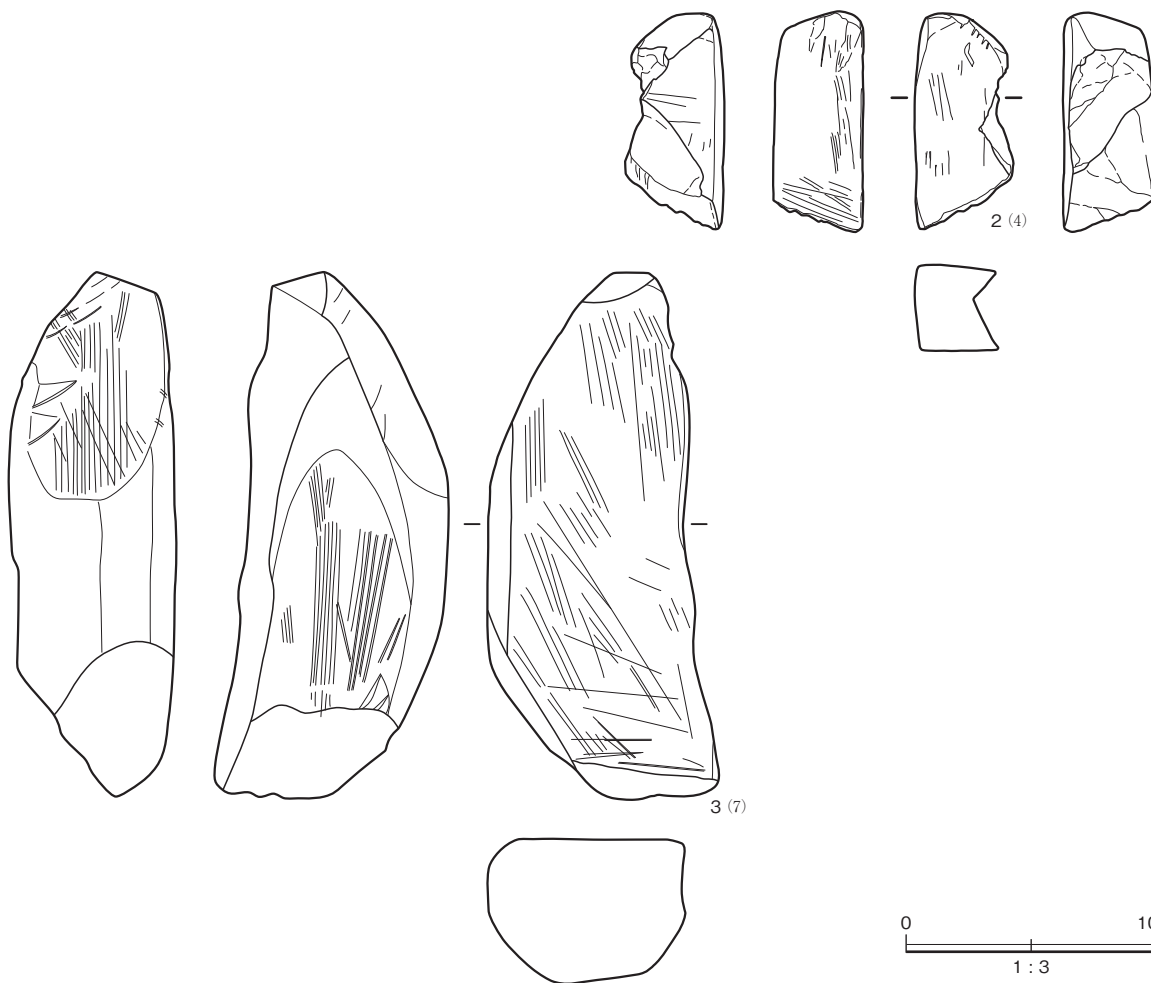


第56図 第3次遺構内出土土器・石製品実測図

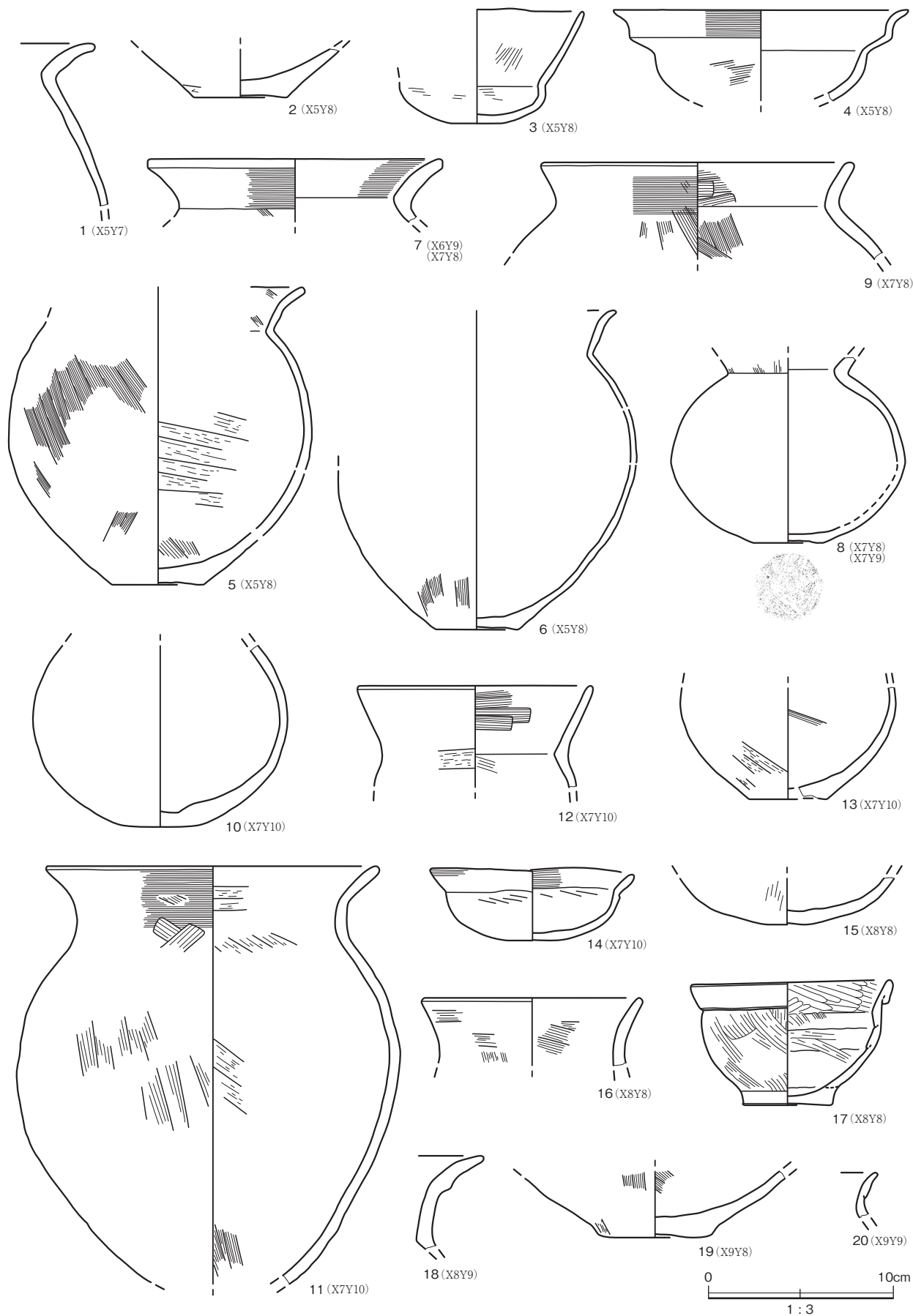
石製品
ST94



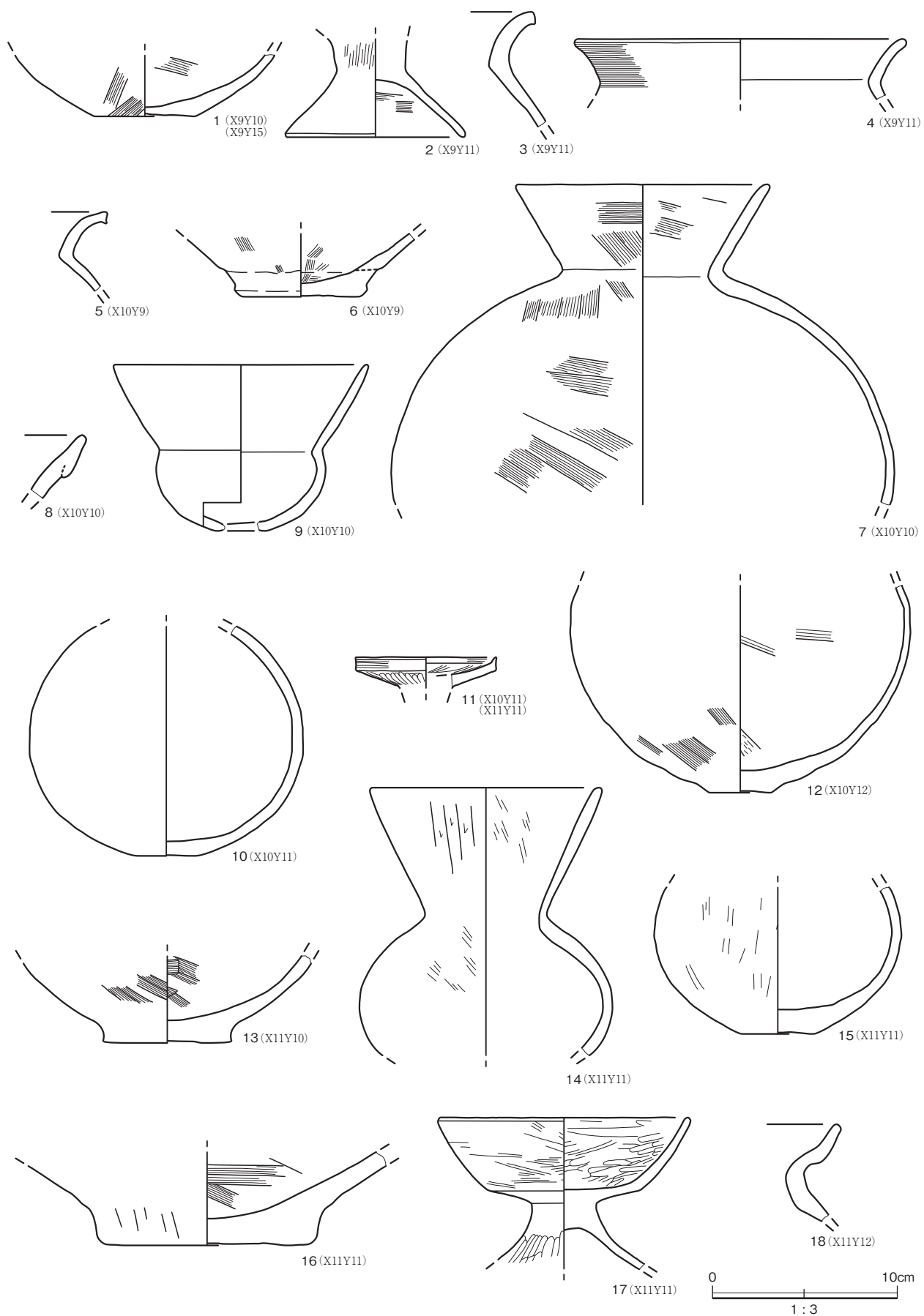
ST161



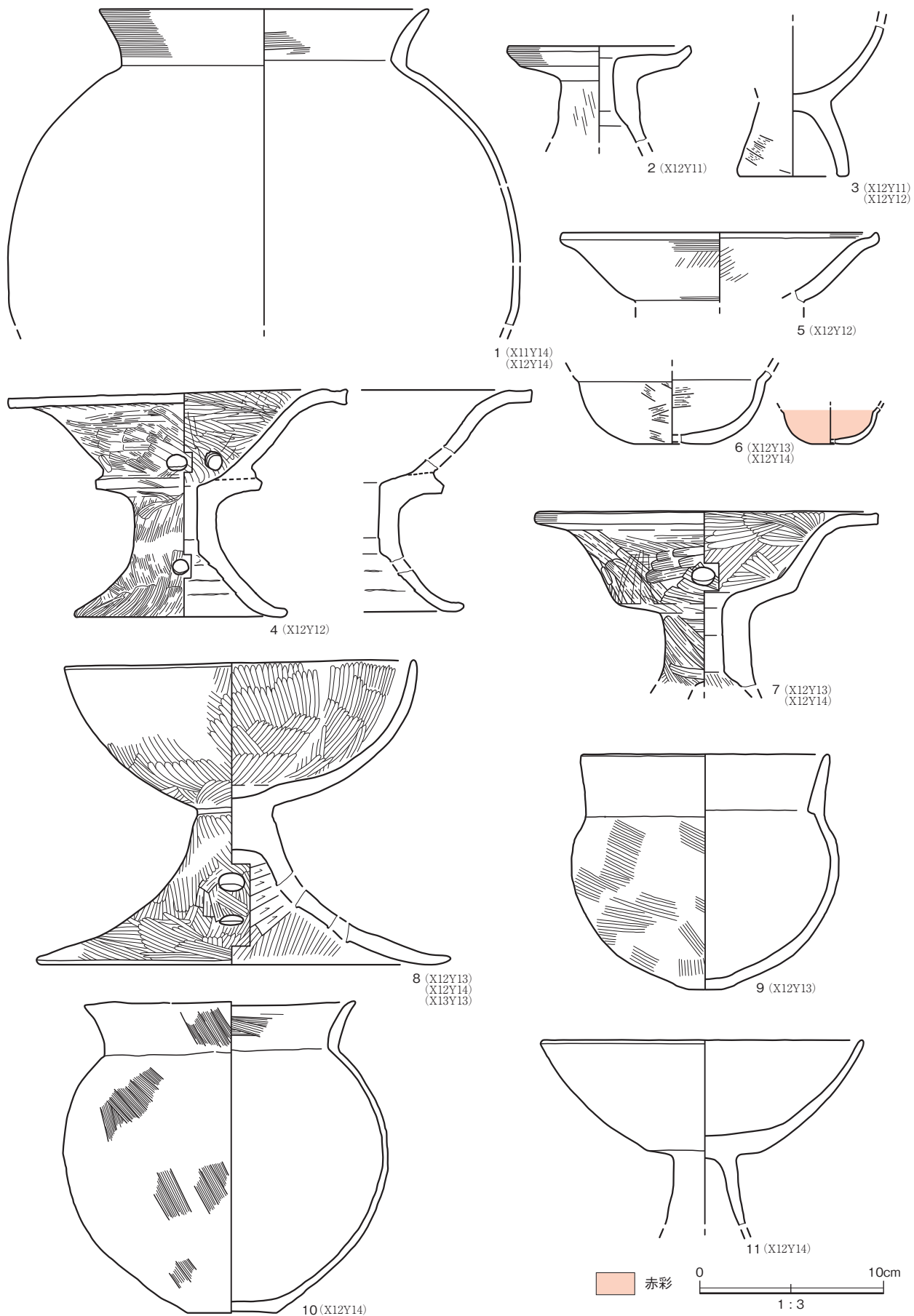
第57図 第3次遺構内出土石製品実測図



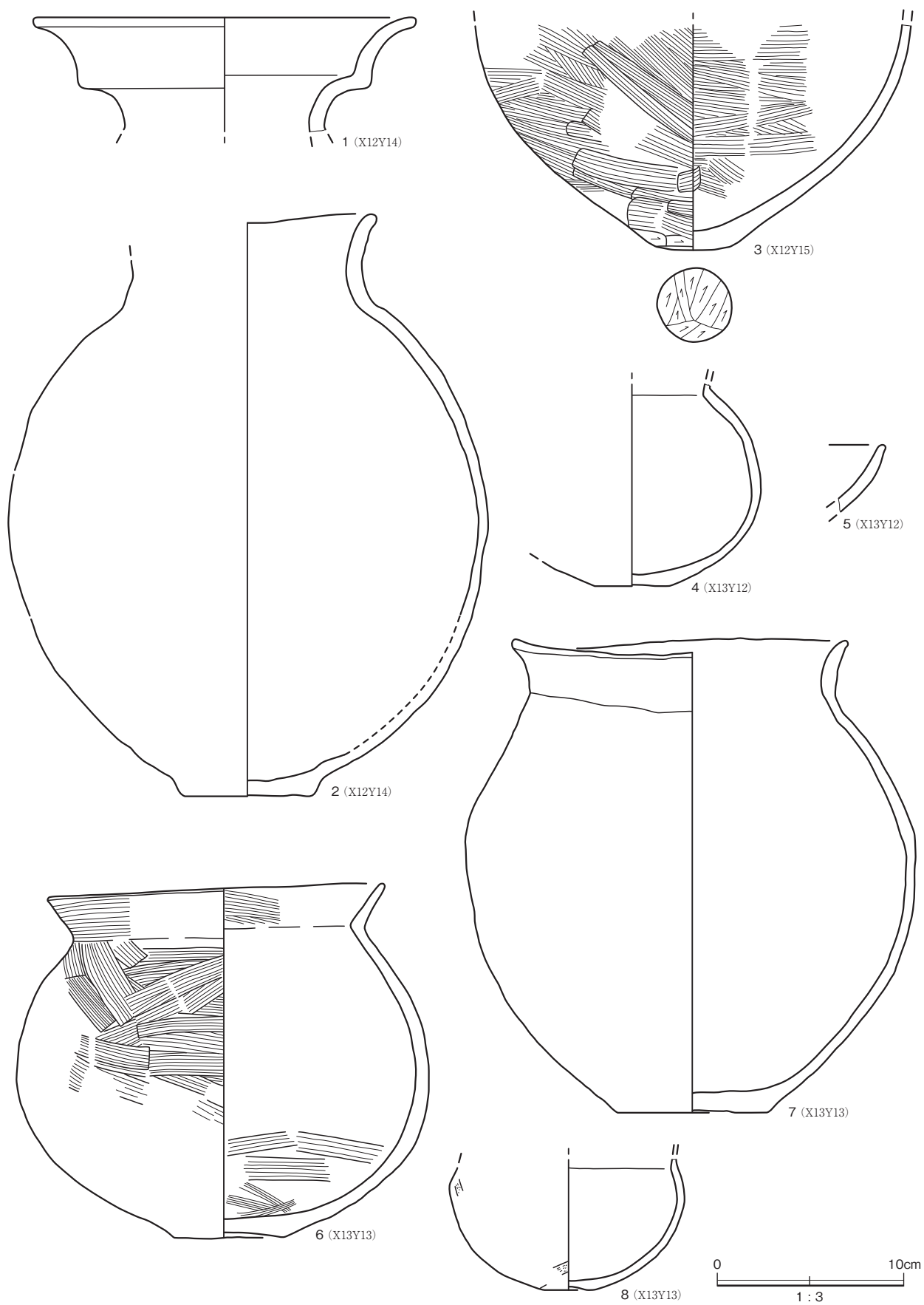
第58図 第3次遺構外出土土器実測図



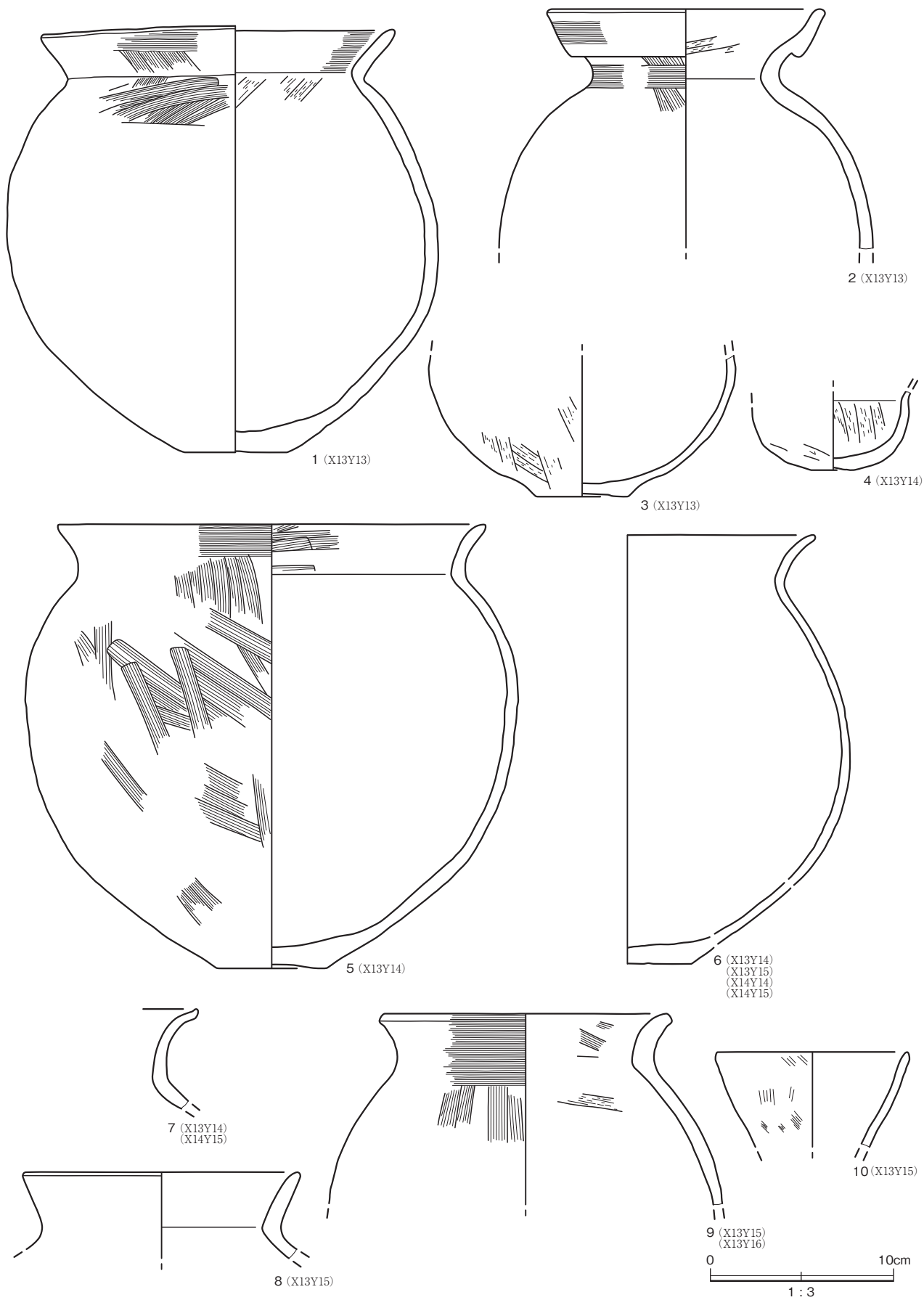
第59図 第3次遺構外出土土器実測図



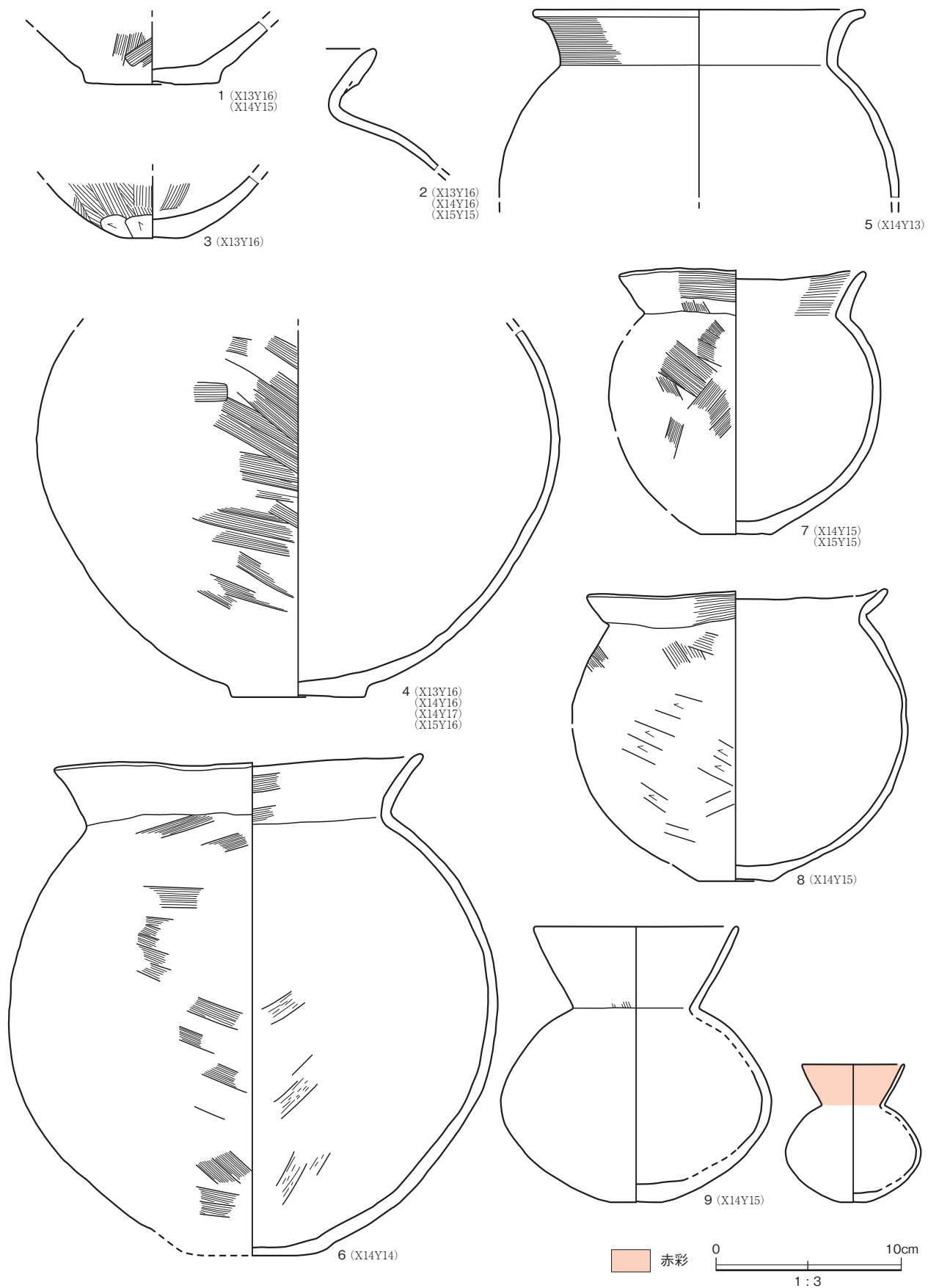
第60図 第3次遺構外出土土器実測図



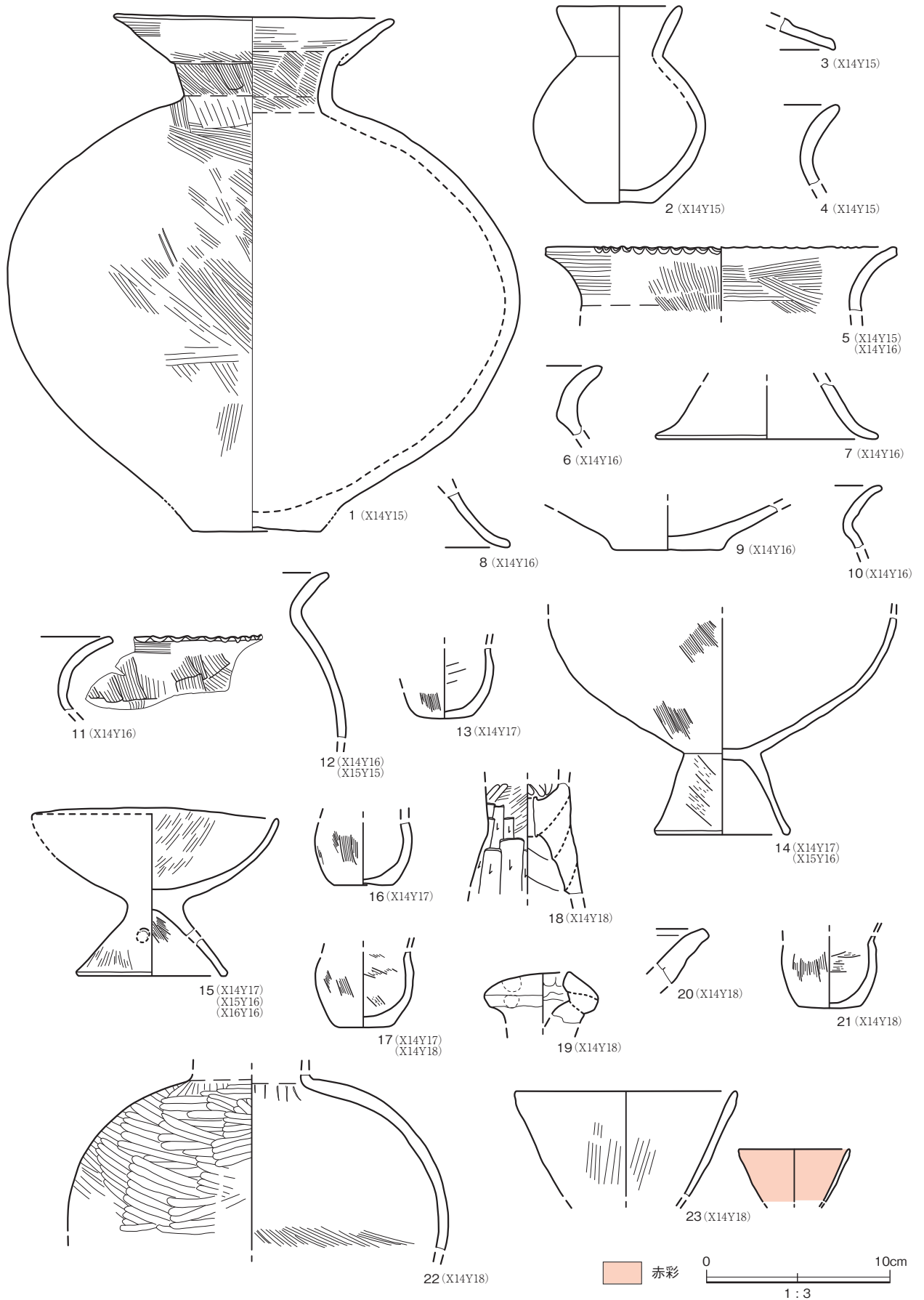
第61図 第3次遺構外出土土器実測図



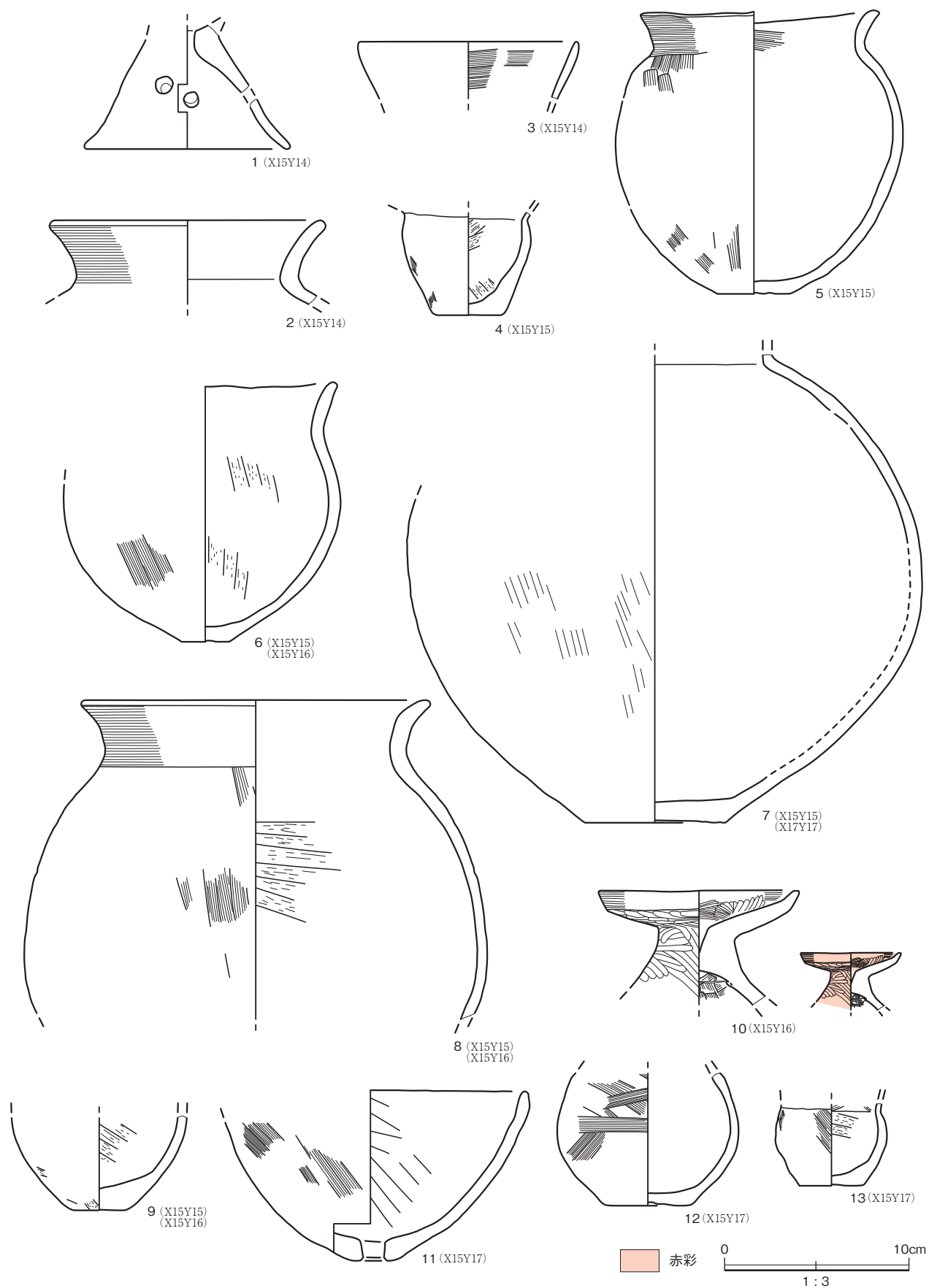
第62図 第3次遺構外出土土器実測図



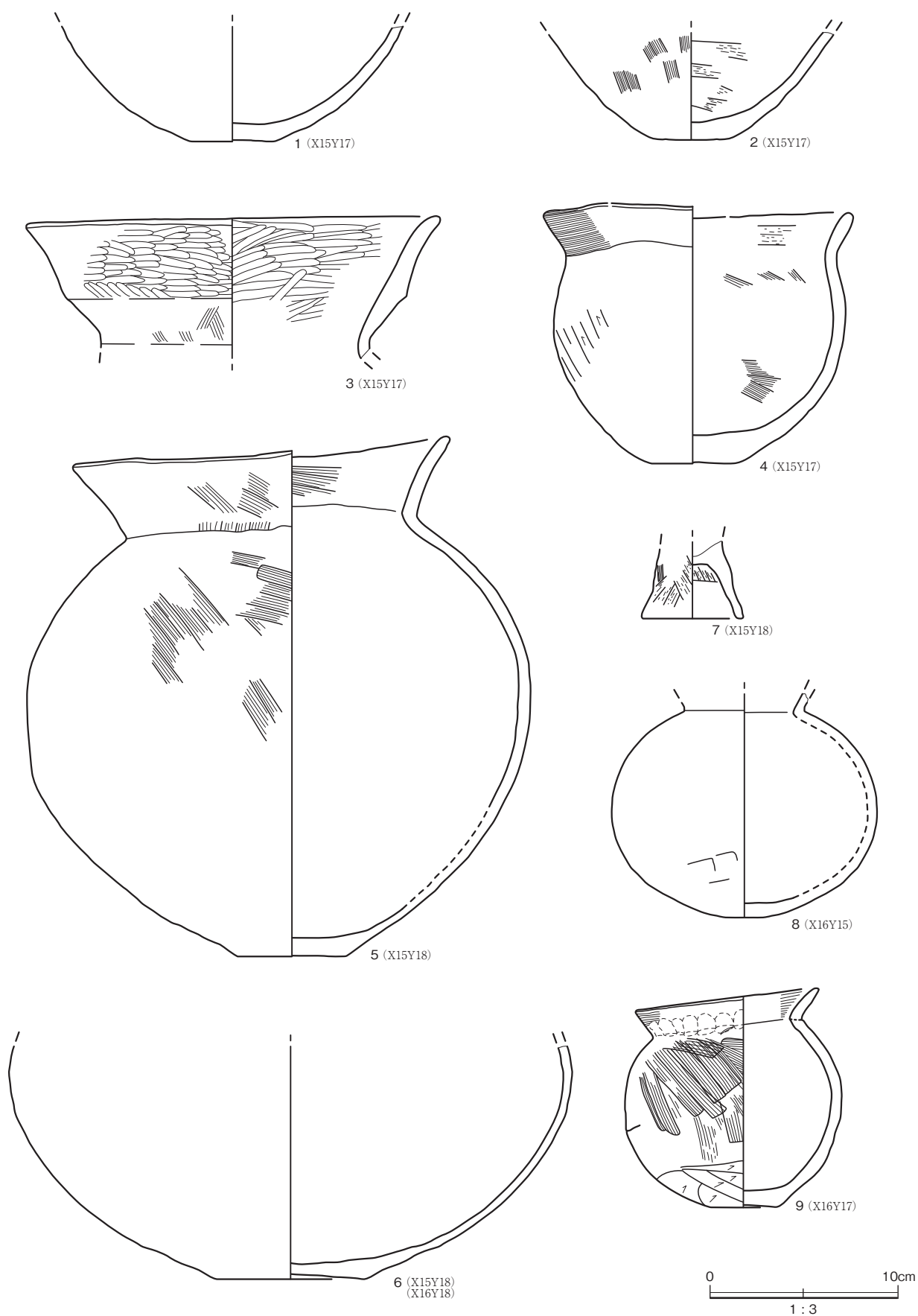
第63図 第3次遺構外出土土器実測図



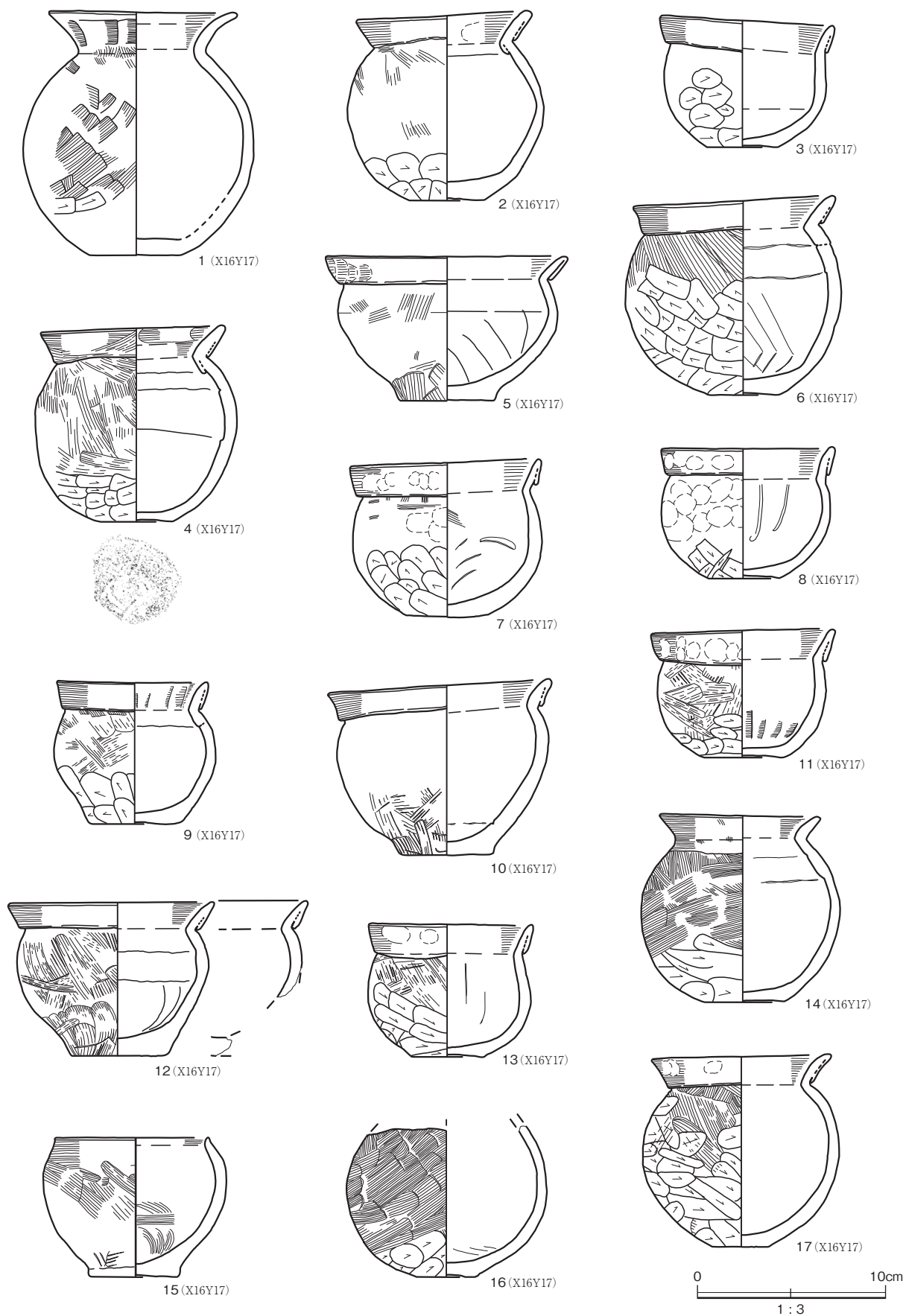
第64図 第3次遺構外出土土器実測図



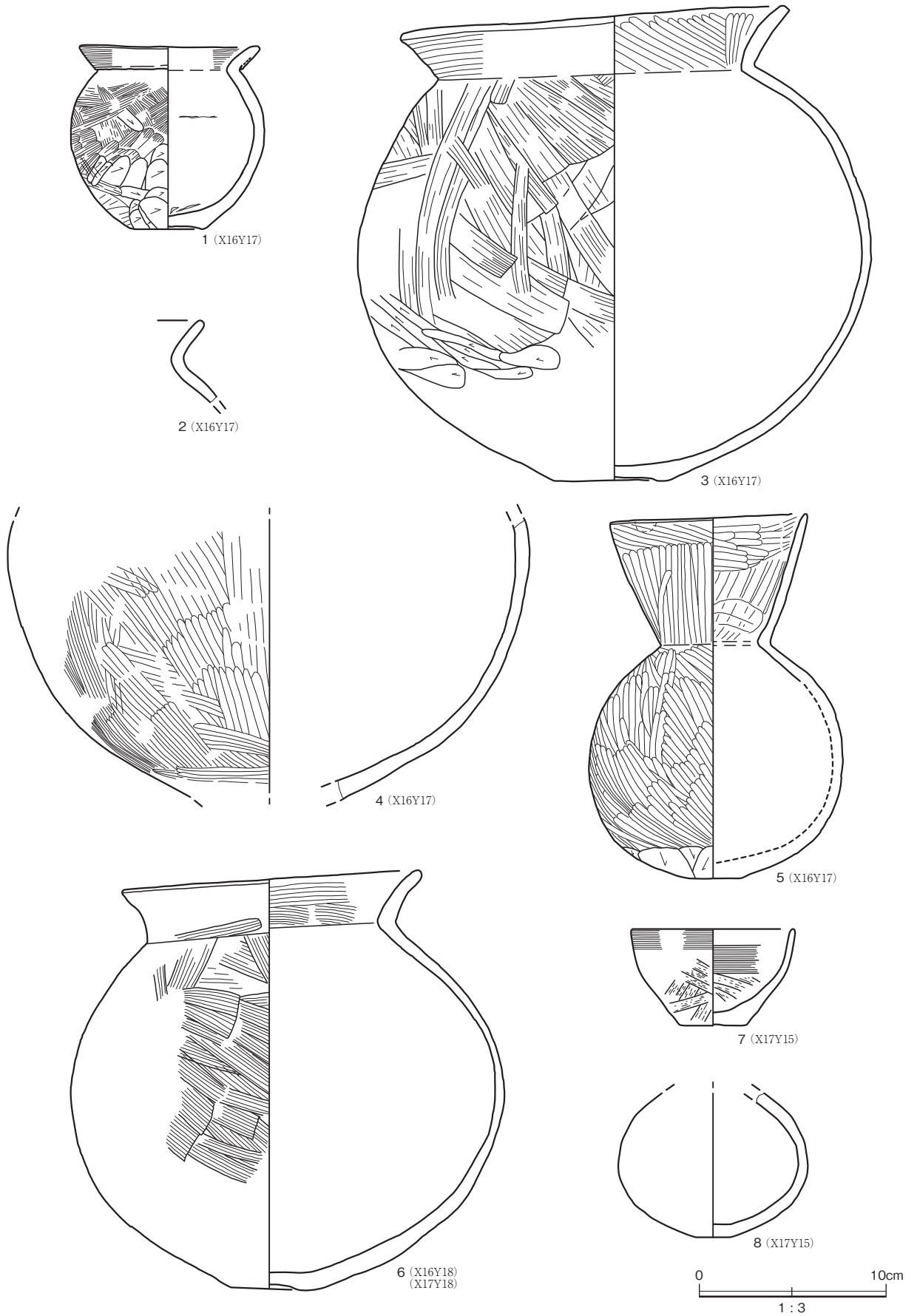
第65図 第3次遺構外出土土器実測図



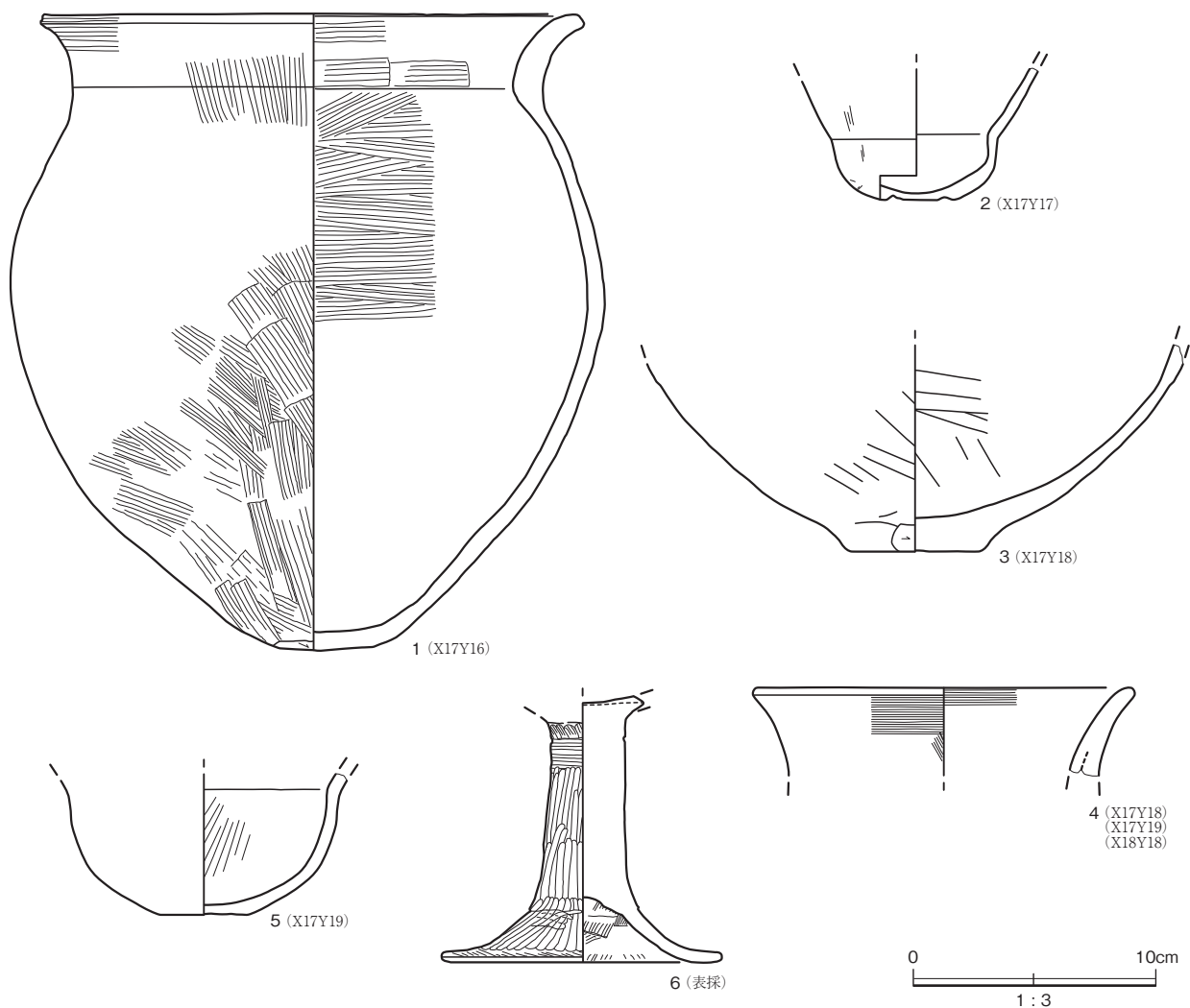
第66図 第3次遺構外出土土器実測図



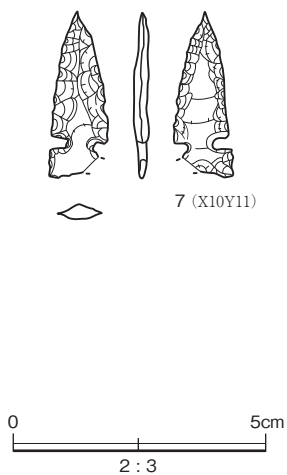
第 67 図 第 3 次遺構外出土土器実測図



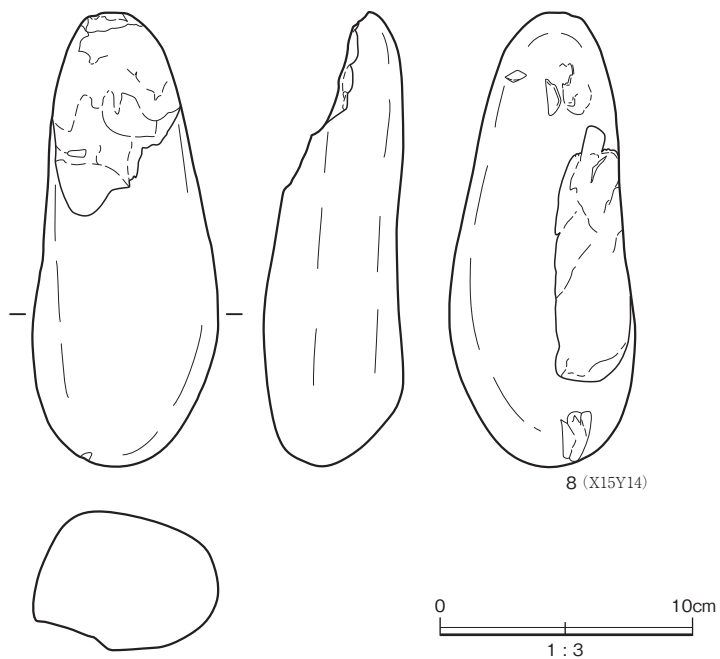
第68図 第3次遺構外出土土器実測図



石製品



石製品



第69図 第3次遺構外出土土器・石製品実測図

IV 第4次調査の成果

1 第4次調査の概要

川前2遺跡の第4次調査は、平成20(2008)年5月12日(月)～10月31日(金)までの実働115日間で実施した。調査対象面積8,500㎡の内、約3/5の面積に相当する調査区北側の5,000㎡を調査した。第4次調査の調査区域は調査対象区域の須川下流側で、細長い眼鏡状を呈した調査区の中央から左眼レンズの部分に相当し、平成15年(2003)年の第2次調査区の20～50cm下位となる。

発掘調査は調査区北端(須川下流側)から着手し、漸次南側に向かって進められ、竪穴住居跡30棟、掘立柱建物跡1棟、土坑16基などの遺構が調査された。竪穴住居跡では10棟が第2次調査の補足調査となっており、新規に検出した住居跡は20棟であった。

住居跡は調査区中央の微高地に構築されており、古墳時代が7棟、奈良・平安時代が22棟検出された。調査区の北側は河川跡が検出されたのみで遺構はなく、第3次調査区寄りの南側はやや低くなっており、畑跡と思われる並行した溝跡が検出され、第3次調査と同様の古墳時代土師器の集中的な出土状況が確認された。

調査区南側の須川寄りには、旧須川の河道と思われるSG1河川跡が検出され、古墳時代の畑跡が切られている。また眼鏡状の調査区の中央となる部分には、細く浅い水路(SG169・170河川跡)が並行して調査区を横断している。調査区北側にも河道が縦断しているが、これは集落形成以前の河道と推定され、堆積土に古墳時代や奈良・平安時代の住居跡が掘り込まれている。嘗ての須川の河道と思われるが、調査区南側のSG1河川跡とは形成時期が異なっている。

第4次調査の調査区中央の住居域の遺構検出面の海拔は、92.5m前後を測り、南側の畑跡は92m前後と低くなっている。居住域の遺構密度は第3次調査よりも濃くなっているが、直上の第2次調査区でも同様であり、微高地に居住が繰り返されていた様相が窺われる。

2 第4次調査の基本層序

第4次調査の基本層序は、調査区南側の西壁で記録している(第70図)。該域は調査区の中でも低位となっており、住居跡は存在しない。調査区内は度々冠水しており、土層の堆積は一様でなく、遺構の検出は困難を極めた。

1層の黒褐色質土は、第1・2次調査の埋土と奈良・平安時代の遺物包含層で、前者は灰褐色シルト質土となる。両層は複雑に混じり合っており、また乾燥が顕著で、分層が困難であった。5層の灰黄褐色粘質土は調査区南側を広く覆う洪水層で、同層の下位が古墳時代の遺物包含層(7層)となる。

8層(黒褐色粘質土)は、層厚15～20cmの黒褐色粘土層とにぶい黄褐色粘土層の互層からなり、黒色→黄色→黒色の順序で堆積するが、黄色→黒色→黄色→黒色→黄色→黒色の6枚の堆積が観察された箇所も存した。第3次調査の13層に相当し、同層準以下には遺物の出土が認められず、同層準を掘り下げの基準とした。

3 第4次調査の竪穴住居跡

ST 171 竪穴住居跡(第71図、写真図版10)

ST 171 竪穴住居跡は、調査区南側のX 30・31 - Y 31に位置し、北西壁を検出したのみで、その他は調査区域外となっている。調査時の名称はST 43。(平面形)北西壁が4.6mを測り、隅丸方形と推定される。カマドを基準とした主軸方向はN - 40° - Wにある。(堆積土)覆土の層厚は10cmを測り、黒褐色粘質土が堆積する。(壁面)壁高は5～10cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面)平坦で、硬化面や貼床認められない。(柱穴)未検出。(壁溝)未検出。(カマド)北西壁の西寄りに構築され、煙道部が検出された。煙道部の長さは140cmで、住居の西コーナーの床面に炭化材の集中が認められた。(出土遺物)床面直上から土師器甕、須恵器蓋が出土した。(時期)出土遺物と住居形状から、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

S T 175 竪穴住居跡 (第72図)

S T 175 竪穴住居跡は、調査区中央の東側(須川寄り)のX 34 - Y 34・35、X 35 - Y 35に位置し、北西壁を検出したのみで、その他は調査区域外となっている。調査時の名称はS T 36。(平面形)北西壁が3.5 mを測り、隅丸方形と推定される。北を基準とした主軸方向はN - 35° - Wにある。(堆積土)覆土の層厚は10 ~ 15 cmを測り、黒褐色粘質土が堆積する。(壁面)壁高は5 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面)平坦で、硬化面や貼床は認められなかった。(柱穴)未検出。(壁溝)未検出。(カマド)未検出。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)出土遺物がなく時期の特定はできないが、古代の住居跡と考えられる。

S T 195 竪穴住居跡 (第72図、写真図版11)

S T 195 竪穴住居跡は、調査区中央のX 38 - Y 34、X 39 - Y 33 ~ 35、X 40 - Y 43に位置し、S T 200 竪穴住居跡を切って構築されている。調査時の名称はS T 37。第2次調査のS T 651 住居跡の補足調査に当たり、硬化した床面を検出したのみである。(平面形)長軸5.5 m、短軸4.5 mの隅丸方形で、北を基準とした主軸方向はN - 15° - Eにある。(堆積土)検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面)北東コーナーのみ壁面が観察され、壁高は5 cmを測り、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。(床面)やや硬化した貼床が観察された。なお第2次調査のS T 651 住居跡は全面貼床であった。硬化面が途切れた箇所はS T 200 竪穴住居跡の周溝となっている。(柱穴)柱穴は特定できなかった。(壁溝)未検出。(カマド)未検出。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)第2次調査のS T 651 住居跡は8世紀後半の住居であり、本住居も同様と考えられ、古墳時代の住居であるS T 200 竪穴住居跡よりも新しい。

S T 178 竪穴住居跡 (第73図、写真図版10)

S T 178 竪穴住居跡は、調査区中央のX 36 - Y 31 ~ 33、X 37 - Y 31 ~ 33に位置する。調査時の名称はS T 39。第1次調査のS T 61・145・161 住居跡(奈良・平安時代)の補足調査に相当し、外側がS T 61 住居跡、内側がS T 145・161 住居跡で、S T 61 住居跡が最も古い。(平面形)長軸6.5 ~ 7 m、短軸6 ~ 6.5 mの方形で、北を基準とした主軸方向はN - 13° - Eにある。(堆積土)検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁

面)壁高は5 ~ 20 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面)全面に床が貼られている。(柱穴)P 1 ~ 4が外側の第1次調査のS T 61 住居跡の柱穴で、深さは40 ~ 70 cmを測る。(壁溝)未検出。但し第1次調査では、S T 61 住居跡の西壁で検出されている。(カマド)第1次調査では、S T 61・161 住居跡の南壁に構築されていた。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)第1次調査では、S T 61 住居跡が8世紀中葉に位置付けられている。

S T 186 住居跡 (第74・129図、写真図版11・33)

S T 186 住居跡は、調査区中央のX 35 - Y 34・35、X 36 - Y 33 ~ 35、X 37 - Y 34・35に位置する。第2次調査のS T 549 住居跡の直下で、南東壁の攪乱とした掘り込みは第2次調査のS K 546 土坑(8世紀代)である。調査時の名称はS T 34。南東壁際に110 ~ 120 cm四方の方形の掘り方を有する。(平面形)長軸6.5 m、短軸5.2 mの隅丸方形を呈し、北を基準とした主軸方向はN - 32° - Eにある。南東壁が周溝よりも張り出していることから、住居が切り合っている可能性も否定できない。(堆積土)覆土の層厚は10 cmを測り、黒褐色粘質土が堆積する。(壁面)壁高は5 ~ 15 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面)柱穴の内側に床が貼られており、間仕切りの痕跡と思われる鍵状の暗いシミが認められた。(柱穴)住居内ピット5基が検出されたが、柱穴はP 1 ~ P 4が相当し、いずれも深さは40 ~ 50 cmを測る。(壁溝)幅10 ~ 15 cm、深さ5 ~ 10 cmの周溝を検出したが、北コーナーでは明確でなかった。(炉跡)床面の中心に焼土と炭化材の集中が認められ、地床炉であったと考えられるが、明確に炉跡を特定することができなかった。(出土遺物)柱穴P 4の検出面で土師器壺(第129図2)、床面に近い覆土下位から土師器壺(第129図1)が出土した。(時期)出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。なお第2次調査のS K 546 土坑では、覆土から8世紀代の須恵器蓋が出土している。

S T 187 竪穴住居跡 (第75図、写真図版10)

S T 187 竪穴住居跡は、調査区中央のX 35 - Y 35・36、X 36 - Y 35・36に位置し、東側を第2次調査のS T 535 住居跡(9世紀代)に切られている。調査時の名称はS T 35。(平面形)横軸が4.5 mを測り、方形と推定される。カマドを基準とした主軸方向はN - 55° - Wにある。(堆積土)検出面が床面であったため、カマ

下以外の堆積土は明確でない。(壁面) 壁高は5～20 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 平坦で、硬化面や貼床は認められなかった。第2次調査のS T 535住居跡の床面よりも5 cm高い。(柱穴) 住居内からは4基のピットが検出されたが、いずれも深さが15 cm程度で、柱穴は特定できない。(壁溝) 未検出。(カマド) 北西壁の中央に構築され、煙道部、袖部、燃焼部が検出された。(出土遺物) カマド左袖脇と住居の北コーナーから、土師器甕が出土した。(時期) 出土遺物から、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

S T 192 竪穴住居跡 (第76・77・129・130・139 図、写真図版12・33)

S T 192 竪穴住居跡は、調査区中央のX 37 - Y 34～36、X 38 - Y 34～36に位置し、第2次調査のS T 635住居跡(古代)の直下で、東側を第2次調査のS T 550住居跡(9世紀代)・S T 646住居跡(古代)に切られている。調査時の名称はS T 32。(平面形) 長軸6.6 m、短軸5.4 mの隅丸方形で、北を基準とした主軸方向はN - 57° - Wにある。南東壁は第2次調査のS T 550・646住居跡によって削平されている。(堆積土) 覆土の層厚は5～10 cmを測り、周縁部がやや厚くなっている。(壁面) 壁高は5～10 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 平坦であるが、中央部がやや高く、黒褐色の貼床が認められた。(柱穴) 住居内からピット2基が検出されたが、柱穴は特定できなかった。(壁溝) 削平された南東壁を除き、幅15～20 cm、深さ5～10 cmの周溝を検出した。(炉跡) 床面中央の北東寄りに、焼土粒の集中を2ヵ所検出したが、地床炉に相当すると考えられる。(出土遺物) 床面から、古墳時代の土師器甕(第129図6・10・11、第130図1)、鉢(第129図5・7)、壺(第129図8・9)、ミニチュア土器(第130図2)、砥石(第139図2)が出土した。(時期) 出土遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。第2次調査の住居跡との新旧関係は、古い方からS T 187 竪穴住居跡→第2次調査S T 646住居跡→第2次調査S T 550住居跡→第2次調査S T 635住居跡の順となる。

S T 196 竪穴住居跡 (第78 図、写真図版12)

S T 196 竪穴住居跡は、調査区中央のX 40 - Y 36に位置する。調査時の名称はS T 30。第2次調査のS T 584住居跡(8世紀後半)の補足調査部分がS T 196 -

2 竪穴住居跡、その北東側で床面のみが検出された高まりがS T 196 - 1 竪穴住居跡となるが、ここでは後者のみを記述する。S T 196 - 1 竪穴住居跡は、遺構検出で掘り下げている途上、硬化面が検出されたため、住居跡と認定した。周囲は遺構検出で既に掘り下げられており、5 cm程度の高まりとなっている。南西側を第2次調査のS T 584住居跡(S T 196 - 2 竪穴住居跡)に切られ、更に南西隅はS T 200 竪穴住居跡が切り合っている。但し南東隅は更に10 cm程度高くなっており、別の住居の床面の痕跡であった可能性も考えられる。(平面形) 残存長軸4.4 m、短軸2 mを測るが、本来の住居の形状を示すとは考えられない。北を基準とした主軸方向はN - 55° - Wにある。(堆積土) 検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面) 未検出。(床面) 黒褐色粘質シルトが貼られ、硬く踏み固められていた。(柱穴) 未検出。(壁溝) 未検出。(カマド・炉跡) 未検出。(出土遺物) 土師器小片が僅かに出土した。(時期) 遺物が少なく、時期の特定は困難である。切り合い関係からは、8世紀後半の第2次調査のS T 584住居跡(S T 196 - 2 竪穴住居跡)よりは古いと見なされる。古墳時代前期のS T 200 竪穴住居跡との新旧関係は判然としない。

S T 200 竪穴住居跡 (第79・80・130・131 図、写真図版13・33・34)

S T 200 竪穴住居跡は、調査区中央のX 38 - Y 35・36、X 39 - Y 34～36、X 40 - Y 34～36に位置し、西コーナーは第2次調査のS T 555住居跡、S T 554住居跡、S T 651住居跡に切られ、北東壁は第2次調査のS T 584住居跡(S T 196 - 2 竪穴住居跡)に切られている。南東壁のやや東コーナー寄りに、155～175 cm四方の方形の掘り方を有する。調査時の名称はS T 29。(平面形) 一辺8.2 mの方形の大型の竪穴住居跡で、北を基準とした主軸方向はN - 65° - Wにある。(堆積土) 床面近くで検出され、壁高は10 cm程度を測り、黒褐色粘質シルトが堆積する。(壁面) 壁高は5～20 cmを測るが、北東壁の一部は未検出である。壁は外傾して立ち上がる。(床面) 平坦で、硬化面や貼床は明確でない。(柱穴) 住居跡内からはピット8基が検出されたが、柱穴は特定できなかった。(壁溝) 北東壁の一部を除き検出された。北東壁と南東壁は幅30 cm、深さ10～15 cmの周溝であるが、北西壁と南西壁は幅80 cm、深さ10～20 cmを測る。

(炉跡)未検出。(出土遺物)床面直上から土師器壺(第130図6)、床面に近い覆土下位から土師器鉢(第130図7)、周溝上面の床面相当から土師器甕(第130図9)、P1上面の床面相当から土師器壺(第130図5)、P1内から甕(第130図10)と土師器壺(第131図1)が出土した。(時期)出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。

S T 203 竪穴住居跡 (第81・131図、写真図版14)

S T 203 竪穴住居跡は、調査区中央のX 42 - Y 36・37に位置する。調査時の名称はS T 25。第2次調査のS T 586住居跡の補足調査で、同住居跡の掘り方を確認した。(平面形)長軸4.8 m、短軸4.2 mの隅丸方形で、カマドを基準とした主軸方向はN - 65° - Wにある。(堆積土)検出面が床面であったため、堆積土は明確でなく、周溝覆土のみ観察された。(壁面)北東壁と南東壁の壁高は10 ~ 15 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面)貼床を剥がした結果、周溝が確認できた。(柱穴)周溝内からピット7基が検出されたが、柱穴は特定できない。(壁溝)第2次調査時では確認できなかったが、貼床を剥がして、幅50 ~ 80 cm、深さ10 cmの周溝を検出した。(カマド)北東壁の北寄りに構築されていた。(出土遺物)周溝内から土師器鉢(第131図2)、甕(第131図3)が出土した。(時期)第2次調査のS T 586住居跡は8世紀中葉の住居跡に位置付けられている。

S T 226 竪穴住居跡 (第82図)

S T 226 竪穴住居跡は、調査区中央の東端、X 43 - Y 43に位置し、東側は調査区域外となっている。焼土粒と炭化材を含むカマド状の遺構であったため、住居跡として調査した。調査時の名称はS T 17。(平面形)8字形を半截した形状で、長軸は1.6 mを測る。(堆積土)層厚は40 cmを測り、焼土粒・炭化材を含む黒褐色粘質シルト等が堆積する。(壁面)壁高は15 cmを測り、壁は緩く立ち上がる。(床面)底面は平坦で、南側に深さ5 cmのピット状の落ち込みが存する。(柱穴)未検出。(壁溝)未検出。(カマド)住居跡のカマドを想定して調査したが、煙道部、袖部、燃焼部を特定することができなかった。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)出土遺物がなく時期の特定は困難であるが、検出した層位から古代の所産と考えられる。

S T 205 竪穴住居跡 (第82図)

S T 205 竪穴住居跡は、調査区中央のX 41 - Y 39に位置し、南側は調査区域外となっている。調査時の名称はS T 24。北東コーナーはS K 206土坑、東壁はS K 207土坑に切られている。第2次調査のS T 614住居跡(9世紀代)の直下となる。(平面形)東西軸4.2 mを測り、北壁の形状から隅丸方形を呈すると思われる。(堆積土)覆土の層厚は10 cm程度で、黒褐色粘質土が堆積する。(壁面)壁高は5 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面)平坦で、硬化面や貼床は明確でない。(柱穴)住居内からピット2基が検出されたが、柱穴は特定できない。(壁溝)未検出。(カマド・炉跡)未検出。S K 207土坑に焼土粒・炭化材が多く認められたことから、カマドであった可能性も考えられる。その場合東壁の北寄りに構築されたことになるが、判然としない。(出土遺物)覆土下位から土師器甕、須恵器小片が出土した。(時期)出土遺物から時期の特定は困難であるが、古代の住居跡と考えられる。

S T 211 竪穴住居跡 (第83・131図、写真図版13)

S T 211 竪穴住居跡は、調査区中央のX 42・43 - Y 37に位置し、北にS T 215竪穴住居跡、東にS K 212土坑が近接する。床面のみを検出したが、北側の形状は明確でない。調査時の名称はS T 28。(平面形)東西軸4.5 mを測り、南壁の形状から隅丸方形を呈すると思われる。(堆積土)検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面)未検出。(床面)やや締まった面が検出されたことから床面と見なしたが、部分的に床を貼った硬化面が検出された。(柱穴)P1・P2が柱穴に相当すると考えられる。(壁溝)未検出。(炉跡)床面中央に長軸40 cm、短軸25 cmの地床炉(P3)が構築されていた。(出土遺物)P1から古墳時代の土師器甕(第131図5)、器台(第131図4)が出土した。(時期)出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。

S T 213 竪穴住居跡 (第84図、写真図版15)

S T 213 竪穴住居跡は、調査区中央のX 42 - Y 38・39、X 43 - Y 38・39に位置し、東にS T 214竪穴住居跡、北にS T 222竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS T 18。第2次調査のS T 591住居跡の補足調査で、カマドと掘り方を調査した。(平面形)長軸4 m、短軸3.3 mの方形で、主軸方向はN - 42° - Eにある。(堆積土)

検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面) 壁高は5～15cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 全面に床が貼られており、精査したところ南東壁に沿って周溝が検出された。(柱穴) 未検出。(壁溝) 南東壁に幅40～70cm、深さ10cm程度の周溝が検出された。(カマド) 北東壁のやや北寄りに煙道部が構築されていたが、住居の主軸方向から70°程度北側に振れた方向となる。煙道部の長さは1.4mを測り、その周囲5～10cmの幅で、灰白色粘土となっており、熱を受けて変色したと考えられる。住居内では燃焼部と右袖部の一部が検出された。また北東壁の南寄りに、袖石として切石が出土した。第2次調査で出土し、そのまま埋め戻されたものであるが、第2次調査では切石のみが出土したため、仮設のカマドが構築されていたと理解されていた。カマドは2基構築されたことになろう。(出土遺物) カマド煙道部の付け根から、土師器小片が出土した。(時期) 第2次調査では、床面出土の遺物から8世紀後半の住居跡と位置付けられている。

S T 224 竪穴住居跡 (第85図、写真図版17)

S T 224 竪穴住居跡は、調査区中央のX 44 - Y 40・41に位置し、東にS T 225 竪穴住居跡、南にS T 223 竪穴住居跡、西にS T 222 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS T 41。第2次調査のS T 610 住居跡の補足調査で、掘り方を調査した。(平面形) 長軸3.3m、短軸3.2mの方形で、東・西壁ラインからみた主軸方向はN - 10° - Eにある。(堆積土) 検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面) 壁高は10～15cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 全面に床が貼られており、精査したところ周壁に沿って周溝が検出された。(柱穴) 住居内からピット2基が検出されたが、柱穴は特定できない。(壁溝) 幅30～80cm、深さ5cm程度の周溝が検出された。(カマド) 未検出。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 第2次調査では、床面出土の遺物から8世紀中葉の住居跡と位置付けられている。

S T 214 竪穴住居跡 (第86・131図)

S T 214 竪穴住居跡は、調査期中央のX 42 - Y 39・40に位置し、東にS T 223 竪穴住居跡、北にS T 222 竪穴住居跡、西にS T 213 竪穴住居跡、南にS T 205 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS T 42。第2次調査のS T 618 住居跡の補足調査で、掘り方を調査し

た。(平面形) 一辺2.9mの方形で、南東・北西壁からみた主軸方向はN - 25° - Eにある。(堆積土) 検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面) 壁高は10～15cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 全面に床が貼られており、精査したところ周壁に沿って周溝が検出された。(柱穴) 未検出。(壁溝) 幅50～100cm、深さ10cm程度の周溝が検出された。(カマド) 未検出。第2次調査でも検出されていない。(出土遺物) 床面から、古墳時代の土師器鉢(第131図6)が出土した。(時期) 第2次調査では、覆土から出土した遺物から8世紀後半の住居跡と位置付けられた。しかし第4次調査では、床面から古墳時代前期の土師器鉢が出土した。

S T 215 竪穴住居跡 (第86～88図、写真図版16)

S T 215 竪穴住居跡は、調査区中央のX 43 - Y 37・38、X 44 - Y 37・38に位置し、西コーナーはS T 216 竪穴住居跡を切っていたが、形状を捉えることができなかった。調査時の名称はS T 26。第2次調査のS T 583 住居跡(7世紀後半)の補足調査で、掘り方を調査した。(平面形) 長軸5.9m、短軸5.4mの方形で、北を基準とした主軸方向はN - 31° - Wにある。(堆積土) 検出面が床面であったため、堆積土は明確でない。(壁面) 未検出。(床面) 全面に床が貼られており、床面中央に硬化面が検出された。(柱穴) 第2次調査時に4基調査されている。P 3とP 5北側ピットとS T 216 竪穴住居跡P 2内ピットが相当し、南東の柱穴は確認されていない。(壁溝) 幅20cm、深さ5～10cmの周溝が検出されたが、西コーナーのS T 216 竪穴住居跡との重複箇所では検出できなかった。(カマド) 未検出。第2次調査では北東壁の中央に構築されていた。(出土遺物) 床面や覆土から土師器小片が出土した。(時期) 第2次調査では出土遺物から7世紀後半の住居跡と位置付けられており、関東系土師器2点が出土した。

S T 216 竪穴住居跡 (第87～90・131図、写真図版16)

S T 216 竪穴住居跡は、調査区中央のX 43 - Y 36・37、X 44 - Y 36・37、X 45 - Y 36・37に位置し、南東コーナーがS T 215 竪穴住居跡に切られている。調査時の名称はS T 27。第2次調査のS T 707 住居跡(古墳時代前期)で、第2次調査では住居の範囲を確認して終了した。(平面形) 長軸6.5m、短軸6.4mの方形で、東・西壁のラインでみた主軸方向はN - 19° - Eにある。

(堆積土) 覆土の層厚は10～15cmを測り、褐灰色粘質土や黒褐色粘質土が堆積する。(壁面) 壁高は5～10cmを測り、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。(床面) 黒色粘質土が貼られており、住居中央に硬化面が認められた。重複するS T 215 竪穴住居跡の床面よりも5cm程度低くなる。(柱穴) P 1～P 4が柱穴に相当し、いずれも深さ40～60cmを測る。(壁溝) 幅25～40cm、深さ10cm程度の周溝が検出された。(炉跡) 床面中央に炭化物の集中が認められたことから、地床炉が存したと考えられるが、明確な炉跡は検出できなかった。(出土遺物) 床面直上から土師器甕(第131図11)、ミニチュア土器(第131図10)、周溝から土師器壺(第131図12)、ミニチュア土器(第131図8)が出土した。(時期) 出土遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。重複した遺構の新旧関係は、古い方からS T 216 竪穴住居跡→S T 215 竪穴住居跡の順序になると見なされる。

S T 222 竪穴住居跡 (第91・92図)

S T 222 竪穴住居跡は、調査区中央のX 43 - Y 39・40、X 44 - Y 39・40に位置し、東にS T 224 竪穴住居跡、南東にS T 223 竪穴住居跡、南にS T 214 竪穴住居跡、南西にS T 213 竪穴住居跡、北にS T 233 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS T 14。第2次調査のS T 620 住居跡の補足調査で、掘り方を調査した。(平面形) 南北軸4.6～5.2m、東西軸4.4～4.7mの方形で、第2次調査時の主軸方向はN - 93° - Eにある。(堆積土) 検出面が床面であったため、堆積土は明確でなく、第91図の断面図は貼床の断面となる。(壁面) 掘り方の壁高は5～15cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 全面に黒褐色粘質土が貼られており、掘り方は平坦である。(柱穴) 住居内からピット7基が検出されたが、P 1とP 3が柱穴であった可能性が考えられる。(壁溝) 南壁から西壁にかけて、幅20cm、深さ5cm程度の周溝が検出された。(カマド) 住居内のP 2が燃焼部に相当する。第2次調査では住居の南東コーナーに構築されており、その痕跡と考えられる。(出土遺物) ピットや貼床内から土師器小片が出土した。(時期) 第2次調査では出土遺物から9世紀代の住居跡と位置付けられている。

S T 237 竪穴住居跡 (第92・137・138図、写真図版20)

S T 237 竪穴住居跡は、調査区中央の東端のX 46 -

Y 39に位置する。カマドのみが検出され、住居の形状は確認できなかった。調査時の名称はS T 16。(平面形) カマドのみの検出で、平面形は明確でない。方形の住居の南壁にカマドが構築されたと考えられ、北を基準としたカマドの主軸方向はN - 175° - Wにある。(堆積土) カマドの堆積土のみで、焼土粒を含む粘質シルトが堆積する。(壁面) 未検出。(床面) 未検出。(柱穴) 未検出。(壁溝) 未検出。(カマド) 煙道部と燃焼部を検出し、袖部は明確でなかった。カマド手前の床面には焼け礫が認められ、カマド内からは土師器坏と甕が出土した。(出土遺物) カマド内から土師器坏2点(第137図9・10)、甕(第138図1)が出土した。(時期) 出土遺物から、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

S T 223 竪穴住居跡 (第93図、写真図版15)

S T 223 竪穴住居跡は、調査区中央のX 42 - Y 40・41、X 43 - Y 40・41に位置し、東にS T 225 竪穴住居跡、西にS T 214 竪穴住居跡、北西にS T 222 竪穴住居跡、北にS T 224 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS T 13。第2次調査のS T 616 住居跡の補足調査で、掘り方を調査した。(平面形) 長軸4.4m、短軸4.3mの方形で、東・西壁からみた主軸方向はN - 14° - Eにある。(堆積土) 検出面が床面であったため、堆積土は明確でなく、第93図の断面図はトレンチの断面となる。(壁面) 未検出。(床面) 黒褐色・灰黄褐色粘質土を貼っており、締まっている。(柱穴) 第2次調査では未検出であったが、精査した結果P 1～P 4が柱穴に相当し、いずれも深さは60～70cmを測る。(壁溝) 未検出。(カマド) 第2次調査では北東コーナーに構築されていた。(出土遺物) 柱穴P 2の底面から、土師器小片が出土した。(時期) 出土遺物から時期の特定は困難であるが、古代の所産と考えられる。

S T 225 竪穴住居跡 (第94・95・131・132図、写真図版16)

S T 225 竪穴住居跡は、調査区中央の東端X 42 - Y 41・42、X 43 - Y 41・42に位置し、西にS T 223・224 竪穴住居跡が近接する。南コーナーは調査区域外となっている。調査時の名称はS T 11。(平面形) 南コーナーが明確でないが、一辺3mの方形を呈し、北を基準とした主軸方向はN - 20° - Eにある。(堆積土) 覆土の層厚は30cmを測り、凹レンズ状に堆積する。覆土上部の中

央には灰褐色砂質土（1層）と灰黄褐色粘質土（2層）が堆積するが、住居覆土の凹みが冠水して堆積したと考えられる。（壁面）壁高は25～35cmを測り、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。（床面）床面の東側に黒褐色粘質土が貼られている。（柱穴）未検出。（壁溝）未検出。（カマド）未検出。（出土遺物）北コーナーの覆土上層から、土師器甕（第131図13・14、第132図2）、須恵器坏（第132図1）が出土した。（時期）出土遺物から、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

S T 227 竪穴住居跡（第96図）

S T 227 竪穴住居跡は、調査区中央のX 46 - Y 39に位置する。カマドのみが検出され、S T 230 竪穴住居跡を切って構築されている。調査時の名称はS T 21。第2次調査のS T 597 住居跡の直下で、同住居の東壁に構築されたカマドの可能性も考えられるが、同住居には北壁と南壁にそれぞれカマドが構築されており、その関係は判然としない。（平面形）長軸1.6m、幅0.5～1.1mの煙道部の形状を呈し、主軸方向はN - 110° - Eにある。（堆積土）先端部に焼土粒・炭化粒の集中が見られた。（壁面）壁高は15cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。（床面）平坦で、硬化面は認められない。（柱穴）未検出。（壁溝）未検出。（カマド）カマドの煙道部として調査したが、これまで調査した住居跡の煙道部に比べると幅が広く、詳細は判然としない。（出土遺物）覆土から土師器小片が出土した。（時期）出土遺物が少なく時期の特定は困難である。なお第2次調査の597 住居跡は8世紀～9世紀前半の住居跡と位置付けられている。

S T 234 竪穴住居跡（第96図、写真図版18）

S T 234 竪穴住居跡は、調査区中央の北寄りのX 46・47 - Y 39に位置する。南東にS T 230 竪穴住居跡が近接し、北側が削平されている。調査時の名称はS T 22。（平面形）南西壁長が4mを測り、方形を呈すると想定され、南西壁からみた主軸方向はN - 51° - Wにある。（堆積土）覆土の層厚は10cmを測り、黒褐色粘質土が堆積する。（壁面）壁高は10cm程度を測り、壁は外傾して立ち上がる。（床面）平坦で、やや硬化している。（柱穴）未検出。（壁溝）未検出。（カマド・炉跡）未検出。（出土遺物）覆土から土師器小片が出土した。（時期）出土遺物が少なく時期の特定は困難である。

S T 228 竪穴住居跡（第97・98・132図、写真図版17）

S T 228 竪穴住居跡は、調査区中央のX 44 - Y 38、X 45 - Y 37・38に位置し、北にS T 229 竪穴住居跡が接している。第2次調査のS T 684 住居跡の床面に相当し、S T 593 住居跡の直下である。調査時の名称はS T 31。（平面形）第2次調査のS T 684 住居跡の貼床面とその南コーナーに構築されたとみられるカマドの掘り方を検出した。カマド掘り方は長軸3.5m、短軸1.1mを測り、主軸方向はN - 166° - Eにある。（堆積土）カマドの堆積土で、層厚は5～10cmを測り、焼土粒・炭化粒を含む粘質土が堆積する。（壁面）壁高は5cm程度を測り、壁は緩く立ち上がる。（床面）比較的平坦で、硬化面は認められない。（柱穴）未検出。（壁溝）未検出。（カマド）第2次調査のS T 684 住居跡のカマドは北東壁の北寄りに構築されており、南コーナーにも構築されていた可能性が考えられる。（出土遺物）覆土内から土師器甕（第132図3）が出土した。（時期）出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。なお第2次調査のS T 684 住居跡は8世紀前半に位置付けられている。

S T 229 竪穴住居跡（第99～101・132図、写真図版18・34）

S T 229 竪穴住居跡は、調査区中央の北寄りのX 45 - Y 37・38、X 46 - Y 37・38、X 47 - Y 37・38に位置し、東にS T 230 竪穴住居跡、南西にS K 217 土坑が近接し、南東壁にS T 228 竪穴住居跡が接する。第2次調査のS D 598 溝跡の直下で、S T 595 住居跡に相当する。調査時の名称はS T 23。西コーナー付近は第2次調査で調査済みである。南東壁のやや東寄りに長軸140cm、短軸120cmの方形の掘り方（P 5）を有し、底面中央がピット状に低くなっている。（平面形）長軸6.3m、短軸5.7mの隅丸方形で、北を基準とした主軸方向はN - 19° - Wにある。（堆積土）覆土の層厚は15cmを測り、黒褐色粘質土が堆積する。なお遺構検出面で、畑跡と思われる並行した溝跡3条を確認した（第100図）。（壁面）壁高は5～15cmを測り、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。住居西側の壁面は殆ど検出できなかった。（床面）平坦で、柱穴内に硬化面が認められた。（柱穴）P 1～P 4が柱穴に相当し、深さは40～90cmを測る。（壁溝）未検出。（炉跡）未検出であるが、南東壁の方形の掘り方（P 5）から焼土ブロックが検出された。（出土遺物）床面直上から土師器器台（第132図6）、覆土か

ら土師器甕（第132図5・7・8）、方形の掘り方（P5）の覆土から土師器器台（第132図4）、甕（第132図9）壺（第132図10）が出土した。なお第2次調査では床面（南西壁付近）から土師器台付甕、壺が出土している。（時期）出土遺物から古墳時代前期（4世紀代）の住居跡と考えられる。

S T 230 竪穴住居跡（第102～104・133・134図、写真図版18・19・34・35）

S T 230 竪穴住居跡は、調査区中央の北寄りのX 45 - Y 38 ~ 40、X 46 - Y 38 ~ 41に位置し、西にS T 229 竪穴住居跡、南にS T 233 竪穴住居跡が近接し、南壁にS T 227 竪穴住居跡（カマド）が接している。第2次調査のS T 597 住居跡（8世紀～9世紀前半）、S T 607 住居跡（9世紀後半）、S T 603 住居跡（8世紀後半）、S T 602 住居跡（9世紀代）、S B 600 掘立柱建物跡（8世紀代）の直下に相当する。調査時の名称はS T 19。南壁の東寄りには、長軸2.3 m、短軸1.4 mの不整形の掘り方が検出された。（平面形）南北軸8 m、東西軸8 ~ 8.4 mの隅丸方形で、北を基準とした主軸方向はN - 0°にある。（堆積土）覆土の層厚は15 cmを測り、褐灰色粘質土等が堆積する。（壁面）壁高は15 cmを測るが、西壁から南西コーナーにかけては、第2次調査のS T 597 住居跡により切られ、壁面は確認できない。（床面）平坦で、床面中央に硬化面が認められた。（柱穴）住居内にピット5基を検出したが、柱穴は特定できなかった。なお南壁東寄りの不整形の掘り方内のピットは、第2次調査のS T 603 住居跡柱穴（E P 2）に相当する。（壁溝）北壁と東壁で、幅60 cm程度、深さ10 ~ 15 cmの周溝が検出された。（炉跡）住居内に焼土粒・炭化粒の集中が数カ所認められたが、明確な炉跡は特定できない。なお南壁東寄りの不整形の掘り方に炭化粒の集中が認められた。（出土遺物）北東コーナーの覆土下位から土師器甕（第133図2・11）、鉢（第133図12）、P 1底面から土師器甕（第133図10）、南壁東寄りの不整形の掘り方内から土師器甕（第133図5・6・14、第134図2）、壺（第134図1）が出土した。（時期）出土遺物から古墳時代前期（4世紀代）の住居跡と考えられる。

S T 233 竪穴住居跡（第105図、写真図版17）

S T 233 竪穴住居跡は、調査区中央の北寄りのX 44 - Y 40、X 45 - Y 39・40に位置し、北にS T 230 竪穴

住居跡、南にS T 222 竪穴住居跡、西にS T 228 竪穴住居跡が近接する。住居中央を第2次調査のS T 602 住居跡（9世紀代）が切っており、南西と南東コーナーのみが検出された。調査時の名称はS T 20。（平面形）東西軸3.8 m、南北軸3.4 mの隅丸方形と推定され、西壁からみた主軸方向はN - 0°にある。（堆積土）覆土の層厚は10 ~ 15 cmを測り、暗褐色粘質土が堆積する。（壁面）壁高は10 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。（床面）平坦で、硬化面や貼床は認められなかった。第2次調査のS T 602 住居跡の床面よりも10 ~ 15 cm高い。（柱穴）南壁西寄りにピット1基を検出したが、柱穴は特定できなかった。（壁溝）未検出。（カマド・炉跡）未検出。（出土遺物）覆土から土師器小片が出土した。（時期）出土遺物が少なく時期の特定は困難である。なお本住居を切っている第2次調査のS T 602 住居跡は9世紀代の住居跡に位置付けられており、本住居はこれよりも古いと考えられる。

S T 235 竪穴住居跡（第106・107・134図、写真図版20）

S T 235 竪穴住居跡は、調査区中央の北寄りのX 45 - Y 42に位置し、南西コーナーがS T 236 竪穴住居跡と接している。調査時の名称はS T 40。旧河道に掘り込まれているため、検出面の層相は一様でなく、北壁は検出できなかった。（平面形）東西軸5 mを測り、北壁が判然とせず、南北軸は不明である。カマドが2基構築されており、カマド1を基準とした主軸方向はN - 175° - Wにある。（堆積土）覆土の層厚は20 ~ 40 cmを測り、北側が薄く南側が厚くなっており、黒褐色・灰褐色粘質土が堆積する。（壁面）壁高は15 cm程度を測り、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。（床面）平坦で、硬化面や貼床は認められなかった。（柱穴）未検出。（壁溝）未検出。（カマド）南壁（カマド1）と東壁南寄り（カマド2）に2基構築されていた。カマド1は煙道部、袖部、燃焼部が検出され、左右の袖部内から袖石が出土した。煙道部の先端は明確でなく、カマド内からは土師器坏（第134図5・6）、土師器甕（第134図4）が出土した。カマド2は煙道部と燃焼部が検出され、袖部は検出されていない。このことからカマド2からカマド1に作り替えられたと推定される。カマド2の煙道部から土師器坏（第134図11）、須恵器高台坏（第134図10）が出土した。（出土遺物）カマド及びその周囲から土師器・須恵器が

出土した。(時期) 出土遺物から9世紀代の住居跡と考えられる。切り合い関係からはS T 236 竪穴住居跡との新旧関係は明確でないが、S T 236 竪穴住居跡よりも新しいと見なされる。

S T 236 竪穴住居跡 (第108～110・135～137・139図、写真図版19)

S T 236 竪穴住居跡は、調査区中央の北寄りのX 45 - Y 41・42、X 46 - Y 41・42に位置し、南東コーナーは第2次調査のS T 680 住居跡(9世紀代)に切られている。調査時の名称はS T 12。(平面形) 東西軸4.9～5.2 m、南北軸5.2～5.3 mを測り、カマドを基準とした主軸方向はN - 180°にある。(堆積土) 覆土の層厚は35～40 cmを測り、黒褐色粘質シルト等が凹レンズ状に堆積する。(壁面) 壁高は40～50 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。(床面) 床面には黒褐色粘質シルト等が貼られている。第2次調査のS T 680 住居跡の床面よりも5～10 cm低い。(柱穴) 住居内からピット9基が検出されたが、P 1～P 3・P 6が柱穴に相当すると考えられる。(壁溝) 未検出。(カマド) 南壁の東寄りに構築され、右袖部と燃焼部が検出された。左袖部は第2次調査のS T 680 住居跡に壊されており、煙道部は明確でない。右袖部内から土師器甕(第135図6、第136図1)、カマド周辺から土師器甕(第135図9、第136図3・4、第137図1)が出土した。(出土遺物) カマド以外では、床面から須恵器杯(第137図3)、高台杯(第137図4)、土師器甕(第135図5、第136図2)、砥石(第139図4)、P 1の上層から須恵器杯(第137図7)、P 2の下層から須恵器杯(第137図8)、覆土上位の南壁から須恵器杯(第137図5)が出土した。(時期) 床面から出土した遺物から、8世紀代の住居跡と考えられる。なお第2次調査のS T 680 住居跡は9世紀代の住居跡に位置付けられており、本住居よりも新しい。

4 第4次調査の掘立柱建物跡

S B 172 掘立柱建物跡 (第111図)

S B 172 掘立柱建物跡は、調査区中央の南寄りのX 33 - Y 30・31、X 34 - Y 30・31に位置する。北側居住域の南端に当たり、第1次調査のS T 129 住居跡(9世紀代)の直下にある。同住居内と周囲には小ピットが存しており、P 1～P 3・P 5・P 7・P 9・P 12の7基

は第1次調査時に調査され、P 5は第2次調査のS X 153、P 2は第1次調査のS P 155、P 3は第2次調査のS K 160、P 7は第2次調査のE P 304に相当する。調査時の名称はS B 1。(構造) 桁行3間、梁行2間の総柱型で、主軸方向はN - 35° - Eにある。(規模) 桁4～4.2 m、梁4.4 mを測り、面積は18.4 m²となる。柱心心間の距離は、桁の西側が北から1.4 m - 1.4 m - 1.4 m、同じく中央が1.4 m - 1.3 m - 1.4 m、同じく東側が1.4 m - 1.2 m - 1.4 m、梁はいずれも2.2 mとなる。(柱穴) 直径30～45 cmの円形を基本とし、遺構検出面からの深さは15 cm程度を測る。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難であるが、第2次調査の段階で、ピット7基が検出されており、奈良・平安時代の所産と考えられる。なお第1次調査のS T 129 住居跡は9世紀代の住居跡に位置付けられており、S B 172 掘立柱建物跡のP 4が同住居跡のカマド袖部の直下から検出された。このことからS B 172 掘立柱建物跡は第1次調査のS T 129 住居跡よりも古いと考えられる。

5 第4次調査の溝跡

S D 248 溝跡 (第112図)

S D 248 溝跡は、調査区南端のX 18 - Y 19に位置し、奈良・平安時代遺構面の掘削時に検出した。調査時の名称はS D 25。第1次調査で調査された溝跡(名称なし)の補足調査で、須川の旧河道(S G 1 河川跡)に並行し、長さ3.6 m、幅40 cm、深さ15～20 cmを測る。第1次調査ではS T 72 住居跡(8世紀後半)を掘り込んでおり、同住居跡よりも新しく、古代の溝跡と考えられる。

S D 177 溝跡 (第112図)

S D 177 溝跡は、調査区中央の南寄りのX 35 - Y 33に位置し、西にS D 176 溝跡が近接する。調査時の名称はS D 26。長さ2.3 m、幅20 cm、深さ5 cm程度の小規模な溝跡で、弧状を呈する。出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S D 183 溝跡 (第112図)

S D 183 溝跡は、調査区中央の南寄りのX 37 - Y 32・33、X 38 - Y 32に位置し、南にS T 178 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS D 29。長さ3.1 m、幅20 cm、深さ10 cm程度の東西方向に伸びた小規模な溝跡で、直交するように短い溝跡が2条検出されている。出

土遺物がなく時期の特定は困難である。

S D 176 溝跡 (第112 図)

S D 176 溝跡は、調査区中央の南寄りの X 35 - Y 32・33 に位置し、東に S D 177 溝跡が近接する。調査時の名称は S D 30。第1次調査の S D 136 溝跡、第2次調査の S D 709 溝跡に相当し、その補足調査に当たる。長さ 4.6 m、幅 50 cm、深さ 5 ~ 10 cm を測り、東西方向に伸びている。古代の所産と思われるが、出土遺物がなく時期の特定は困難である。

6 第4次調査の土坑

S K 173 土坑 (第113 図)

S K 173 土坑は、調査区中央の南寄りの X 34 - Y 33 に位置し、東に S K 174 土坑が近接する。調査時の名称は S K 29。長軸 75 cm、短軸 40 cm の楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向は N - 68° - W にある。遺構検出面からの深さは 20 cm を測り、黒褐色・暗赤褐色粘質土が堆積する。底面は丸底で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 174 土坑 (第113 図)

S K 174 土坑は、調査区中央の南寄りの X 34 - Y 34 に位置し、西に S K 173 土坑が近接する。調査時の名称は S K 29。長軸 1.7 m、短軸 1.4 m の不整形の土坑である。遺構検出面からの深さは 15 ~ 20 cm を測り、黒褐色粘質土等が堆積する。底面は丸底で、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 194 土坑 (第113 図)

S K 194 土坑は、調査区中央の X 38 - Y 34・35 に位置し、東に S T 192 竪穴住居跡、南西に S K 188 土坑、北西に S T 195 竪穴住居跡、北に S T 200 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称は S K 30。長軸 70 cm、短軸 50 cm の楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向は N - 53° - W にある。遺構検出面からの深さは 20 cm を測り、焼土粒を含むシルト質土が凹レンズ状に堆積する。底面は丸底で、壁は緩い角度で立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 188 土坑 (第113 図)

S K 188 土坑は、調査区中央の X 37・38 - Y 34 に位置し、東に S T 192 竪穴住居跡、南に S T 186 竪穴住居跡、西に S D 183 溝跡、北に S T 195 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称は S K 31。長軸 2.1 m、短軸 1.2 m の不整形の土坑で、底面中央が 8 字状に低くなっている。遺構検出面からの深さは 10 cm 程度で、更に中央は 10 cm 低くなり、炭化粒・焼土粒を含むシルト質土が堆積する。底面は段を有するが平坦で、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 168 土坑 (第113・138 図)

S K 168 土坑は、調査区北側の X 28 - Y 28 に位置し、南側を S G 169 河川跡に切られている。調査時の名称は S K 32。直径 1.4 m の円形の土坑で、遺構検出面からの深さは 5 ~ 10 cm を測り、黒褐色粘質土が堆積する。底面は丸底で、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物) 土坑の底面直上から須恵器片、S G 169 河川跡との境界付近から須恵器坏(第138 図 3)が出土した。(時期) 出土遺物から奈良・平安時代の土坑と考えられる。なお切り合い関係から、本土坑は S G 169 河川跡よりも古いと見なされる。

S K 207 土坑 (第113 図)

S K 207 土坑は、調査区中央の X 41 - Y 39 に位置し、S T 205 竪穴住居跡の東壁を切っている。調査時の名称は S K 33。直径 70 cm の円形の土坑と推定され、遺構検出面の深さは 20 cm を測り、焼土粒・炭化粒を多く含む黒褐色粘土が堆積する。底面は丸底で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。なお S T 205 竪穴住居跡は古代の住居跡と推定されており、それよりも新しいことになるが、周囲には粘土塊が存しており、同住居跡のカマドの痕跡であった可能性も考えられる。

S K 209 土坑 (第114・138 図)

S K 209 土坑は、調査区中央の西端、X 43 - Y 35 に位置し、東側は第2次調査の S T 574 住居跡に切られ、西側は調査区域外となっている。形状は明確でないため、土坑として扱った。調査時の名称は S K 23。北東壁のみ検出したが、壁高は 10 cm を測り、壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦で、第2次調査の S T 574 住居跡の床面より 10 cm 高い。出土遺物が多く、住居跡の可能性

も考えられる。(出土遺物) 覆土下層より、土師器壺(第138図5)、土師器甕(第138図7・8)、ミニチュア土器(第138図6)が出土した。(時期) 出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。なお第2次調査のS T 574住居跡は7世紀末～8世紀初頭の住居跡に位置付けられており、本土坑よりも新しい。

S K 212 土坑 (第114・138図)

S K 212 土坑は、調査区中央のX 42 - Y 37・38に位置し、北にS T 213住居跡、西にS T 211住居跡が近接し、第2次調査のS T 589住居跡の直下に当たる。調査時の名称はS K 25。東壁は削平されているが、南北軸2.8 m、東西軸1.5 mの不整形の土坑で、壁高は15 cmを測り、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦だが、ピット状の落ち込みが4基認められ、焼土粒・ブロックが堆積していた。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 202 土坑 (第114・139図)

S K 202 土坑は、調査区中央のX 41 - Y 35・36、X 42 - Y 35・36に位置し、東にS T 203 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS K 24。長軸2.2 m、短軸0.9 mの楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 84° - Eにある。遺構検出面からの深さは10～15 cmを測り、黒褐色・褐灰色粘質土が堆積し、壁は外傾して立ち上がり、床面はやや起伏を有する。(出土遺物) 覆土下層から土師器小片と、擦痕を有する石製品(第139図5)が出土した。(時期) 出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、古墳時代の土坑と考えられる。

S K 201 土坑 (第114図)

S K 201 土坑は、調査区中央のX 39・40 - Y 36に位置し、西にS T 200 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS K 27。直径80 cmの円形の土坑で、西側の下端は掘り過ぎたため検出されていない。遺構検出面からの深さは40 cmを測り、シルト質土が堆積する。底面はやや起伏を有し、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 204 土坑 (第115・138図)

S K 204 土坑は、調査区中央のX 41 - Y 37・38に位置し、西にS T 203 竪穴住居跡、北に第2次調査のS T 588住居跡が近接し、東側未買収地のため調査区域外と

なる。調査時の名称はS K 19。長軸140 cm、短軸70 cmの楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 60° - Eにある。遺構検出面からの深さは10～30 cmを測り、覆土には焼土粒を多量に含む。底面は起伏を有し、壁は緩く立ち上がる。(出土遺物) 覆土上層から弥生土器甕(第138図4)が出土した。(時期) 出土遺物から、弥生時代中・後期の土坑と考えられ、本遺跡では唯一の弥生時代の遺構となる。

S K 220 土坑 (第115図)

S K 220 土坑は、調査区中央のX 43 - Y 39に位置し、北東にS K 221 土坑、東にS T 222 竪穴住居跡、南にS T 213 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS K 17。長軸170 cm、短軸50 cmの楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 7° - Wにある。遺構検出面からの深さは20～40 cmを測り、黒褐色粘質土等が堆積する。低面は南側に傾斜し、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 221 土坑 (第115図)

S K 221 土坑は、調査区中央のX 43・44 - Y 39に位置し、東にS T 222 竪穴住居跡、南にS K 220 土坑が近接する。調査時の名称はS K 18。長軸75 cm、短軸40 cmの楕円形で、北を基準とした主軸方向はN - 15° - Eにある。遺構検出面からの深さは20 cmを測り、褐灰色・灰褐色粘質土が堆積する。底面は緩い丸底で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 出土遺物なし。(時期) 出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 206 土坑 (第115図)

S K 206 土坑は、調査区中央のX 41・42 - Y 39に位置し、南側はS T 205 竪穴住居跡と接しており、南西にS K 207 土坑が近接する。調査時の名称はS K 20。長軸125 cm、短軸105 cmの楕円形で、遺構検出面からの深さは10～25 cmを測り、焼土粒を含む暗赤灰色粘土層等が堆積する。底面は丸底で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物) 土師器小片が出土した。(時期) 出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、古代の所産と考えられる。S T 205 竪穴住居跡に付随した施設であった可能性も考えられる。

S K 217 土坑 (第115図)

S K 217 土坑は、調査区中央のX 45 - Y 36に位置し、

北東にS T 229 竪穴住居跡、南にS T 216 竪穴住居跡が近接する。調査時の名称はS K 21。長軸265 cm、短軸185 cmの楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 30° - Eにあり、北壁の一部は試掘調査のトレンチで削平されている。遺構検出面からの深さは10 cm程度を測り、黒褐色・灰褐色粘質土が堆積する。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)出土遺物がなく時期の特定は困難である。

S K 210 土坑 (第115図)

S K 210 土坑は、調査区中央のX 43 - Y 36に位置し、東にS T 211 竪穴住居跡が近接し、西側は第2次調査のS T 582 住居跡と接している。調査時の名称はS K 22。長軸120 cm、短軸75 cmの楕円形の土坑で、北を基準とした主軸方向はN - 85° - Eにある。遺構検出面からの深さは10 cm程度を測り、黒褐色・灰褐色粘質土が堆積する。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。(出土遺物)出土遺物なし。(時期)出土遺物がなく時期の特定は困難である。なお切り合い関係から、第2次調査のS T 582 住居跡(9世紀代)よりも古いと見なされる。

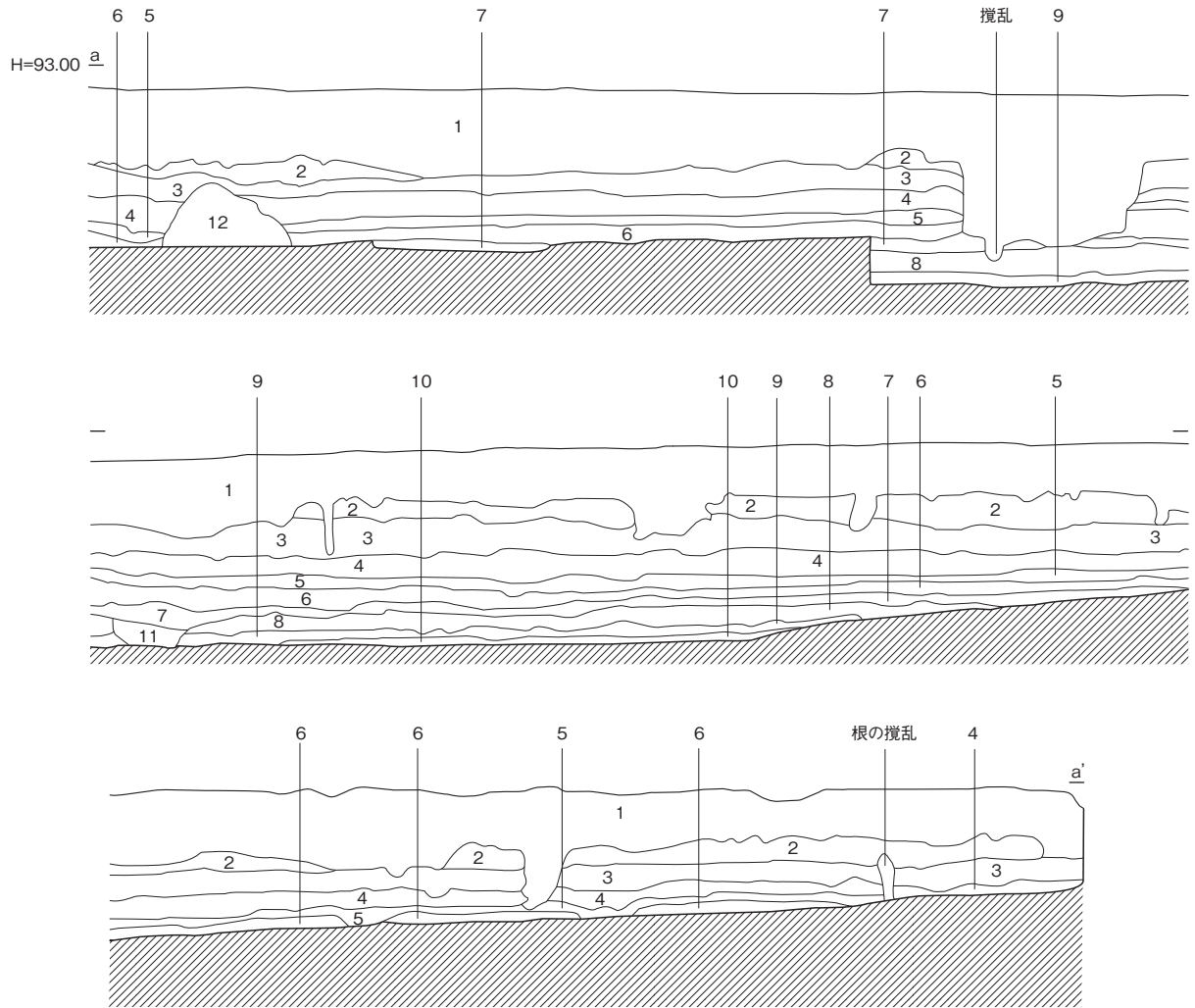
7 古墳時代の遺物集中地点

第4次調査では、第3次調査と同様に遺構を伴わない古墳時代土師器の集中的な出土状況が認められた。住居域の微高地ではなく、住居域よりも低い場所で多く出土しており、2地点に大別された。即ち住居域の北側と南側で、前者(第126図)は3点の土師器甕・鉢等(第146図9、第147図1・2)で、後者は広範囲にわたっている(第119～125図)。

第4次調査で出土した土師器の数量は第3次調査に比べると少ないが、遺構を伴わない同様の状況が看取された。黒褐色粘土と黄褐色粘土の互層からなる黒褐色粘質土(基本層序7層)の直上の黒褐色粘質土が主な包含層となる。土師器の周囲から焼土や炭化材の集中が見られた箇所も存しており、火を使用した何らかの行為が執り行われた様相が窺われる。畑跡と思われる並行した溝跡の外側で主に出土したことから、土師器が遺棄された後に畑地となった可能性が考えられるが、一部溝跡の内側からも土師器が出土した箇所(第122図)も存している。

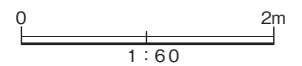
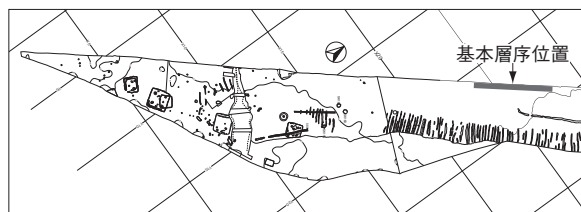
第4次調査で出土した遺構を伴わない古墳時代の土師器の殆どは、4世紀代に位置付けられ、住居跡の年代と

も整合性を有する。住居域を離れた畑地で、何らかの儀礼等が執り行われた結果を示しているのであろう。

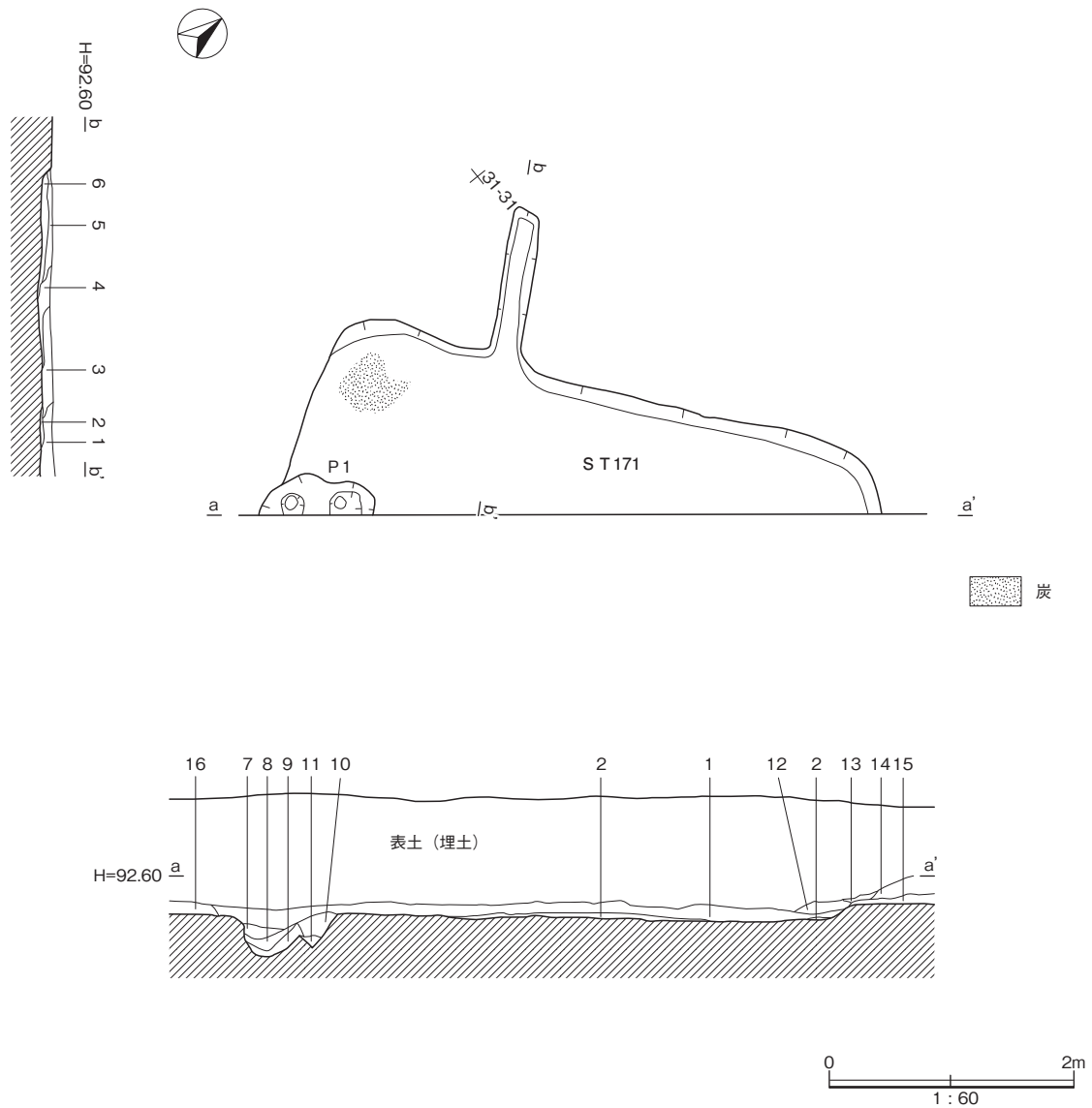


基本層序 a-a'

- | | | |
|--------------|----------|---|
| 1. 7.5YR3/1 | 黒褐色シルト質土 | 締まりを有す。奈良・平安時代の包含層で、2mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。上位は2002~03年調査時の埋土で、灰褐色シルト質土 (7.5YR4/2) となる。両層は複雑に混じり合っており、分層が困難な部位が多数存在したため、分層せず、大きく捉えている。 |
| 2. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト質土 | やや締まりを欠き、粘性に劣る。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。3に比し、色調がわずかに明るい。 |
| 3. 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト質土 | やや締まりを有し、粘性に劣る。5mm大の粘土粒を少々含む。上位はシルト質土で、下位はやや粘性を帯びる。2に比し、色調がわずかに暗い。 |
| 4. 7.5YR4/2 | 灰褐色粘質土 | やや締まりを有し、粘性を有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 5. 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや締まりを欠き、粘性が極めて強い。5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含み、2mm大の炭化粒をわずかに含む。調査区南側を広く覆う黄褐色粘土層に相当する。 |
| 6. 7.5YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや締まりを有し、粘性を有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 7. 7.5YR4/2 | 灰褐色粘質土 | 締まりを有し、粘性を有す。2mm大の粘土粒を多く含む。古墳時代の包含層に相当する。 |
| 8. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 締まりを有し、黒褐色粘土層 (7.5YR3/1) とに併し黄褐色粘土層 (10YR4/3) の互層からなり、黒色→黄色→黒色の順に堆積するが、黄色→黒色→黄色→黒色→黄色→黒色の順に堆積した部位も存在する。 |
| 9. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 締まりを有し、粘性を有す。8よりも色調が明るく、削平時褐灰色を帯びる。 |
| 10. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 締まりを有し、粘性を有す。5mm~1cm大の褐灰色粘土ブロックを多く含み、暗褐色の酸化鉄が多く認められる。 |
| 11. 10YR3/4 | 暗褐色砂質土 | やや締まりを有す。5mm大の粘土ブロックをやや多く含み、黒褐色粘質土を部分的に含む。 |
| 12. 7.5YR5/1 | 褐灰色粘質土 | やや締まりを有し、粘性を有す。木の根の痕跡で、外周に沿って、1cm幅で酸化鉄が認められる。下位は粘土層からなるが、上位はシルト質となる。 |



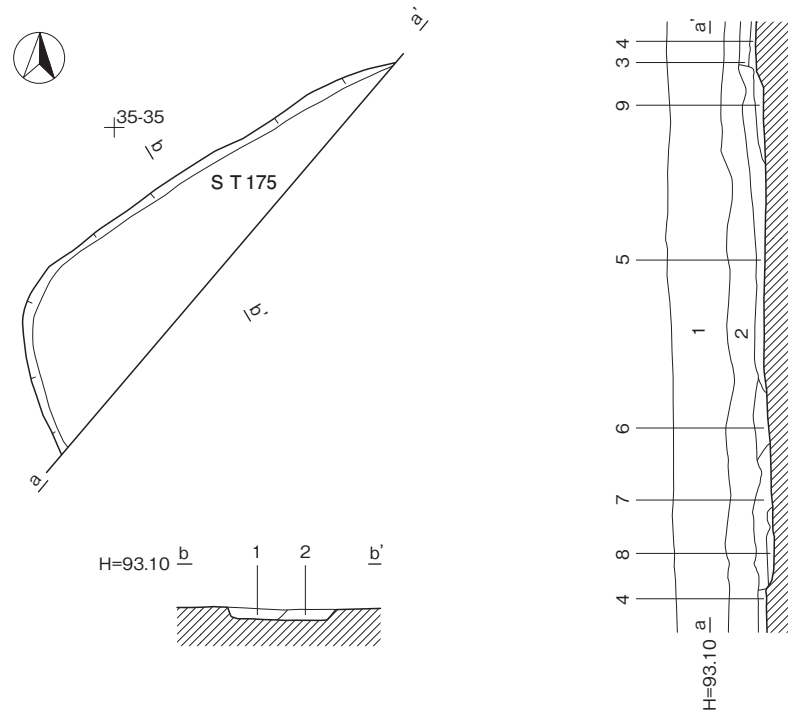
第70図 第4次調査基本層序



S T 171 a-a' b-b'

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 5YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含み、5mm大の黒色粘土ブロックを少々含む。 |
| 2. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | やや締りを欠く。黒褐色粘質土を5mm～1cm大のブロック状に含む。床面に相当する。 |
| 3. 5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。1よりも色調がやや明るい。 |
| 4. 7.5YR4/1 褐灰色シルト質土 | 締りを有す。5mm大の黒褐色粘土粒、2mm大の焼土粒を少々含む。煙道埋土。 |
| 5. 5YR4/1 褐灰色粘質土 | やや締りを有す。2mm～1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。煙道埋土。 |
| 6. 5YR4/2 灰褐色粘質土 | やや締りを有す。黒褐色粘質土が少々混じる。煙道埋土。 |
| 7. 7.5YR4/1 褐灰色シルト質土 | 締りを欠き、粘性を有する。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 8. 10YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを欠く。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 9. 5YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。2よりも色調が明るい。 |
| 10. 5YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。5mm～1cm大の粘土ブロックを少々含む。 |
| 11. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 | やや締りを欠く。黒褐色粘質土をブロック状に含む。 |
| 12. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 13. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。酸化鉄が顕著に見られる。 |
| 14. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。褐色粘土が多く混じる。 |
| 15. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 | 締りを有す。シルト質土がやや多く混じる。 |
| 16. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。 |

第 71 図 S T 171 実測図

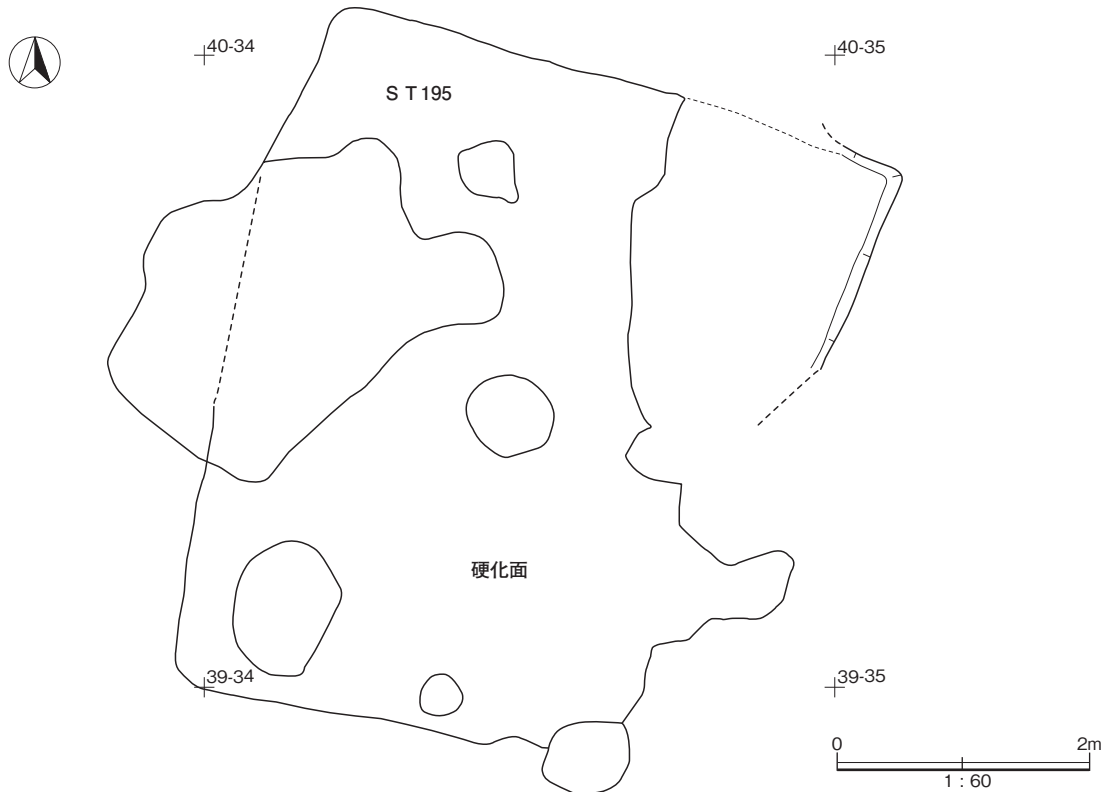


ST 175 a-a'

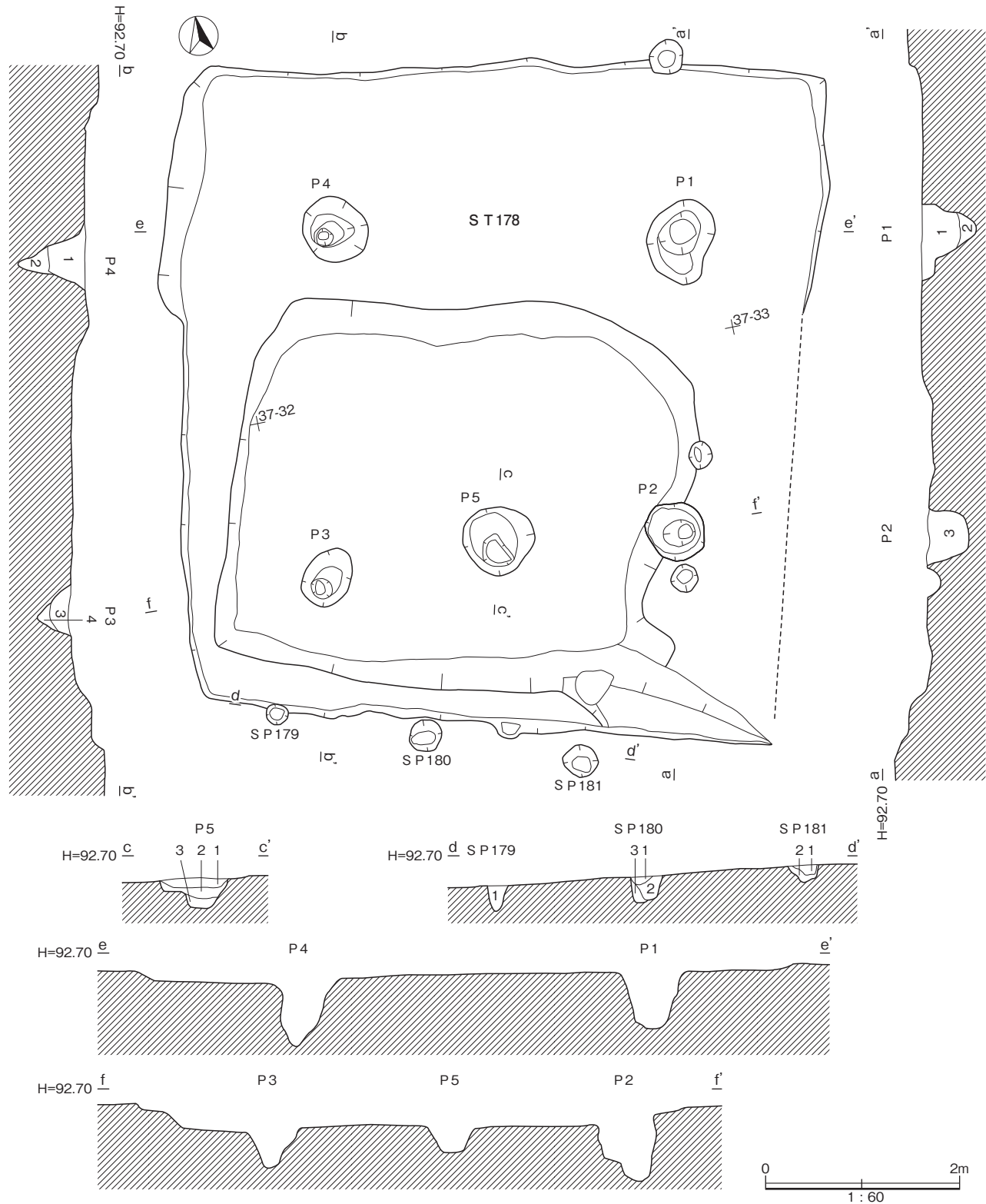
- | | |
|--------------------|--|
| 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。表土および洪水層。下位は灰黄褐色粘土（10YR4/2）が堆積する。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 3. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm～5mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 4. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 | やや縮りを欠く。2mm～2cm大の黒褐色粘質土ブロックをやや多く含む。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm～1cm大の粘土粒、ブロックを多く含む。 |
| 6. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 | 縮りを有す。焼土粒を多く含み、2mm大の粘土粒をやや多く含む。炉跡近辺の土層と思われる。 |
| 7. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm～5mm大の粘土粒を多量に含む。 |
| 8. 10YR3/1 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm～1cm大の粘土粒、ブロックを多く含む。 |
| 9. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm～5mm大の粘土粒を多く含む。 |

ST 175 b-b'

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 2. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。1よりも色調が暗い。 |



第72図 ST 175・195 実測図



ST 178 a-a' b-b'

1. 5YR3/1 黒褐色粘土 10YR6/6明黄褐色粘質シルト斑に混入。縮りなし。
2. 7.5YR3/4 暗褐色粘土 縮りなし。
3. 5YR3/1 黒褐色粘土 5YR5/8明赤褐色粘質シルト微量粒状に混入。縮りが少ない。炭化物微量混入。
4. 7.5YR3/4 暗褐色粘土 縮りが少ない。

ST 178 P5 c-c'

1. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト 炭粒微量混入。縮りなし。
2. N3/0 暗灰色粘質シルト 縮りなし。
3. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土

SP 179 d-d'

1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 炭粒微量混入。

SP 180 d-d'

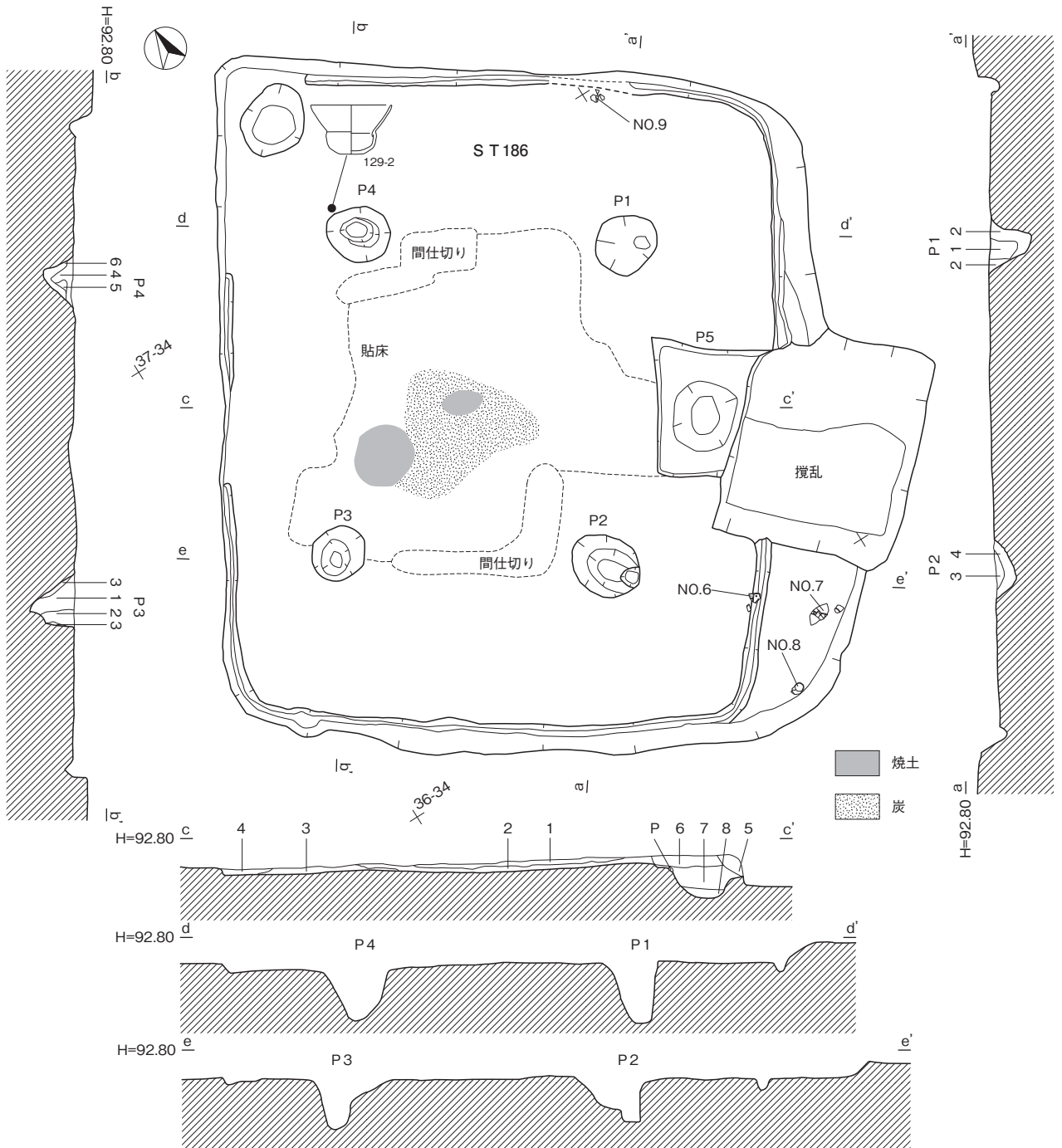
1. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト 炭粒微量混入。10YR4/1褐灰色斑に少量混入。

2. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土
3. 5YR3/2 暗赤褐色粘土

SP 181 d-d'

1. N3/0 暗灰色粘質シルト 10YR4/1褐灰色斑に少量混入。
2. 7.5YR3/1 黒褐色粘土 10YR4/1褐灰色斑に中量混入。

第 73 図 ST 178 実測図



S T 186 a-a'

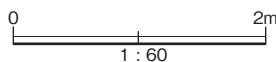
- | | | |
|-------------|-----------|----------------------------|
| 1. N3/0 | 暗灰色粘土 | 5YR4/1 褐灰色粘土。層状に混入。炭粒微量混入。 |
| 2. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 3. 5YR4/1 | 褐灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 4. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘シルト | 炭化物微量混入。 |

S T 186 b-b'

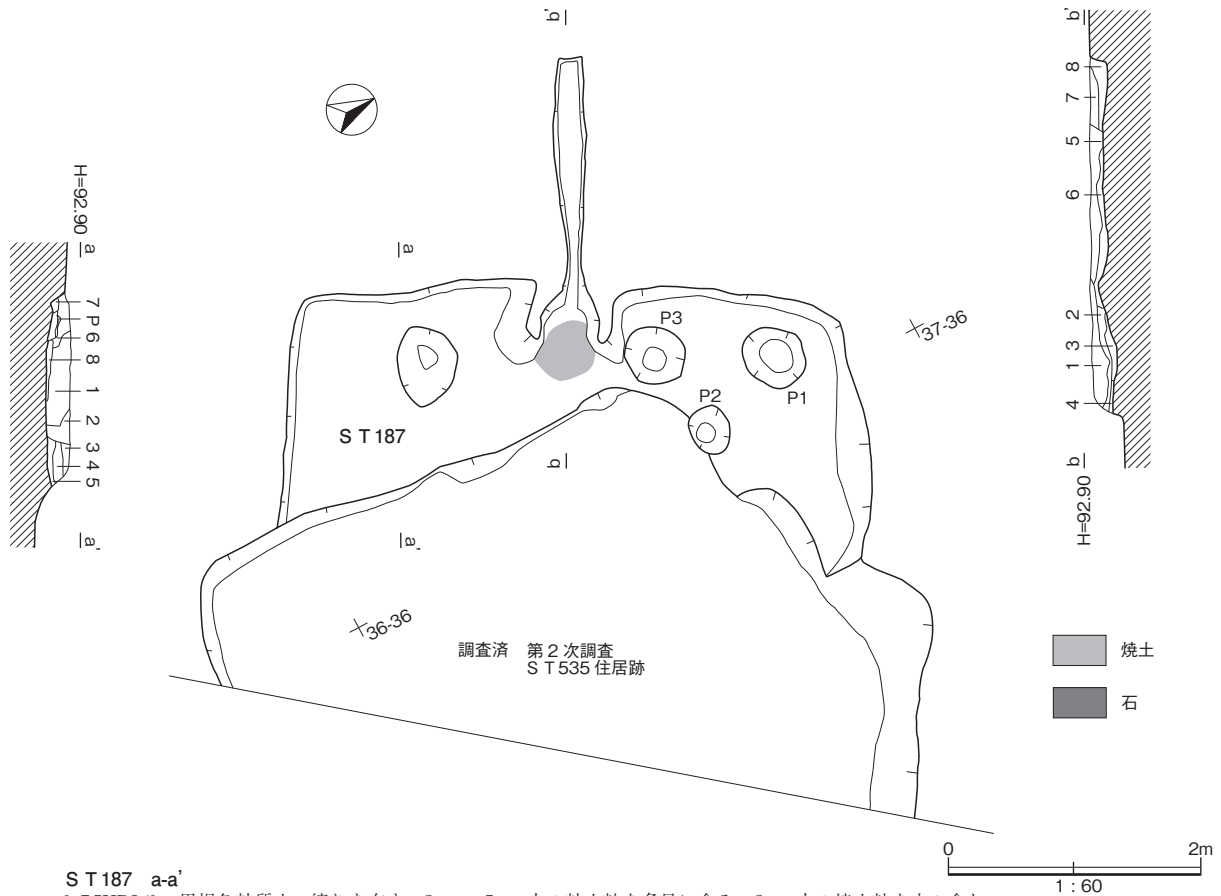
- | | | |
|-------------|-----------|-------------------------------|
| 1. N3/0 | 暗灰色粘質シルト | 炭化物少量混入。5YR6/6 橙色粘質シルト、斑に微量混入 |
| 2. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 3. 10YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 5YR6/6 橙色粘質シルト、斑に微量混入。 |
| 4. 5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | |
| 5. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色粘質シルト | 縮りなし。 |
| 6. 10R3/1 | 暗赤灰色粘質シルト | 5YR6/6 橙色粘質シルト、斑に少量混入。 |

S T 186 c-c'

- | | | |
|-------------|--------|---|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 縮りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 2. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含み、同大の焼土粒、炭化粒を少々含む。中央部下位は炭化層となる。 |
| 3. 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや縮りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 4. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを欠く。2mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 5. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 6. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、2mm~5mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 7. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm~1cm大の粘土粒、ブロックを多く含み、2mm大の焼土粒を少々含む。 |
| 8. 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 縮りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含み、下位は炭化層となる。 |



第74図 S T 186 実測図

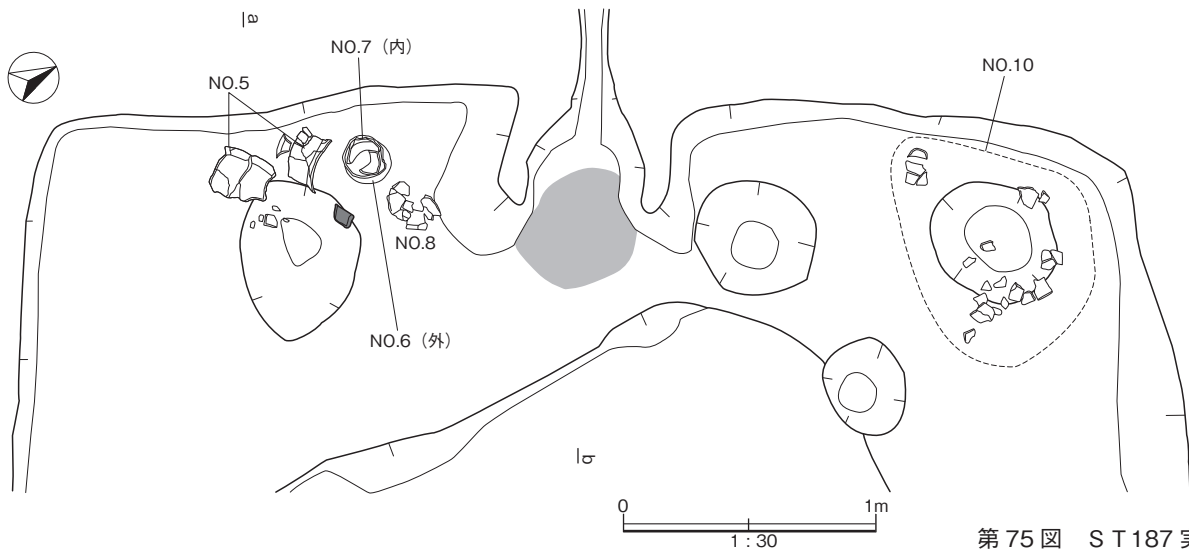


ST 187 a-a'

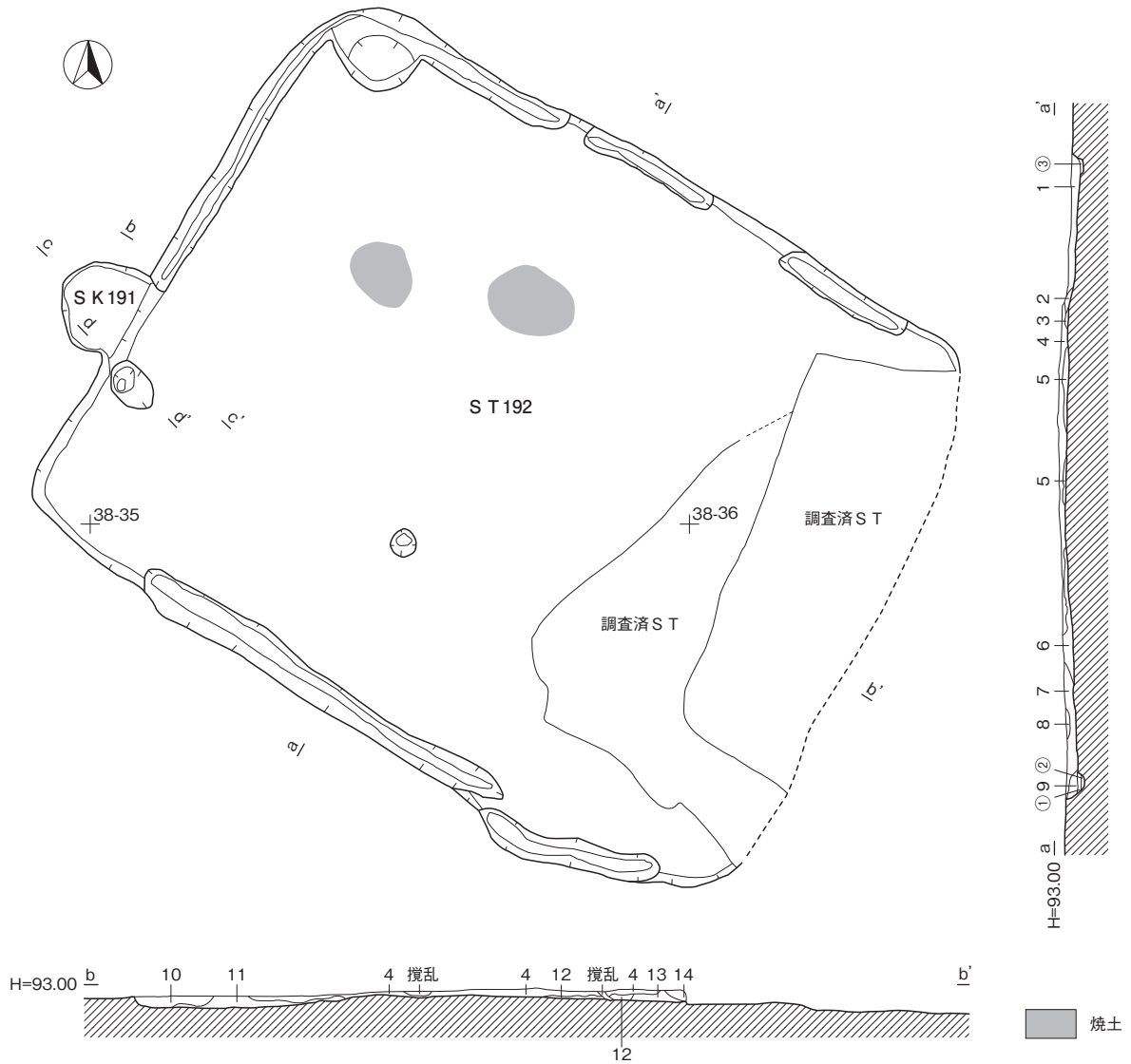
- | | | |
|-------------|--------|--|
| 1. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多量に含み、2mm大の焼土粒を少々含む。 |
| 2. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを欠く。2mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の焼土粒、炭化粒を少々含む。 |
| 3. 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 4. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の焼土粒を少々含む。 |
| 5. 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。貼床に相当。 |
| 6. 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |
| 7. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 縮りを欠く。2mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 8. 10YR2/1 | 黒色粘質土 | やや縮りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒、焼土粒を多く含み、2mm大の炭化粒を少々含む。 |

ST187 b-b' (カマド)

- | | | |
|-------------|----------|--|
| 1. 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒、焼土粒を少々含む。 |
| 2. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色粘質土 | 縮りを欠く。2mm~5mm大の焼土粒を多く含み、2mm~5mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 3. 2.5YR2/4 | 極暗赤褐色粘質土 | 縮りを有す。焼土を主とした火床面、上位は堅固で、下位は暗褐色となる。 |
| 4. 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 縮りを有す。暗褐色粘土を主とし、2mm大の焼土粒を少々含む。貼床相当。 |
| 5. 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。煙道埋土。 |
| 6. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。煙道埋土。 |
| 7. 2.5YR2/1 | 赤黒色粘質土 | 縮りを欠く。2mm大の粘土粒を多く含み、2mm大の焼土粒を少々含む。 |
| 8. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを欠く。5mm大の粘土粒を多く含み、焼土ブロックを少々含む。 |

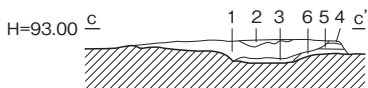


第75図 ST 187 実測図



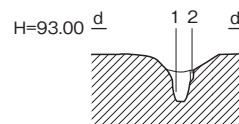
ST192 a-a' b-b'

- | | | | |
|-----------------------|------------|-----------------------|------------|
| 1. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 | 10. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質シルト | |
| 2. 5R3/1 暗紫灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 | 11. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | |
| 3. 10R4/2 灰赤色粘質シルト | 焼土。 | 12. 7.5YR3/1 黒褐色粘土 | 固く締まる(貼床)。 |
| 4. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | 炭化物多量一部混入。 | 13. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 5. N3/0 暗灰色粘土 | 焼土粒状に少量混入。 | 14. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト | (別住居あと覆土)。 |
| 6. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 | ①. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 7. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 | ②. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | |
| 8. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | | ③. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト | |
| 9. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | | | |



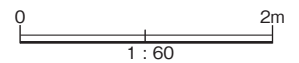
S K 191 c-c'

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 2. 5R3/1 暗赤灰色粘質シルト | |
| 3. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | |
| 4. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | |
| 5. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | N3/0暗灰色粘土層状に混入。 |
| 6. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | |

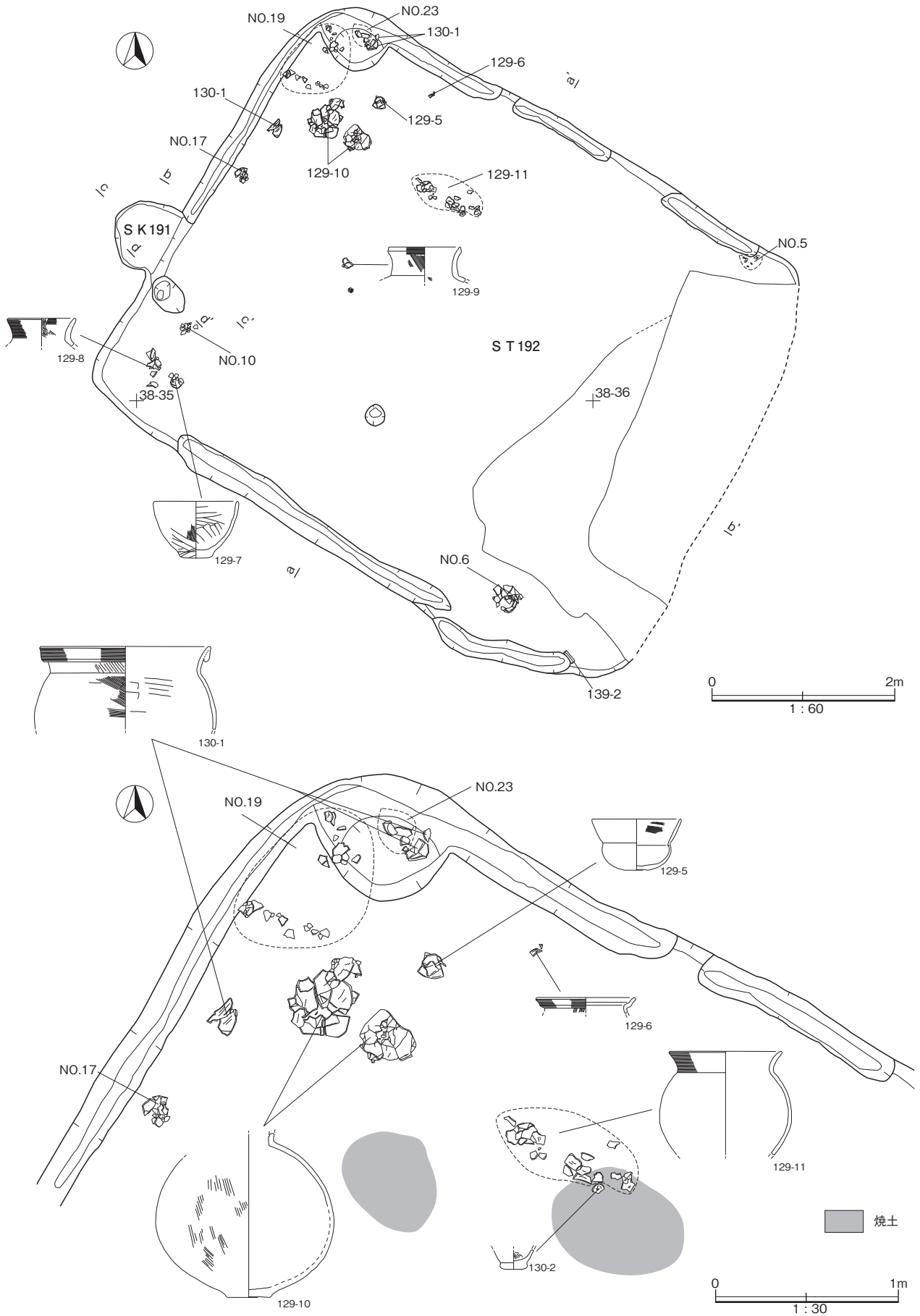


S K 191 d-d'

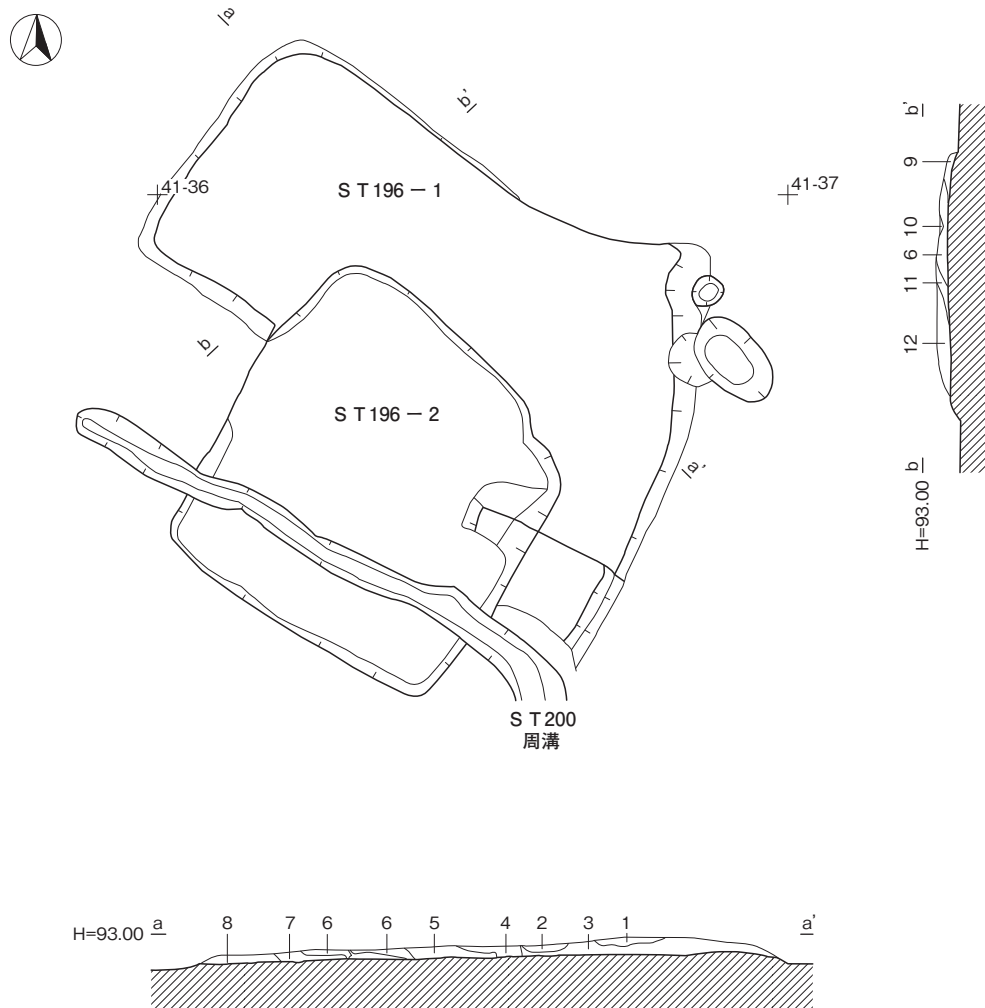
- | |
|-----------------------|
| 1. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト |
| 2. 5R3/1 暗赤灰色粘土 |



第76図 ST192 (1) 実測図

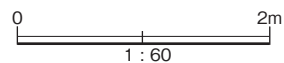


第77図 ST192 (2) 実測図

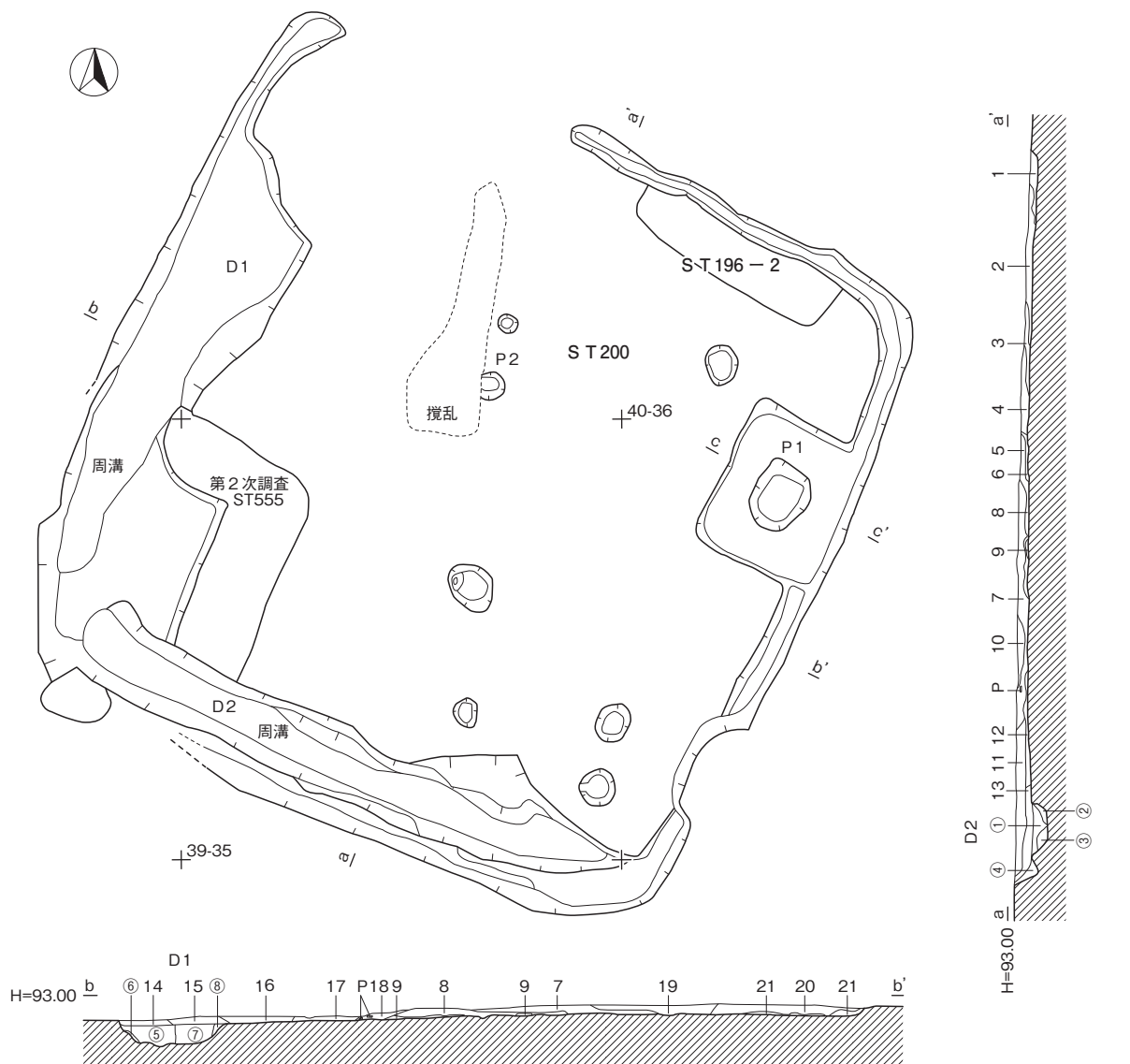


ST 196-1・196-2 a-a' b-b'

- | | | |
|--------------|----------|--------------------------|
| 1. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質シルト | 5YR3/1黒褐色砂質シルト、ブロック状に混入。 |
| 2. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 3. 5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 4. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 炭化物少量混入。 |
| 5. 10YR3/2 | 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 6. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 7.5YR3/2黒褐色粘土、ブロック状に混入。 |
| 7. 5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 8. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 9. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 炭化物少量混入。 |
| 10. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘土 | 炭粒微量混入。 |
| 11. 5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 12. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | |



第 78 図 ST 196 実測図

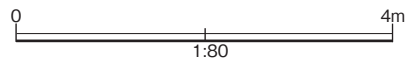
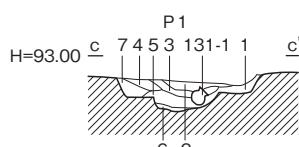


ST200 a-a' b-b'

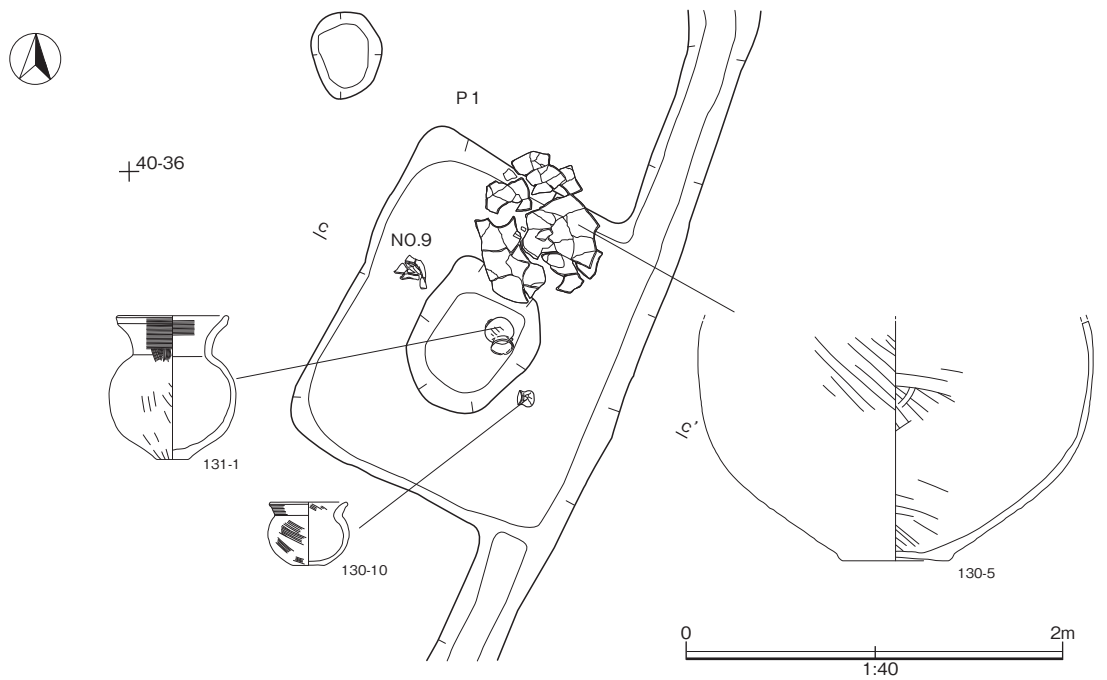
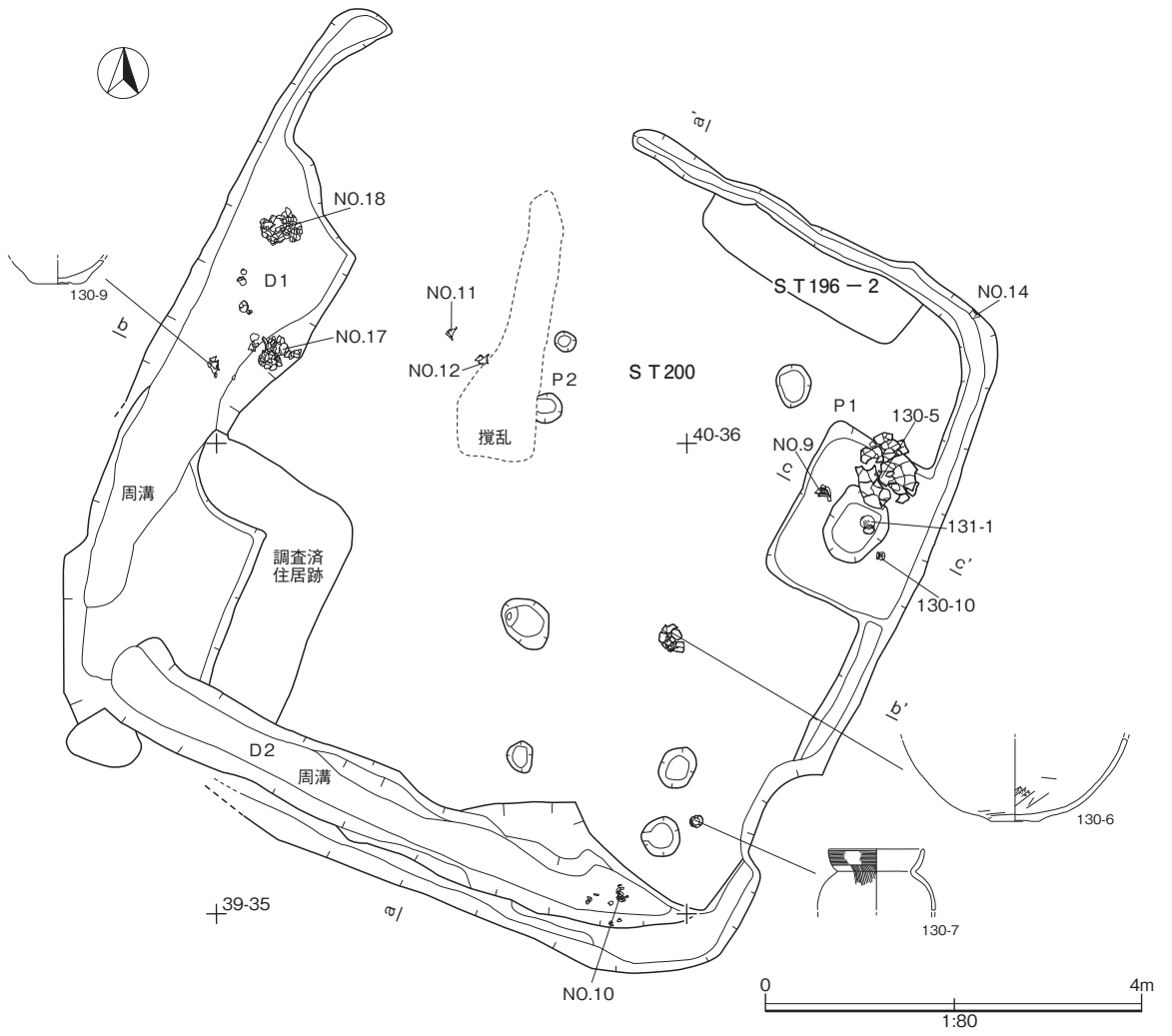
- | | | | |
|------------------------|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒中量混入。7.5YR3/1黒褐色粘質シルト少量斑に混入。 | 15. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト | 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト粒状に混入。 |
| 2. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト | 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト大きく斑に混入。炭粒少量混入。 | 16. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭化物少量混入。 |
| 3. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト | | 17. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | 土器粒混入。 |
| 4. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 焼土粒状に混入。 | 18. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土 | 炭粒少量混入。 |
| 5. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 焼土粒状に混入。 | 19. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 焼土粒状に微量混入。 |
| 6. N3/0 暗灰色粘土 | N3/0暗灰色粘質シルト大きく斑に混入。 | 20. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭化物少量混入。 |
| 7. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 10YR3/1黒褐色粘土層状に混入。 | 21. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 8. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒中量混入。7.5YR3/1黒褐色粘質シルト少量斑に混入。 | ①. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | 5YR4/2灰褐色粘質シルト大きく斑に混入。炭粒微量混入。 |
| 9. 7.5YR3/1 黒褐色粘土 | 5YR3/1黒褐色粘質シルト斑に混入。 | ②. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 10. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 10YR3/1黒褐色粘質シルト斑に混入。炭粒少量混入。 | ③. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 7.5YR4/1褐色粘質シルト細かく斑に混入。 |
| 11. 5YR3/1 黒褐色粘土 | 炭化物少量混入。 | ④. 5YR3/6 暗赤褐色粘質シルト | 7.5YR4/2灰褐色粘質シルト大きく斑に混入。炭粒少量混入。 |
| 12. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト斑に混入。 | ⑤. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | |
| 13. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト大きく斑に混入。 | ⑥. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | |
| 14. 10Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト | | ⑦. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| | | ⑧. 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト | |

ST200 P1 c-c'

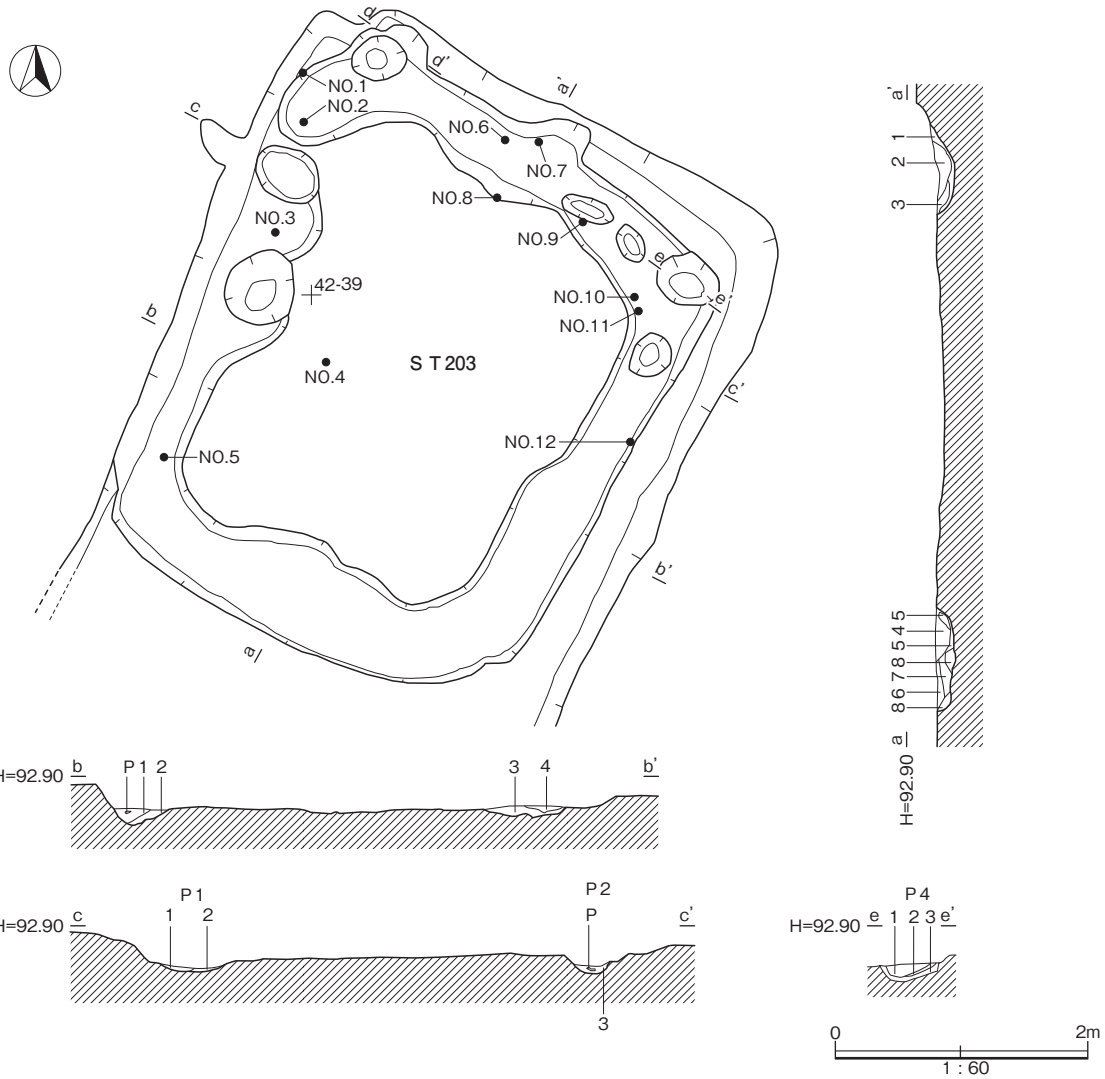
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 細砂。 |
| 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 3. 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト | 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト斑に混入。 |
| 4. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | |
| 5. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | N3/0暗灰色粘土斑に混入。 |
| 6. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | |
| 7. 7.5YR3/1 黒褐色砂質シルト | |



第79図 ST200 (1) 実測図



第80図 ST 200 (2) 実測図



ST 203 a-a'

1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
2. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 7.5YR4/2灰褐色粘質シルト斑に混入 (焼土) 2.5YR4/3にぶい赤褐色微量混入。
3. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 灰、焼土、炭化物、層状に少量混入。
4. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 焼土、炭粒、微量混入。
5. 5YR3/1 黒褐色砂質シルト
6. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 7.5YR4/3褐色粘質シルト斑に混入。
7. 2.5YR3/1 暗赤灰粘質シルト 炭粒微量混入。
8. 5YR3/1 黒褐色砂質シルト

ST 203 b-b'

1. 7.5YR4/2 灰褐色粘土 5YR4/1褐灰色粘土。斑に混入。土器片混入。
2. 5YR4/1 褐灰色粘土 7.5YR4/2灰褐色粘土斑に混入。

3. 7.5YR3/1 黒褐色粘土 炭化物微量混入。

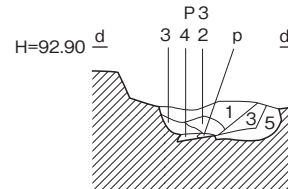
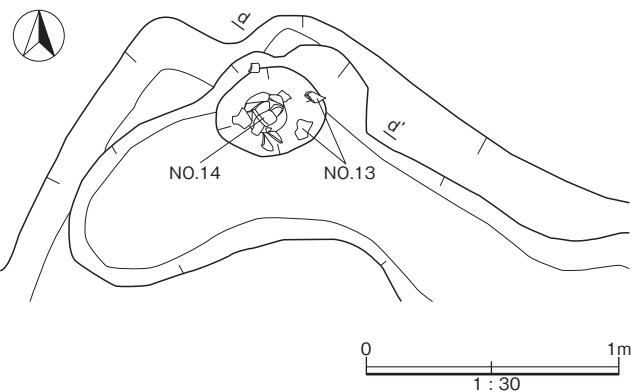
4. 7.5YR4/1 褐灰色粘土 2.5YR4/3にぶい赤褐色 (焼土) 微量、粒状に混入。

ST 203 c-c'

1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 5YR3/2暗赤褐色粘土斑に混入。
2. 10YR3/1 黒褐色粘土 7.5YR4/2灰褐色粘土斑に混入。
3. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土 やわらかい。2.5YR4/3にぶい赤褐色 (焼土) 多量斑に混入。

ST 203 e-e'

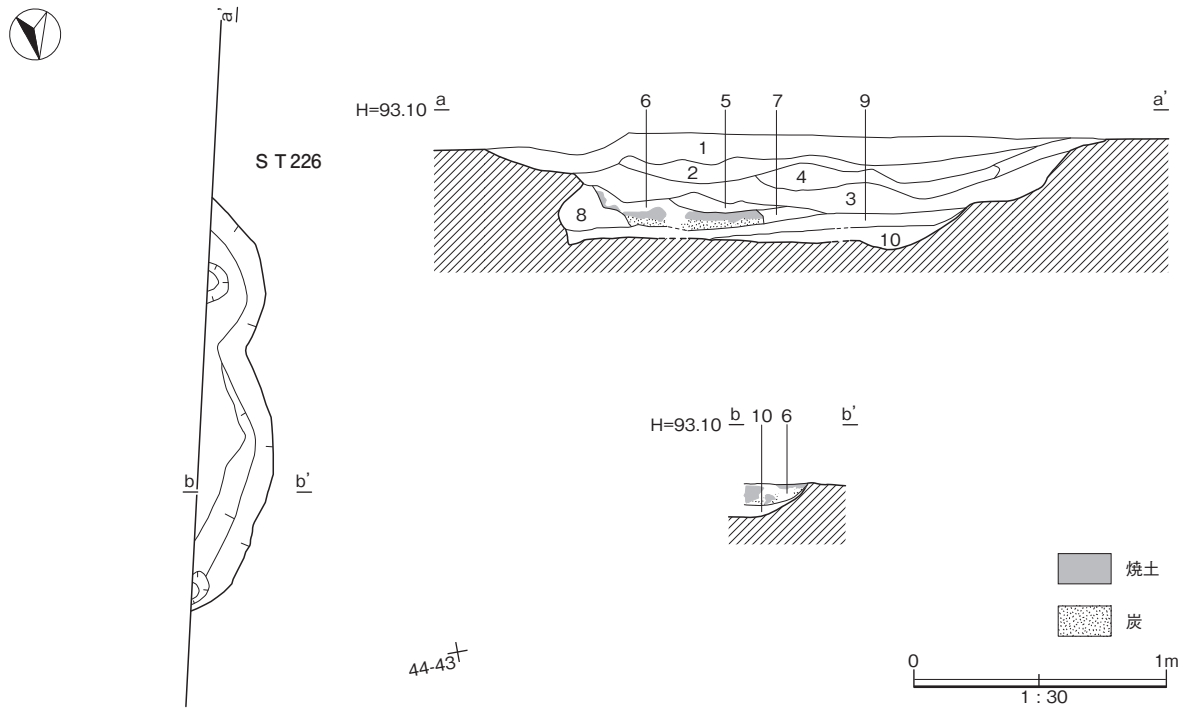
1. 5YR3/1 黒褐色粘土 2.5YR4/3にぶい赤褐色 (焼土) 斑に多量混入。
2. 2.5YR2/1 赤黒色粘土 2.5YR4/3にぶい赤褐色 (焼土) 大きく斑に混入。
3. N2/0 黒色粘土 2.5YR4/3にぶい赤褐色 (焼土) 大きく斑に混入。



ST 203 d-d'

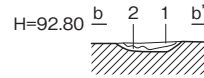
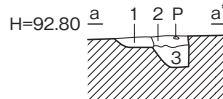
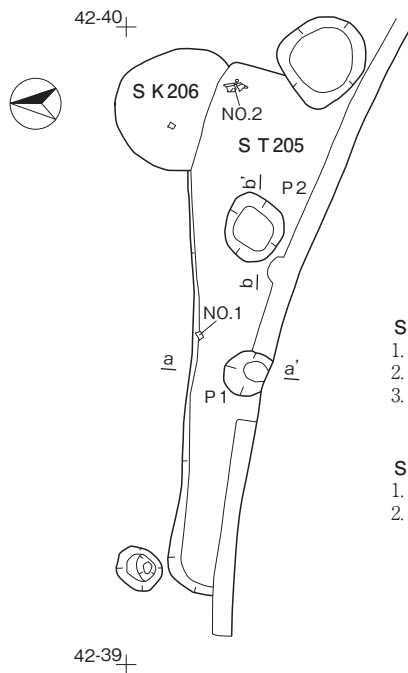
1. 10YR3/2 黒褐色粘土 焼土。2.5YR5/8明赤褐色粒状に混入。炭化物中量混入。
2. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 10YR3/2暗赤褐色 (焼土) 斑に混入。
3. 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト 炭化物少量混入。
4. N2/0 黒色粘土 炭化物少量混入。} 別遺構か?
5. 5YR3/1 黒褐色粘土 炭化物少量混入。} (古墳時代)

第 81 図 ST 203 実測図



S T 226 a-a' b-b'

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 2. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト | 2.5YR3/1暗赤灰色焼土斑に微量混入。炭粒微量混入。 |
| 3. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 5YR3/1黒褐色粗砂層状に混入。炭粒微量混入。 |
| 4. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 5YR3/1黒褐色粗砂斑に混入。炭粒少量混入。 |
| 5. 5YR3/1 黒褐色粘土 | 7.5YR4/2灰褐色粗砂層状に混入。 |
| 6. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土 | 焼土、5YR3/1黒褐色粘土下方に層状に入る。 |
| 7. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒中量層状に混入。 |
| 8. 5YR3/2 暗赤褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 9. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 10. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |

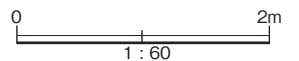


S T 205 a-a'

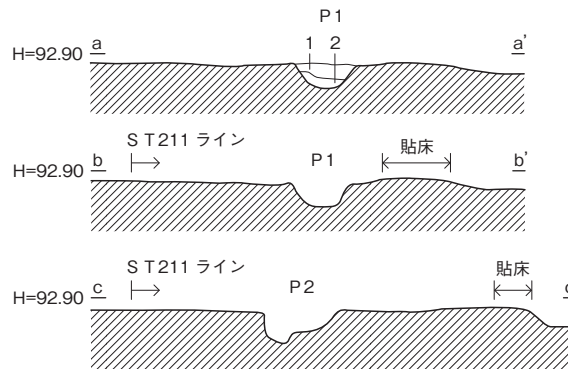
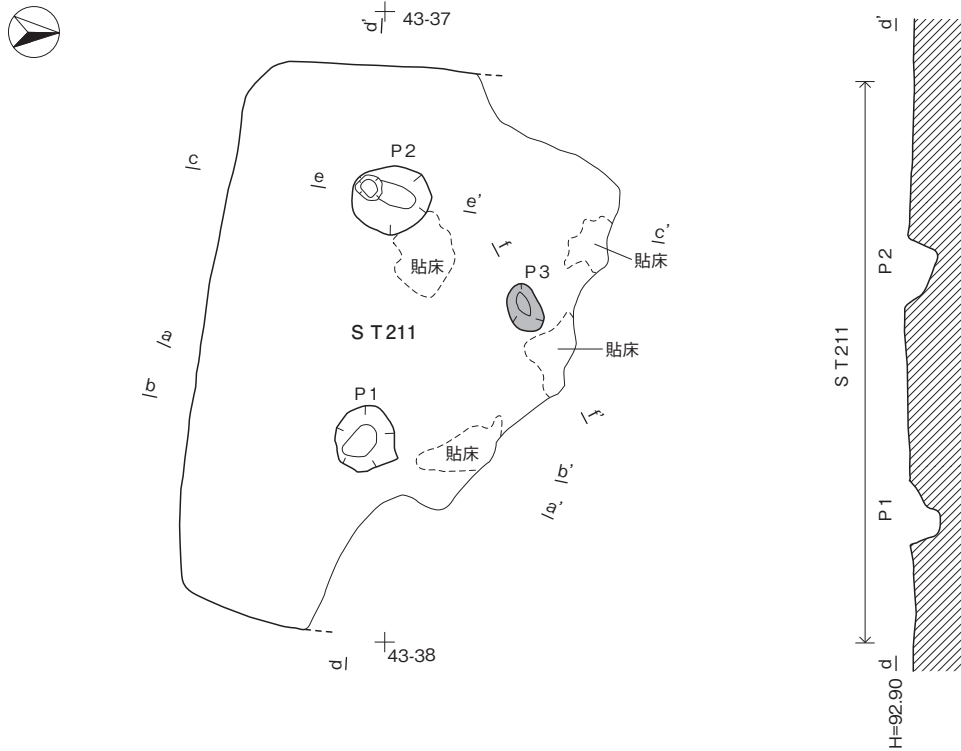
- | | |
|--------------------|---|
| 1. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。住居覆土。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 3. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含み、5mm大の炭化粒を少々含む。 |

S T 205 b-b'

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締りを有す。5mm大の粘土粒を多量に含む。 |
| 2. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒を多量に含む。酸化鉄を含み、やや灰色を帯びる。 |

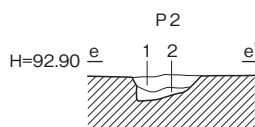


第 82 図 S T 205・226 実測図



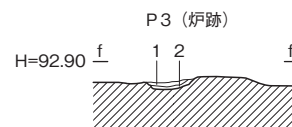
ST211 P1 a-a'

1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。2mm大の粘土粒をやや多く含む。
2. 5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。



ST211 P2 e-e'

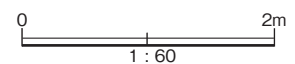
1. 5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。
2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。



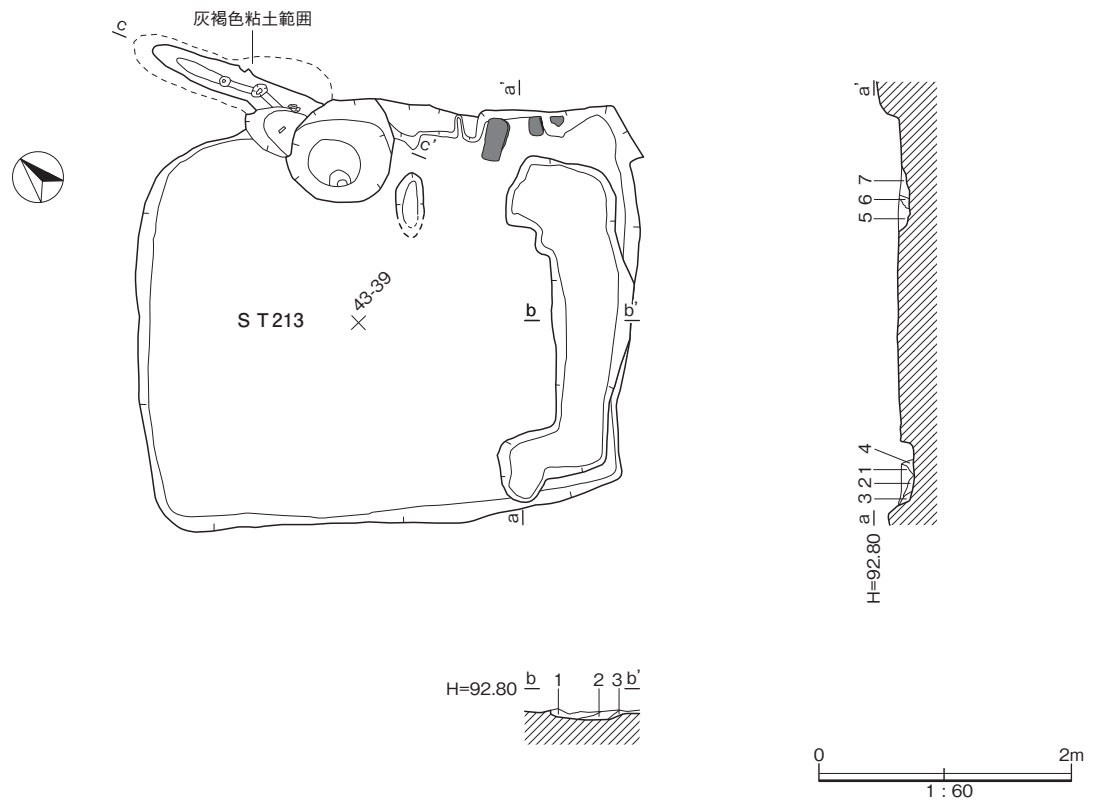
ST211 P3 f-f'

1. 7.5YR2/1 黒色粘質土 締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒、焼土粒をやや多く含む。炭化層からなり、周囲は被熱のためか赤褐色を呈する。
2. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 やや締りを欠く。黒色粘質土がやや多く混じる。

■ 焼土



第83図 ST211 実測図



ST213 a-a'

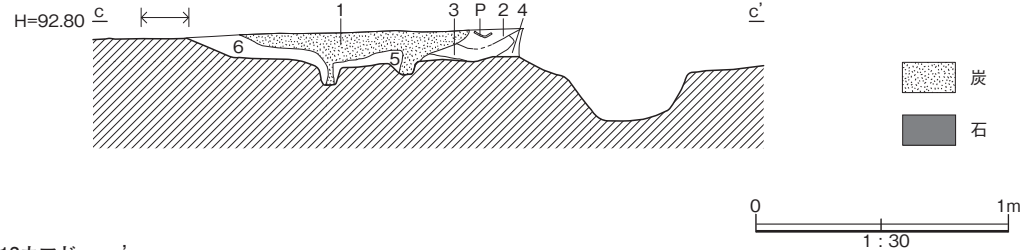
- | | | |
|-------------|-----------|--------------------------------|
| 1. 10R4/1 | 暗赤灰色粘質シルト | (焼土) 2.5YR6/6 橙色少量斑に混入。炭粒微量混入。 |
| 2. 5YR3/1 | 黒褐色粘土 | 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト斑に混入。 |
| 3. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 5YR3/1 黒褐色粘土斑に混入。 |
| 4. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質シルト | |
| 5. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 2.5YR6/6 橙色(焼土)少量斑に混入。炭化物少量混入。 |
| 6. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 10YR4/2 灰黄褐色粘土斑に混入。 |
| 7. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質シルト | 10YR4/2 灰黄褐色粘土斑に混入。 |

ST213 b-b'

- | | | |
|-------------|----------|---------------------|
| 1. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 焼土、炭化物多量混入。 |
| 2. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 10YR4/2 灰黄褐色粘土斑に混入。 |
| 3. 7.5YR4/2 | 灰褐色粘質シルト | |

ST213 カマド

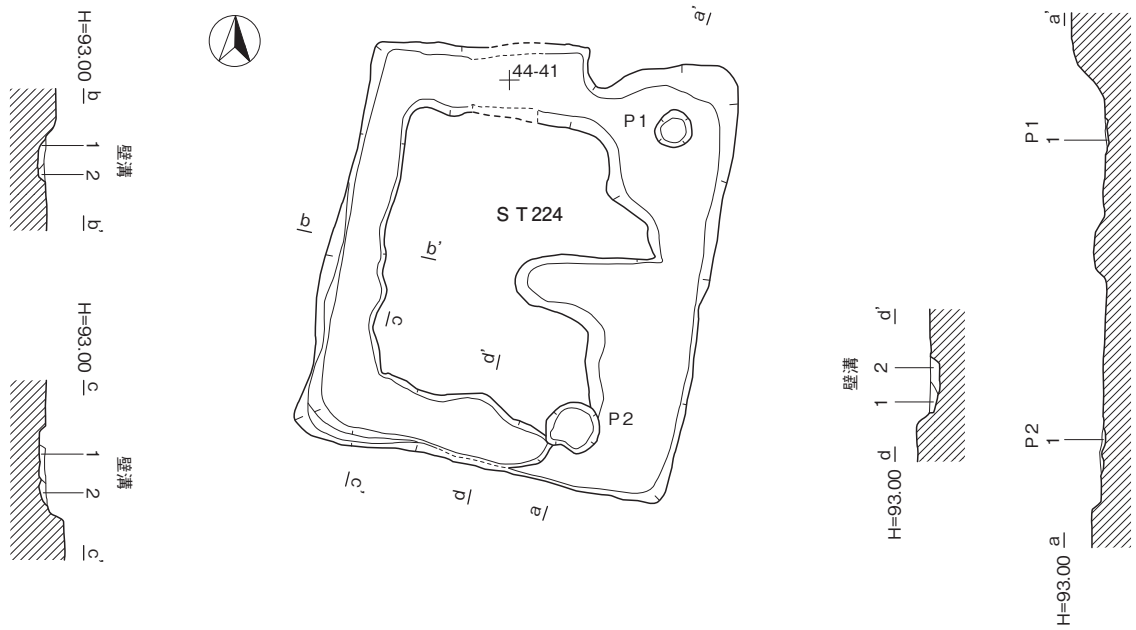
煙道外周に貼り付けた灰褐色粘土 (7.5YR4/2)



ST213カマド c-c'

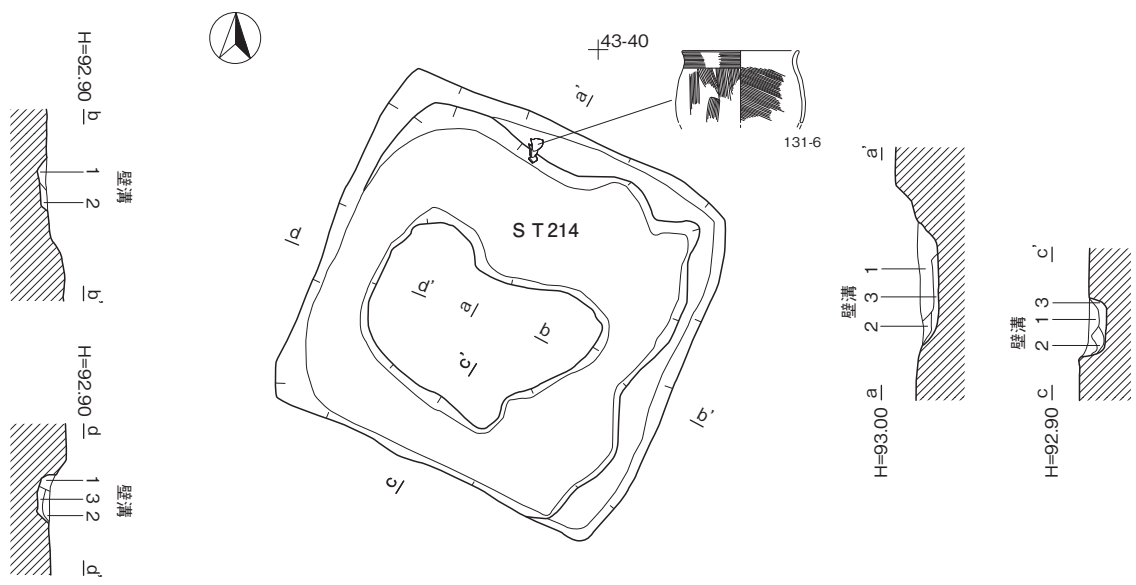
- | | | |
|-------------|--------|---|
| 1. 5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。煙道の覆土。5mm~1cm大の粘土、焼土、炭化ブロックを多く含む。 |
| 2. 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。5mm大の焼土粒をやや多く含み、5mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 3. 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。5mm大の焼土粒と炭化粒を少々含む。 |
| 4. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒、炭化粒を少々含む。 |
| 5. 7.5YR4/2 | 灰褐色粘質土 | やや締りを欠く。5mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 6. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 締りを欠く。5mm大の粘土粒を多量に含み、焼土粒を少々含む。 |

第84図 ST213 実測図



- ST 224 a-a'**
 1. N3/0 暗灰色粘土 7.5YR3/1黒褐色斑に混入。(焼土) 5YR6/6橙色粒状に少量混入。
- ST 224 b-b'**
 1. 5R3/1 暗赤灰色粘質シルト 7.5YR3/2黒褐色粘土、斑に混入。
 2. 2.5YR3/2 暗赤褐色粘質シルト 7.5YR3/2黒褐色粘土、粒状に少量混入。

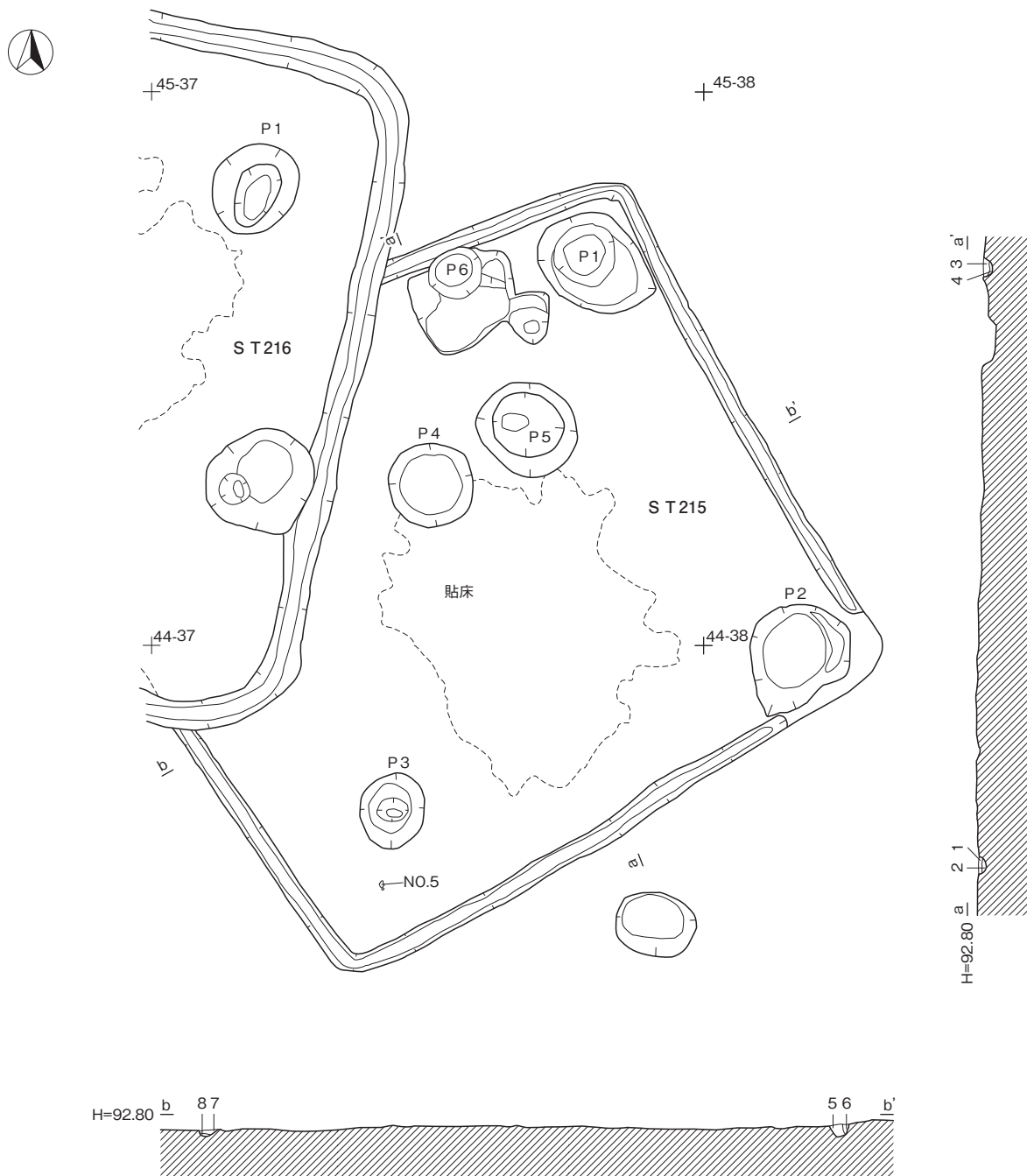
- ST 224 c-c'**
 1. N3/0 暗灰色粘土 7.5YR3/2黒褐色砂質シルト、層状に混入。炭粒微量混入。
 2. 5R3/1 暗赤灰色粘質シルト 7.5YR3/2黒褐色砂質シルト、斑に混入。
- ST 224 d-d'**
 1. 5RP3/1 暗紫灰色粘質シルト 5YR3/1黒褐色砂質シルト、斑に混入。
 2. N3/0 暗灰色粘質シルト 5YR6/6橙色(焼土)粒状に微量混入。



- ST 214 a-a'**
 1. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト 5YR4/1褐灰色粘質シルト、少量斑に混入。
 2. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト 2.5YR3/1暗赤灰色粘質シルト、少量斑に混入。
 3. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト
- ST 214 b-b'**
 1. 10R4/1 暗赤灰色粘土 5YR4/1褐灰色粘質シルト、斑に混入。
 2. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト

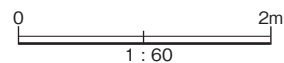
- ST 214 c-c'**
 1. 10R4/1 暗赤灰色粘質シルト 5YR4/1褐灰色粘質シルト、斑に混入。
 2. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト 10R4/1暗赤灰色粘質シルト、少量斑に混入。
 3. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト、斑に混入。
- ST 214 d-d'**
 1. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト 5YR3/1黒褐色粘質シルト、斑に混入。
 2. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト
 3. 10R4/2 灰赤色粘質シルト

第 85 図 ST 214・224 実測図



ST215 a-a' b-b'

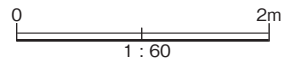
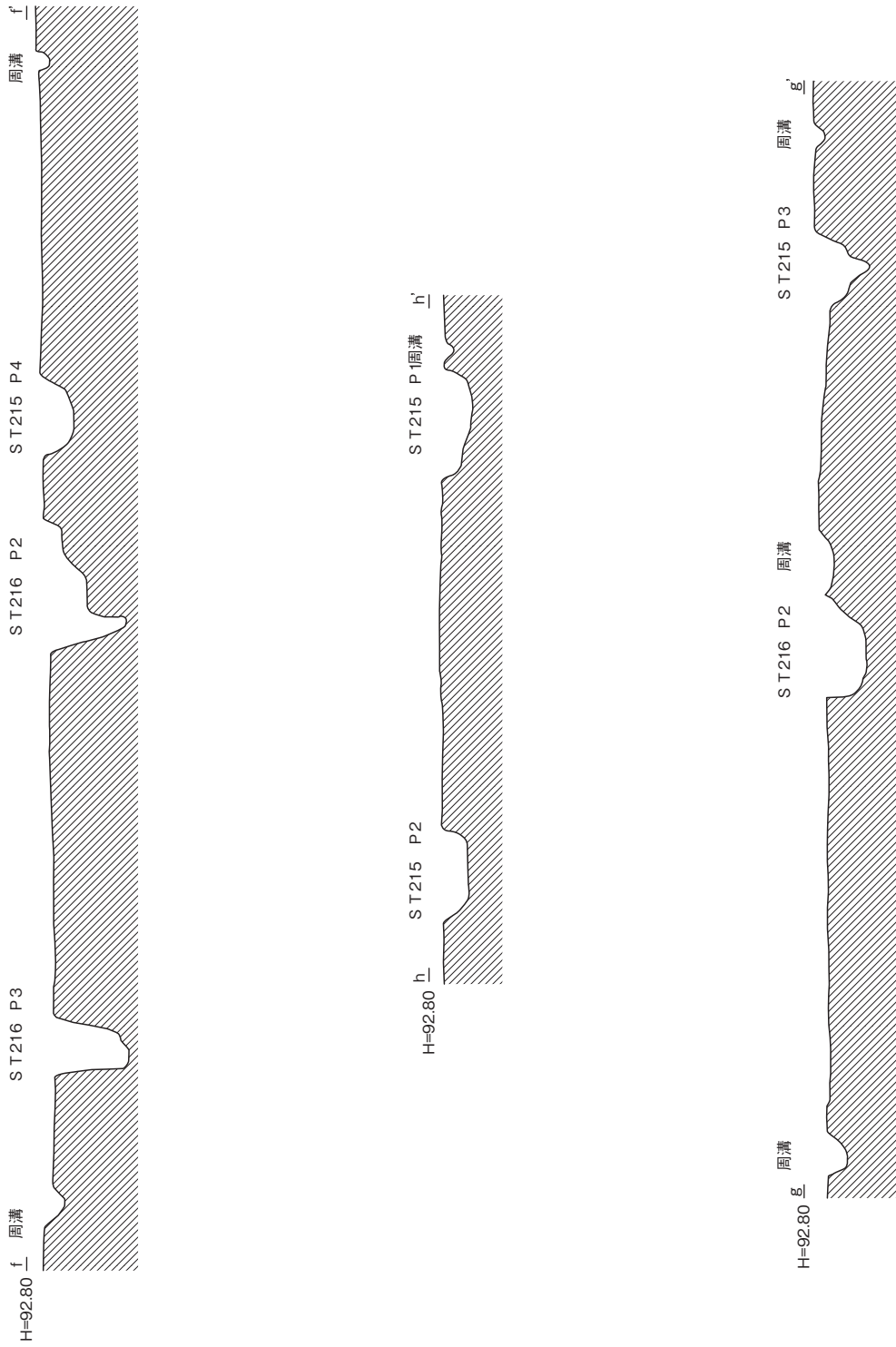
- | | | |
|-------------|--------|--------------------------------------|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。周溝埋土。 |
| 2. 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。周溝埋土。 |
| 3. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。周溝埋土。 |
| 4. 7.5YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。周溝埋土。 |
| 5. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm~1cm大の粘土粒、ブロックを多く含む。周溝埋土。 |
| 6. 7.5YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。周溝埋土。 |
| 7. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒を多く含む。周溝埋土。 |
| 8. 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。周溝埋土。 |



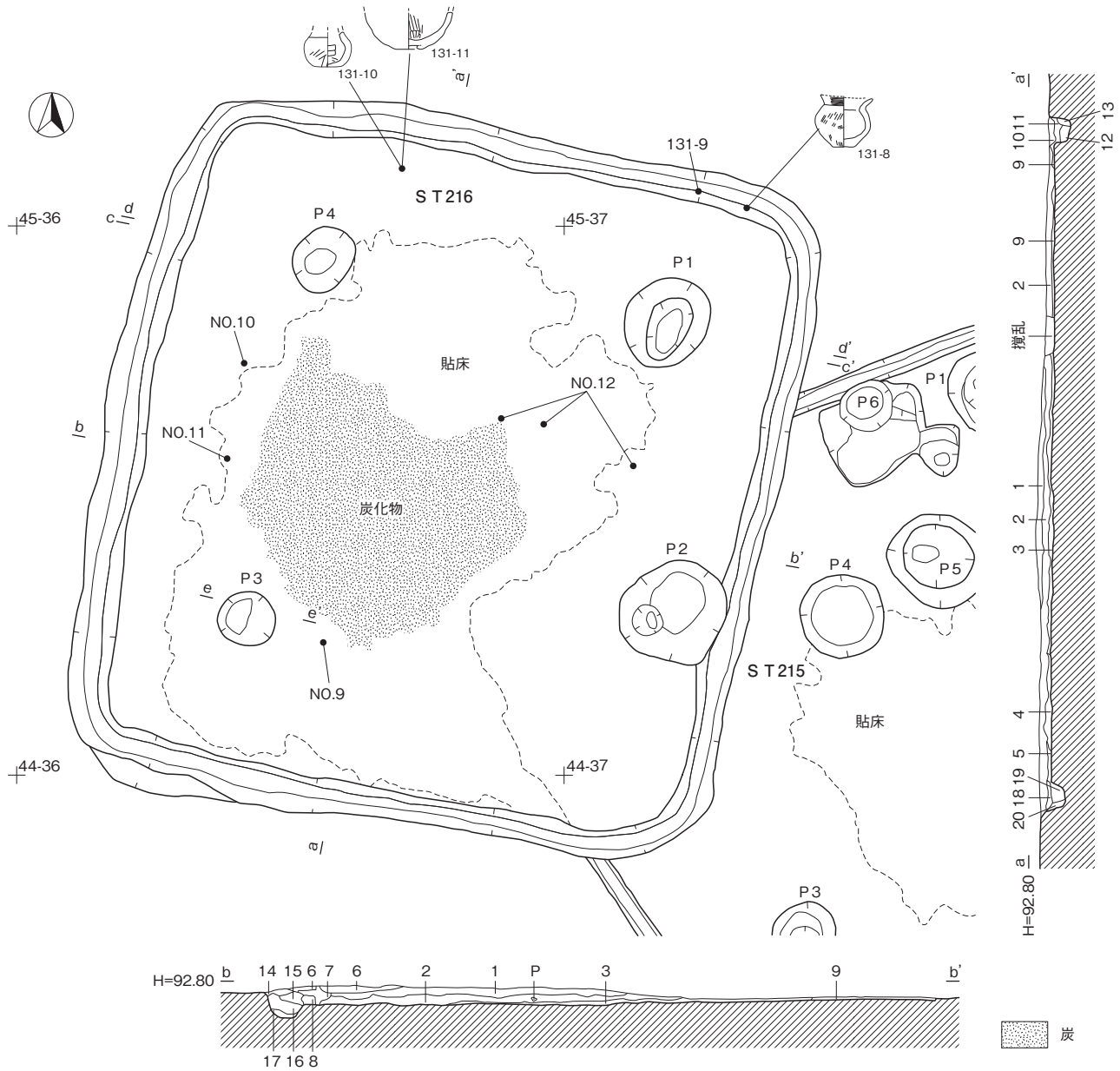
第86図 ST215実測図



第87図 ST215・216実測図

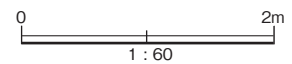


第88図 ST215・216実測図

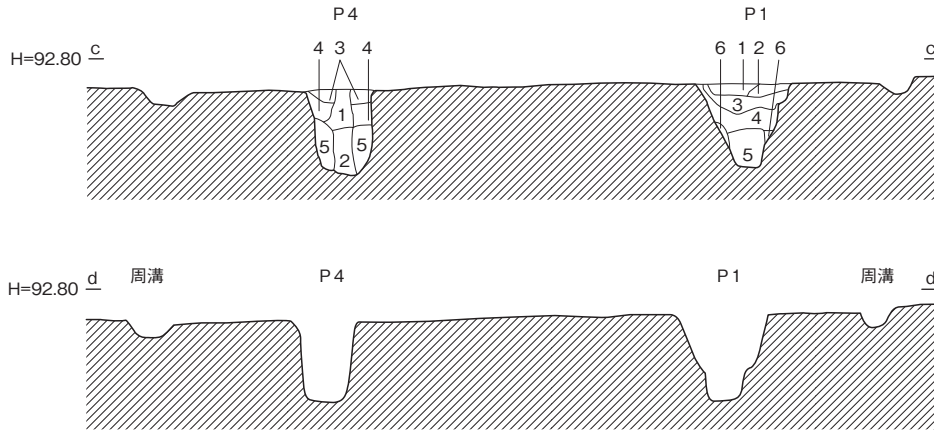


ST 216 a-a' b-b'

- | | |
|--|--|
| <p>1. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土
 2. 5YR3/1 黒褐色粘質土
 3. 7.5YR2/1 黒色粘質土</p> <p>4. 10YR4/1 褐灰色粘質土
 5. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
 6. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質土
 7. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土
 8. 5YR3/1 黒褐色粘質土
 9. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土
 10. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
 11. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土
 12. 5YR3/1 黒褐色粘質土
 13. 5YR3/1 黒褐色粘質土
 14. 10YR3/2 黒褐色粘質土
 15. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
 16. 5YR3/1 黒褐色粘質土
 17. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
 18. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
 19. 5YR3/1 黒褐色粘質土
 20. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土</p> | <p>縮りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の炭化粒を少々含む。</p> <p>やや縮りを有す。2mm大の粘土粒、炭化粒をやや多く含む。</p> <p>やや縮りを欠く。黒色の炭化層で、2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、黒褐色粘質土(5YR3/1)が多く混じる。床面の層に相当する。</p> <p>やや縮りを有す。床面直上の粘土層で、灰色が強く、酸化鉄が多く混じる。</p> <p>やや縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。</p> <p>縮りを有す。1cm大の焼土ブロックを多く含み、上位に炭化層が縞状に存する。</p> <p>縮りを有す。5mm~1cm大の炭化ブロックを多く含む。</p> <p>やや縮りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。</p> <p>やや縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、5mm大の炭化粒を少々含む。</p> <p>縮りを有す。2mm大の粘土粒を多く含む。</p> <p>縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。周溝埋土。</p> <p>やや縮りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。周溝埋土。</p> <p>縮りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。12よりもやや暗い。周溝埋土。</p> <p>縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。</p> <p>やや縮りを有す。5mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の炭化粒を少々含む。</p> <p>やや縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。周溝埋土。</p> <p>縮りを欠く。5mm大の粘土粒をやや多く含む。</p> <p>縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。周溝埋土。</p> <p>やや縮りを有す。5mm大の粘土粒を多く含む。周溝埋土。</p> <p>縮りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。</p> |
|--|--|



第 89 図 ST 216 (1) 実測図

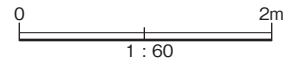
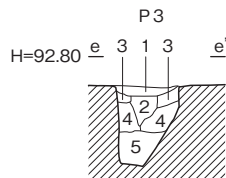


ST216 P1 c-c'

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒を多く含み、橙色酸化鉄を多く含む。 |
| 3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。1cm~2cm大の粘土ブロックを多量に含む。 |
| 4. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 | 締りを欠く。黒褐色土が少々混じり、橙色酸化鉄をやや多く含む。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。黒褐色土がやや多く混じり、5mm大の橙色酸化鉄粒を少々含む。 |
| 6. 7.5YR3/4 暗褐色粘質土 | やや締りを欠く。酸化した粘土を主体とする。 |

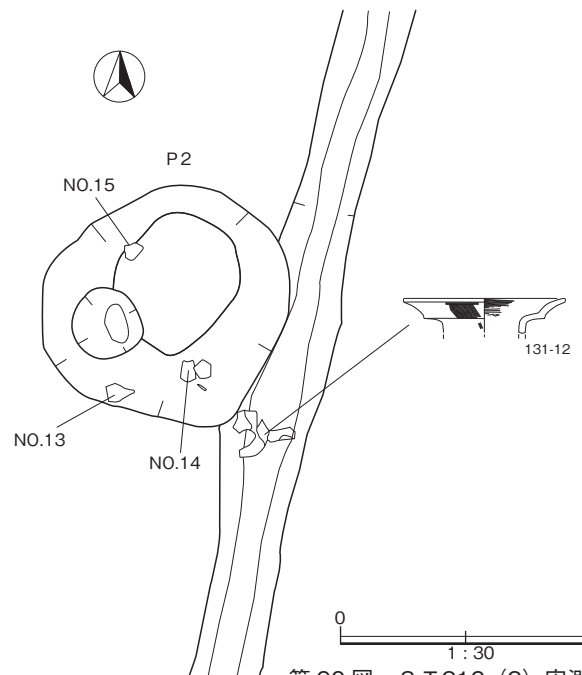
ST216 P4 c-c'

- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 2. 10YR3/2 暗褐色粘質土 | 締りを欠く。2mm大の粘土粒（橙色）を多く含む。 |
| 3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。2mm大の焼土粒を少々含む。 |
| 4. 5YR3/2 暗赤褐色粘質土 | 締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロック（橙色）を多く含む。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。5mm~1cm大の粘土ブロック（橙色）をやや多く含む。 |

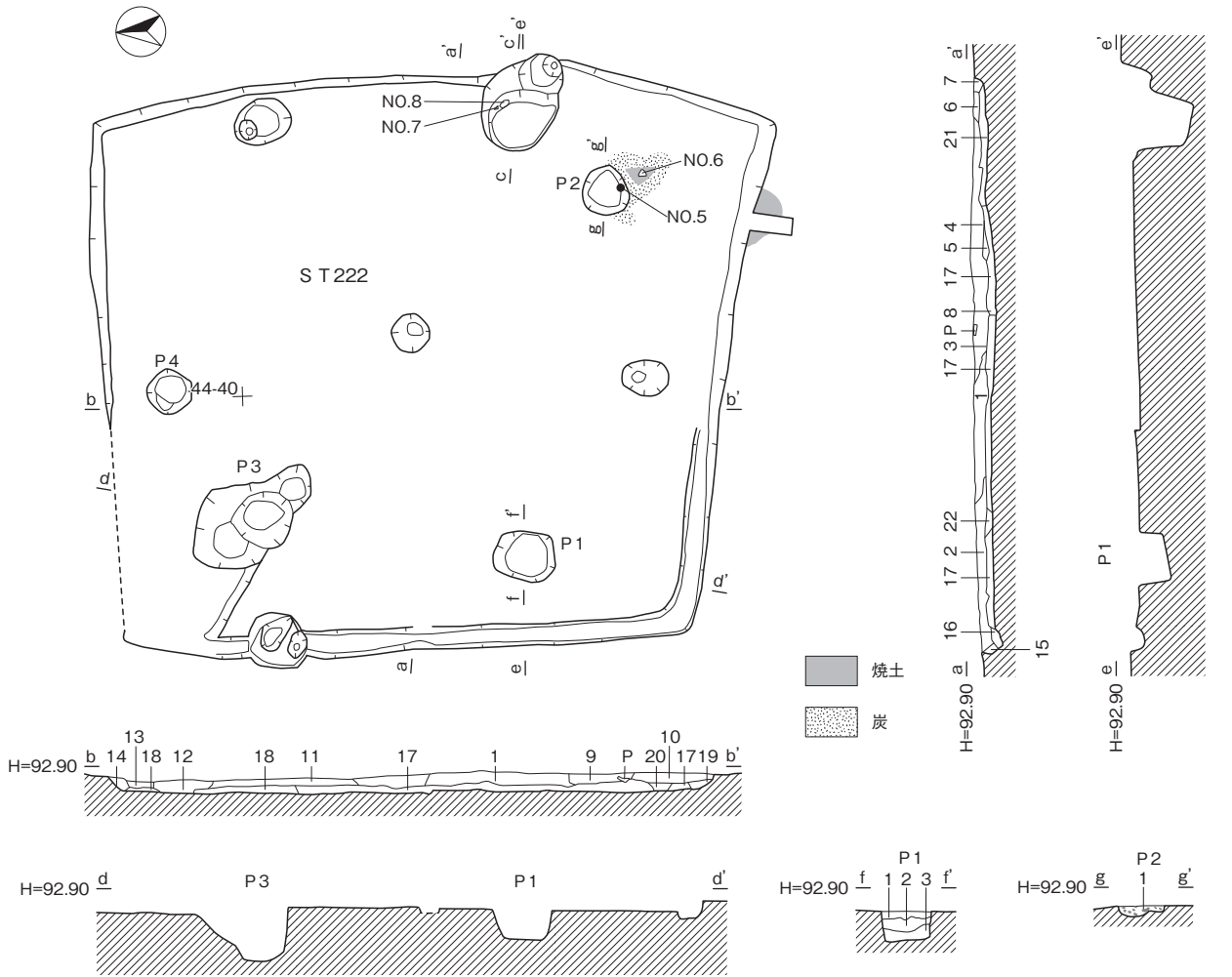


ST216 P3 e-e'

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。炭化層が幅1cmで凹レンズ状に堆積する。 |
| 2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。 |
| 4. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 | やや締りを欠く。1cm大の酸化鉄ブロック（橙色）をやや多く含む。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締りを欠く。1cm大の酸化鉄ブロック（橙色）を少々含む。 |



第90図 ST216 (2) 実測図



ST 222 a-a' b-b'

1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多量に含み、5mm~1cm大の炭化ブロックを多く含む。
2. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを有す。2mm~3cm大の粘土ブロックを多く含む。
3. 5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを有す。5mm~1cm大の焼土ブロックを多量に含み、5mm大の炭化粒を少々含む。
4. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多量に含み、5mm大の焼土粒を少々含む。
5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm~2cm大の焼土ブロックを多量に含み、2mm大の粘土粒を多く含む。
6. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 やや締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。
7. 10YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm大の炭化粒、焼土粒を多く含む。
8. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。5mm大の焼土粒を多く含み、暗赤褐色を帯びる。
9. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを有す。5mm大の焼土粒を多く含み、5mm大の粘土粒をやや多く含む。削平時、褐灰を帯びる。
10. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、炭化粒を微量含む。
11. 10YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。
12. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、炭化物を縞状に含む。
13. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを有す。5mm大の粘土粒を多量に含み、5mm大の炭化粒をやや多く含む。
14. 10YR4/1 褐灰色粘質土 やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。
15. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 やや締りを有す。5mm大の粘土粒をやや多く含む。

16. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。周溝覆土。
17. 10YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。この層の上面が床面に相当すると考えられる。
18. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm大の粘土粒を多く含む。
19. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm大の粘土粒をやや多く含む。周溝覆土。
20. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含み、炭化粒、焼土粒を少々含む。
21. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 やや締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。
22. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm大の粘土粒を少々含む。17に比し色調が暗い。

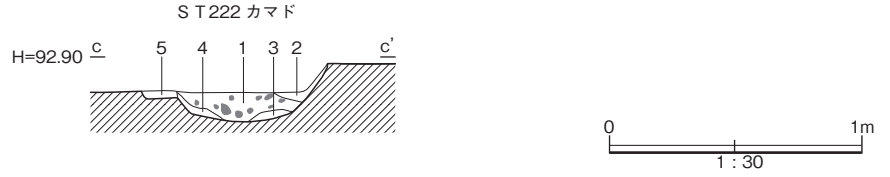
ST 222 P1 f-f'

1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の黒色粒を少々含む。
2. 5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。
3. 10YR3/1 黒褐色粘質土 締りを欠く。5mm大の粘土粒をやや多く含む。

ST 222 P2 g-g'

1. 5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを有す。2mm~1cm大の焼土ブロックを多量に含み、5mm大の粘土粒を少々含む。

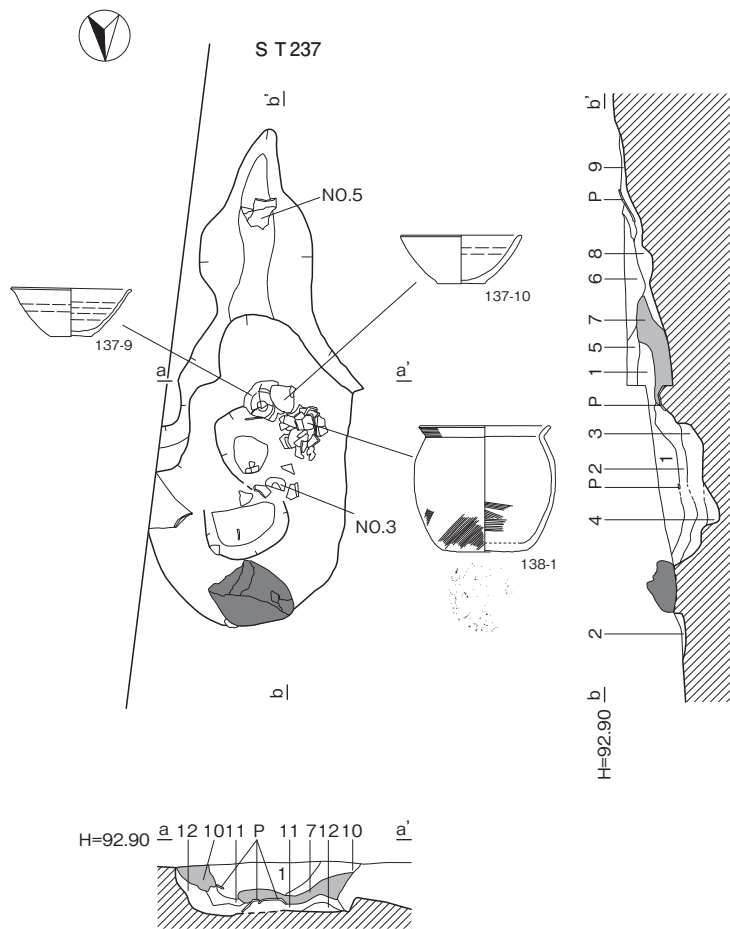
0 2m
1:60
第91図 ST 222 (1) 実測図



ST222カマド c-c'

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 | 締りを有す。5mm~2cm大の焼土ブロックを多量に含み、褐灰色シルト質土をブロック状に含む。 |
| 2. 7.5YR4/2 灰褐色シルト質土 | 締りを有す。1cm大の粘土ブロックを少々含む。 |
| 3. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 4. 5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを有す。焼土を含むため、暗赤褐色を呈する。 |
| 5. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | 締りを有す。5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |

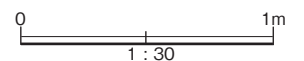
+46-44



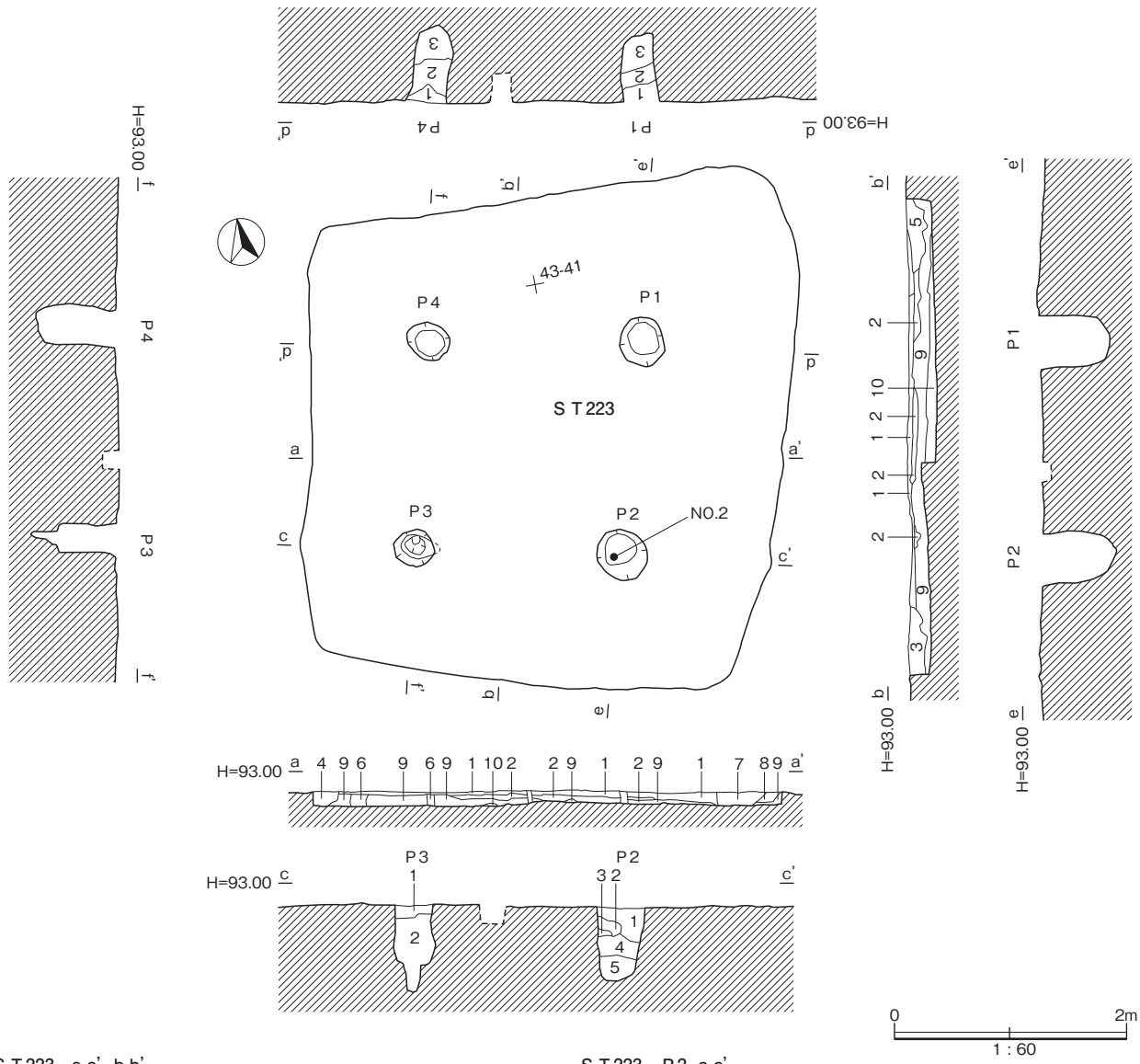
ST237 a-a' b-b'

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。焼土ブロック状に少量混入。 |
| 2. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | 焼土斑に中量混入。炭化物少量混入。 |
| 3. 5PB2/1 青黒色粘質シルト | 焼土ブロック状に少量混入。 |
| 4. 5PB1.7/1 青黒色粘質シルト | |
| 5. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 6. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | 10R3/1暗赤灰色粘質シルト斑に中量混入。 |
| 7. 5YR5/6 明赤褐色粘質シルト | 焼土、土器混入。 |
| 8. 5PB2/1 青黒色粘質シルト | |
| 9. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 2.5YR2/1赤黒色斑に混入。 |
| 10. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 焼土斑に少量混入。 |
| 11. N2/0 黒色粘質シルト | 焼土斑に中量混入。 |
| 12. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト | 焼土少量斑に混入。 |

■ 焼土
■ 石



第92図 ST222カマド・ST237実測図



ST 223 a-a' b-b'

- 1. 10YR3/2 黒褐色粘質土 締りを有す。貼床面に相当。2mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。炭化物や焼土を部分的に縞状に含む。
- 2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 締りを有す。貼床面下位に相当。2mm大の粘土粒を多く含み、削平面がシルト質ブロックとなる部分が存する。
- 3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm~1cm大の粘土ブロックを多量に含む。2mm~5mm大の炭化粒、焼土粒を少々含む。
- 4. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm大の粘土ブロックを多く含み、5mm大の炭化ブロックを少々含む。
- 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含み、5mm大の焼土ブロックを少々含む。
- 6. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを欠く。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。周囲よりも締りを欠き、黒色土が少々混じる。
- 7. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 締りを有す。5mm~2cm大の粘土ブロックを多く含む。
- 8. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。
- 9. 10YR3/3 暗褐色粘質土 やや締りを欠く。1cm~2cm大の粘土ブロックを少々含む。自然堆積土。
- 10. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。自然堆積土。

ST 223 P2 c-c'

- 1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、2mm大の炭化粒を微量含む。
- 2. 10YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm大の粘土粒を少々含む。
- 3. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 やや締りを有す。横褐色粘土が縞状に堆積し、その下位に黒褐色粘質土を含む。
- 4. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 やや締りを有す。5mm大の粘土粒を少々含む。
- 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。

ST 223 P3 c-c'

- 1. 10YR4/2 灰横褐色シルト質土 やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。
- 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。

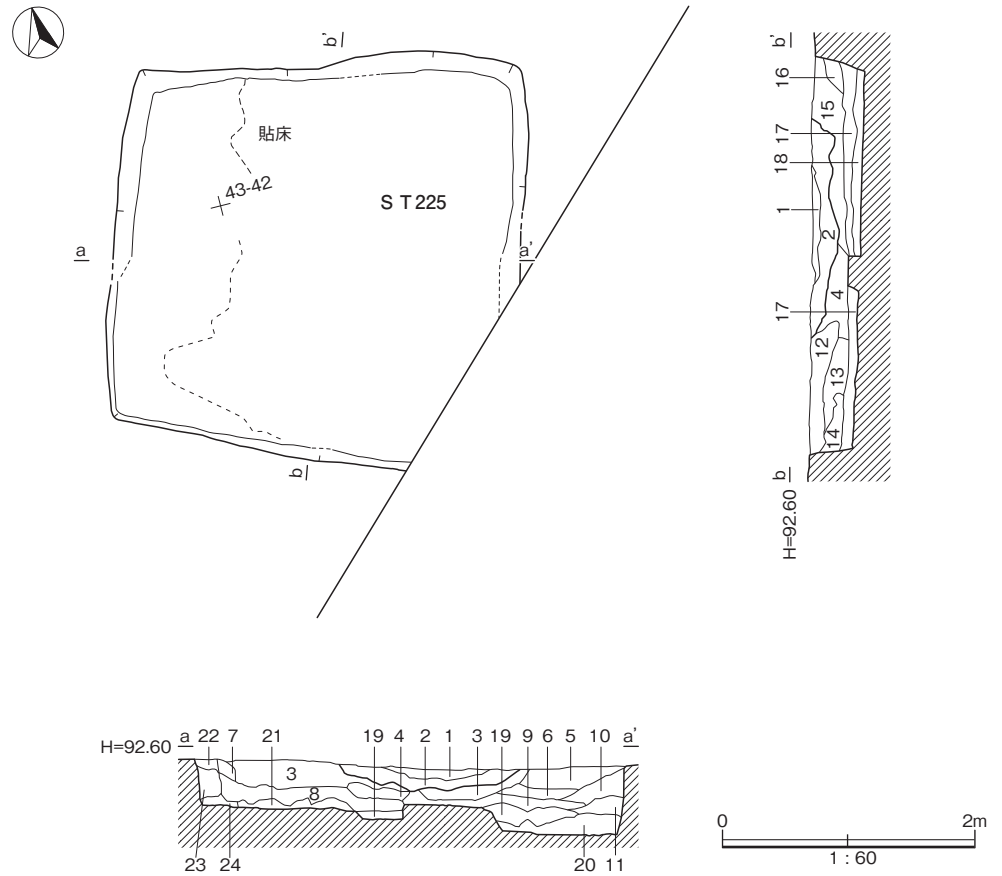
ST 223 P1 d-d'

- 1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含み、焼土粒を少々含む。
- 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。
- 3. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。

ST 223 P4 d-d'

- 1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト質土 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。
- 2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを欠く。5mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。
- 3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm大の粘土粒を少々含む。

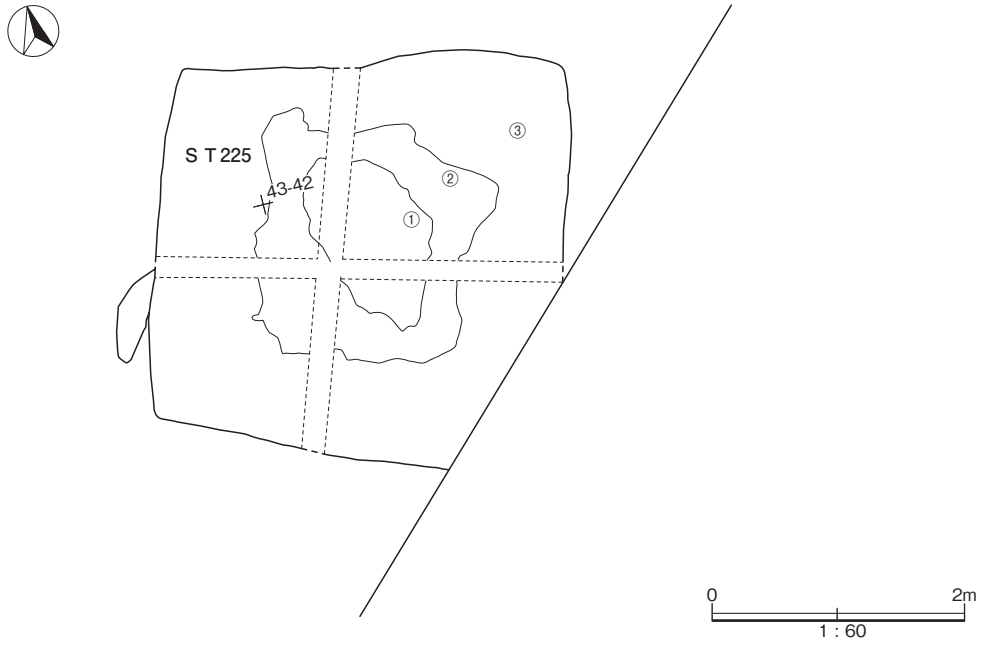
第93図 ST 223 実測図



S T 225 a-a' b-b'

1. 7.5YR4/2 灰褐色砂質土	縮りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。乾燥が著しく灰色を呈する。冠水時の堆積層。	13. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土	やや縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土	縮りを有す。灰黄褐色粘土に暗褐色土が少々混じる。冠水時の堆積層で凹レンズ状に堆積する。	14. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土	やや縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。
3. 10YR3/2 黒褐色粘質土	縮りを有す。2mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。	15. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土	縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含み、グライ化した褐灰色粘土をブロック状に含む。炭化物が下位に縞状に堆積する。9に相当する。
4. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土	縮りを有す。グライ化した粘土ブロック(1cm~3cm大)を主体とし、暗褐色土がやや多く混じる。5mm大の黄橙色粘土ブロックを少々含む。	16. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土	縮りを有す。2mm~1cm大の粘土ブロックを少々含む。
5. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土	縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。	17. 10YR3/2 黒褐色粘質土	縮りを有す。2mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。覆上下位に相当する。
6. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土	縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。	18. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土	やや縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多量に含む。貼り床に相当し、17との境界が床面と思われる。
7. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土	縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。	19. 10YR3/1 黒褐色粘質土	やや縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。18と同様に貼り床に相当するが、床面は判然としない。
8. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土	縮りを有す。2mm~1cm大の粘土ブロックを多く含み、2mm~5mm大の炭化粒を少々含む。	20. 7.5YR3/1 黒褐色シルト質土	やや縮りを有す。粘性を有し、2~5mm大の粘土粒を少々含む。自然堆積土。
9. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土	やや縮りを有す。粘性を有し、2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。住居中央部に褐灰色粘土ブロック(5mm~1cm大)をやや多く含み、炭化物が下位に縞状に堆積する。	21. 7.5YR4/2 灰褐色シルト質土	やや縮りを欠く。粘性を欠き、暗褐色土がブロック状に混じる。8との境界は凹凸に富むが床面と思われる。自然堆積土。
10. 10YR3/2 黒褐色粘質土	縮りを有す。5mm~2cm大の粘土ブロックを多く含む。2mm~5mm大の炭化粒を少々含む。	22. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土	縮りを有する。2mm大の粘土粒を少々含む。
11. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土	やや縮りを欠く。粘性を有し、2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。2mm大の炭化粒を少々含む。	23. 7.5YR3/2 黒褐色シルト質土	やや縮りを欠く。粘性を欠き、暗褐色と黒褐色質土が斑状となる。自然堆積土。
12. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土	縮りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。	24. 10YR3/2 黒褐色シルト質土	縮りを欠く。21に比し色調が暗い。

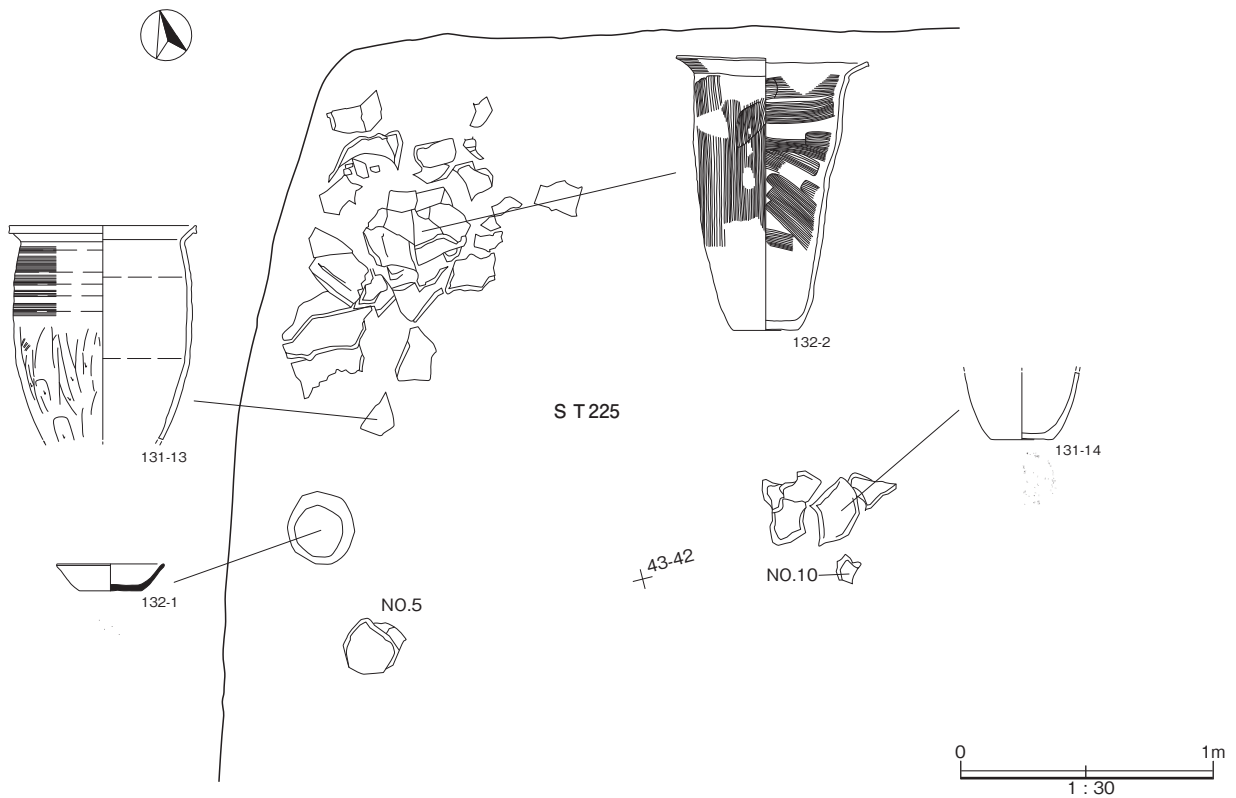
第94図 S T 225 (1) 実測図



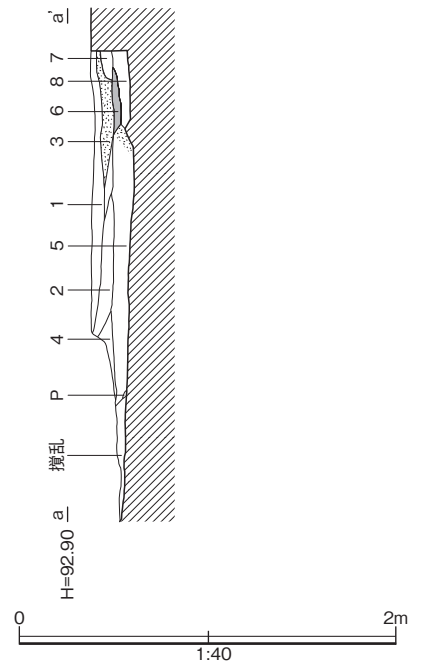
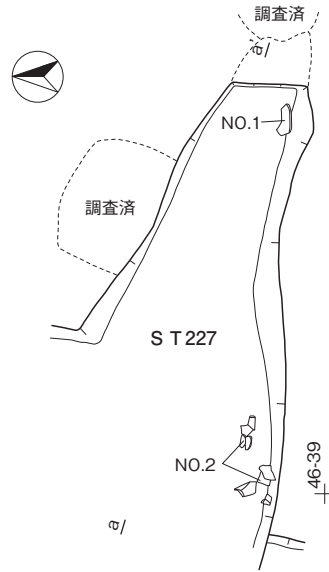
遺構検出面における覆土、堆積状況

- ①. 7.5YR4/1 褐灰色砂質土 締りを有するが、粘性を欠く。黒褐色粘質土をブロック状に含む。②の上に堆積する。
- ②. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを有す。暗褐色土を少々含む。灰白色粘土で織別は容易。
- ③. 10YR3/2 黒褐色粘質土 2mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。

※住居跡覆土の凹みに、粘土と砂質土が冠水等により自然堆積した結果か。



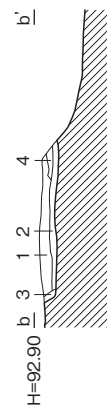
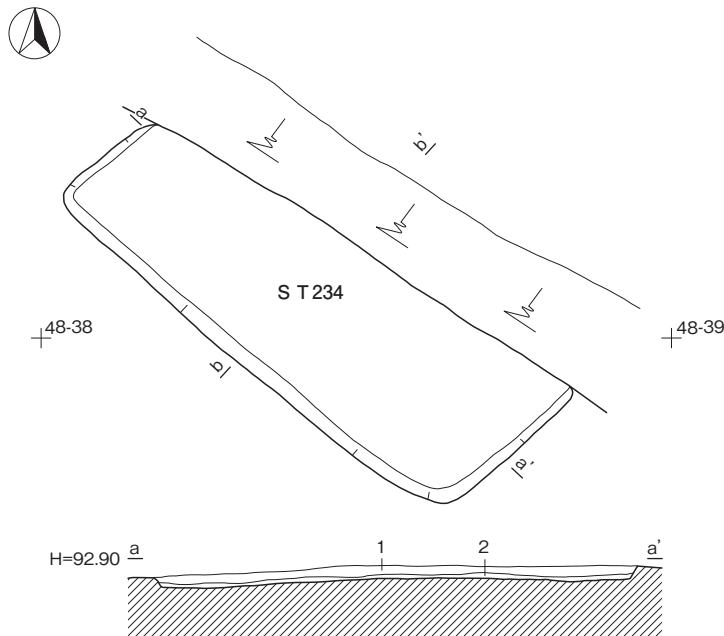
第95図 ST 225 (2) 実測図



ST 227 E L a-a'

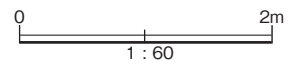
- | | | |
|-------------|-----------|-------------------------------------|
| 1. 2.5YR4/1 | 赤灰色粘質シルト | 微量炭粒混入。 |
| 2. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色粘質シルト | 少量炭粒混入。 |
| 3. 10YR4/1 | 褐灰色粘質シルト | N3/0暗灰色粘質シルト層状に混入。炭化物混入。焼土微量混入。 |
| 4. 5YR4/1 | 褐灰色粘質シルト | 5RP4/1暗紫灰色粘質シルト層状に混入。 |
| 5. N3/0 | 暗灰色粘質シルト | 2.5YR4/1赤灰色砂質シルト斑に混入。炭粒少量混入。土器破片混入。 |
| 6. 5RP3/1 | 暗紫灰色粘質シルト | 炭粒中量混入。焼土。 |
| 7. 2.5YR4/1 | 赤灰色砂質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 8. 5RP3/1 | 暗紫灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |

■ 焼土
 ■ 炭

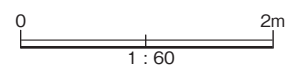
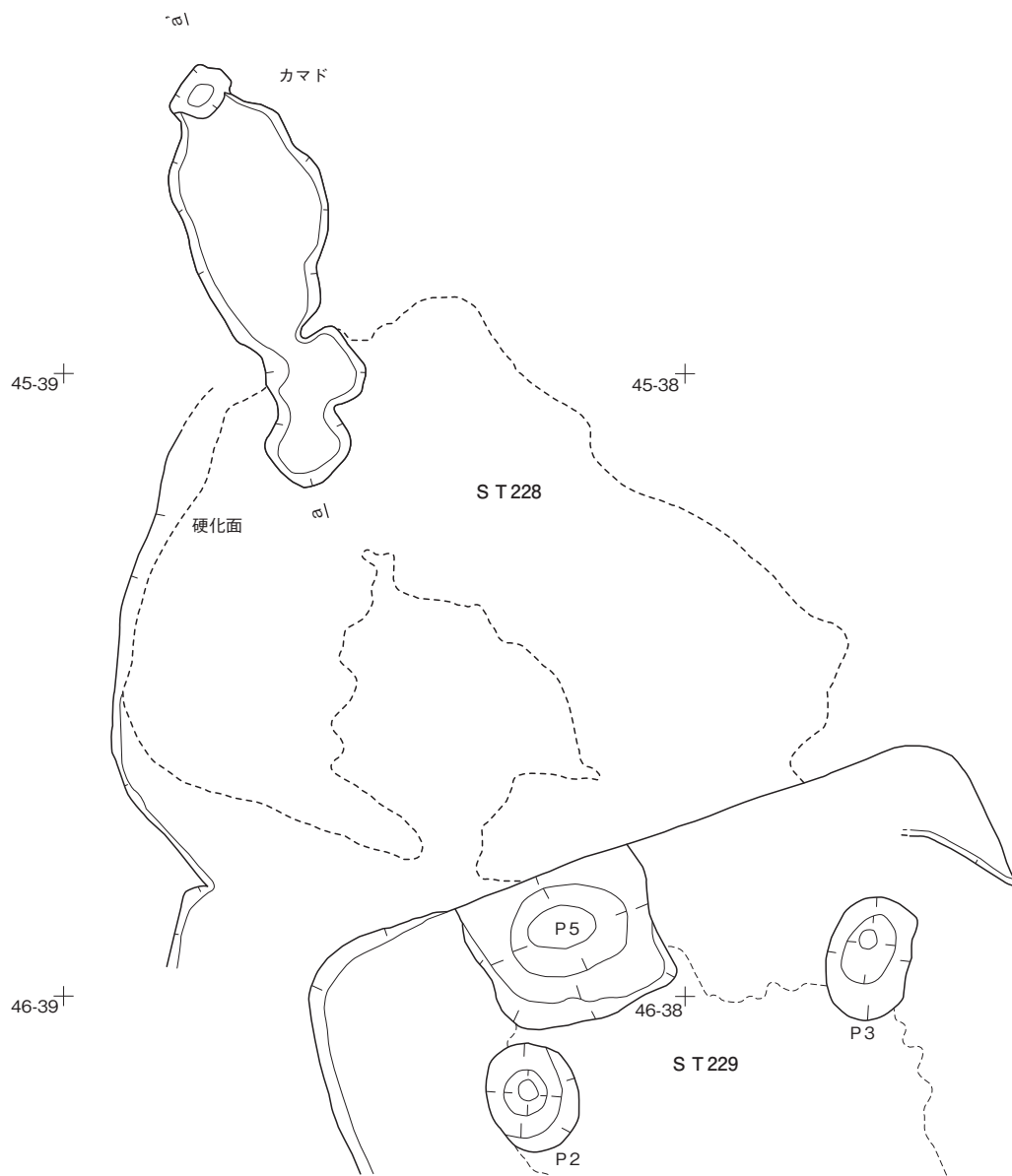


ST 234 a-a' b-b'

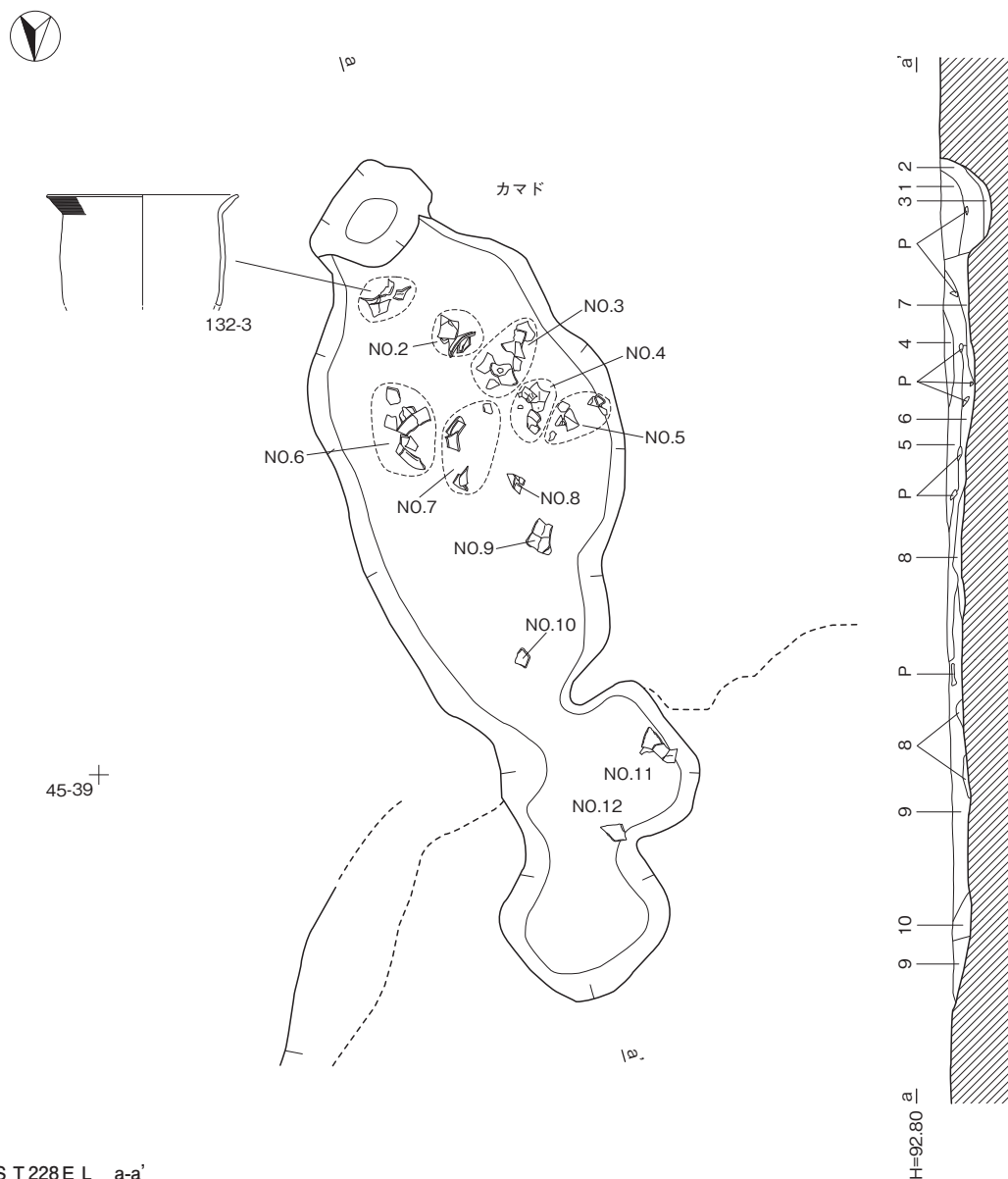
- | | | |
|-------------|--------|------------------------------|
| 1. 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 2. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 3. 5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 4. 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒を多く含む。 |



第96図 ST 227・234 実測図

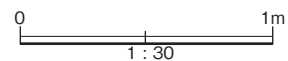


第97図 ST228 (1) 実測図

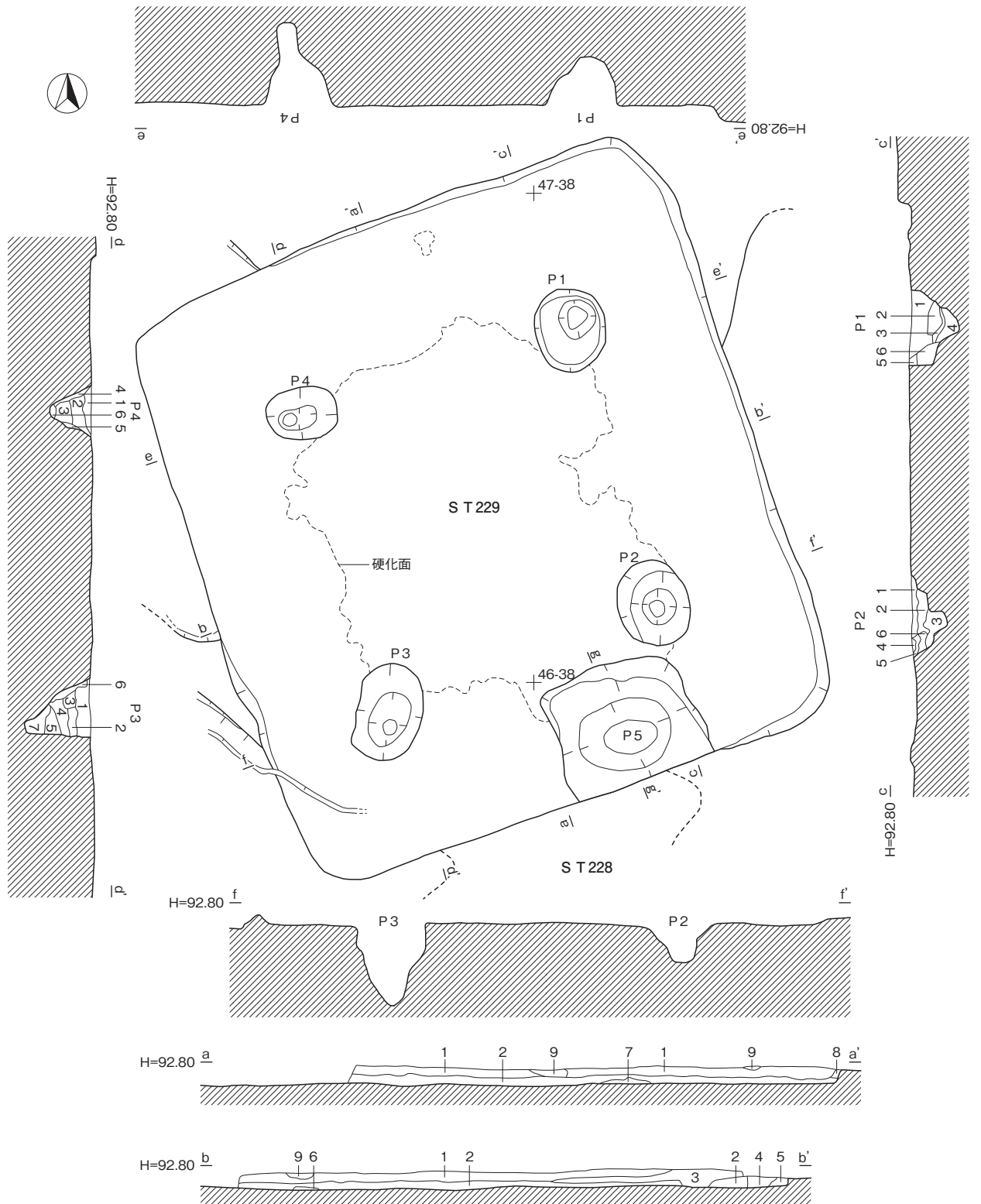


ST228 E L a-a'

- | | | |
|--------------|----------|---|
| 1. 5YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 2. 2.5YR2/1 | 赤黒色粘質土 | 縮りを欠く。炭化層で2mm大の粘土粒、焼土粒を少々含む。 |
| 3. 10YR3/2 | 黒褐色シルト質土 | 縮りを欠く。粘性を欠く。 |
| 4. 10YR3/4 | 暗褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多量に含む。 |
| 5. 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや縮りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 6. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色粘質土 | やや縮りを欠く。炭化物を主体とする層で、2mm~5mm大の焼土粒を部分的に多量に含む。 |
| 7. 5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 8. 5YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや縮りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 9. 5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 縮りを有す。2mm大の粘土粒を多く含み、2mm大の焼土粒。炭化粒を少々含む。 |
| 10. 7.5YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや縮りを有す。5mm大の黒褐色粘質土を少々含む。 |



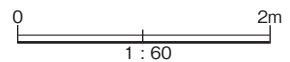
第98図 ST228 (2) 実測図



S T 229 a-a' b-b'

1. 5YR3/1 黒褐色粘質土
2. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質土
3. 5YR4/1 褐灰色粘質土
4. 5YR3/1 黒褐色粘質土
5. 5YR3/1 黒褐色粘質土
6. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土
7. 7.5YR2/1 黒色粘質土
8. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
9. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土

締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。
 やや締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。
 やや締りを有す。灰褐色粘土がブロック状に混じる。2mm大の粘土粒をやや多く含む。
 やや締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含む。
 やや締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。
 やや締りを欠く。5mm大の粘土粒を多く含み、5mm大の炭化粒を少々含む。
 やや締りを有す。炭化物を主体とし、2mm大の粘土粒を多く含み、2mm大の焼土粒を少々含む。
 やや締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。
 締りを欠く。褐灰色粘質土に黒褐色粘質土が多く混じる。畝跡の埋土。



第99図 S T 229 (1) 実測図

ST229 P1 c-c'

1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを欠く。5mm~4cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
2. 10YR3/3 暗褐色粘質土 締りを欠く。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む、5mm~2cm大の炭化ブロックを少々含む。
3. 10YR2/1 黒色炭化層 締りを欠く。2mm幅で、凹レンズ状に堆積する。
4. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 締りを欠く。5mm大の粘土ブロックを少々含む。
5. 10YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
6. 10YR3/3 暗褐色粘質土 締りを欠く。2mm~1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。

ST229 P3 d-d'

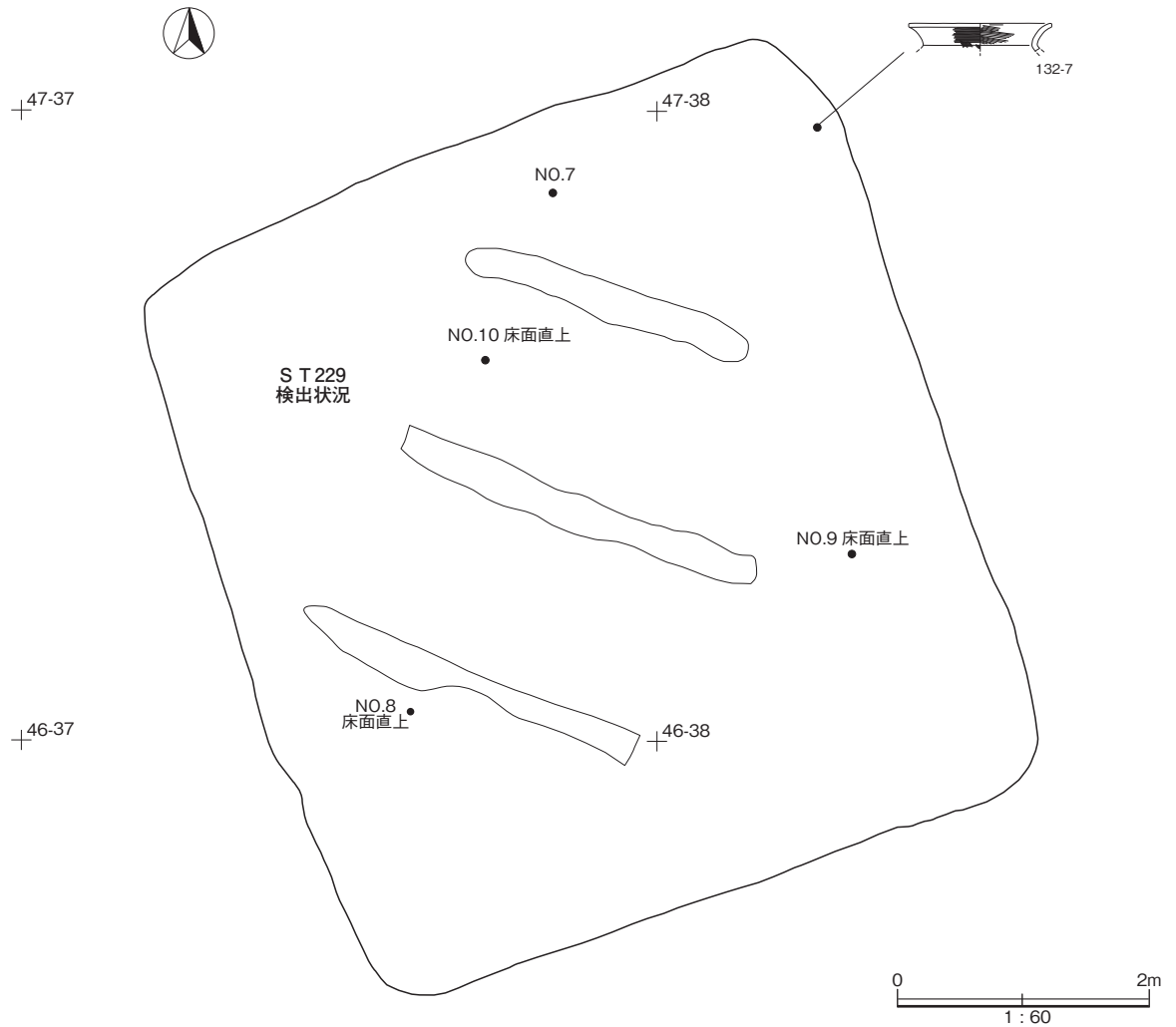
1. 5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm~2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm~2cm大の粘土ブロックを多く含む。
3. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 やや締りを有す。1cm大の粘土ブロックを多く含む。
4. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを欠く。5mm~4cm大の粘土ブロックを多く含む。
5. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを欠く。下位に炭化層（層厚1cm~2cm）が縞状に堆積する。
6. 10YR4/1 褐灰色粘質土 締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。
7. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 締りを欠く。2cm~4cm大の粘土ブロックを多く含む、壁面は、にぶい赤褐色を呈する。

ST229 P2 c-c'

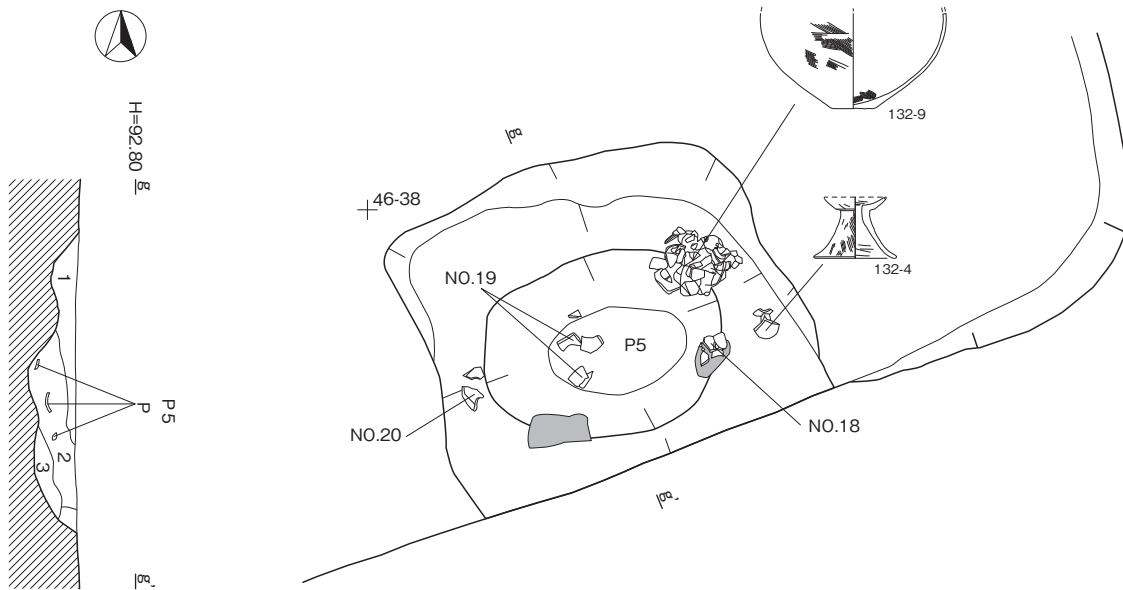
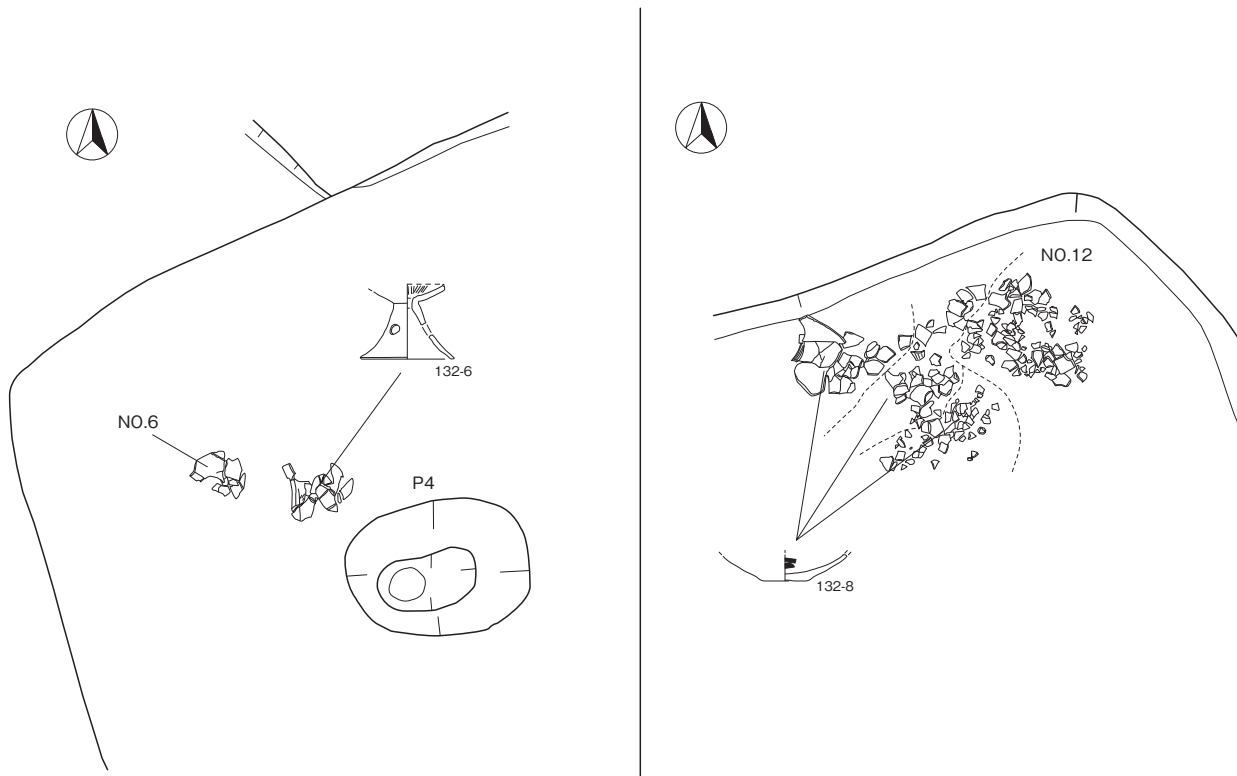
1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む、5mm大の炭化粒を少々含む。
2. 10YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。
3. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを欠く。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
4. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。
5. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを有す。褐灰色粘土ブロックで、酸化鉄をやや多く含む。
6. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。

ST229 P4 d-d'

1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。2mm大の粘土粒、炭化粒を少々含む。
2. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 やや締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。
3. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 締りを欠く。5mm~2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
4. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。
5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 締りを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。
6. 10YR3/1 黒褐色粘質土 締りを欠く。炭化物を主とする層で、下位に黒褐色粘質土が多く混じる。



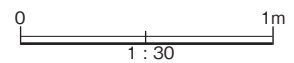
第100図 ST229 (2) 実測図



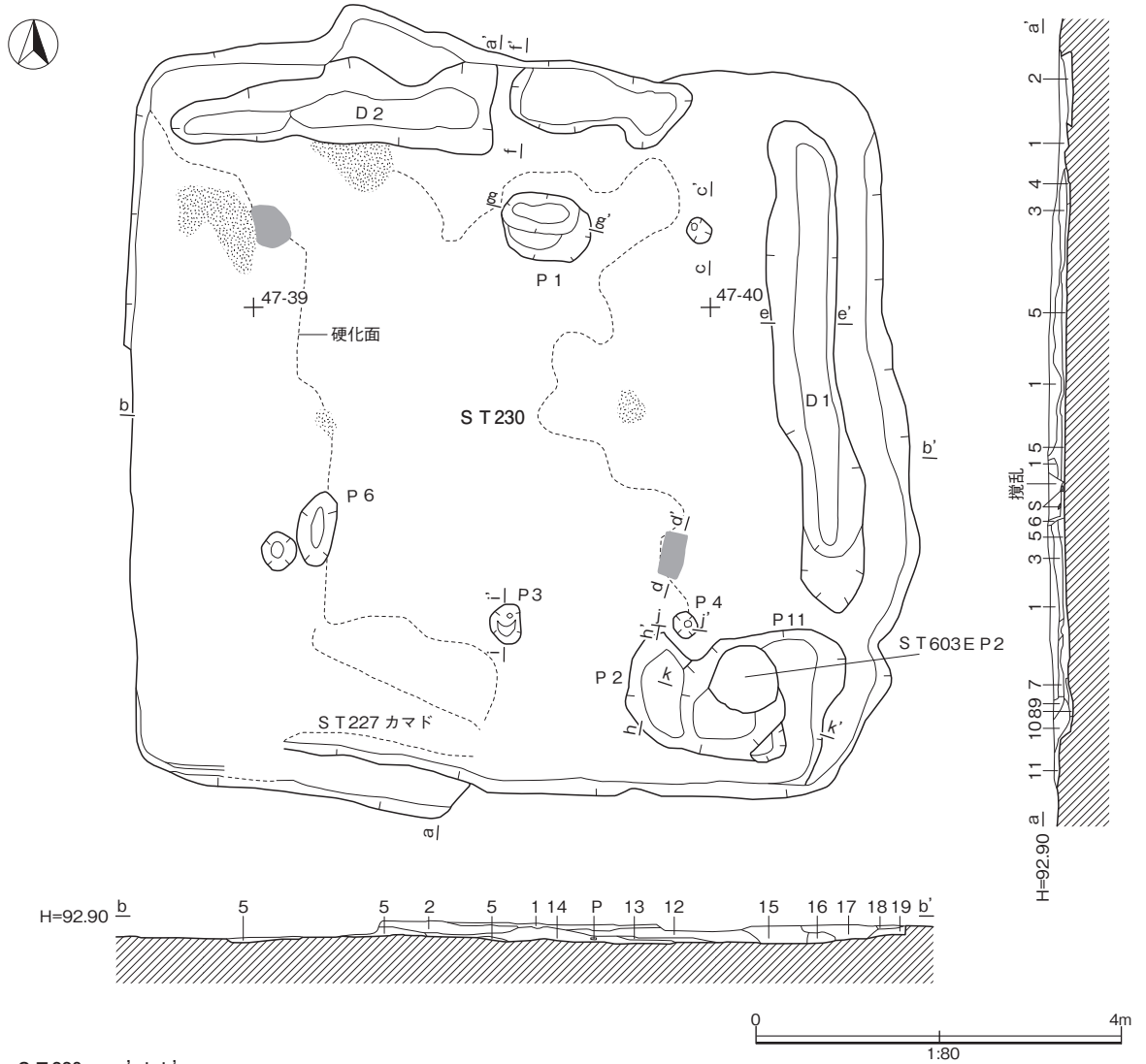
ST229 P5 g-g'

- 1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや縮りを欠く。5mm大の粘土粒をやや多く含む。
- 2. 10YR2/3 黒褐色粘質土 やや縮りを有す。2mm大の粘土粒を少々含み、1cm大の焼土ブロックを部分的に含む。
- 3. 10YR3/3 暗褐色粘質土 縮りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。

■ 焼土

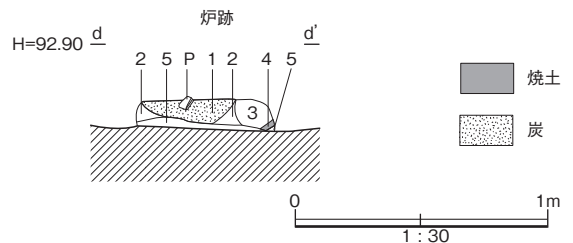
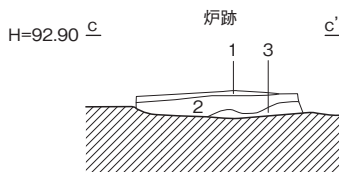


第101図 ST229 (3) 実測図



ST230 a-a' b-b'

- | | | | |
|----------------------|----------------|-----------------------|------------|
| 1. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。 | 11. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 2. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。 | 12. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 3. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。焼土微量混入。 | 13. 5YR4/1 褐灰色粘土 | 硬く締まっている。 |
| 4. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 粘土層状に中量混入。 | 14. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭化物、土器片混入。 |
| 5. 2.5YR4/1 赤灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。 | 15. 2.5Y4/1 赤灰色粘質シルト | 土器片混入。 |
| 6. 2.5YR4/1 赤灰色粘質シルト | 炭粒微量混入。 | 16. 5Y4/1 灰色粘質シルト | |
| 7. 5R3/1 暗赤灰色粘質シルト | 炭粒多量混入。 | 17. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 8. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 粘土層状に中量混入。 | 18. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 9. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 焼土中量混入。 | 19. 2.5YR4/1 赤灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 10. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭粒少量混入。 | | |



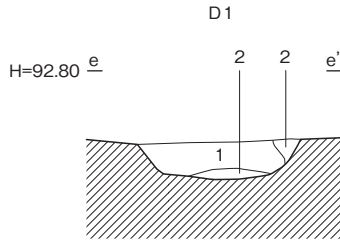
ST230E L1 c-c'

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 炭化物、焼土多量斑に混入。 |
| 2. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒、焼土、粒状に少量混入。 |
| 3. 7.5YR4/1 褐灰色砂質シルト | 炭粒微量混入。 |

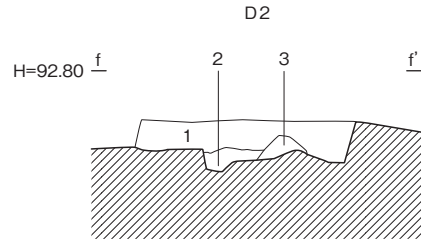
ST230E L2 d-d'

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 2.5YR3/3 暗赤褐色粘質シルト | 焼土、炭化物斑に多量混入。 |
| 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | 焼土斑に少量混入。 |
| 3. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | 炭粒微量混入。 |
| 4. 7.5YR2/1 黒色粘質シルト | 焼土斑に中量混入。 |
| 5. 7.5YR3/3 暗褐色粘質シルト | 炭粒少量混入 (住居貼床)。 |

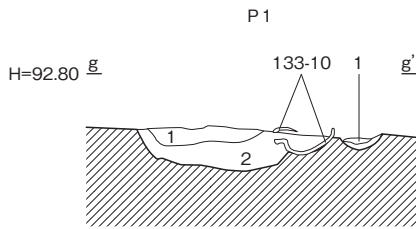
第102図 ST230 (1) 実測図



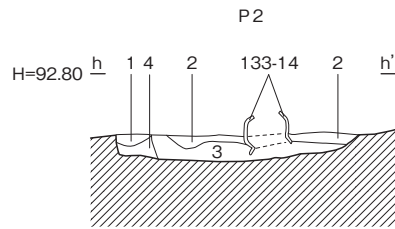
- ST230 D1 e-e'**
 1. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 炭粒中量混入。
 2. 7.5YR3/1 黒褐色砂質シルト 炭粒中量混入。



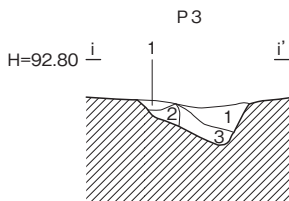
- ST230 D2 f-f'**
 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂質シルト層状に少量混入。
 2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 粘質シルト。
 3. 5YR3/2 暗赤褐色粘質シルト



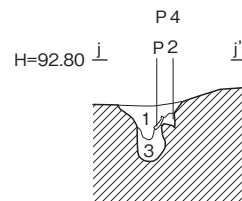
- ST230 P1 g-g'**
 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 炭化物少量混入。焼土微量混入。
 2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 炭粒微量混入。



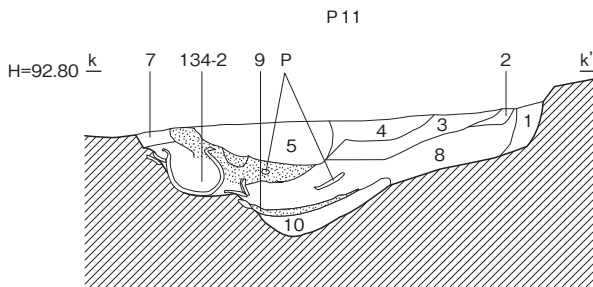
- ST230 P2 h-h'**
 1. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト 焼土少量混入。
 2. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト 焼土、炭化物中量混入。
 3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 炭粒微量混入。
 4. 5YR2/2 黒褐色粘質シルト



- ST230 P3 i-i'**
 1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 炭粒少量混入。
 2. 5RP3/1 暗紫灰色粘質シルト
 3. 2.5YR2/1 赤黒色粘質シルト



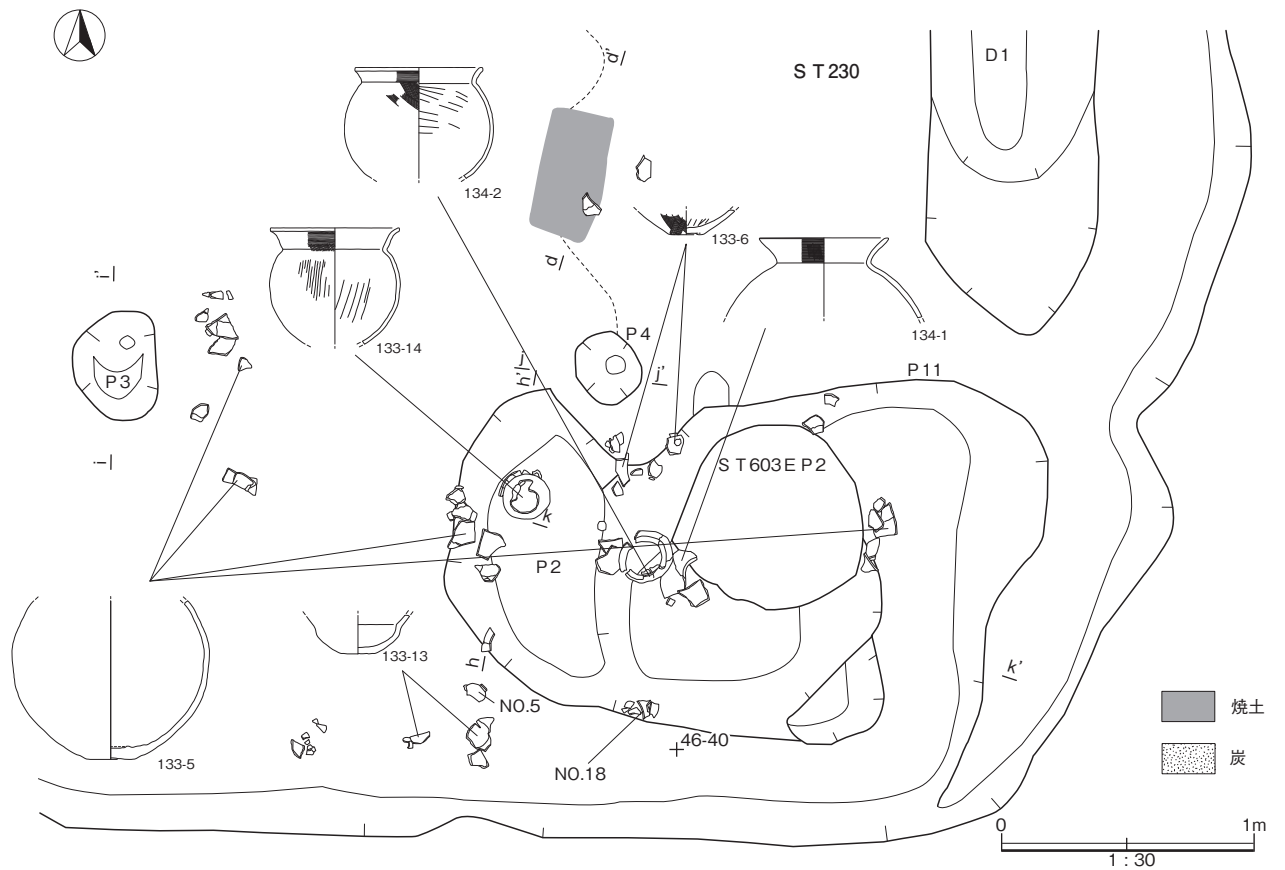
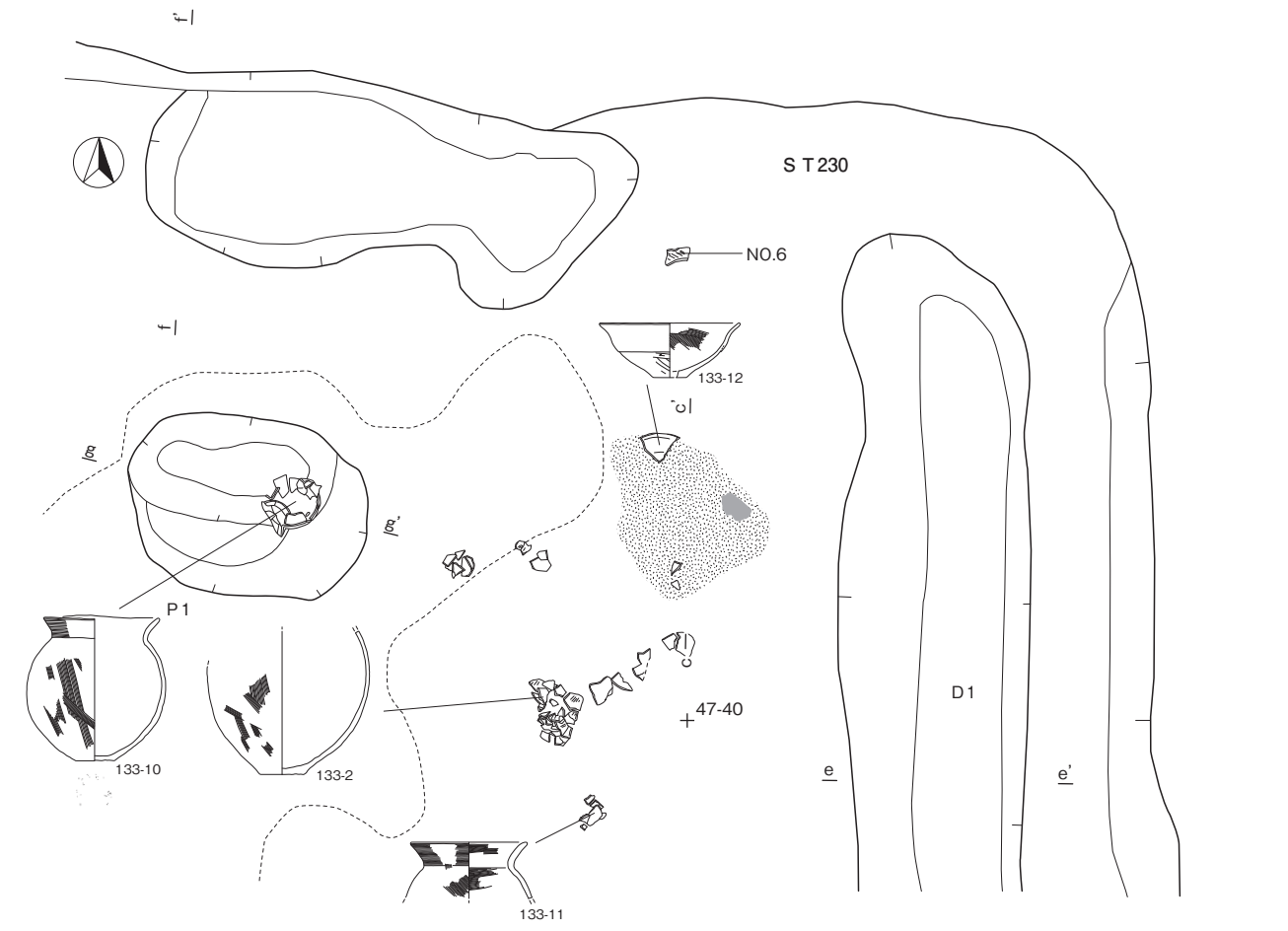
- ST230 P4 j-j'**
 1. 10YR2/1 黒色粘質シルト 炭化物少量混入。土器混入。
 2. N1.5/0 黒色粘質シルト
 3. 5PB1.7/1 青黒色粘質シルト 炭粒少量混入。



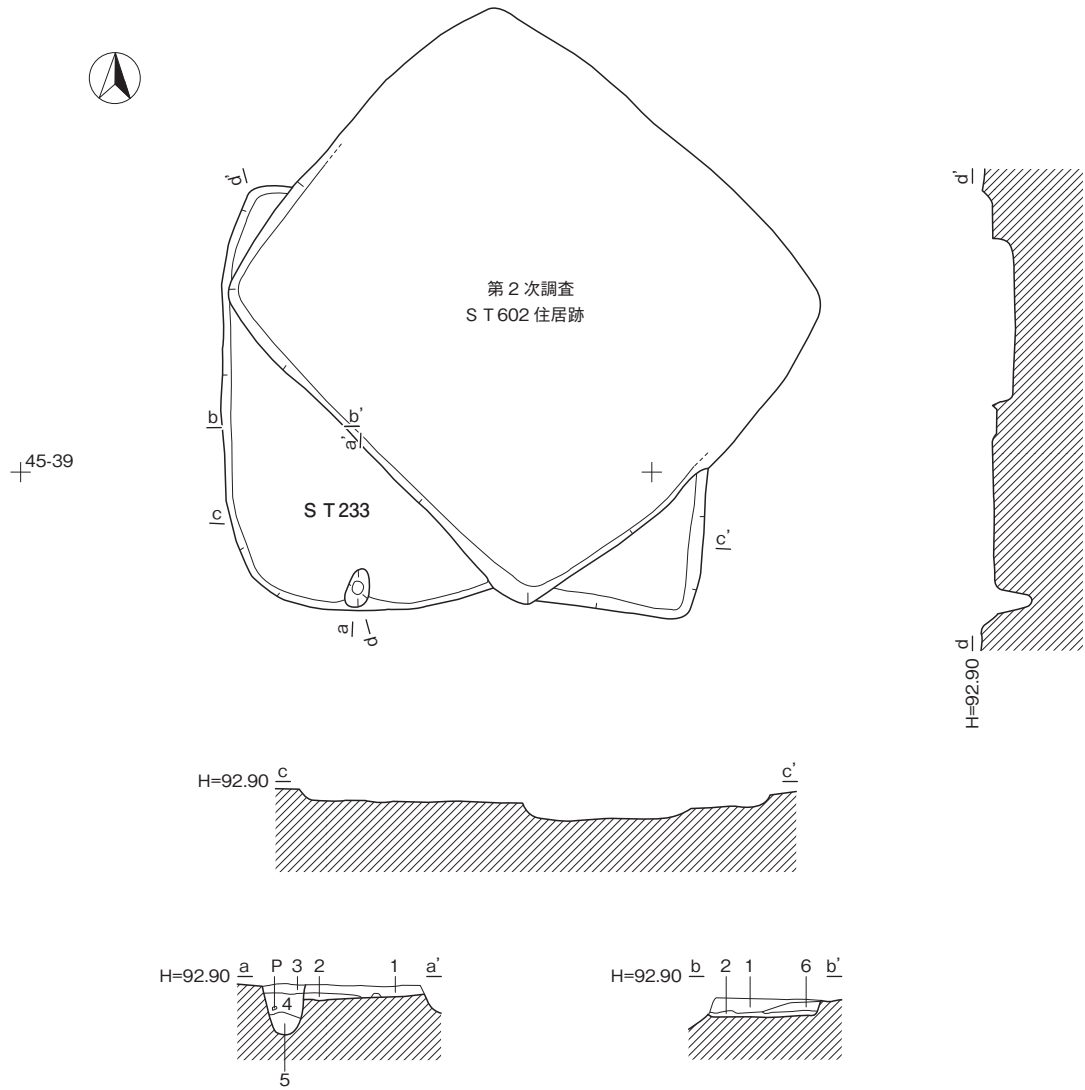
- ST230 P11 k-k'**
 1. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト
 2. 5RP3/1 暗紫灰色粘質シルト 焼土、炭化物多量混入。
 3. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 炭粒少量混入。
 4. 10R4/1 暗赤灰色粘質シルト 炭化物中量混入。
 5. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト 炭粒、土器粒少量混入。
 6. 5PB4/1 暗青灰色粘質シルト 炭化物層状に多量混入。土器多量混入（炭化層か？）
 7. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト 炭化物多量混入。
 8. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト 土器混入。
 9. 10R4/1 暗赤灰色粘土
 10. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト 炭粒、中量混入しまってる。（貼床か？）



第103図 ST230 (2) 実測図



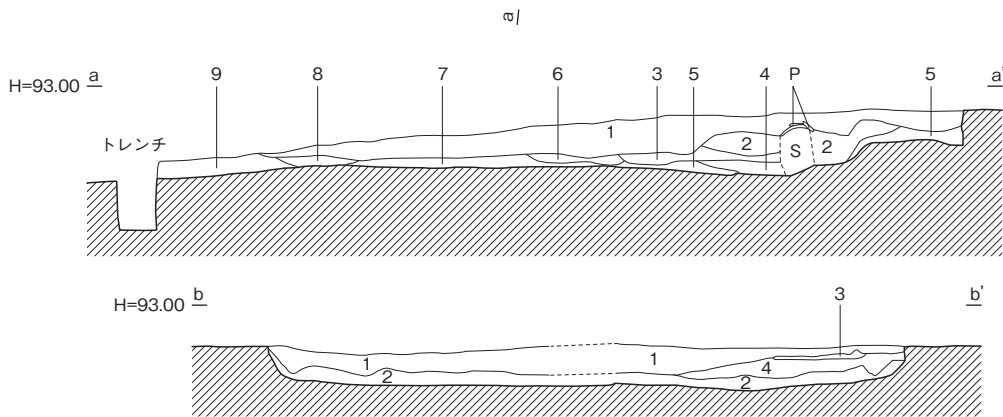
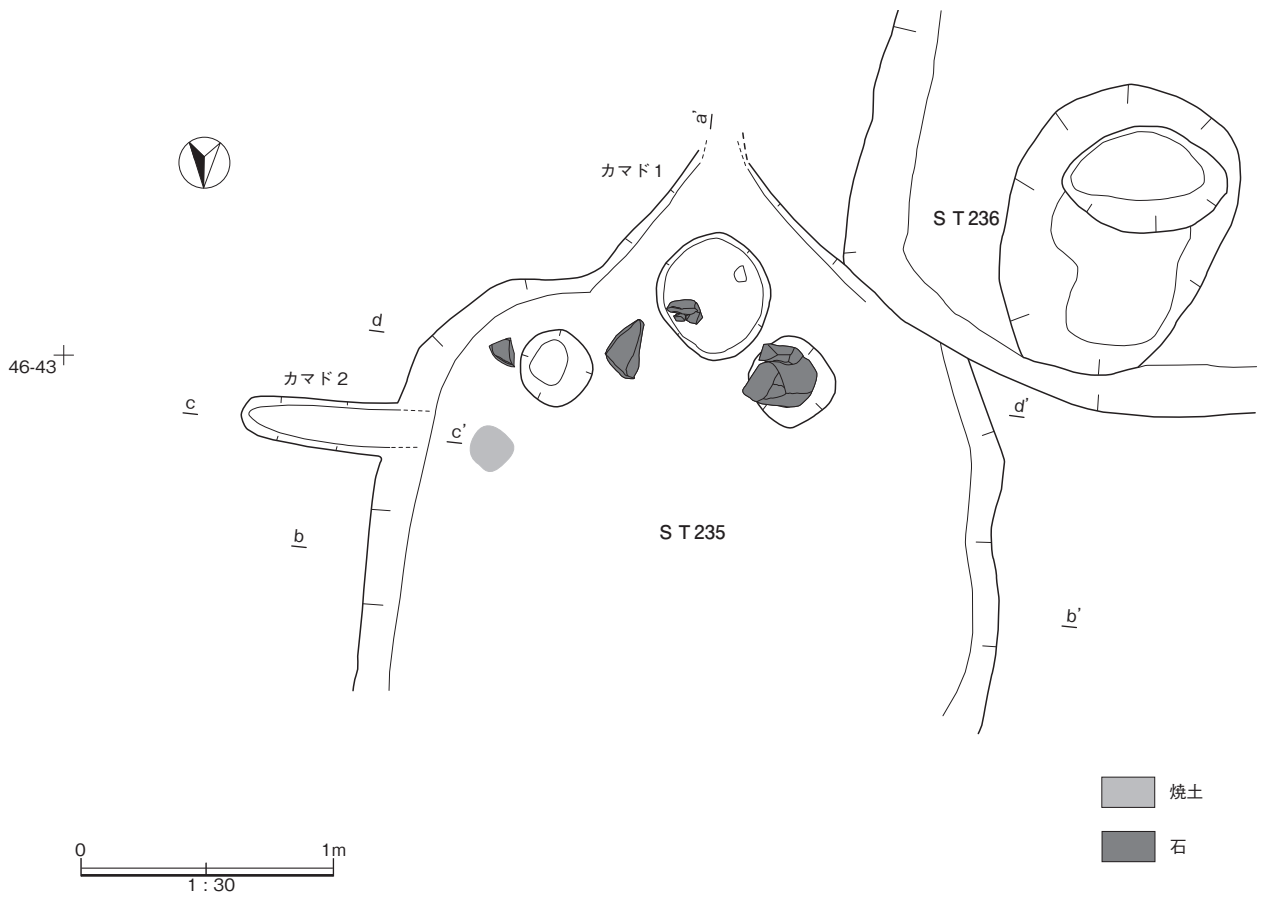
第104図 ST230 (3) 実測図



S T 233 a-a' b-b'

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 10YR3/3 暗褐色粘質土 | 締りを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。 |
| 2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 | やや締りを有す。5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |
| 3. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。ピット埋土。 |
| 4. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。5mm大の粘土粒を少々含む。ピット埋土。 |
| 5. 10YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。ピット埋土。 |
| 6. 7.5YR4/3 褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。住居跡埋土。 |

0 2m
1:60
第105図 S T 233 実測図



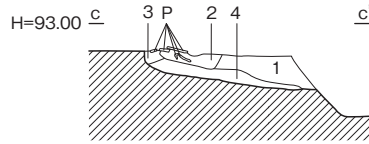
ST 235 E L a-a'

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒をやや多く含み、焼土ブロック、炭化粒を少々含む。 |
| 2. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質土 | 締りを欠く。焼土を主とし、5mm~1cm大の焼土ブロックを多く含み、5mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 3. 10YR2/1 黒色炭化層 | 締りを欠く。炭化層を主とし、2mm大の焼土粒をやや多く含む。 |
| 4. 7.5YR3/2 黒褐色炭化層 | 締りを欠く。炭化層を主とし、2mm大の焼土粒を少々含む。 |
| 5. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | やや締りを有す。地山層で、2mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 6. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。1cm大の粘土ブロックを少々含む。 |
| 7. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 | 締りを有す。1cm~2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。貼床に相当。 |
| 8. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質土 | 締りを有す。上位は灰色が強く、下位は赤褐色を帯びる。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 9. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2cm大の粘土ブロックをやや多く含む。 |

ST 235 ベルト b-b'

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 2. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | 締りを有す。2mm~1cm大の粘土粒、ブロックをやや多く含む。 |
| 3. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質土 | 締りを有す。上位は赤褐色を帯びる。2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 4. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | 締りを有す。5mm~1cm大の粘土粒をやや多く含む。 |

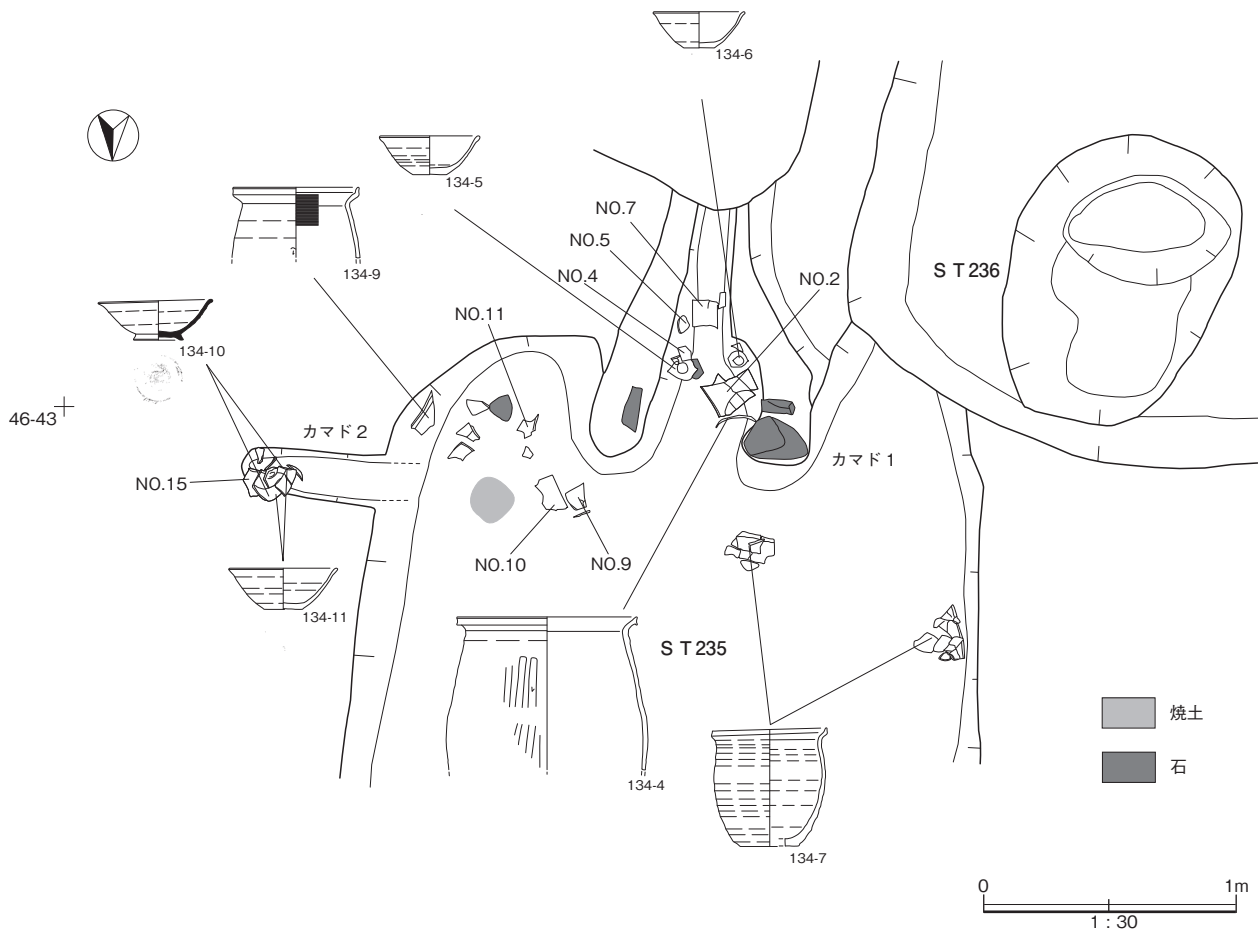
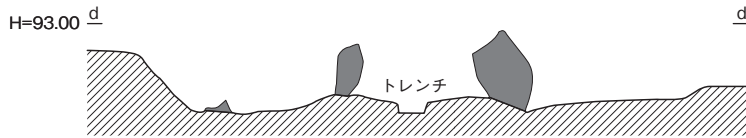
第106図 ST 235 E L (1) 実測図



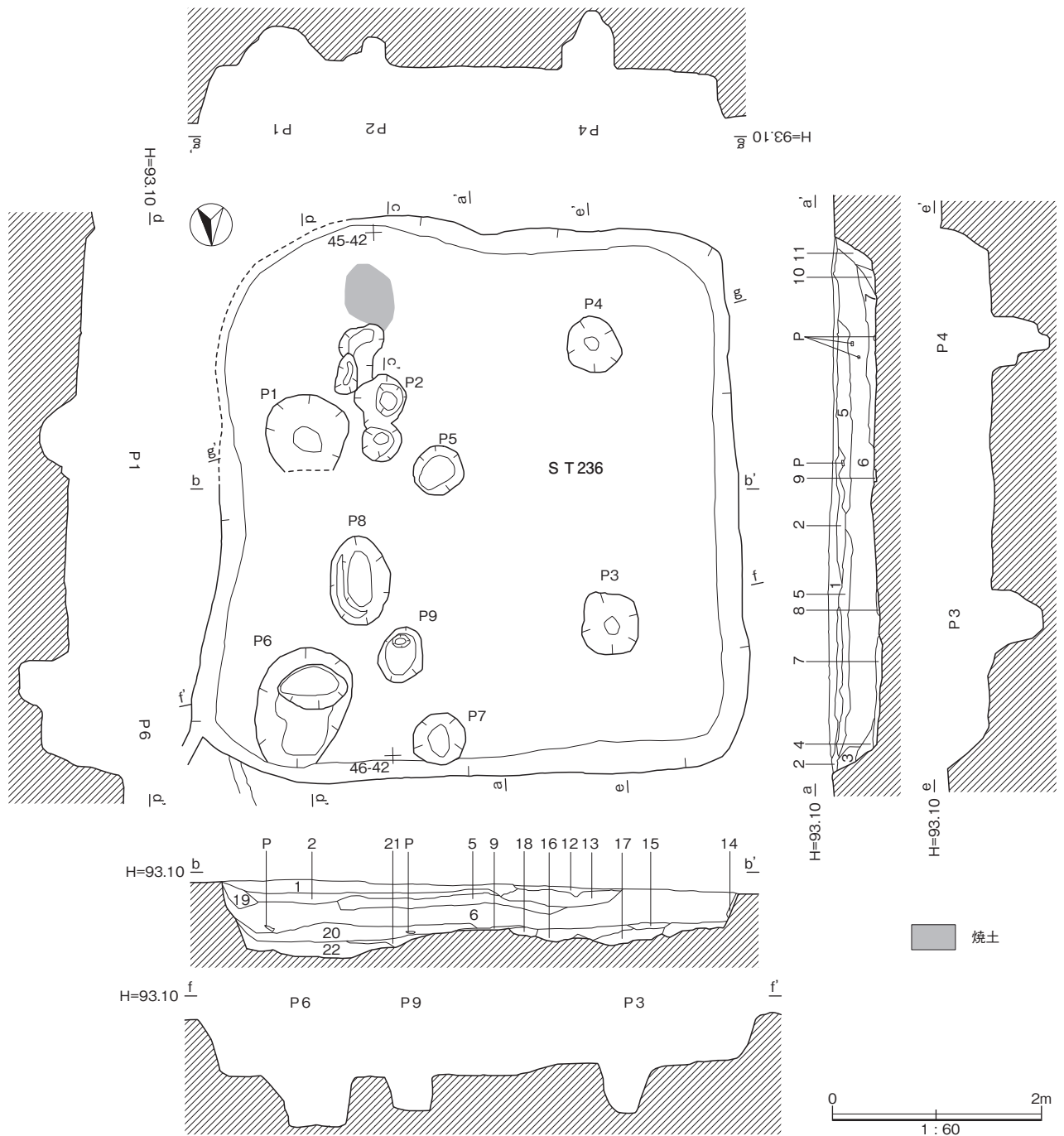
S T 235 E L c-c'

- 1. 10YR3/2 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm大の粘土粒を多く含み、5mm～1cm大の黒色粘土ブロックをやや多く含む。
- 2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 締りを有す。2mm～5mm大の粘土粒をやや多く含み、2mm大の焼土粒を少々含む。
- 3. 10YR3/3 暗褐色粘質土 締りを有す。2mm～5mm大の粘土粒を少々含む。煙道先端の埋土。
- 4. 7.5YR4/2 灰褐色シルト質土 締りを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。地山層で掘りすぎ。

※ S T 235カマド2は S T 235 (9世代) の住居跡に切られて、煙道だけが残存した。
煙道の先端から、須恵器、土師器出土。時期判定の資料となる。



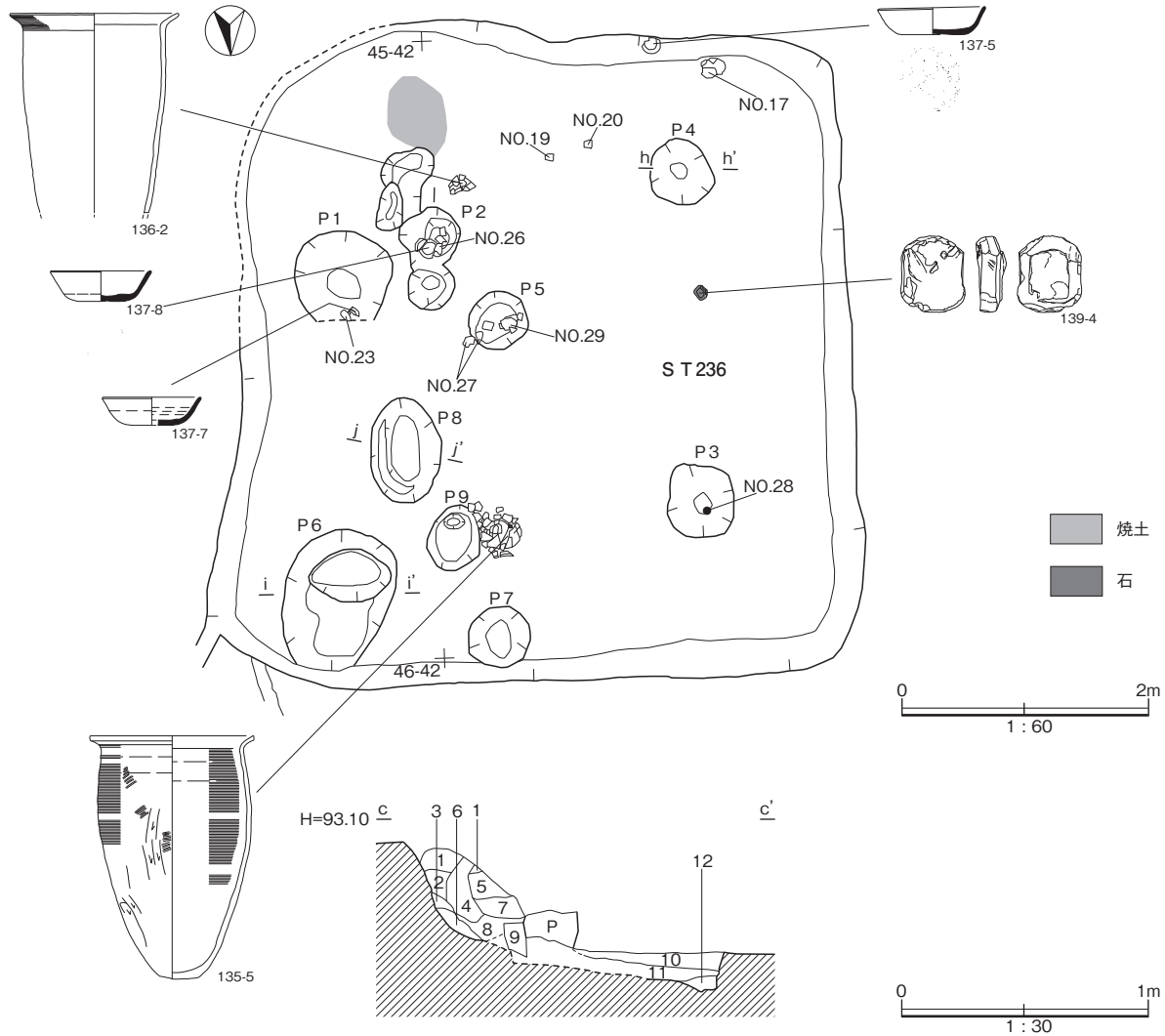
第 107 図 S T 235 E L (2) 実測図



S T 236 a-a' b-b'

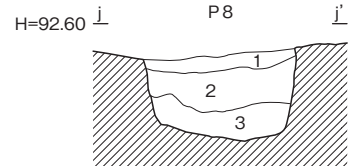
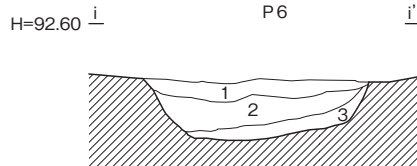
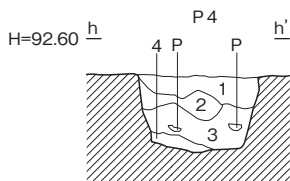
- | | | |
|----------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 1. 7.5YR5/2 灰褐色粘土 | 13. 7.5YR3/2 黒褐色粘土 | 7.5YR4/2 灰褐色粘土斑に混入。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘土 | 14. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | N3/0 暗灰色粘質シルトブロック状に混入。 |
| 3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト | 15. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | N3/0 暗灰色粘質シルト層状に混入炭粒少量混入。焼土少量混入。 |
| 4. 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト | 16. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 7.5YR4/2 灰褐色斑に混入。炭粒中量混入。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト | 17. 7.5YR4/1 褐色粘質シルト | 5YR3/1 黒褐色粘質シルト斑に混入。 |
| 6. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 18. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 7.5YR4/2 灰褐色斑に混入。 |
| 7. 5YR3/2 黒褐色粘質シルト | 19. 7.5YR4/1 褐色粘質シルト | 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、細かく斑に混入。 |
| 8. 5R2/1 赤黒色粘質シルト | 20. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 7.5YR4/2 灰褐色細かく斑に混入。炭粒少量、土器片混入。 |
| 9. N2/0 黒色粘質シルト | 21. 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト | 焼土、層状に混入。炭粒少量混入。 |
| 10. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 22. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 焼土、炭粒に少量混入。炭粒少量混入。 |
| 11. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト | | |
| 12. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土 | | |

第108図 ST 236 (1) 実測図



ST 236 E L c-c'

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 5YR4/1 褐灰色粘質シルト | 7. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト |
| 2. 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト 炭粒少量混入。 | 8. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 焼土混入。P (長胴甕) 入る。 |
| 3. 5YR3/1 黒褐色粘土 | 9. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト P (長胴甕) 入る。 |
| 4. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト | 10. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト |
| 5. 5YR3/2 暗赤褐色粘質シルト 焼土混入。 | 11. N3/0 暗灰色粘質シルト 焼土少量混入。 |
| 6. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 12. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 炭粒中量混入。 |



0 1m
1:30

ST 236 P4 h-h'

1. 5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを有す。5mm~1cm大の粘土ブロックをやや多く含む。
2. 5YR4/2 灰褐色粘質土 やや締りを有す。黒褐色粘質土少々混じる。
3. 5YR3/1 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。遺物を包含する。
4. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを有す。地山層。

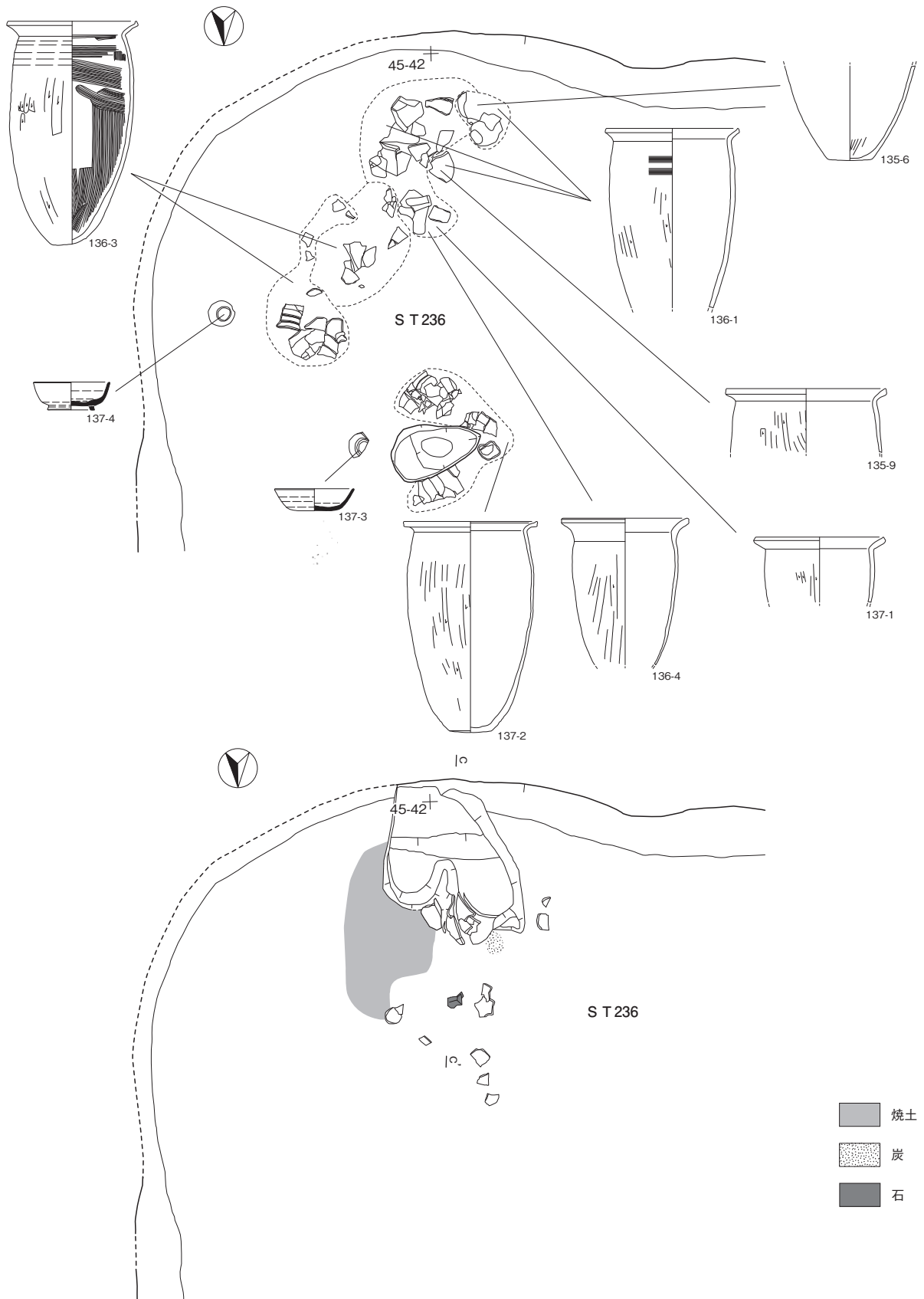
ST 236 P6 i-i'

1. 10YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む。
2. 7.5YR2/1 黒色炭化層 締りを欠く。5mm大の焼土粒・粘土粒をやや多く含む。
3. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。

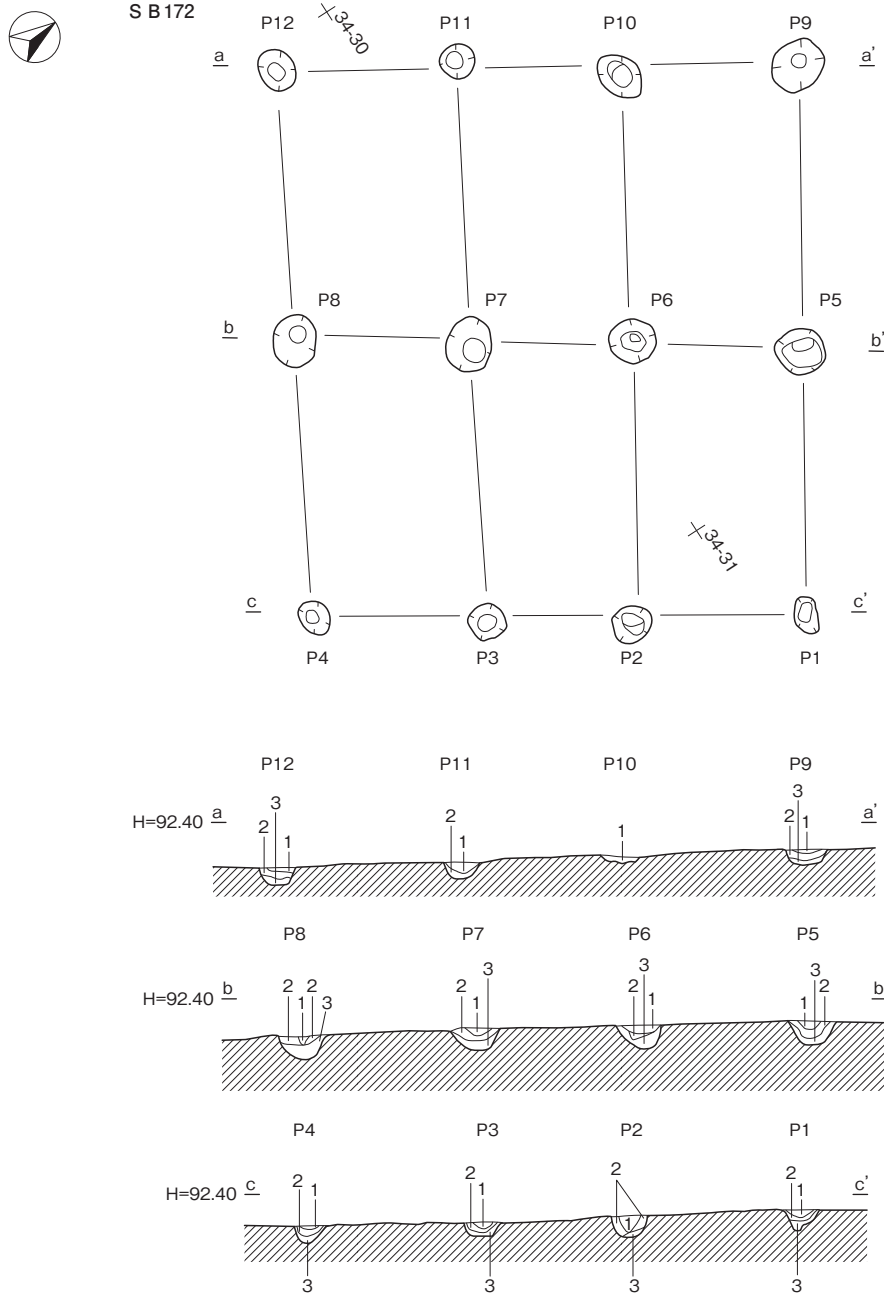
ST 236 P6 j-j'

1. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 やや締りを欠く。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。
2. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを欠く。2mm大の焼土粒を少々含む。
3. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 締りを欠く。5mm大の粘土粒を少々含む。2より色調が明るい。

第 109 図 ST 236 (2) 実測図



第110図 ST 236 (3) 実測図



S B172 a-a'

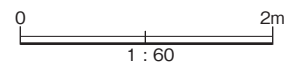
- P9**
 1. 5YR3/1 黒褐色粘土
 2. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト
 3. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘質シルト
P10
 1. N3/0 暗灰色粘土
P11
 1. 5R3/1 暗赤灰色粘質シルト
 2. 5PB2/1 青黒色粘質シルト
P12
 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘土
 2. 5R3/1 暗赤灰色粘質シルト
 3. 5PB2/1 青黒色粘質シルト

S B172 b-b'

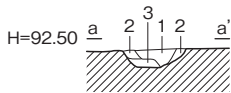
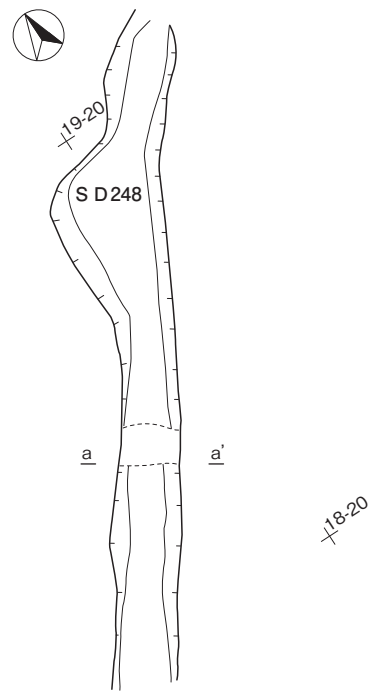
- P5**
 1. N3/0 暗灰色粘土
 2. 5PB2/1 青黒色粘質シルト 炭粒微量混入。
 3. 5PB2/1 青黒色粘土
P6
 1. 7.5YR5/2 灰褐色粘土
 2. 5YR3/1 黒褐色粘土 炭粒微量混入。
 3. 5P2/1 紫黒色粘土
P7
 1. 5YR3/2 暗赤褐色砂質シルト
 2. 5RP3/1 暗紫灰色粘土 5YR3/2暗赤褐色砂質シルト層状に少量混入。
 3. 5PB2/1 青黒色粘土
P8
 1. 5YR3/2 暗赤褐色粘土 10YR4/1褐色粘土ブロック状に混入。
 2. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト 7.5YR5/2灰褐色粘質シルト層状に混入。
 3. 5PB2/1 青黒色粘土

S B172 c-c'

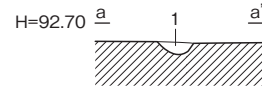
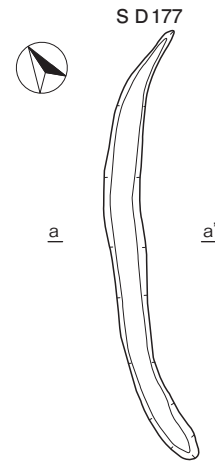
- P1**
 1. 10Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト
 N3/0暗灰色粘土斑に混入。
 2. 2.5Y4/1 黄灰色細砂
 3. 5PB3/1 暗青灰色粘土
P2
 1. N3/0 暗灰色粘土 炭粒少量混入。
 2. 5RP3/1 暗紫灰色粘土 炭粒少量混入。
 3. 5PB3/1 暗青灰色粘土
P3・P4
 1. 5RP3/1 暗紫灰色粘土 7.5YR4/4褐色土斑に混入。
 2. N3/0 暗灰色粘土 下方に7.5YR4/3褐色層状に混入。
 3. 5RP4/1 暗紫灰色粘土



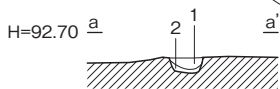
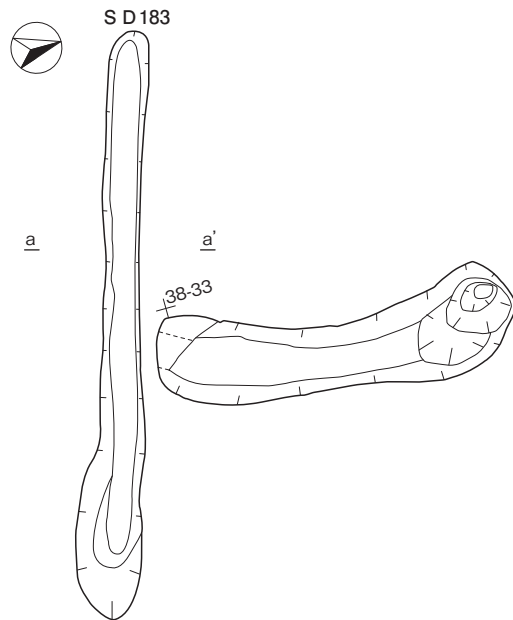
第111図 S B172 実測図



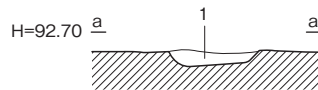
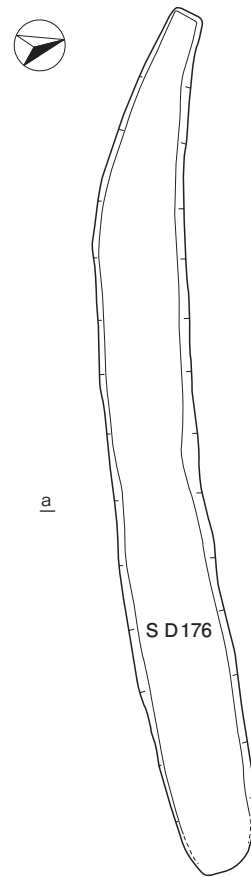
- SD248 a-a'**
- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト | 炭粒少量混入。 |
| 2. 7.5YR3/3 暗褐色粘質シルト | 7.5YR3/1黒褐色砂質シルト
多量斑に混入。 |
| 3. 7.5YR4/2 灰褐色砂質シルト | 5YR3/1黒褐色粘質シルト
ブロック状に中量混入。 |



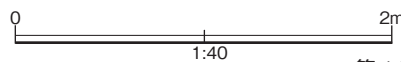
- SD177 a-a'**
1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト やや締まりを欠く。2mm大の粘土粒を少量含む。



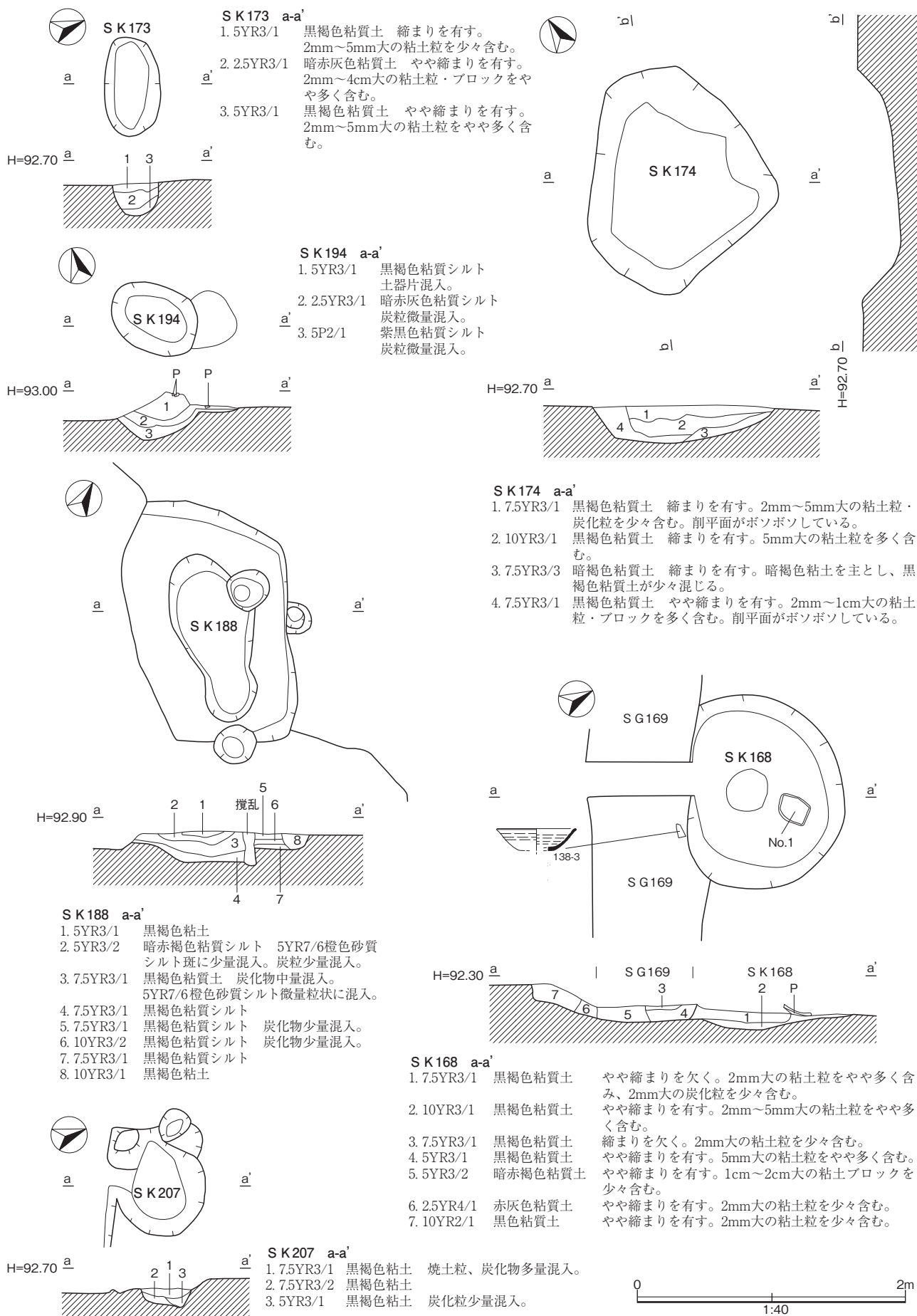
- SD183 a-a'**
- | |
|----------------------|
| 1. 5YR3/1 黒褐色粘質シルト |
| 2. 2.5YR2/1 赤黒色粘質シルト |



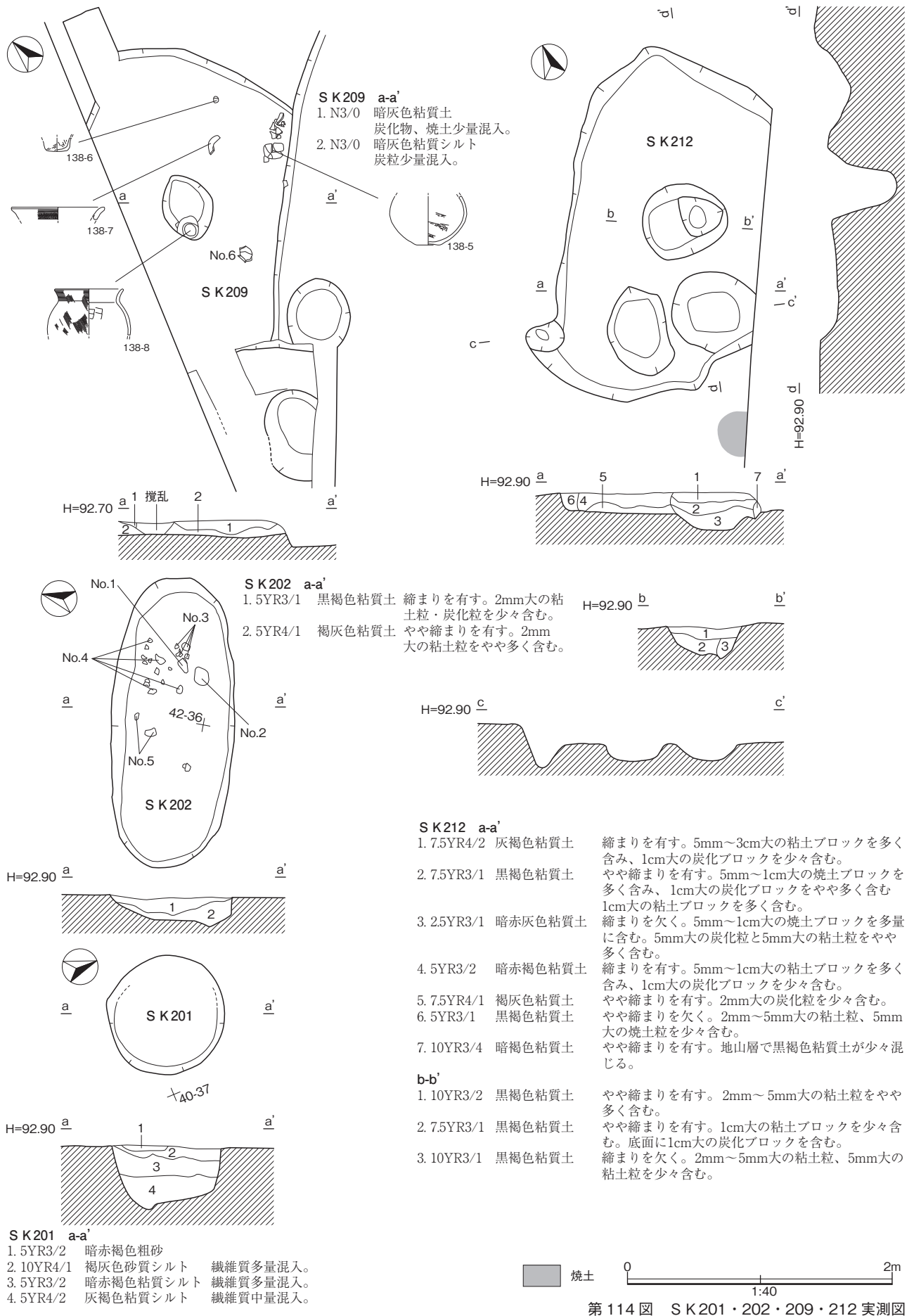
- SD176 a-a'**
1. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト やや締まりを欠く。2mm～5mm大の粘土粒を少々含む。

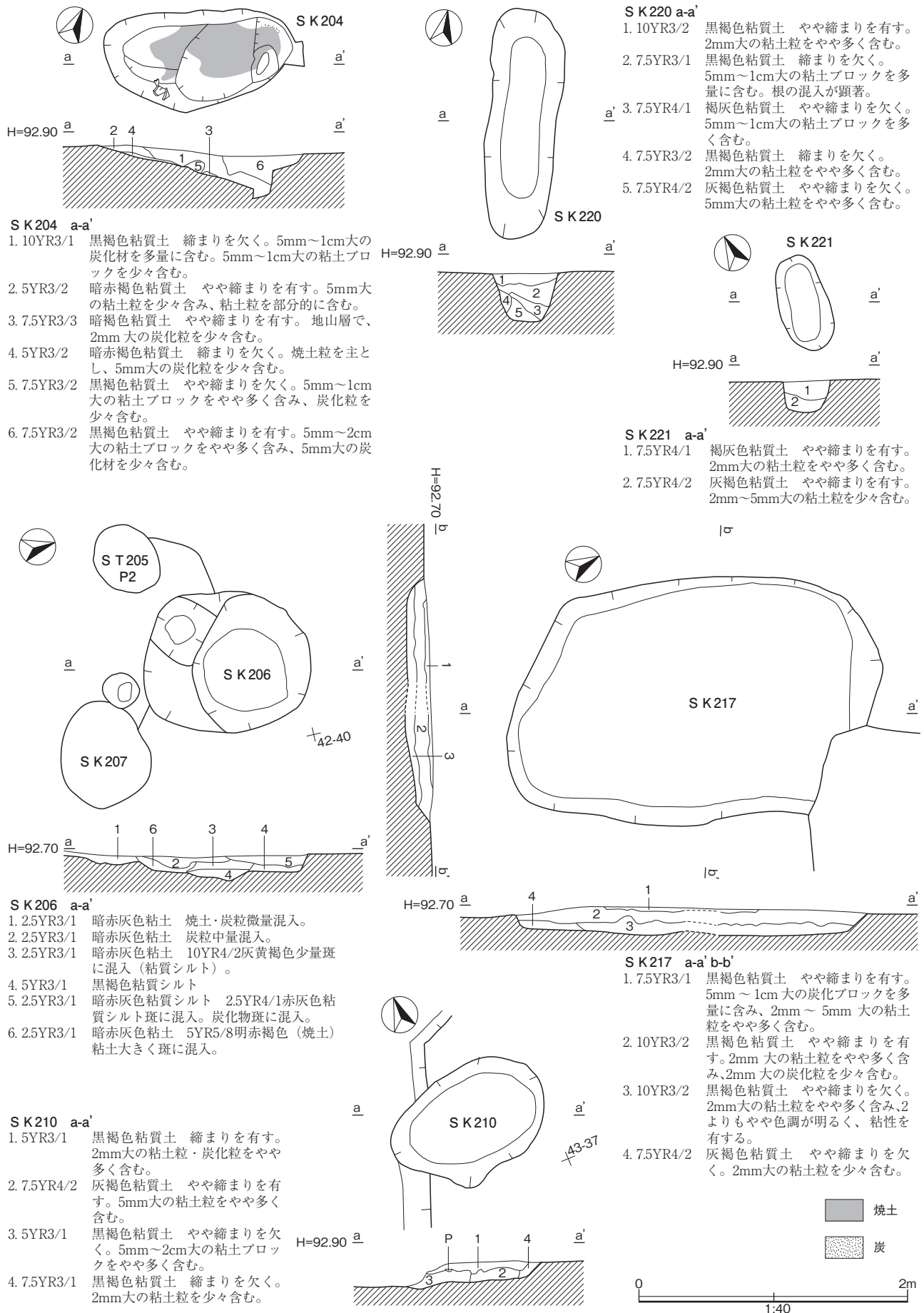


第112図 SD176・177・183・248 実測図

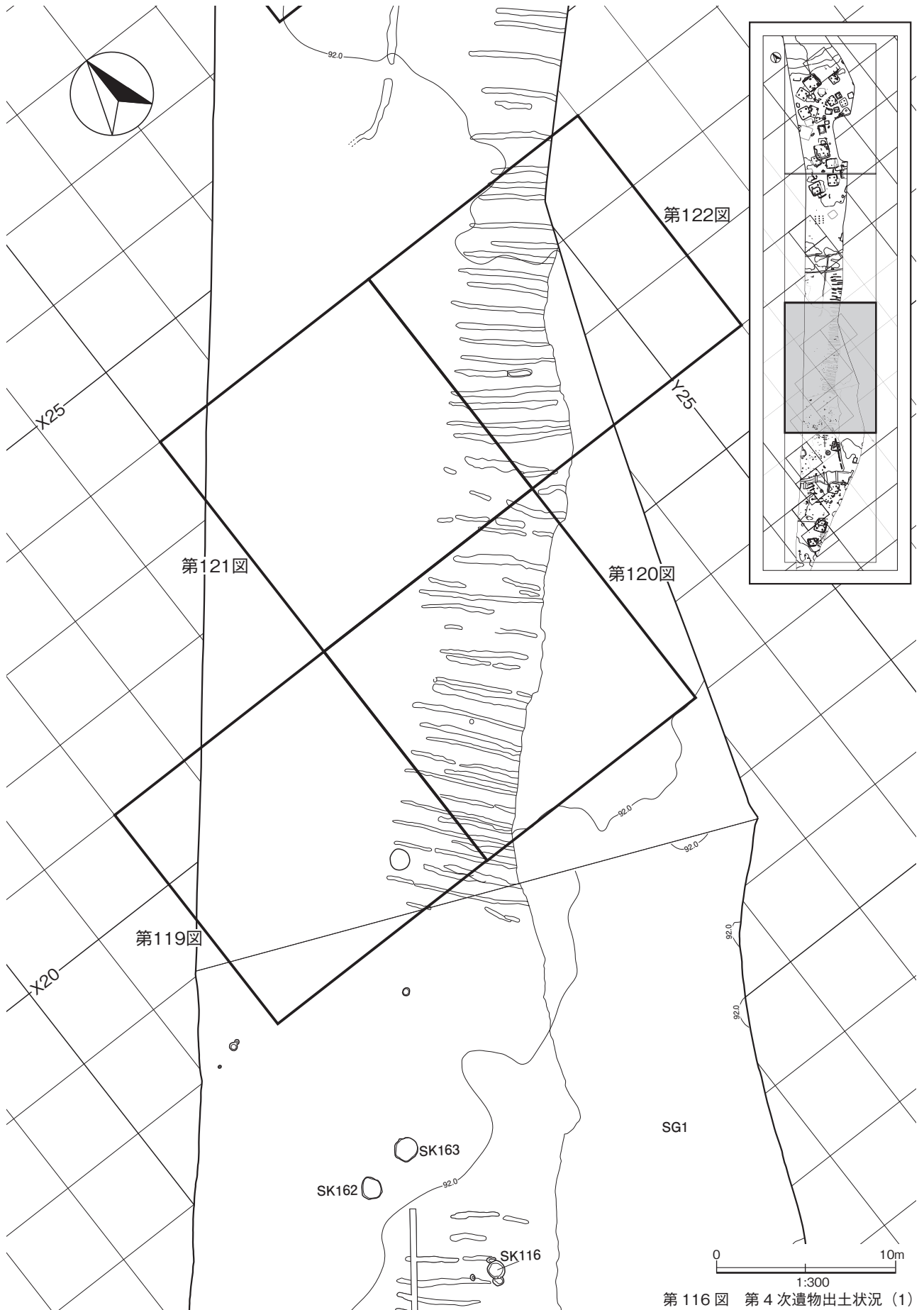


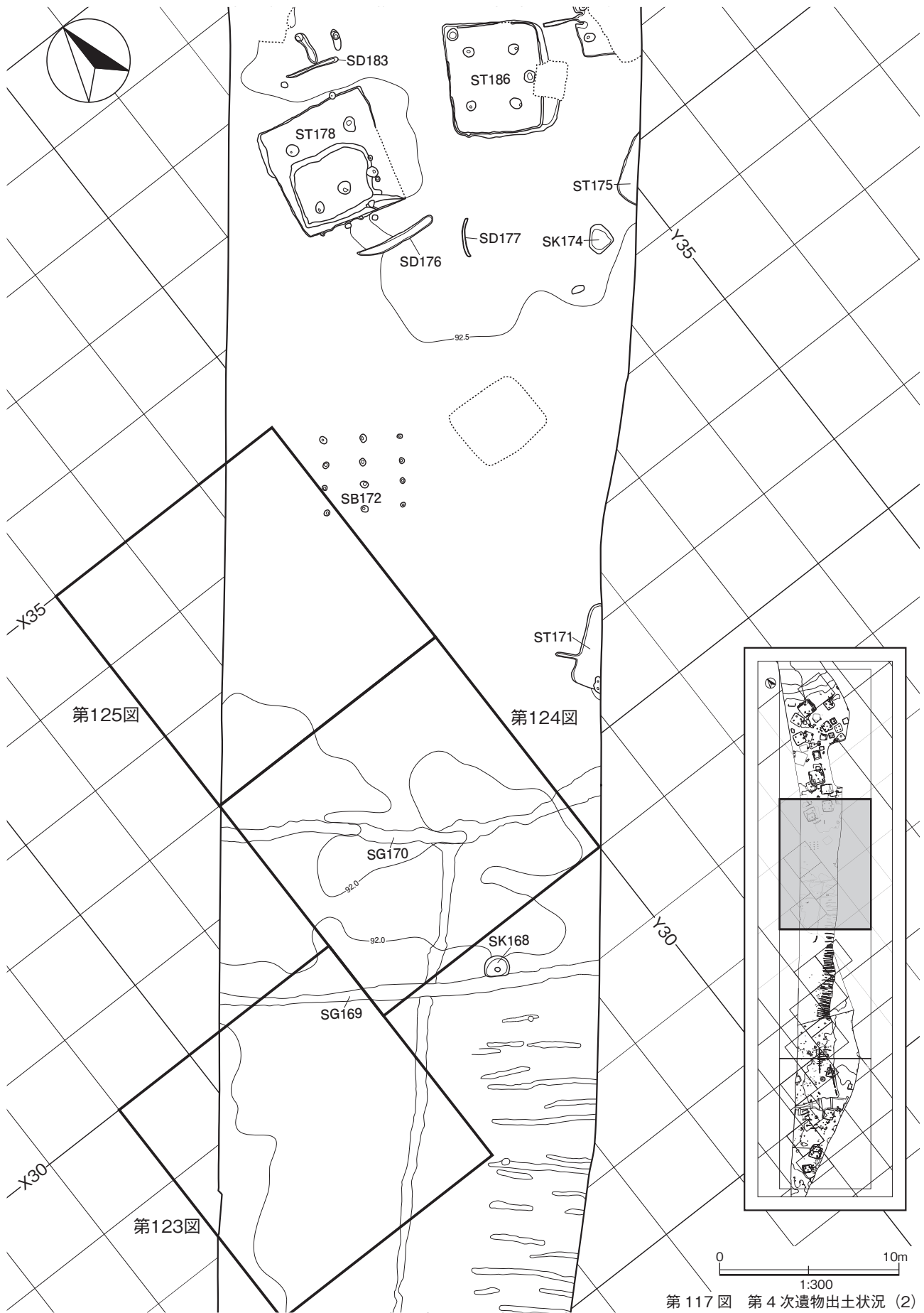
第113図 S K 168・173・174・188・194・207 実測図



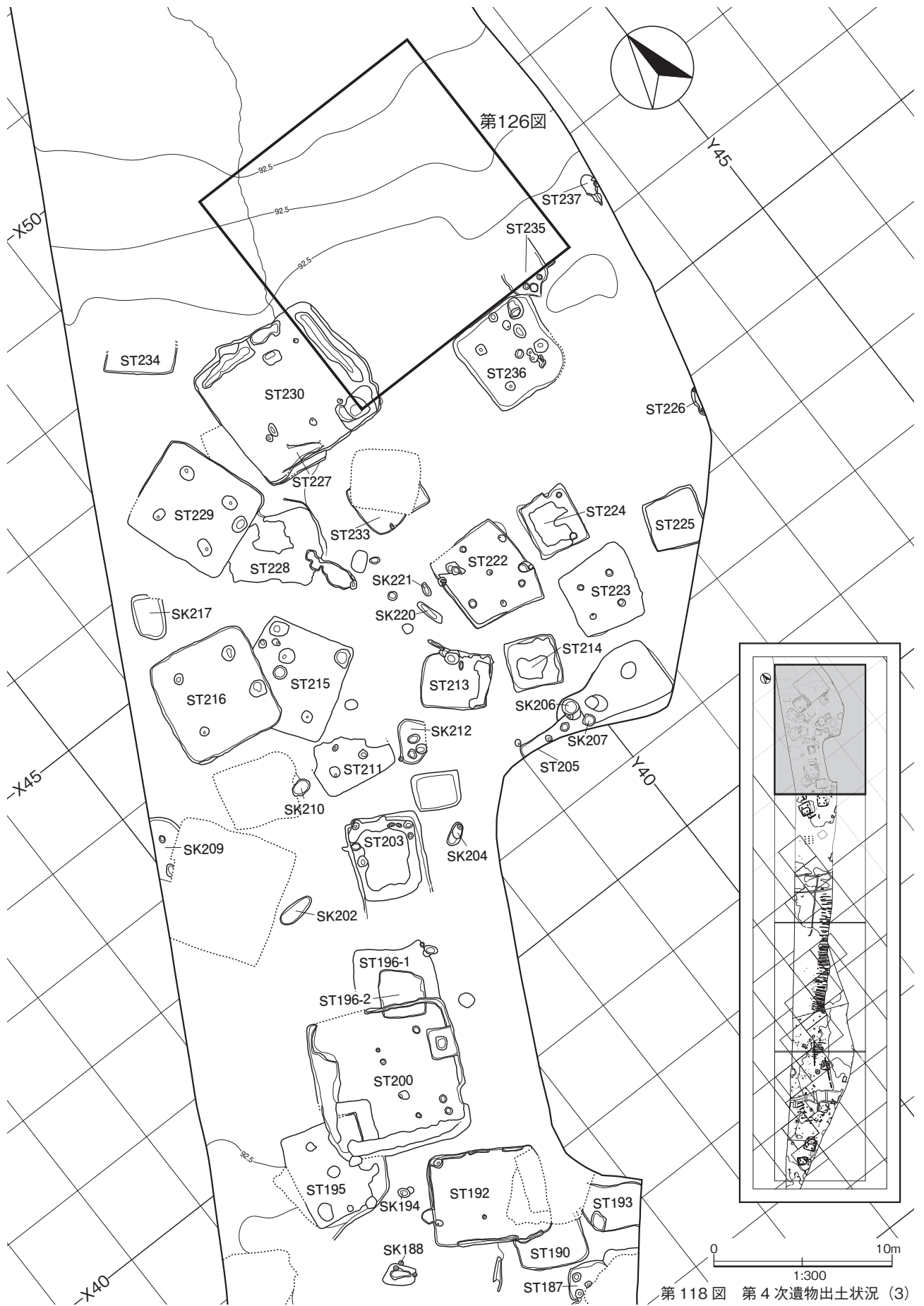


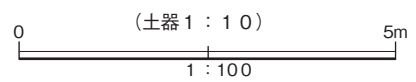
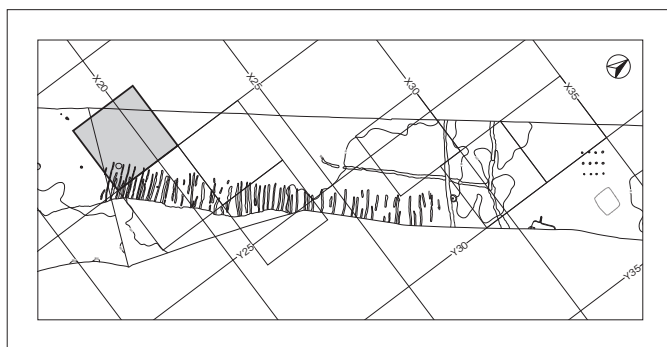
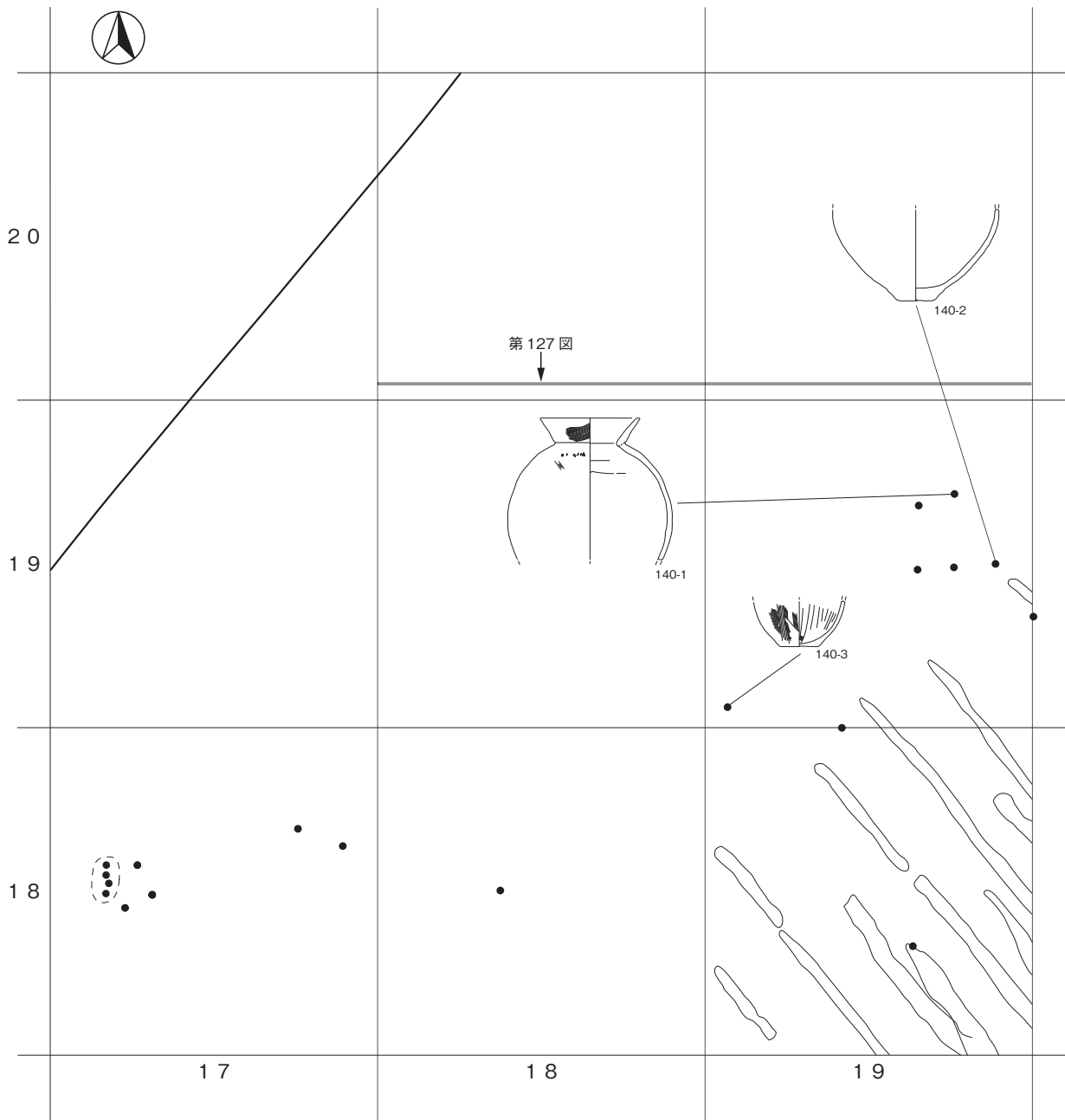
第115図 S K 204・206・210・217・220・221 実測図



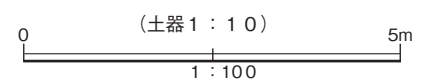
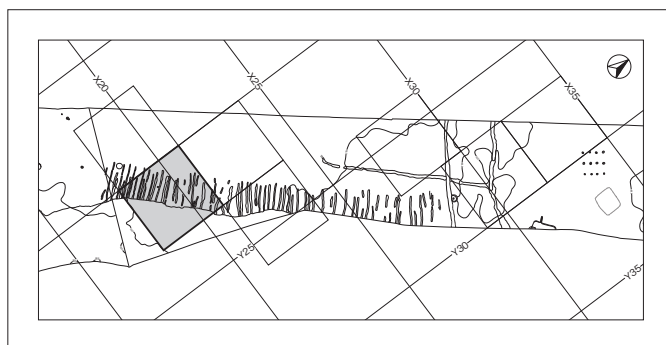
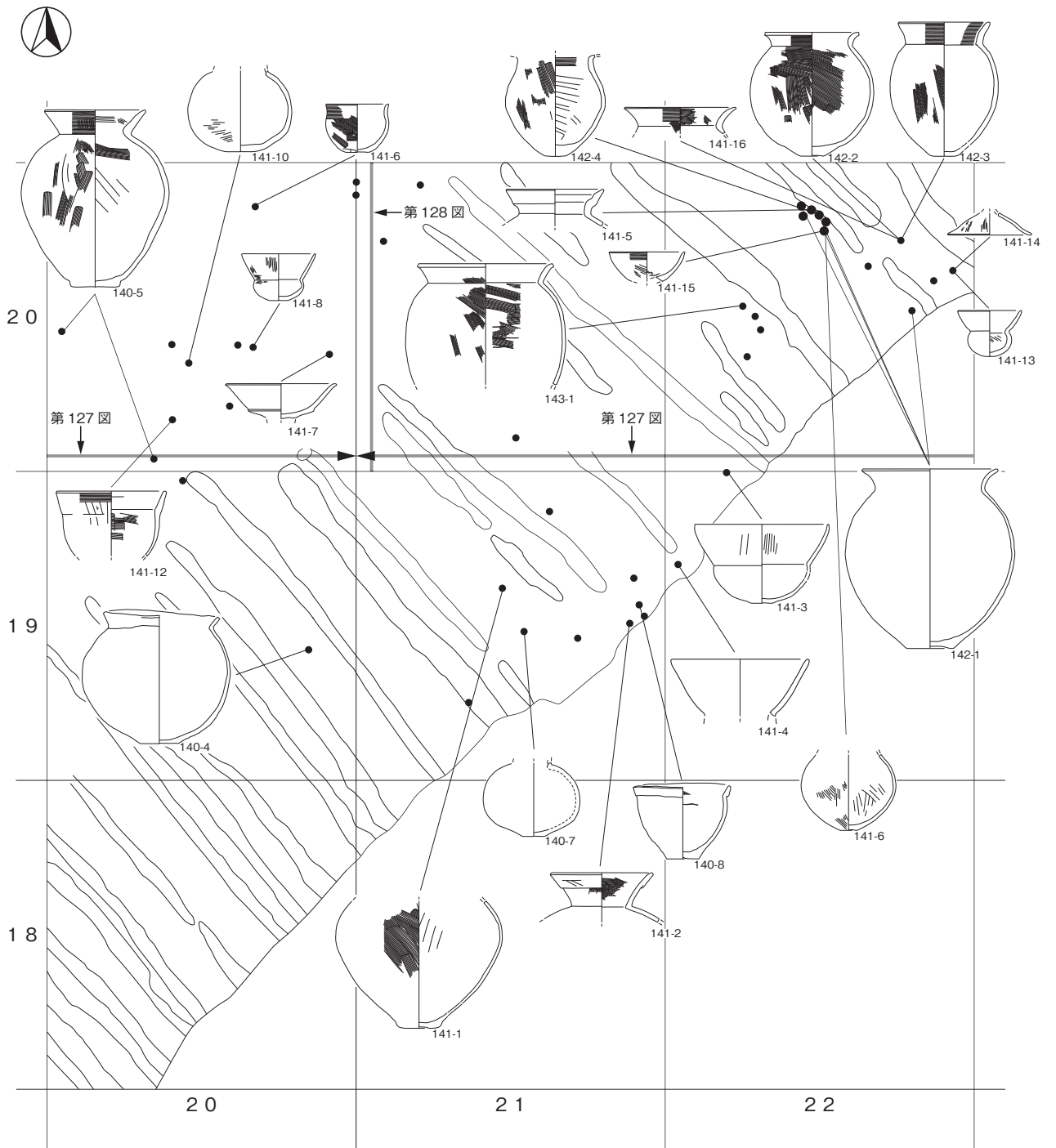


第117図 第4次遺物出土状況 (2)

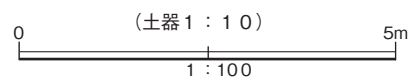
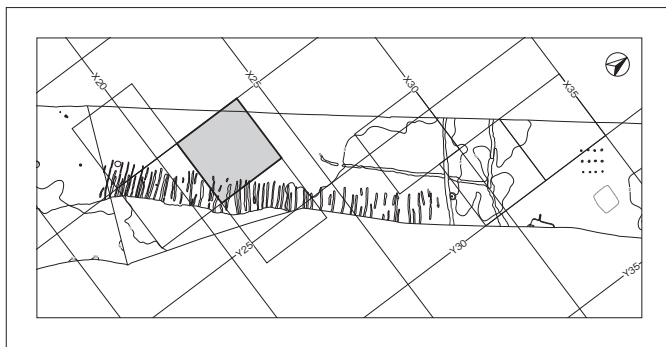
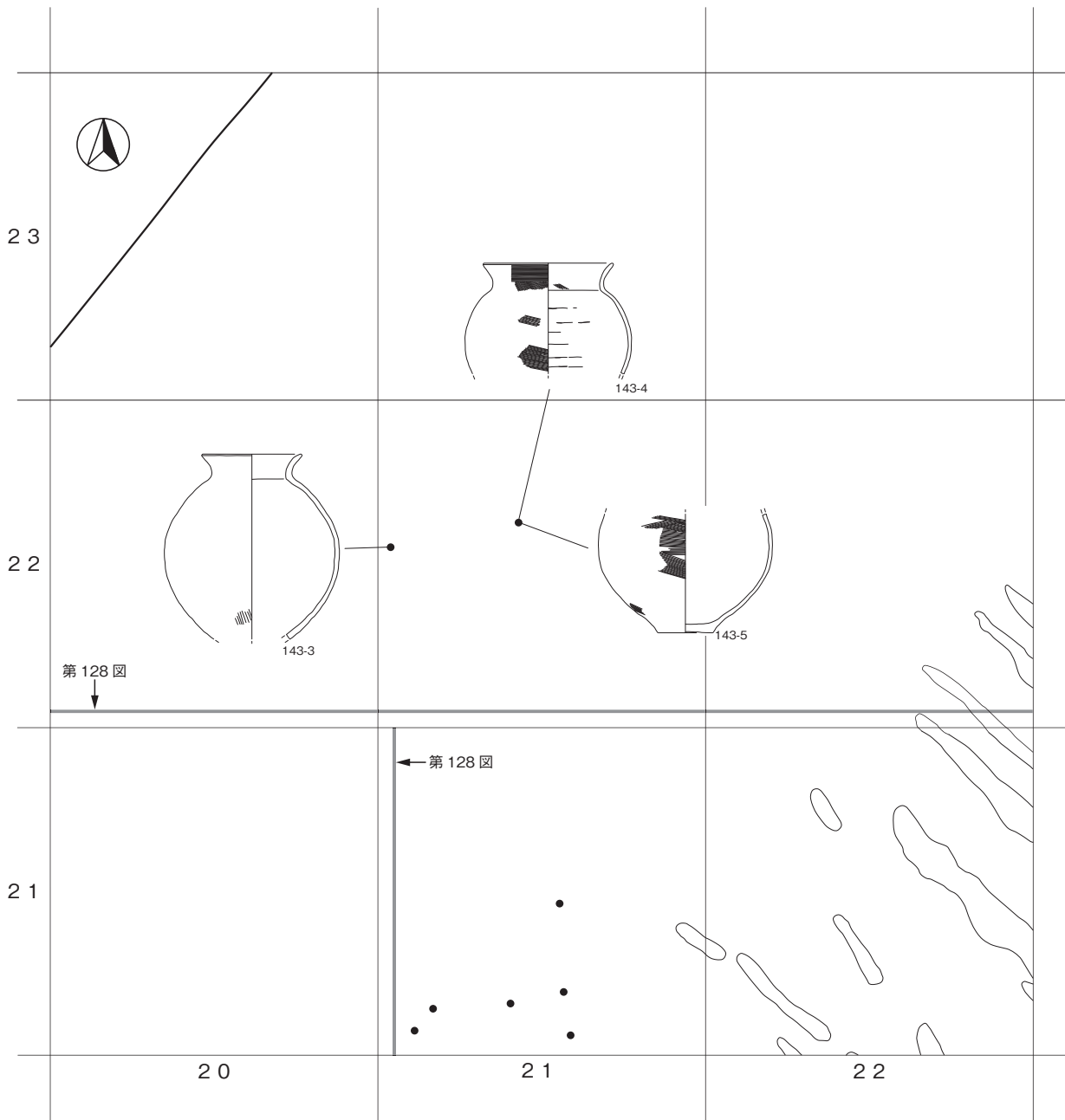




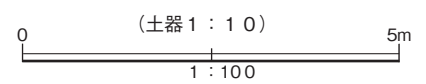
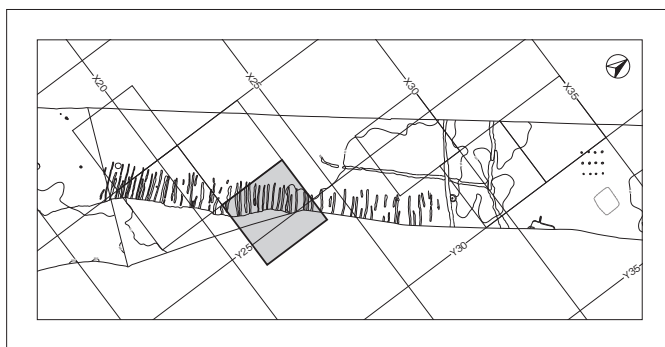
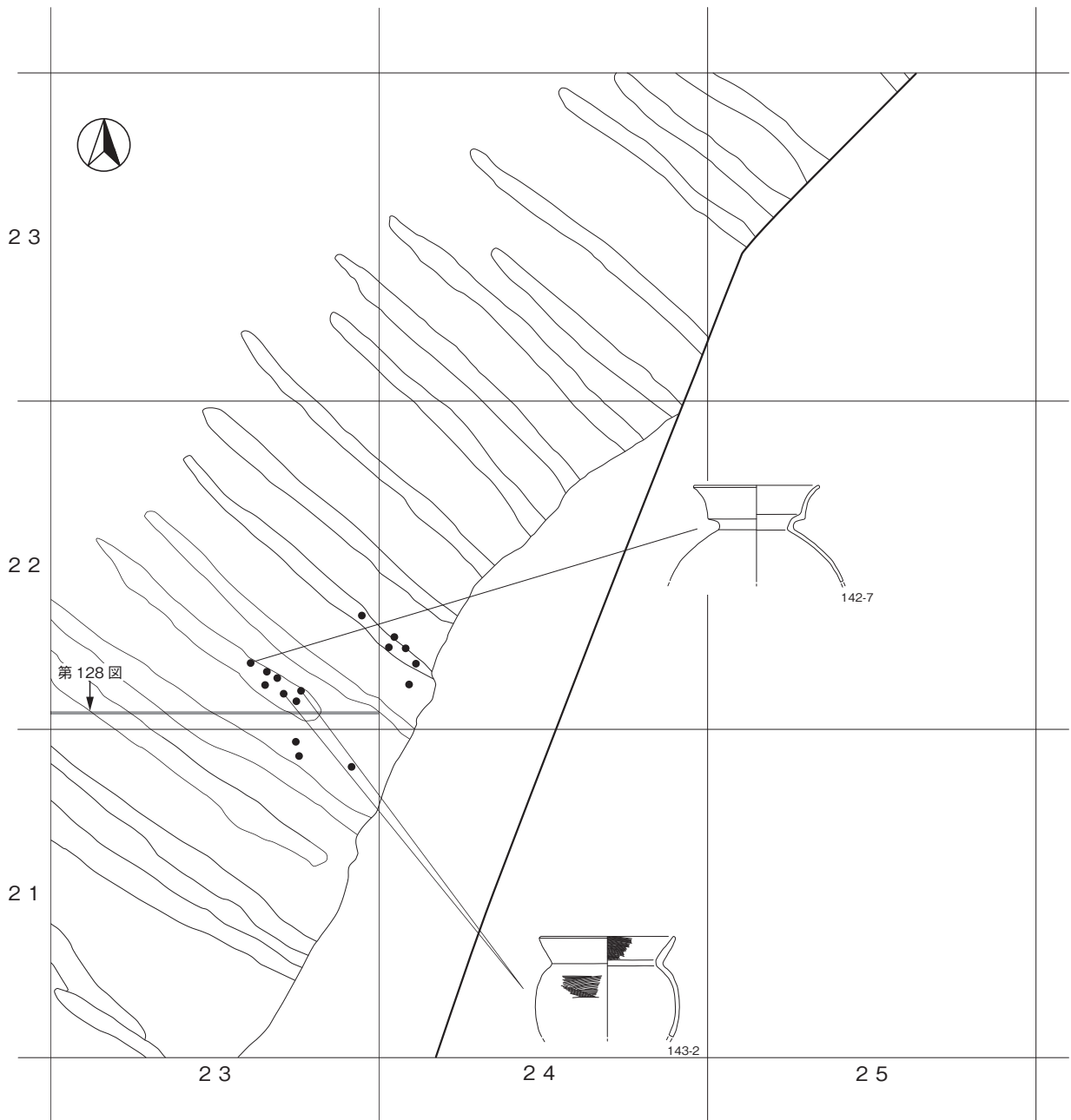
第119図 第4次遺物出土状況(4)



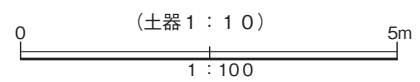
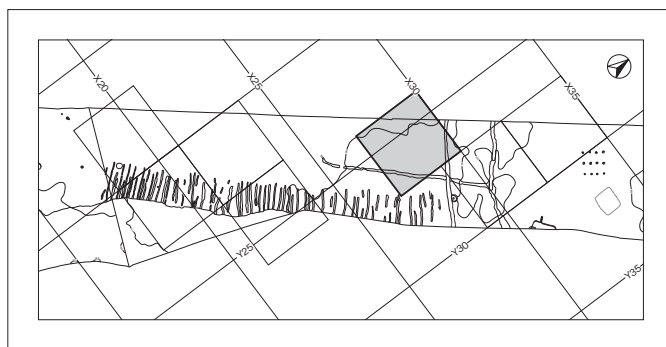
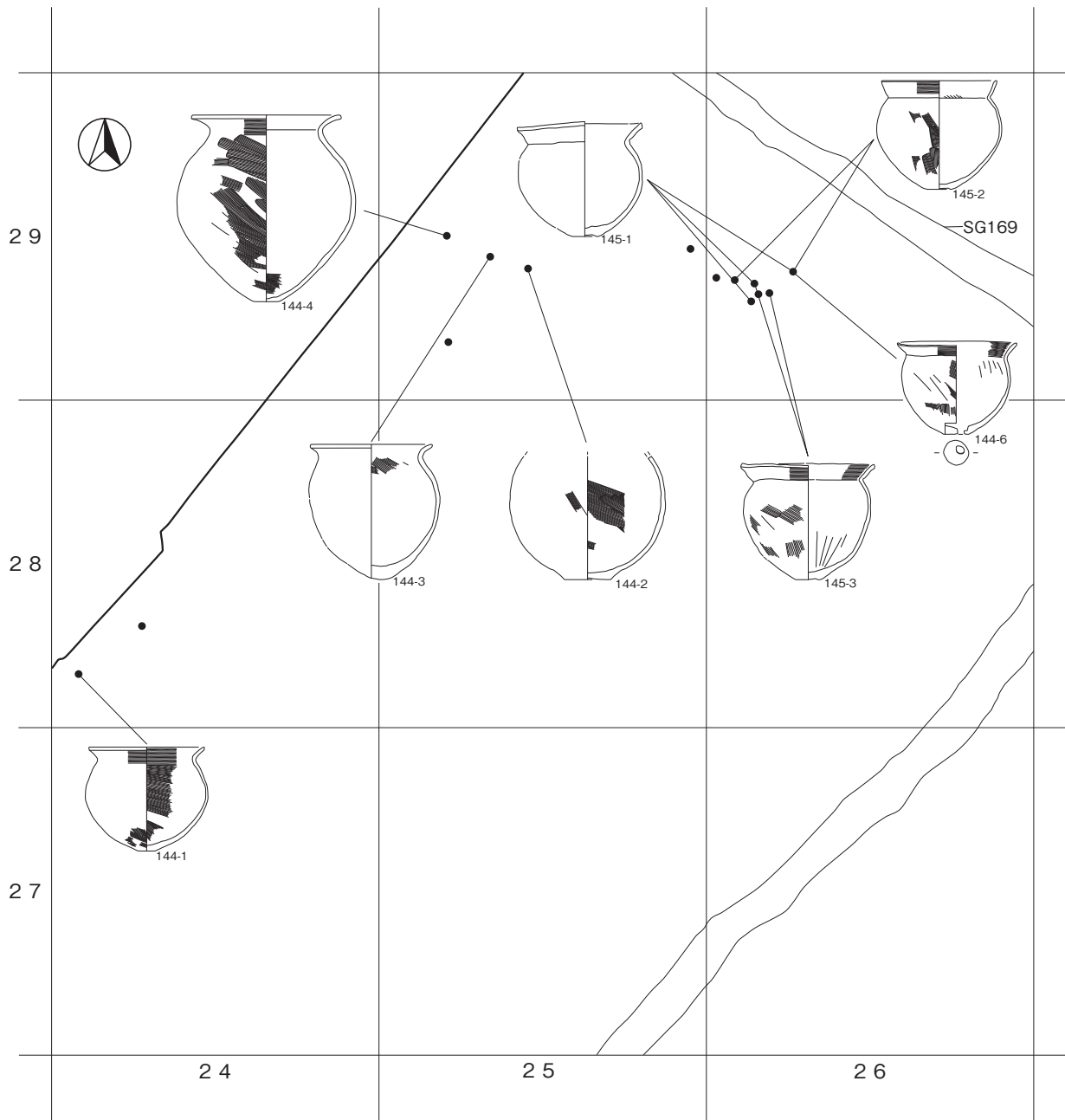
第120図 第4次遺物出土状況 (5)



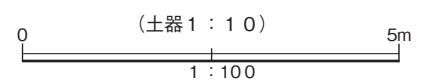
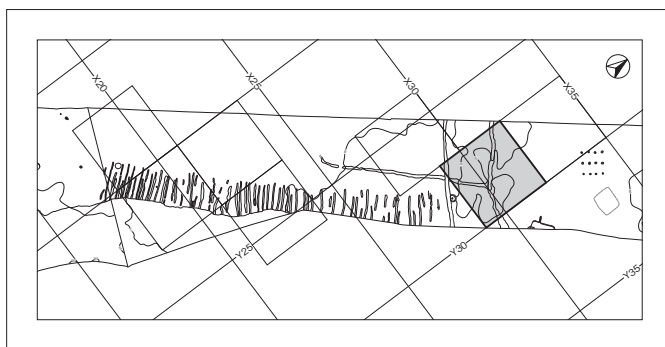
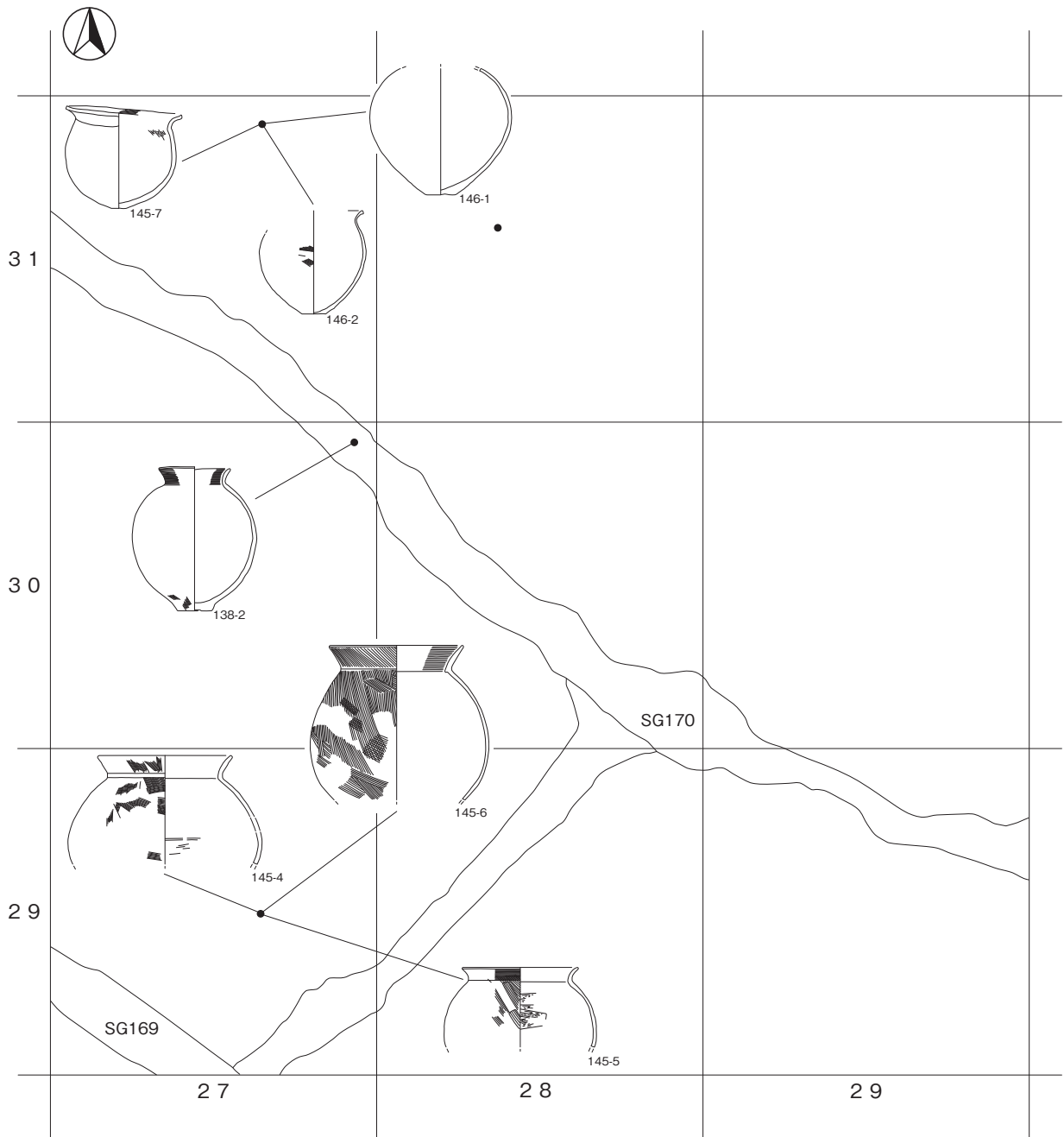
第121図 第4次遺物出土状況 (6)



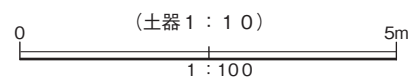
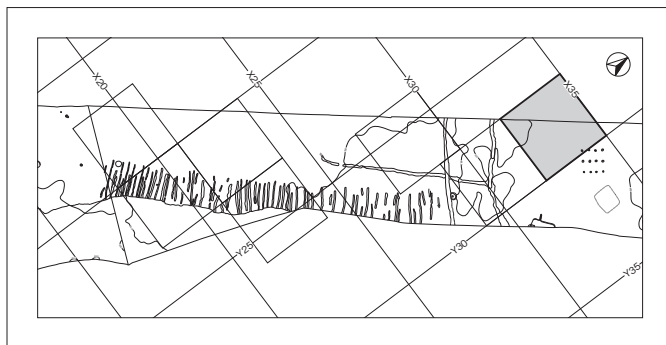
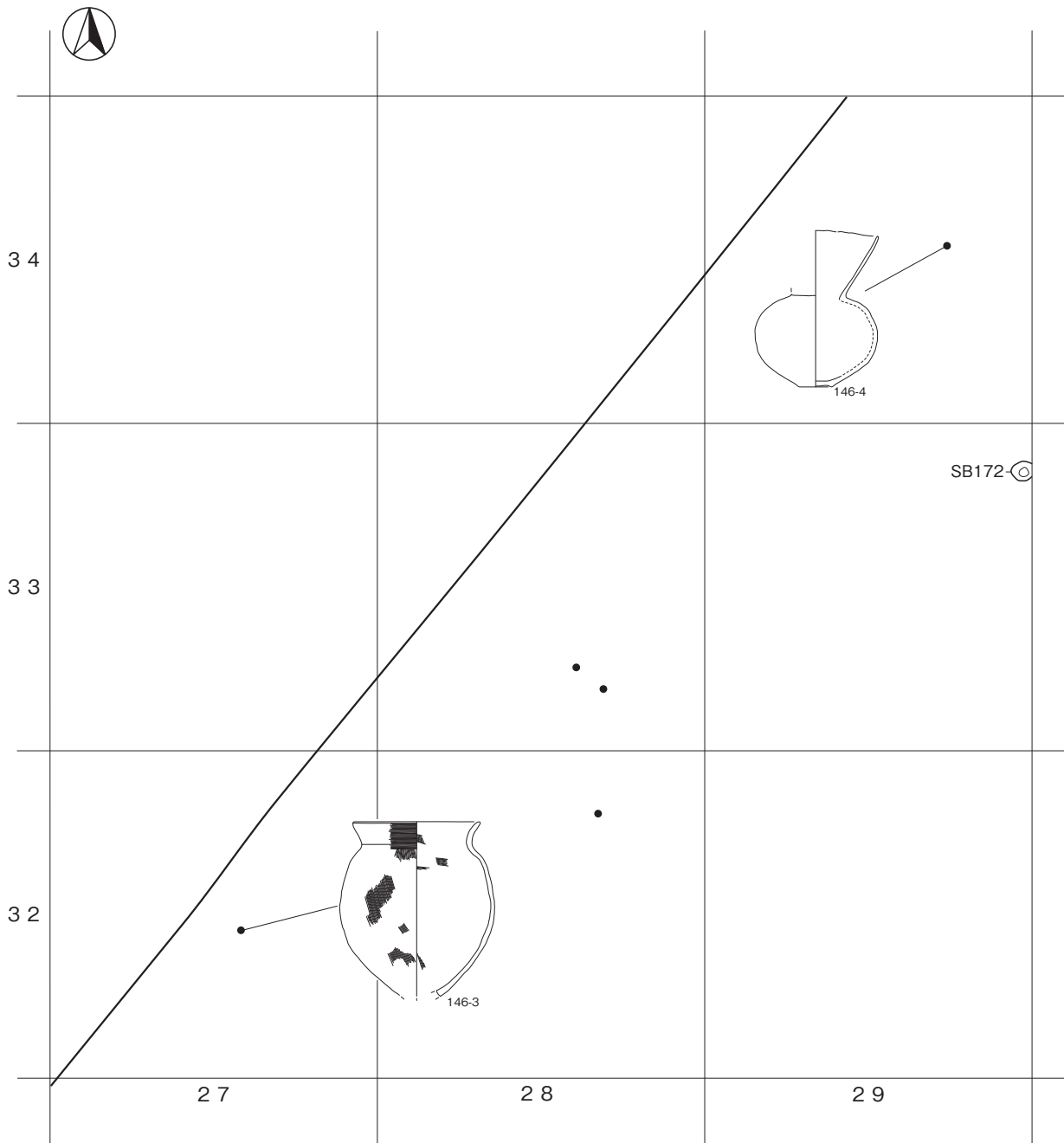
第122図 第4次遺物出土状況(7)



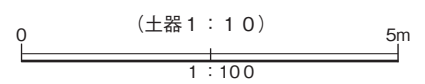
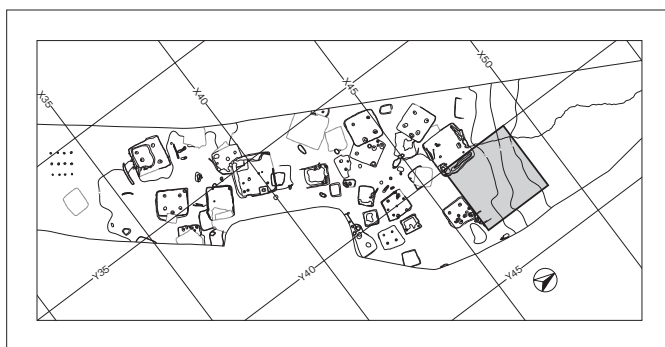
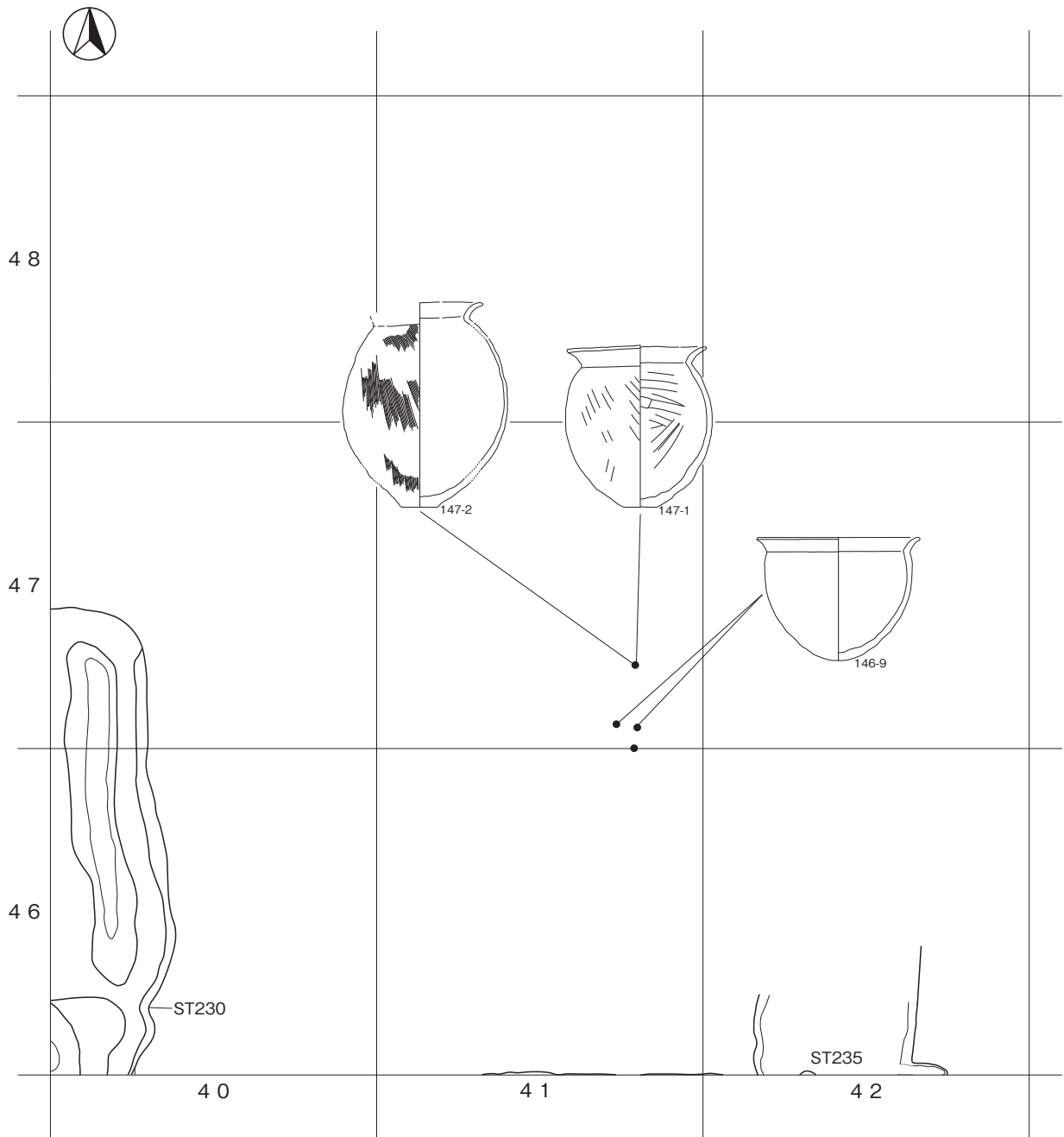
第123図 第4次遺物出土状況 (8)



第124図 第4次遺物出土状況(9)

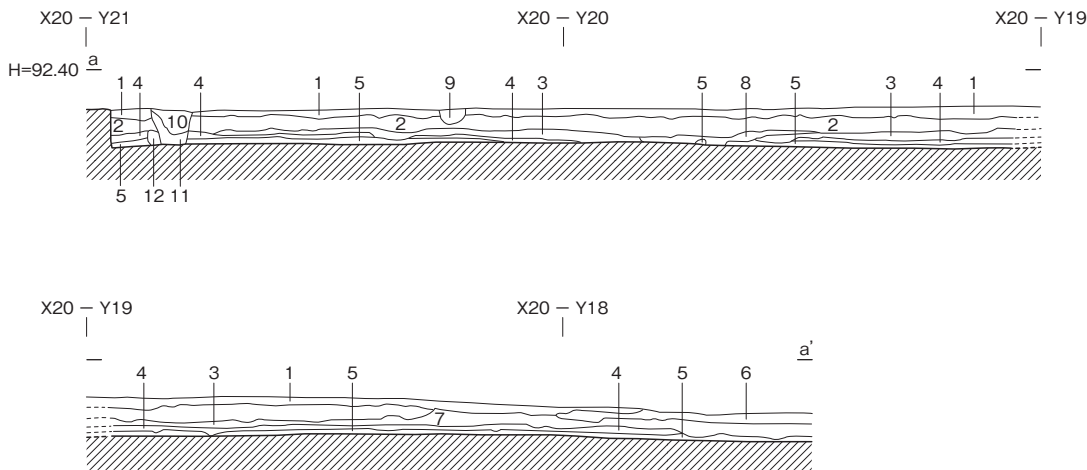


第125図 第4次遺物出土状況 (10)



第126図 第4次遺物出土状況(11)

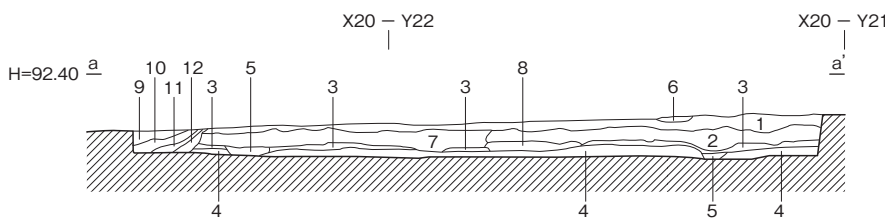
X20 - Y21 ~ X20 - Y19 北 25cm a-a'



X20 - Y21 ~ X20 - Y19 a-a'

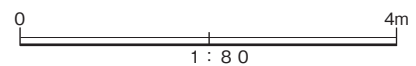
- | | |
|----------------------|--|
| 1. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | やや締まりを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。比較的均質な層で、掘削時はサクサクしている。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締まりを有す。2mm大の粘土粒・炭化粒を少々含む。周囲に比べ黒色を帯びており、遺物包含する。 |
| 3. 7.5YR3/3 暗褐色シルト質土 | 締まりを欠き、粘性を有す。2mm大の粘土粒をわずかに含む。 |
| 4. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | 締まりを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。5直上の粘質土。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締まりを有す。粘性が強く、分層が容易。褐色粘土と黒色粘土の互層で、調査区内に広く認められる。 |
| 6. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締まりを欠く。2mm~5mm大の粘土粒・炭化粒をやや多く含む。2に相当か。 |
| 7. 7.5YR4/2 灰褐色シルト質土 | 締まりを欠き、粘性を有す。2mm大の粘土粒を少々含む。酸化鉄の混入がやや顕著。 |
| 8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質土 | 締まりを有す。灰色が強く、酸化鉄が顕著。 |
| 9. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | やや締まりを有す。2mm~1cmの粘土粒・ブロックをやや多く含む。ピットの覆土。 |
| 10. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締まりを欠く。埋め戻した層。 |
| 11. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 | 締まりを有す。ピット覆土。5mm大の粘土粒・焼土粒を多く含む。 |
| 12. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | 締まりを有す。2mm大の粘土粒を少々含む、酸化鉄が顕著に見られる。 |

X20 - Y22 ~ X20 - Y21 北 25cm a-a'



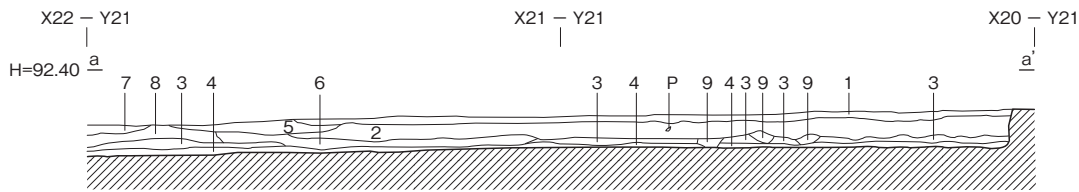
X20 - Y22 ~ X20 - Y21 a-a'

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 | やや締まりを有し、粘性を有す。2mm大の粘土粒・炭化粒をわずかに含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色シルト質土 | やや締まりを有し、粘性を有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む、中に2cm幅で褐色粘質土(7.5YR4/3)を縞状に含む部分がある。 |
| 3. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 | 締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 4. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締まりを有す。黒色粘質土と灰褐色粘質土(7.5YR4/2)が交互に堆積する。掘り下げ下面の層位。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。4を切って堆積する。 |
| 6. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 | やや締まりを有す。暗褐色シルト質土が少々混じる。調査区内を広く覆う。洪水堆積土。 |
| 7. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | 締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む、部分的に褐色粘質土(7.5YR4/3)を縞状に含む。 |
| 8. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | 締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒を多く含む、1cm大の黒色粘土ブロックを少々含む。 |
| 9. 10YR3/3 暗褐色砂質土 | 締まりを欠く。河道堆積で、下位に暗褐色粘質土が薄く堆積する。 |
| 10. 10YR3/2 黒褐色砂質土 | 締まりを欠く。河道堆積で、5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 11. 7.5YR3/2 黒褐色シルト質土 | やや締まりを欠き、粘性を有す。河道堆積で、5mm~1cm大の粘土ブロックを多く含む。 |
| 12. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 | 締まりを有し、粘性を有す。河道堆積で、2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。 |



第127図 X20軸ベルト断面図

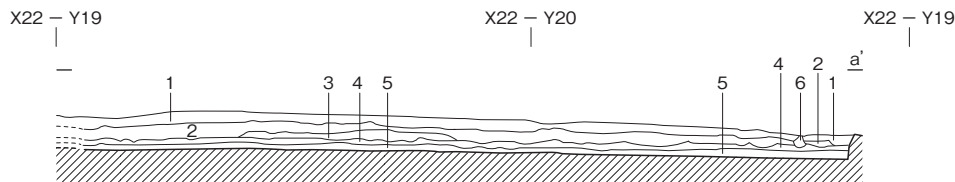
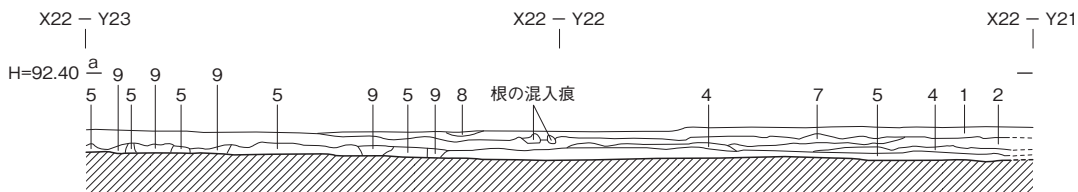
X22 - Y21 ~ X20 - Y21 東 25cm a-a'



X22 - Y21 ~ X20 - Y21 a-a'

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | やや締まりを有す。比較的均質な性状で、2mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。古墳時代の遺物を包含する。 |
| 3. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 | やや締まりを有す。2mm大の粘土粒を少々含む。4直上の粘質土。 |
| 4. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 | 締まりを有し、粘性が強い。黒色粘土と黄褐色粘土の互層で、調査区内に広く認められる。 |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 | 締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む、下位に黒褐色粘質土が堆積する。 |
| 6. 7.5YR4/2 灰褐色シルト質土 | やや締まりを欠く。粘性を有す。灰色粘土を多く含む、酸化鉄が顕著に見られる。 |
| 7. 7.5YR3/3 暗褐色砂質土 | やや締まりを欠く。2mm大の粘土粒を少々含む。1に相当する。 |
| 8. 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 | やや締まりを欠く。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。2に相当する。 |
| 9. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む。3を切るように堆積する。 |

X22 - Y23 ~ X22 - Y20 北 25cm a-a'



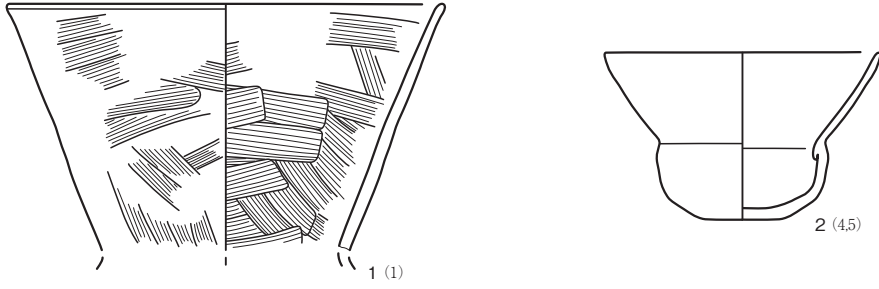
X22 - Y23 ~ X22 - Y20 a-a'

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | 締まりを欠く。2mmの粘土粒を少々含む。比較的均質な性状でサクサクしている。 |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 | 締まりを欠く。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む、2mm大の炭化粒を少々含む。 |
| 3. 7.5YR4/2 灰褐色シルト質土 | やや締まりを欠く。粘性を欠き、2mm~5mm大の粘土粒を少々含む。 |
| 4. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | 締まりを欠く。3よりも灰色を帯びる。2mm~5mm大の粘土粒を少々含む、シルト質土が多く混じる。 |
| 5. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 | やや締まりを有す。粘性が強く、上層との分層は容易。4cm程度の層厚で、下位は黒色粘土層となる。 |
| 6. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 | やや締まりを有す。根の痕跡で、周囲は暗赤褐色を呈する。中央は砂質土となる。 |
| 7. 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 | やや締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む、5mm大の炭化粒を少々含む。根の混入が顕著で、灰色シルト質土や赤褐色シルト質土が多く認められる。 |
| 8. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 | やや締まりを欠く。粘性が強く、黒褐色粘質土が少々混じる。調査区内に広く見られる。洪水堆積土。 |
| 9. 10YR3/2 黒褐色粘質土 | やや締まりを有す。2mm~5mm大の粘土粒をやや多く含む、黒色粘質土がブロック状に混じる。5を切って堆積しており、黒色粘質土は5に相当。 |

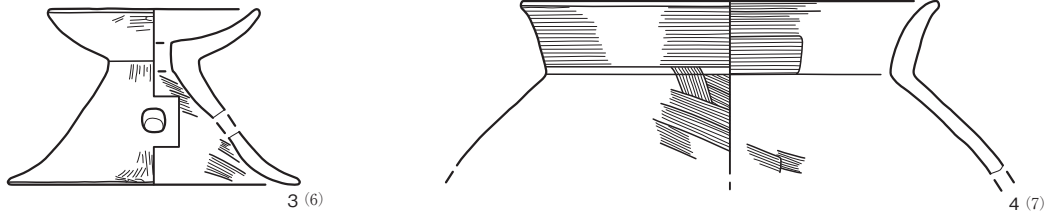


第128図 X20軸・X21軸・X22軸ベルト断面図

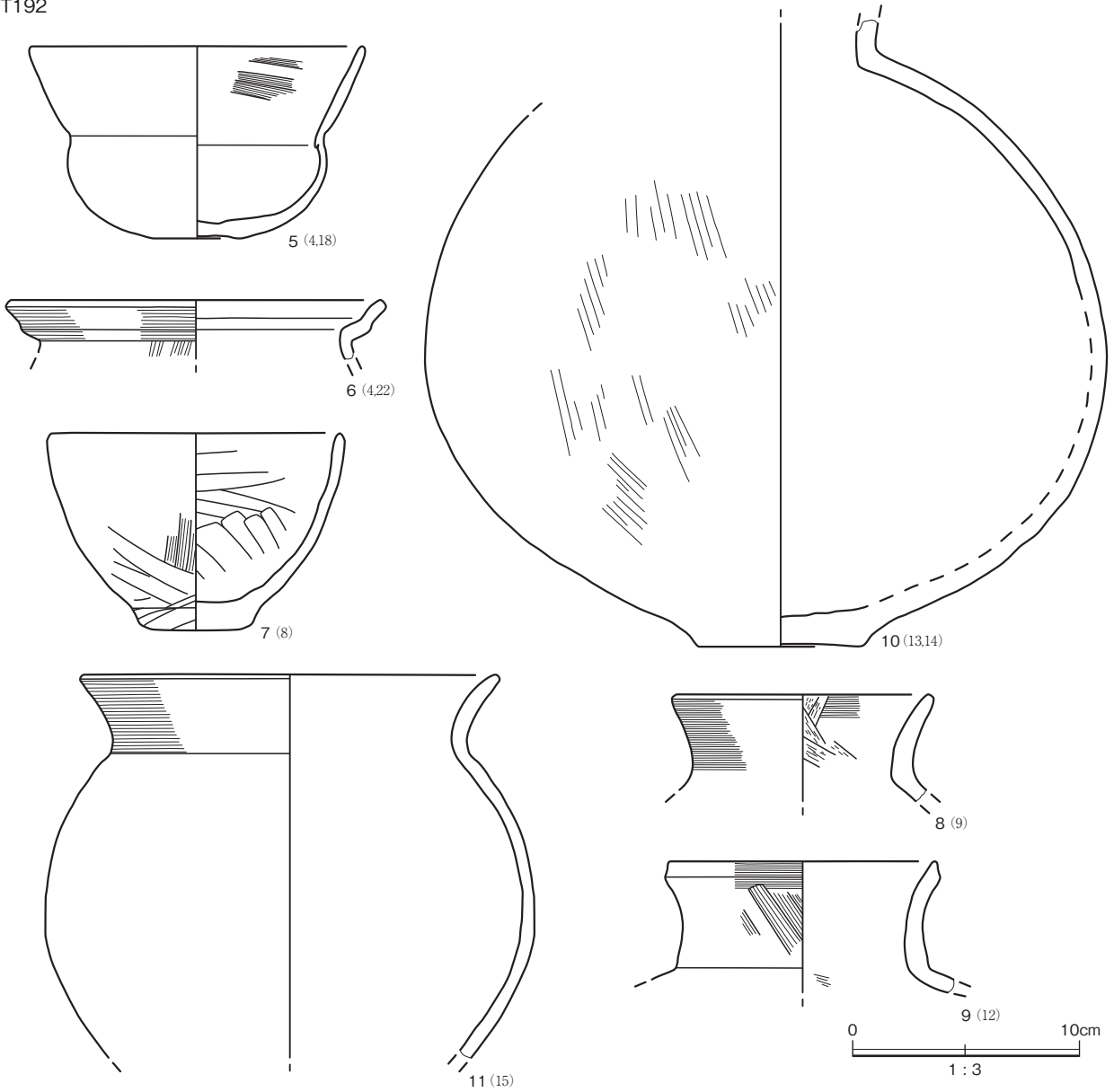
ST186



ST190

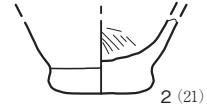
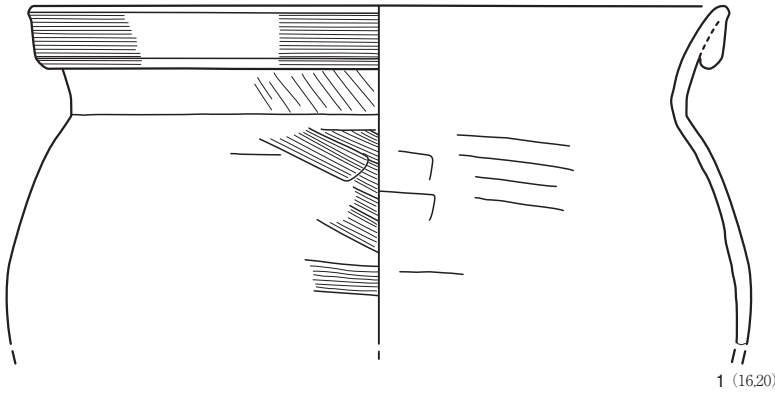


ST192

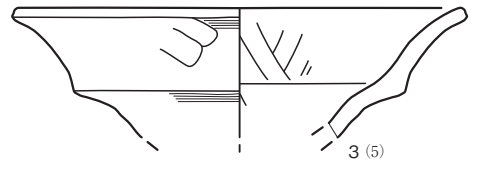


第129図 第4次遺構内出土土器実測図

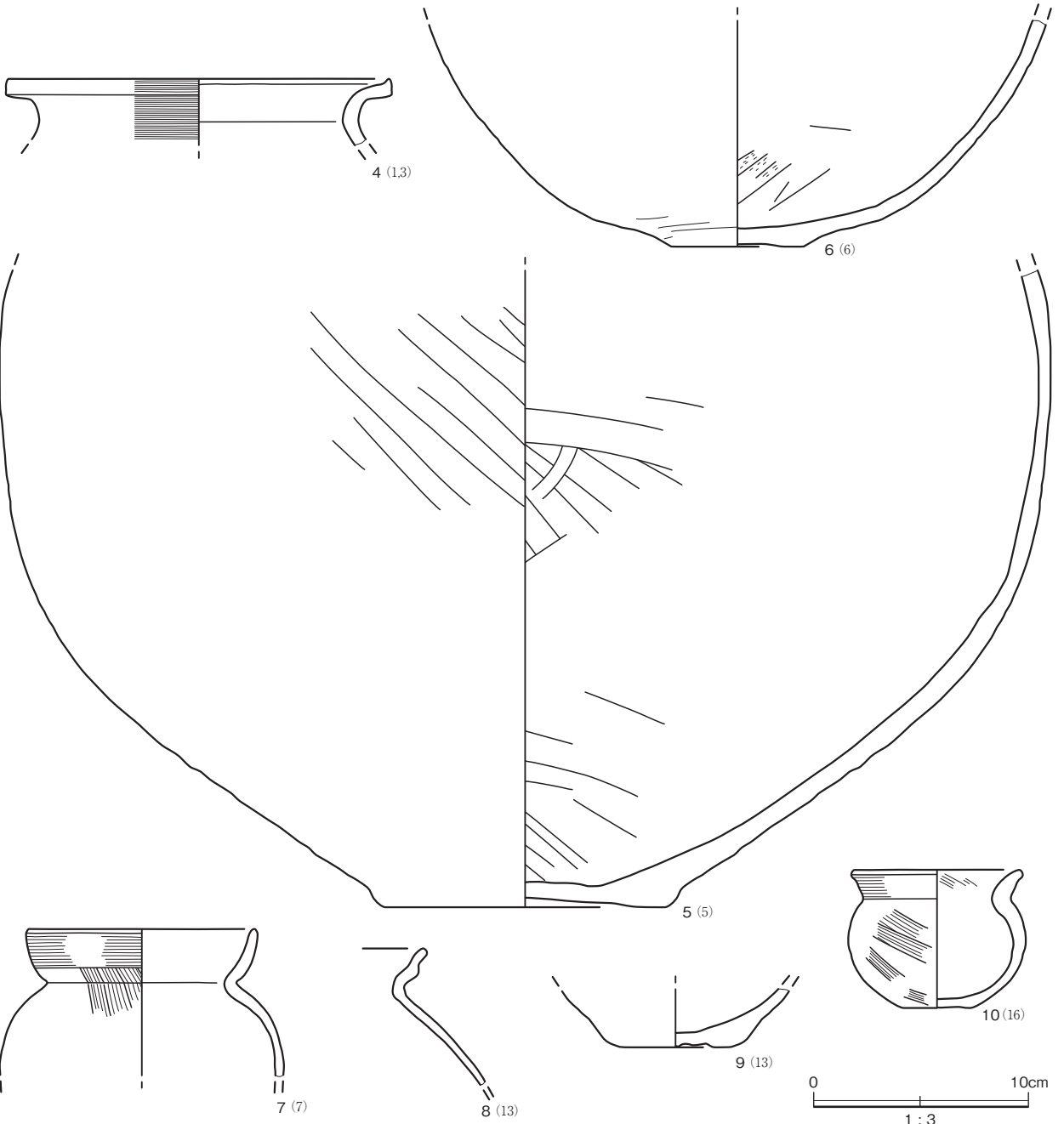
ST192



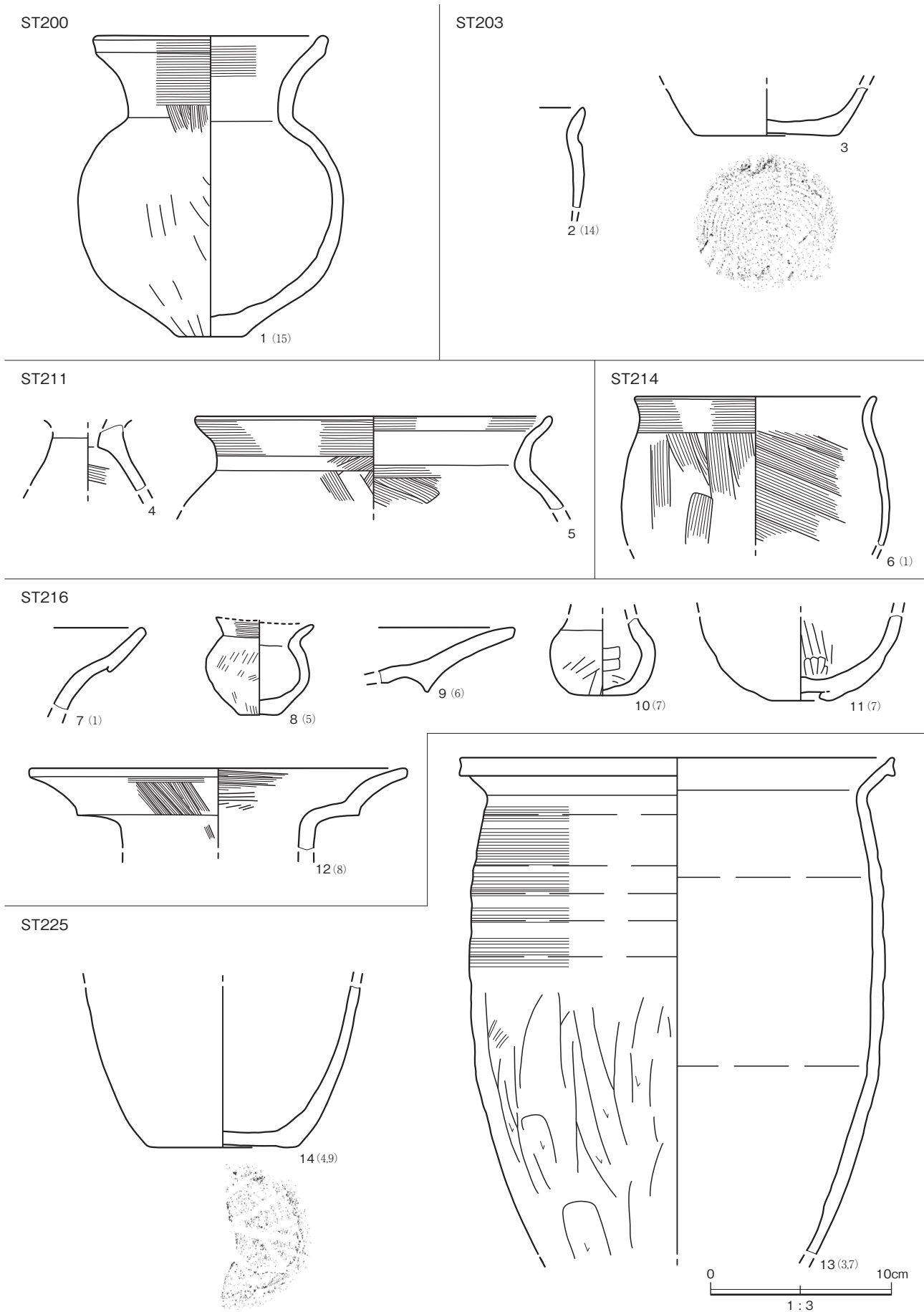
ST193



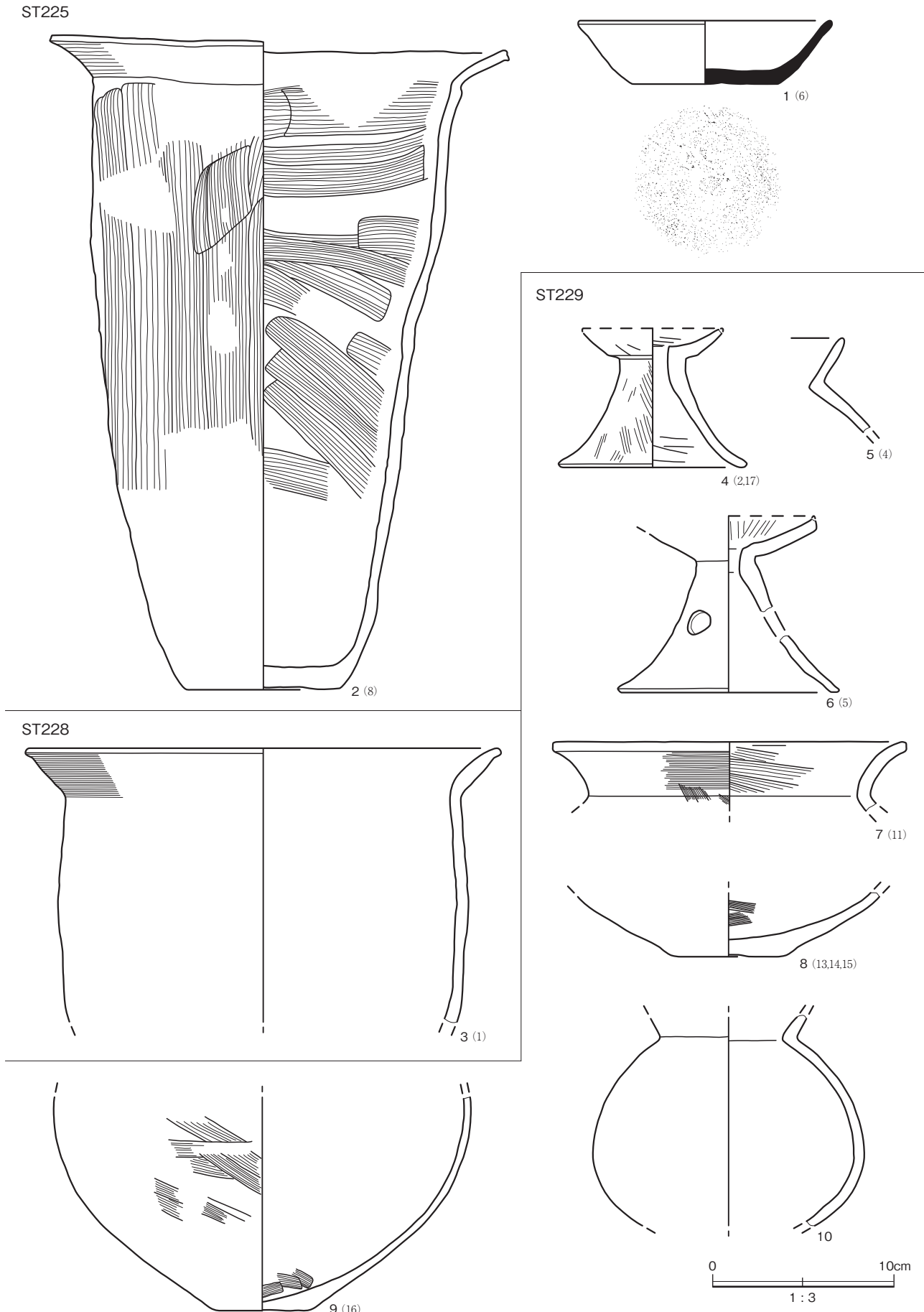
ST200



第130図 第4次遺構内出土土器実測図

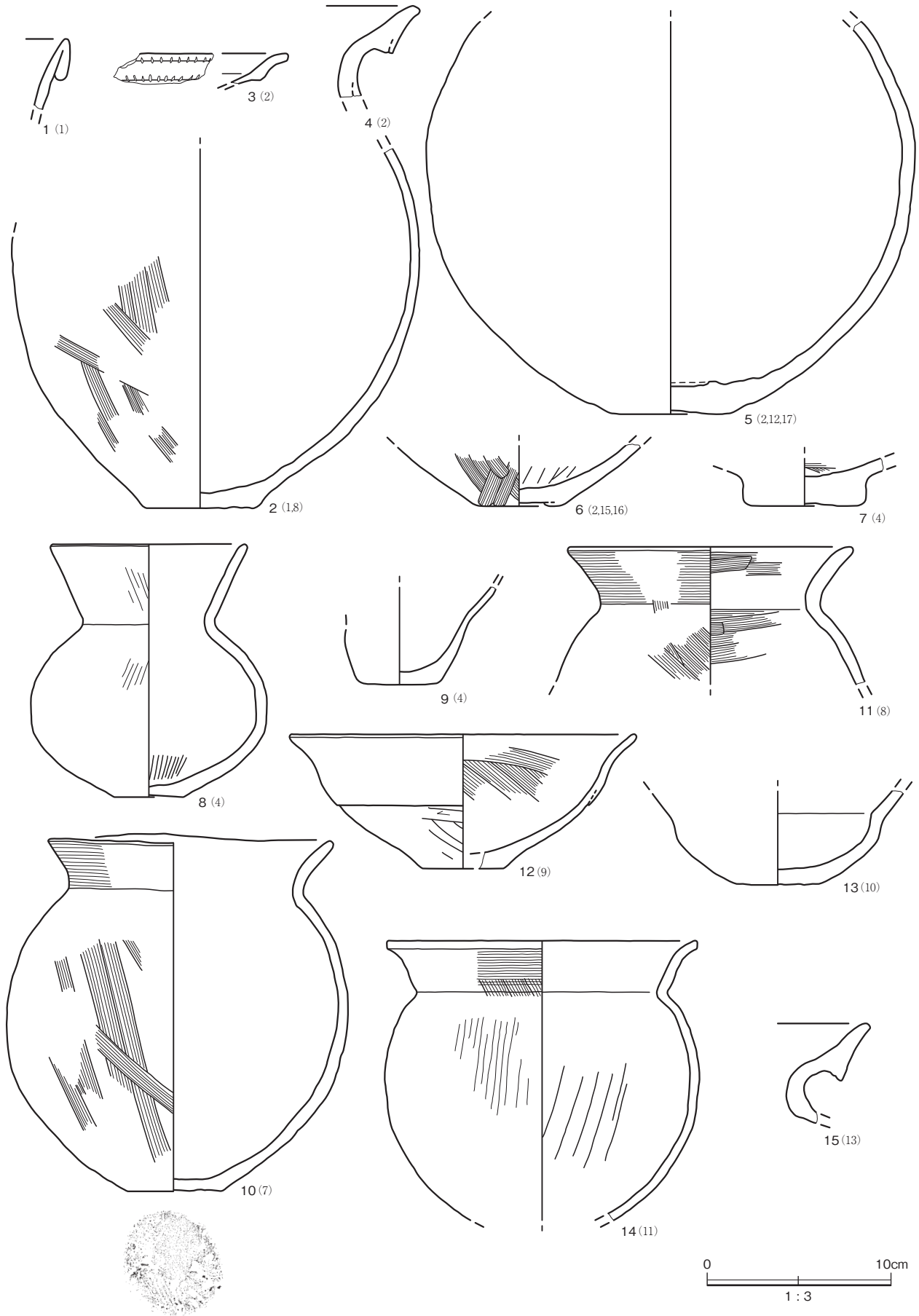


第131図 第4次遺構内出土土器実測図



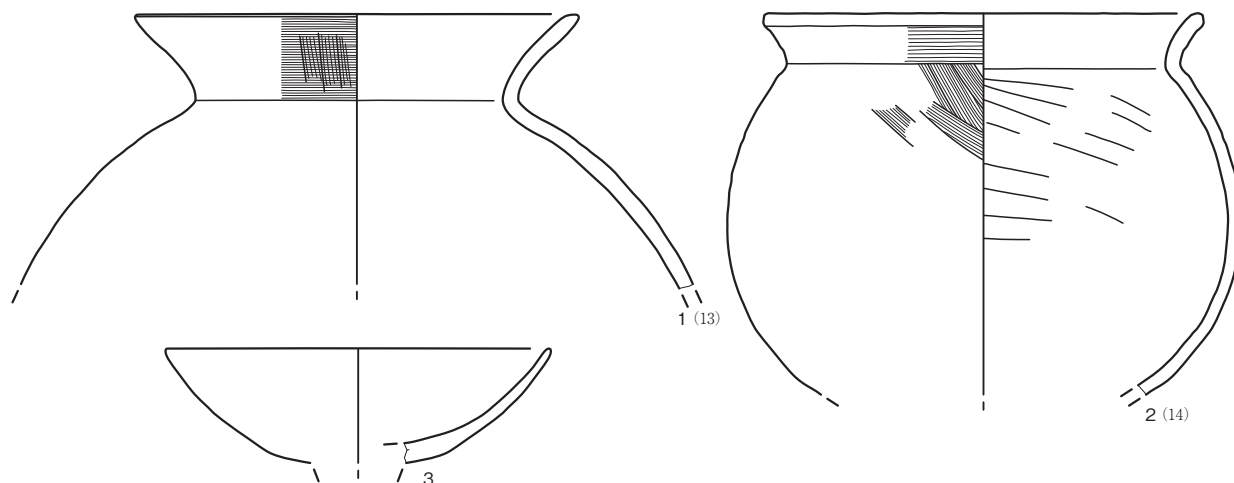
第 132 図 第 4 次遺構内出土土器実測図

ST230

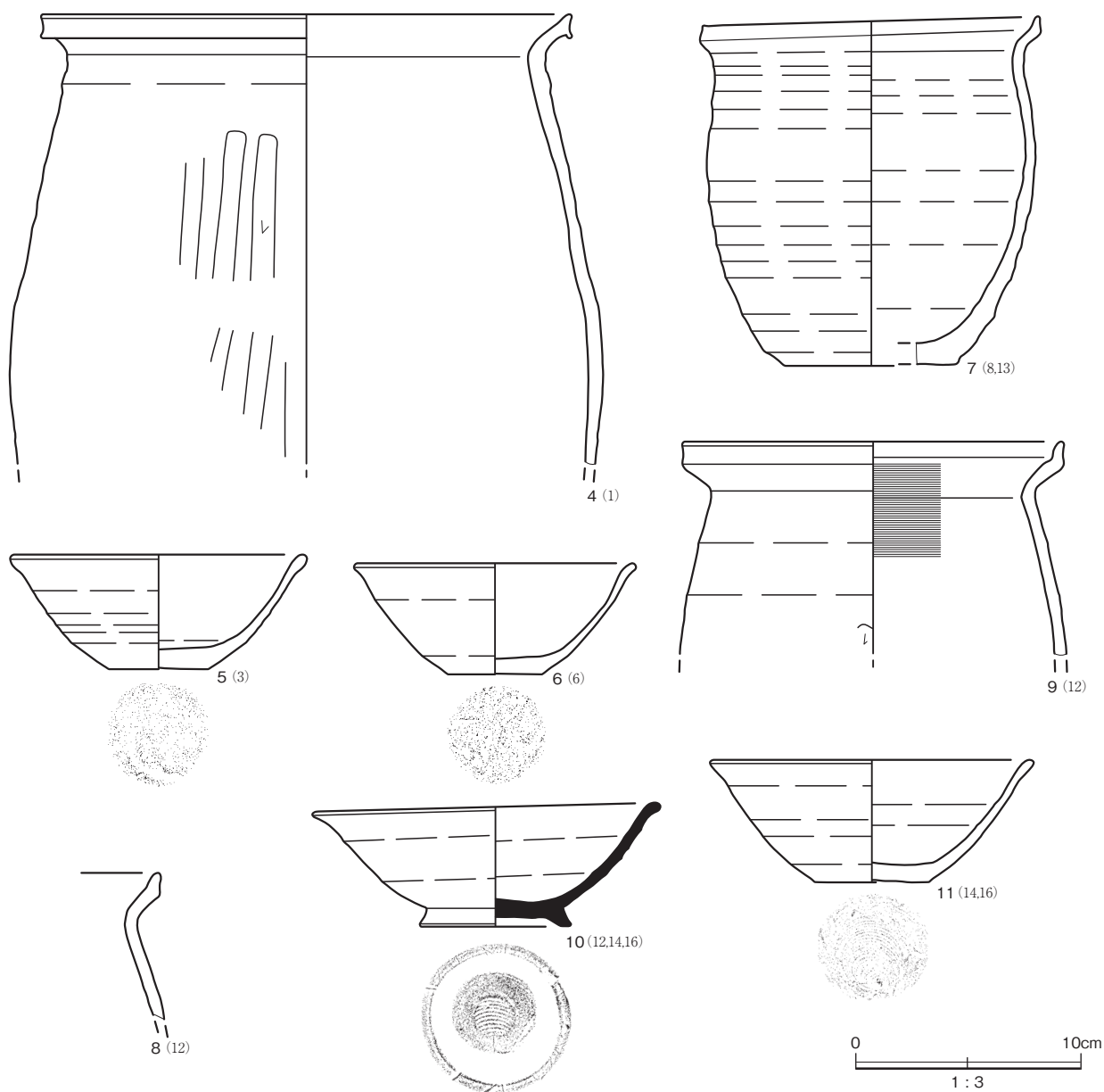


第133図 第4次遺構内出土土器実測

ST230

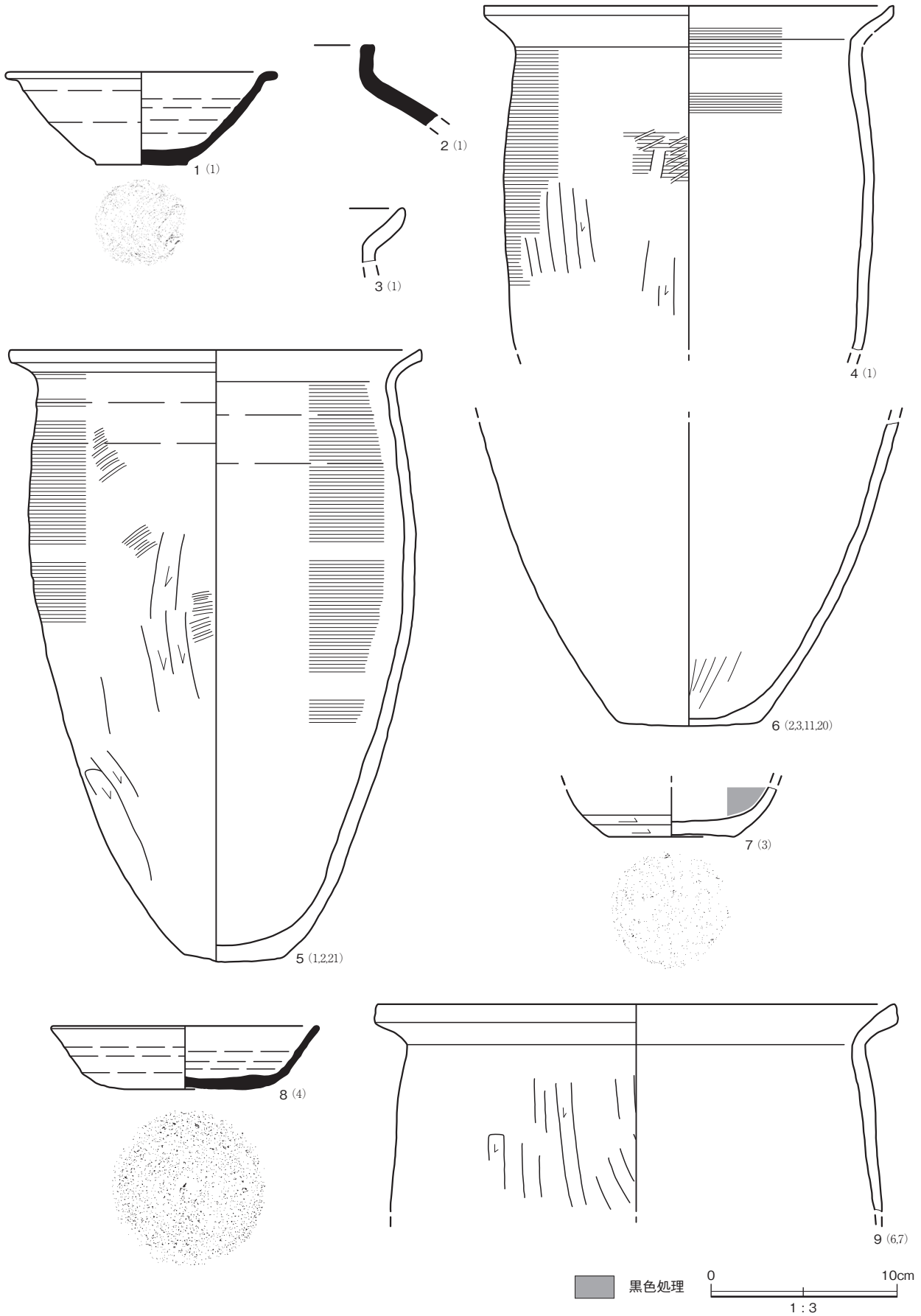


ST235



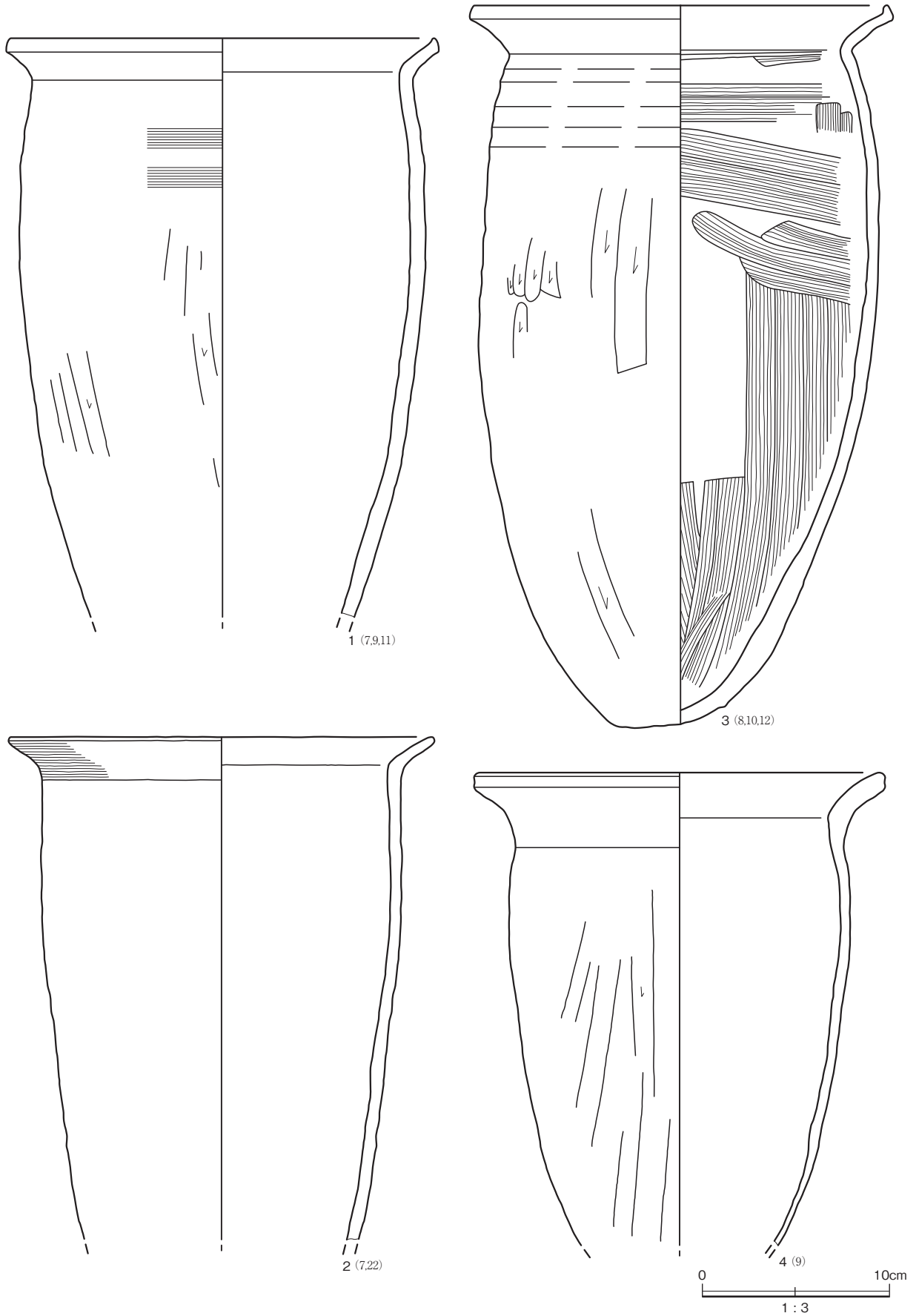
第134図 第4次遺構内出土土器実測図

ST236



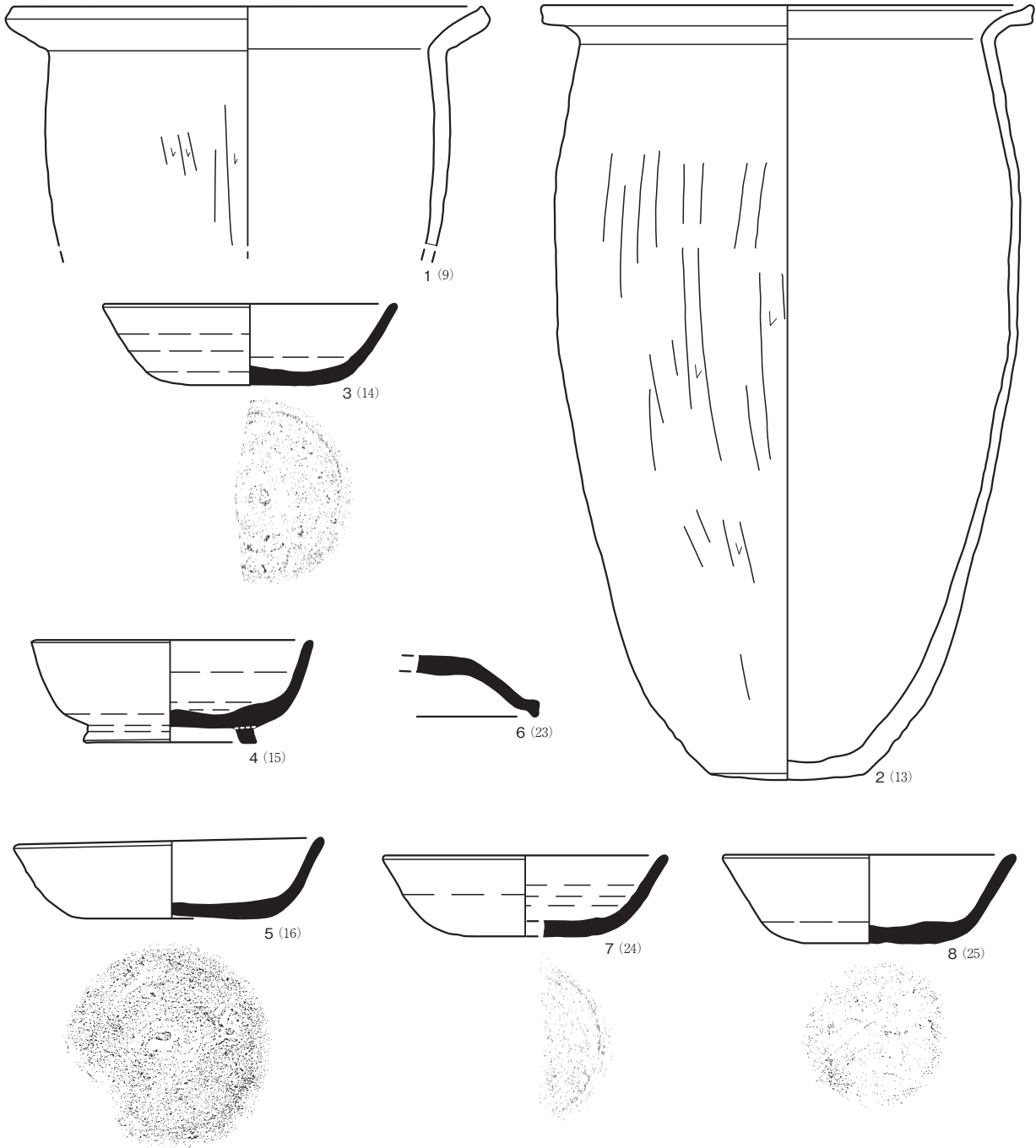
第135図 第4次遺構内出土土器実測図

ST236

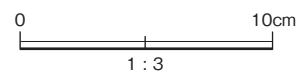
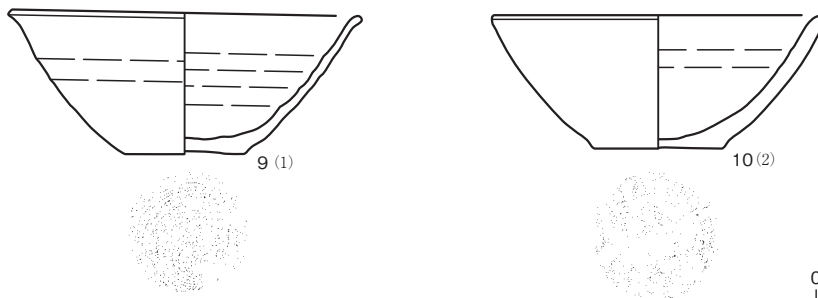


第136図 第4次遺構内出土土器実測図

ST236

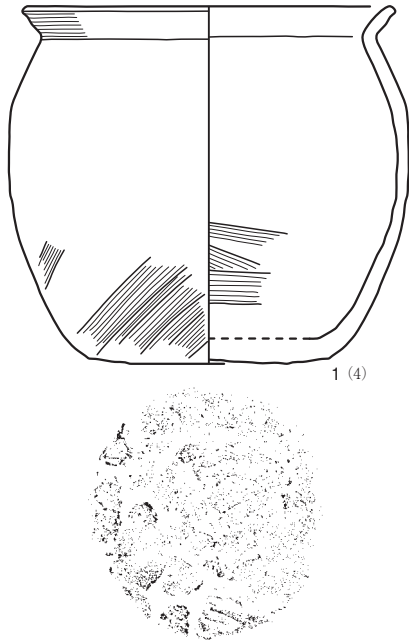


ST237

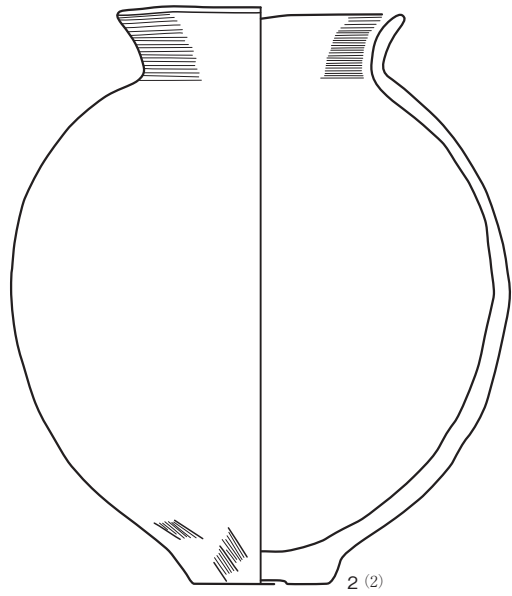


第137図 第4次遺構内出土土器実測図

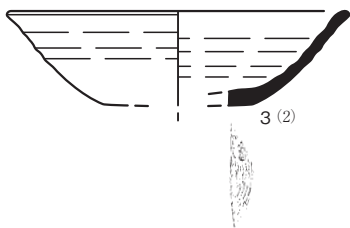
ST237



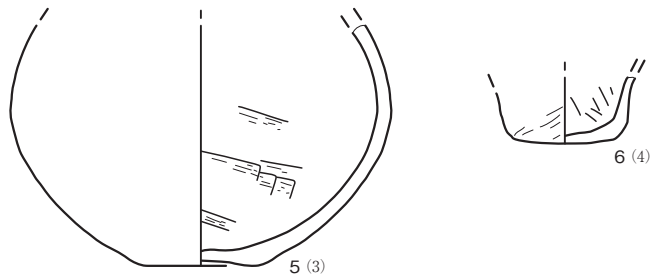
SG170



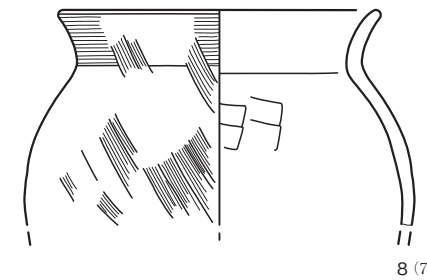
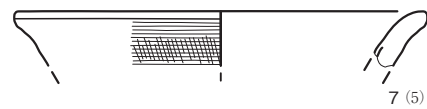
SK168



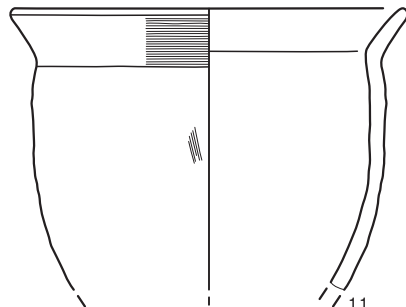
SK209



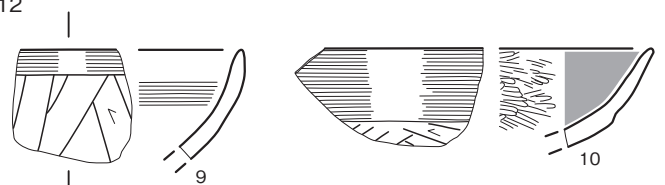
SK204



SP245

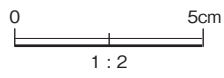
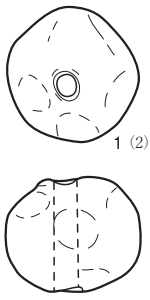


SK212

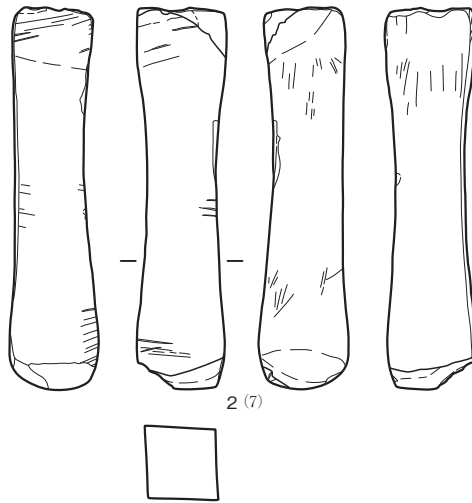


第 138 図 第 4 次遺構内出土土器実測図

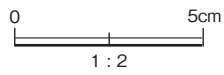
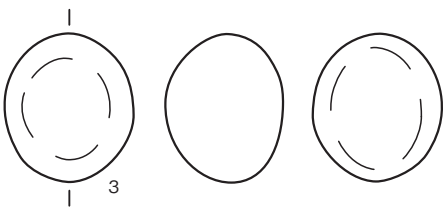
土製品
ST236



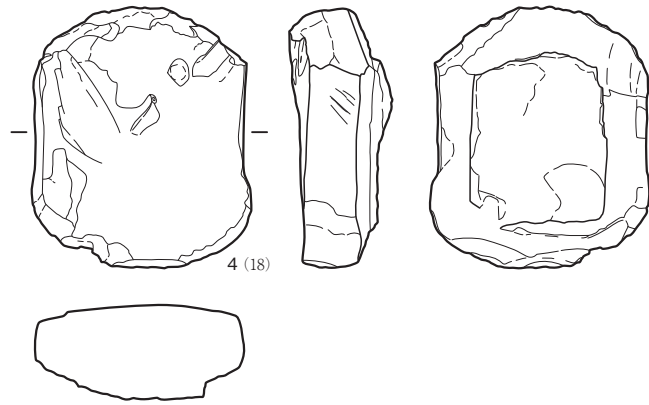
石製品
ST192



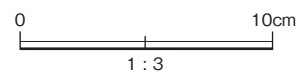
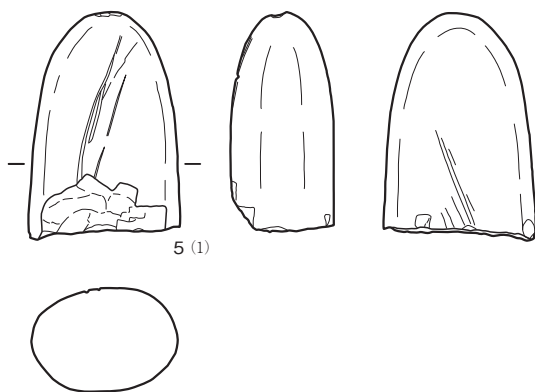
石製品
ST236



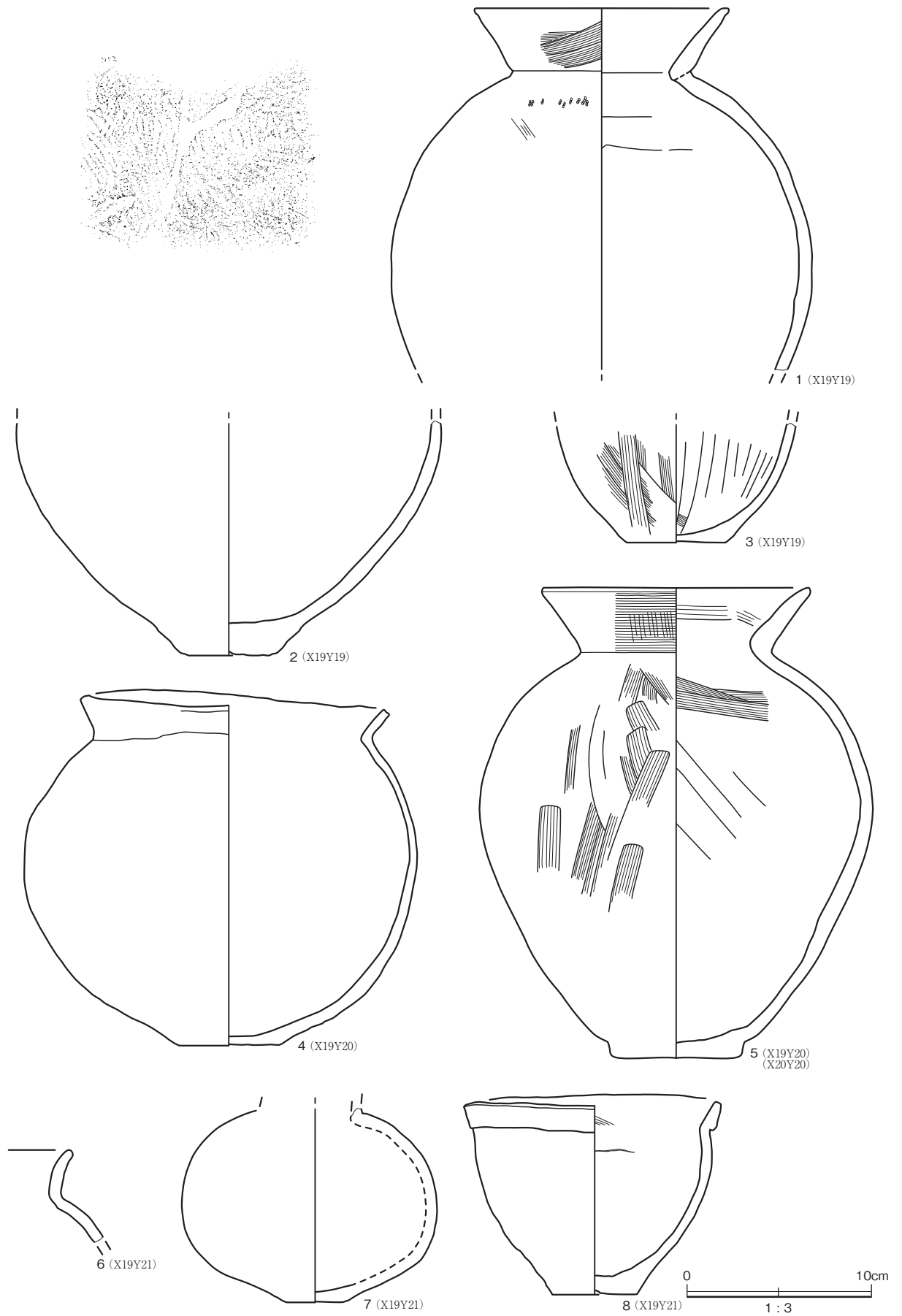
ST236



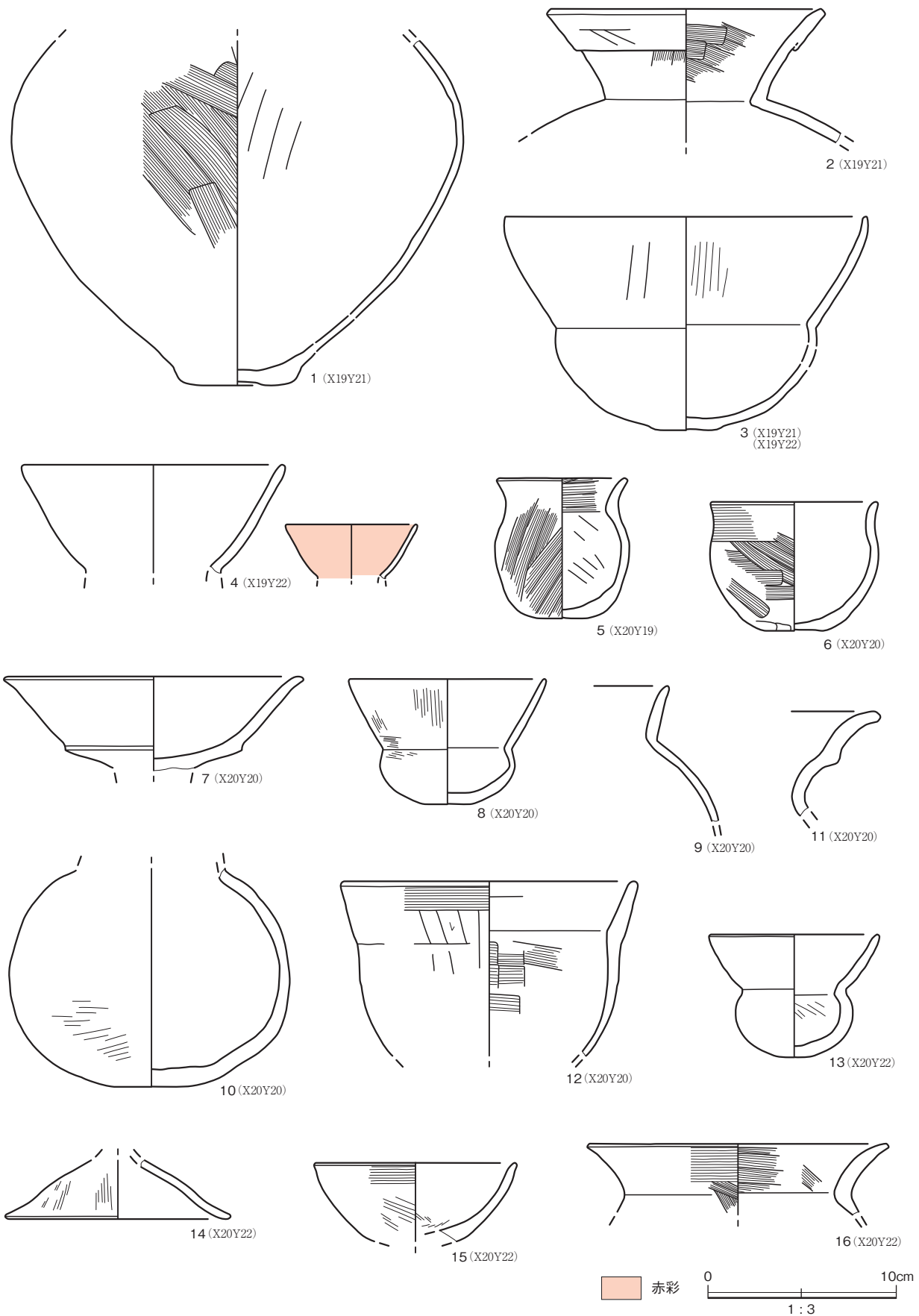
SK202



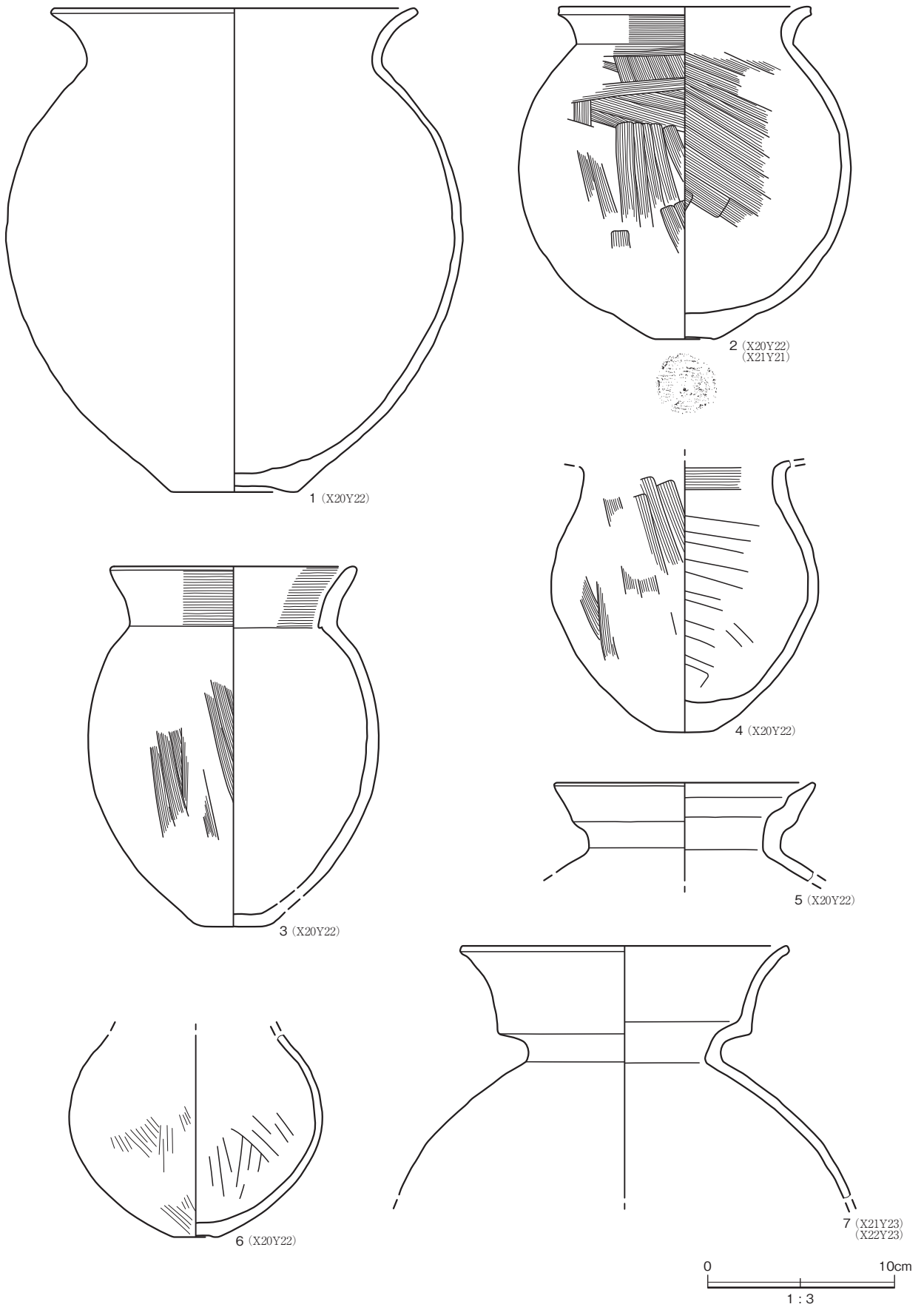
第139図 第4次遺構内出土土製品・石製品実測図



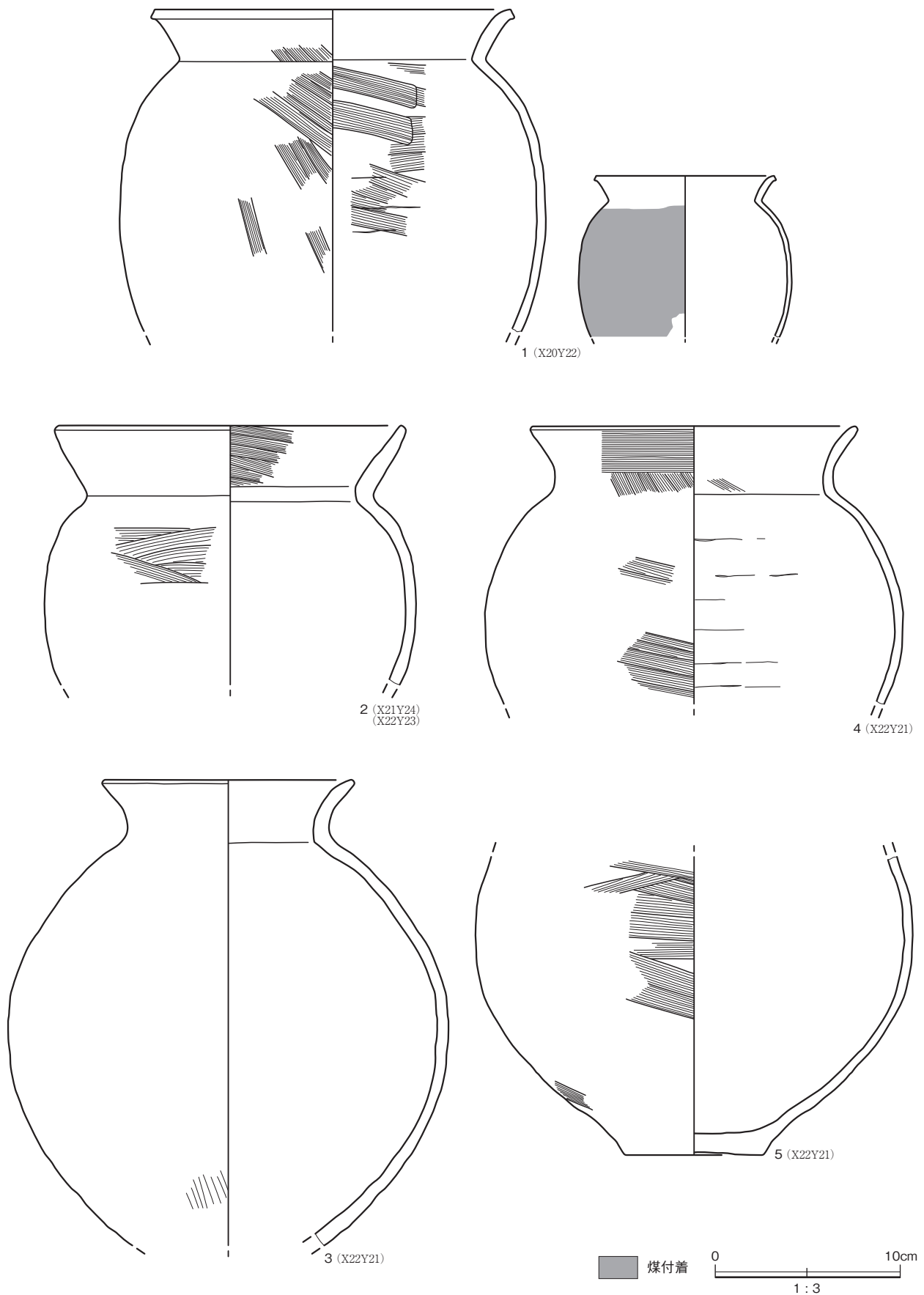
第140図 第4次遺構外出土土器実測図



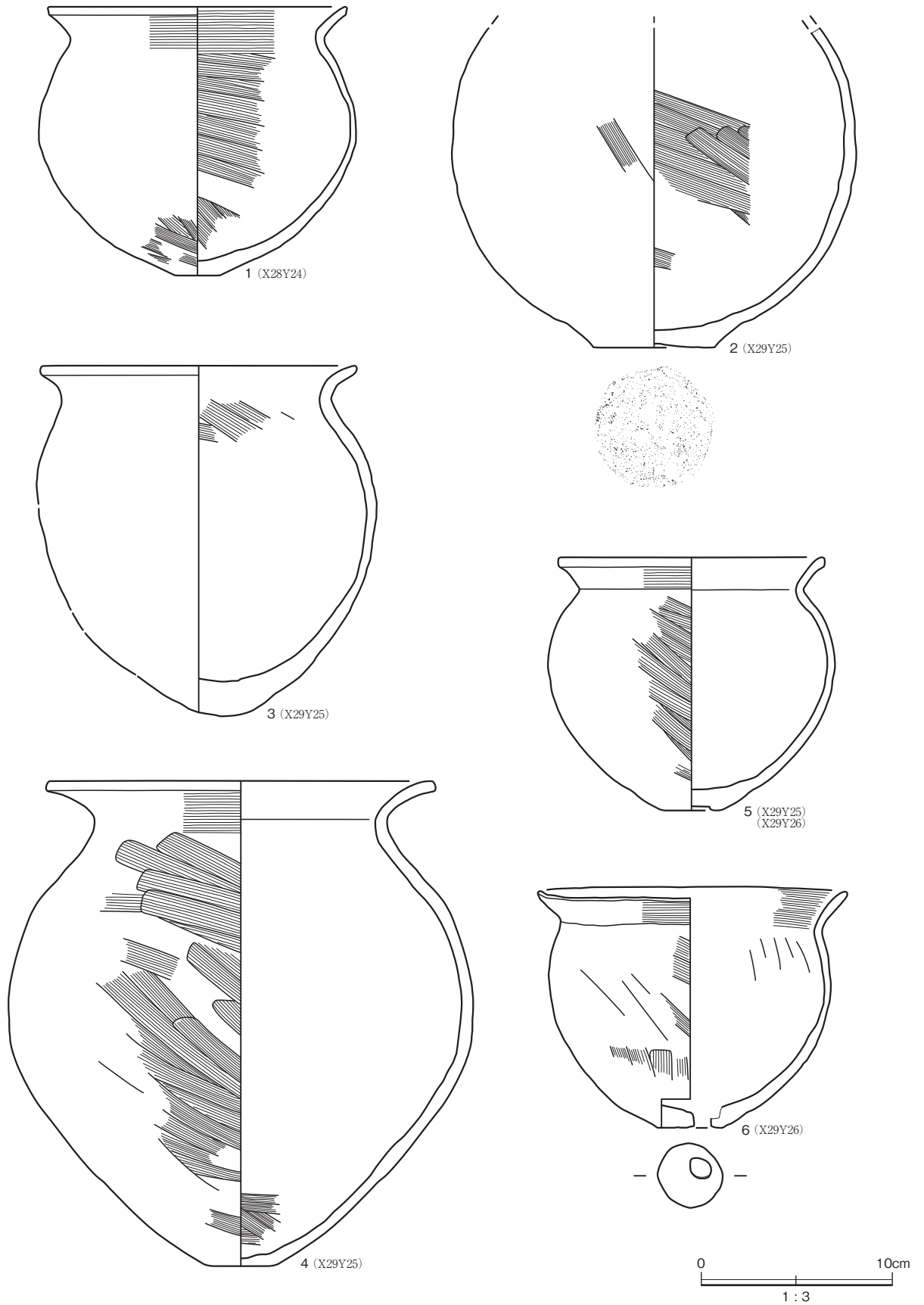
第141図 第4次遺構外出土土器実測図



第 142 図 第 4 次遺構外出土土器実測図



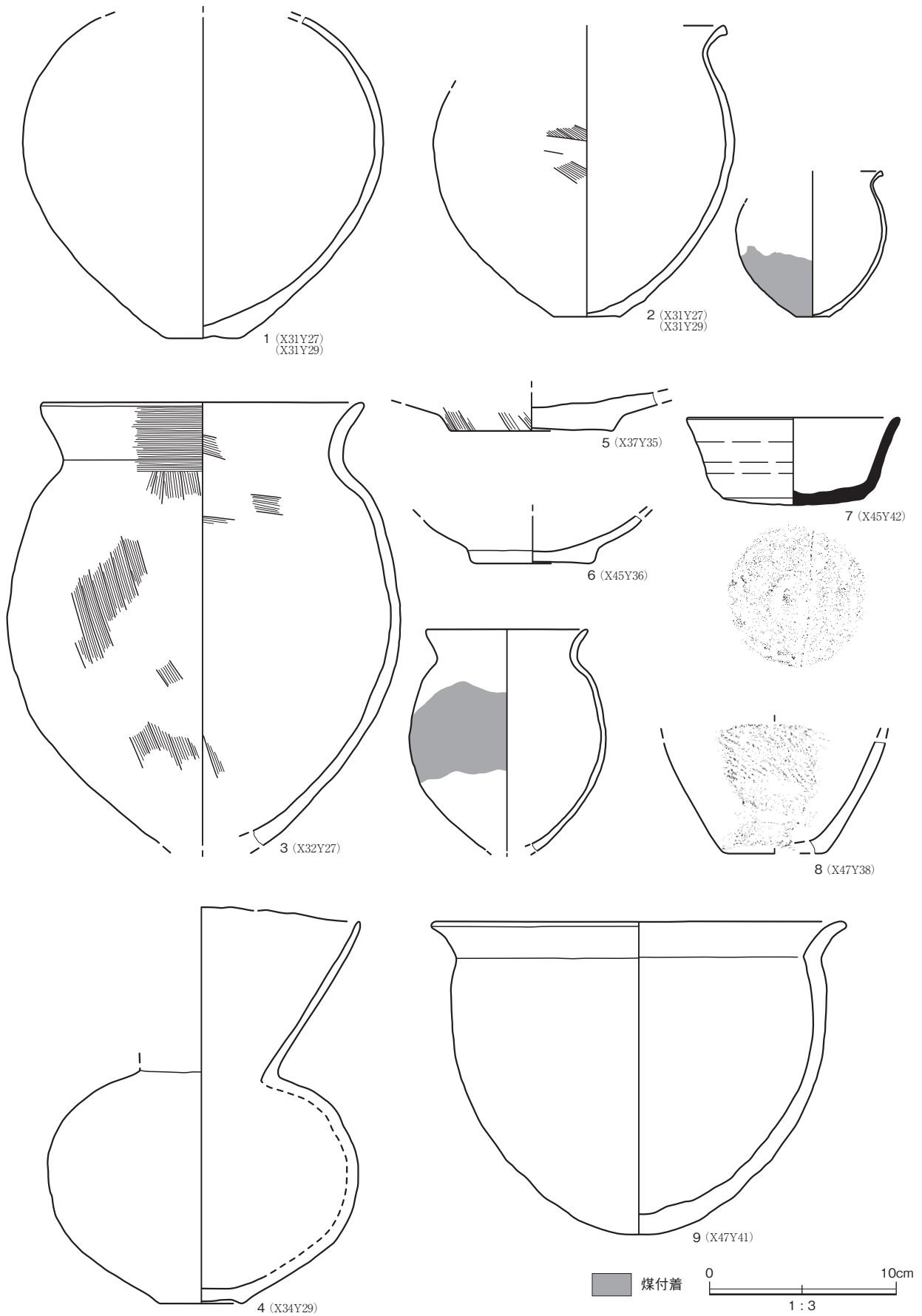
第143図 第4次遺構外出土土器実測図



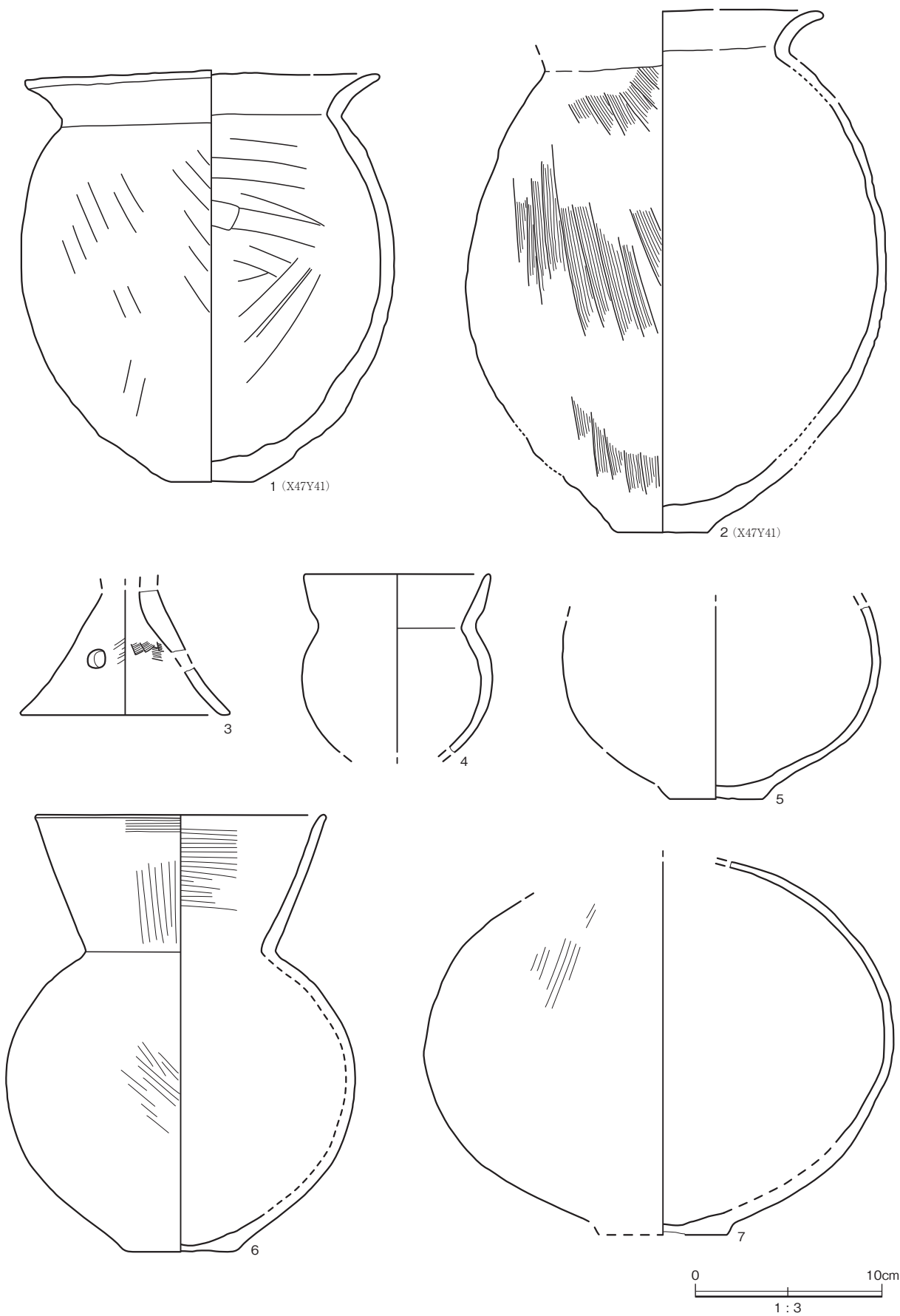
第 144 図 第 4 次遺構外出土土器実測図



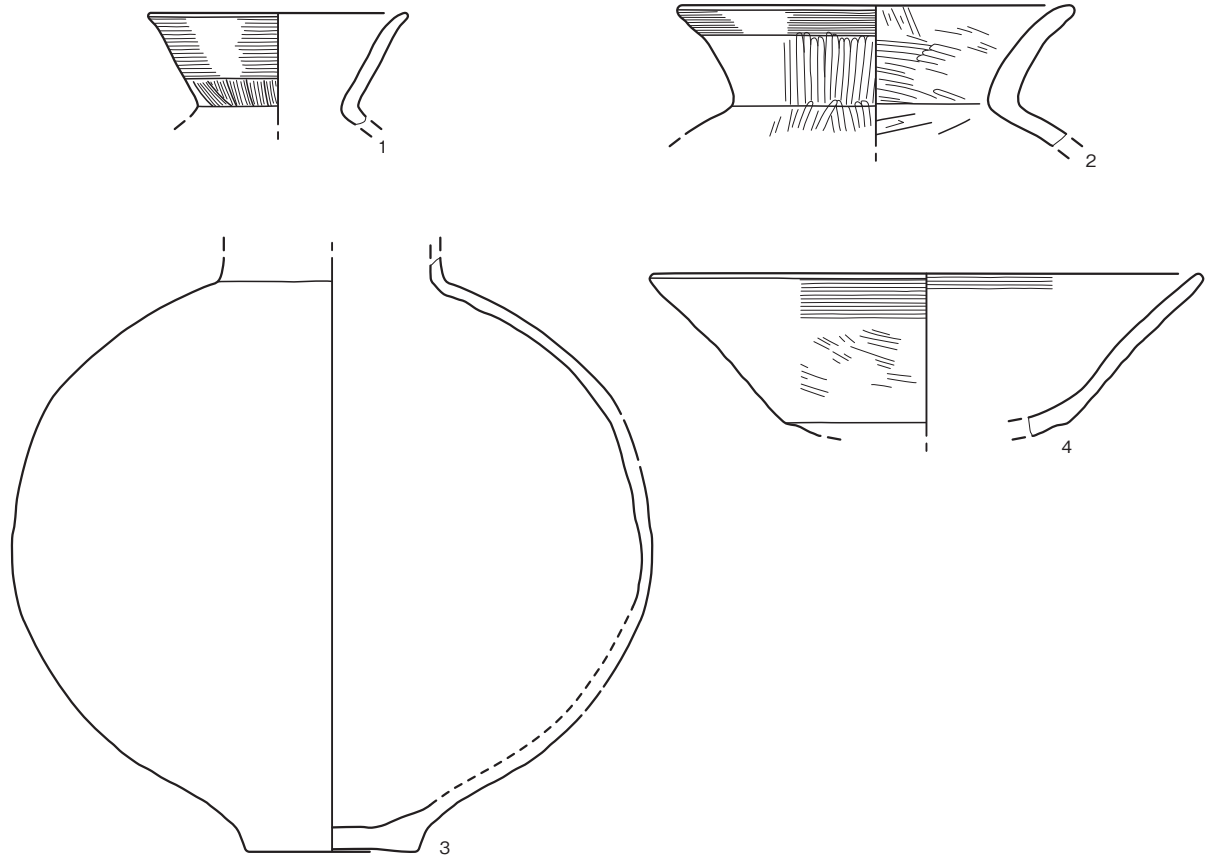
第145図 第4次遺構外出土土器実測図



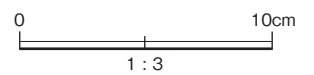
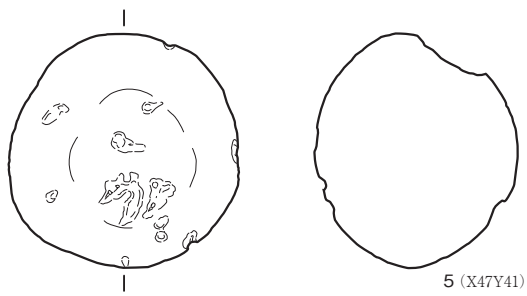
第 146 図 第 4 次遺構外出土土器実測図



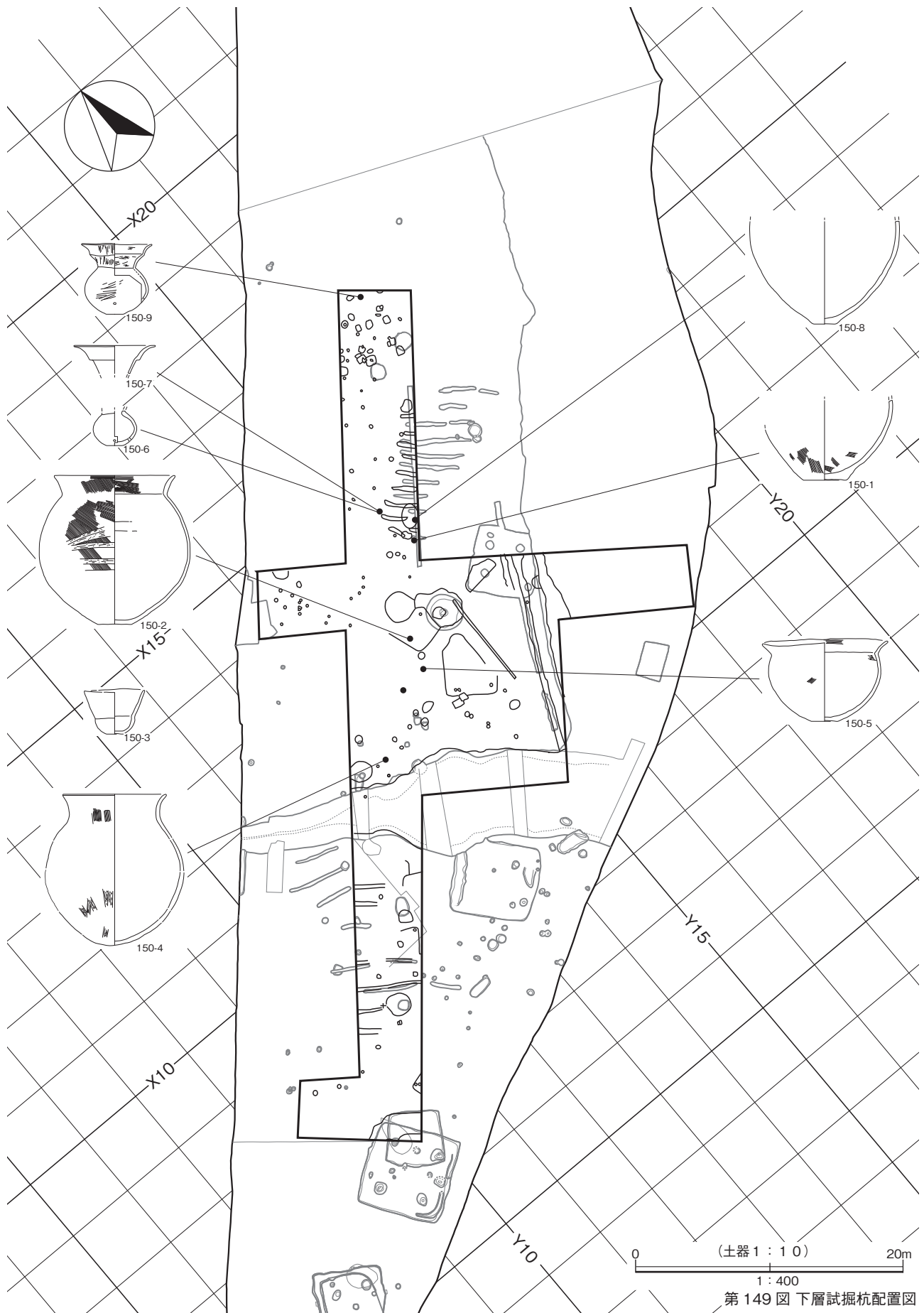
第147図 第4次遺構外出土土器実測図



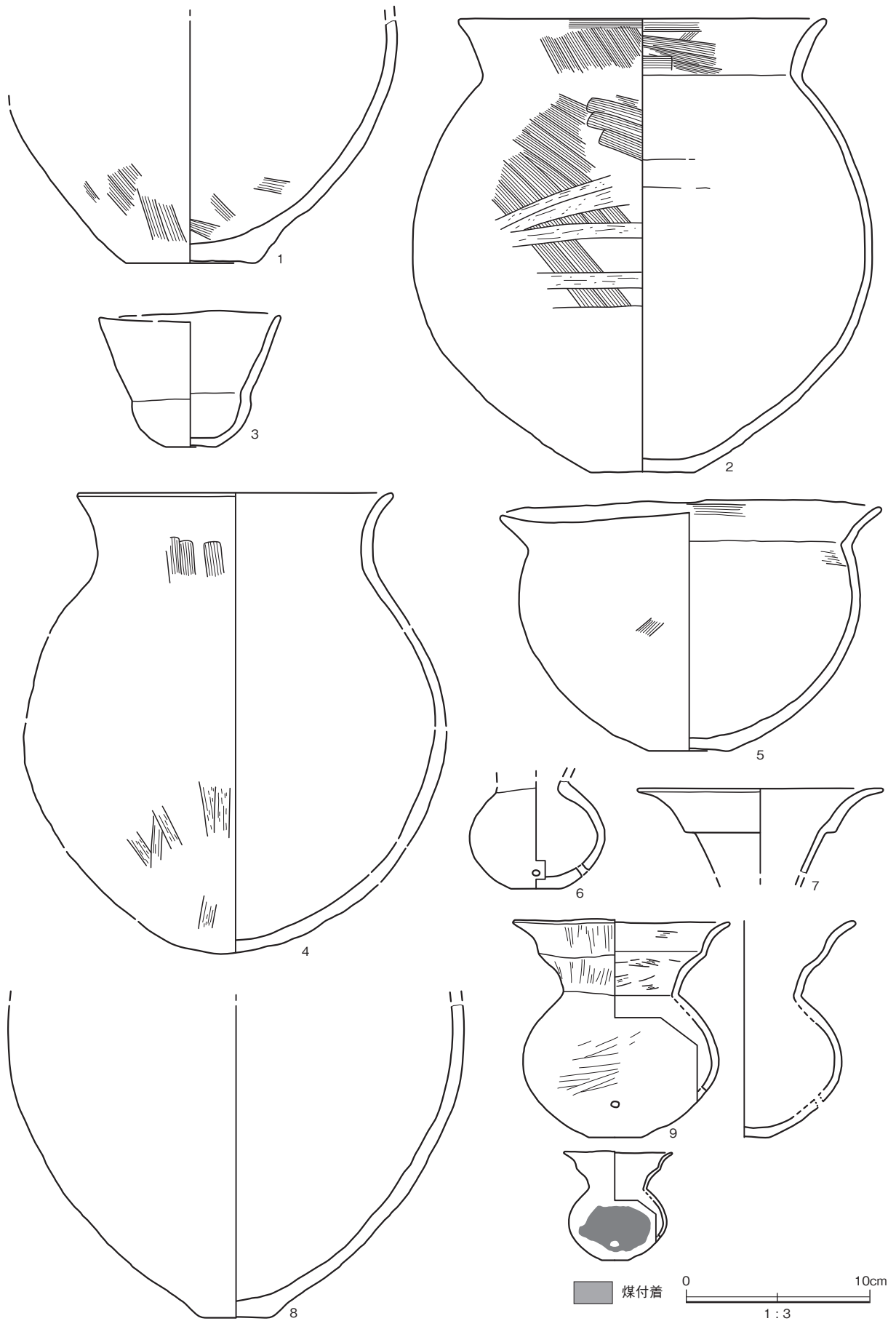
石製品



第148図 第4次遺構外出土土器・石製品実測図



第149図 下層試掘杭配置図



第150図 試掘出土土器実測図

V 理化学分析

1 放射性炭素年代 (AMS 測定)

株式会社 加速器分析研究所

A 測定対象試料

川前2遺跡は、山形県山形市大字中野目字赤坂ほか(北緯 38° 19' 38"、東経 140° 18' 20") に所在する。測定対象試料は、SK163 から出土した炭化物 2 点 (1: IAAA-82005、2: IAAA-82006)、SK162 から出土した炭化物 2 点 (3: IAAA-82007、4: IAAA-82008)、SK116 から出土した炭化物 1 点 (5: IAAA-82586)、合計 5 点である。

B 測定の意義

土坑から年代を示す遺物が出土しなかったため、遺構の年代を特定したい。古墳時代の祭祀跡に近接するため、古墳時代の遺構と推定されている。

C 化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

(2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA: Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃ で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

(3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃ で 30 分、850℃ で 2 時間加熱する。

(4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO²) を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。

(6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

D 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

E 算出方法

(1) 年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polash 1977)。

(2) ¹⁴C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 δ ¹³C によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

(3) δ ¹³C は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いづれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ¹³C/¹²C を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。

(4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ¹⁴C 濃度の割合である。

(5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ¹⁴C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラ

ムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv4.0 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

F 測定結果

¹⁴C年代は、SK163 から出土した炭化物2点が1870 ± 30yrBP と1870 ± 30yrBP、SK162 から出土した炭化物2点が1740 ± 30yrBP と1790 ± 30yrBP、SK116 から出土した炭化物が1830 ± 30yrBPである。

試料形態は、樹皮を残さないものの、1～3が辺材であり、樹木の伐採（枯死）年代に近い値と予想される。4は心材から辺材にかけての部位であり、その中で最外年輪から採取された。したがって、4に関しては、他に比べて伐採（枯死）年代を大きく遡る可能性がある。5は1×1cm程の炭化物の小片であり、木材の部位を特定することはできない。土坑は古墳時代の祭祀跡に近接し、当該期の遺構と推定されていた。測定結果は、調査所見に整合的である。試料の炭素含有率はすべて60%以上であり、十分な値であった。化学処理および測定内容にも問題が無く、妥当な年代と判断される。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

表2 放射性炭素年代測定結果

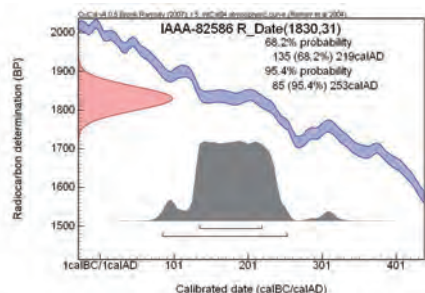
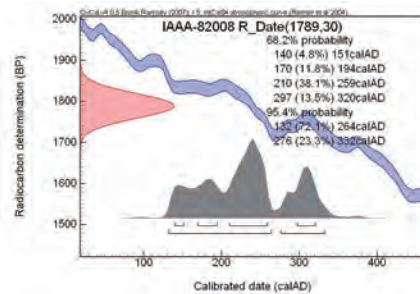
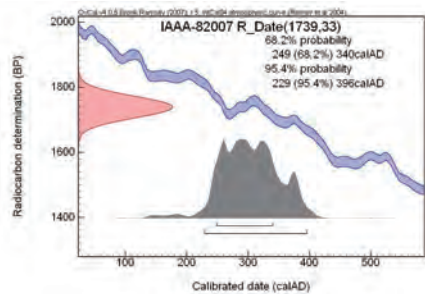
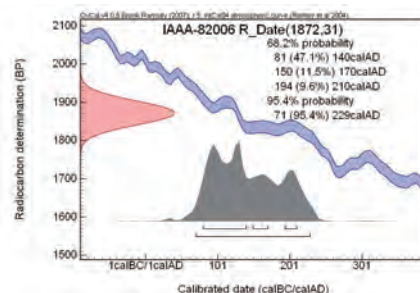
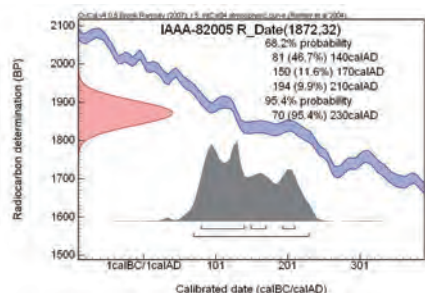
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82005	1	遺構：SK163	炭化物	AAA	-28.84 ± 0.64	1,870 ± 30	79.21 ± 0.32
IAAA-82006	2	遺構：SK163	炭化物	AaA	-26.8 ± 0.85	1,870 ± 30	79.2 ± 0.31
IAAA-82007	3	遺構：SK162	炭化物	AAA	-25.16 ± 0.7	1,740 ± 30	80.53 ± 0.34
IAAA-82008	4	遺構：SK162	炭化物	AAA	-25.02 ± 0.84	1,790 ± 30	80.03 ± 0.3
IAAA-82586	5	遺構：SK116	炭化物	AaA	-23.96 ± 0.73	1,830 ± 30	79.62 ± 0.31

[#2580]

表3 暦年較正結果

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82005	1,940 ± 30	78.58 ± 0.3	1,872 ± 32	81AD - 140AD (46.7%)	70AD - 230AD (95.4%)
				150AD - 170AD (11.6%)	
				194AD - 210AD (9.9%)	
IAAA-82006	1,900 ± 30	78.91 ± 0.28	1,872 ± 31	150AD - 170AD (11.5%)	71AD - 229AD (95.4%)
				194AD - 210AD (9.6%)	
IAAA-82007	1,740 ± 30	80.5 ± 0.32	1,739 ± 33	249AD - 340AD (68.2%)	229AD - 396AD (95.4%)
IAAA-82008	1,790 ± 30	80.03 ± 0.27	1,789 ± 30	140AD - 151AD (4.8%)	132AD - 264AD (72.1%)
				170AD - 194AD (11.8%)	
				210AD - 259AD (38.1%)	276AD - 332AD (23.3%)
				297AD - 320AD (13.5%)	
IAAA-82586	1,810 ± 30	79.79 ± 0.29	1,830 ± 31	135AD - 219AD (68.2%)	85AD - 253AD (95.4%)

[参考値]



[参考 暦年較正年代グラフ]

2 炭化材の樹種同定

株式会社 加速器分析研究所

はじめに

川前2遺跡は、山形盆地西部を北流する須川左岸の自然堤防上に立地する。今回の発掘調査により、古墳時代の祭祀跡に近接して、古墳時代と考えられる土坑が検出されており、内部からは炭化材が出土している。本報告では、各土坑から出土した炭化材の樹種を明らかにするため、樹種同定を実施する。

A 試料

試料は、古墳時代と考えられる土坑から出土した炭化材5点（試料番号1～5）であり、いずれも年代測定を実施した炭化材から分割したものである。

B 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

C 結果

樹種同定結果を表4に示す。炭化材は、いずれも落葉広葉樹で4分類群（オニグルミ・キハダ・トネリコ属・エノキ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

表4 樹種同定結果

番号	遺構	樹種
1	SK163	オニグルミ
2	SK163	トネリコ属
3	SK162	キハダ
4	SK162	オニグルミ
5	SK116	エノキ属

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2～3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1～3細胞幅、1～40細胞高。

・キハダ (*Phellodendron amurense* Ruprecht) ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圈部は3～5列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圈部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圈部は1～3列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、塊状に複合し接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高で鞘細胞が認められる。

D 考察

古墳時代と考えられる土坑から出土した炭化材、SK163がオニグルミとトネリコ属、SK162がオニグルミとキハダ、SK116がエノキ属であった。SK163とSK162は、いずれも複数の樹種で構成され、オニグルミを伴う。オニグルミは河畔の水分の多い土地を好み、木材は重硬で強度が高い。トネリコ属は、湿地に生育する種類を含み、木材は重硬で強度が高い。一方、キハダは、河畔などに生育し、木材の強度はやや低いが、耐水性が高いとされる。SK116のエノキ属も含めて、いずれも湖畔に生息する種類であることから、遺跡周辺の河畔林等から木材を得て利用していたことが推定される。

引用文献

林昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

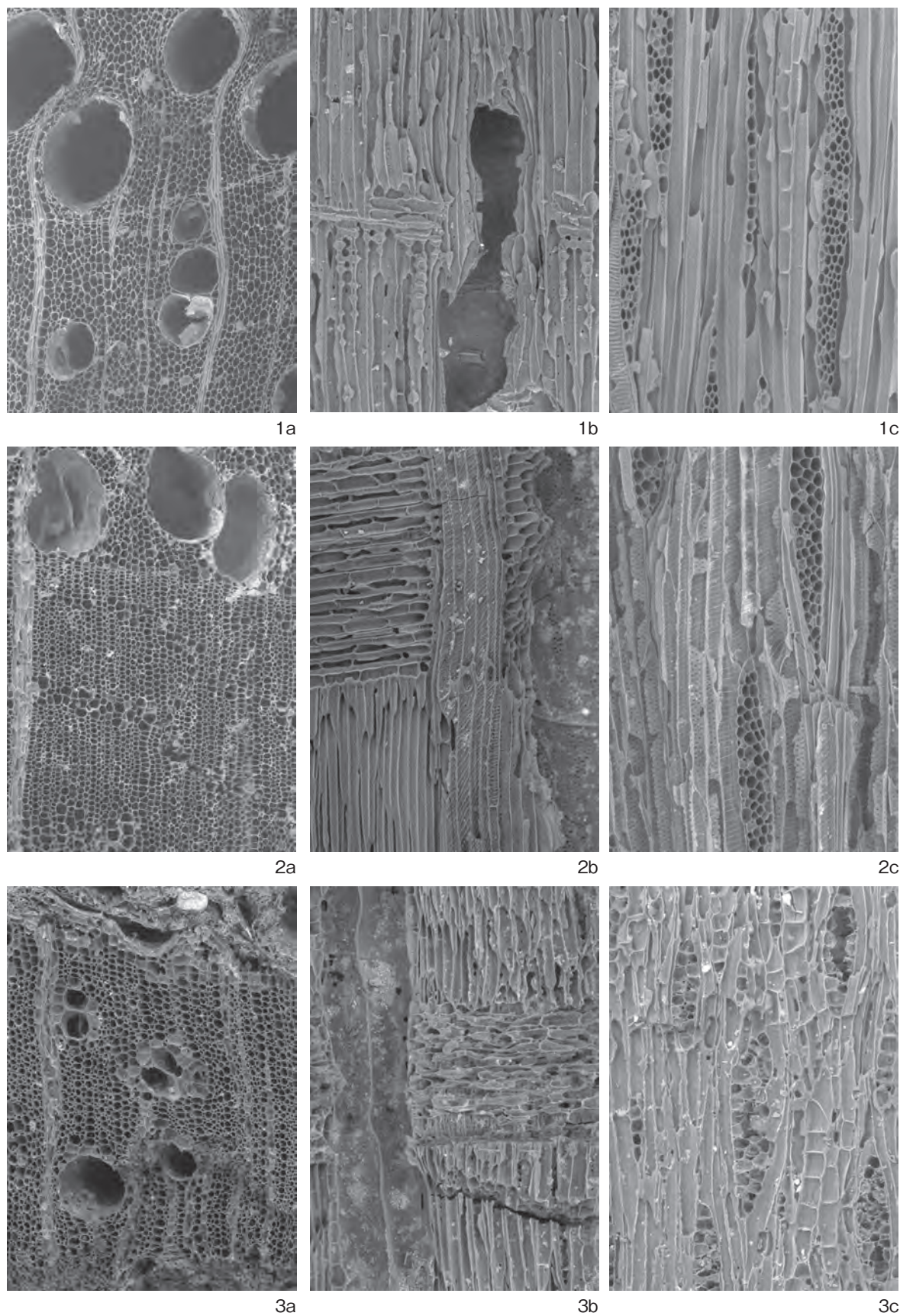
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

島地謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 I IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

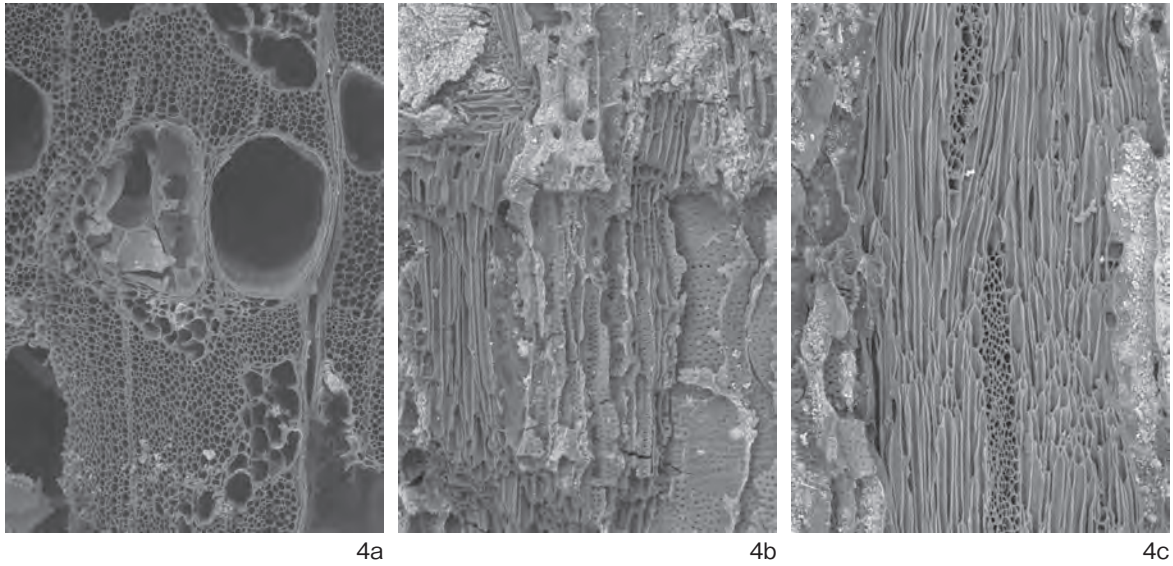
※)本分析は、当社協力会社・パリノ・サーヴェイ(株)にて実施した。



1, オニグルミ (試料番号 4)
 2, キハダ (試料番号 3)
 3, トネリコ属 (試料番号 2)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

200 μ m: a
 200 μ m: b, c

第 151 図 炭化材・種実遺体



4, エノキ属 (試料番号 5)
a: 木口、b: 柾目、c: 板目

200 μ m: a
200 μ m: b, c

第 152 図 炭化材・種実遺体

VI 総括

1 遺跡の総括

川前2遺跡第3・4次調査では、平成19(2007)年と20(2008)年の2ヵ年にわたって8,500㎡の面積を発掘調査した。その結果、古墳時代を主体に弥生時代～奈良・平安時代にかけての遺構と遺物が検出され、断続的ではあるが長期にわたって集落が営まれた様相が明らかになっている。調査された遺構は堅穴住居跡40棟、掘立柱建物跡1棟、土坑32基等で、その内古墳時代前期の堅穴住居跡は13棟、奈良・平安時代の堅穴住居跡は22棟が調査された。なお他の住居跡については明確な時期は特定出来なかった。

住居跡が検出された地点は、眼鏡状を呈した調査区域の右眼レンズと左眼レンズの部分に相当し、微高地となっており、後者の方でより多くの住居跡が検出された。その中間のブリッジ部分はやや低くなっており、古墳時代においては畑跡と思われる並行した浅い溝跡が検出され、また遺構を伴わない古墳時代土師器の集中的な出土状況が確認された。

川前2遺跡は須川左岸の自然堤防上に位置しているが、この地域は最上川の合流点に近く、白川や立谷川も合流しており、増水時には冠水の影響を受けやすい場所となっている。発掘調査でも土層の堆積状況から、度重なる洪水に見舞われた様相が明らかになったが、それにもかかわらず同じ土地に居住されていたことになる。この地域は河川の合流が集中することから、水運の利便性が想定される。水害の危惧はあるものの水運の利があり、長期にわたって居住が繰り返されてきたのであろう。

古墳時代の住居跡は、いずれも古墳時代前期に位置付けられ、当遺跡は4世紀代の約100年間にわたって営まれた集落と考えられる。低地部の遺構を伴わない土器集中地点の土師器も、ほぼ同時期に位置付けることができ、居住域の周縁で土師器を意図的に遺棄した儀礼等が執り行われていたと想定される。その周囲からは焼土や炭化物の集中が見られ、火を焚いた痕跡と考えられる。遺構を伴わない土器の遺棄と火を使用した行為がセットにな

っていた可能性が想定され、後述する宮城県・福島県・新潟県の事例から、洪水を回避するための祈願や儀礼が集落の中で執り行われていたのであろう。

小型の甕・鉢19点が意図的に配列されたX16-Y17グリッド集中地点の周囲からは、古墳時代の土坑が検出された。その覆土には焼土や炭化材が多く含まれており、炭化材について放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施した。その結果、SK163土坑では1,870±30yrBP、SK116土坑では1,830±30yrBP、SK162土坑では1,740±30yrBPと1,790±30yrBPの測定値が得られている。暦年較正の年代では3世紀代となることから、想定よりもやや古い年代値となっている。但し土器附着物の試料ではないので、土器型式との直接対比ができないのと、遺跡内からは弥生時代後期の土器も出土しており、土坑の年代についてはなお検討を要するであろう。

山形盆地南半の沖積低地には、古墳時代の遺跡が多数点在している。第153図には同盆地の古墳時代遺跡と古墳の94ヵ所をプロットしている。高桑弘美氏は同盆地の古墳時代の遺跡について、以下のように類別している(山形県埋蔵文化財センター2004a)。

- ① 倉津川・押切川流域にまとまる一群(板橋1・2遺跡等)。
- ② 立谷川北岸にまとまる一群(高搦南遺跡等)。
- ③ 馬見ヶ崎川と立谷川間にまとまる一群(渋江遺跡等)。
- ④ 馬見ヶ崎川と須川間にまとまる一群(今塚遺跡、服部・藤治屋敷遺跡等)。
- ⑤ 盆地南側須川西岸にまとまる一群(山形元屋敷遺跡等)。

古墳時代前期の代表的な遺跡も併記したが、各々の集落群は各河川と深く関わり成立・展開したと考えられている。川前2遺跡は須川左岸に位置しているが、立谷川と馬見ヶ崎川の合流点に位置しており、この内の③と④の遺跡群に関わる集落と言えるであろう。集落の多くは扇状地扇端やその前縁の自然堤防上に営まれている。馬

見ヶ崎川や立谷川の下流域の流路は不安定で、増水の度に流路を変更していたと想定される。しかし扇状地の扇端は湧水帯になっており豊富な水量が得られることから、水利環境には恵まれた地域であり、水田耕作に適した土地であったと考えられる。山形盆地南半の沖積低地に多数の古墳時代の集落が形成された背景には、上記した土地条件が大きく作用していたのであろう。一方古墳については、時期を問わず盆地底が見渡せる丘陵や段丘縁辺に構築される傾向が看取され、集落とは離れていたことが窺われる。

2 検出遺構について

川前2遺跡の第3・4次調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡が13棟検出された。南側微高地が6棟、北側微高地が7棟で、須川に沿って列状に配列され、住居同士重複は南側のS T 18・19竪穴住居跡に認められたのみである。

住居跡は一辺4～6mの隅丸方形を呈するが、一辺8m超の大型住居跡(S T 200・230竪穴住居跡)も認められた。遺構検出面からの掘り込みは浅く、床面近くで検出された例が大半を占めた。床面には硬化面が認められ、4基の柱穴から構成され、床面の中央には地床炉と思われる焼土や炭化物の集中が認められたが、殆どは掘り方が明確でなかった。

古墳時代の住居跡で注目されるのは、壁際に方形の掘り方を有する住居跡が4棟検出されたことである(第154図)。北側微高地の住居群に限られ、その内の2棟は一辺8m超の大型住居跡(S T 200・230竪穴住居跡)となっている。方形の掘り方の底面中央はピット状の落ち込みとなり、S T 186竪穴住居跡を除くと完形の土師器が出土している。

S T 186竪穴住居跡は南東壁際の中央に110～120cm四方の方形の掘り方を有しており、遺物は出土していない。S T 200竪穴住居跡は南東壁際のやや東コーナー寄りに155～175cm四方の方形の掘り方を有しており、掘り方の覆土から土師器甕・壺、掘り方上面の床面相当から壺が出土した。S T 229竪穴住居跡は南東壁際のやや東寄りに140×120cmの方形の掘り方を有しており、覆土から器台・甕・壺が出土した。S T 230竪穴住居跡は南壁の東寄りに2.3×1.4mの不整形の掘り方を有し

ており、覆土から甕・壺が出土した。これらの掘り方には、焼土ブロック(S T 229竪穴住居跡)や炭化物(S T 230竪穴住居跡)が含まれたり、器台等の特殊土器も出土しており(S T 200・229竪穴住居跡)、単なる貯蔵穴と見なすことはできないであろう。

周辺の遺跡では、川前2遺跡の東方2.5kmに位置する天童市高嶺南遺跡^{たかのみなみ}で、同様の掘り方を持つ住居跡が1棟検出されている(山形県埋蔵文化財センター2004d)。同遺跡のS T 211竪穴住居跡は、南北軸5.5m、東西軸5.35mの南辺がやや開く台形の住居跡で、南東隅に1.3m×1.1mの方形の掘り方を有し、貯蔵穴と想定されている(第154図)。同遺跡では上層に蓋と思われる炭化した板材が検出されており、底面には炭を多く含むオーリーブ黒粘質シルトが堆積していた。遺物は掘り方の周囲から多く出土しており、直上からは僅かに出土したに過ぎず、掘り方内部の状況は判然としない。出土土器から古墳時代前期の4世紀代後半に位置付けることができ、川前2遺跡とも関連を有していた可能性が想定される。山形盆地中央の沖積低地帯の地域的特徴であったと考えられるが、今後の類例の蓄積を待ちたい。

奈良・平安時代の住居跡は、第1・2次調査を補足するものであった。南側の第3次調査の調査区では調査区の周縁部で住居跡を検出したが、壁際であったため第1次調査で検出できなかった住居跡である。北側の第4次調査では、第1・2次調査で検出された住居跡の掘り方を明確にすると共に、未検出であった住居跡を調査した。住居跡の時期は8～9世紀代で奈良・平安時代に相当し、前回の調査を追認している。

3 出土遺物について

本遺跡の出土遺物は、主に古墳時代と奈良・平安時代の土器で、前者の出土量が多い。また、わずかではあるが、弥生時代の遺物もみられる。土器の他には、土製品や石製品が僅かにある。図化していないが、わずかに鉄滓も出土している。時代毎に遺物をみていく。

A 弥生時代の出土遺物

弥生土器2点と石製品1点がある。弥生土器は、甕2点(S K 204、グリッドX 47 - Y 38)である。時期は天王山式に相当するであろう。石製品はアメリカ式石

鉢（X 10 - Y 11）で、ほぼ完形の状態である。石材は珪質頁岩であろう。

B 古墳時代の出土遺物

当該時期の出土遺物は、土師器と石製品がある。

(1) 土師器

古墳時代前期に相当する土器が大部分を占めている。遺構内出土の他に、調査区全体で掘り込みを伴わない形態で集中した状態で出土するのが多く確認できた。

器種は、「器台・高坏・鉢・壺・甕・底部穿孔土器・ミニチュア土器」の7種である。器種分類は、紙面上の都合で割愛した。

器台 定形化した小型器台が多い。坏部は稜の有無で分類でき、稜を持つものが多い。脚部は「ハ」字状で透孔を施すものが多い。また、本遺跡周辺では稀な装飾器台や炉形器台が出土している。装飾器台は3点出土している（第53図11、第60図4・7）。第53図11は坏部のみで、受け部をもつ。第60図4・7は、坏部と脚部に透孔が施され、第60図4は坏部に5箇所、脚部に3箇所、共に円形の透孔が施されている。第60図7は坏部に6箇所、脚部に少なくとも1箇所、透孔が施されている。炉形器台は、坏部が内側に強く屈曲する特徴を持ち、関東地方出土に類似する（第64図18・19）。調整は基本、ミガキを主に施されている。明確に赤彩されたものは少ない。

高坏 坏部は口縁部にかけて内弯するものと、坏部下半に稜をもち、口縁部にかけてほぼ直線的に延びるものの、大きく2種類存在する。脚部は「ハ」字状の短脚と、長脚（棒状）で裾が屈曲するものの、大きく2種類存在する。短脚で透孔をもつものは少ない。坏部と脚部の組み合わせに多くのバリエーションが存在している。その中で、第60図8は特異な存在である。大きな坏部（稜は持たない）をもち、「ハ」字状の脚を呈し、透孔は2段で計6個の透孔が施されている。調整は、内外共にミガキが施されている。赤彩においては、器台と同様、施されているものは少ない。

鉢 器形は、体部（頸部）で一度内弯し、口縁部が開くものと、底部から口縁部まで屈曲しないものの大きく2種類存在する。当遺跡では後者が少ない。口縁端部は単純口縁と折り返し口縁がある。口縁部に段を有

するものもある（第58図4）。法量は口径12cmを基準に、2つに分類される（大型・小型）。

壺 器形は長い口縁部を持つ直口壺と、短い口縁部をもつ壺の2種類存在する。口縁部形態には単純口縁、折り返し口縁、有段口縁がある。有段口縁である第150図9の体部下半には、穿孔が斜め方向に施されている。焼成前に穿孔され、焼成時にその穴に何か蓋をし、穿孔面を下にした状態で焼成されたことが観察できる。底部はすべて平底で、丸底は皆無である。計測値は口径14cmを基準に、2つに分類される（大型・小型）。

甕 器形や口縁部～頸部の形態などのおおまかな差異はいくつか確認できるが、細かく個々の様相を分類することはできなかった。計測値は口径12cmを基準に、2つに分類される（大型・小型）。口縁部は単純口縁が主で、折り返し口縁がわずかに存在する。頸部は「く」字状に短く外傾するものが主で、能登甕の様相に類似するものや、S字状を呈するもの（第129図6・第130図8）が若干確認された。また、台を有する台付甕が3点存在する。ただし、台から体部下半部分のみの資料で、全体がわかる資料は皆無である。調整方法は、基本ハケメが主となるが、ヘラナデやミガキが施されるものもある。また、体部上半に撚糸文が部分的に横方向に廻るものも1点存在する（第140図1）。

底部穿孔土器 甕や鉢の器種にみられる。

ミニチュア土器 口径75mm以下の手捏ね土器という定義とした。器形は、壺や鉢を呈するものがある。完形資料は少ない。

(2) 石製品

石製品には砥石4点と用途不明石製品がある。第57図2・3、第139図2は完形品ではないが、研面が4面であると想定され、石材は凝灰岩であろう。第57図1は、擦痕を有する状態から、鉄製品を研いだ痕跡と推測される。

C 奈良・平安時代の出土遺物

当該時期の出土遺物は、土師器・須恵器・土製品・石製品である。時期・内容共に、第1・2次調査（山形県埋蔵文化財センター2011）の報告内容とほぼ同じである。

(1) 土師器

当該期出土の土師器には、ロクロを使用しないもの（Ⅰ類）と使用するもの（Ⅱ類）の2種類存在する。Ⅰ類・Ⅱ類共に、坏・甕の2器種の出土が認められた。主に、山形盆地の在地土器が占めているが、関東地方の土器要素を窺わせるものも若干存在する（SK212）。

(2) 須恵器

器種は、蓋・坏・高台坏・壺の4種類がある。その中で坏が最も多く、それ以外の器種はわずかである。

(3) 土製品

土製品は、土玉の1点のみ（第139図1）である。

(4) 石製品

石製品は砥石（第139図4）で、石材は凝灰岩であろう。

D 出土遺物の年代について

基本、土器を指標として、年代を求めた。

本遺跡で最も古い年代は、弥生時代である。遺物量は極端に少ないが、広く分布している（第158図）。ただし、その時代の明確な遺構は検出されていない。遺物は弥生土器2点、アメリカ式石鏃1点である。詳細な年代は不明だが、弥生時代後期頃であろう。

古墳時代は、土師器の様相で年代を求めた。また、第1・2次調査で出土した古墳時代の土器（第157図）も含め、検討を行った。年代は古墳時代の中でも早い前期（4世紀）に相当する。わずかに前期に続く中期の土師器も出土しているが、遺構は確認されていない。

古墳時代の竪穴住居跡等の遺構年代は、出土遺物の内容（土器組成）や出土量が少ないなどの理由により、詳細な年代を求めることが困難である。遺構を伴わない土器集中地点の遺物においては、年代幅が約100年と想定される。遺構を伴わない土器集中地点の年代と遺構の年代は、わずかに後者の年代幅が短いほぼ同じと考えている。

奈良・平安時代は土師器と須恵器を対象とし、年代を求めた。主に平安時代の土器が多く、奈良時代に相当する土器は少ない。当該期の最も古い年代は8世紀中葉頃、また、新しい年代は9世紀前半頃と推測している。

E 遺構を伴わない土器集中地点について

第3・4次調査区の広範囲にわたって、古墳時代の遺構を伴わない土器集中地点が確認された。確認される地点は、微高地に営まれた居住域と離れ、やや低い場所に位置する。主に出土するのは、古墳時代前期の土師器で、わずかに弥生土器も含む。出土状況を見る限り、意図的に土器を配置しているのが推測される。地点毎に土器を観察すると、器種や寸法を意識して配置している。甕・壺・鉢等の煮炊き土器が大半以上を占め、器台・高坏等の供献土器は少ない。

その中で、グリッドX16 - Y17の土器集中地点が目目される。小型の土師器甕・鉢などが19点まとまって出土している。それぞれ、逆さま、横倒し、やや斜めの状態で口が一定方向を向いている。非日常的な土器であることから、何かの儀式に関連し、用いられたと考えられる。類例として、留沼遺跡（宮城県大崎市）の「第X層上面出土遺物」があり、土師器坏66点、壺8点、台付甕2点の総数76個体がそれぞれ重なりあって出土している（第155・156図）。他にも、中平遺跡（福島県会津坂下町教育委員会2003）、六斗葺遺跡（新潟県教育委員会2005）、また、周辺では、梅ノ木前1遺跡（山形県埋蔵文化財センター2007b）でも、類似した土師器の出土状態が確認されているが、それぞれ、その状況背景まで類似しているか定かではない。

第1・2次調査でも報告しているが、古墳時代、奈良・平安時代共に、当遺跡が洪水被害にあっていることがわかっている。それに関する儀式の痕跡と考えられる。微高地で生活を営みながら、周辺の低地で儀式的な行為が行われたと考えられる。その行為が幾度かにわたって、また、場所を変え行われた結果が、今回の検出状況に表れていると考えられる。年代は先程挙げた留沼遺跡と同時期で、古墳時代前期の中でも新しい時期（辻編年Ⅲ-4）に相当すると考えている。

F まとめ

第3・4次調査では、奈良・平安時代の集落跡（第1・2次調査）の下層に存在する古墳時代の集落跡を調査した。その結果、古墳時代前期の住居跡13棟、遺構を伴わない土器集中地点、また、奈良・平安時代の住居

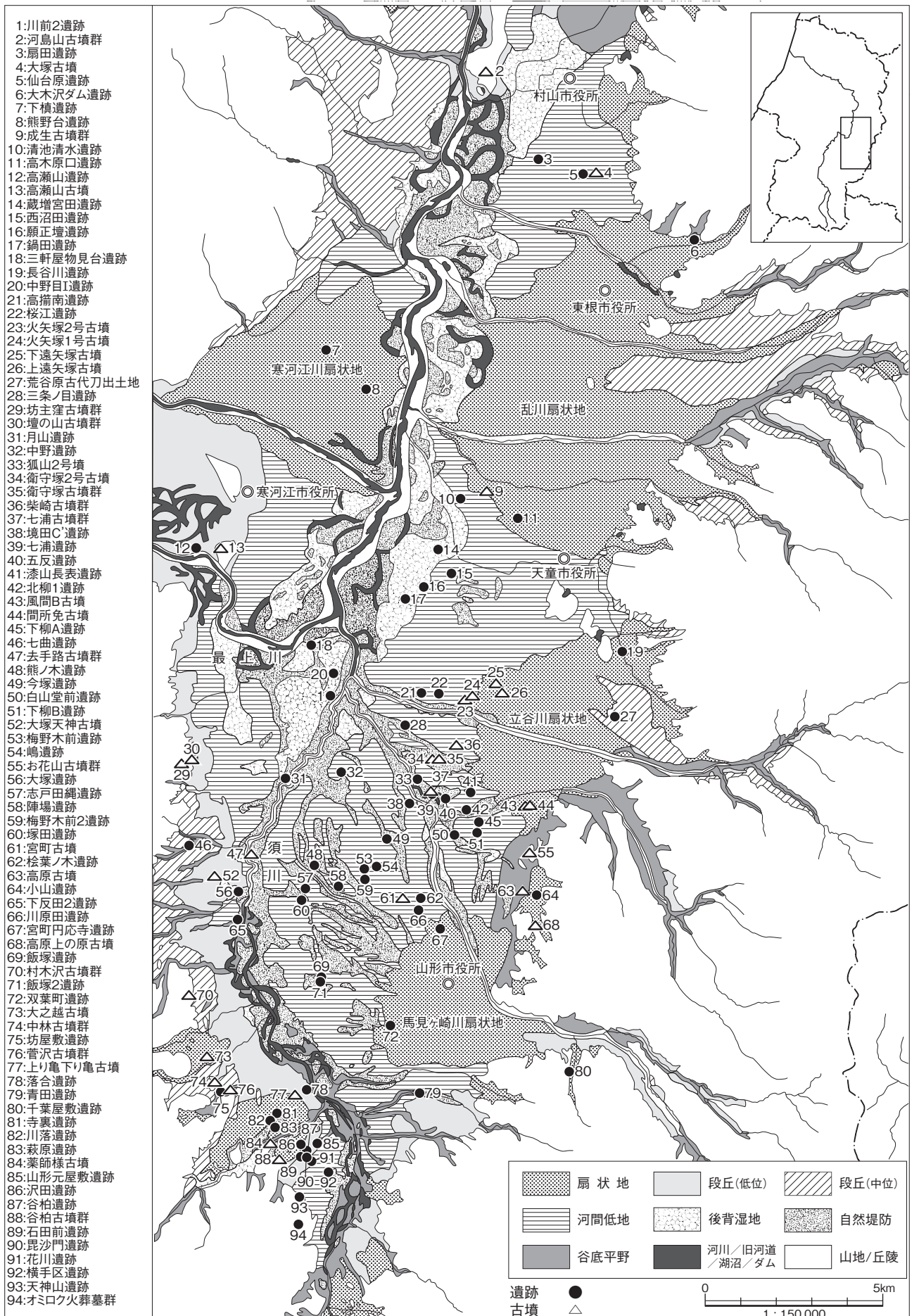
跡 22 棟がみつかり、さらに遺物が整理箱にて 204 箱出土した。

遺物は主に土器で、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。他には土製品や石製品があるが、わずかである。古墳時代の遺物が大半以上を占める。集落は古墳時代前期の約 100 年間に限られ営まれていたと推測される。

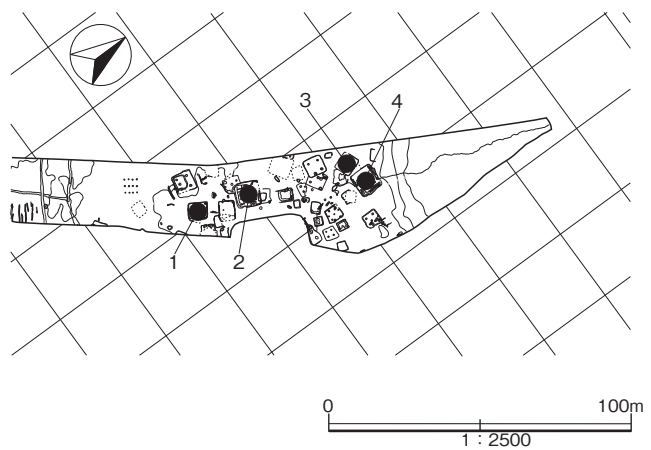
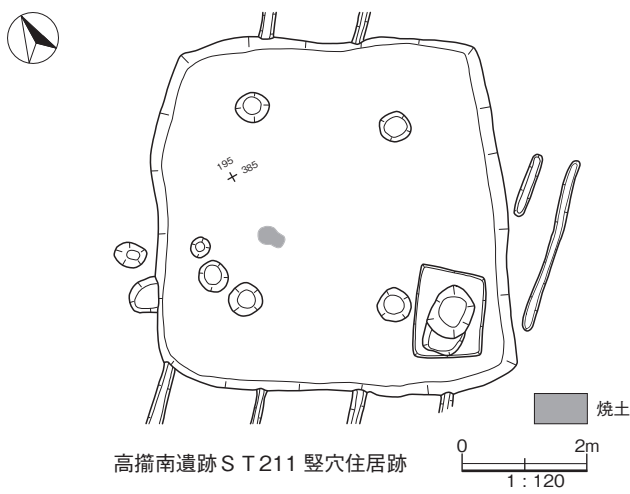
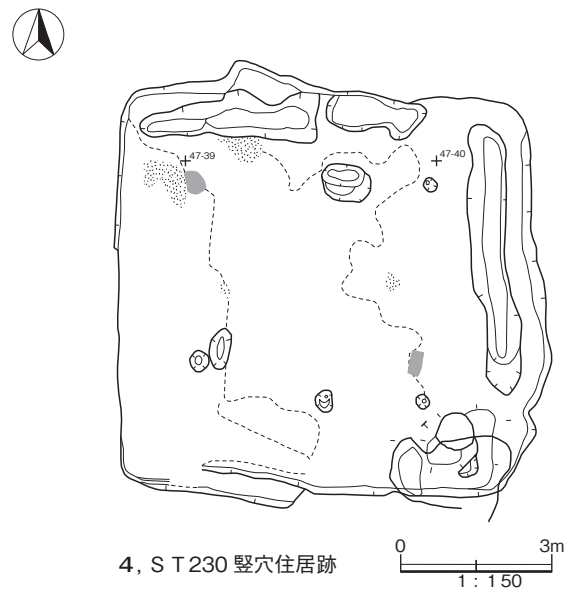
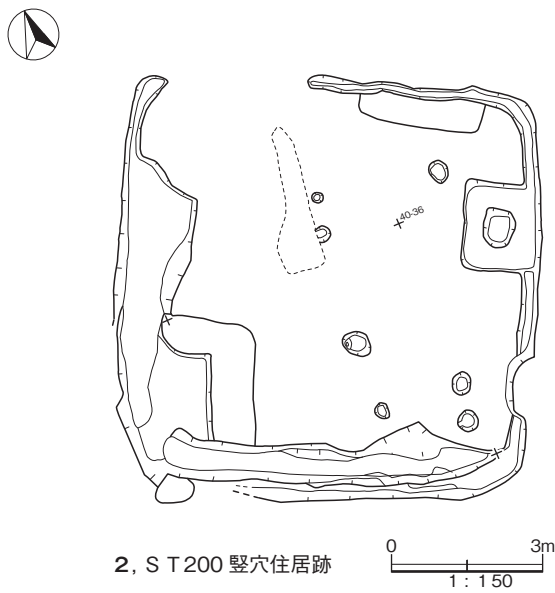
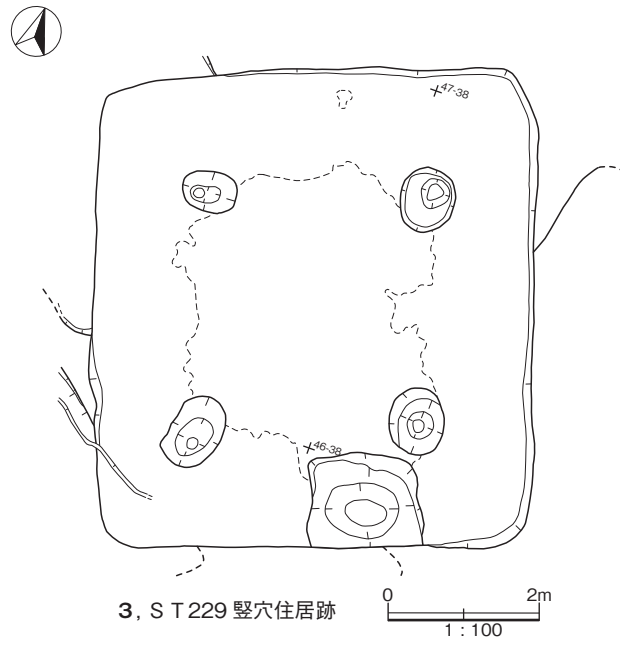
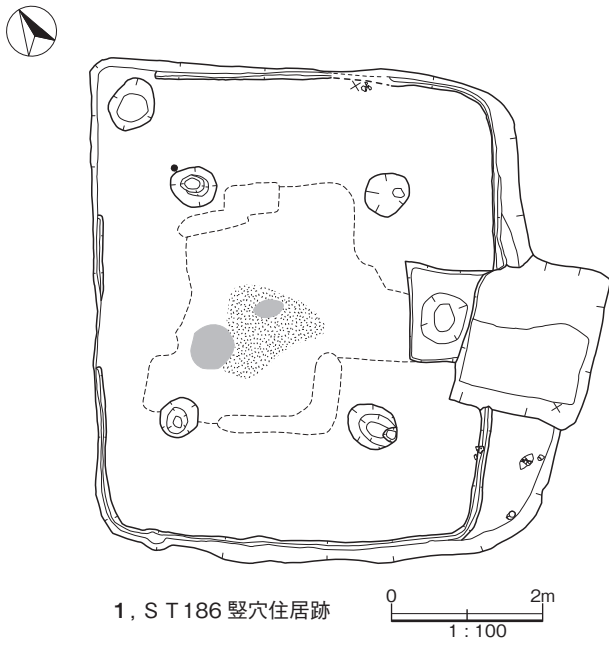
古墳時代、奈良・平安時代の土器は、これまで山形盆地で確認されている在地土器内容とほぼ同じである。ただし、関東地方の土器様相に類似した遺物が出土していることから、当地域とのつながりがあったことが窺われる。また、古墳時代の遺構を伴わない土器集中(地点)は、当遺跡の特記事項と言えよう。

引用・参考文献

- 会津坂下町教育委員会 2003 「中平遺跡 男壇遺跡」『会津坂下町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（会津坂下町文化財調査報告書第54集）
- 青山博樹 2010 「古墳時代前期の土器編年－仙台平野とその周辺－」『北杜－辻秀人先生還暦記念論集－』 17～36頁
（辻秀人先生還暦記念論集刊行会）
- 石川県埋蔵文化財センター 1986 『漆町遺跡Ⅰ』（石川県埋蔵文化財センター）
- 植松暁彦 2005 「山形県の弥生後期～古墳時代前期の様相」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現 第1分冊』 259～277頁（新潟県考古学会）
- 氏家和典 1957 「東北土師器の形式分類とその編年」『歴史』第14輯 1～14頁（東北史学会）
- 小林圭一 2001 「最上川流域における縄文時代後・晩期の遺跡分布」『山形考古』第7巻第1号 21～81頁 山形考古学会
- 滝沢規朗 2005 「新潟県における古墳出現前後に盛行する装飾器台・結合器台について」『新潟考古』第16号 77～96頁（新潟県考古学会）
- 滝沢規朗 2011 「阿賀北における古墳時代前期の土器について（上）－器種分類と基準資料の提示－」『三面川流域の考古学』第9号 60～98頁
- 辻秀人 1994 「東北南部における古墳出現期の土器編年」『東北学院大学論集－歴史学・地理学－』第26号 105～140頁（東北学院大学学術研究会）
- 辻秀人 1995 「東北南部における古墳出現期の土器編年その2」『東北学院大学論集－歴史学・地理学－』第27号 39～88頁（東北学院大学学術研究会）
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 2005 「六斗葺遺跡」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅷ』（新潟県埋蔵文化財調査報告書第143集）
- 古川市教育委員会 1991 『留沼遺跡』（宮城県古川市文化財調査報告書第25集）
- 山形県教育委員会 1987 『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書（2）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第107集）
- 山形県教育委員会 2003 『分布調査報告書（29）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第203集）
- 山形県埋蔵文化財センター 1994 『山形県内出土の古式土師器について』（山形県埋蔵文化財センター調査研究課）
- 山形県埋蔵文化財センター 1994 『今塚遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2004a 『服部遺跡・藤治屋敷遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第119集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2004b 『馬洗場B遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第123集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2004c 『達磨寺遺跡第3次発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第127集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2004d 『高揃南遺跡・菖蒲江1遺跡・菖蒲江2遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第132集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2005a 『向河原遺跡第5・6次発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第141集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2005b 『高瀬山遺跡（HO地区）発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第145集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2007a 『上敷免遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第159集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2007b 『梅野木前1遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第160集）
- 山形県埋蔵文化財センター 2011 『川前2遺跡第1・2次遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第193集）
- 吉田江美子 2008 「山形県内の古墳時代前期土師器について－近年における発掘調査の成果－」『研究紀要』第5号 113～134頁（山形県埋蔵文化財センター）



第 153 図 山形盆地の地形分類と古墳時代遺跡

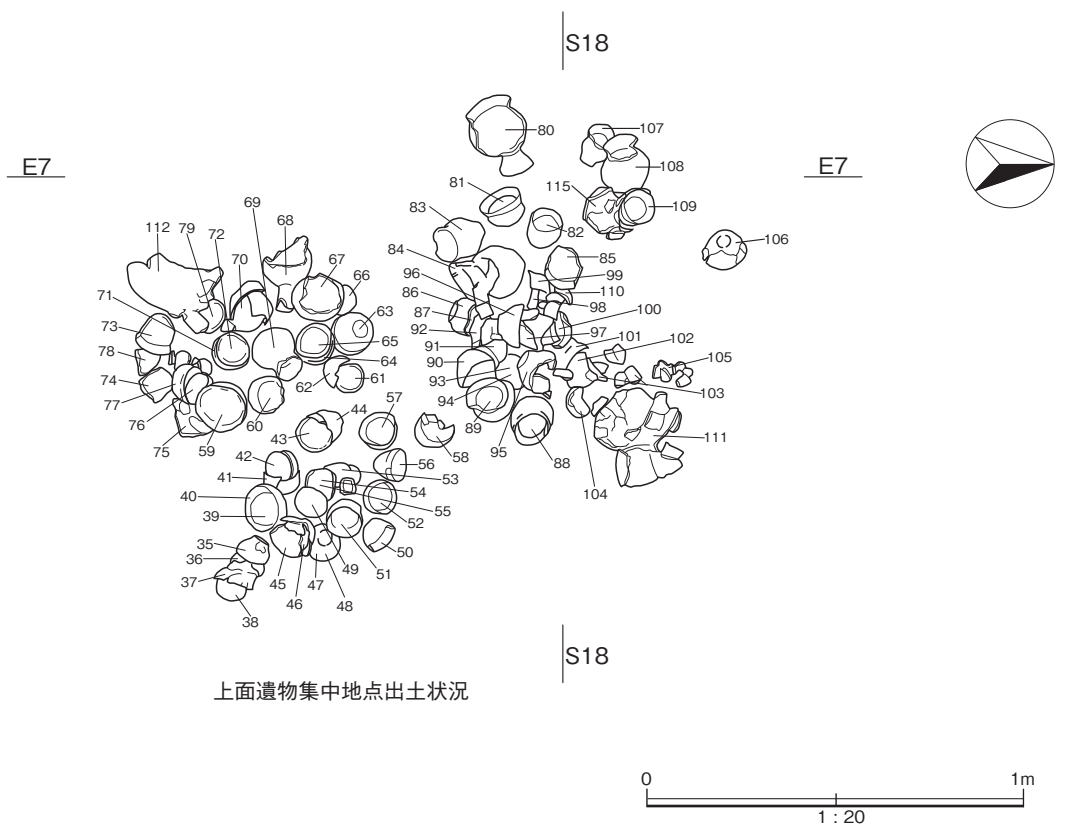
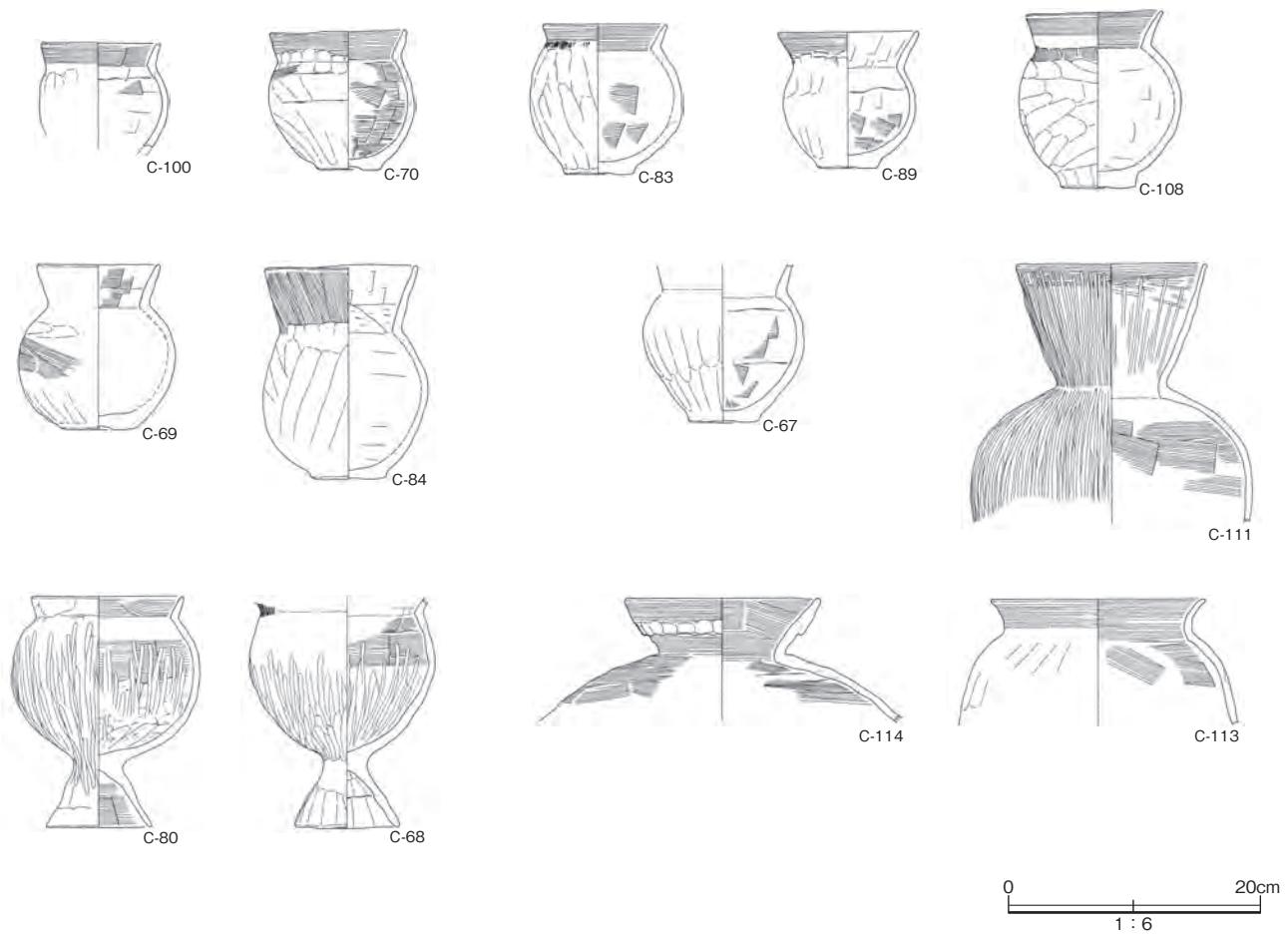


第 154 図 方形の掘り方を持った古墳時代住居跡

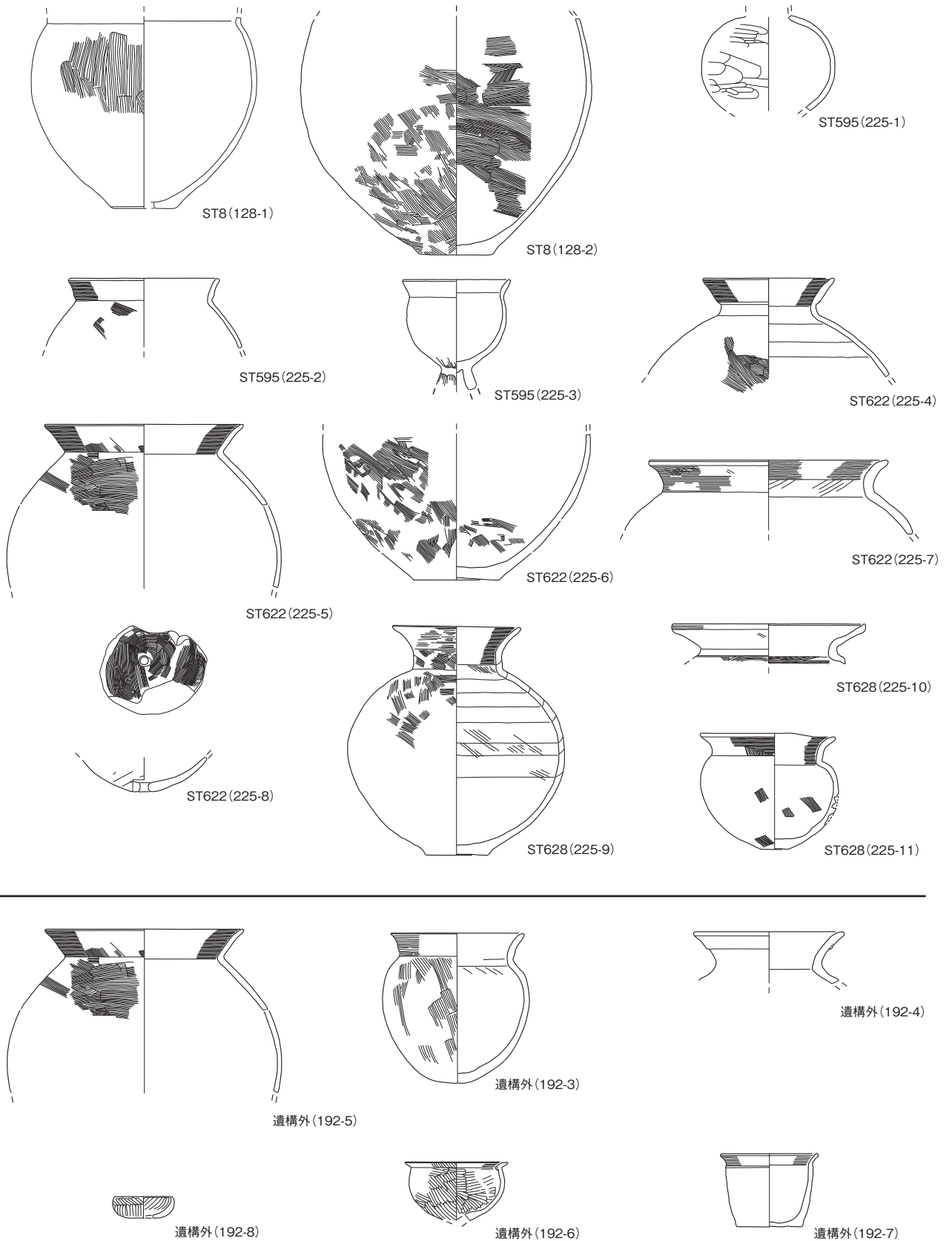


0 20cm
1:6

第 155 図 留沼遺跡第 X 層上面出土土器 (1)

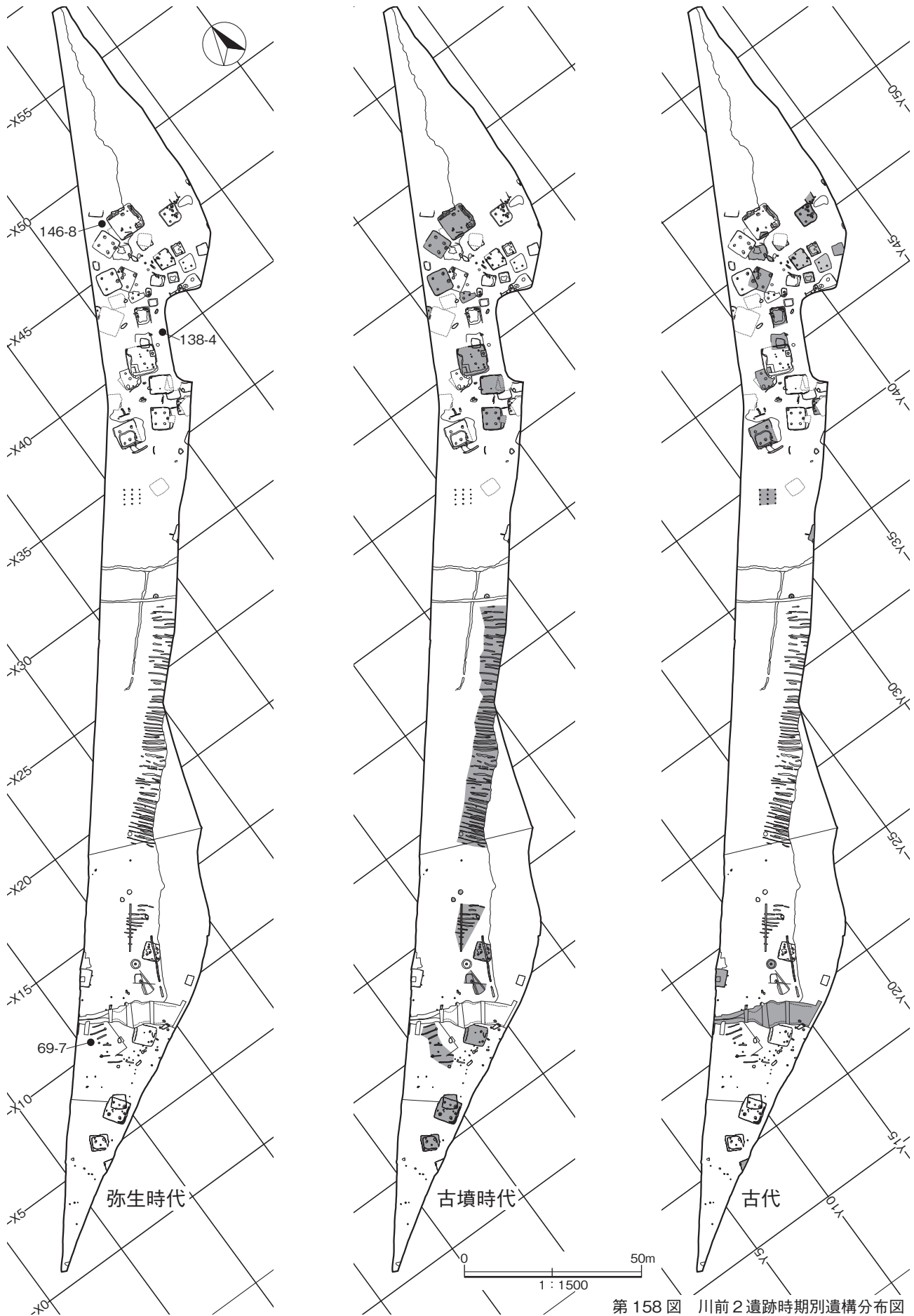


第 156 図 留沼遺跡第 X 層上面出土土器 (2)



0 20cm
1 : 6

第 157 図 川前 2 遺跡第 1・2 次出土土器(古墳時代)



第158図 川前2遺跡時期別遺構分布図

表5 第3次遺物観察表(1)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整		胎土	胎土色調
						口径	底径	器高		内面	底部		
53	1	ST16	ST2-3 + P17	土師器	甕			(36)	ハケメ	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少、海綿骨針少	赤褐
	2	ST16	ST2-P1 ST10	土師器	鉢	(152)	(52)	107	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ		細砂粒、海綿骨針少	橙
	3	ST18	X7Y8-上層 X7Y10	土師器	鉢	(110)	44	42.5				細砂粒、赤色粒少	褐
	4	ST19	ST3-4	土師器	甕			(28)				細砂粒、石英少、 海綿骨針少	浅黄橙
	5	ST19	ST3-7	土師器	高坏	(210)		(96)	ハラミガキ 赤彩	ハラミガキ 赤彩		微砂粒、石英少、 海綿骨針少	赤
	6	ST19	ST3-9	土師器	鉢		16	(57)	ハラミガキ	ハケメ		細砂粒、赤色粒少、 海綿骨針少、金雲母少	赤褐
	7	ST19	ST3-10	土師器	壺		60	(109.5)	ミガキ、ハケメ	ハケメ	ハラクスリ	細砂粒多、石英少、 赤色粒少、金雲母少	褐
	8	ST19	ST3-11	土師器	壺	(153)	58	288	ミガキ	ミガキ	ハラクスリ	細砂粒、石英少、 赤色粒少、金雲母少	赤褐
	9	ST19	ST3-12	土師器	鉢	(114)	30	125.5	ミガキ、ヨコナデ	ミガキ	ハラナデ	細砂粒、石英少	浅黄橙
	10	ST19	ST3-P5-13	土師器	高坏		(107)	(89)	ハラミガキ	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	褐
	11	ST19	ST3-F ST3-P5	土師器	高坏			(77)	ハラミガキ	ハラミガキ		微砂粒、石英少、 赤色粒少	褐
	12	ST19	ST3-E	土師器	壺		20	(27)	ミガキ、赤彩			細砂粒、石英少	浅黄橙
	13	ST19	ST3-P3-RP1	土師器	ミニチュア		20	(29)	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	微砂粒	にぶい黄橙
	14	ST19	ST3-6層 X7Y8-上層	土師器	甕			(40)				石英	にぶい橙
54	1	ST49	ST5-1	土師器	甕		70	(104)	ハケメ、ハラナデ	ハケメ	ナデ	細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	2	ST49	ST5-2,3 ST5-S #ブ	土師器	甕		60	(201)	ハケメ	ハケメ、ナデ		細砂粒、石英	褐
	3	ST49	ST5-3	土師器	底部穿孔 土器		38	(43)				微砂粒、石英	浅黄橙
	4	ST49	ST5-4	土師器	壺		40	(84)	ミガキ	ハケメ、 ハラナデ		微砂粒、石英少	にぶい黄橙
	5	ST49	ST5-5	土師器	甕	(170)	65	250	ハケメ	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	褐
	6	ST49	ST5-9,10,16 ST5-E	土師器	高坏	(200)		(101)	ハケメ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	7	ST49	ST5-12	土師器	高坏		111	(53)	ハラミガキ	ナデ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい橙
	8	ST49	ST5-15 ST5-E	土師器	甕			(72)				細砂粒、石英少	
55	1	ST94	ST8-1	土師器	甕		60	(151)	ハケメ		ハラクスリ	細砂粒、石英少、 赤色粒少	褐
	2	ST94	ST8-2	土師器	高坏	(160)		(161.5)	ハケメ、ハラミガキ	ハラミガキ		微砂粒、石英少、 赤色粒少	褐
	3	ST101	ST7	土師器	甕		67	(48.5)			ハケメ	細砂粒、石英少	浅黄橙
	4	ST101	ST7	須恵器	坏	(154)	(116)	43	ロケロ	ロケロ	回転ハラ切 →ハラナデ	細砂粒	灰白
	5	ST161	ST9-1	土師器	ミニチュア	71.5	38	45.5				細砂粒、石英少	浅黄橙
	6	ST161	ST9-1	土師器	鉢	129.5	26	121.5	ハラクスリ	ハラミガキ		細砂粒、石英少、 白色粒少	橙
	7	ST161	ST9-2	土師器	ミニチュア	71.5	50	36	ヨコナデ			細砂粒多、石英少、 海綿骨針少	浅黄橙
	8	ST161	ST9-3	土師器	鉢	(172)	54	140	ハケメ	ハケメ	ハラクスリ	細砂粒多、石英少、 赤色粒少	褐
	9	ST161	ST9-3	土師器	鉢	208		(174)	ハケメ	ハケメ		細砂粒多、石英	褐
	10	ST161	ST9-5	土師器	壺			(21)			ハケメ	微砂粒、石英少	褐

表6 第3次遺物観察表(2)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整		胎土	胎土色調
						口径	底径	器高		内面	底部		
56	1	SD106	SD18	土師器	壺	66	(69)	ハラナテ	ハラナテ		微砂粒、石英少	灰黄褐	
			X14Y17										X15Y17
	2	SG56	X14Y13	土師器	甕	44	(148)	ハケメ				細砂粒	灰白
	3	SK99	SK6-2	土師器	高坏		(37)	ハラミカキ	ハラミカキ			細砂粒、石英少	橙
	4	SK116	SK9	土師器	甕		(20)	ハケメ?	ハケメ?			石英、赤色粒少	浅黄橙
5	SK163	X15Y17-10 X16Y17-3	SK11	土師器	甕	172	(179)	ハケメ	ハラナテ、ハケメ			細砂粒、石英	浅黄橙
			SX100	SX1-1	須恵器	坏	144	60	41.5	ロクロ	ロクロ	回転ハラ切 →ハラナテ	微砂粒、白色粒
58	1	X5Y7	X5Y7-8,9,11	土師器	甕		(88)					細砂粒	にぶい橙
	2	X5Y8	X5Y8-14	土師器	甕	50	(26)	ハラズリ		ハラズリ		細砂粒、石英少、 金雲母少	にぶい橙
	3	X5Y8	X5Y8-N,18	土師器	鉢		62	ミカキ	ミカキ			微砂粒少、石英少	橙
	4	X5Y8	X5Y8-24	土師器	鉢	160	(49)	ハケメ、ヨコナテ				微砂粒少、石英少	橙
	5	X5Y8	X5Y8-N,S	土師器	甕	50	161	ハケメ	ハラナテ、ハケメ	ハラナテ		細砂粒	浅黄橙
	6	X5Y8	X5Y8-N,S	土師器	甕	44	172.5	ハケメ				細砂粒	橙
	7	X6Y9 X7Y8	X6Y9 X7Y8	土師器	甕	(160)	(34)	ヨコナテ	ヨコナテ			細砂粒、石英少	橙
	8	X7Y8 X7Y9	X7Y8-2 X7Y9-上層	土師器	壺	38	(100)	ハケメ		ハケメ		微砂粒少、赤色粒少	浅黄橙
	9	X7Y8	X7Y8-3	土師器	壺	(170)	(52.5)	ハケメ、ヨコナテ	ハケメ			細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	10	X7Y10	X7Y10-1 X7Y10	土師器	鉢		(98)					細砂粒、石英少	にぶい橙
	11	X7Y10	X7Y10-2	土師器	甕	180	(227)	ハケメ、ハラナテ	ハケメ、ハラナテ			細砂粒	浅黄橙
	12	X7Y10	X7Y10-3	土師器	鉢	(128)	(55)	ハラナテ	ハケメ			細砂粒、石英少	橙
	13	X7Y10	X7Y10-3	土師器	鉢	42	(60)	ハラナテ	ハケメ	ハラナテ		細砂粒	にぶい黄橙
	14	X7Y10	X7Y10	土師器	鉢	110.5	26	39	ハラナテ、 ヨコナテ	ハラナテ、 ヨコナテ	ハラナテ	微砂粒少、石英少	にぶい橙
	15	X8Y8	X8Y8-2	土師器	鉢	20	(25)	ミカキ				微砂粒少、赤色粒少	にぶい黄橙
	16	X8Y8	X8Y8-5	土師器	甕	(120)	(37)	ハケメ	ハケメ			細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	17	X8Y8	X8Y8-7	土師器	壺	(109)	48	68	ハケメ	ハラミカキ	ハラナテ	微砂粒少、赤色粒少	褐
	18	X8Y9	X8Y9	土師器	壺		(51)	ヨコナテ				細砂粒	橙
	19	X9Y8	X9Y8	土師器	甕	62	(36)	ハケメ、ハラナテ	ハケメ、ハラナテ	ハラナテ		細砂粒、石英少	にぶい橙
	20	X9Y9	X9Y9-2	土師器	甕		(24)	ヨコナテ	ヨコナテ			微砂粒、石英少	にぶい黄橙
59	1	X9Y10 X9Y15	X9Y10 X9Y15	土師器	壺 or 甕	(54)	(33)	ハケメ	ハケメ			微砂粒少	にぶい橙
	2	X9Y11	X9Y11-1,2 X9Y11-下層	土師器	高坏	98	(53)	ミカキ	ハケメ			微砂粒少、石英少	褐灰
	3	X9Y11	X9Y11-2	土師器	甕		(62)	ハケメ、ヨコナテ	ハラナテ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	4	X9Y11	X9Y11-下層	土師器	甕	(180)	(32.5)	ヨコナテ				細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	5	X10Y9	X10Y9-1	土師器	甕		(43)	ハケメ				細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	6	X10Y9	X10Y9	土師器	壺 or 甕 (底部)	(62)	(34)	ハケメ	ハケメ	ハラナテ		細砂粒、石英少	暗灰
	7	X10Y10	X10Y10-3	土師器	壺	(138)	(173)	ハケメ、ヨコナテ	ハケメ			細砂粒、赤色粒少、 海綿骨針	浅黄橙
	8	X10Y10	X10Y10	土師器	壺		(32)	ハケメ、ヨコナテ	ハケメ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	9	X10Y10	X10Y10	土師器	鉢	136	28	38.5				細砂粒、石英少	浅黄橙
	10	X10Y11	X10Y11-1	土師器	鉢	36	(124)					細砂粒、石英少	浅黄橙
	11	X10Y11 X11Y11	X10Y11 X11Y11	土師器	器台 (坏部)	76	(16)	ハラナテ、ミカキ	ハラナテ、ミカキ			細砂粒、石英少	にぶい橙
	12	X10Y12	X10Y12-1	土師器	甕	34	(112)	ハケメ	ハケメ、ハラナテ	ハラナテ		細砂粒、石英少	にぶい橙
	13	X11Y10	X11Y10	土師器	甕	70	(47)	ハケメ	ハケメ	ハラナテ		細砂粒、石英少	橙

表7 第3次遺物観察表(3)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			調整			胎土	胎土色調
						口径	底径	器高	外面	内面	底部		
59	15	X11Y11	X11Y11-4	土師器	壺		38	(79)	ミガキ			微砂粒、石英少	にぶい黄橙
	16	X11Y11	X11Y11-5	土師器	甕		120	(50.5)	ハラナテ	ハケメ		細砂粒、石英少 海綿骨針少	浅黄橙
	17	X11Y11	X11Y11-8	土師器	高坏	(70)		(82)	ミガキ	ミガキ		微砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	18	X11Y12	X11Y12	土師器	甕			(52.5)	ヨコナテ			細砂粒多、石英少	浅黄
60	1	X11Y14 X12Y14	X11Y14 X12Y14-3 表採	土師器	甕	(180)		(172)	ハケメ、ヨコナテ	ハケメ		細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	2	X12Y11	X12Y11-1	土師器	器台	100		(52.5)	ミガキ、ヨコナテ			細砂粒多、石英少	にぶい黄橙
	3	X12Y11 X12Y12	X12Y11 X12Y12-5	土師器	台付甕		58	(81.5)	ハラナテ			細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	4	X12Y12	X12Y12-1	土師器	器台	184	114	121	ハケメ	ミガキ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	5	X12Y12	X12Y12-3,4	土師器	壺	(174)		(38)	ミガキ、ヨコナテ	ミガキ、ヨコナテ		細砂粒、石英少	橙
	6	X12Y13 X12Y14	X12Y13-1 X12Y14	土師器	鉢		40	(40)	ハラナテ 赤彩	ハラナテ 赤彩	ハラナテ	細砂粒少、石英少	にぶい黄橙
	7	X12Y13 X12Y14	X12Y13-1 X12Y14-8	土師器	器台	187		(94)	ハケメ、ハラナテ	ミガキ、ハケメ		細砂粒多、石英少、 赤色粒少	にぶい橙
	8	X12Y14 X13Y13	X12Y14 X13Y13-5,9	土師器	高坏	(191)	225	165	ミガキ、ハケメ	ハラナテ、 ミガキ		細砂粒、石英少、 赤色粒少、輝石少	にぶい橙
	9	X12Y13	X12Y13	土師器	甕	(134)	18	(128)	ハケメ	ナテ	ナテ	細砂粒、石英	にぶい橙
	10	X12Y14	X12Y14-1	土師器	甕	184	60	211	ハケメ	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	11	X12Y14	X12Y14 X12Y14-2	土師器	高杯	176		(100.5)				微砂粒、石英少、 赤色粒少	黄橙
61	1	X12Y14	X12Y14-5,6	土師器	壺	(206)		(61)				細砂粒、石英	橙
	2	X12Y14	X12Y14-5,7	土師器	壺		68	313	ハケメ			細砂粒多、石英少	橙
	3	X12Y15	X12Y15-1	土師器	甕		40	(120)	ハケメ	ハケメ	ハラナテ	細砂粒、石英少、 赤色粒少、輝石少	褐
	4	X13Y12	X13Y12-1	土師器	鉢		40	(108)				微砂粒	浅黄橙
	5	X13Y12	X13Y12	土師器	鉢			(36)	ヨコナテ	ヨコナテ		微砂粒	浅黄橙
	6	X13Y13	X13Y13-1	土師器	甕	181	58	189	ハケメ	ハケメ	ハラナテ	細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい橙
	7	X13Y13	X13Y13-2	土師器	甕	180	80	255				細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	8	X13Y13	X13Y13-3	土師器	鉢		26	(70)	ハラナテ			微砂粒、石英少	にぶい黄橙
62	1	X13Y13	X13Y13-6	土師器	甕	193	56	223.5	ハケメ、ヨコナテ	ハラナテ、 ヨコナテ		細砂粒、石英少	浅黄橙
	2	X13Y13	X13Y13-7	土師器	壺	152		(130)	ハケメ、ヨコナテ	ハラナテ		細砂粒、石英少	浅黄橙
	3	X13Y13	X13Y13-10	土師器	甕		50	(77)	ハラナテ			細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	4	X13Y14	X13Y14-1	土師器	鉢		24	(43)	ハラナテ	ハラナテ	ハラナテ	細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	5	X13Y14	X13Y14 X13Y14-2	土師器	甕	(234)	60	242.5	ハケメ、ヨコナテ	ハケメ	ハラナテ	細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	6	X13Y14 X13Y15 X14Y14 X14Y15	X13Y14-5 X13Y15-4、 下層 X14Y14-1 X14Y15-4	土師器	甕			234.5				微砂粒、石英少、 赤色粒少	灰褐
	7	X13Y14 X14Y15	X13Y14 X14Y15	土師器	甕			(54)	ハケメ	ハケメ、ハラナテ		細砂粒、石英少、 海綿骨針少	にぶい黄橙
	8	X13Y15	X13Y15-1	土師器	壺	(152)		(47)				細砂粒	浅黄橙
	9	X13Y15 X13Y16	X13Y15-3 X13Y16	土師器	壺	(160)		(104)	ハケメ、ヨコナテ	ハケメ、ハラナテ		細砂粒多、石英少、 金雲母少	橙
	10	X13Y15	X13Y15-下層	土師器	壺	(106)		(52)	ハケメ、ミガキ			細砂粒	橙
63	1	X13Y16 X14Y15	X13Y16-1 X14Y15	土師器	壺 or 甕		72	(34)	ハケメ			細砂粒、石英少	にぶい黄橙

表8 第3次遺物観察表(4)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整		胎土	胎土色調
						口径	底径	器高		内面	底部		
63	2	X13Y16 X14Y16 X15Y15	X13Y16-1 X14Y16 X15Y15	土師器	壺	(65.5)						微砂粒	明赤褐
	3	X13Y16 X13Y16	X13Y16 X13Y16			土師器	甕	(36)	(33)	ハケメ、ヘラナテ [°]	ハケメ	ヘラナテ [°]	細砂粒多、石英少
	4	X14Y16 X14Y17	X14Y16 X14Y17	土師器	壺	70	(198)	ハケメ				細砂粒、石英少	灰黄褐
		5	X14Y13 X14Y13			X14Y13 X14Y13	土師器	甕	(180)	(101)	ハケメ、ヨコナテ [°]	ハケメ	
	6	X14Y14	X14Y14-2	土師器	甕	200	271	ハケメ	ハケメ、ヘラナテ [°]			細砂粒、石英少、 赤色粒	浅黄橙
	7	X14Y15 X15Y15	X14Y15-2、下層 X15Y15-1	土師器	甕	134	38	143.5	ハケメ、ヨコナテ [°]	ヨコナテ [°]	ヘラナテ [°]	細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	8	X14Y15	X14Y15-7	土師器	甕	152	40	158	ハケメ、ヘラナテ [°] リ、 ヨコナテ [°]			細砂粒、石英少	浅黄橙
	9	X14Y15	X14Y15-8	土師器	鉢	110	28	149	ハケメ、ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩		細砂粒、石英少、 赤色粒少、黒色粒少	浅黄橙
64	1	X14Y15	X14Y15-9	土師器	壺	154	(70)	280	ハケメ、ヘラナテ [°]	ハケメ、ヘラナテ [°]		細砂粒、石英少、 海綿骨針少、輝石少	にぶい黄橙
	2	X14Y15	X14Y15-11	土師器	壺	68	36	107.5				細砂粒、赤色粒少	浅黄橙
	3	X14Y15	X14Y15	土師器	高坏			(17)	ハケメ、 ヨコナテ [°]	ミガキ		微砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	4	X14Y15	X14Y15-下層	土師器	甕			(44)	ハケメ、ヨコナテ [°]	ヨコナテ [°]		細砂粒多、海綿骨針少	にぶい黄橙
	5	X14Y15 X14Y16	X14Y15-下層 X14Y16-上層	土師器	壺	(190)		(35)	ハケメ、ヘラナテ [°]	ハケメ		微砂粒、石英少	にぶい橙
	6	X14Y16	X14Y16	土師器	甕			(37.5)				細砂粒多、金雲母少	橙
	7	X14Y16	X14Y16	土師器	器台		(122)	(29)				細砂粒多、石英少	にぶい橙
	8	X14Y16	X14Y16	土師器	器台(脚)			(30)	ミガキ	ナテ [°]		細砂粒多、石英少	浅黄橙
	9	X14Y16	X14Y16	土師器	壺 or 甕		60	(24)				微砂粒、石英	にぶい黄橙
	10	X14Y16	X14Y16	土師器	甕			(34)	ハケメ、ヨコナテ [°]	ハケメ		微砂粒、石英少	にぶい黄橙
	11	X14Y16	X14Y16-上層	土師器	壺			(40)	ハケメ、ヘラナテ [°]	ハケメ		微砂粒、石英少	にぶい褐
	12	X14Y16 X15Y15	X14Y16 X15Y15	土師器	甕			(90)	ハケメ	ハケメ		微砂粒、石英少	浅黄橙
	13	X14Y17	X14Y17-1	土師器	ミニチュア		30	(38)	ハケメ	ヘラナテ [°]	ヘラナテ [°]	微砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	14	X14Y17 X15Y16	X14Y17-3 X15Y16-10	土師器	台付甕		74	(118)	ハケメヘラナテ [°]			細砂粒、石英少	にぶい黄橙
15	X15Y16 X16Y16	X15Y16-4 X16Y16	土師器	高杯	(135)	91.5	83	ミガキ	ミガキ ハケメ		細砂粒、石英少	にぶい橙	
16	X14Y17	X14Y17	土師器	ミニチュア		32	(34)	ハケメ		ヘラナテ [°]	微砂粒、石英少	浅黄橙	
17	X14Y17 X14Y18	X14Y17 X14Y18-2	土師器	ミニチュア		28	(41)	ハケメ	ハケメ、ヘラナテ [°]	ヘラナテ [°]	微砂粒、石英少	浅黄橙	
18	X14Y18	X14Y18-1	土師器	炬形器台			(60)	ヘラナテ [°] リ、ハケメ	エビナテ [°]		細砂粒、石英少	にぶい橙	
19	X14Y18	X14Y18-2	土師器	炬形器台	上部径 (62)		(28)	エビナテ [°] 、 エビオン	エビナテ [°]		細砂粒、石英少	にぶい褐	
20	X14Y18	X14Y18-2	土師器	壺 or 甕			(29.5)	ハケメ、ヘラナテ [°]	ヘラナテ [°]		微砂粒、石英少	灰褐	
21	X14Y18	X14Y18-3	土師器	ミニチュア		34	(39)	ハケメ	ヘラナテ [°]	ヘラナテ [°]	微砂粒、石英少	にぶい黄橙	
22	X14Y18	X14Y18-4	土師器	壺			(95)	ミガキ	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい橙	
23	X14Y18	X14Y18	土師器	鉢	122		(57)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		微砂粒、石英少		
65	1	X15Y14	X15Y14-1	土師器	器台		112	(57)				細砂粒	橙
	2	X15Y14	X15Y14-2	土師器	甕	(150)		(45.5)	ヨコナテ [°]			細砂粒、石英少	浅黄橙
	3	X15Y14	X15Y14	土師器	鉢	(120)		(31)	ハケメ			微砂粒、赤色粒	浅黄橙
	4	X15Y15	X15Y15-3	土師器	ミニチュア		34	(56)	ハケメ	ヘラナテ [°]	ヘラナテ [°]	細砂粒、石英少、 金雲母少	浅黄橙

表9 第3次遺物観察表(5)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整		胎土	胎土色調
						口径	底径	器高		内面	底部		
65	5	X15Y15	X15Y15-5,6,7,8,9,10	土師器	甕	162	48	191.5	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ		細砂粒、石英少、赤色粒少	浅黄橙
	6	X15Y15 X15Y16	X15Y15-5,7 X15Y16	土師器	甕		26	141	ハケメ	ハラナテ°		細砂粒、石英少、赤色粒少	浅黄橙
	7	X15Y15 X17Y17	X15Y15-5,7,10 X17Y17	土師器	壺		76	(253)	ミガ°キ		ハラナテ°	細砂粒、石英	浅黄橙
	8	X15Y15 X15Y16	X15Y15-15 X15Y16-4,6	土師器	壺	190		(172.5)	ハケメ→ヨコナテ°	ハラナテ°		細砂粒、石英少、赤色粒少	浅黄橙
	9	X15Y15 X15Y16	X15Y15-16 X15Y16	土師器	甕		28	(50)	ハラナテ°	ハラナテ°	ハラナテ°	細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	10	X15Y16	X15Y16-2	土師器	器台	108		(61.5)	ミガ°キ、ハラナテ° 赤彩	ミガ°キ、ハラナテ° ハケメ、赤彩		細砂粒、石英少、赤色粒少	赤
	11	X15Y17	X15Y17-1 X15Y17	土師器	底部穿孔 土器		20	93	ハケメ	ハラナテ°		細砂粒、石英少	浅黄橙
	12	X15Y17	X15Y17-2	土師器	甕		46	(72)	ハケメ			細砂粒、石英少、赤色粒少	浅黄橙
	13	X15Y17	X15Y17-3	土師器	ミニチュア		36	(44)	ハケメ	ハケメ、ハラナテ°	ハラナテ°	微砂粒、石英少	浅黄橙
	66	1	X15Y17	X15Y17-4	土師器	甕		44	(61)	ハラナテ°	ハラナテ°	ハラナテ°	細砂粒、石英少
2		X15Y17	X15Y17-5	土師器	甕		42	(57)	ハケメ	ハラナテ°	ハラナテ°	細砂粒多、石英少	橙
3		X15Y17	X15Y17-5,6	土師器	壺	(220)		(75.5)	ミガ°キ、ハケメ	ミガ°キ		細砂粒多、石英少	にぶい赤褐
4		X15Y17	X15Y17-5,6 X15Y17-上層	土師器	甕	165	44	138	ハラクス°リ、 ヨコナテ°	ハケメ、ハラナテ°	ハラクス°リ	細砂粒多、石英少	橙
5		X15Y18	X15Y18-1	土師器	甕	200.5	58	277	ハケメ	ハケメ		微砂粒、石英少、赤色粒少	にぶい黄橙
67	6	X15Y18 X16Y18	X15Y18-1,2,3 X16Y18	土師器	壺		78	(124)				細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	7	X15Y18	X15Y18	土師器	台付甕		54	(41)	ハケメ、ハラナテ°	ハラナテ°		微砂粒、石英少、赤色粒少	浅黄橙
	8	X16Y15	X16Y15-8	土師器	壺			(119)	ハラナテ°			微砂粒、石英少、赤色粒少	にぶい黄橙
	9	X16Y17	X16Y17-1-①	土師器	甕	98	36	116.5	ハケメ、ハラクス°リ、 押圧痕	ハケメ	ハラクス°リ	微砂粒、石英少、赤色粒少	にぶい橙
	1	X16Y17	X16Y17-1-②	土師器	甕	100	48	130	ハケメ、ハラクス°リ	ハケメ	ナテ°	微砂粒、石英	にぶい黄橙
	2	X16Y17	X16Y17-1-③	土師器	甕	93	40	101	ハラクス°リ、 ハケメ→ハラナテ°	ハラナテ°	ナテ°	微砂粒、石英、赤色粒少	にぶい黄橙
	3	X16Y17	X16Y17-1-④	土師器	鉢	93	38	70	ハラクス°リ、 ハラナテ°	ハラナテ°	ハラナテ°	微砂粒、石英	灰褐
	4	X16Y17	X16Y17-1-⑤	土師器	甕	98	40	104	ハラクス°リ、 ハケメ→ハラナテ°	ハラクス°リ、 ハラナテ°	網代痕	細砂粒、石英、赤色粒少	にぶい黄橙
	5	X16Y17	X16Y17-1-⑥	土師器	鉢	128.5	50	77	ハケメ→ハラナテ°、 指押圧	ハケメ、ハラナテ°	ナテ°	細砂粒、石英	褐
	6	X16Y17	X16Y17-1-⑦	土師器	甕	107	38	105.5	ハケメ、ハラクス°リ、 ハラナテ°	ハラクス°リ、 ハラナテ°	ハラクス°リ	微砂粒、石英、赤色粒少	褐
67	7	X16Y17	X16Y17-1-⑧	土師器	鉢	100	46	84	ハラクス°リ、ハケメ →ハラナテ°、 指押圧	ハケメ、ハラナテ°	ハラクス°リ	微砂粒、石英少、赤色粒少	褐
	8	X16Y17	X16Y17-1-⑨	土師器	鉢	92	38	70	ハラクス°リ、 ユビ°ナテ°、 ハラナテ°	ハラクス°リ、 ハラナテ°	ハラクス°リ	微砂粒、石英	褐
	9	X16Y17	X16Y17-1-⑩	土師器	鉢	80	50	75	ハラクス°リ、 ハケメ→ハラナテ°	ハケメ→ハラナテ°	ハラクス°リ	細砂粒、石英、赤色粒少	褐
	10	X16Y17	X16Y17-1-⑪	土師器	鉢	118	50	93	ハケメ→ハラナテ°	ハラナテ°、ハケメ	ハラクス°リ	細砂粒、石英	褐

表 10 第3次遺物観察表(6)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			調整			胎土	胎土色調
						口径	底径	器高	外面	内面	底部		
67	11	X16Y17	X16Y17-1-⑫	土師器	鉢	98	42	68	ハケス ^リ 、 ハケメ→ハラナテ [°] 指押圧	ハケメ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	微砂粒、石英	褐
	12	X16Y17	X16Y17-1-⑬	土師器	鉢	109	(50)	82	ハケメ→ハラナテ [°] ハケス ^リ 、 指押圧	ハケメ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	細砂粒、石英	褐
	13	X16Y17	X16Y17-1-⑭	土師器	鉢	88	40	70	ハケメ→ハラナテ [°] ハケス ^リ 、 指押圧	ハケメ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	細砂粒、石英、 赤色粒少	褐
	14	X16Y17	X16Y17-1-⑮	土師器	甕	85.5	42	99	ハラクス ^リ 、 ハケメ→ハラナテ [°]	ハケメ、ハラナテ [°]	クス ^リ	細砂粒、石英、 赤色粒少	褐
	15	X16Y17	X16Y17-1-⑯	土師器	鉢	82	46	74	ハケメ、ハラナテ [°]	ハケメ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	微砂粒、石英	にぶい黄橙
	16	X16Y17	X16Y17-1-⑰	土師器	甕		32	(80)	ハケメ、ハラクス ^リ	ハケメ	ハラクス ^リ	細砂粒、石英、 赤色粒少	褐
	17	X16Y17	X16Y17-1-⑱	土師器	甕	95	30	102	ハラクス ^リ 、 ハケメ→ハラナテ [°]	ハケメ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	微砂粒、石英少	褐
68	1	X16Y17	X16Y17-1-⑲	土師器	甕	96	40	99	ハケメ、ハラクス ^リ 、 ハラナテ [°]	ハケメ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	細砂粒、石英、 赤色粒少	褐
	2	X16Y17	X16Y17-1-⑳	土師器	甕			(44)	ハケメ、ヨコナテ [°]	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	橙
	3	X16Y17	(a) -1,2,3 X16Y17-2-㉑	土師器	甕	208	60	254	ハケメ、ハラクス ^リ 、 ハラナテ [°]	口縁→ミガキ 体部→ナテ [°]	ナテ [°]	細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	4	X16Y17	X16Y17-2- (a) -1,2,3	土師器	壺			(149)	ミガキ	ハラナテ [°]		細砂粒、石英少	暗灰
	5	X16Y17	X16Y17-2- (c) -1,2	土師器	壺	105	30	195	ハラクス ^リ 、 ミガキ	ミガキ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	6	X16Y18 X17Y18	X16Y18-2 X17Y18-1,2	土師器	甕	160	40	218	ハケメ	ハケメ		細砂粒、赤色粒少	赤褐
	7	X17Y15	X17Y15-3	土師器	小型土器	(88)	36	52	ハラナテ [°] 、 ヨコナテ [°]	ハラナテ [°] 、 ヨコナテ [°]		細砂粒、石英少、 輝石少	浅黄橙
	8	X17Y15	X17Y15-5	土師器	鉢		18	(77)				細砂粒、石英、 赤色粒少	灰白
69	1	X17Y16	X17Y16-1	土師器	甕	224	36	261	ハケメ、ハラナテ [°]	ハケメ、ハラナテ [°]	ハラクス ^リ	細砂粒、石英少、 赤色粒少	褐
	2	X17Y17	X17Y17-1	土師器	鉢		30	(54)	ミガキ		ハラナテ [°]	微砂粒、石英少	橙
	3	X17Y18	X17Y18-3	土師器	甕		52	(85)	ハラナテ [°]	ハラナテ [°]		細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	4	X17Y19	X17Y19 X18Y18	土師器	壺	158		(36)	ハケメ、ヨコナテ [°]	ヨコナテ [°]		微砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	5	X17Y19	X17Y19-4	土師器	鉢		36	(58)	ミガキ	ミガキ		微砂粒、石英少	褐灰
	6	表採	表採	土師器	高坏 (脚部)		(116)	(110)	ハラナテ [°] →ミガキ	ハケメ、ハラクス ^リ		細砂粒、赤色粒少	にぶい橙

表 11 第3次石製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	石材
					長軸	短軸	厚さ		
56	7	ST19	ST3-14	擦痕を有する石製品	176	75	71	624.86	凝灰岩
57	1	ST94	ST8-3	擦痕を有する石製品	201	70	71	976.46	凝灰岩
	2	ST161	ST9-4	砥石	(87)	38	34	130.86	緑色凝灰岩
	3	ST161	ST9-7	砥石	(209.5)	82.5	57.5	1379.03	緑色凝灰岩
69	7	X10Y11	X10Y11-2	アメリカ式石鏃	31.5	10.6	2.7	0.86	珪質頁岩
	8	X15Y14	X15Y14-3	擦痕を有する石製品	180	73	55	495.97	凝灰岩

表 12 第 4 次遺物観察表 (1)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			調整			胎土	胎土色調
						口径	底径	器高	外面	内面	底部		
129	1	ST186	ST34-1	土師器	壺	(174)			ハケ	ハケ		細砂粒、石英少	にぶい橙
	2	ST186	ST34-4 ST34-P4-5	土師器	壺	(110)	30	66	ミガキ?	ミガキ?		微砂粒、白色粒	にぶい黄橙
	3	ST190	ST38-6	土師器	器台	84	(116)	69.5	ミガキ	ハケ		微砂粒、海綿骨針少	橙
	4	ST190	ST38-7	土師器	甕	(266)		(68)	ヨコナテ、ハケ	ハケ		細砂粒、石英少、 白色粒	にぶい黄橙
	5	ST192	ST32-4.18	土師器	鉢	149	38	84.5		ハケ		細砂粒、石英	にぶい黄橙
	6	ST192	ST32-4.22	土師器	甕	(168)		(26)	ヨコナテ、ハケ			赤色粒、石英少	にぶい黄橙
	7	ST192	ST32-8	土師器	鉢	(132)	50	87	ハケ、 ハラナテ	ハラナテ		細砂粒、石英	橙
	8	ST192	ST32-9	土師器	壺	(116)		(47)	ヨコナテ	ハラナテ、 ヨコナテ		細砂粒、石英少	灰黄
	9	ST192	ST32-12	土師器	壺	(116)		(57.5)	ハケ、ヨコナテ	ハケ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	10	ST192	ST32-13.14	土師器	甕		74	(27.5)	ハラミガキ	ハラミガキ、ナテ		細砂粒、石英	浅黄橙
	11	ST192	ST32-15	土師器	甕	(186)		(169)	ヨコナテ、ハケ			細砂粒多、石英少	橙
130	1	ST192	ST32-16.20	土師器	甕	(278)		(133)	ヨコナテ、ハケ、 ミガキ	ハラナテ		細砂粒、石英少	浅黄橙
	2	ST192	ST32-21	土師器	ミニチュア		28	(29)		ハラナテ		石英、海綿骨針少	にぶい黄
	3	ST193	ST33-5	土師器	壺	(180)		(51.5)	ヨコナテ、 ハラナテ	ハラナテ		砂粒多、赤色粒、 白色粒	橙
	4	ST200	ST29-1.3	土師器	甕	(180)		(31)	ヨコナテ	ハケ		細砂粒、石英少	橙
	5	ST200	ST29-5	土師器	壺		130	(297)	ハラナテ	ハラナテ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	6	ST200	ST29-6	土師器	壺		62	(105)	ハラミガキ	ハラナテ	ハラミガキ	細砂粒、石英、 海綿骨針少	にぶい黄橙
	7	ST200	ST29-7	土師器	鉢	108		(68)	ヨコナテ、ハケ	ハラナテ		微砂粒、赤色粒少	浅黄橙
	8	ST200	ST29-13	土師器	壺			(63.5)	ハケ			細砂粒、石英少	橙
	9	ST200	ST29-13	土師器	甕		52	(27)				細砂粒、石英	橙
	10	ST200	ST29-P1-16	土師器	甕	80	32	64.5	ヨコナテ、ハケ	ハケ		細砂粒、石英少	にぶい黄褐
131	1	ST200	ST29-P1-15	土師器	壺	130	36	166.5	ヨコナテ、ハケ、 ハラナテ	ヨコナテ		細砂粒、石英少、 海綿骨針少	灰褐
	2	ST203	ST25-14	土師器	鉢			(55)	ハラミガキ	ハケ		細砂粒	灰黄
	3	ST203	ST25-D1 ST25-P2	土師器	甕		78	(26)	ロコ	ロコ	回転糸切	微砂粒、金雲母少	にぶい橙
	4	ST211	ST28-P1	土師器	器台			(32)	ハケ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	5	ST211	ST28-P1	土師器	甕	(198)		(51)	ヨコナテ、ハケ	ヨコナテ、ハケ		細砂粒	橙
	6	ST214	ST42-1	土師器	鉢	(134)		(82)	ヨコナテ、 ハケ	ハケ		微砂粒、赤色粒少	浅黄橙
	7	ST216	ST27-1	土師器	壺			(45)	ハケ、ヨコナテ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	8	ST216	ST27-5	土師器	ミニチュア		20	(54)	ミガキ、ヨコナテ	ハラナテ		微砂粒、石英少	黄灰
	9	ST216	ST27-6	土師器	高坏			(35.5)	ハケ、 ミガキ	ミガキ		微砂粒、石英少	橙
	10	ST216	ST27-7	土師器	ミニチュア		(36)	(42)	ハラナテ	ハラナテ		微砂粒、石英少、 海綿骨針少	浅黄橙
	11	ST216	ST27-7	土師器	甕		34	(46)	ハケ	ハラナテ		細砂粒、石英少、 赤色粒少、海綿骨針少	にぶい黄橙
	12	ST216	ST27-8 ST234 ST22-8	土師器	壺	(210)		(44)	ハケ、ヨコナテ	ハケ、ミガキ		細砂粒、石英	浅黄橙
	13	ST225	ST11-3.7	土師器	甕	(240)		(274)	ロコ、ハラミガキ、 タギ	ロコ		微砂粒、海綿骨針少、 金雲母少	橙
	14	ST225	ST11-4.9	土師器	甕		(80)	(89)	ハケ	ハケ	木葉痕	細砂粒	浅黄橙
132	1	ST225	ST11-6	須恵器	坏	140	80	35	ロコ	ロコ	回転ハラ切	細砂粒、白色粒	褐灰
	2	ST225	ST11-8	土師器	甕	250	84	361	ハケ、ハラナテ	ハケ	木葉痕	細砂粒、赤色粒少	にぶい橙
	3	ST228	ST31-1	土師器	甕	(260)		(149)	ハケ、ヨコナテ	ハケ		細砂粒多、赤色粒少	浅黄橙
	4	ST229	ST23-2 ST23-P5-17	土師器	器台		104	(76)	ミガキ、ハラナテ	ハラナテ		微砂粒、石英少	にぶい黄橙
	5	ST229	ST23-4	土師器	甕			(52)				細砂粒、海綿骨針少	橙

表 13 第4次遺物観察表(2)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整		胎土	胎土色調
						口径	底径	器高		内面	底部		
132	6	ST229	ST23-5	土師器	器台	122	(95)			ミガキ		細砂粒、石英少	にぶい橙
	7	ST229	ST23-11	土師器	甕	(196)	(38)	ハケメ、ヨコナテ	ハケメ			細砂粒、石英少	橙
	8	ST229	ST23-13,14,15	土師器	甕	60	(35)	ハケメ	ハケメ			細砂粒、石英少	橙
	9	ST229	ST23-P5-16	土師器	甕	50	(118)	ハケメ	ハケメ			細砂粒、石英少	浅黄
	10	ST229	ST23-P5	土師器	壺		(115)					細砂粒少、石英少	浅黄橙
133	1	ST230	ST19-1 ST19-Y-4	土師器	甕							細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
			ST19-1.8										
	2	ST230	ST19-D1-1 ST19-EL1-1	土師器	甕	58	(193)	ハケメ				細砂粒、石英少	浅黄橙
			ST19-Y-1										
	3	ST230	ST19-Y-2	土師器	壺		(17.5)					細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	4	ST230	ST19-P4-2 ST19-Y-2	土師器	壺		(50)	ハラナテ、ハケメ	ハラナテ、ハケメ			細砂粒、石英少	浅黄橙
			ST19-P2-2										
	5	ST230	ST19-P11-2,17 ST19-Y-2	土師器	甕	66	(213)					細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
			ST19-12										
	6	ST230	ST19-P2-2 ST19-P11-15,16	土師器	甕	44	(33)	ハケメ	ハラナテ			細砂粒、石英少	にぶい橙
	7	ST230	ST19-4	土師器	甕		(26)		ハケメ			細砂粒多、石英少	にぶい黄橙
	8	ST230	ST19-4 ST19-Y-4	土師器	壺	(107)	38	138	ミガキ	ハラナテ	ハラクスリ	微砂粒、石英少	灰黄褐
	9	ST230	ST19-Y-4	土師器	鉢		(53)					細砂粒、石英少、 赤色粒少	橙
	10	ST230	ST19-P1-7	土師器	甕	155	50	194.5	ハケメ、ヨコナテ		ハケメ	細砂粒、赤色粒、 石英少	にぶい橙
	11	ST230	ST19-8	土師器	甕	(156)	(74.5)		ヨコナテ、ハケメ	ハケメ		細砂粒、石英少	にぶい橙
12	ST230	ST19-9	土師器	鉢	(190)	(44)	73	ハケメ	ハラナテ、 ハラクスリ		細砂粒、石英少	灰白	
13	ST230	ST19-10	土師器	鉢	27	(51)					細砂粒多、金雲母少	橙	
14	ST230	ST19-11	土師器	甕	170	(152.5)		ヨコナテ、ハケメ、 ミガキ	ハラナテ		細砂粒、石英少	にぶい橙	
15	ST230	ST19-P11-13	土師器	壺		(54)					細砂粒多、石英、 赤色粒少	浅黄橙	
134	1	ST230	ST19-P11-13	土師器	壺	(176)	(108)		ハケメ、ヨコナテ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	2	ST230	ST19-P11-14	土師器	甕	(275)	(151)		ヨコナテ、ハケメ	ハラナテ		細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	3	ST230	ST19-4Y	土師器	高坏	153	(45.5)		ミガキ			細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	4	ST235	ST40-EL-1	土師器	甕	(236)	(199)		ロクロ、ハラクスリ	ロクロ		微砂粒	浅黄橙
	5	ST235	ST40-EL-3 ST40-EL	土師器	坏	132	44	51	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂粒少、海綿骨針少	にぶい橙
	6	ST235	ST40-EL-6	土師器	坏	126	42	49	ロクロ	ロクロ	回転糸切 →ハラナテ	微砂粒、石英少	浅黄橙
			ST40-EL-8										
	7	ST235	ST40-13 ST40	土師器	甕	150	76	155	ロクロ	ロクロ		微砂粒、石英少	にぶい橙
	8	ST235	ST40-EL-12 ST40-EL	土師器	甕		(65)		ロクロ	ロクロ		微砂粒、石英少	にぶい橙
	9	ST235	ST40-EL-12 ST40-EL	土師器	甕	(170)	(94)		ロクロ、ハラクスリ	ロクロ、カキメ		微砂粒、石英少	橙
	10	ST235	EL2-12,14,16 X46Y42 ST40-	須恵器	高台坏	155	67	55	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂粒少	青灰
11	ST235	EL2-14,16 X46Y42	土師器	坏	(144)	50	54.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂粒少、石英少	橙	

表 14 第4次遺物観察表(3)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			調整			胎土	胎土色調
						口径	底径	器高	外面	内面	底部		
135	1	ST236	ST12-1	須恵器	坏	(146)	49	50	ロコ	ロコ	回転糸切	微砂粒、白色粒少	灰白
	2	ST236	ST12-1	須恵器	壺			(43)	ロコ	ロコ		細砂粒	灰
	3	ST236	ST12-1	土師器	甕			(29)	ロコ、タキ	ロコ		細砂粒、石英少、 金雲母少	橙
	4	ST236	ST12-1 ST12-EL ST12-1.2.21	土師器	甕	(220)		(285)	ロコ、カキメ	ロコ、カキメ、 ハラズリ		細砂粒	橙
	5	ST236	ST12-EL ST12-P9	土師器	甕	220	60	328	ロコ→タキ →ハラズリ	ロコ	ハラズリ	細砂粒、金雲母少	橙
	6	ST236	ST12-2,3,11,20 ST12-P1	土師器	甕		75	(163)	ハラズリ	ハラナデ		細砂粒、海綿骨針少	橙
	7	ST236	ST12-3	土師器	坏		66	(26)	ロコ	ロコ、ミガキ	静止糸切	細砂粒少	浅黄橙
	8	ST236	ST12-4	須恵器	坏	(144)		34	ロコ	ロコ	回転ハラ、 ハラズリ	微砂粒	赤褐
	9	ST236	ST12-6 ST12-EL-7	土師器	甕	(282)		(112)	ロコ、ハラズリ	ロコ		細砂粒、赤色粒少、 海綿骨針少、金雲母少	橙
136	1	ST236	ST12-EL-7.9 ST12-11	土師器	甕	(230)		(309)	ロコ、 ハラズリ、カキメ	ロコ、 ハケメ		細砂粒、石英少、 海綿骨針、金雲母少	橙
	2	ST236	ST12-EL-7 ST12-22	土師器	甕	(228)		(269)	ハケメ、ヨコナデ	ハラナデ、ハケメ		細砂粒	にぶい橙
	3	ST236	ST12-8,12 ST12-EL-10	土師器	甕	220	58	383	ロコ、ハラズリ	ロコ、ハケメ	ハラズリ	細砂粒、海綿骨針、 金雲母少	にぶい橙
	4	ST236	ST12-EL-9	土師器	甕	(220)		(253)	ロコ、 ハラズリ	ロコ		細砂粒、石英少、 海綿骨針少	橙
137	1	ST236	ST12-EL-9 ST12-EL	土師器	甕	(228)		(112)	ロコ、ハラズリ	ロコ		細砂粒多、石英少	橙
	2	ST236	ST12-13 ST12-EL	土師器	甕	330	72	364.5	ロコ、ハラズリ	ロコ	ハラズリ	細砂粒、石英少、 金雲母少	橙
	3	ST236	ST12-14	須恵器	坏	(138)	(60)	38	ロコ	ロコ	回転ハラ切 →ハラズリ	微砂粒少	灰白
	4	ST236	ST12-15	須恵器	高台坏	132	81	48	ロコナデ	ロコナデ	回転ハラ切	白色粒	黄灰
	5	ST236	ST12-16	須恵器	坏	145	80	38	ロコ	ロコ	回転ハラ切	細砂粒、海綿骨針	灰白
	6	ST236	ST12-23	須恵器	蓋			(28)	ロコ	ロコ		白色粒	灰
	7	ST236	ST12-24	須恵器	坏	(134)		38	ロコ	ロコ	回転ハラ切 →ハラナデ	微砂粒少	灰白
	8	ST236	ST12-25	須恵器	坏	138	60	41.5	ロコ	ロコ	回転ハラ切 →ハラズリ	白色粒	灰白
	9	ST237	ST16-EL-1	土師器	坏	141	48	57	ロコ	ロコ	回転糸切	細砂粒、石英少	橙
	10	ST237	ST16-EL-2	土師器	坏	132	50	52.5	ロコ	ロコ	回転糸切	石英少	橙
138	1	ST237	ST16-EL-4 ST16-EL	土師器	甕	148	96	141	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ	網代痕	細砂粒少、石英少	浅黄橙
	2	SG170	SG2-2	土師器	壺	114	52	228	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ		微砂粒、石英少	浅黄橙
	3	SK168	SK32-2	須恵器	坏	(136)	(60)	(37.5)	ロコ	ロコ	回転糸切	微砂粒少、海綿骨針少	オリーブ灰
	4	SK204	SK19-1 SK19	弥生 土器	甕			(146)				細砂粒、石英少	にぶい橙
	5	SK209	SK23-3	土師器	壺		44	(95)		ハラナデ		細砂粒多、石英、 赤色粒少	浅黄橙
	6	SK209	SK23-4	土師器	小型土器			(26)	ミガキ	ハラナデ		微砂粒、石英	にぶい黄橙
	7	SK209	SK23-5	土師器	甕	(164)		(21.5)	ハケメ→ヨコナデ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	8	SK209	SK23-7	土師器	甕	128		(85)	ヨコナデ、ハケメ	ハラナデ		細砂粒、石英少	にぶい橙
	9	SK212	SK25-N	土師器	坏			(45)	ハラズリ、 ヨコナデ	ヨコナデ		微砂粒少	にぶい黄橙
	10	SK212	SK25-S	土師器	坏			(39)	ハラズリ、 ヨコナデ	ミガキ→ 黒色処理		微砂粒、石英少	にぶい黄褐
	11	SP245	SP93	土師器	鉢	(158)		(111)	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ		細砂粒、石英少	橙

表 15 第4次遺物観察表(4)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整 内面	底部	胎土	胎土色調
						口径	底径	器高					
140	1	X19Y19	X19Y19-2	土師器	壺	138		(196)	ハケメ、ヨリ付			細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい橙
	2	X19Y19	X19-Y19-5	土師器	甕		44	(126)				細砂粒多、赤色粒	橙
	3	X19Y19	X19Y19-7	土師器	甕		54	(64)	ハケメ	ハケメ→ハラナテ°		微砂粒、石英少、 金雲母少	にぶい橙
	4	X19Y20	X19Y20-1	土師器	甕		54	(192)				微砂粒、石英少	にぶい橙
	5	X19Y20	X19Y20	土師器	甕	(146)	72	255	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ、ハラナテ°		細砂粒、石英少	浅黄橙
	6	X20Y20	X20Y20-8,10										
	6	X19Y21	X19Y21-2	土師器	甕			(50)	ヨコナテ°、ハケメ			細砂粒、赤色粒少	橙
	7	X19Y21	X19Y21-3	土師器	丸底壺		30	(105)				細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい橙
8	X19Y21	X19Y21-7	土師器	鉢	139.5	(108.5)	46		ハケメ		細砂粒、石英少	浅黄橙	
141	1	X19Y21	X19Y21-4	土師器	甕		64	(183)	ハケメ	ハラナテ°		細砂粒、石英少、 輝石少	橙
	2	X19Y21	X19Y21-8	土師器	壺	148		(70.5)	ハケメ、ハラナテ°	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	3	X19Y21	X19Y21	土師器	丸底鉢	(192)	(28)	113.5	ハラナテ°	ミガキ		微砂粒、石英少	にぶい橙
	4	X19Y22	X19Y22-2										
	4	X19Y22	X19Y22-1	土師器	鉢	(140)		(57.5)				細砂粒、赤色粒少	橙
	5	X20Y19	X20Y19	土師器	小型土器	70	26	74.5	ハケメ	ハケメ、ハラナテ°		微砂粒、石英少、 輝石少	にぶい黄橙
	6	X20Y20	X20Y20-1	土師器	小型土器	89	30	68.5	ヨコナテ°、ハケメ、 ハラナテ°	ハラナテ°	ケスリ	細砂粒、石英少、 海綿骨針少	にぶい橙
	7	X20Y20	X20Y20-2	土師器	高坏	160		(48.5)				微砂粒、石英少	橙
	8	X20Y20	X20Y20-3	土師器	小型丸底 鉢	105	26	66.5	ミガキ			微砂粒、石英少	浅黄橙
	9	X20Y20	X20Y20-4	土師器	甕			(71)				細砂粒、石英少、 赤色粒少	橙
	10	X20Y20	X20Y20-6	土師器	壺		38	(116)	ハラミガキ			細砂粒、石英少	橙
	11	X20Y20	X20Y20-7	土師器	甕			(55)		ミガキ		細砂粒、石英少、 赤色粒少、海綿骨針少	浅黄橙
	12	X20Y20	X20Y20-9	土師器	鉢	(158)		(92.5)	ハラケスリ、 ハラナテ°	ハケメ		細砂粒、白色粒少	浅黄橙
	13	X20Y22	X20Y22-1	土師器	小型土器	(90)	14	65	ハラミガキ	ハラミガキ		微砂粒、石英少、 赤色粒少	灰白
	14	X20Y22	X20Y22-1	土師器	高坏(脚)		(120)	(31.5)	ミガキ			細砂粒多、石英少	浅黄橙
	15	X20Y22	X20Y22-4	土師器	鉢	(108)		(41.5)	ヨコナテ°、ミガキ	ミガキ		微砂粒、石英少	橙
16	X20Y22	X20Y22-7	土師器	甕	(160)		(37.5)	ハケメ→ヨコナテ°	ハケメ		細砂粒、石英少、 金雲母少	にぶい橙	
142	1	X20Y22	3,4,9,11	土師器	甕	(194)	66	256.5				細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	2	X20Y22	X20Y22-7	土師器	甕	136	32	178	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ	ハケメ	細砂粒、石英少、 赤色粒少	灰黄褐
	X21Y21	X21Y21											
	3	X20Y22	X20Y22-7	土師器	甕	132	30	193	ハケメ、ヨコナテ°	ヨコナテ°		微砂粒、石英少、 赤色粒少、金雲母少	橙
	4	X20Y22	X20Y22-9	土師器	甕		32	(145)	ハケメ	ハケメ、ハラナテ°		細砂粒、石英少、 金雲母少	橙
	5	X20Y22	X20Y22-10	土師器	甕	140		(53)				細砂粒多、石英少、 赤色粒少、金雲母少	橙
	6	X20Y22	X20Y22-12	土師器	鉢		24	(108)	ミガキ	ハラナテ°	ハラナテ°	微砂粒、石英少、 輝石少	浅黄橙
7	X21Y23	X21Y23	土師器	甕	176		(134.5)				細砂粒、石英少、 赤色粒少	橙	
X22Y23	X22Y23-6												
143	1	X20Y22	X20Y22-15	土師器	甕	196		(174)	ハケメ	ハケメ		細砂粒、石英少、 金雲母少	にぶい黄橙
	2	X21Y24	X21Y24	土師器	甕	190		(140)	ハケメ	ハケメ		細砂粒、石英少、 金雲母少	にぶい橙
X22Y23	X22Y23-3,5												

表 16 第 4 次遺物観察表 (5)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整		胎土	胎土色調
						口径	底径	器高		内面	底部		
143	3	X22Y21	X22Y21-1	土師器	壺	136		(252)	ミガキ			細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい橙
	4	X22Y21	X22Y21-2	土師器	甕	(178)		(150)	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	淡黄
	5	X22Y21	X22Y21-2	土師器	甕	74		(161)	ハケメ			細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
144	1	X28Y24	X28Y24-2 X28Y24	土師器	甕	(156)	24	(140.5)	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ、ヨコナテ°		微砂粒、石英少、 金雲母少	浅黄橙
	2	X29Y25	X29Y25-2	土師器	甕		64	(167)	ハケメ	ハケメ	ハケメ	細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	3	X29Y25	X29Y25-3	土師器	甕	166		183		ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	橙
	4	X29Y25	X29Y25-4	土師器	甕	204	39	254	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少、海綿骨針少、 金雲母少	にぶい黄橙
	5	X29Y25 X29Y26	X29Y25 X29Y26-1,3,5,7	土師器	甕	(140)	30	132.5	ハケメ、ヨコナテ°			細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	6	X29Y26	X29Y26-1	土師器	甕	162	34	(126)	ハケメ、ヨコナテ°	ハラナテ°、 ヨコナテ°		細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
145	1	X29Y26	X29Y26-1,3,4	土師器	甕	170	34	155				細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	2	X29Y26	X29Y26-1,5	土師器	甕	(156)	34	147	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ		微砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	3	X29Y26	X29Y26-2,4	土師器	甕	181	34	156.5	ハケメ、ヨコナテ°	ハラナテ°、 ヨコナテ°		細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	4	X29Y27	X29Y27-1	土師器	甕	(188)		(151)	ハケメ	ミガキ		微砂粒、石英少、 赤色粒少	橙
	5	X29Y27	X29Y27-1	土師器	甕	(162)		(110)	ハケメ、ヨコナテ°	ハラナテ°		細砂粒、石英少、 赤色粒少	橙
	6	X29Y27	X29Y27-1	土師器	甕	184		(215)	ハケメ	ヨコナテ°		細砂粒	橙
	7	X31Y27 X31Y29	X31Y27-1 X31Y29	土師器	甕	159	20	139		ハラナテ°、 ハケメ (横方向)		細砂粒、石英少、 赤色粒少、金雲母少	浅黄橙
146	1	X31Y27 X31Y29	X31Y27-1 X31Y29	土師器	壺		38	(172)				細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい橙
	2	X31Y27 X31Y29	X31Y27-1 X31Y29	土師器	甕		44	195	ハケメ			細砂粒、石英少	浅黄橙
	3	X32Y27	X32Y27-1	土師器	甕	173		(238)	ハケメ、ヨコナテ°	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	4	X34Y29	X34Y29-1	土師器	鉢		44	(212)				微砂粒、石英少	橙
	5	X37Y35	X37Y35-1	土師器	甕	88		(20.5)	ハケメ		手持ケスリ	微砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	6	X45Y36	X45Y36	土師器	甕	67		(25)				細砂粒多	橙
	7	X45Y42	X45Y42-4	須恵器	坏	(114)	76	47	ロクロ	ロクロ	回転ハラ切 →ハラケスリ	微砂粒	橙
	8	X47Y38	X47Y38	弥生 土器	甕		56	(59)	撚糸文 r、 斜位方向	ハラナテ°	底部穿孔	石英	にぶい褐色
	9	X47Y41	X47Y41-1,2	土師器	鉢	(222)		167.5	ハケメ、 ハラケスリ	ナテ°		細砂粒、石英少	浅黄橙
147	1	X47Y41	X47Y41-3	土師器	甕	(190)	44	219	ハラナテ°	ハラナテ°	ハラナテ°	細砂粒、金雲母少	浅黄橙
	2	X47Y41	X47Y41-3	土師器	甕		48		ハケメ	ハケメ		細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	3	S	S-1	土師器	器台 or 高坏	(113)		(67)	ミガキ	ハケメ		微砂粒、赤色粒少	橙
	4	S	S-2	土師器	鉢	(100)		(95.5)				微砂粒、石英少	浅黄橙
	5	S	S-3	土師器	甕		50	(103)				細砂粒、石英少	橙
	6	S	S-4	土師器	壺	(156)	62	245	ヨコナテ°、ミガキ	ミガキ	手持ケスリ	微砂粒、石英少	橙
	7	S	S-6	土師器	壺	(68)		(199)	ミガキ			細砂粒、石英少	淡黄

表 17 第4次遺物観察表 (6)

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整 内面	底部	胎土	胎土色調
						口径	底径	器高					
148	1	S	S-7	土師器	鉢	103		(44)		ヨコテ°、 ハケメ		微砂粒、石英少	にぶい黄橙
	2	S	S-8	土師器	壺	(158)		(56)	ヨコテ°、 ミガキ	ミガキ、 ハラナテリ		細砂粒、石英少、 赤色粒少、海綿骨針少	にぶい赤褐
	3	S	S-9	土師器	甕		69	(235)				細砂粒、石英少	にぶい黄橙
	4	表採 (北側)	表採 (北側)	土師器	高坏 (坏身)	(220)		(64)	ミガキ、 ヨコテ°	ヨコテ°		微砂粒、石英少	橙

表 18 第4次土製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種類	長径	短径	計測値 (mm)		重量 (g)	胎土	色調	器面
							高さ	孔径				
139	1	ST236 覆土	ST12-2	土玉	35	33.6	30	6~7	30.77	細砂粒多	橙	やや脆弱で剥落顕著

表 19 第4次石製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種類	計測値 (mm)				重量 (g)	石材	備考
					長軸	短軸	厚さ	重量 (g)			
139	2	ST192	ST32-7	砥石	151	36	35	244.86	凝灰岩		
	3	ST236	ST12-P8	石製品	39	34	31	34.89	砂岩	平安時代の住居のピット内から出土	
	4	ST236	ST12-18	砥石	(103)	87	41	450.96	凝灰岩		
	5	SK205	SK24 -1	擦痕を有する石製品	(90)	60	41	178.26	凝灰岩		
148	5	X47Y41	X47Y41.4	球状の石製品	93	81		311.44	軽石		

表 20 試掘遺物観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			外面	調整 内面	底部	胎土	胎土色調	
						口径	底径	器高						
150	1	SK3-RP1	SK3-RP1	土師器	甕		70	(132)	ハケメ	ハケメ	ハラナテ°	細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙	
	2	SK3-RP3	SK3-RP3 SD2 SD2-F	土師器	甕		201	56	248	ハケメ、ハラナテ°	ハケメ	ハラナテ°	細砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	3		RP4 X・O	土師器	丸底鉢		99	26	74				微砂粒、石英少、 赤色粒少	にぶい黄橙
	4		RP5 X・O	土師器	甕		172		252	ハケメ、ハラナテ°			細砂粒、石英少	浅黄橙
	5		RP11	土師器	鉢		208	44	137.5	ハケメ	ハケメ、ハラナテ°	ハラナテ°	細砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙
	6		RP14	土師器	鉢			28	(58)				微砂粒、赤色粒少	浅黄橙
	7		RP15 X・O	土師器	壺		(134)		(46)				微砂粒	橙
	8		RP16 RP17 X・O	土師器	甕			32	(170)				細砂粒、石英少、 金雲母少	にぶい橙
	9		RP18	土師器	壺		118.5	48	119	ミガキ	ハラナテ°		微砂粒、石英少、 赤色粒少	浅黄橙

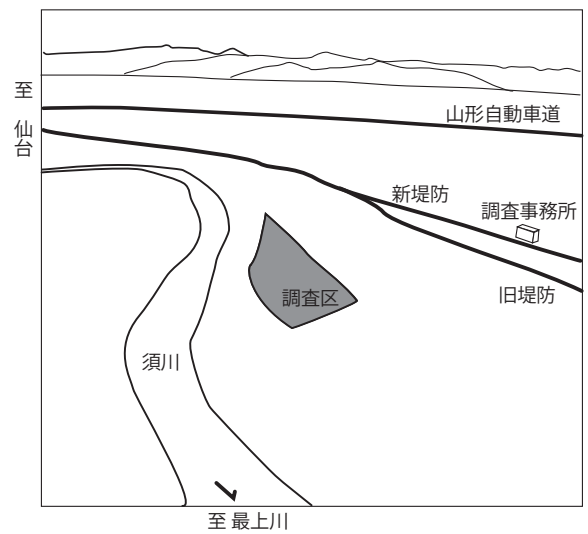
写真図版



第3次遺跡遠景 須川下流方向（北東から）



第3次調査区近景 蔵王連峰方向（西から）





第3次調査区北端（北から）



第3次調査区北端（南東から）



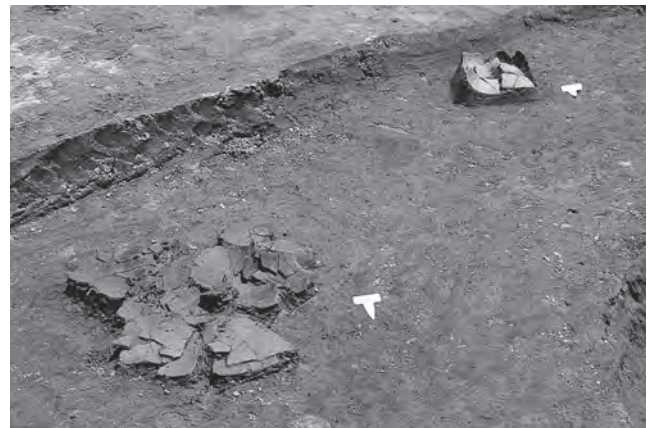
第3次調査区中間（北東から）



ST 19・18 竪穴住居跡 完掘状況（北から）



ST 19 竪穴住居跡 貼床・遺物検出状況（南東から）



ST 19 竪穴住居跡 遺物出土状況（西から）



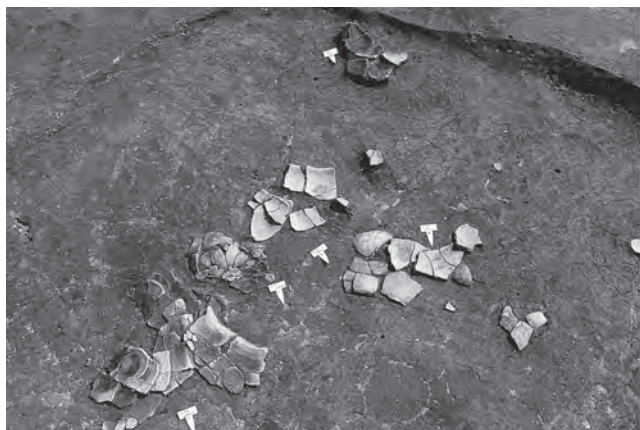
ST 19 竪穴住居跡 完掘状況（南東から）



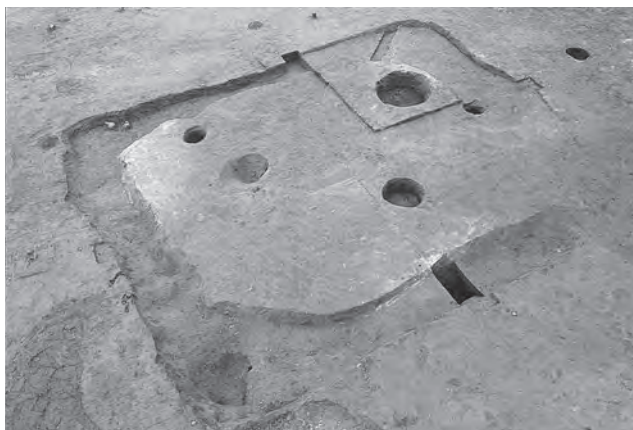
ST 11 竪穴住居跡 精査（南東から）



S T 49 竪穴住居跡 完掘状況 (南東から)



S T 49 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



S T 16 竪穴住居跡 完掘状況 (南西から)



S G 56 土層断面 (北から)



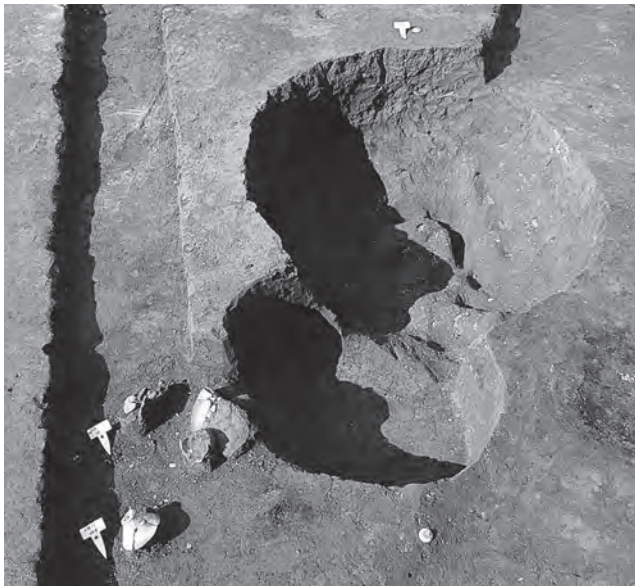
S T 95 竪穴住居跡 完掘状況 (東から)



S X 100 完掘状況 (南から)



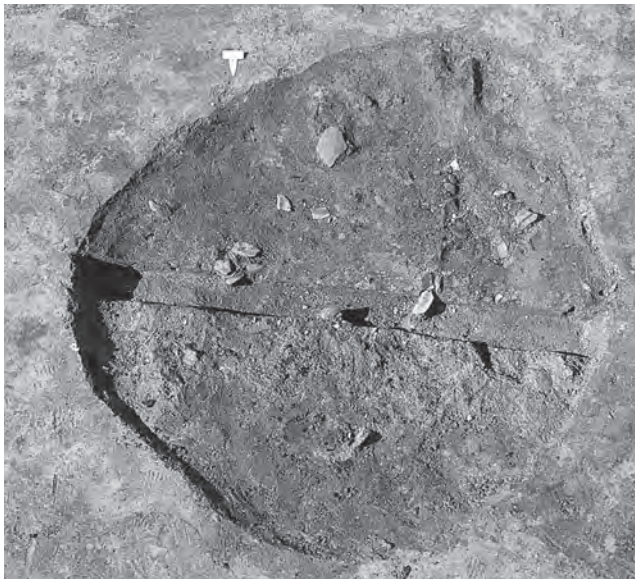
S X 100 遺物出土状況 (南から)



S K 116 完掘状況 (南から)



S K 116 土層断面 (焼土除去後) (東から)



S K 162 完掘状況 (南から)



S K 163 完掘・遺物出土状況 (東から)



ST 161 竪穴住居跡 完掘状況 (東南から)



ST 161 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



ST 161 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



X 10 - Y 10 遺物出土状況 (西から)



X 12 - Y 12 遺物出土状況 (東から)



X 12 - Y 14 遺物出土状況 (南から)



X 12 - Y 14 遺物出土状況 (南から)



X 14 - Y 19 遺物出土状況 (南から)



X 15 - Y 18 遺物出土状況 (南から)



X 16 - Y 17 遺物出土状況 (北から)



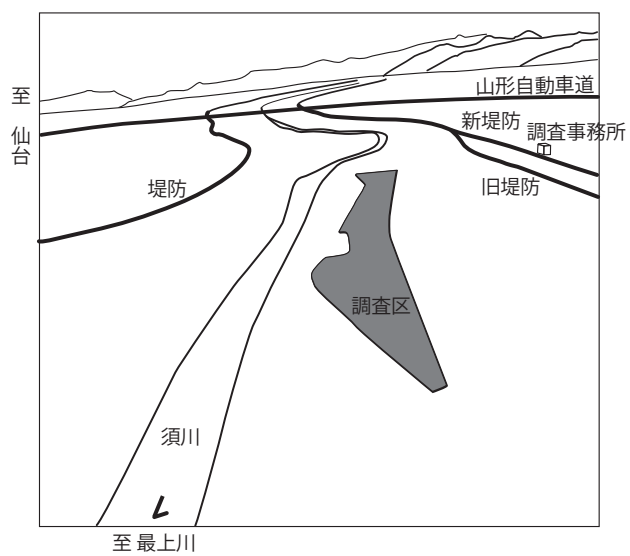
X 16 - Y 18 遺物出土状況 (北から)



第4次遺跡遠景 須川下流方向（北東から）



第4次調査区近景 月山方向（西から）





第4次調査区 北端（西から）



第4次調査区 南端（南から）



第4次調査区 中間（北東から）



S T 178 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 171 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 175 完掘状況 (西から)



S T 187 竪穴住居跡 完掘状況 (南東から)



S T 187 竪穴住居跡 遺物出土状況 (東から)



S T 186 竪穴住居跡 完掘状況 (北西から)



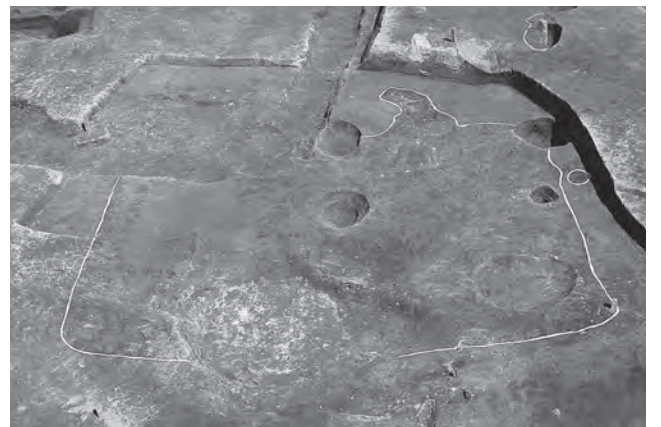
S T 186 竪穴住居跡 遺物出土状況 (西から)



S T 190 竪穴住居跡 完掘状況 (北西から)



S T 193 竪穴住居跡 完掘状況 (北西から)



S T 195 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 192 竪穴住居跡 完掘状況 (北西から)



S T 192 竪穴住居跡 精査 (東から)



S T 192 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北東から)



S T 192 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



S T 196 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



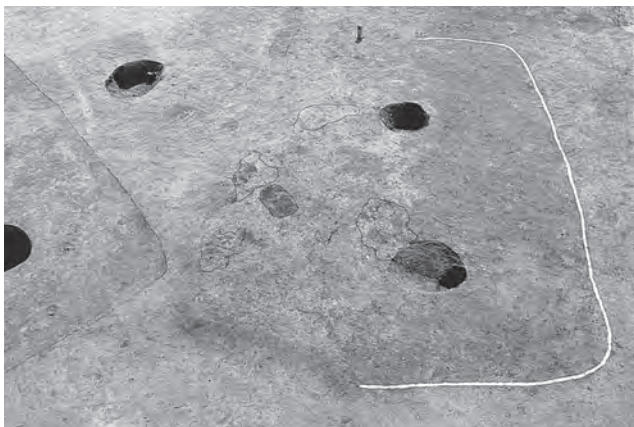
S T 200 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 200 竪穴住居跡 遺物出土状況 (西から)



S T 200 竪穴住居跡 遺物出土状況 (東から)



S T 211 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



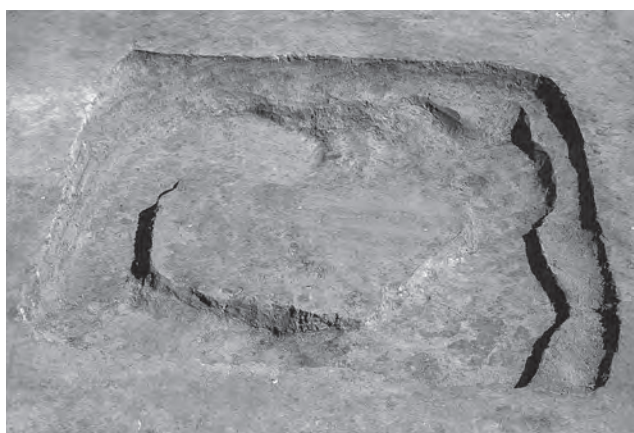
S T 211 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



S T 203 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 203 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



S T 214 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



S T 205 竪穴住居跡 完掘状況 (北から)



S T 205 竪穴住居跡 遺物出土状況 (東から)



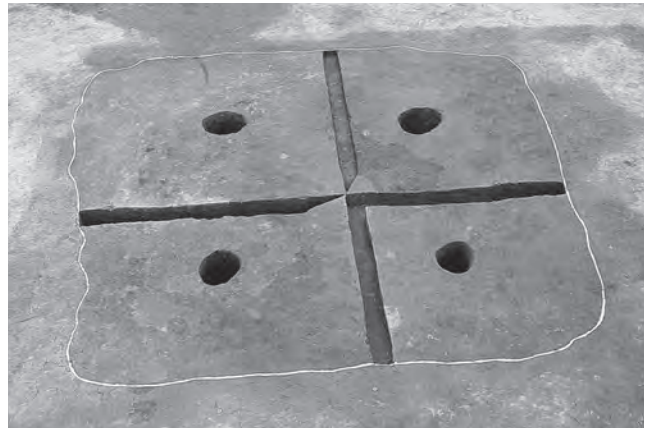
S T 213 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



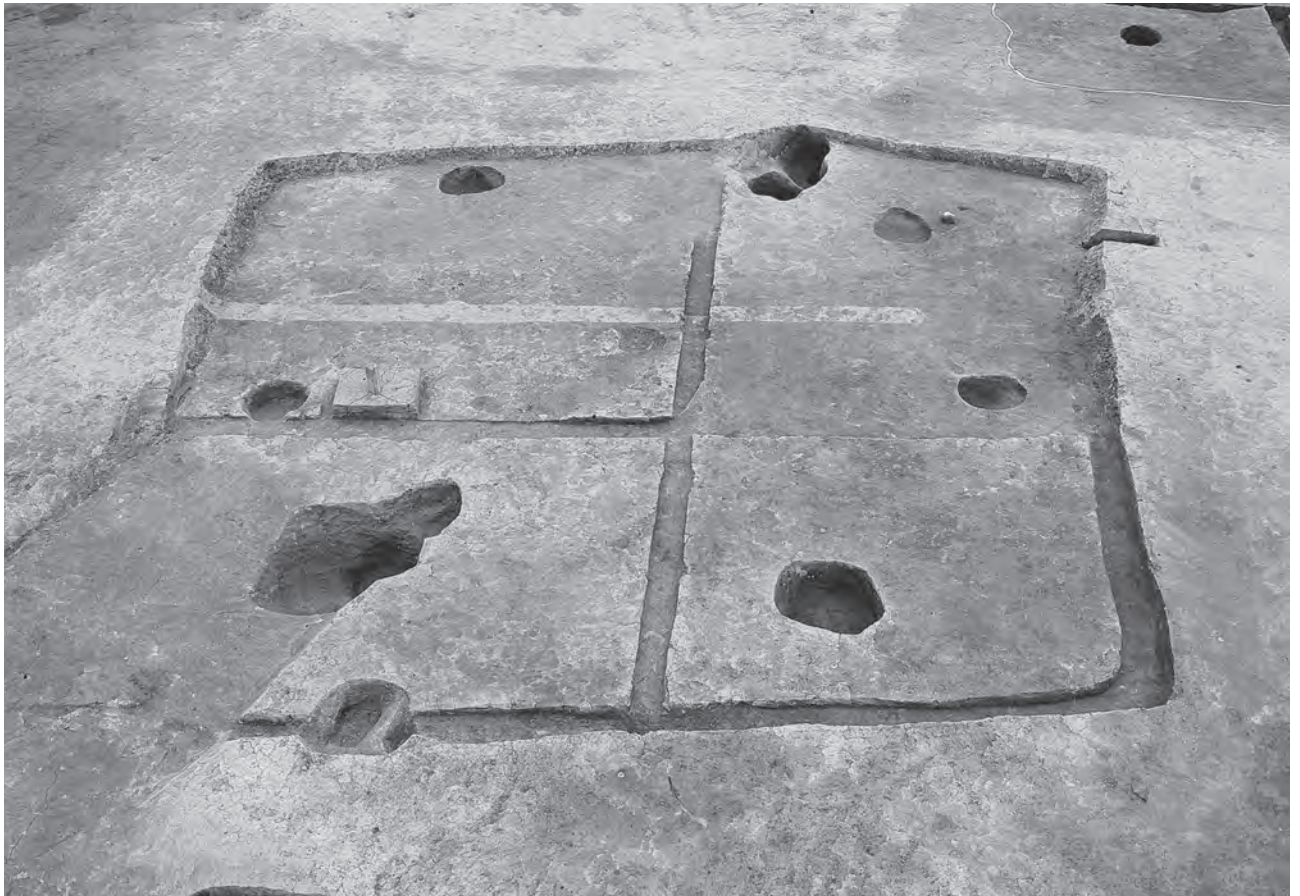
S T 213 竪穴住居跡 カマド完掘状況 (南から)



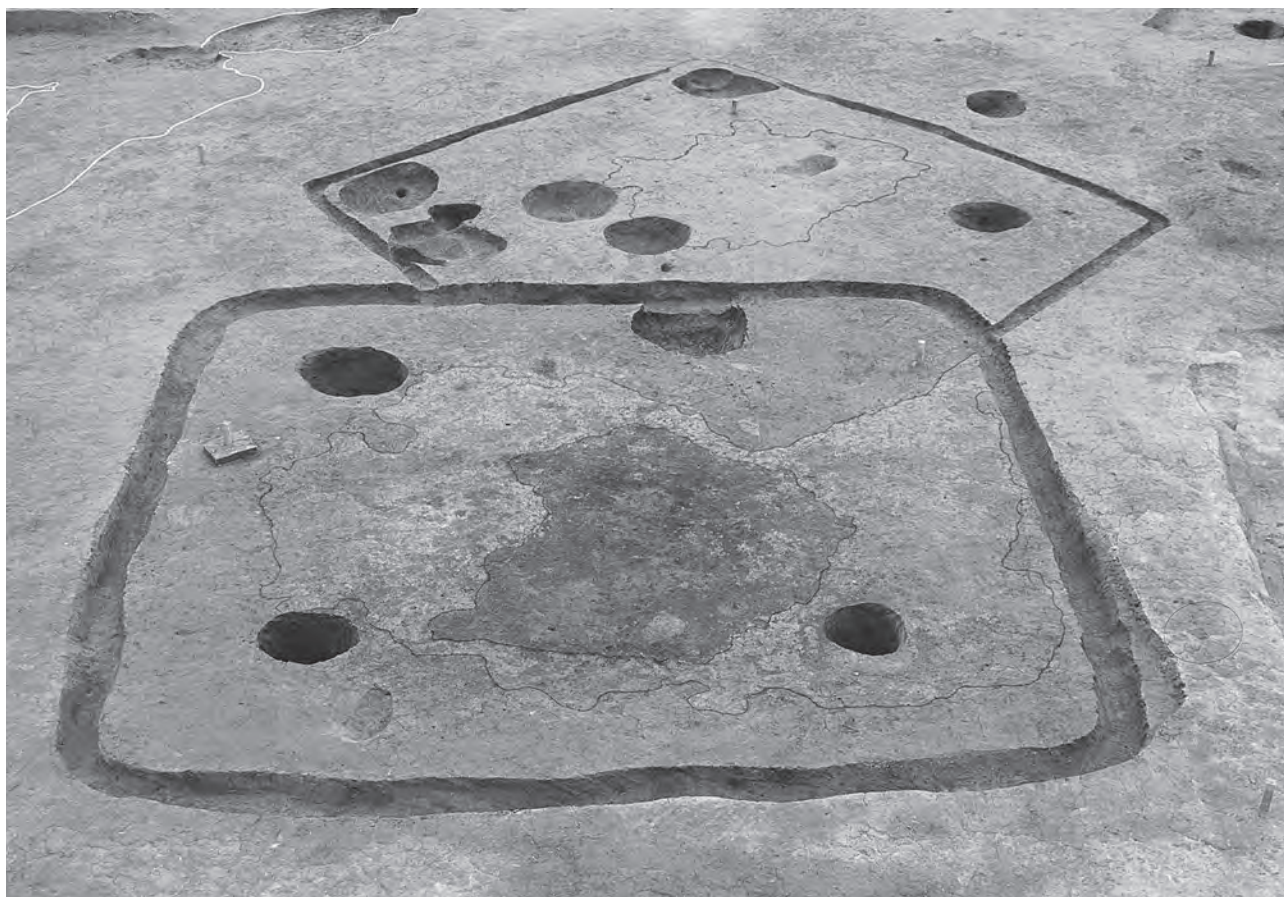
S T 213 竪穴住居跡 カマド完掘状況 (南から)



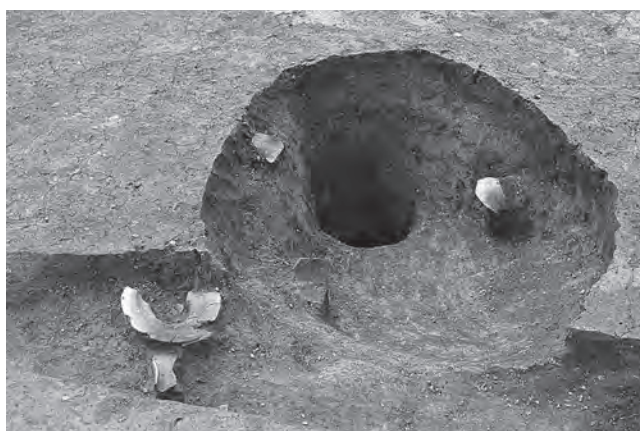
S T 223 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 222 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 215・S T 216 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 216 竪穴住居跡 遺物出土状況 (東から)



S T 216 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



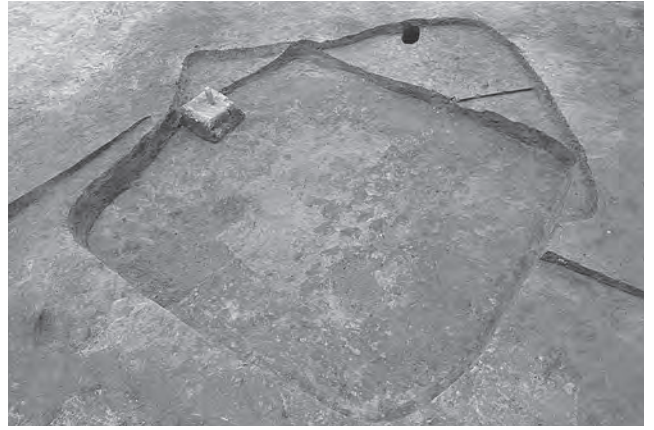
S T 225 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 225 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北東から)



S T 224 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



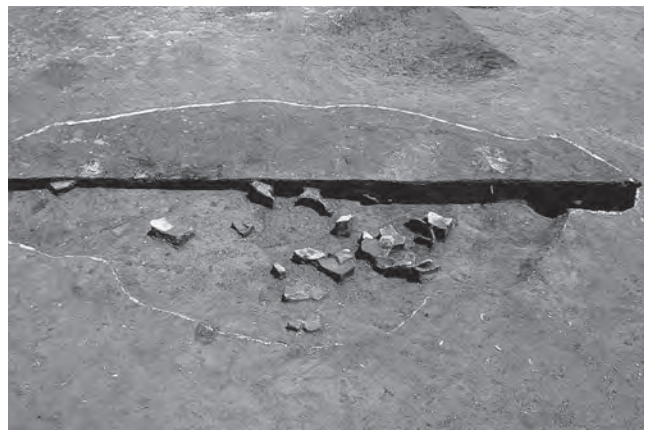
S T 233 竪穴住居跡 完掘状況 (北東から)



S T 228 竪穴住居跡 検出状況 (北から)



S T 228 竪穴住居跡 煙道部遺物出土状況 (北から)



S T 228 竪穴住居跡 煙道部遺物出土状況 (西から)



S T 229 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 229 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



S T 229 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



S T 234 竪穴住居跡 完掘状況 (北東から)



S T 230 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



S T 230 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



S T 236 竪穴住居跡 完掘状況 (北から)



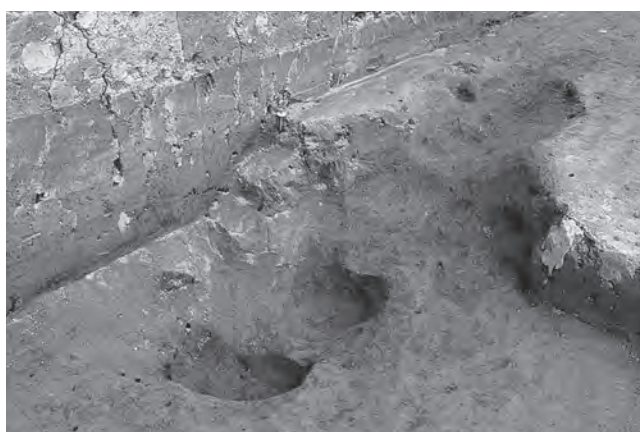
S T 235 竪穴住居跡 完掘状況 (北から)



S T 235 竪穴住居跡 カマド完掘状況 (北から)



S T 235 竪穴住居跡 カマド付近遺物出土状況 (北から)



S T 237 竪穴住居跡 完掘状況 (北から)



S T 237 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



X 20 - Y 20 遺物出土状況 (北から)



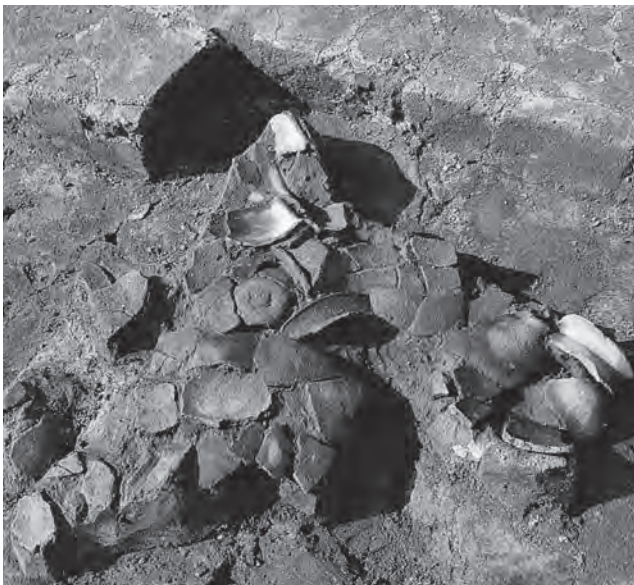
X 20 - Y 22 遺物出土状況 (南から)



X 22 - Y 24 遺物出土状況 (北から)



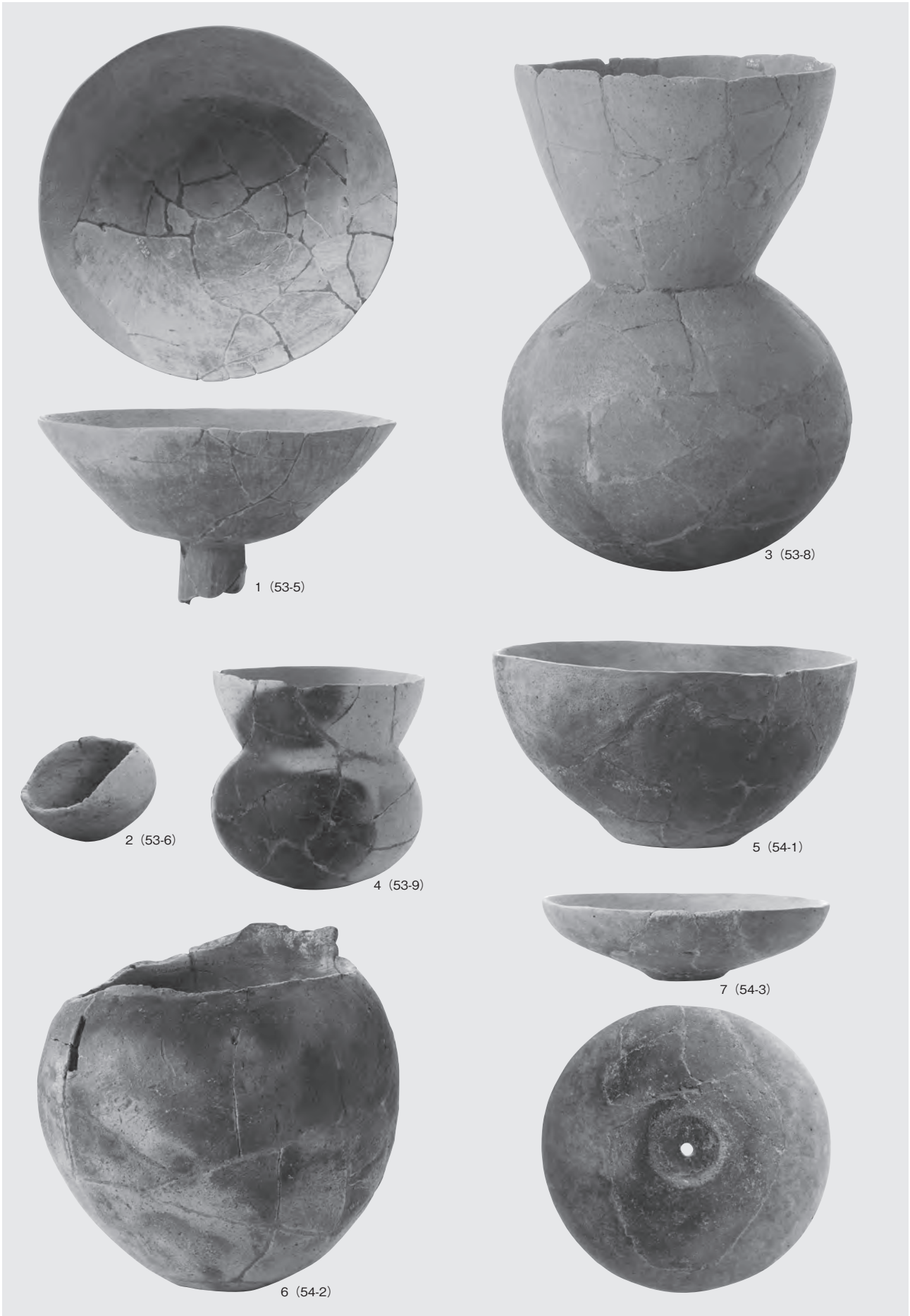
X 29 - Y 25 遺物出土状況 (北西から)



X 31 - Y 27 遺物出土状況 (東から)



X 47 - Y 41 遺物出土状況 (北から)



1 (53-5)

3 (53-8)

2 (53-6)

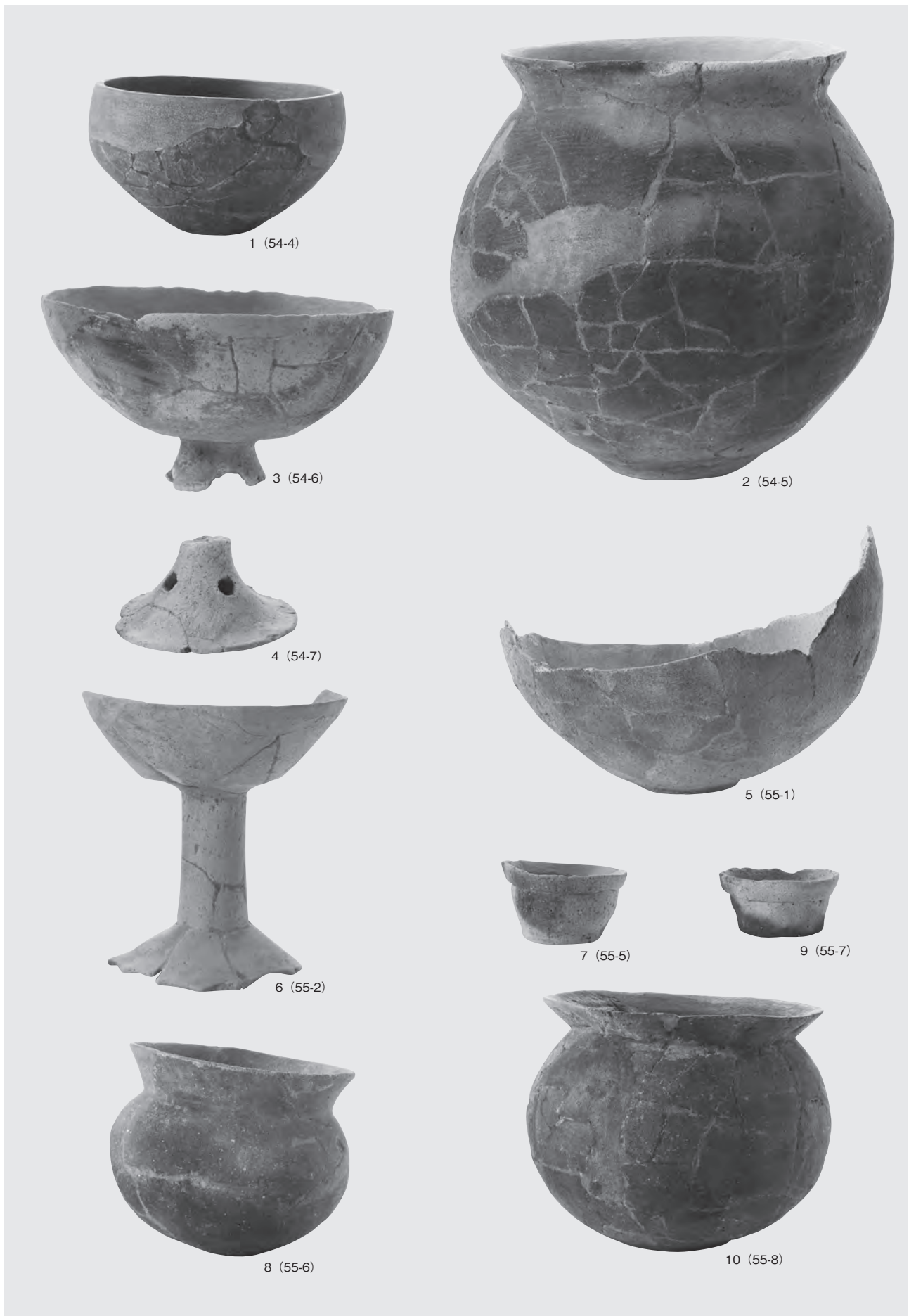
4 (53-9)

5 (54-1)

7 (54-3)

6 (54-2)

第3次出土遺物 (1)



1 (54-4)

2 (54-5)

3 (54-6)

4 (54-7)

5 (55-1)

6 (55-2)

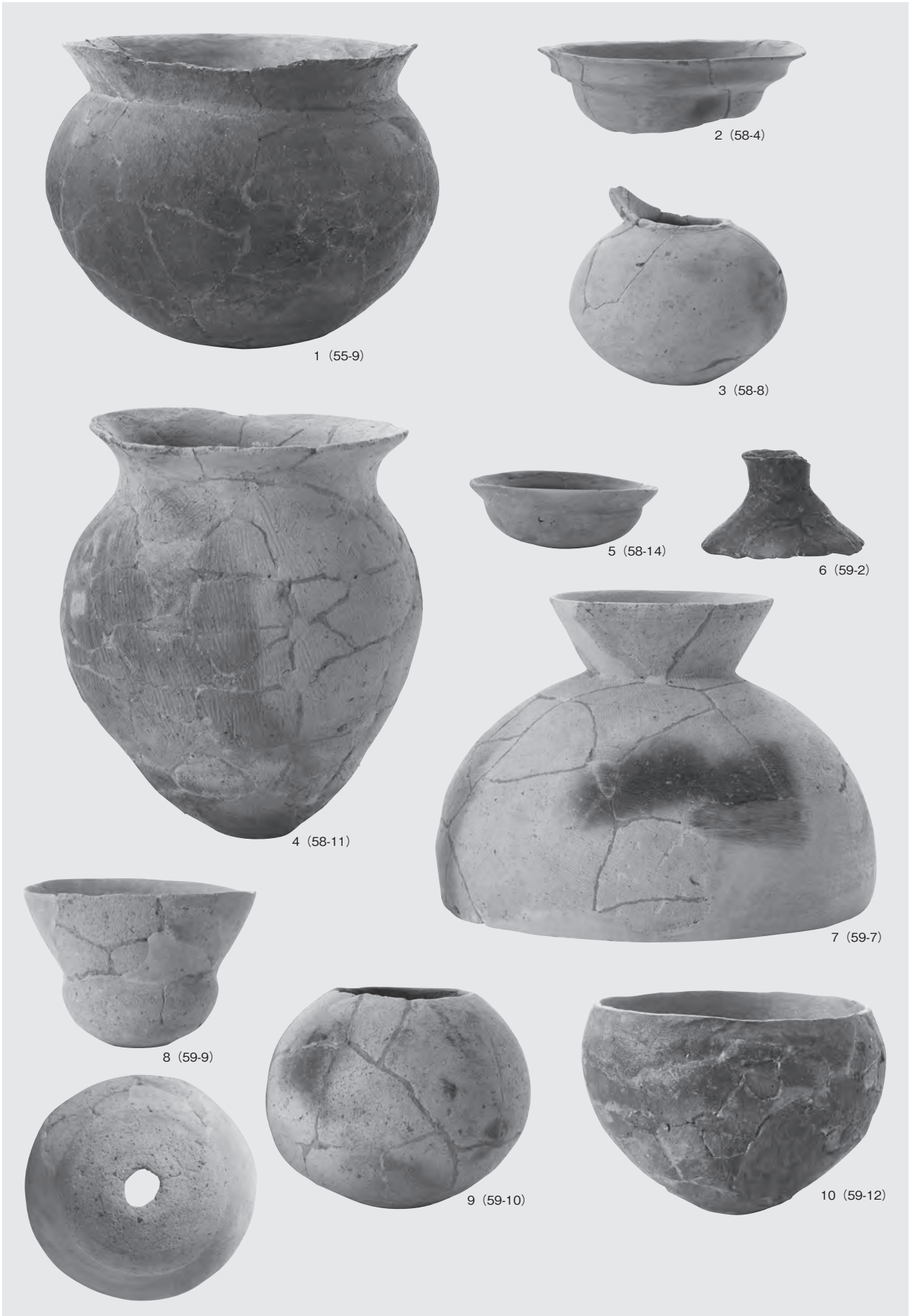
7 (55-5)

9 (55-7)

8 (55-6)

10 (55-8)

第3次出土遺物 (2)



第3次出土遺物 (3)



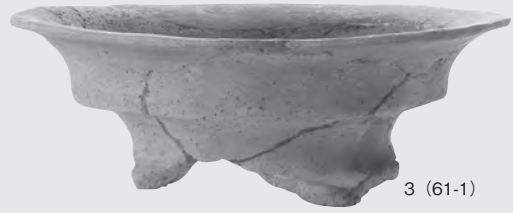
第3次出土遺物（4）



1 (60-10)



2 (60-11)



3 (61-1)



4 (61-2)



5 (61-4)



7 (61-8)

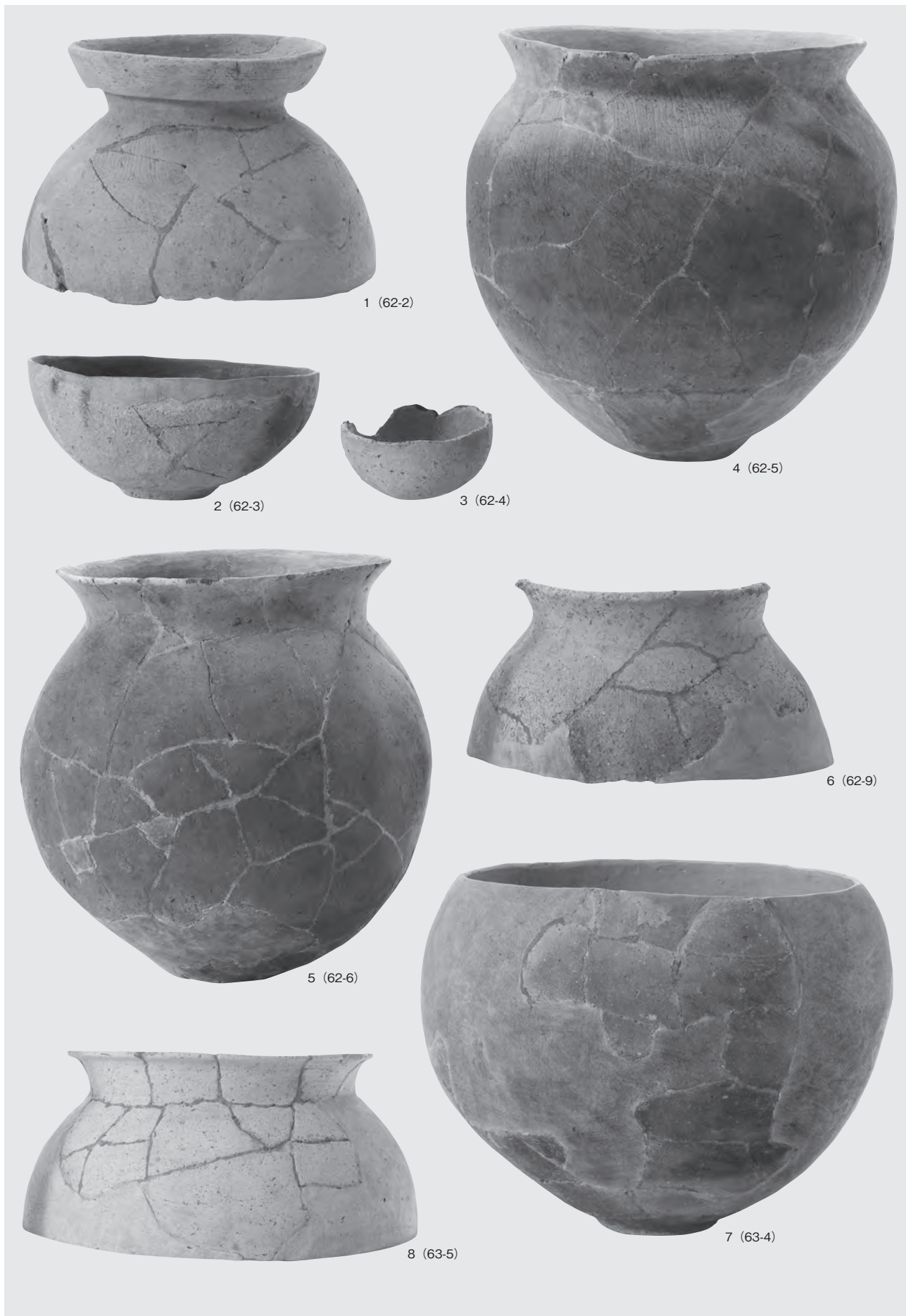


6 (61-6)



8 (62-1)

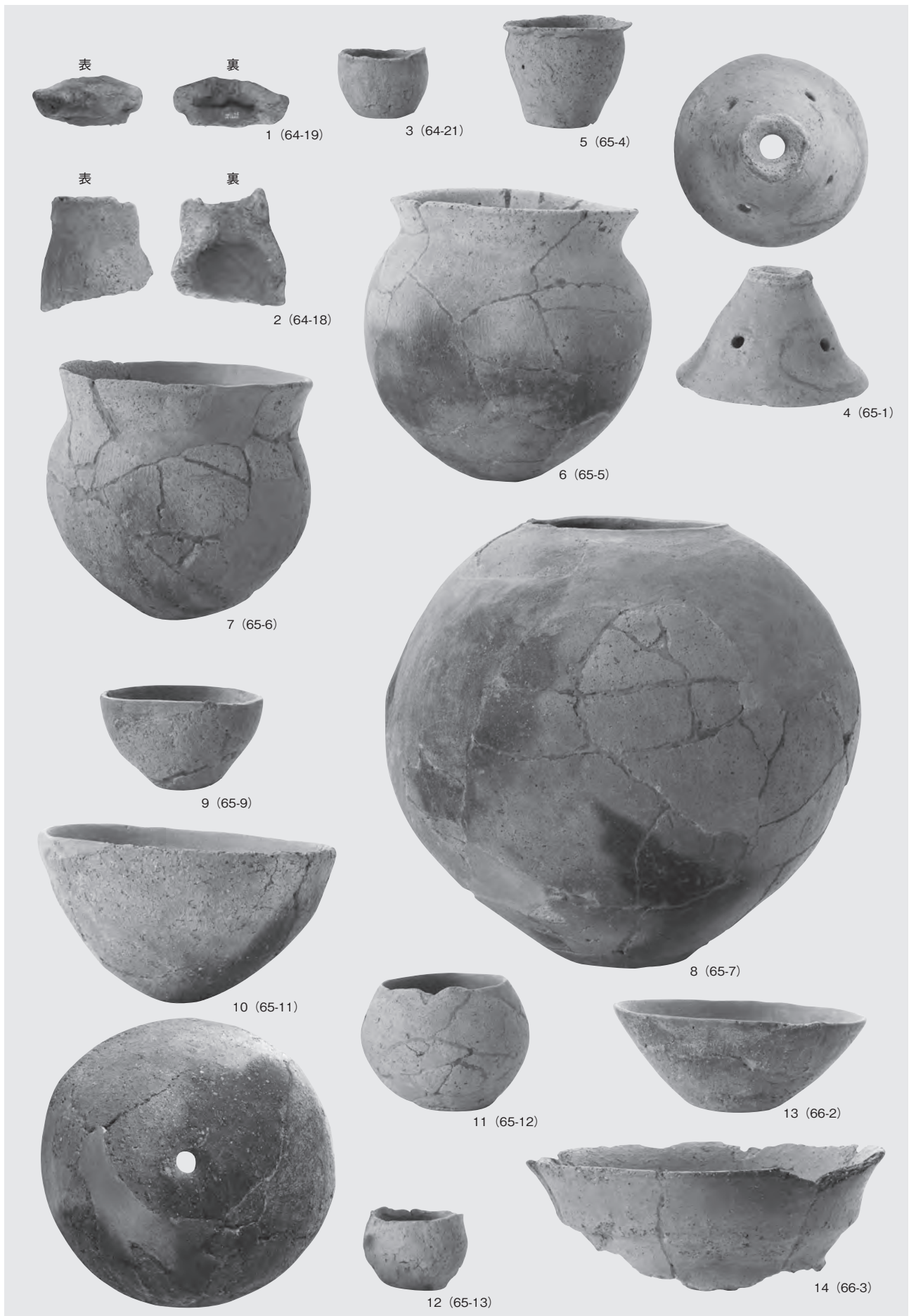
第3次出土遺物 (5)



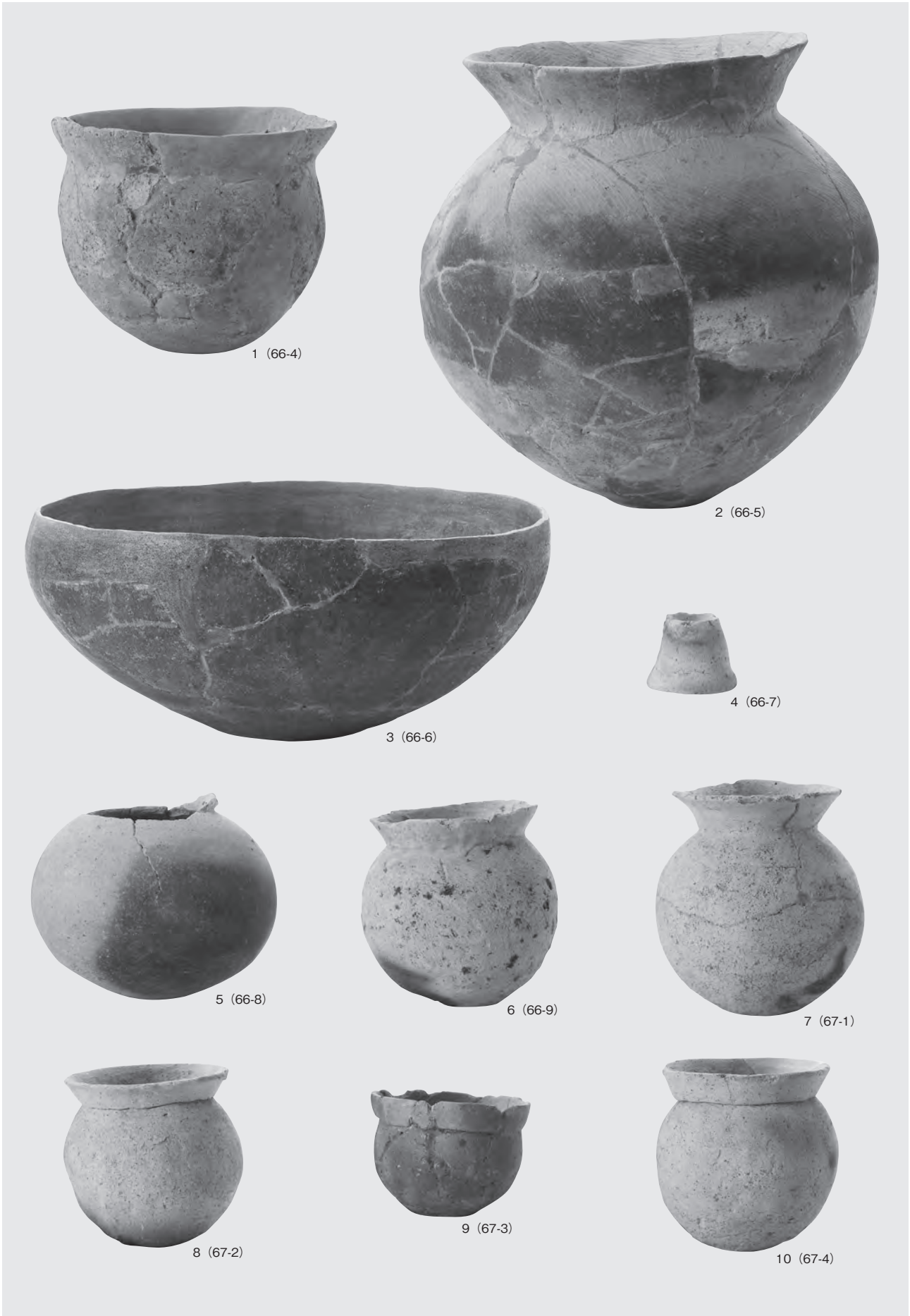
第3次出土遺物 (6)



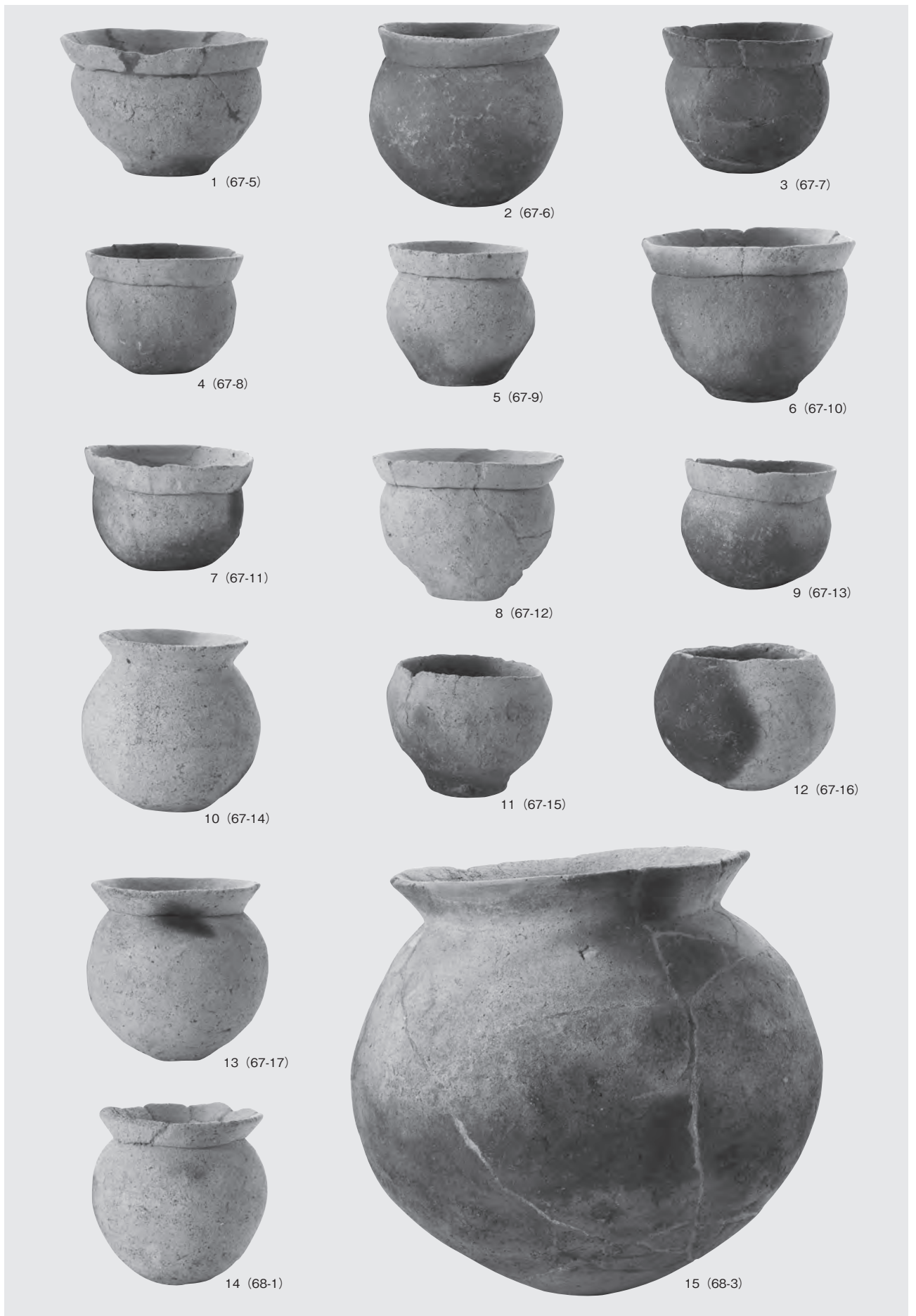
第3次出土遺物 (7)



第3次出土遺物 (8)



第3次出土遺物 (9)



第3次出土遺物 (10)



1 (68-5)



2 (68-6)



5 (69-1)



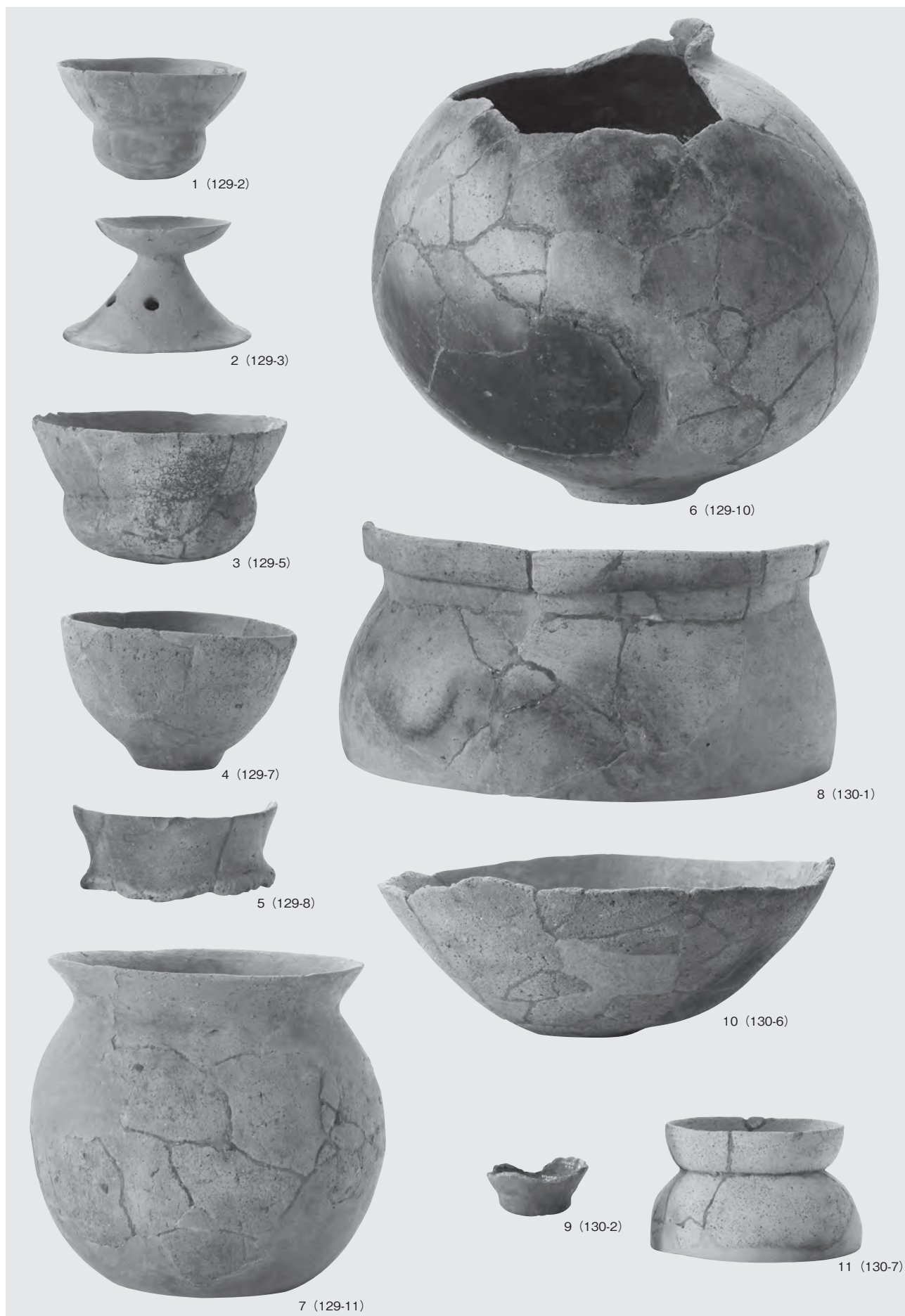
3 (68-7)



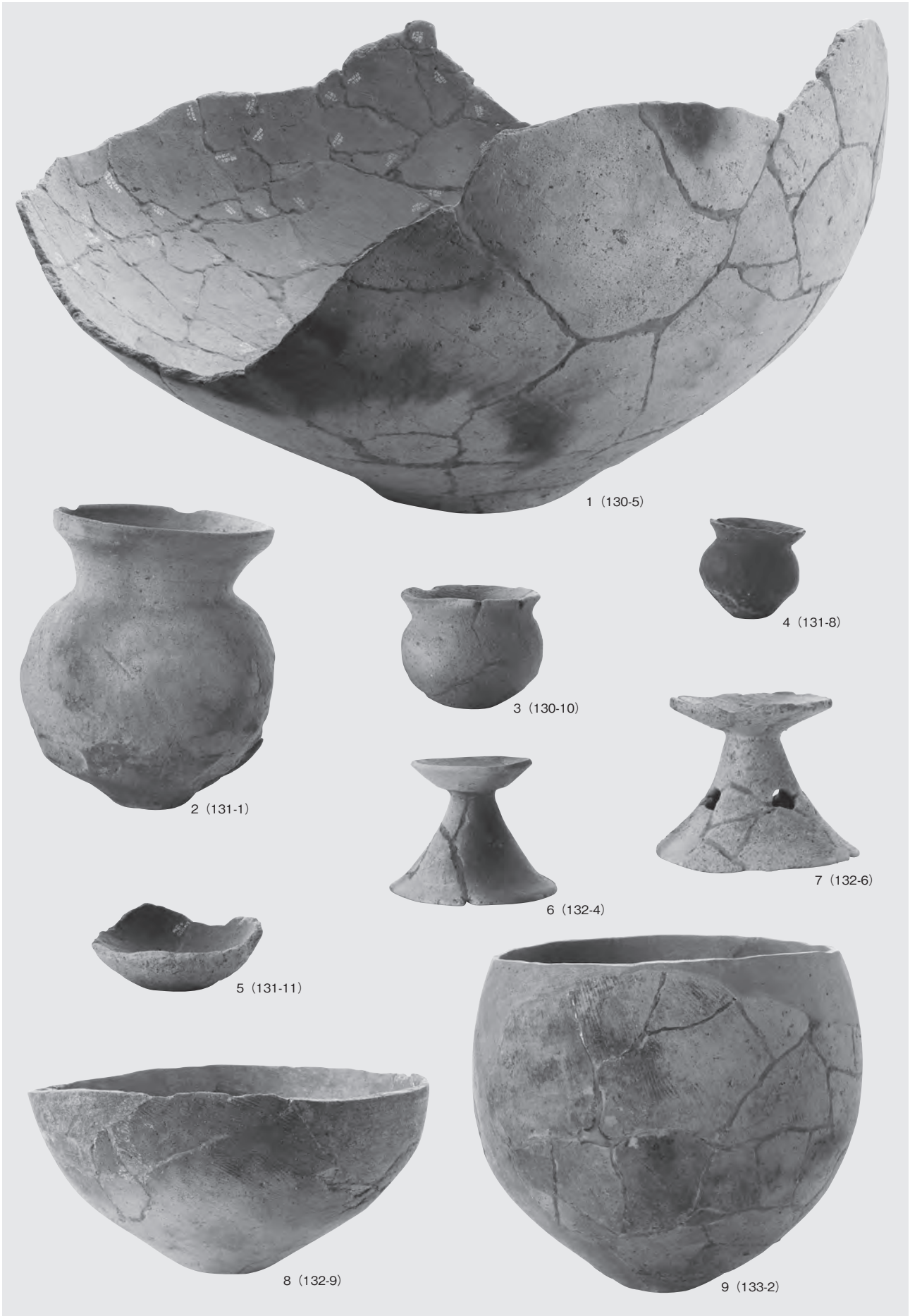
4 (68-8)



6 (69-2)



第4次出土遺物（1）



1 (130-5)

4 (131-8)

3 (130-10)

2 (131-1)

7 (132-6)

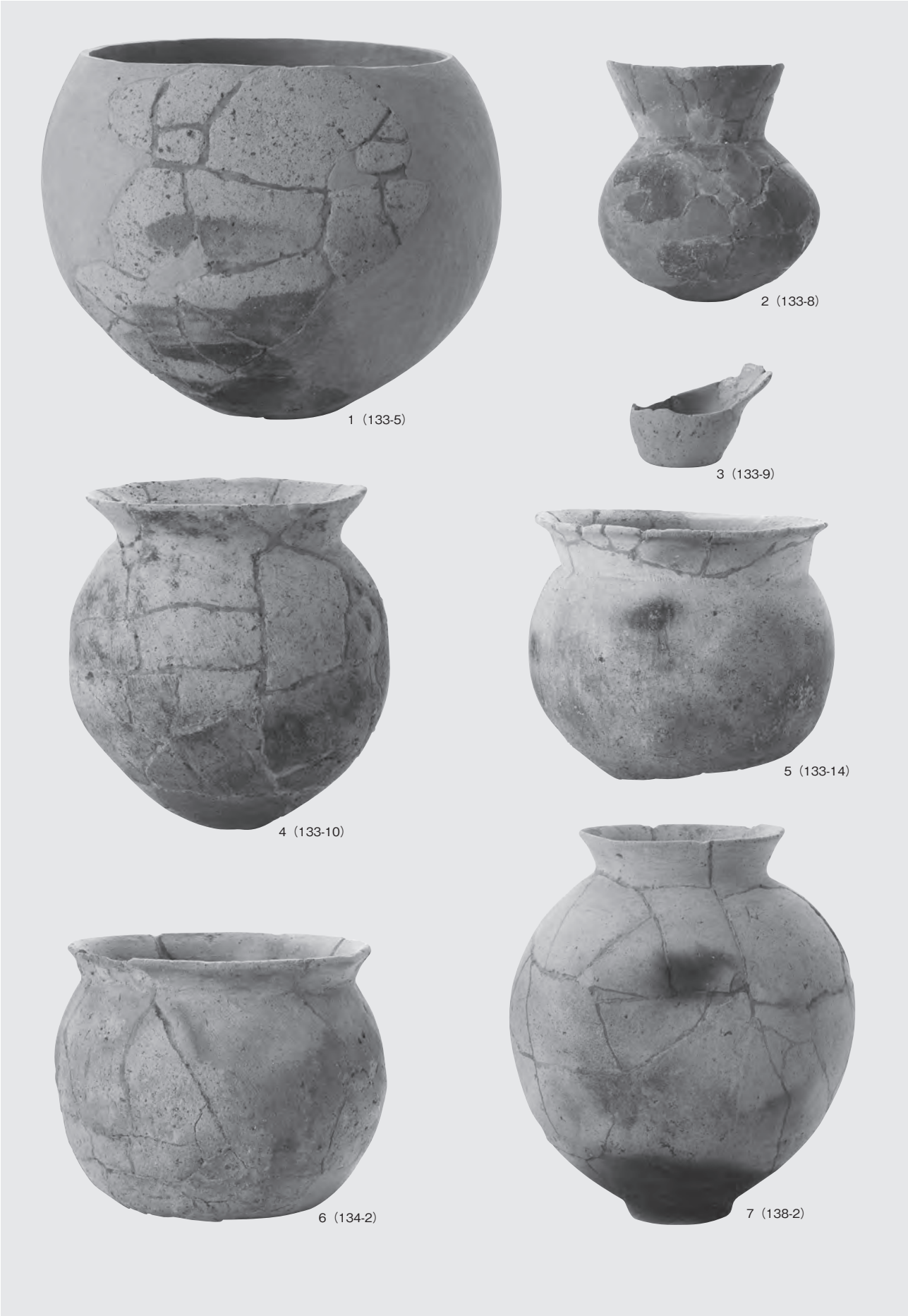
6 (132-4)

5 (131-11)

8 (132-9)

9 (133-2)

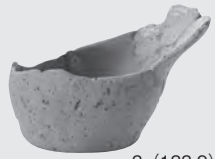
第4次出土遺物 (2)



1 (133-5)



2 (133-8)



3 (133-9)



4 (133-10)



5 (133-14)

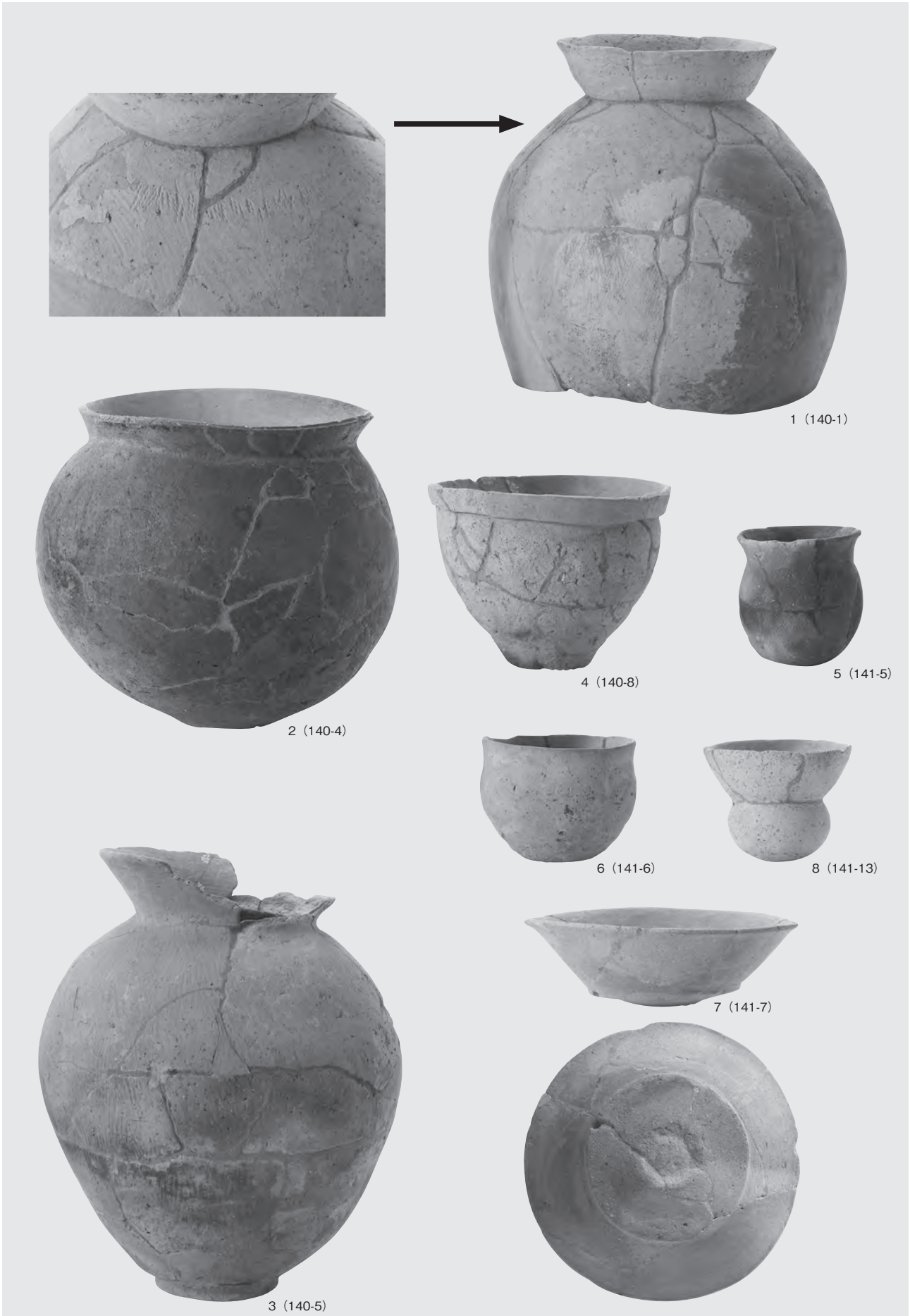


6 (134-2)

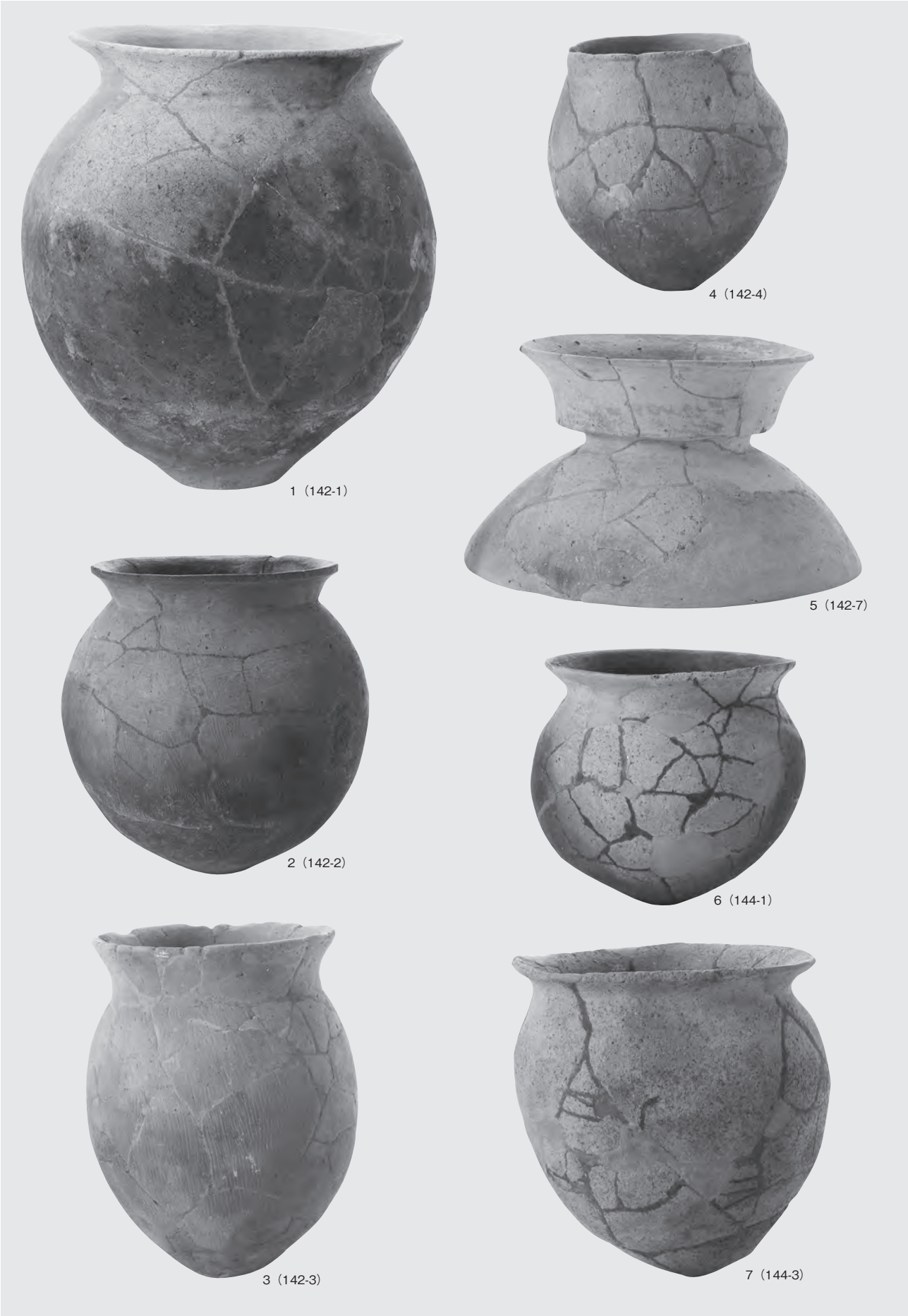


7 (138-2)

第4次出土遺物 (3)



第4次出土遺物 (4)



1 (142-1)

4 (142-4)

5 (142-7)

2 (142-2)

6 (144-1)

3 (142-3)

7 (144-3)

第4次出土遺物 (5)



1 (144-4)



2 (144-5)



3 (144-6)



4 (145-1)

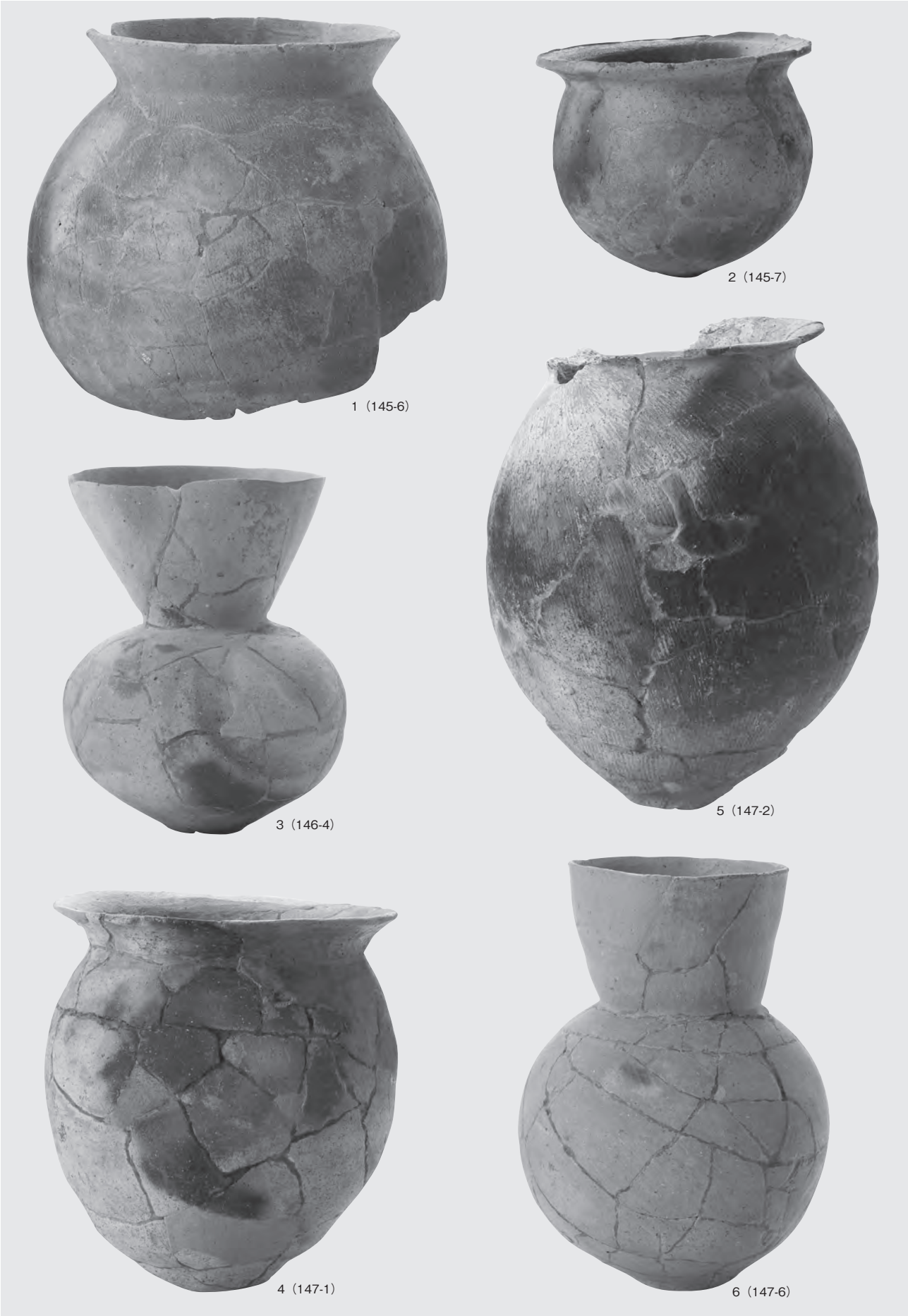


5 (145-2)



6 (145-3)

第4次出土遺物 (6)



1 (145-6)



2 (145-7)



3 (146-4)



5 (147-2)



4 (147-1)



6 (147-6)

第4次出土遺物 (7)



1 (150-2)



2 (150-3)



3 (150-4)



4 (150-5)



5 (150-6)



6 (150-9)



試掘調査出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かわまえ2いせきだい3・4じはくつちょうさほうこくしょ							
書名	川前2遺跡第3・4次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第204集							
編著者名	小林圭一 江波大 吉田満							
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301							
発行年月日	2012年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
かわまえ2いせき 川前2遺跡	やまがたけん 山形県 やまがたし 山形市 おおあざなかのめ 大字中野目 あざあかさか 字赤坂ほか	6201	244	38° 19' 38"	140° 18' 20"	20070514) 20071012	3,500	須川河川 改修事業 (下流部)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
かわまえ2いせき 川前2遺跡	集落跡	弥生時代	土坑	1	弥生土器 アメリカ式石鏃	古墳時代前期の住居跡 13棟と奈良・平安時代の 住居跡22棟が調査され た。また古墳時代前期 の遺構を伴わない土 師器集中地点が検出さ れ、祭祀等に関わった 痕跡と考えられる。 (文化財認定箱数:計204) 3次調査101 4次調査103		
		古墳時代	竪穴住居跡 土坑 溝跡 畑跡	13 4	土師器			
		奈良・平安時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝跡	22 1	土師器 須恵器 石製品 土製品			
要約	<p>河川沿いに営まれた古墳時代～奈良・平安時代の集落で、水上交通の要衝に位置した遺跡と考えられる。古墳時代前期と7世紀後半～9世紀前半の2時期にわたって営まれており、冠水のため集落が埋没して重層的に検出されている。調査された古墳時代の住居跡13棟は、いずれも4世紀代に帰属し、北側と南側の高地に分かれて集中的な出土状況が随所で認められた。特にX16-Y17グリッドでは、小型の甕・鉢19点を意図的に配列した状態が観察され、周囲からは火を焚いた痕跡を持つ土坑も検出され、洪水を回避するための祈願や儀式が執り行われていた可能性が考えられる。遺構の周辺は河川の合流が集中するため水害の危惧があるが、一方で水運の利便性もあり、断続的ではあるが長期にわたって居住が繰り返されてきたと考えられる。また、装飾器台や炉形器台が出土していることから、古墳時代前期において、北陸地方や関東地方との交流を裏付けることができた。</p>							

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 204 集

川前 2 遺跡第 3・4 次発掘調査報告書

2012 年 3 月 31 日発行

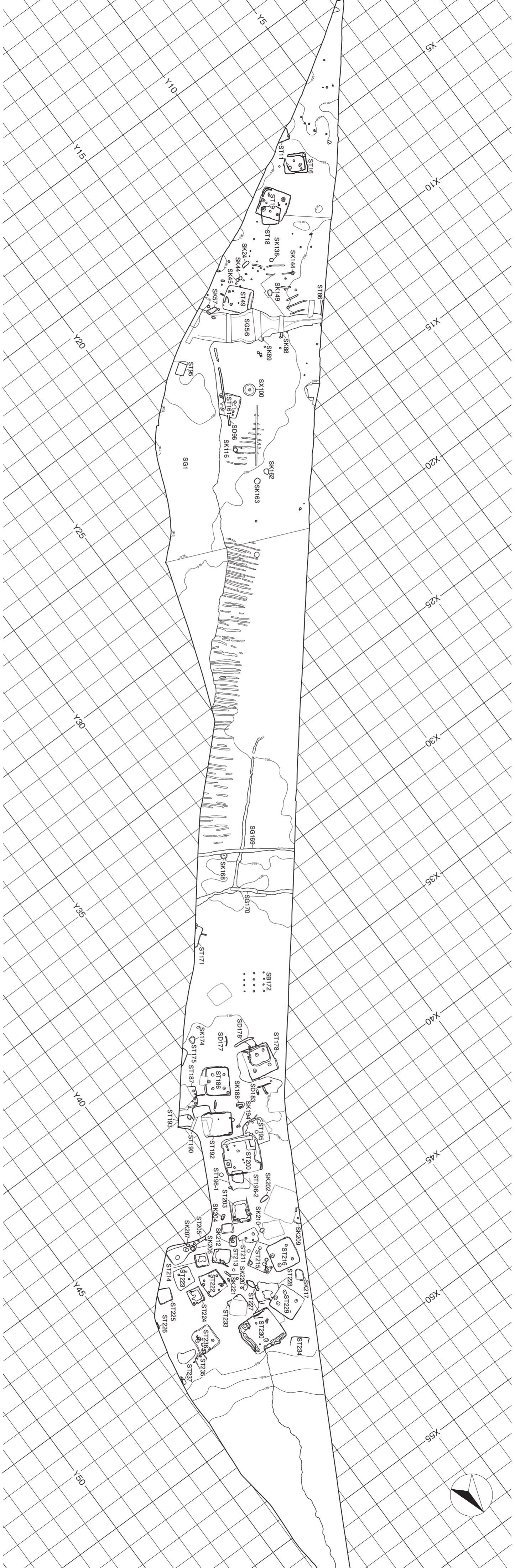
発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒 999 - 3161 山形県上市市弁天二丁目 15 番 1 号
電話 023 - 672 - 5301

印刷 田宮印刷株式会社
〒 990 - 2251 山形県山形市立谷川三丁目 1410 番 1 号
電話 023 - 686 - 6111

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 204 集

川前 2 遺跡第 3・4 次発掘調査報告書

付図 遺構全体図



付図

遺構全体図1:600